山形県埋蔵文化財センター調査報告書第127集

達磨寺遺跡第３次発掘調査報告書

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

達磨寺遺跡

第３次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第127集

２００４

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

達磨寺遺跡

だるまじ

第３次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第127集

平成16年

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

遺跡全景（南から）

調査区全景（北から）

南調査区全景

井戸跡ＳＥ481（南から）

方形館大溝跡

大溝跡全景

調査区中央の竪穴建物群

ＳＴ120・123・255他の竪穴建物群

調査区北側の遺構と全景（東から）

調査区北側の遺構と全景（北から）

ＳＴ60出土遺物

ＳＴ255出土遺物

中世遺物

青磁・青白磁

序

本書は財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した達磨寺遺跡の調査成果をまとめたものです。

達磨寺遺跡は山形県の中央部、山形市街の北西方向に位置する中山町に所在します。中山町は、さくらんぼやりんごなどの栽培が盛んで、県内でも有数の果樹栽培地帯として知られています。

本遺跡の周辺には、古墳時代の代表的集落とされる三軒屋物見台遺跡や、海獣葡萄鏡を出土した川前２遺跡ほかがあり、最上川や須川などの内陸河川を拠り所として営まれた太古からの集落遺跡の分布でも注目されます。

このたび、須川河川改修の事業に伴い、工事に先立って達磨寺遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、限られた範囲にもかかわらず古代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、鎌倉時代に遡る方形居館の区画溝など、多数の遺構と遺物が検出されました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえるものです。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓蒙普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に対し心より御礼を申し上げます。

平成16年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　木　村　宰

例　　言

1　本書は、須川河川改修（下流部）に係る「達磨寺遺跡」の第３次発掘調査報告書である。

2　既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

3　調査は国土交通省の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

4　調査要項は下記のとおりである。

遺　跡　名	達磨寺（だるまじ）遺跡
遺 跡 番 号	399・400
所　在　地	山形県東村山郡中山町大字達磨寺字達磨地内
調 査 主 体	財団法人山形県埋蔵文化財センター
	理　事　長　　木村　宰
受 託 期 間	平成14年４月１日～平成16年３月31日
現 地 調 査	平成14年５月６日～10月４日
調査担当者	調 査 第 一 課 長　　野尻　　侃（国土交通省関連事業担当）
	主任調査研究員　　黒坂　雅人
	調 査 第 三 課 長　　阿部　明彦（調査主任）
	調　　査　　員　　渋谷　純子

5　本書の作成・執筆は、阿部明彦、渋谷純子が担当した。

6　委託業務は下記のとおりである。

基準点測量	寒河江測量
遺構写真実測	株式会社シン技術コンサル
遺構デジタル図化編集	株式会社セビアス
自然科学分析	株式会社パリノ・サーベイ

7　出土遺物・調査記録類については、報告書作成終了後、山形県教育委員会に移管する。

8　発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。（順不同、敬称略）

国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、中山町教育委員会、村山教育事務所

阿子島功氏（山形大学人文学部）、三上喜孝氏（山形大学人文学部）、北野博司氏（東北芸術工科大学歴史遺産学科）、村木志伸氏（東北芸術工科大学歴史遺産学科）

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ＳＴ…竪穴住居	ＳＢ…掘立柱建物	ＳＫ…土壙
ＳＤ…溝	ＳＥ…井戸	ＳＰ…ピット
ＳＧ…河川跡	ＳＬ…鍛冶遺構・屋外炉	ＳＸ…性格不明遺構
ＲＰ…登録土器・土製品	ＲＱ…登録石器・石製品	ＲＭ…登録金属器・金属製品
ＲＷ…登録木器・木製品		

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。

3　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（日本測地系）により、高さは海抜高を表す。

4　遺構概要図、遺構配置図、遺構平面実測図中の方位は座標北を示している。

5　グリットの南北軸は座標北方向に一致する。

6　遺構実測図は１/20～１/400、１/1000の縮図で採録し、各々スケールを付した。

7　遺跡における土層の観察は、基本層序（自然層）にローマ数字を付し、遺構覆土については算用数字を用いて区分した。

8　遺構平面実測図中の網点は、焼土、炭化物や木灰の分布等を表わし、その用例については各挿図中に凡例を付した。

9　本文中の遺物番号は、遺物実測図・遺物図版とも共通のものとした。

10　遺物実測図・拓本図は１/１～１/８で採録したが、基本を１/３とし、各挿図にスケールを付した。

11　遺物実測図では、須恵器は断面黒ベタ、赤焼土器・土師器は白ヌキとし、黒色土器は黒色処理面に網点を付した。その他、油煙、漆付着等の事例は個別に表記して凡例を付した。

12　遺物観察表中において、括弧内の数値は残存値を示している。

13　基本層序および遺構覆土の色調記載については、1999年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」に拠った。

目　　次

Ⅰ　調査の経緯
　　1　調査に至る経過……1
　　2　調査の方法と経過……1
　　3　調査区の概要……2
Ⅱ　遺跡の立地と環境
　　1　立地と地理的環境……3
　　2　歴史的環境……3
Ⅲ　遺跡の概要
　　1　基本層序……5
　　2　遺構と遺物の分布……5
Ⅳ　遺　構
　　1　竪穴建物跡……7
　　2　掘立柱建物跡……16
　　3　井戸跡……16
　　4　溝　跡……17
　　5　土　壙……18
　　6　河川跡……20
　　7　道路跡……21
Ⅴ　遺　物
　　1　古代の土器……22
　　（1）須恵器……22
　　（2）赤焼土器……31
　　（3）土師器……32
　　（4）黒色土器……37
　　（5）墨書・刻書土器と陶硯……37
　　2　中世土器・陶磁器……39
　　（1）かわらけ……39
　　（2）陶器……39
　　（3）磁器……39
　　3　石製品……39
　　4　木製品……40
　　5　金属製品……40
Ⅵ　まとめ
　　1　遺構……42
　　2　遺物……44
　　3　結語……46

報告書抄録……巻末
付編　達磨寺遺跡の自然科学分析……7ｐ

挿　図

第 1 図　調査概要図……2
第 2 図　遺跡位置図・地形分類図……4
第 3 図　土層柱状図……5
第 4 図　遺跡全体図……6
第 5 図　竪穴建物跡分類集成図……8
第 6 図　カマド跡分類集成図……9
第 7 図　須恵器・赤焼土器坏指数グラフ……23
第 8 図　土器分類集成図（1）……24
第 9 図　土器分類集成図（2）……25
第 10 図　土器分類集成図（3）……27
第 11 図　土器分類集成図（4）……28
第 12 図　土器分類集成図（5）……29
第 13 図　土器分類集成図（6）……30
第 14 図　土器分類集成図（7）……33
第 15 図　土器分類集成図（8）……34
第 16 図　土器分類集成図（9）……35
第 17 図　黒色土器坏・有台坏指数グラフ……38
第 18 図　中世土器・陶磁器・陶硯・墨書土器……41
第 19 図　遺物変遷図……43

表

表 1　遺物観察表（1）……47
表 2　遺物観察表（2）……48
表 3　遺物観察表（3）……49
表 4　遺物観察表（4）……50
表 5　遺物観察表（5）……51
表 6　遺物観察表（6）……52
表 7　遺物観察表（7）……53
表 8　坏・有台坏指数グラフ……54

図　版

図版 1　遺構全体図
図版 3　遺構分割図（1）
図版 4　遺構分割図（2）
図版 5　遺構分割図（3）
図版 6　遺構分割図（4）
図版 7　遺構分割図（5）
図版 8　遺構分割図（6）
図版 9　遺構分割図（7）
図版10　遺構分割図（8）
図版11　遺構分割図（9）
図版12　遺構分割図（10）
図版13　ＳＴ２竪穴建物跡
図版14　ＳＴ２・ＳＴ５竪穴建物跡　遺物出土状況　貼床範囲
図版15　ＳＴ11竪穴建物跡
図版16　ＳＴ11竪穴建物跡　遺物出土状況　掘方範囲
図版17　ＳＴ29竪穴建物跡
図版18　ＳＴ59竪穴建物跡
図版19　ＳＴ60竪穴建物跡
図版20　ＳＴ60竪穴建物跡　土層断面図
図版21　ＳＴ60竪穴建物跡　遺物出土状況　掘方範囲
図版22　ＳＴ75竪穴建物跡
図版23　ＳＴ75竪穴建物跡　焼土・炭化物分布範囲
　　旧　ＳＴ75建物範囲
図版24　ＳＴ112竪穴建物跡　遺物出土状況
図版25　ＳＴ112竪穴建物跡　土層断面図
図版26　ＳＴ113・ＳＴ120竪穴建物跡
図版27　ＳＴ113・ＳＴ120竪穴建物跡　遺物出土状況
図版28　ＳＴ113・ＳＴ120竪穴建物跡　土層断面図
図版29　ＳＴ117竪穴建物跡
図版30　ＳＴ117竪穴建物跡　土層断面図
図版31　ＳＴ117竪穴建物跡　遺物出土状況
図版32　ＳＴ317竪穴建物跡
図版33　ＳＴ121竪穴建物跡
図版34　ＳＴ121竪穴建物跡　竈部分図
図版35　ＳＴ121竪穴建物跡　遺物出土状況
図版36　ＳＴ121竪穴建物跡　柱穴断面図
図版37　ＳＴ123竪穴建物跡
図版38　ＳＴ123竪穴建物跡　遺物出土状況
図版39　ＳＴ215竪穴建物跡
図版40　ＳＴ255竪穴建物跡

図版41　ＳＴ255竪穴建物跡　遺物出土状況
図版42　ＳＴ256竪穴建物跡
図版43　ＳＴ256竪穴建物跡　遺物出土状況
図版44　ＳＴ257竪穴建物跡
図版45　ＳＴ257竪穴建物跡　遺物出土状況
図版46　ＳＴ258竪穴建物跡
図版47　ＳＴ258竪穴建物跡　遺物出土状況
図版48　ＳＴ259竪穴建物跡
図版49　ＳＴ260竪穴建物跡
図版50　ＳＴ261竪穴建物跡
図版51　ＳＴ261竪穴建物跡　遺物出土状況
図版52　ＳＴ480・ＳＴ500竪穴建物跡　ＳＨ529墓壙
図版53　ＳＴ480・ＳＴ500竪穴建物跡　土層断面図
図版54　ＳＴ483竪穴建物跡
図版55　ＳＴ483竪穴建物跡　遺物出土状況
図版56　ＳＴ522竪穴建物跡
図版57　ＳＴ522竈部分図
図版58　ＳＴ539竪穴建物跡
図版59　ＳＢ510掘立柱建物跡
図版60　ＳＢ510掘立柱建物跡　柱穴断面図
図版61　ＳＰ514～ＳＰ521柱穴跡
図版62　ＳＰ514～ＳＰ521柱穴跡　土層断面図
図版63　ＥＢ296　ＥＢ390～ＥＢ392柱穴跡
図版64　ＳＰ643～ＳＰ645柱穴跡　整地層断面図
図版65　ＳＤ111溝跡
図版66　ＳＤ111溝跡断面図
図版67　ＳＤ114・ＳＤ115・ＳＤ116・ＳＤ118溝跡
図版69　ＳＤ114・ＳＤ115・ＳＤ116・ＳＤ118
溝跡断面図（１）
図版70　ＳＤ114・ＳＤ115・ＳＤ116・ＳＤ118
溝跡断面図（２）
図版71　ＳＤ524・ＳＤ525溝跡（道路側溝）
図版72　ＳＥ481井戸跡
図版73　ＳＥ481井戸跡土層断面図
図版74　ＳＬ484・ＳＬ485・ＳＬ527焼土遺構
図版75　ＳＨ125・ＳＨ319～ＳＨ324墓壙群　ＳＫ126土壙
図版76　ＳＨ105・ＳＨ345・ＳＨ530墓壙
図版77　ＳＫ528土壙
図版78　ＳＰ14・16・63・362・372・373・375・378・399
柱穴跡　土層断面図
図版79　ＳＰ400・401・405・414・415・548・549・562・
563・577・578・589柱穴跡土層断面
図版80　遺物実測図（１）
図版81　遺物実測図（２）
図版82　遺物実測図（３）
図版83　遺物実測図（４）
図版84　遺物実測図（５）
図版85　遺物実測図（６）
図版86　遺物実測図（７）
図版87　遺物実測図（８）
図版88　遺物実測図（９）
図版89　遺物実測図（10）
図版90　遺物実測図（11）
図版91　遺物実測図（12）
図版92　遺物実測図（13）
図版93　遺物実測図（14）
図版94　遺物実測図（15）
図版95　遺物実測図（16）
図版96　遺物実測図（17）
図版97　遺物実測図（18）
図版98　遺物実測図（19）
図版99　遺物実測図（20）
図版100　遺物実測図（21）
図版101　遺物実測図（22）
図版102　遺物実測図（23）
図版103　遺物実測図（24）
図版104　遺物実測図（25）
図版105　遺物実測図（26）
図版106　遺物実測図（27）
図版107　遺物実測図（28）
図版108　遺物実測図（29）
図版109　遺物実測図（30）
図版110　遺物実測図（31）
図版111　遺物実測図（32）
図版112　遺物実測図（33）
図版113　遺物実測図（34）
図版114　遺物実測図（35）
図版115　遺物実測図（36）
図版116　遺物実測図（37）
図版117　遺物実測図（38）

写真図版

巻頭写真１　遺跡全景・調査区全景
巻頭写真２　南調査区全景・井戸跡ＳＥ481
巻頭写真３　方形館大溝跡・大溝跡全景
巻頭写真４　調査区中央の竪穴建物群・ＳＴ120・ＳＴ123・255他の竪穴建物群
巻頭写真５　調査区北側の遺構と全景
巻頭写真６　ＳＴ60出土遺物集合
巻頭写真７　ＳＴ255出土遺物集合
巻頭写真８　中世遺物集合　青磁・青白磁
写真図版１　ＳＴ２
写真図版２　ＳＴ11
写真図版３　ＳＴ29
写真図版４　ＳＴ59
写真図版５　ＳＴ60
写真図版６　ＳＴ75
写真図版７　ＳＴ112
写真図版８　ＳＴ113・ＳＴ120
写真図版９　ＳＴ117
写真図版10　ＳＴ121
写真図版11　ＳＴ123
写真図版12　ＳＴ255
写真図版13　ＳＴ256
写真図版14　ＳＴ257
写真図版15　ＳＴ258
写真図版16　ＳＴ259
写真図版17　ＳＴ260
写真図版18　ＳＴ261
写真図版19　ＳＴ317
写真図版20　ＳＴ480・ＳＴ500
写真図版21　ＳＴ483
写真図版22　ＳＴ522
写真図版23　ＳＴ539
写真図版24　ＳＥ481
写真図版25　ＳＢ510
写真図版26　ＳＢ510東側建物柱穴群
写真図版27　ＳＰ643・ＳＰ644・ＳＰ645
写真図版28　ＳＨ319～324
写真図版29　ＳＨ125・ＳＨ320～324・ＳＫ359
写真図版30　ＳＤ111
写真図版31　ＳＤ114～116
写真図版32　ＳＬ484～485
写真図版33　ＳＬ527・ＳＬ670
写真図版34　ＳＨ529・ＳＨ530・ＳＫ41・ＳＫ70・ＳＫ105
写真図版35　ＳＴ60出土遺物集合
写真図版36　ＳＴ２・ＳＴ５出土遺物
写真図版37　ＳＴ11出土遺物
写真図版38　ＳＴ59・ＳＴ60出土遺物
写真図版39　ＳＴ60出土遺物
写真図版40　ＳＴ75・ＳＴ112出土遺物
写真図版41　ＳＴ113・ＳＴ117出土遺物
写真図版42　ＳＴ117出土遺物
写真図版43　ＳＴ117出土遺物
写真図版44　ＳＴ120・ＳＴ121出土遺物
写真図版45　ＳＴ121出土遺物
写真図版46　ＳＴ121・ＳＴ123出土遺物
写真図版47　ＳＴ123出土遺物
写真図版48　ＳＴ255出土遺物
写真図版49　ＳＴ255・ＳＴ256出土遺物
写真図版50　ＳＴ256出土遺物
写真図版51　ＳＴ257出土遺物
写真図版52　ＳＴ258出土遺物
写真図版53　ＳＴ258・ＳＴ259出土遺物
写真図版54　ＳＴ260出土遺物
写真図版55　ＳＴ261出土遺物
写真図版56　ＳＴ261出土遺物
写真図版57　ＳＴ317・ＳＴ480・ＳＴ500出土遺物
写真図版58　ＳＴ483出土遺物
写真図版59　ＳＴ483・ＳＴ522出土遺物
写真図版60　ＳＴ522出土遺物
写真図版61　ＳＴ537・ＳＴ543出土遺物
写真図版62　ＳＴ539・ＳＴ543出土遺物
写真図版63　ＳＴ543・ＳＴ684出土遺物
写真図版64　ＳＥ481出土遺物
写真図版65　ＳＥ481出土遺物
写真図版66　ＳＥ481出土遺物
写真図版67　ＳＫ・ＳＨ出土遺物
写真図版68　ＳＢ・ＳＤ・ＳＰ出土遺物
写真図版69　ＳＧ・ＳＸ・遺構外出土遺物
写真図版70　遺構外出土遺物
写真図版71　石製品
写真図版72　木製品・金属製品
附図写真図版

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

須川河川改修事業

今回の発掘調査は、須川河川改修事業（下流部）を契機としている。事業の内容は、堤防本体の拡幅と嵩上、河川敷内の土取り掘削などであり、拡幅に係る堤体敷や側道用地となる部分あるいは土取り掘削部分に係わる範囲が調査の対象となったものである。本遺跡の場合は前者に該当し、現堤防の拡幅部分と附随する側道用地部分とが発掘の必要な範囲と判断された。

試掘調査

発掘調査に先立つ、平成13年５月に県教育委員会文化財課による事前の試掘調査が行われた。試掘は、堤防拡幅予定地内に30～40m間隔でトレンチ７本を入れて行われ、そこでの遺構・遺物の分布や、検出面までの深さなどが確認された。その結果、柱穴、土壙、溝跡などが部分的ながら検出され、昭和58・59年の高速道路建設に伴う発掘によって明らかとなった平安時代～中世の集落跡の東側延長が、良好な状態で現堤体付近までにも拡がっていることが確認された。

こうした結果を基に、国土交通省と県教育委員会は現状保存を前提とした事前の協議を行った。しかし、設計の変更は用地的に困難であることなどから、遺跡にかかる施行範囲の2,200平方メートルについて平成14年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存に資することとなったものである。なお、昭和58・59年に行われた東北横断自動車道仙台～寒河江線に係わる調査が第１次、第２次調査と命名されて実施されたことから、今次調査は、達磨寺遺跡の第３次調査と位置付け、以下では第３次調査と呼称して行く。

第３次調査

2　調査の方法と経過

現地調査

現地調査は、平成14年５月７日～同年10月４日までの期間で行われ、実動は100日であった。

先ず、現場への器材搬入からはじめ、調査区の設定、重機による粗掘り、以下手作業による面整理・面精査と続け、さらに遺構プランの検出、検出遺構の略測図作成・遺構登録などの手順を踏んだ。また、各段階で写真撮影を行って、一連の調査作業が記録として辿れるように配慮している。こうして、遺構プランが把握された後に、地区割や作業行程が決定され、排土処理などの問題も加味して北側の一画から遺構・遺物の発掘作業を開始した。

調査の基準

調査の基準は、５×５ｍを一単位とするグリットである。グリットの軸線は、真北を基準とし、東西方向をＸ軸、南北方向をＹ軸とした。Ｘ軸には西から順次Ａ～Ｎのアルファベットを付し、Ｙ軸では南から１～40までのアラビア数字を用いて５ｍ毎に区分している。各グリットの呼称はこれらＸ・Ｙ座標の交点左上（北西隅）の記号と数値で代表させた。

北側部分の調査が一段落した７月中旬、折からの台風６号・７号の襲来に遇い、調査区の大半が水没した。終日の排水作業が１週間ほど続き、調査進行上で大きな痛手となった。しかし、この後天候も回復し、中央の住居群、中央南側の中世大溝跡、南側の竪穴や掘立柱建物、井戸跡などの遺構精査と順調に推移して10月４日にはすべての工程が終了できた。なお、終了一週間前の９月27日には、現地での調査説明会を開催し、約100人の参加者を得た。

調査説明会

3　調査区の概要

調　査　区　調査区は堤防に沿う細長い範囲であり、調査前は一見して起伏の少ない平坦な地形と窺えた。しかし、遺構の検出を進めるに従って、四ヶ所の地盤的高低に対応する竪穴建物群ほかの遺構分布が認められ、自然の起伏を伴う地形的要因が竪穴ほか遺構の分布や選地と関わって微妙な影響を及ぼしていることが看取された。

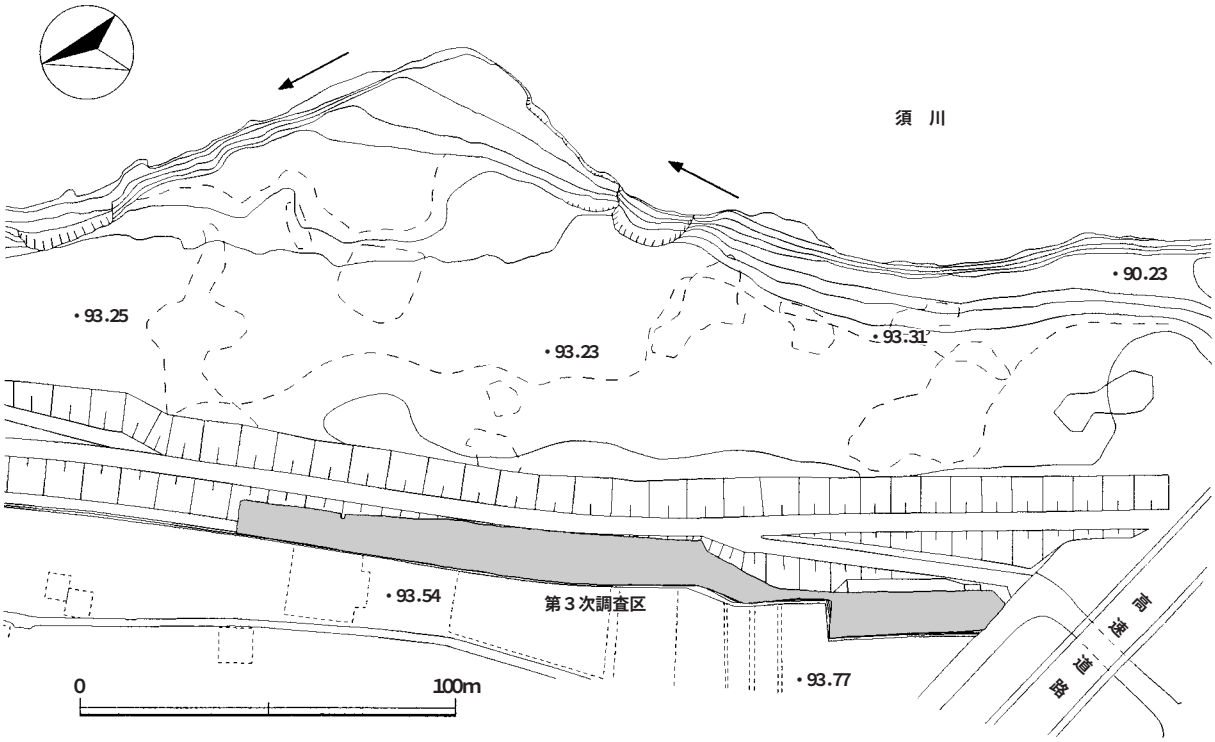
これら遺構遺物の分布については次項に記すが、調査区との関わりにおける概要は以下の通りである。

南側調査区　井戸跡や掘立柱建物跡が検出された南側調査区（Ｙ軸方向２～10)、ついで中世前期の大溝が位置する中央部南側部分の調査区（Ｙ軸11～20)、やや置いて竪穴建物が環状に配置された

中央調査区　と想定できる中央調査区（Ｙ軸21～29)、河跡ＳＧ318を挟んで北側に展開するＳＴ60ほかの竪

北側調査区　穴建物群が分布する北側調査区（Ｙ軸32～40)、以上の四ブロックである。なお、北側調査区と中央調査区を区画する河川跡ＳＧ318は、その覆土中に古代の土器片や中世前期のものを含むことから、古代の竪穴建物が機能していた時代には、河川ないし河道跡の湿地として存在していたことが明らかである。自然の区画や境界となっていたのだろう。また、南北方向に延びる集落内の道路跡側溝もＳＧ318を境に途切れてしまう様子が明瞭で、丸木橋などの施設を伴っていたものと推測される。

以上の四つに区分できる調査区は、基本層序の項でも触れるが、所謂基盤となる砂質シルトの地山層の高さで見ると、南側調査区でやや高く、大溝跡部分の中央調査区南側で最低位となっていた。また、住居の集中する中央調査区は最高位で、川跡を挟んだ北側はしだいに標高が下がる状況となっており、自然地形に対応した遺構分布と土地利用の在り方が窺えた。



第１図　調査概要図

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　立地と地理的環境

達磨寺遺跡は、山形県東村山郡中山町達磨寺字達磨寺（北緯38度19分15秒、東経140度18分８秒）に位置する。遺跡の所在する中山町は、山形県のほぼ中央部にあたり、山形盆地の中央やや西よりに位置している。北に最上川、東から南にかけて須川、西に山形西部丘陵をのぞむ田園地帯である。

遺跡の所在

遺跡の立地する達磨寺地区は、東の奥羽山脈に端を発する馬見ヶ崎川、立谷川などが形成した大扇状地の先端部に位置している。遺跡は須川左岸の自然堤防状の微高地に立地し、下流約１㎞地点は立谷川、白川（馬見ヶ崎川下流）が須川に合流する合流地点になっている。今回調査を行なった場所は、標高約94mを測り、調査前は畑地・果樹園などに利用されていた、平坦な土地である。

遺跡の立地

遺跡周辺は中世から近世にかけて陸路・水路ともに交通の要衝であり、近世には最上川舟運の要地として船着場や荷倉があったといわれている。また、遺跡南端に自生する県指定天然記念物『お達磨のサクラ』の根元付近からは一字一石経が見つかっている。

遺跡周辺

2　歴史的環境

中山町とその周辺には、縄文時代から近世にかけての多数の遺跡が分布しており、西部丘陵と平地の微高地上に分布の集中が見られる。達磨寺遺跡は須川の自然堤防上に立地し、周辺には古墳時代から奈良・平安時代を中心として営まれた遺跡が、微高地上に点在している。須川の左岸、達磨寺遺跡から約500m下流には、平安時代の遺跡とされる川前遺跡が、約１㎞下流には川前２遺跡がある。川前２遺跡では、平成14年度から平成15年度にかけて発掘調査が行なわれ、古墳時代～奈良・平安時代の集落跡が検出された。建て替え跡のある竪穴住居などが重複した状態で140棟以上確認されている。達磨寺遺跡から須川を挟んだ対岸には奈良・平安時代の遺跡である八幡田遺跡がある。また、川前２遺跡付近で須川と合流する白川を合流点から２㎞ほど遡ると、左岸に向河原遺跡が、右岸には古墳時代から近代までの遺構が検出された渋江遺跡が立地している。向河原遺跡は、古墳時代から中世にかけての集落跡で、５次に渡る発掘調査により、竪穴住居跡約100棟、井戸跡約40基が検出されている。このほか、東南約２㎞には馬洗場Ａ遺跡、馬洗場Ｂ遺跡、服部遺跡、藤治屋敷遺跡など、古墳時代、奈良・平安時代を中心とする遺跡が連続している。

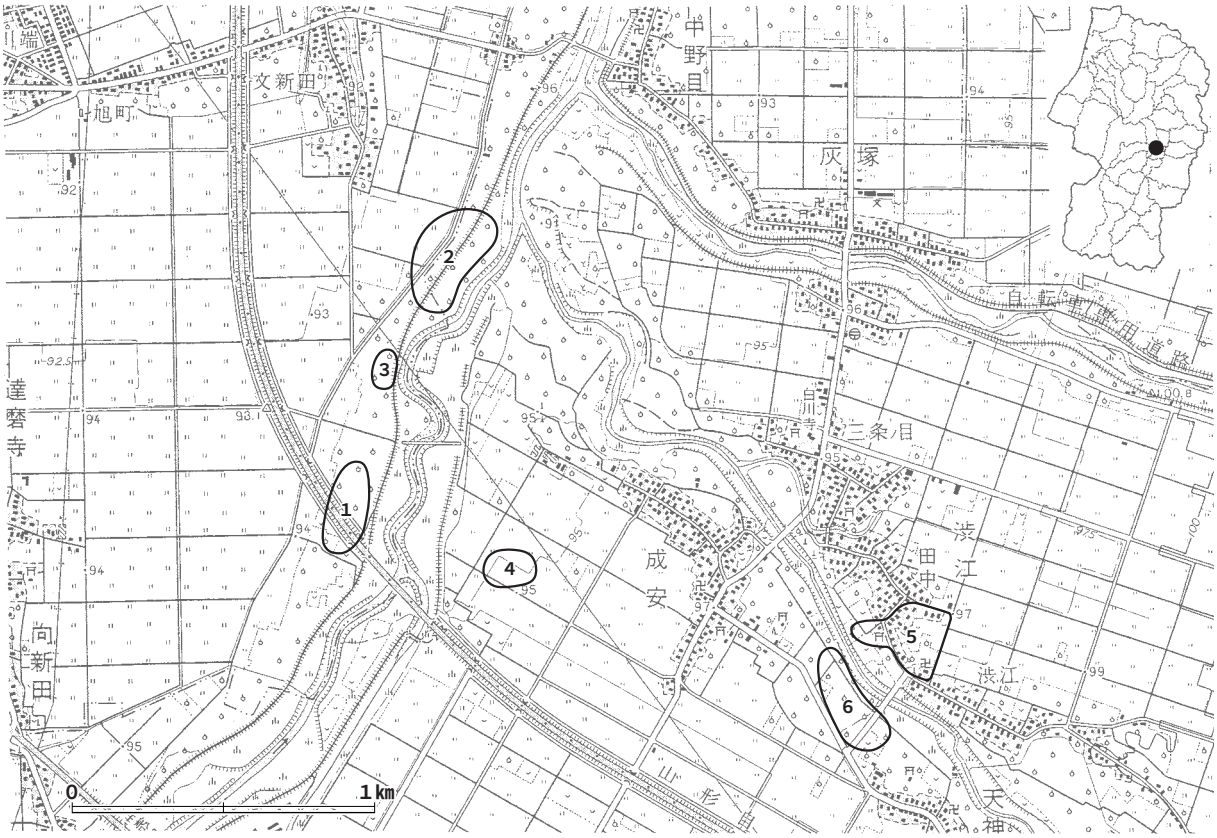
遺跡が分布

川前２遺跡

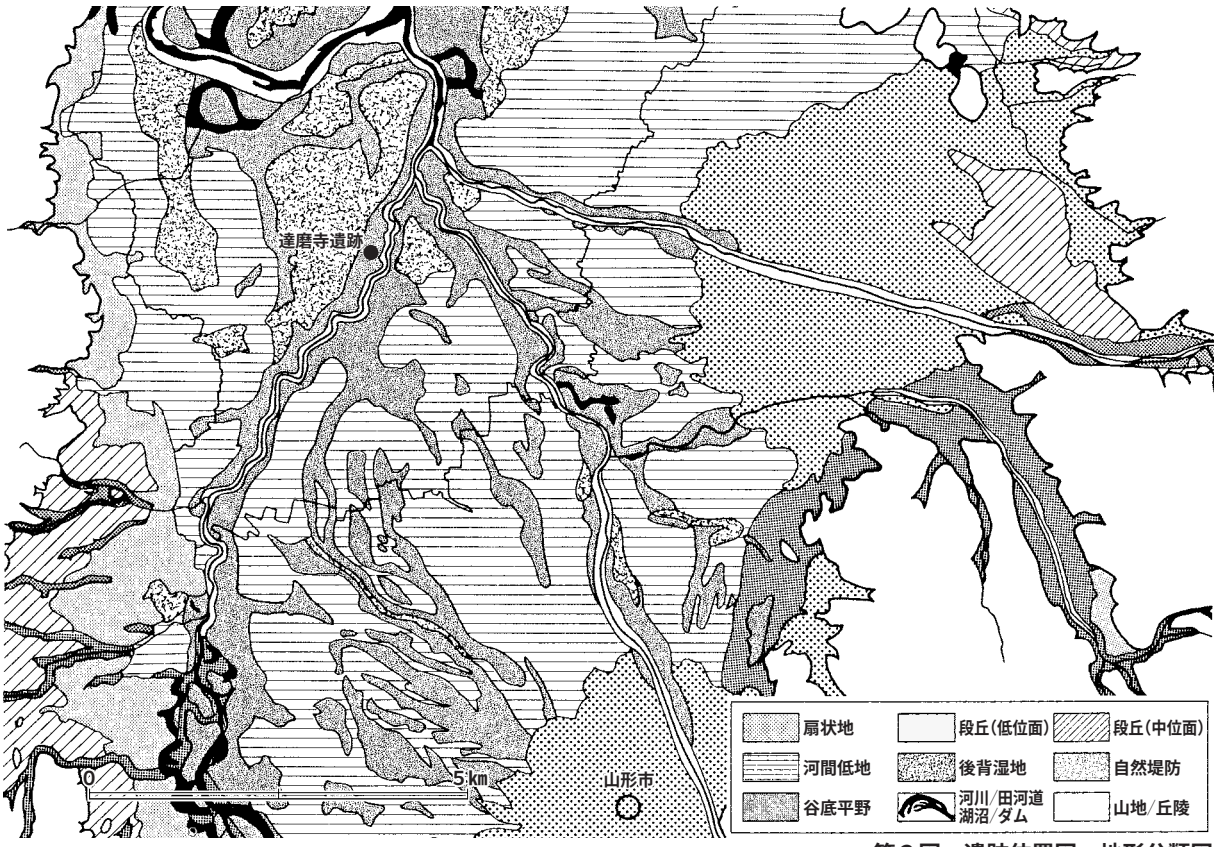
向河原遺跡

これらの遺跡は、多くが須川・白川などの河川が形成する自然堤防状の微高地に立地し、古墳時代から奈良・平安時代を中心として、中世以降まで営まれる。こうしたことから、古墳時代から中世以降にかけての長期間に渡り、これらの微高地は居住するのに適した、安定した環境にあり、河川と密接に結びついて集落が営まれてきたことが推測される。

自然堤防



1　達磨寺遺跡　平安・中世　　2　川前２遺跡　古墳・奈良・平安　　3　川前遺跡　平安時代
4　八幡田遺跡　奈良・平安　　5　渋江遺跡　奈良・平安　　6　向河原遺跡　平安時代

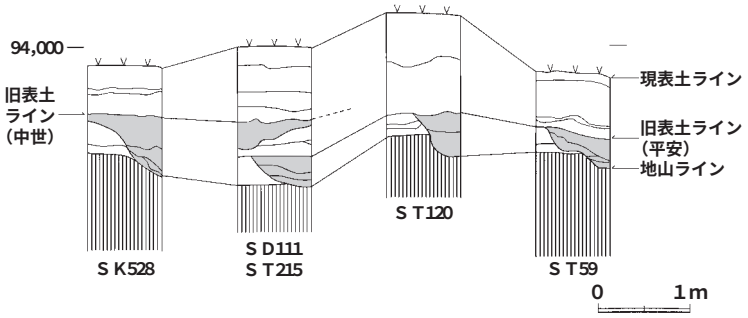


第２図　遺跡位置図・地形分類図

Ⅲ　遺跡の概要

１基本層序

調査区は須川の堤防沿いに設定された。調査前の状況は、堤体にかかる東側部分がやや高いものの、全体に平坦で、大部分が果樹畑として利用されていた。このため、西側の表土上層部は果樹畑の耕作土、堤防側にあたる東側上層は堤防構築の際の盛り土層と考えられる。これらの層から地山までの層は一定ではない。



第３図　土層柱状図

調査前の状況

地山層は最も安定した層で、調査区の南北でやや高低差が認められる。表土除去の際は地山ラインまで重機での掘り下げを行なったが、遺構の掘り込みは地山ラインよりも上から確認できる。遺構の掘り込みが確認できる面を、旧表土面と仮定すると、平安時代の旧表土ラインと、中世の旧表土ラインが想定される。平安時代の旧表土ラインと中世の旧表土ラインには、ＳＴ215・ＳＤ111が重なる位置で少なくとも40㎝程度の、堆積によると考えられる差が認められる。

地山層

旧表土面

２　遺構と遺物の分布

遺構・遺物は平安時代と中世のものが検出されている。遺構は竪穴建物約30棟、掘立柱建物、井戸、溝跡、道路跡、鍛冶遺構、土壙、墓壙などが検出され、遺物は須恵器、土師器、赤焼土器、中世陶磁器、金属製品、石製品、木製品などがある。

遺構・遺物

調査区は前述のように大きく四つに区分され、分布する遺構の様相もそれぞれ異なる。調査区北側には旧河川を挟んで二つのまとまりがみられ、竪穴建物跡が検出された遺構の大部分を占める。竪穴建物の多くは平安時代の住居跡と考えられ、須恵器、赤焼土器、土師器の供膳具、煮炊具が主に出土している。このほか、平安時代の墓壙と考えられる長円形の土壙が数基まとまって検出されている。調査区中央南よりは、調査区内で最も標高が低く、溝跡が集中して分布している。溝跡からは、鎌倉時代のものと考えられるかわらけや陶器、青磁、青白磁などが検出された。調査区南側のブロックには、中央部よりに竪穴建物跡が主に分布し、南端部には規模の大きな井戸跡や掘立柱建物跡が分布している。竪穴建物跡は多くが平安時代の住居跡と考えられるが、一部中世の建物跡もまじる。また、中世のものと考えられる道路跡、鍛冶遺構、土壙、墓壙なども検出されており、中世陶器や砥石などが出土している。

旧河川

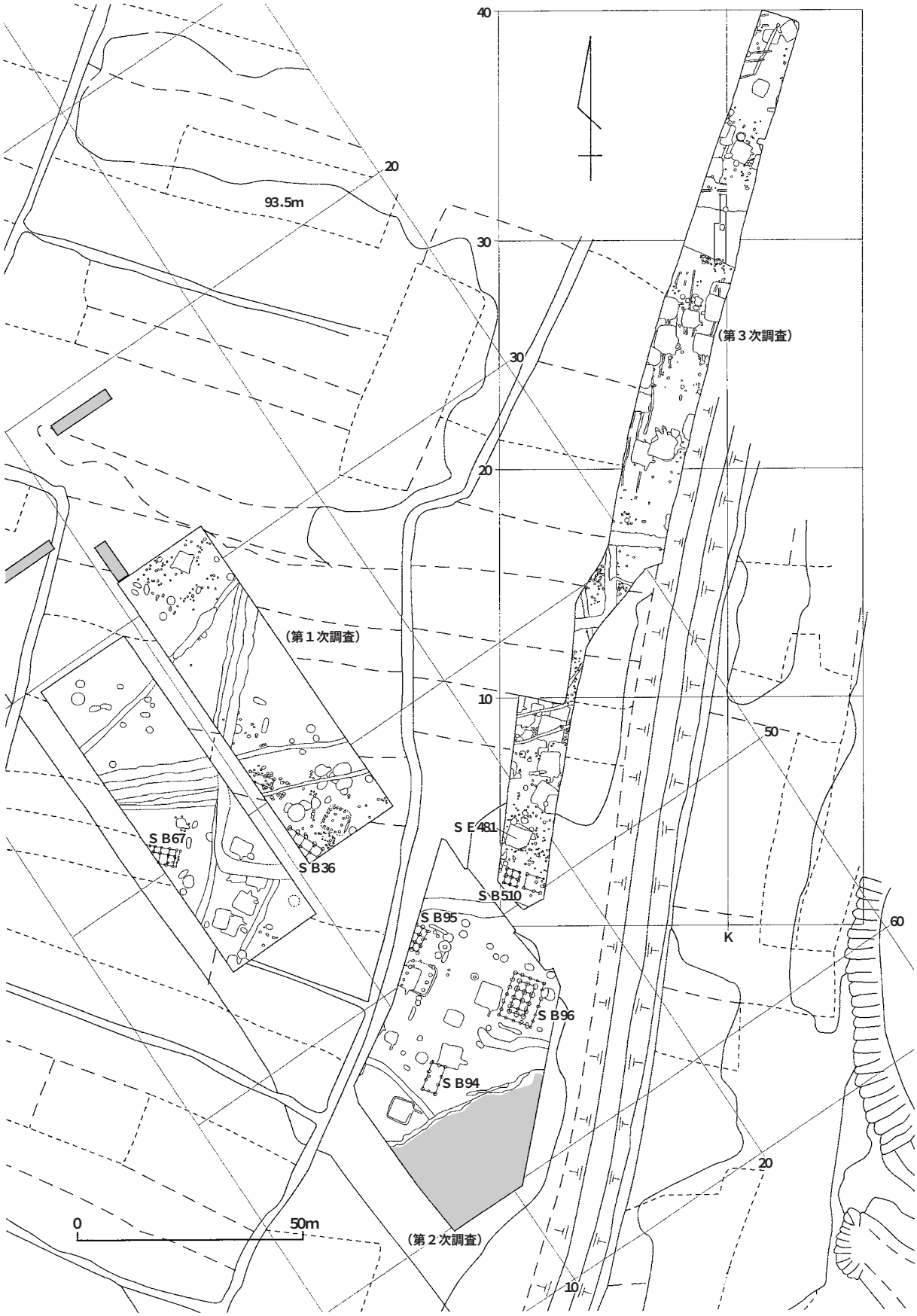
竪穴建物

墓壙

溝跡

井戸跡

遺物は調査区全体で出土している。大部分が竪穴建物跡から出土しているが、溝跡、井戸、土壙、墓壙などからもある程度の出土が見られる。


40
30
30
20
10
20
93.5m
（第３次調査）
（第１次調査）
50
S E481
S B67
S B36
S B510
S B95
K
60
S B96
S B94
20
0
50m
（第２次調査）
10

第４図　遺跡全体図

Ⅳ　遺　構

本遺跡から検出された遺構は、竪穴建物（住居）跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土壙、道路跡などの古代に属する遺構の他､方形館の区画溝の一部を構成すると考えられる大溝跡や道路(側溝）跡、および土壙や竪穴建物などの中世前期（鎌倉時代）に構築されたものがある。

1　竪穴建物跡（図版13～58）

竪穴建物

竪穴建物は中央調査区を中心として約30棟の検出をみたが、その主体が調査区外に掛かるため部分的な検出に止まったものも少なくない。以下に検出順に従って位置・規模・カマドほか施設、出土遺物などの概要を列記していく。

ＳＴ２竪穴建物跡（図版13・14、図版80）

ＳＴ２
竪穴建物跡

調査区の最北端（Ｍ－40Ｇ）で検出された竪穴で、長径384㎝、短径334㎝、検出面からの深さは20㎝である。隣接して、ＳＴ５、ＳＴ11がある。カマド（ＥＬ712）は東面に位置するが、その大半が調査区外に掛かることから、燃焼部ほかの状況は不明である。カマド方位は、北側袖や焼土・炭化物のひろがりから、Ｅ－28°－Ｎが計測される。床には覆土６と把握した貼り床面が建物中央部分を中心に認められたが、北や南の隅には及んでいない。なお、柱穴は検出されない。遺物では、カマド前面の床面直上他から須恵器のＲＰ２・４や赤焼土器鉢のＲＰ３などが出土しており、時期決定資料となる。

ＳＴ５竪穴建物跡（図版14、図版80）

ＳＴ５
竪穴建物跡

Ｌ－40Ｇで検出された竪穴で、東面するカマドと竪穴東辺のごく一部の検出にとどまっている。また、検出段階でやや深く下がったことから、その遺存が悪く、焼土や炭化物分布の一部が捉えられただけとなる。遺物は、小振りで薄手、体部内弯気味の須恵器坏のほか大形の土師器鍋などが床面近くから出土している。なお、カマド方位はＥ－２°－Ｓである。

ＳＴ11竪穴建物跡（図版15・16、図版80・81）

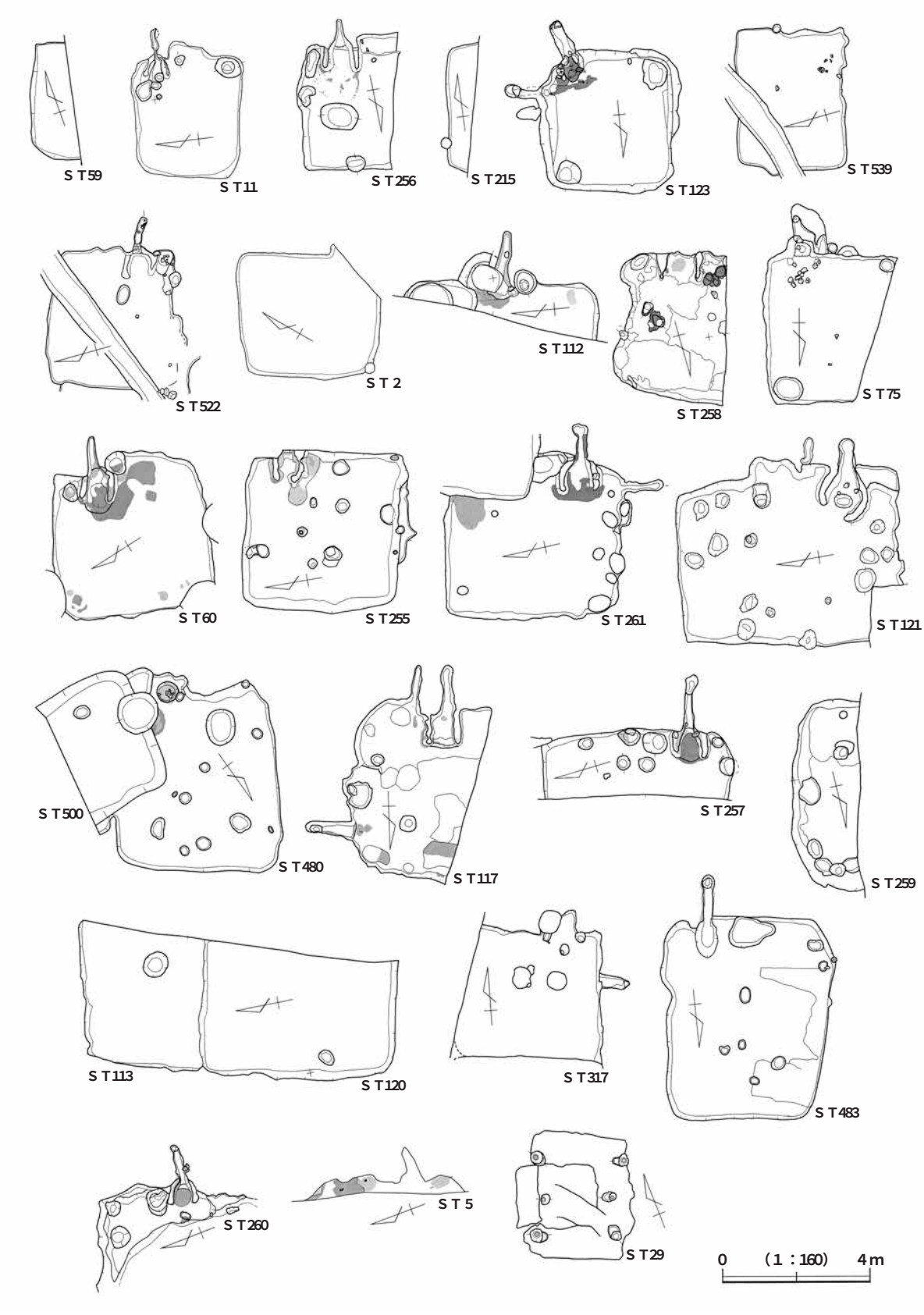
ＳＴ11
竪穴建物跡

ＳＴ２の西辺に煙道先端がほぼ接しているが、明確な切り合い関係は認められない。長径は334㎝、短径は286㎝、検出面からの深さ16～20㎝を測る。カマドは東辺北側隅に位置し、前面とその南側に炭化物のまとまった分布が認められた。袖部の幅は先端で74㎝、煙道幅15㎝、全長で132㎝である。床はやや凹凸があり不安定で、東辺および西辺を中心としてやや規模の大きな掘り方が認められる。遺物は、赤焼土器坏や同有台坏のほか、赤焼土器甕や土師器甕などがあり、総じて９世紀末葉以降の新しい時期相を示すと判断される。

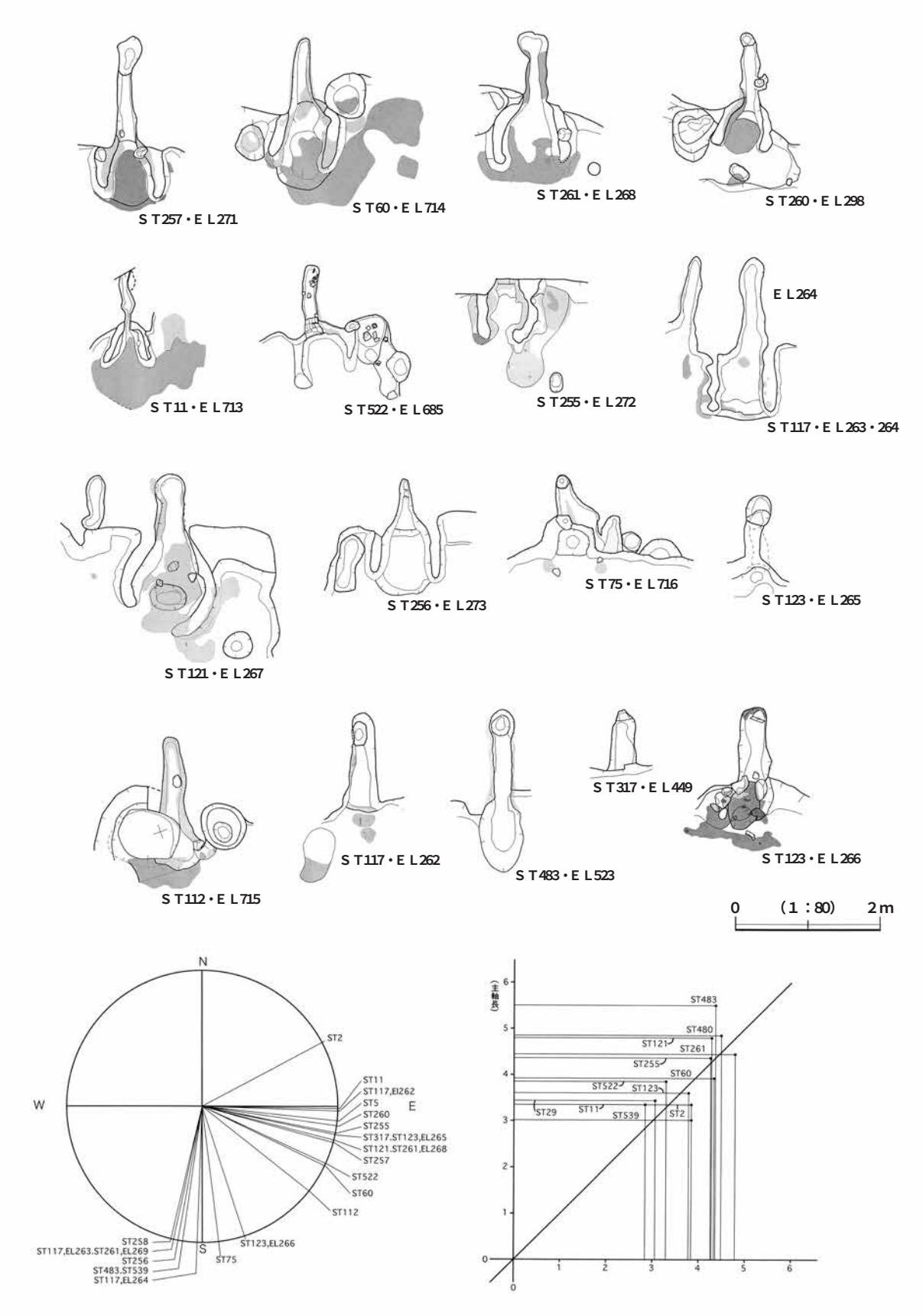
ＳＴ29竪穴建物跡（図版47）

ＳＴ29
竪穴建物跡

Ｌ－37Ｇに位置する特殊な建物で、広義には竪穴建物の範疇には含まれない可能性がある。しかし、掘り方が「ロ」の字で巡ることから、当時は表土を地山近くまで掘り下げて除去し、浅い竪穴状に整地してその中に柱を６本据えた形式の建物であったと窺える。ただし、小型の竪穴建物には通例柱穴が伴わないことを考えれば、壁や屋根構造などの諸点において、一般的な竪穴建物とは違う構造を持っていたことが推測される。床は地山上部の掘り方底面近くであ



第５図 竪穴建物跡分類集成図



竪穴建物跡のカマド方位　　竪穴建物跡の規模

第６図　カマド跡分類集成図

り、そこにはカマド他の施設は認められない。

柱穴はＥＰ30・31、ＥＰ106～108の６本で、断面観察から一度の建替えが考えられる。柱間は、七尺等間を基本としたことが窺えるが、内部に補助的に設けられた柱穴の柱間は六尺となっている。今の所他の類例を知らないが、カマドなどの施設を持たないことや、整然と柱を配置するなどの在り方からは、倉庫や小屋・納屋などの住居以外の性格が推測できる。なお、柱穴内からの遺物出土がないため、帰属時期の判定は困難であった。

ＳＴ59
竪穴建物跡

ＳＴ59竪穴建物跡（図版18、図版81）

Ｌ－34Ｇに位置し、ＳＴ60のすぐ東に隣接している。検出範囲は全体の約四分一程度と見られ、カマド他の主体部は調査区外の東側にあると判断される。規模は、南北方向で320㎝、東西は126㎝、検出面からの深さ16㎝を測るが、堤体下に残る東壁断面からは、本来の竪穴の深さが旧地表面から見て50㎝近くあったと観察できた。床面は平坦で貼り床や柱穴は認めていない。遺物も覆土中の小片に限られたため、時期判別に有効な資料は得られなかった。

ＳＴ60
竪穴建物跡

ＳＴ60竪穴建物跡（図版19～21、図版81～83）

Ｋ－34Ｇに主体を置く竪穴で、ＳＫ55、ＳＫ70、ＳＫ71などの土壙に各々切られる。規模は長径436㎝、短径392㎝、検出面からの深さ26㎝で、東辺の北側にカマドが付設される。カマド方位は、Ｅ－26°－Ｓである。床は堅く締って遺存がよく、土層断面に見る覆土12と13層が一次・二次の貼り床面と捉えられた。古い貼り床の広がりは、その下に認めた掘り方溝の範囲に対応し、二次の新しい貼り床段階に一回り大きく建替えられたことが明らかである。また、ＥＬ714カマド跡の南側床面周辺での焼土や炭化物の分布、およびその東辺ラインの不整な広がりは、旧段階でのカマドの存在によるものと考えられる。従って、建替えは、平面企画ばかりでなく、カマドも含めた全面的なものであったと言えるだろう。

その他の施設では、カマドの北側に位置する貯蔵穴ＥＰ247があり、焼土や炭化物を多く含む土層中に回転ヘラ切りの須恵器坏他の遺物が含まれていた。遺物は、主としてカマド内部やその周辺にまとまって分布しており、復元されて資料化できたものも多い。

ＳＴ75
竪穴建物跡

ＳＴ75竪穴建物跡（図版22・23、図版83・84）

Ｊ－33～34Ｇに位置し、ＳＴ60建物の南西に隣接する。平面企画は方形と推測されるが、西辺と北辺の一部は調査区外に掛かることから不明である。規模は、長径で405㎝、短径は354㎝、検出面からの深さ38㎝ほどであり、東西径はもう少し長くなるものと予測される。

ＥＬ716カマド跡は建物南辺の東隅に位置し、今次調査で検出したカマドを有する竪穴建物例では唯一燃焼部が周壁の一辺から「ロ」の字形に突出する特異な形態を持つものである。

カマド規模は、全長120㎝、燃焼部幅74㎝で、方位はＳ－７°－Ｅを測る。この竪穴建物でも、改築の形跡が窺われ、ＥＬ716の西脇に旧煙道部分と考えられる南側に張出す掘込みが確認された。また、精査の最終段階で行った床の面下げから、一段階古い平面企画がかすかに検出され、その結果、南北径が240㎝ほどの小規模な竪穴が先行して存在したことが確認できた。従って、この竪穴は、ＳＴ60同様にカマドも含めた全面改築が行われ、その床面積はこれまでより３倍近くに増大したことが窺い知れる。

床には覆土16層が貼り床として従来の竪穴範囲全面を覆うように施されて平坦に仕上げられる。その他の付属施設では、北東隅に長径80㎝・短径60㎝の土壙ＥＰ250、南西隅に径34㎝の

小土壙ＥＰ233の二つが認められたが、遺物他の出土は皆無であった。

遺物は、カマド前面と床中央部で廃絶時に遺棄されたと判断できる状況で出土している。これら資料は、図上復元がせいぜいの須恵器や赤焼土器類が大半で、須恵器は蓋、底部切離しが回転糸切りの坏、把手付有台坏の把手部分などが注目される。

ＳＴ112竪穴建物跡（図版24・25、図版84・85）

ＳＴ112 竪穴建物跡

Ｊ－35Ｇに主体を置く竪穴で、検出範囲はカマド跡を含む東辺部分、全体からみて約四分の一程度に留まっている。また、建物の北東隅では、中世の土壙群（ＳＫ39～41）に切られることから、カマド燃焼部の北半が欠失していた。規模は、南北径398㎝、東西径130㎝以上で、検出面からの深さは24㎝である。カマド位置は、東辺の北隅にあり、燃焼部南半と煙道部、および掻き出しによる炭化物や焼土粒の広がる焚口前面部が検出された。なお、南側袖の先端では、焚口の芯材と推測される角礫の埋設が認められる。その他の施設では、カマド南脇に貯蔵穴と判断できるＥＰ246の土壙が検出され、カマドと一体で機能したことが推察される。床は平坦で締まりを見せるが、貼り床は認めていない。遺物は、須恵器、赤焼土器、土師器があり、カマドＥＬ715の煙道内や土壙ＥＰ246周辺からまとまって出土している。須恵器では、切離しが回転糸切りの坏他があり、概ね九世紀前葉段階の所産と推察された。

ＳＴ113・120竪穴建物跡（図版26～28、図版85・88）

ＳＴ113・120 竪穴建物跡

Ｊ－27・28Ｇに位置し、両者共にその東辺が調査区外に掛かっている。また、両者にはＳＴ113の南辺をＳＴ120が切る関係がある。すなわち、構築順ではＳＴ113が古く、ＳＴ120が新しい。

規模はＳＴ113で長径468㎝、短径400㎝以上、検出面からの深さ12㎝、ＳＴ120で長径662㎝、短径450㎝、深さ36㎝である。深さの面ではＳＴ113が極めて浅く、ＳＴ120が深い。床は地山を直接使用するもので、粘土等による貼り床は認められない。

遺物では、ＳＴ113の床面からＲＰ30・31の須恵器有台坏と坏が、ＳＴ120では赤焼土器坏ＲＰ28・29の二点が北辺の壁際直下から合わせ口状態で出土した（図版88－９・10）。合わせ口土器の内部は、わずかなヘドロを除けばほぼ空洞で、目に見える形ある遺物の包蔵は認めていない。なお、ＳＴ113の床面には、南北方向に延びる道路の側溝と考えられる溝跡ＳＤ337～339の痕跡が窺われ、竪穴建物が先で道路が後の新旧が窺えた。

ＳＴ117竪穴建物跡（図版29～31、図版85～88）

ＳＴ117 竪穴建物跡

Ｈ－27・28Ｇに位置し、新旧のカマド三基や古い床面プランを覆う粘性の強い粘土を用いた貼り床などが認められた。カマド跡の新旧は、その遺存状況からＥＬ262→ＥＬ263→ＥＬ264の順が推定される。したがって、この竪穴は、一段階古いＥＬ262のカマドを持つ規模の小さな竪穴を基として構築され、次いでＥＬ263のカマドを備えた竪穴が北辺を踏襲し、東辺を拡張する形で改築されたと判断できる。また、改築後にカマドの付け替えが一度行われて、最終的にＥＬ264が取り付けられたと考えられる。最終のカマドＥＬ264は、全長220㎝、燃焼部幅110㎝、煙道幅30㎝とやや大形である。その他の施設では幾つかの落ち込みや小土壙が見られたが、そのプラン規模等は、貼り床その他から不確定なものが多い。

遺物は、ＥＬ263の前面、ＥＬ264の東隣を中心として検出され、登録して取り上げた土器他遺物の大半（ＥＬ262のＲＰ234・235を除く）は、竪穴の最終段階で遺棄されたものと判断さ

れる。土器類の種別では、糸切りの須恵器坏が若干（ＲＰ258・268)、主体を占める赤焼土器坏・鉢・甕類、無台・有台の黒色土器坏・椀類が一定量、非ロクロ土師器鉢・甕など少量がある。これらを総体的にみれば九世紀後葉のものが主体と見受けられるが、時期決定資料の一つに、ＥＬ262の煙道内から出土した無台の内黒土器坏ＲＰ234と有台の内黒坏ＲＰ235の二点がある。これらは、この竪穴建物の上限の時期を示すと考えてよい。

一方、下限を示すと考えられる資料に、最新のカマドＥＬ264の燃焼部周辺で認めた白色火山灰がある。理化学分析の結果、この火山灰は「十和田ａ」と同定され、その噴出年代がＡＤ915年とされることから、竪穴の廃絶から埋没の初期の段階にこの年代の一点が与えられる。

ＳＴ317
竪穴建物跡

ＳＴ317竪穴建物跡（図版32、図版103）

Ｈ－27Ｇに位置し、北半をＳＴ117竪穴に、南半をＳＴ121竪穴に切られて建物中央部を僅かに遺すのみとなっている。東辺にはＥＬ449のカマド跡煙道部分が検出されたが、燃焼部は取り払われており、後に南辺などに付け替えられたことが推測される。

その他の施設では、カマドの長軸ライン上にＥＫ482、ＥＫ490の土壙二基を認めたが、明確にこの竪穴に伴ったものかどうかの確証は得られなかった。床は平坦で締まるが、貼り床等は認められない。遺物は、糸切りの須恵器坏、赤焼土器坏・甕などが覆土中を中心に若干出土し、その形態から９世紀前半代の帰属と推察される。

ＳＴ121
竪穴建物跡

ＳＴ121竪穴建物跡（図版33～36、図版88～91）

Ｈ－26Ｇを中心として位置し、ＳＴ317竪穴を切りＳＸ277竪穴およびＳＴ256竪穴に切られるという重複関係が認められた。また、ＳＴ317竪穴と把握した範囲にも東辺の突出や北辺との不整合があることから、最低でも二時期の重複が想定できる。すなわち、北の張り出し部分は、カマド跡ＥＬ267を備えていた平面プランの竪穴に切られていると見るのが妥当であり、その北辺はＥＰ329柱穴とＥＰ333柱穴を結んだライン上にあったと考えられる。ただし、平面プランの検出段階では明確な境界を引くことができなかったことと、床面精査段階でも貼り床や明らかな段差などで区別できる差異は掴めなかった。

カマド跡ＥＬ267は、建物東辺の南端に位置し、その主軸を東西（Ｅ－14°－Ｓ）とする。規模は、全長230㎝、燃焼部幅150㎝、煙道部幅45㎝であり、床面積に較べてカマドの大きさは異様と感じられる。また、カマド袖の在り方は、遺存状態によるとも考えられたが、主軸に対して右下がりの形状で、煙道の軸線とは捻れた位置関係と窺えた。床は平坦で締まりがあるが、貼り床は施されない。住居規模は、カマドＥＬ267を備えた時期に限定すれば、長径が481㎝、短径430㎝と計測でき、東西に長い通常規模の竪穴建物と捉えられる。

遺物は、主にカマド跡の南脇と東辺の壁際に沿って検出された。種別では身の深い赤焼土器坏や有台坏が主体の黒色土器が目立ち、須恵器は坏類が無く、大形甕の体部破片に限られていた。これらから、須恵器坏類がまだ組成されるＳＴ117の様相よりはやや新しいと推察される。

ＳＴ123
竪穴建物跡

ＳＴ123竪穴建物跡（図版37・38、図版91～93）

Ｉ－27Ｇに位置し、集落内道路側溝のＳＤ336とＳＤ456との重複関係があり、切合いから本竪穴が新しいと判断できた。建物規模は、東西径360㎝、南北径382㎝、検出面からの深さ20㎝である。カマドは新旧の二つがあり、当初のＥＬ265は煙道が検出面より下のトンネル状で良好に検出された。後の新しいカマドＥＬ266は、その位置を南東隅に移動し、その軸線を建物

プランの北西から南東方向の対角線に対応させた。また、構造上では、燃焼部袖の芯材に礫を多用する仕様とし、本遺跡では稀な例と注目できる。こうしたカマドの付け替えは、他の竪穴建物でもしばしば認められたが、位置を建物軸線に平行ではなく、対角線上に採る点では特異な存在と注目される。床面積が小さいが故に採用された形態と推測できるが、一方では時期的な特徴かとも窺えて興味深い。床は平坦で締まりを持つが、貼り床等は認めなかった。

遺物は、カマド前面や煙道内を中心として検出され、須恵器甕・壺の他、赤焼土器坏・鍋・甕・甑、土師器甑・甕、内黒の有台坏などが散見でき、各種甑の存在が注意された。時期は判然としないが、赤焼土器坏などの形態や須恵器壺等から推して10世紀前葉段階が推察される。

ＳＴ215竪穴建物跡（図版39）

ＳＴ215 竪穴建物跡

Ｉ－22Ｇに主体を置き、中央調査区部分では最南端に検出された竪穴である。規模は、南北径で350㎝、東西径は東側が現堤体に掛かることから全体の約五分の一、82㎝の検出に止まっている。検出面からの深さは、５㎝ほどであったが、東壁の断面観察から、当初は30数㎝の掘込みがあったことが窺い知れる。床は平坦で硬く締り、覆土11層と捉えた地層が貼り床と認識される。遺物は、検出範囲内には殆どなく、帰属時期等は不詳である。

ＳＴ255竪穴建物跡（図版40・41、図版93・94）

ＳＴ255 竪穴建物跡

Ｉ－26Ｇに主体を置き、東辺の壁上部が僅かに地区外となる。したがって、カマド跡ＥＬ272の煙道も検出不能であった。規模は、南北径428㎝、東西径438㎝の略方形で、検出面からの深さは34㎝内外である。カマドＥＬ272は、東辺の北側にあり、燃焼部の幅は104㎝、上部は崩落して潰れていたが、両袖は良好に遺存していた。主軸方位は、煙道を欠くためやや不正確となるが、両袖位置からＥ－11°－Ｓと計測される。

床は平坦で硬く締るが、貼り床は認めていない。その他の施設では、柱穴と考えられるＥＰ283・285・295他５本ほどがあり、７尺等間で配置される上記の３柱穴は間仕切的性格が想定できる。また、南辺上部の不整な張出しは、入口施設との関連が推測できる。

遺物は、カマド前面の床面を中心として検出され、須恵器蓋・坏、赤焼土器坏・甕、土師器甕などが認められる。中でも須恵器有台坏の転用硯ＲＰ127は、朱墨の痕跡を内外面に留めていた。また、これら組成の中で、須恵器蓋類が加わっていることに着目すれば、廃絶段階に遺棄された土器類の時期は、大まかに９世紀前葉段階の様相と捉えられる。

ＳＴ256竪穴建物跡（図版42・43、図版95・96）

ＳＴ256 竪穴建物跡

Ｇ－25・26Ｇで検出された竪穴で西辺の約三割が地区外となっている。規模は南北径で324㎝、東西径で248㎝以上、検出面からの深さ28㎝であった。カマドＥＬ273は、建物南辺の東寄りに位置し、両袖、煙道ともに良好に遺存していた。カマド規模は、全長145㎝、燃焼部幅114㎝、煙道幅17㎝である。その他の施設では、ＥＰ275が注目され、内部に焼土と炭化物および土器類を多量に埋納して後に埋戻す在り方が窺えた。

遺物は、カマド東脇の土壙やＥＰ275内を中心に検出され、廃絶時の一括性が良好な状態と考えられた。これらの中では、身の深い須恵器坏や有台坏などに特徴が窺われ、９世紀中葉段階の所産と推測される。

ＳＴ257竪穴建物跡（図版44・45、図版96・97）

ＳＴ257 竪穴建物跡

Ｇ－24・25Ｇに位置し、接する形で微妙ながらＳＴ256に切られる重複関係と認められた。

規模は、西辺の約７割方を地区外とするが、南北径506㎝、東西径176㎝以上、検出面からの深さ16㎝である。カマドＥＬ271は、東辺南寄りに位置し、その主軸はＥ－15°－Ｓの方位を示す。また、カマド規模は、全長230㎝、燃焼部幅110㎝、煙道幅23㎝、先端の煙出しピット径33㎝を各々測る。本遺跡では、ＳＴ121のカマドＥＬ267などと共に大規模な部類に属す遺存状態の良好な例である。その他の施設では、ＥＰ286他大小の柱穴や土壙６基があり、東壁や西壁に沿うＥＰ287他の幾つかは貯蔵穴と考えられる。

遺物は、全体に散漫な出方であり、多くは床面からやや浮いた状態で出土している。

ＳＴ258
竪穴建物跡

ＳＴ258竪穴建物跡（図版46・47、図版97～99）

Ｇ－23・24Ｇに位置し、道路側溝ＳＤ386～388を切る重複関係が認められる。規模は、南北径400㎝、東西径274㎝以上、検出面からの深さ14㎝であるが、西辺は約３割が地区外に掛かる。カマド跡は南辺の東寄りに位置し、その東脇に貯蔵穴が見られる。床は平坦で硬く締まるが、構築時の掘り方に粘質土を埋め込んで整地した様子を明瞭に留めていた。

遺物は、カマド燃焼部とその周辺に認められ、大半は廃絶段階の一括遺物と捉えてよいと判断された。これらの組成では、須恵器坏の破片を含むものの、赤焼土器坏や内黒の無台坏、非ロクロの土師器甕が主体的な在り方で、９世紀後葉段階の所産と推察される。

ＳＴ259
竪穴建物跡

ＳＴ259竪穴建物跡（図版48、図版99）

Ｉ－22・23Ｇに位置し、埋没後に東側地区外に主体を置く未命名の竪穴に切られる重複がある。規模は、南北径516㎝、東西径182㎝以上、検出面からの深さ20㎝で、東辺の約６割強が地区外に掛かる。検出範囲内にはカマドは無く、その他の施設として南辺の壁際に柱穴様の連続的な小土壙４基が検出された。他は掘り方整地などに伴った埋土の土色や土質の違いによるものと判断される。床は覆土19層として捉えた整地的な貼り床が施される。

遺物は、西壁寄りの覆土などから出土しており、竪穴の埋没後に廃棄されたと考えられるものである。従って、建物の機能時期は、これらより以前とでき、新しく見ても９世紀後葉段階には位置付けられよう。なお、未命名の竪穴の時期は判断し得る資料が無く不明である。

ＳＴ260
竪穴建物跡

ＳＴ260竪穴建物跡（図版49、図版99・100）

Ｈ－22Ｇに主体を置く竪穴ながら、その大半を後世の撹乱により失っていた。検出部分は、東辺の大方と、西辺の約半分程度となる。幸いカマドＥＬ298とその周辺は破壊されずに残っていた。平面規模は全形不明ながら、残存部から南北416㎝以上の方形企画だったと推測できる。カマドは全長170㎝、燃焼部幅85㎝、煙道部幅27㎝、煙出しピット径20㎝の大きさがあり、その位置がほぼ東辺の中央である点は他の例に異なると指摘できる。検出できた床面は北東隅部分に限られたが、堅く締り、部分的ながら貼り床も認められた。

その他の施設では、カマド北脇に貯蔵穴のＥＰ304が付設され、そこには埋設土器の土師器甕ＲＰ219がほぼ無傷で遺存していた。遺物は、カマド燃焼部内とその東側床面から出土しており、一部を除いてはほぼ廃絶時の遺棄品と捉えられる。時期は有効な資料が乏しいため判然としないが、赤焼土器坏他の形態から見て、９世紀後葉段階のものと推測できる。

ＳＴ261
竪穴建物跡

ＳＴ261竪穴建物跡（図版50・51、図版100～103）

Ｆ・Ｇ－21・22Ｇに位置し、道路側溝ＳＤ386・387を切る重複関係がある。なお、北東隅はＳＴ260と同じ後世の撹乱を受けて欠失していた。規模は、南北径480㎝、東西径446㎝、検出

面からの深さ14㎝があり、南北方向でやや長い長方形企画の竪穴である。カマド跡は、付け替えによる二時期のものが認められた。その新旧は、煙道部のみのＥＬ269が古く、全容を遺すＥＬ268が新しいことは明瞭で、新しいＥＬ268は、全長197㎝、燃焼部幅126㎝、煙道幅28㎝、煙出しピット径42㎝の大きさである。すなわち、当初南辺に据えたカマド（Ｓ－12°－Ｗ）を後に東辺に移して作り替えたことが理解でき、新しいカマドは（Ｅ－14°－Ｓ）古いカマドに対してほぼ90°の関係を持つ。

その他の施設では、ＥＬ268の北脇に規模の大きな貯蔵穴が付設される。また、建物南辺の壁際では小柱穴が集中的に分布し、出入口の存在が推測された。床は平坦で堅く締り、覆土７層と把握した層準は黄色粘土を用いた貼り床と認められる。

遺物は、燃焼部内とＥＰ299の貯蔵穴周辺を中心として分布し、赤焼土器主体、黒色土器における有台坏主体などから９世紀末葉から10世紀前葉の時期が推察される。

ＳＴ480・ＳＴ500竪穴建物跡（図版52・53、図版103）

ＳＴ480・ＳＴ500 竪穴建物跡

Ｂ・Ｃ－６・７Ｇに位置し、中世の竪穴ＳＴ500および墓壙と考えられるＳＨ529に切られる重複がある。規模は、南北径486㎝、東西径450㎝、深さ10㎝を各測る。ＥＬ646カマドは南辺の東側に位置し、燃焼部底面のみの検出に止まって、袖や煙道は認めなかった。遺物は、総じて少ないが、須恵器坏や同有台坏の組成が窺われ、９世紀中葉代の所産と考えられる。

ＳＴ500竪穴建物は、その東辺が地区外のため全形が不明だが、中世特有の最深で60㎝近くの深い竪穴形態を呈するものと判断でき、その南北径は358㎝、建物南北軸はＮ－10°－Ｅであった。なお、時期を特定できる中世陶器など遺物の出土は無かった。

ＳＴ483竪穴建物跡（図版54、図版103・104）

ＳＴ483 竪穴建物跡

Ｂ・Ｃ－７・８Ｇに位置し、不明確ながらＳＬ483と接するないしは切られる関係の重複が考えられた。規模と平面形態は、南北径550㎝、東西径438㎝で、南北方向に長い長方形企画を呈す。カマドＥＬ523は、南辺の東隅にあり、煙道部と燃焼部底面が検出された。カマド軸はＳ－８°－Ｗである。

遺物は、カマド周辺から出土し、須恵器蓋や同坏が認められることから９世紀中葉代の所産と推察される。

ＳＴ522竪穴建物跡（図版56・57、図版104・105）

ＳＴ522 竪穴建物跡

Ｃ－９Ｇに位置し、ＳＴ684竪穴を切り、道路側溝ＳＤ525に切られる重複関係が認められる。規模は、東西384㎝、南北332㎝で、カマドＥＬ685は東辺の南寄りに位置し、全長172㎝、燃焼部幅87㎝、煙道幅18㎝を測る。遺物は、カマド周辺からまとまって出土しており、「家」、「仁」と墨書された須恵器坏や土師器鍋・甕、黒色土器有台坏などの組成が注目される。これらは、廃絶段階での良好な一括資料と捉えられ、須恵器坏などの形態から時期は９世紀前～中葉頃と考えられる。

ＳＴ539竪穴建物跡（図版58、図版106・107）

ＳＴ539 竪穴建物跡

Ｃ－10Ｇに位置し、道路側溝ＳＤ524に切られる重複関係がある。規模は、南北径298㎝、東西径384㎝で、建物軸は、Ｓ－８°－Ｗを測る。なお、カマドは認めていない。床は平坦で、締まり、覆土６とした暗褐色粘土層は貼り床面を形成する。遺物は、竪穴南東隅からややまとまって出土し、底径が小さく身の深い須恵器坏などから、９世紀末葉の時期が推察される。

2　掘立柱建物跡

掘立柱建物は調査区南端のＡ・Ｂ－２・３Ｇ、ＳＴ270の南側Ｈ－20・21Ｇ周辺、およびＳＴ255の南側周辺の三箇所で認められた。しかし、ＳＢ510と南接するＳＰ514～ＳＰ521の柱穴から構成される建物以外は、西側桁行部分に限られ（図版63・64）、その規模他の実態は不明である。一方、中世に属すると判断できる夥しい柱穴ないし杭穴のまとまりも、ＳＥ481の南側やＳＤ114周辺、ＳＤ114南側およびＳＧ318の南縁など四箇所ほどで検出された。しかし、これらは組み合わせ不能であり、建物跡として積極的に認知できる状況もない。また、出土遺物もないため時期判別の明確な根拠も見出せなかった。以下では、第２次調査で検出されたＳＢ96建物跡（第４図）に関連するＳＢ510などについて解説していく。

ＳＢ510建物跡

ＳＢ510建物跡（図版59～61）

桁行二間、梁行二間の総柱建物で、倉庫跡と考えられる。柱穴の掘り方は、総じて南北方向にやや長く、径の平均は67㎝であった。一方、東西の平均は60㎝である。これらから解るように、掘り方は基本的に南北に長く、東西で短く掘る仕様であったと看取される。柱間は、南北、東西共に五尺等間と窺われ、そのばらつきは殆ど無い。また、これら柱穴の断ち割りからは、何れにも柱痕跡が明瞭で、掘り方底面には加重による柱根の落ち込みも認められた。

隣接して検出されたＳＰ514他の柱穴は、ＳＰ514、ＳＰ516、ＳＰ519が北辺列、同様にＳＰ515、ＳＰ518、ＳＰ521が南辺列を構成して相対し、桁行が西から七尺、次いで五尺の等間と窺える。また、東辺のＳＰ519・520・521の柱間は、各五尺等間であり、先の総柱建物に取付く一連の建物であった可能性も高い。とすれば、南北二間×東西五間の長大な東西棟とも考えることができ、第２次調査で検出された四面廂建物ＳＢ96に直交する附随施設とも捉えられよう。

ＥＢ296・ＥＢ390～392柱穴跡

ＥＢ296・ＥＢ390～392柱穴跡（図版63）

ＳＴ255の南側で検出された柱穴列で、柱間は八尺等間と窺える。掘り方は径50㎝前後の楕円や隅丸方形で、一部には、柱痕跡が明瞭に窺えた。東辺が地区外に掛かるため全体は不明だが、東西二間×南北三間規模の南北棟が推測される。検出部分は、その西辺柱列と見られよう。

時期は、遺物がなく不明ながら、ＳＴ255を切ることから少なくともその後と言えるだろう。

3　井戸跡

井戸跡はＳＢ510の北側で検出されたＳＥ481の他、中世の素掘り井戸と考えられるＳＫ55やＳＫ39もあるが、以下では、古代に属するＳＥ481井戸跡についての概要を記す。

ＳＥ481井戸跡

ＳＥ481井戸跡（図版72・73、図版108～110、図版117）

掘り方径が東西で515㎝、南北で516㎝と超大形で、三段の足場が確保される明瞭な段掘りが窺えた。また、断面観察から、最低一度の掘り直し改修が行われたことが明らかで、その際の井戸本体は、東西方向でやや西側にずれが生じた。なお、底面近くの井桁組数段はその位置からして当初のものと判断できる。井桁は、一部を図にして掲載できたが、長さ96㎝、幅24㎝、厚さ４㎝と大形で、井戸枠の内径は二尺七寸（約80㎝）四方と考えられる。なお、掘り直し後の井戸跡覆土の上層で、「十和田ａ」の白色火山灰が薄層ながら認められた。

4　溝跡

溝跡は、最も標高の低い区域である調査区中央南よりで集中して検出された他、南端部でも前回の調査で確認された溝の一部が検出されている。

ＳＤ111（図版65・66）　**ＳＤ111**

17・18Ｇ付近を東西に横切る溝跡である。幅は250～300㎝、検出面からの深さは約60㎝であるが、東西の壁面で旧地表面から140㎝の深さがあったことが確認できる。調査区内で屈曲するＳＤ114を切る関係にあり、ＳＤ114よりも新しい。遺物は少量の赤焼土器片と、中世陶器のすり鉢が出土している。13世紀代の遺構と考えられる。

ＳＤ114・115・116（図版67～70）　**ＳＤ114・115・116**

Ｄ－14～Ｅ－17Ｇにかかる地点で検出された。ＳＤ115、ＳＤ116は検出時には土色の違いからＳＤ114とは分けて登録したが、ＳＤ114の覆土の一部と考えられる。Ｅ－17ＧからＥ－14Ｇにかけて南北にのび、Ｅ－14Ｇで西に屈曲する。北端はＥ－17Ｇ内でＳＤ111に切られ、西端はさらに調査区外へとのびている。幅は250㎝前後で、検出面からの深さは深いところで50㎝程度で、屈曲部分では浅く、30㎝前後だった。屈曲部分の壁面では、検出面よりも35㎝程上から掘り込みが確認されたが、上部は堤防の構築の際に整地され、切られている。

遺物は全体から検出されたが、主にＥ－15Ｇから屈曲部分にかけての区域から、多くの遺物が出土している。屈曲から東西にのびる部分では遺物量が少なかった。遺物の多くは須恵器、赤焼土器の破片であるが、当初ＳＤ116として登録した炭化物層とその下部の土層中から、かわらけ、中世陶器、青磁、青白磁、銅銭など中世の遺物が集中して出土しており、遺物の年代から13世紀代まで機能していたと考えられる。

ＳＤ118（図版67～70）　**ＳＤ118**

Ｄ－13～14Ｇで、調査区を北西から南東に横切る形で検出された。両端はそれぞれ調査区外にのびている。幅は約100㎝、検出面からの深さは30～40㎝で南側が深くなっている。北西側の壁面からは、旧地表面から70㎝の深さが確認できる。

遺物は、須恵器、赤焼土器の破片がわずかに出土しているのみである。遺構の時期を判断することは困難であるが、覆土は鮮明であり中世の遺構と考えられる。また、ＳＤ114に切られることから、ＳＤ114よりも古いことがわかる。

ＳＤ124（図版67～70）　**ＳＤ124**

Ｆ－15・16Ｇにまたがる地点で検出された。西端はＳＤ114に切られ、ＳＤ114の西側では検出されない。ＳＤ114に切られる部分で屈曲することも考えられる。東端は調査区外にのびる。幅は約65㎝で、検出面からの深さは約30㎝である。遺物はほとんど出土しておらず、須恵器、赤焼土器の破片が数点認められるのみである。時期を判断するのは困難であるが、ＳＤ114に切られることから、ＳＤ114よりも古いことが確認できる。

ＳＤ524・ＳＤ525（図版71）　**ＳＤ524・ＳＤ525**

Ａ～Ｄ－９～10Ｇで検出された平行する２本の溝である。規模は２本ともほぼ同じであり、幅、深さともに約30㎝である。東西に調査区を横切り、両端はそれぞれ調査区外にのびる。遺物は須恵器、赤焼土器の破片一定量出土している。９世紀後半の住居跡を切っており、中世の

遺構である可能性が高い。ほぼ同じ幅で平行してはしっていることから、幅約460㎝の道路に伴う道路側溝の可能性が考えられる。

ＳＤ717

ＳＤ717

Ｄ－11・12Ｇにかかる地点で検出された。遺物は検出されなかった。非常に浅く覆土が不鮮明であり、中世の柱穴に切られることから、古代の遺構の可能性が考えられる。

第１・２次調査ＳＤ11延長

第１・２次調査ＳＤ11延長

調査区最南端で検出された区画溝の一部である。早い段階で土色変化は認識していたが、当初掘立柱建物を構築する際の整地層の一部と考えており、トレンチ調査によって溝であることが確認された。遺物は出土していない。検出されたのは北側縁の一部のみであるが第１次調査、第２次調査で検出された、ＳＤ11の延長部分と考えられる。

5　土壙

ＳＬ484・485

ＳＬ484・485（図版74）

Ｂ－７Ｇで検出された。ＳＬ484は長径190㎝、短径約60㎝で、検出面からの深さは最も深いところで13㎝を測る。ＳＬ485は長径210㎝、短径75㎝で、検出面からの深さは最も深いところで19㎝である。ＳＬ484がＳＬ485を切る関係にある。二基とも平面形は長円形を呈し、断面は西側端部が土壙状に掘り込まれ、東に向かって浅くなる構造である。遺物は須恵器、赤焼土器の破片数点のみである。西側部分の内壁が被熱しており、炉などの施設であると考えられる。調査区内では鉄滓や鋳物の破片が検出されており、鍛冶炉の可能性も考えられる。

ＳＬ527

ＳＬ527（図版74）

Ａ－７Ｇで検出された。長径85㎝、短径81㎝のほぼ正方形の遺構である。検出面からの深さは約20㎝で全体にほぼ一定である。遺構覆土は暗褐色シルト層と、炭化物を主体とする層が交互に重なり、最下層はほぼ炭化物のみであった。内壁付近には焼土のブロックが含まれるが、内壁自体は強く被熱した状態ではない。遺物は須恵器、赤焼土器片数点のみである。ＳＬ484・485同様鍛冶炉などの施設である可能性が考えられるが、検出時の覆土の状態などから遺構の時期は新しく、中世以降のものと考えられる。同様の特徴を持つ遺構にＳＬ670がある。

ＳＨ125・ＳＨ319～ＳＨ324・ＳＫ126

ＳＨ125・ＳＨ319～ＳＨ324・ＳＫ126（図版75）

Ｈ～Ｉ－28Ｇで検出された土壙群である。墓壙群と考えているが、ＳＨ125・ＳＨ321～324の覆土を採取し、土壌中のリン酸、カルシウムの含量測定を行なった結果は、遺体が埋納されたことを証明する明確な痕跡は認められなかった。遺構の時期は、中世の遺構に比べて全体に覆土と地山の境界が明確ではないことから、平安時代の遺構と考えられる。

ＳＨ125

ＳＨ125

Ｉ－27ＧとＩ－28Ｇの境界付近で検出された。長径143㎝、短径68㎝の長円形で、検出面からの深さは13㎝を測る。遺物は出土していない。覆土は二層に分けられ、１層土と２層土の間に炭化物を層状に含む。土壌の成分分析の結果、炭化物は稲藁もしくは稲籾が加熱を受けて炭化したものと確認され、検出状況から焼成後投棄されたものと考えられる。

ＳＨ321

ＳＨ321

Ｉ－28Ｇで検出された。長径138㎝、短径87㎝の長円形の遺構で、検出面からの深さは11㎝

を測る。底面は平坦である。遺物は出土していない。非常に浅い遺構で、覆土は一層のみである。ＳＨ322と切り合い関係にあり、ＳＨ322よりも古いことが確認される。

ＳＨ322・323　　**ＳＨ322・323**

Ｉ－28Ｇで検出された。ＳＨ322は長円形を呈するが、東半をＳＨ323に切られているため長径は不明である。短径80㎝、検出面からの深さは30㎝前後である。遺物は赤焼土器の破片が数点出土したのみである。ＳＨ323は径90㎝の円形の遺構で、検出面からの深さは36㎝である。遺物は検出されていない。やや不明瞭であるがＳＨ324を切っており、ＳＨ324よりも新しいと考えられる。

ＳＨ324　　**ＳＨ324**

Ｉ－28Ｇで検出された。長径143㎝、短径78㎝の長円形を呈し、検出面からの深さは40㎝である。遺物は、赤焼土器の破片が数点出土したのみである。北側をわずかにＳＨ322・323に切られており、これによりＳＨ321～324の新旧関係は、新しい順にＳＨ323、ＳＨ322、ＳＨ321・324であることが確認される。

ＳＨ319　　**ＳＨ319**

Ｈ－28ＧとＩ－28Ｇの境界付近で検出された。長径106㎝、短径92㎝の円形の遺構である。検出面からの深さは47㎝、断面はＵ字形を呈する。遺物は数点で、赤焼土器長胴甕の口縁部破片を図化した。

ＳＨ320　　**ＳＨ320**

Ｉ－28Ｇで検出された。ＳＨ319に類似する遺構であり、平面形は長径88㎝、短径82㎝の円形である。検出面からの深さは、37㎝で断面はＵ字形を呈する。遺物は赤焼土器、黒色土器の破片が数点出土しているのみである。

ＳＫ126　　**ＳＫ126**

Ｉ－27Ｇで検出された。当初墓壙群の一部と考えていたが、断面形や覆土が異なっており、同種の遺構ではないと考えられる。柱穴の可能性が考えられるが、組み合う柱穴は確認されなかった。長径74㎝、短径73㎝の円形の遺構で、検出面からの深さは50㎝である。遺物は赤焼土器片が数点出土しているのみである。

ＳＨ105・ＳＨ345・ＳＨ530（図版76）、**ＳＨ529**（図版52）　　**ＳＨ105・ＳＨ345・ＳＨ530ＳＨ529**

中世の墓壙と考える一群である。まとまって検出されてはいないが、遺構の形状、規模が類似しており、同時期の遺構と考えられる。

ＳＨ105（図版76）　　**ＳＨ105**

Ｊ－32Ｇで検出された。長径107㎝、短径98㎝の円形の土壙で、検出面からの深さは93㎝、底面は平坦である。遺物は、図版111で図示した中世陶器の口縁部破片が１点出土しているのみである。土壙の形状や覆土などから墓壙の可能性が考えられる。遺構の時期は、出土した遺物やＳＧ318河川跡を切ることから、中世と考えられる。

ＳＨ345　　**ＳＨ345**

Ｉ－26ＧとＩ－27Ｇの境界付近で検出された。径88㎝の円形の遺構で、検出面からの深さは76㎝である。遺物は出土していない。

ＳＨ530　　**ＳＨ530**

Ｂ－８Ｇで検出された。径78㎝の円形の遺構で、検出面からの深さは103㎝である。遺物は出土していない。

ＳＨ529

ＳＨ529

Ｂ－６ＧとＣ－６Ｇの境界付近で検出された。長径112㎝、短径110㎝の円形の遺構で、検出面からの深さは130㎝である。９世紀前半の竪穴住居跡ＳＴ480と、中世の竪穴建物跡ＳＴ500を切ることから中世の遺構と考えられる。遺物は須恵器、赤焼土器の破片が一定量認められるが、ＳＴ480で出土しているものと時期的にほとんど差が認められないことから、ＳＴ480に由来する遺物が覆土に混じり込んだものと考えられる。

ＳＫ528

ＳＫ528（図版77）

Ａ－７Ｇ・Ａ－８Ｇにまたがる位置で検出された。西半は調査区外にのびており、全体の規模は不明であるが、壁際での長さは430㎝、検出面からの深さは南側で45㎝、北側で65㎝であった。壁面では、検出面より40㎝程上から遺構の掘り込みを確認することができる。また、壁面で確認できる遺構の長径は560㎝である。当初土壙として登録したが、底面近くに床面と考えられる層が認められることから、竪穴建物跡の可能性が高い。遺物は須恵器赤焼土器が若干と中世陶器、砥石などが出土しており、中世の遺構と考えられる。

ＳＫ39

ＳＫ39

Ｊ－36Ｇで検出された。西半は調査区外にのびているため、全体の規模は不明である。壁際の最大径は135㎝、検出面からの深さは108㎝である。ＳＴ112を切る。西壁面では旧地表面から155㎝の掘り込みが確認できる。遺物は須恵器、赤焼土器片が若干出土しているが、ＳＴ112に由来すると考えられる。湧水層まで掘り込みが認められ、井戸の可能性が高い。時期は、ＳＴ112を切り、高い位置から掘り込みが確認されることから、中世の遺構と考えられる。

ＳＫ41

ＳＫ41

Ｊ－35・36Ｇ、Ｋ－35・36Ｇにかかる地点で検出された。長径80㎝、短径63㎝の円形の遺構である。９世紀後半の竪穴住居跡ＳＴ112を切っており、中世の遺構である可能性が高い。遺構の性格は不明であるが、覆土には短期間に埋め戻された形跡が認められる。遺物は赤焼土器片が数点出土しているが、ＳＴ112に由来するものと考えられる。

ＳＫ55

ＳＫ55

Ｋ－35Ｇで検出された。長径200㎝、短径180㎝の円形の遺構である。検出面からの深さは200㎝以上であり、危険が伴うためそれ以上の調査を断念した。ＳＴ60を切っており、ＳＴ60に由来すると考えられる須恵器赤焼土器片が数点検出された。湧水層まで掘り込まれており、中世の井戸跡と考えられる。

ＳＫ70

ＳＫ70（図版19）

Ｋ－34Ｇで検出された。長径130㎝、短径120㎝の円形の遺構で、検出面からの深さは72㎝である。ＳＴ60を切っており、覆土が鮮明であることから、中世の遺構と考えられる。井戸跡とも考えられるが湧水層までの掘り込みは確認されず、遺構の性格は不明である。

河 川 跡

６ 河川跡

Ｊ－30・31Ｇを中心とする区域で調査区を東西に横切る形で検出された。調査区内で確認で

きる最大幅は約13mである。Ｊ－29Ｇ～Ｊ－32Ｇにかけて、南半で幅３m北半で幅１mのトレンチを設定し調査したところ、検出面からの深さが100cm以上あることが確認された。また、南岸の立ち上がりは明確に確認されたが、北岸は撹乱を受けており明確な立ち上がりは確認できなかった。トレンチから須恵器、赤焼土器片と中世陶器片が出土していることから、古代から中世にかけて流路として作用していたことが伺われるが、北端がＳＫ105に切られており、中世には規模が縮小していたことが考えられる。また、南岸周辺で、多数の柱穴が確認できることから川を渡る施設が存在した可能性も考えられる。

7　道路跡

今回道路跡としてあつかったのは、調査南側で多数見られる細い溝跡である。いずれも幅20cm程で、組み合わせは明確ではないがそれぞれ数本が平行し、ＳＧ318付近で途切れることから道路側溝の可能性が高いと考えられる。それぞれ時期差が認められるが、切り合い関係などから、古代の遺構と考えられる。 **道　路　跡**

ＳＤ４・ＳＤ６ **ＳＤ４・ＳＤ６**

Ｌ－40Ｇで検出された。東西方向に平行して走る側溝跡である。道路幅は約200cmと考えられる。遺物はＳＤ６から赤焼土器片が１点出土しているのみである。

ＳＤ18・ＳＤ23 **ＳＤ18・ＳＤ23**

Ｌ－38・39Ｇにかかる地点で検出された。東西方向に平行して走っており、側溝跡と考えられる。道路幅は約180cmである。時期不明のＳＤ12を切り、９世紀後半の柱穴に切られる。遺物は出土していない。

ＳＤ93・ＳＤ103 **ＳＤ93・ＳＤ103**

Ｊ－33Ｇで検出された。東西方向に平行して走る側溝跡である。道路幅は約110cmである。遺物は出土していない。

ＳＤ377・ＳＤ338・ＳＤ339 **ＳＤ377・ＳＤ338・ＳＤ339**

Ｊ－26～29Ｇで検出された。南北方向に平行して走る側溝跡である。ＳＤ338とＳＤ339は同一の遺構と考えられる。道路幅は90cm程で狭く、西側の調査区外に組み合う溝が存在することも考えられる。遺物は出土していない。９世紀第３四半期の竪穴住居跡ＳＴ113を切ることから、９世紀末から10世紀初めの遺構と考えられる。

ＳＤ336・ＳＤ348他 **ＳＤ336・ＳＤ348**

Ｈ・Ｉ－28・29Ｇで検出された。南北方向に走る側溝跡である。２本の溝の間隔は320cm程であるが、これらのほぼ中央にも溝の痕跡が認められることから、ＳＤ348と組み合う溝は調査区外に存在する可能性も考えられる。遺物はＳＤ336から赤焼土器片が出土している。

ＳＤ385・ＳＤ386・ＳＤ387他 **ＳＤ385・ＳＤ386・ＳＤ387**

Ｆ～Ｈ－20～25Ｇで検出された。南北に走る側溝跡である。４本の溝跡が検出されているが、組み合わせは明確ではない。作り替えなどがなされている可能性も考えられる。９世紀後半の竪穴住居跡に切られることから、９世紀前半の遺構と考えられる。遺物は出土していない。

Ⅴ　遺　物

出土した遺物　本遺跡から出土した遺物は、須恵器や赤焼土器、土師器や黒色土器などの主として平安期の土器類のほか、中世前期（鎌倉時代）のかわらけ、瓷器系や須恵系（珠洲焼）の陶器および中国産の青磁や青白磁などがある。また、土器以外では、砥石ほかの石製品、刀子や紡垂車、鎌ほかの金属製品と古銭「唐國通寶」、および井戸跡内から出土した折敷片や井戸枠部材などの木製品が認められた。これらは、大方が何らかの遺構に関わって出土しており、各々の機能した時期や廃絶の時期段階などを探る上では欠かせない資料と位置付けられるほか、各時期段階における土器組成の変遷を辿る上でも良好な資料群と認識された。

1　古代の土器

古代の土器　古代の土器は、須恵器をはじめとして赤焼土器や土師器、および黒色土器の種別からなり、各々埵、甕、鉢、坏といった各器種により構成される。以下では、遺構単位でまとまりを見せる土器群を、ある期間内での共存（伴）遺物と捉え、それらに四半期単位での年代を与えることで大別していく。ここでの年代や大別の根拠は、各遺構相互の切合い関係は基より、以下に述べる須恵器坏類の分類と編年的位置を主たる基準とする。しかし、須恵器坏類を組成しない土器組成や、重複などの原因から前後の類型が混在し、それを特定時期と誤認するという場合も想定されることから、総体的傾向から逸脱する資料については個別に検討を加えてみたい。

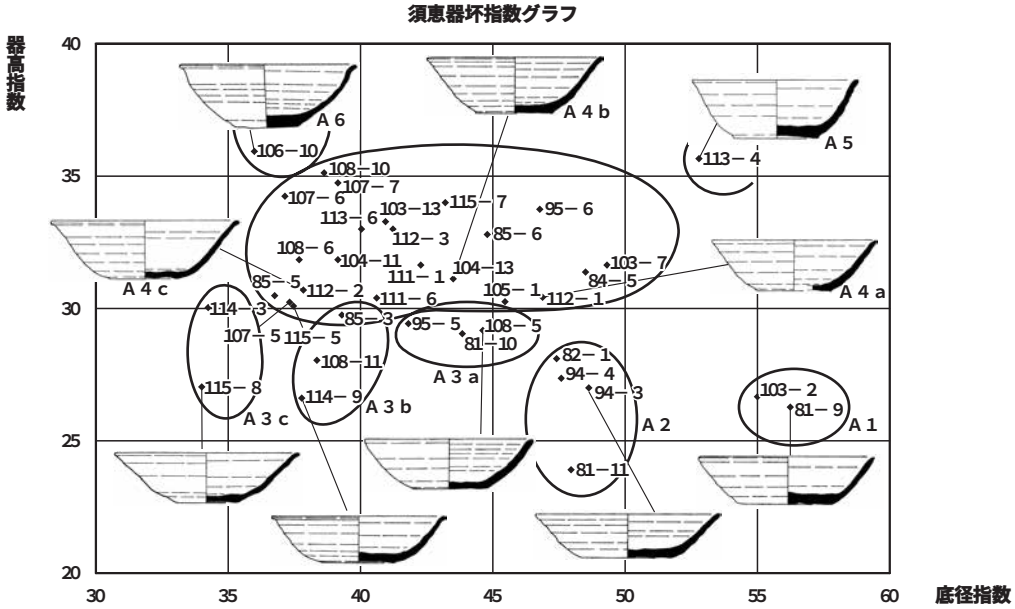
（1）須恵器（第７～９図）

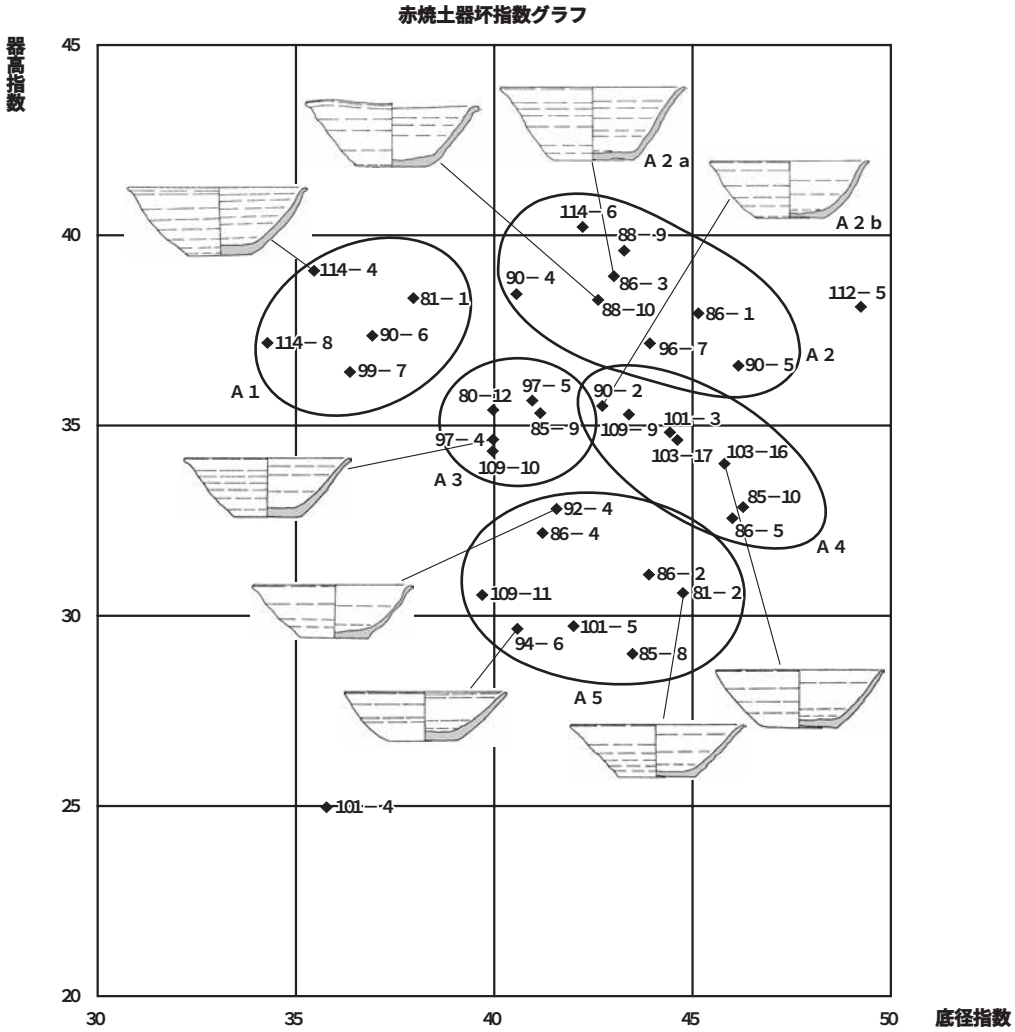
須恵器　須恵器は、「蓋、坏、有台坏・把手付有台坏、長頸壺、短頸壺、小壺、甕」の七器種が認められ、各々に形態上の大小や時期的段階が想定される。また、これら器種の構成からは、その機能は主として「供膳」や「貯蔵」用であったことが推測できる。なお、容器ではないが、須恵器の風字硯二点が出土していることを付記しておく。

坏　坏は、その形態と法量から、第７図に示したような類型に分類される。すなわち、底径が大きく、器高も低いＡ１類、体部がやや内彎し、その立ち上り角度（以下、外傾度と言う）が緩やかなＡ２類、器高が低く、底径も縮小傾向を見せるＡ３ａ～Ａ３ｃ類、器高はＡ３類よりやや高く、底径指数が35～50前後の範囲に入るＡ４ａ～Ａ４ｃ類、底径が大きく、器高や外傾度も高いＡ５類、底径が縮小して器高が高いＡ６類の各類型である。なお、Ａ１類に底部切り離しが回転ヘラ切りのものが見られた他は、総べて回転糸切りのもので占められる状況であった。

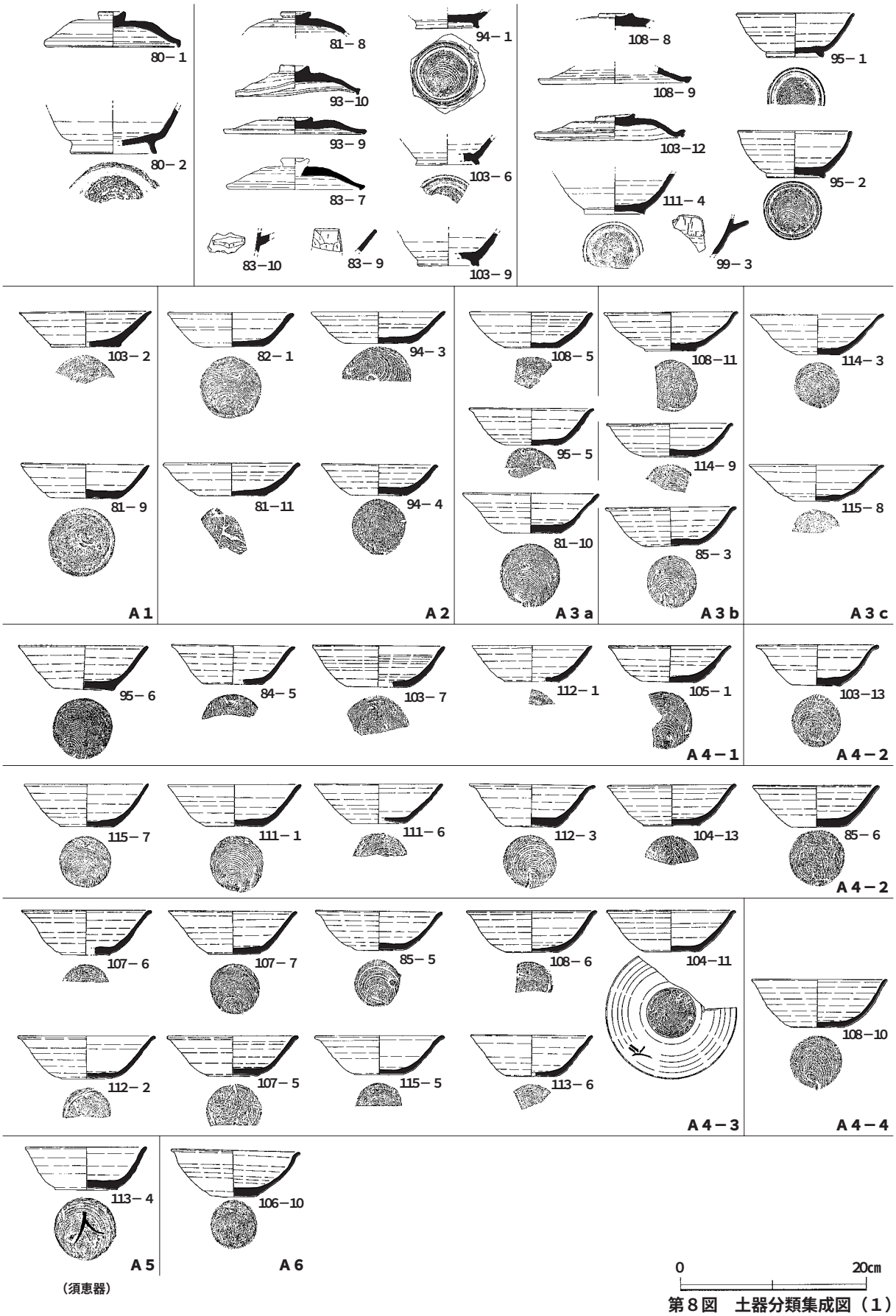
これらは、今日までの研究成果から、「底径の縮小化や器高の増大化に時期的な変化の方向性」が認められ、Ａ１類は９世紀第１四半期、Ａ３ａ～Ａ３ｃ類は同第２四半期、Ａ４ａ～Ａ４ｃ類は同第３四半期、Ａ５類は判然としないが（第２四半期？）、Ａ６類は同第４四半期と位置付けられる。したがって、本遺跡出土須恵器坏に見る年代幅は、およそ９世紀代一杯と捉えることができるが、そのグラフからも解るように、９世紀初頭と同末様段階のものはごく限られており、主体はＡ３類からＡ４類までの９世紀中・後葉段階にあったことが推察される。

さて、冒頭で触れたように、各遺構の遺物群中に大抵は組成される上記の坏類型を基準とし



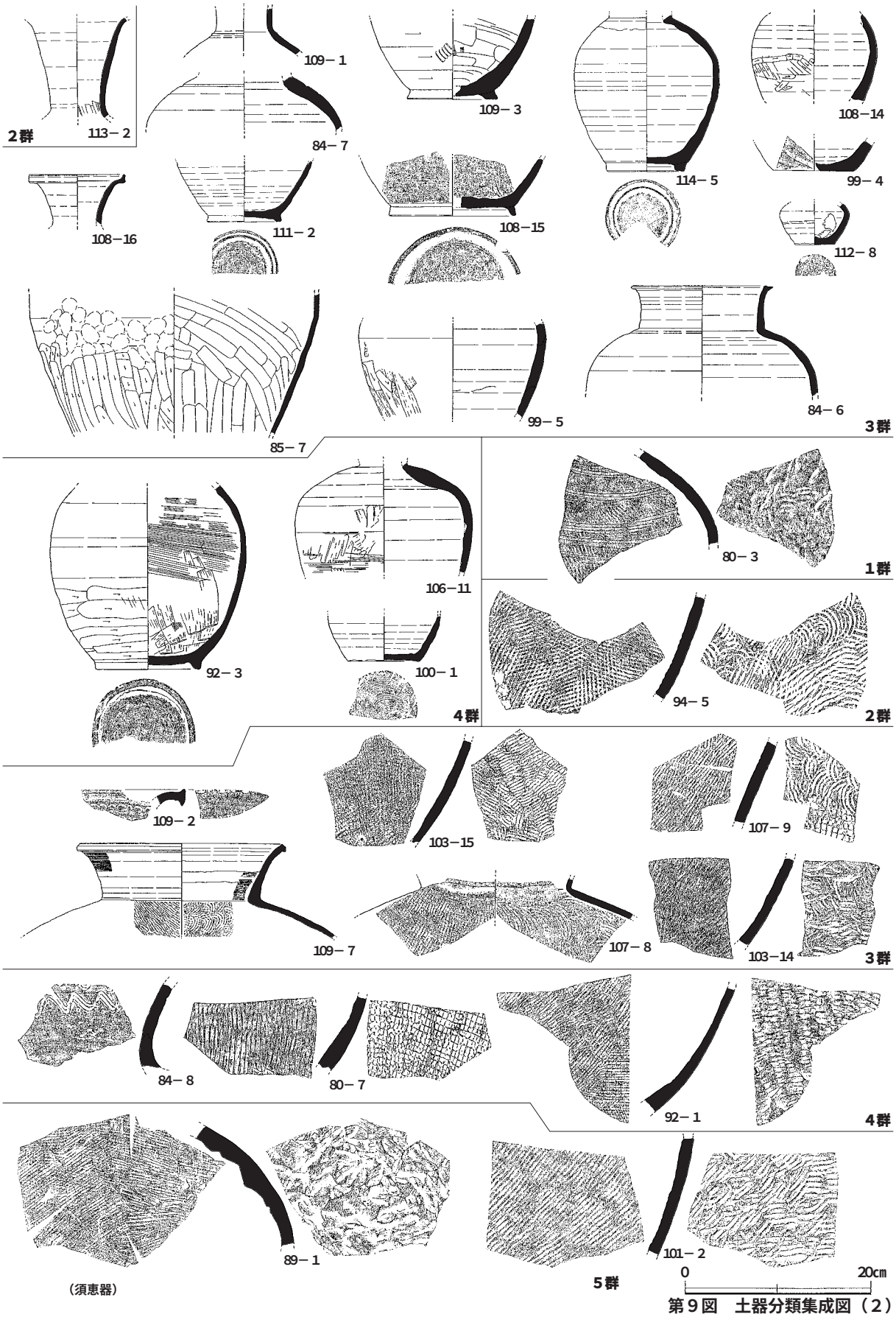


第７図　須恵器・赤焼土器坏指数グラフ



（須恵器）

第８図　土器分類集成図（１）



第９図　土器分類集成図（２）

大　別　基　準　て、本遺跡における遺物群の大別基準を列記しておく。

０群土器：須恵器坏Ａ１類に先行する土器群。

１群土器：須恵器坏Ａ１類を組成する土器群。

２群土器：須恵器坏Ａ２・Ａ３ａ～Ａ３ｂ類を組成する土器群。

３群土器：須恵器坏Ａ４ａ～Ａ４ｂ、Ａ５類を組成する土器群。

４群土器：須恵器坏Ａ６類を組成する土器群。

５群土器：須恵器坏を組成しない４群に直続する土器群。

蓋　蓋は、図示できたものが８点とごく僅かであり、組み合わさる有台坏の過少さにも対応する在り方と窺えた。坏類との組成比率がどうであったかは今のところ不明ながら、本遺跡に限って観れば、かなりの低率であったことが推測される。少ない資料での解説はかなり無理なところがあるが、１群では天井部のケズリ調整が明瞭で、身の深い造作の大振りな80－１がある。２群では、量が蓋としてはピークと窺え、平野山古窯に通例のリング状摘みを有する形態が特徴的に存在している。３群ではリング状摘みの形態がより偏平化するなどの様相が窺えたが、資料的に僅少となる。なお、４群に伴うと見られる蓋の該当例は認めなかった。

有台坏は、稜椀タイプの80－２が１群中では唯一のものであり、その実態は不明である。一方、数的には少ないながら、３群の95－１や95－２は、平野山古窯跡第12地点ＳＱ33や富山２遺跡ＳＴ39段階のものと比定でき、その帰属時期は９世紀中葉段階にあると推測させる。

また、もう一つの類型である103－６や103－９は、体部の立ち上り角度が急傾で、窯跡例では平野山古窯跡第14地点１号窯跡出土例に対比でき、２群土器の範疇に当る有台坏と考えられる。なお、把手付有台坏の把手部分資料は、２群および３群中に組成され、全貌不明ながらその取り付け位置の上下に時期差があると看取された。

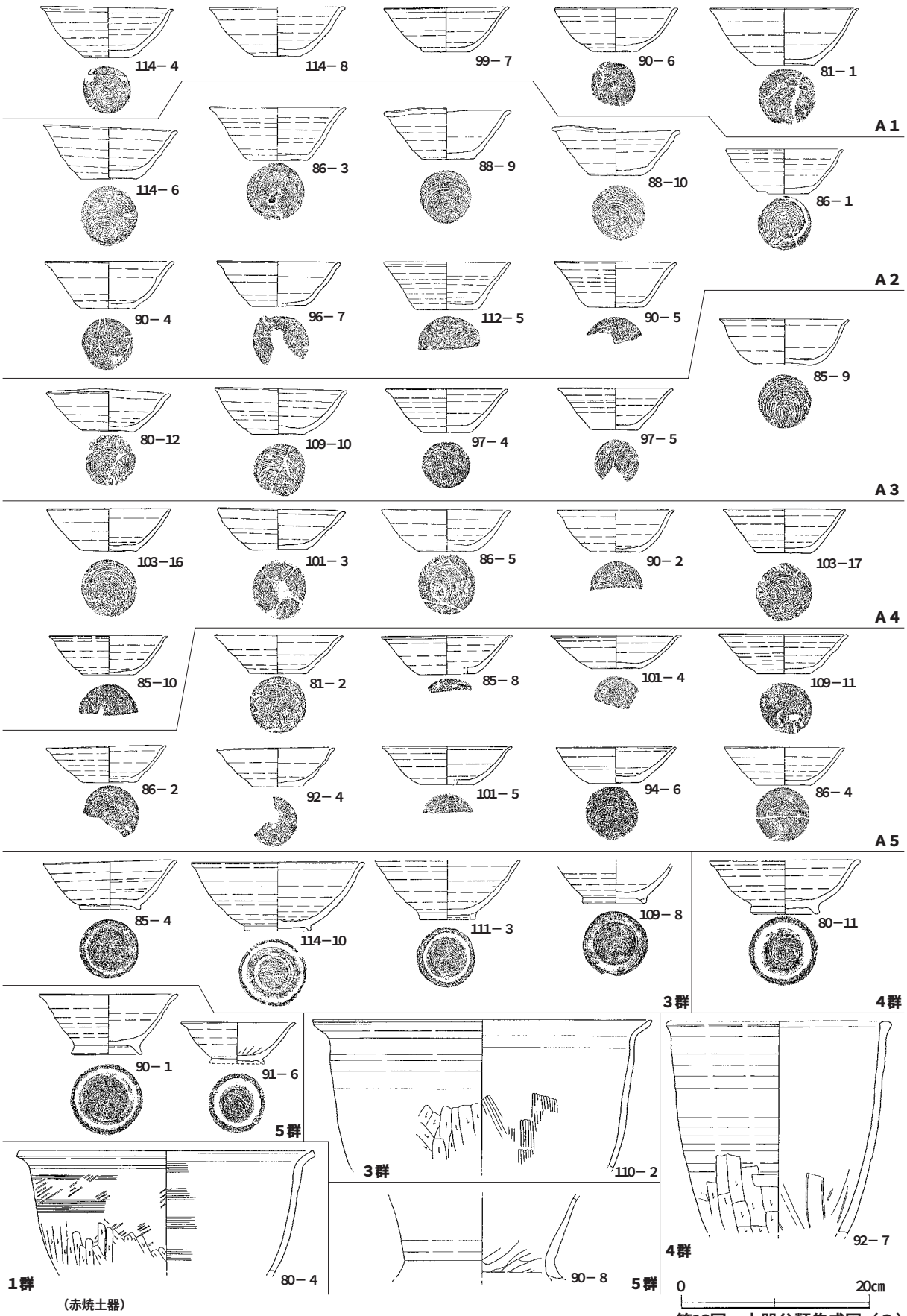
壺　壺は、完形資料に恵まれないが、２群に含まれると考えられるもの１点（113－２）、３群のもの12点（109－１他）、４群のもの３点（92－３他）の計16点が図示できた。なお、85－７は胎土軟質で時期的に新しい（３～４群？）小形甕の体部破片と判別される。

こうした様相から、資料的には少ないながら、壺は３群中での組成率が高いこと、および短頸壺よりは長頸壺の需用が高かったものと推測される。同時に、頚部に微隆起のリングが巡る形態を含むことや、底部に台の付く形態が主流であることも３群の大きな特徴と認められた。４群では、頚部の基部径が小さい106－11や、無台で糸切り離しを明瞭に止める100－１が注目される。なお、５群に伴うと考えられる明確な資料は今次調査では得られなかった。

甕　甕は、完形に復元できたものがなく、大半は体部の部分片に限られている。しかし、１群から５群中の何れの段階でも組成中に認めることができ、少率ながら常に具備される存在であったことが窺い知れる。これら資料から捉えられる特徴は、製作技法に見る叩きや当て用具の構成と、当て具文様などの変化である。すなわち、３群までは、同心円文による青海波文の当て具痕跡が主体的で、３群以降４群では小判形の平行当て具文様、また、５群における粗雑な仕様と、不整な平行当て具の在り方などが各段階での顕著な特徴と指摘できる。

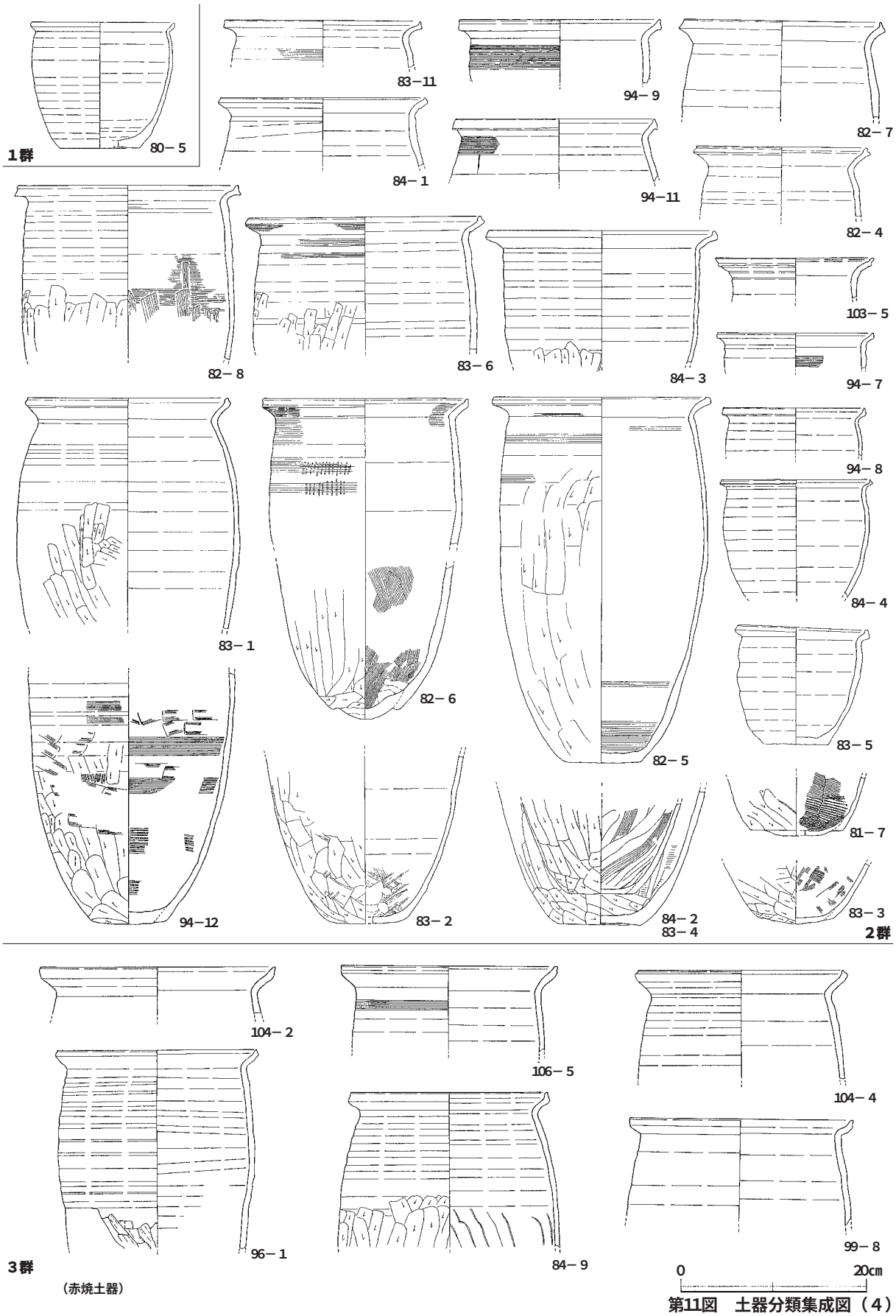
以上が本遺跡で認められた須恵器の様相であるが、これらは、既に触れたように大半が寒河江市の西方丘陵に位置する平野山古窯跡群から供給されたものと看做すことができ、形態や法量、および胎土に至るまでの諸属性において強い共通性を有することが明らかである。

平野山古窯跡群

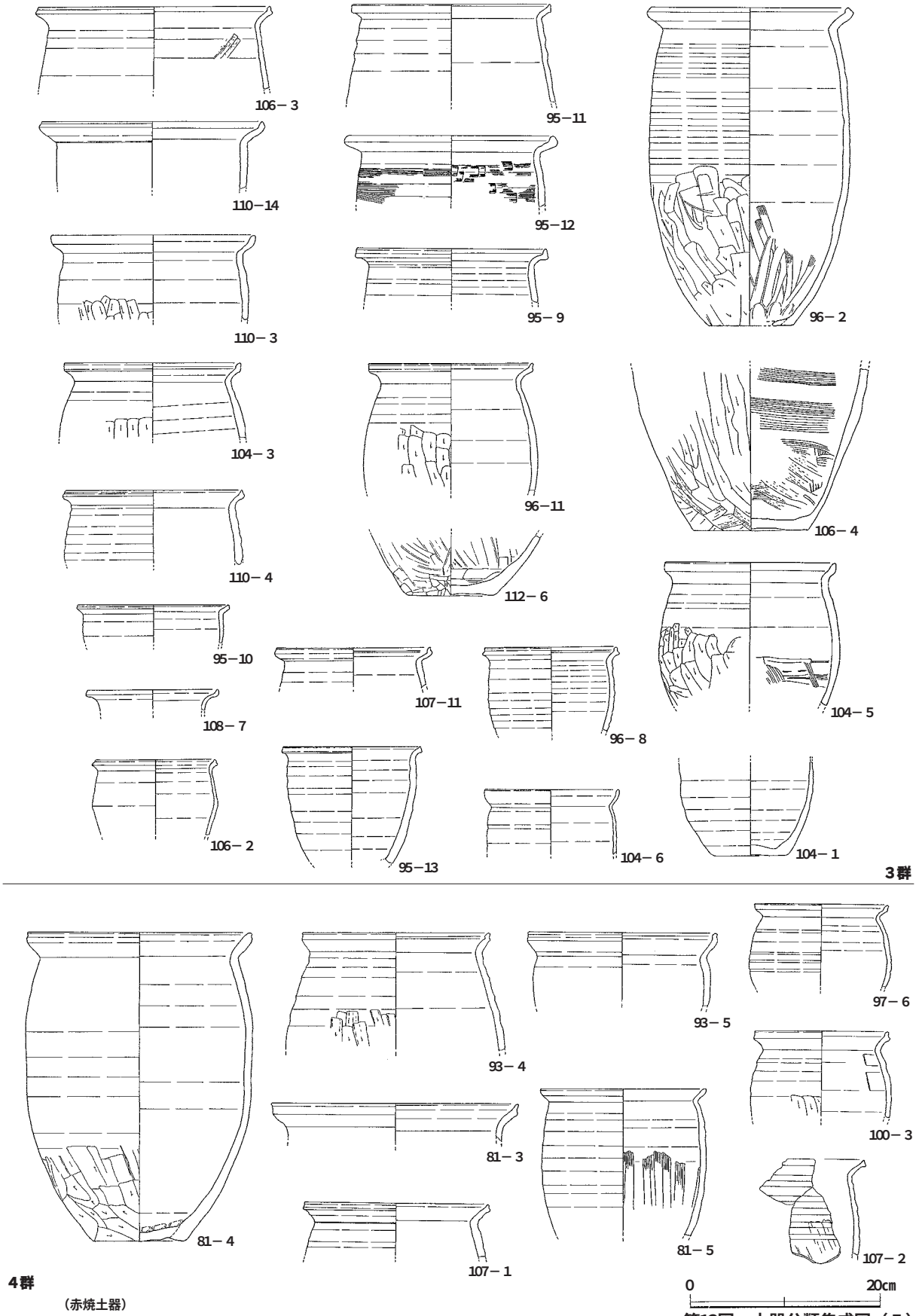


（赤焼土器）

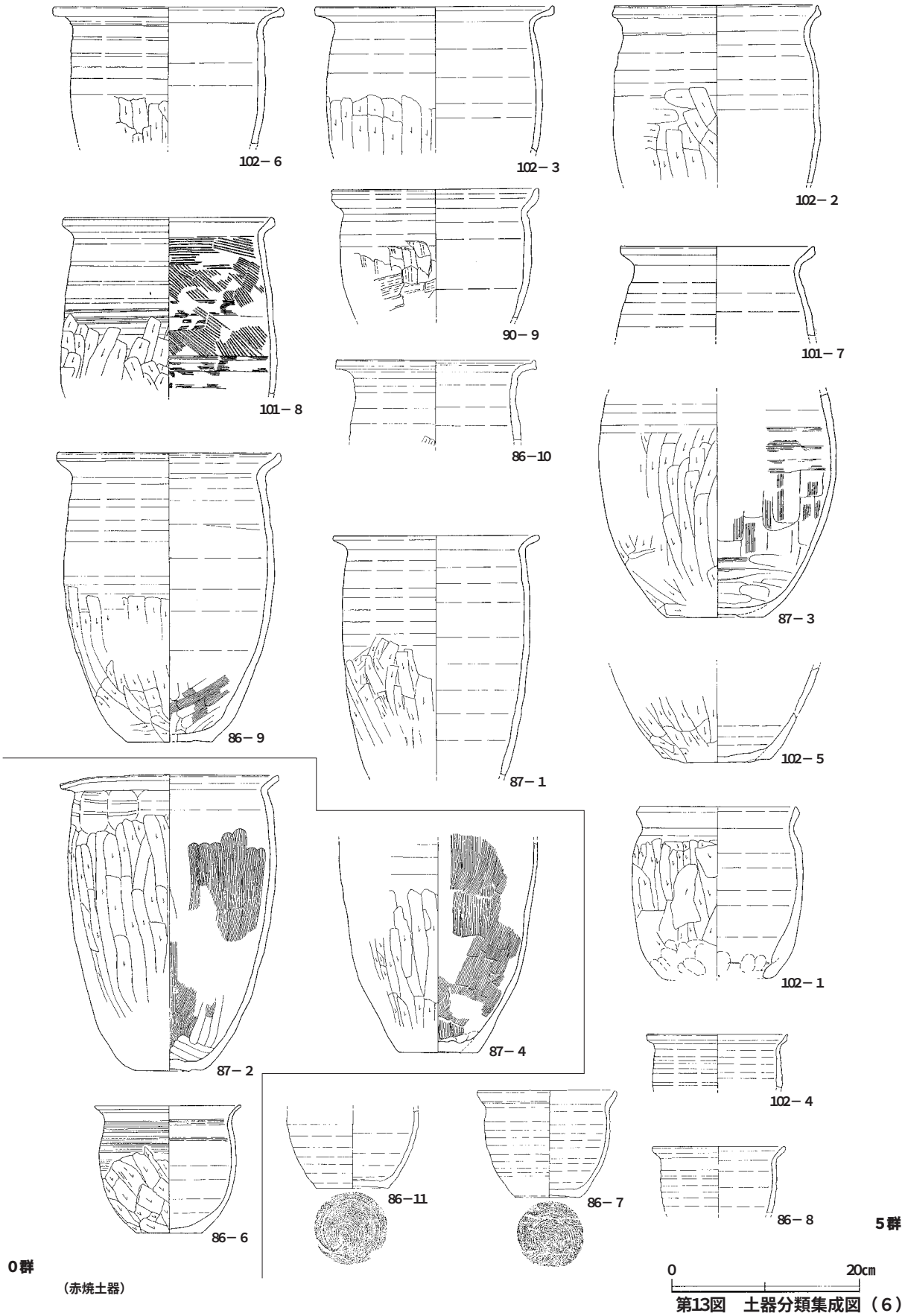
第10図　土器分類集成図（3）



第11図　土器分類集成図（4）



第12図　土器分類集成図（5）



第13図　土器分類集成図（6）

後項で述べるが、各器種の胎土における「海綿骨針」の含有率でも、その類似度や出現頻度から産地と供給地の関係にあったことは間違いないと判断された。　**海綿骨針**

（２）赤焼土器（第７図下段、第10～13図）

赤焼土器は、ロクロを使用して成整形される土器群で、製作技法的には「酸化焔で焼成される」という違いを除けば、須恵器のそれに何ら変わることのない一群と認識できるものである。本遺跡では、器種として、坏・有台坏、埦、甑、大形の長胴甕、中・小の甕などと識別できる４種（形式）の７形態（型式）が認められた。　**赤焼土器**

これらは、須恵器に見られたような１群～４群および須恵器坏を伴わない５群にわたる型式段階の変遷をも示しており、その時期階梯の特徴は量的に保証される坏や甕などの様相に求めることが可能であった。なお、この赤焼土器では、先に触れた大別１～５群に先行すると判断できる若干の類型が認められることから、これを便宜的に「０群土器」として位置付けておく。　**０群土器**

坏は、法量と形態から、第７図下段に示したグループ別が認められたが、これは須恵器坏で見たような、編年的に有効な類別グループではないことが窺い知れた。結論的には、相対として器高指数の高い一群が先行し、より低い一群が後続のものと言えそうながら、外傾度や体部内弯度合いなどの要素が微妙に錯綜し、器高・底径指数だけでは把握し得ない器種的変化の方向性を見せていると判断できたからである。すなわち、Ａ１類は、２～４群、Ａ２･Ａ３･Ａ４類は３～４群、Ａ５類は２～５群までの大別土器群中に含まれるという結果であった。　**坏**

このことが示す意味は、２群土器中では組成率が極めて低く、器種としての確立が３群土器の段階に求められること、続く４・５群土器中では多様な在り方を示すと受けとめられ、単一類型による構成とはならいないこと等々である。見方を変えれば９世紀代および10世紀初頭までの当該器種は、このような範囲の中で推移していくと把握できることも重要な成果と言えるであろう。

有台坏は、その組成率が極めて低いが、本遺跡では主に３群に含まれるものが大半と看取され、続く４～５群中にも継承される。また、その形態は、黒色土器椀と同様であることから判断すれば、３群の内黒有台坏の「写し」からこの類型が出発したと推測される。従って、以降の変遷は、黒色土器におけるそれに同様と考えられよう。　**有台坏**

埦は、１群および３群で認められたことから、２群中での組成もあったと考えられる。しかし、そこでの組成率は極めて低く、４群以降は土師器の器種に移行しているとも推察された。　**埦**

個別的に解説すれば、１群に含まれる80－４は、タタキやケズリの見られるもので、胎土焼成共に優れたものと評価できる。また、口縁端部の整形は丁寧でその輪郭は直線的な特徴を見せている。次いで、３群中の110－２は、タタキの欠落とケズリ仕様の粗雑さが特徴となるほか、胎土や焼成においても粗略化された傾向にあると観察される。

甑は、４・５群中に僅か２点（90－８・92－７）が認められただけであり、組成とすれば極めて低率で、ある意味では特別な器種として存在したことが推測される。すなわち､「煮炊具」の一器種として定率で組成されたものとすれば、この出現数にはならないはずと考えられるからである。この背景は不明であるが、原因を挙げるとすれば、米を「甑」で蒸すという行為の低下や代替器種としての曲物容器の普及、あるいは「蒸す」から「炊く」への主体移動などが想定できるが、甕ほかの使用痕分析を充分にできなかったことから詳細は今後の課題としたい。　**甑**

甕

甕は、０群～５群までの土器群に認められ、種別器種においてはその両者において量的主体を占める土器群と認められた。また、その法量と形態からは、大形の長胴甕で丸底（Ａ１）と平底（Ａ２）の二種、および、中形甕（Ｂ）、小形甕（Ｃ）の３種５類型の在り方が窺われ、各々、０群～５群までは同様な変遷を辿ることが推察された。ただし、丸底の長胴甕Ａ１は、２群までの中で盛行し、３群以降には認められなかったことは注目すべき現象で、他遺跡での動向も含めて検証すべきことがらと考えられた。

長胴甕Ａ１

長胴甕Ａ１は、ほぼ全形の窺える82－６が代表的な類型である。体部の最大径が中央より上部にあり、頸部がやや締って口縁が外傾する形態で、口縁端部は直上気味に摘み上げられる特徴がある。体部には、タタキやカキメ風の技法が認められ、下半部はその大方が縦長のヘラケズリによって仕上げられる。

長胴甕Ａ２

このようなヘラケズリ仕様は、２群土器の長胴甕Ａ２を含めて体部の中央よりやや上部から施される傾向があり、内面の調整でも丁寧なハケメなどが施される様相は当該時期段階での特徴と捉えられる。また、長胴甕Ａ１は、底部を丸底に仕上げる手法として、所謂平底を叩き出

円盤閉塞

して整形するのではなく、内面からの円盤閉塞を基としてその後に閉塞部分を叩き出す手法を採る点に特色がある。すなわち、先に無底の体部があり、最終段階で粘土円盤を底に入れ、さらに柔らかな底面を内側から突き出すという手法が採られたものと観察される。

加えて、当初の無底端は、多少のケズリ調整が施されるものの、強度保持のためか段差を取り去るまでには至らず、不自然な形で留められるという特徴も見逃せない。なお、長胴甕Ａ１と同Ａ２の法量では、Ａ２がＡ１よりはやや大きくなるものと推測され、その機能上の相違も推察される。

中形甕Ｂ

中形甕Ｂは、口径15㎝内外で、大形のものに較べれば３割ほど縮小しており、容積にして約半分ほどと推察される。中形Ｂや小形甕Ｃでは、ロクロ台で一気に仕上げることができた故か、ケズリほかの調整を施さないのが通例と考えられる。

３群における甕は、大形甕Ｂでのケズリ仕様が２群のそれよりは粗略化される傾向にあることや、口縁端部の調整でも丸形化を見せ始めるなどの特徴が窺える。同様に、４群・５群ではさらにその傾向が顕著となり、５群では胴張りや頸部括れなどの諸点で当初の形態とは大部異なった様子を示していると捉えられる。

なお、０群段階に組成されると考えられる86－６・87－２・87－４は、いずれもＳＴ117から出土したとしたものながら、本来の帰属はＳＴ117やＳＴ121に切られるＳＴ317と見られるもので、87－２では体部上半に最大径を持つ肩張の形態や、口縁が外反するだけの単純口縁を

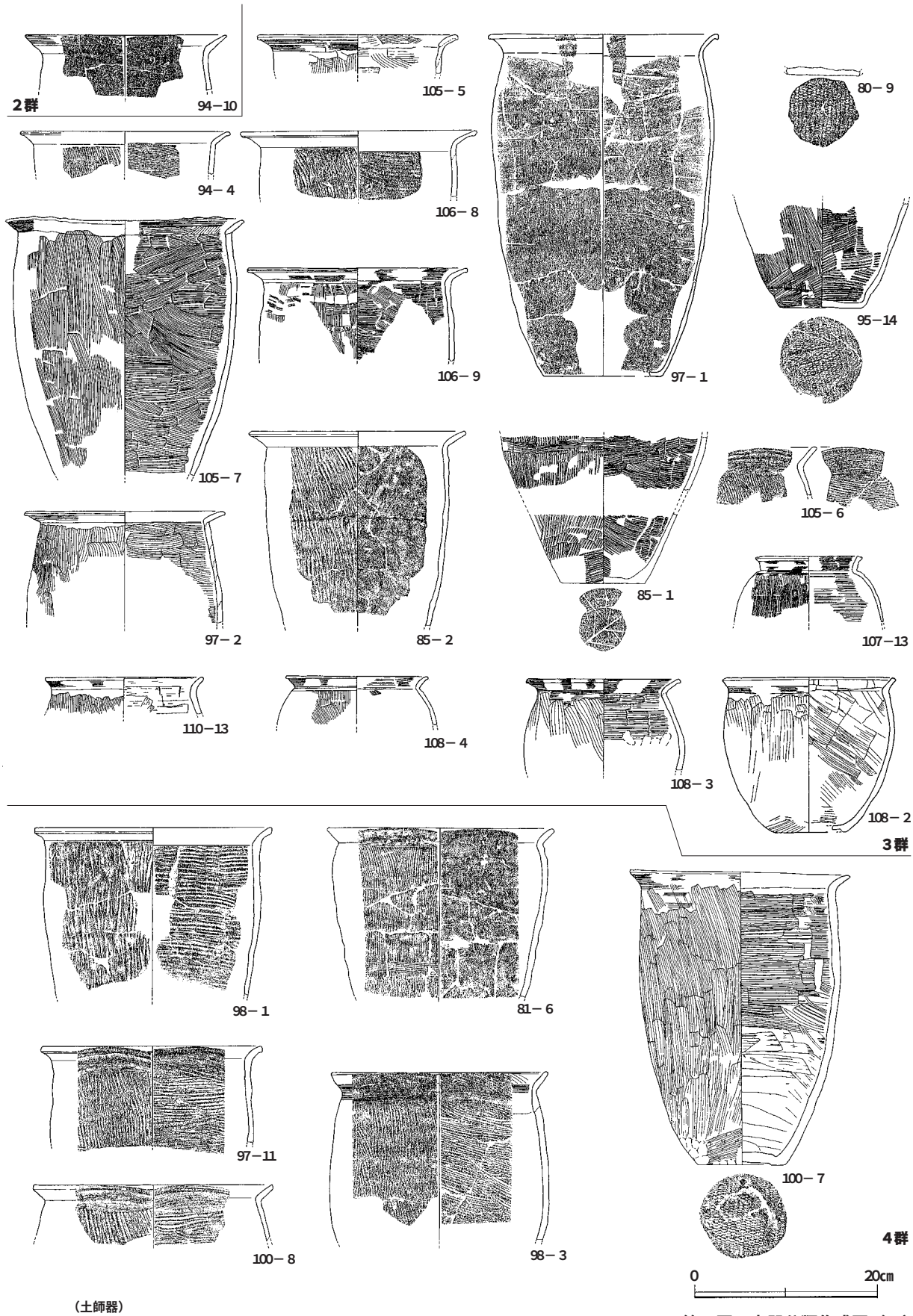
小形甕

見せる小形甕86－６などは、明らかに１群以前と言える特色を見せている。時期は不詳ながら奈良時代末葉までは遡ると考えられよう。

（３）土師器（第14～17図）

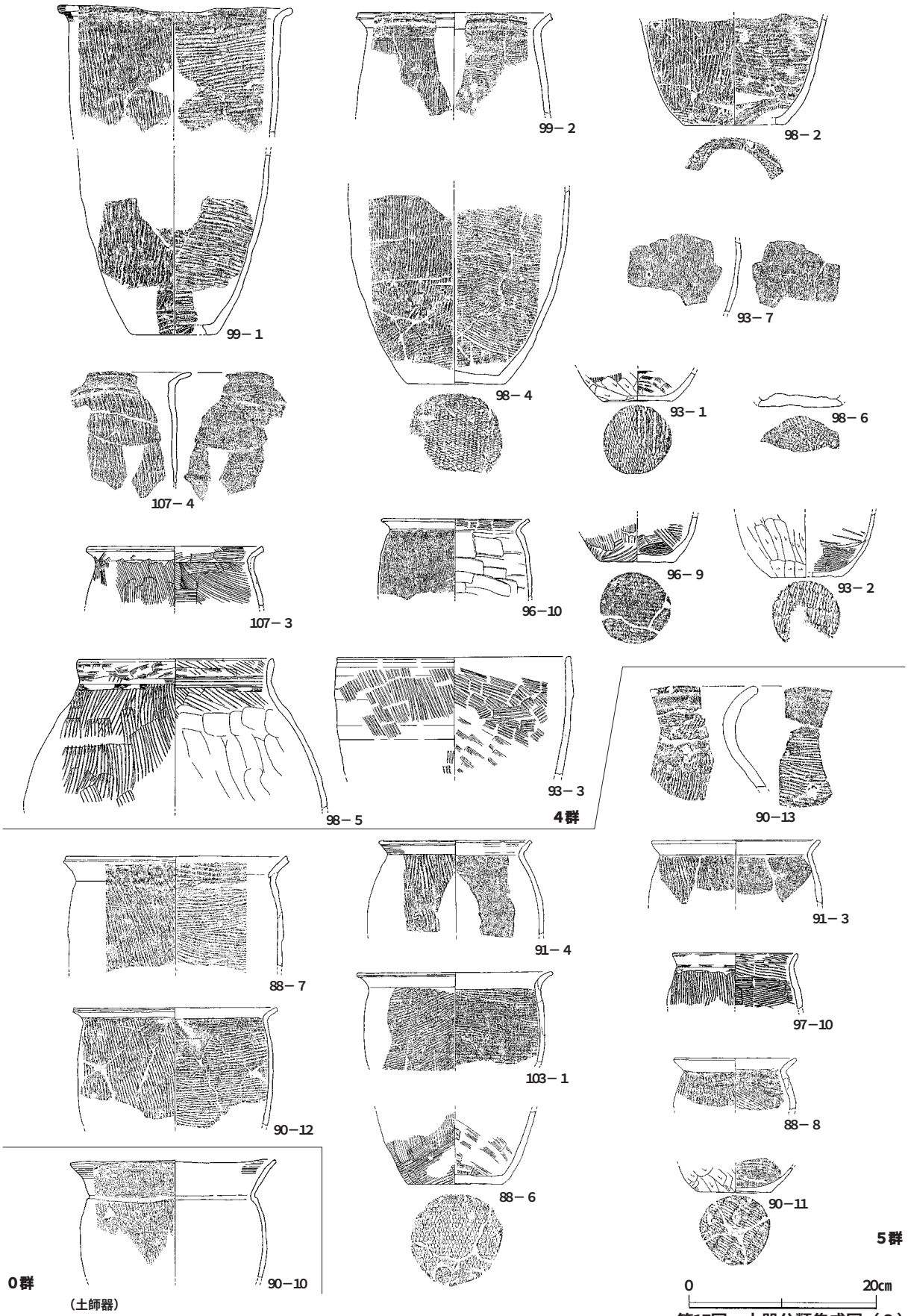
土師器

土師器は、赤焼土器に次いで出土量の多い土器群で、器種的には大小の甕、堝、および、把手付甑、鉢、坏などが認められた。なお、鉢103－11は１点のみの資料であり、一般的組成としては認められない。これらの器種構成から、土師器の機能的役割は主として「煮炊具」としての用途であったことが明らかである。ただし、こうした甕ほかの量的普及は、９世紀でも中葉以降に顕著となるらしく、本遺跡での組成では３群以降に本格化すると把握された。

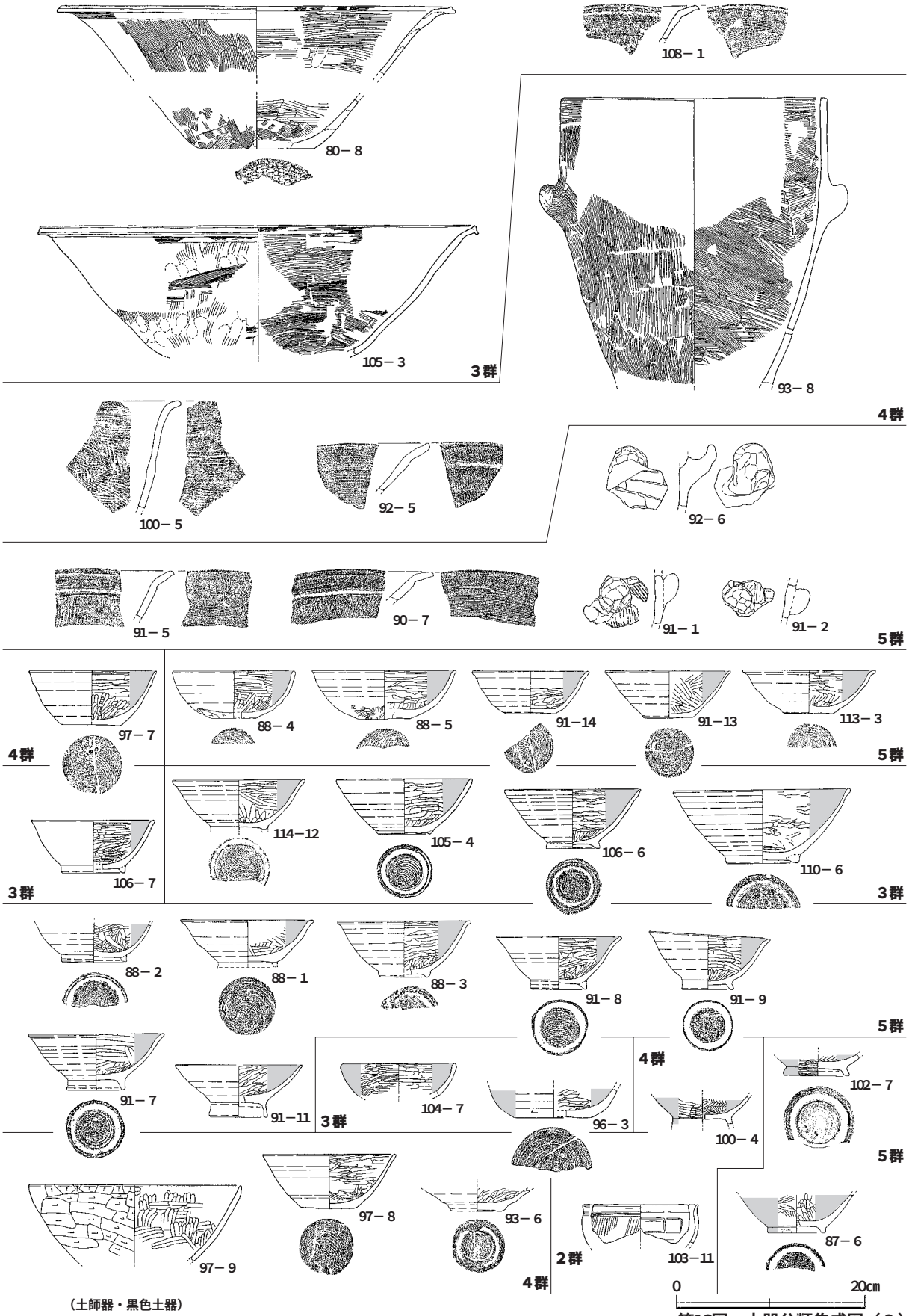


（土師器）

第14図　土器分類集成図（７）



第15図　土器分類集成図（８）



（土師器・黒色土器）

第16図　土器分類集成図（９）

補完的関係　一方、赤焼土器甕と競合する機能から判断すれば、その補完的関係にあったことも推測される。窯業体系の変化や律令体制の変質がその背景にあると考えられるが、地域単位での総合的な検討が不可欠な問題であるため、別途機会を得て詳述したい。

これら土師器の組成は、２群中では僅少であったのが３群では格段に増大し、さらに４群に至ってより盛行する様子と捉えられるが、５群中の資料が限られるため、一層の増加傾向を示すのか、あるいは減少に転ずるのかの判断は直ちには下せなかった。

器種内容　器種内容では、甕は大中小の三種のほか、一般的ではない口縁直上タイプの胴張りで大形の類型（98－５）や頸部から口縁部の長い特殊なタイプ（90－13）があり、単発的な後者を除けば、甕の大中小は３群以降５群に至るまでの基本型と看取される。土師器甕でのこうした在り方は、赤焼土器のそれにも同一の構成内容と理解でき、赤焼土器から土師器への種別的転換が徐々に進行した結果を反映しているとも考えられた。

大形甕　大形甕は、完形のものが少ないため判然としないが、口径26㎝内外、器高32㎝ほどの法量があると窺え（97－１、100－７）、調整では、口縁部横ナデ、体部縦ハケ、内面横ハケの技法が

中形甕　ほぼ例外なく施されるものである。中形甕は、口径18㎝内外、器高18㎝前後の法量で、形態的には器高の低い鉢的な形状（108－２）や、胴部中央のやや上部に最大径を持ち、頸部がやや

小形甕　締まって胴張りとなる形態が窺えた（108－３）。また、小形甕は口径13㎝内外、器高13㎝ほどの法量が窺われ、形態は中形甕の縮小形とも言える一群（88－８、96－９、97－10他）と換言できる。なお、赤焼土器の項でも触れた「０群」に関わる土師器甕が一点ながら認められ、これも同様にＳＴ317に伴った奈良時代に遡る例と位置づけられる（90－10）。この甕は、頸部に明瞭な沈線による段を見せ、長く外傾する口縁部は横ナデが、体部にはハケ目とケズリの施されるものであり、胎土や焼成の点でも他とは明らかに区別し得る要素が顕著に認められた。次

各群別の様相　に、各群別の様相を概括的に説明しよう。

２群に含まれる甕は１点に限られるため（94－10）詳細が不明であるが、横ナデやハケメ調整の丁寧な在り方が注目される。形態はやや括れる頸部から直線的に外傾する口縁を有し、その端部は自然に収まる単純縁となっている。

３群では、大形甕の口縁部が外折して端反や玉縁（96－４、97－１、106－９）となるものが認められ、同時期の須恵器坏や有台坏などの特徴とも一致する在り方と窺えた。須恵器からの影響を受けているか、ないしはその延長上で土師器自体が製作されていたためと考えられる。また、堝の口縁端部の成整形でも外縁に面を作り、上下に引き出すなどして赤焼土器甕の口縁部形状と同様の加飾を施すなどの特徴は、明らかに須恵器そのものの手法と認識できる。

加えて、水漉しで肌理の細かい粘土を用いた胎土や、焼成による赤褐色の発色などは、何ら赤焼土器のそれと変わる所がない。ただし、焼成時の黒斑が体部外面に見られること、ロクロ非使用のハケメやナデの調整は、所謂赤焼土器には見られない特徴である。

４群は、ＳＴ260のカマド脇から出土した完形の100－７やＳＴ258でのまとまりが見られた大形甕ほかが代表となる。口縁部では、端部に赤焼土器甕同様の面を作る一群（97－11、98－１、99－２）と、外反気味に外傾する単純口縁のものとが認められる（100－７）。胴部形態では、寸胴形の99－１例が目を引き、細長の胴部に粗いハケメによる外面の縦方向調整が注意される。

５群は、大形・中形共に４群との間に大きな差異は認められず、小形甕の口縁部形状などに特

徴があると考えられる（88－８、97－10）。底部には、大形・中形・小形に関わらず蓆編や網代痕を止めるものが多くみられ、古手の一部には木葉痕を遺すものがあることも注目される。 **蓆編や網代痕**

（４）黒色土器（第16・17図）

黒色土器は、内黒と両黒のものがあり、両黒のものは量的に僅少である。これらの土器が出土した遺構は、ＳＴ117、ＳＴ121、ＳＴ258、ＳＴ522などが主要なもので、いずれも本遺跡では最も新しい時期に機能したと考えられる遺構である。また、無台の内黒坏はＳＴ117やＳＴ121およびＳＴ258で認められ、一方の有台椀は、ＳＴ117、ＳＴ121、ＳＥ481、ＳＴ522から各々出土したものである。したがって、これらの土器は主に３群から５群に伴い、その組成的には４群以上に５群において主体となる様子が窺い知れた。 **黒 色 土 器**

両黒の坏・椀は、無台坏がＳＴ256、ＳＴ522、有台椀がＳＴ260、ＳＴ621にそれぞれ見られ、前者の無台坏が幾分先行し、後者の有台椀が後続する傾向があると窺えた。すなわち、無台坏は３群に、有台椀は４～５群土器に各々伴っていると看取できるからである。以下に、量的にある程度のまとまりを見せた内黒無台坏と有台椀の類型について説明しよう。

無台坏では量的には各々少ないながら、第17図上段に示すような５類型が識別された。 **無 台 坏**

Ａ１類：器高があり、底径も大きめな「逆台形」状の形態。

Ａ２類：形態的にＡ１類に近いが、器高のやや低い形態。

Ａ３類：底径が小さくその分内弯気味に立ち上がる体部の開き加減が大きくなる形態。

Ａ４類：器高がやや高く、底径の小さい形態で、直線的な体部の外傾度がやや大きい形態。

Ａ５類：底径の小さな丸底椀風の形態で、体部の彎曲度合いの大きな形態。以上の５類型である。これらは、その出土遺構と共伴遺物から、Ａ１類が一段階程度古い形態であることが、推測されるが、その他はほぼ同時期に存在したと看做さざるを得ず、それぞれに異なる時期段階を当てることは不能であった。

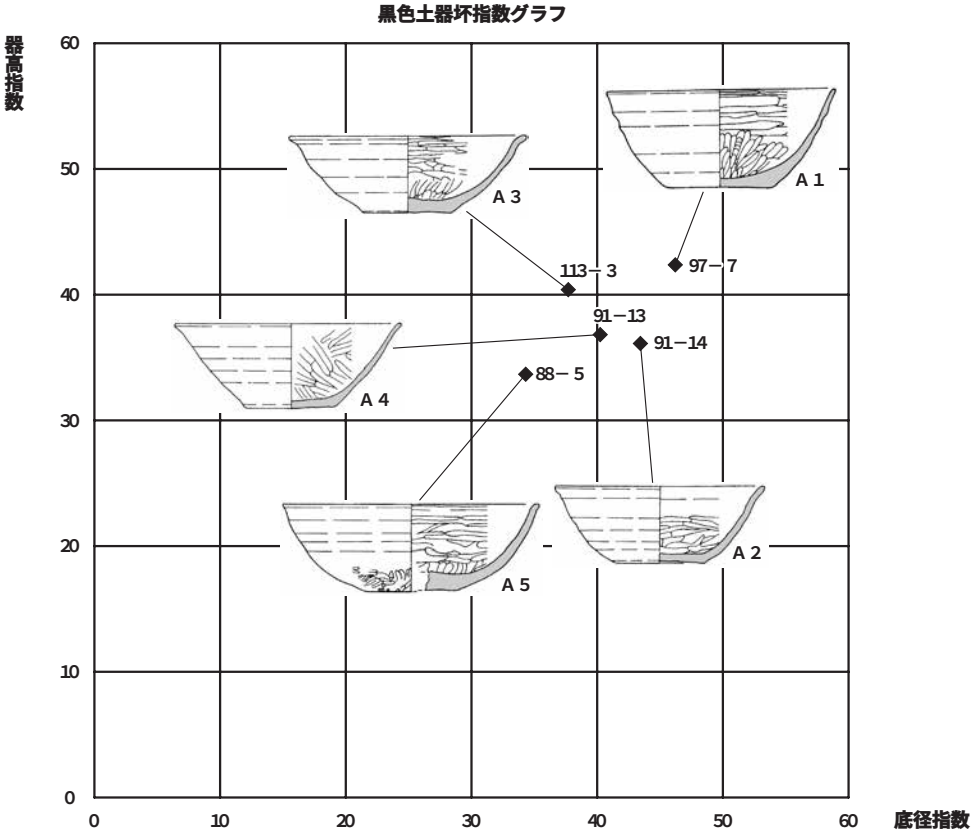
有台椀は、指数的には底径指数40～45、器高指数35～45前後に集中が見られたが、土器群とすれば３～５群までのものを含み、赤焼土器坏同様に指数的識別の有効性はさほどないと判断された。ただし、器高指数では低いものがやや古く、高いものがより新しいとの見通しが得られ、台部の形状でも低いものから高い台への推移が時期的変化の方向性と考えられる。 **有 台 椀**

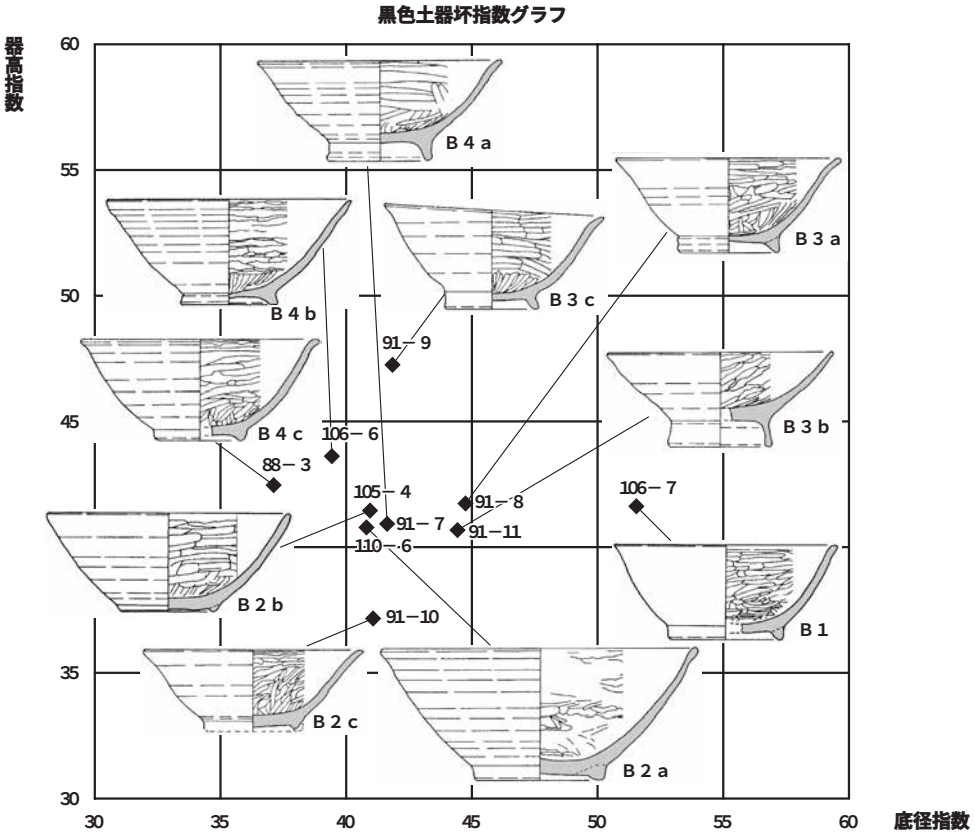
なお、形態的には上記黒色土器と同様ながら、最終の黒色化処理を施さない一群が若干ながら無台坏や低い高台付椀の中に認められた。しかし、これらは組成的に不安定で、意図的に生産されて供給された器種ではなかったものと推察される。

（５）墨書・刻書土器と陶硯（第18図）

墨書・刻書土器は、第18図下段に示したものが大半で、今次調査で認めた数は18点である。墨書は２～３群土器の主として坏や有台坏の体部や底部に記されるものが殆どで、その字種は、「人」、「入」、「家」、「太」、「上」、「仁」、「仔」などがあり、他は墨痕のみで文字かどうかの判別が不能のものであった。一方、刻書は内黒椀に記された「奉」と判読できた二例がある。なお、墨書「入」、「人」の文字は、その字形から見て本来の「人」や「入」の字義ではなく、刻書で認めた「奉」の略字ないしは記号化された所謂「呪符」と考えられる。何らかの祭祀に伴って供献すべき供物を入れた器に記された墨書記号であったことが推測される。 **墨書・刻書土器**

硯は所謂「風字硯」が２点あり、ほぼ完形で小形の115－10はＳＴ121から出土したものであ **硯**





第17図　黒色土器坏・有台坏指数グラフ

る。また、部分片ながらやや大形の115－９は、井戸跡ＳＥ481から出土しており、九世紀代後葉までの所産と判断できる。その他、須恵器有台坏底部を利用した転用硯２点あり、一点は朱墨用の硯として用いられたことが内外に付着する朱墨の痕跡から判別される。

転　用　硯

２　中世土器・陶磁器

（１）かわらけ

かわらけは112－９～11の３点が検出された。３点ともＳＤ114から検出されており、当初ＳＤ116とした炭化物層の下層から出土している。112－９はロクロ整形され、口径８㎝、底径５㎝で底部がやや突出する。底部は回転糸切りで切り離される。112－11は112－９とほぼ同形で、同様の調整が施される。胎土はいずれもにぶい橙色で、雲母、石英、赤色粒、黒色粒を含む。112－10は手づくねで整形され、口縁部から約８㎜の幅でナデ調整が施される。口径は８㎝で、底部は丸みを帯びている。胎土はにぶい黄橙色で、雲母、石英、赤色粒、黒色粒を含む。

か　わ　ら　け

（２）陶器

中世陶器は104－９、111－８、９、12、13、112－７、12、18、19の９点である。104－９はＳＴ500から出土した。胎土、色調等は111－13に類似する。111－８、９はＳＫ528から出土した。111－８は瓷器系擂鉢の体部破片と考えられるが、卸目は認められない。胎土は粗く、粗砂が混じる。111－９も同じく擂鉢の口縁部である。内外面に光沢があり、内面に線刻がある。幅1.5㎝、一単位５本の卸目を持つ。胎土は粗いが、砂粒をほとんど含まない。111－12はＳＫ709から出土した。瓷器系の片口鉢口縁部破片である。擂鉢の可能性も考えられる。胎土は粗く、粗砂、黒色粒を含む。111－13はＳＨ105から出土した。瓷器系の甕口縁部破片である。口縁は受口状を呈し、外面に自然釉がかかる。胎土は粗いが、砂粒はほとんど含まない。112－７はＳＤ111から出土した。瓷器系陶器の擂鉢で、卸目がわずかに確認できる。外面にやや光沢がある。胎土は粗いが、砂粒はほとんど認められない。雲母、石英を含む。112－12は珠洲窯のⅢ～Ⅳ期に分類されると考えられる擂鉢である。底部は静止糸切りで切り離され、糸切り痕に直交する形でスノコ状圧痕が認められる。幅２㎝、一単位12本の卸目を持つ。胎土はやや粗く海綿骨針、黒色粒を多量に含む。112－18、19はＳＧ318から出土した。112－18は瓷器系の片口鉢の口縁部破片である。擂鉢の可能性も考えられるが、卸目は確認できない。胎土はやや粗く、砂粒を少量含む。112－19は瓷器系陶器の甕と考えられる。外面に自然釉がかかる。胎土はやや粗く、砂粒は含まない。

中　世　陶　器
瓷　器　系　擂　鉢
片　口　鉢
スノコ状圧痕
海　綿　骨　針

（３）磁器

磁器は96－５、112－13～17の６点が検出された。いずれも破片資料である。96－５、112－15、16は青磁椀の口縁部破片である。96－５はＳＴ256、112－15、16はＳＤ114（ＳＤ116）からそれぞれ出土した。いずれも鎬蓮弁文が施され、その様式から13世紀代のものと考えられる。112－13、14、17は青白磁で、ＳＤ114（ＳＤ116）から出土した。唐草文が施されており、梅瓶の破片と考えられる。３点は接合しないが、同一個体の可能性がある。

磁　　器
鎬　蓮　弁　文
青　白　磁

３　石製品

石製品は主に砥石が出土している。116－１～11の11点を図化した。製品として流通してい

砥　　石

たと考えられるものは認められない。116－１、２がＳＴ117、116－３、４がＳＴ257、116－５がＳＴ123、116－６がＳＫ40、116－９がＳＫ528から出土した。そのほかの遺物はＳＰ、遺構外から検出された。116－２、９のように比較的大型のものと、116－１、５～７、10などの中型のもの、116－３、４、８のように砥石を動かして使うと考えられる小型のものが認められる。砥石は大きく荒砥、中砥に分けられる。116－２が荒砥、116－10が中～荒砥と考えられ、それ以外はすべて中砥である。仕上砥は出土していない。

荒砥、中砥

116－11は用途不明の石製品である。片面が丸みを帯び、片面が平らに加工されている。中央に直径１㎝程の穿孔がある。紡錘車などの可能性が考えられる。

紡錘車

4　木製品

木製品

木製品はすべてＳＥ481から検出されている。６点を図化した。

117－１、117－２は井戸内から出土した。117－１は長さ17.5㎝で、三箇所に木釘で留めた痕跡があり折敷などの一部であると考えられる。117－２は長さ11.5㎝、幅1.2㎝で、厚さは１㎜程である。木簡の断片とも考えられるが、墨痕は認められなかった。117－３～117－６は井戸の部材である。いずれも加工痕が認められる。117－３～５は土留めの杭と考えられる。117－６は長さは約100㎝、幅22㎝の井戸枠である。検出時には四枚の板が井桁状に組まれていた。端から８㎝程のところに、板を組み合わせるための切込みが認められる。このほかに数点の木製品が検出されたが、いずれも井戸の部材と考えられる。

木簡の断片
井戸枠

5　金属製品

金属製品

金属製品は主にＳＤ114と、調査区中央部の環状に配置されていたと考えられる竪穴建物跡内から出土した。刀子、鉄釘、紡錘車などの製品と、鋳物の破片や鉄鉱滓などが確認されている。主なものを、図版117と写真図版72（以下、写72とする）に掲載した。

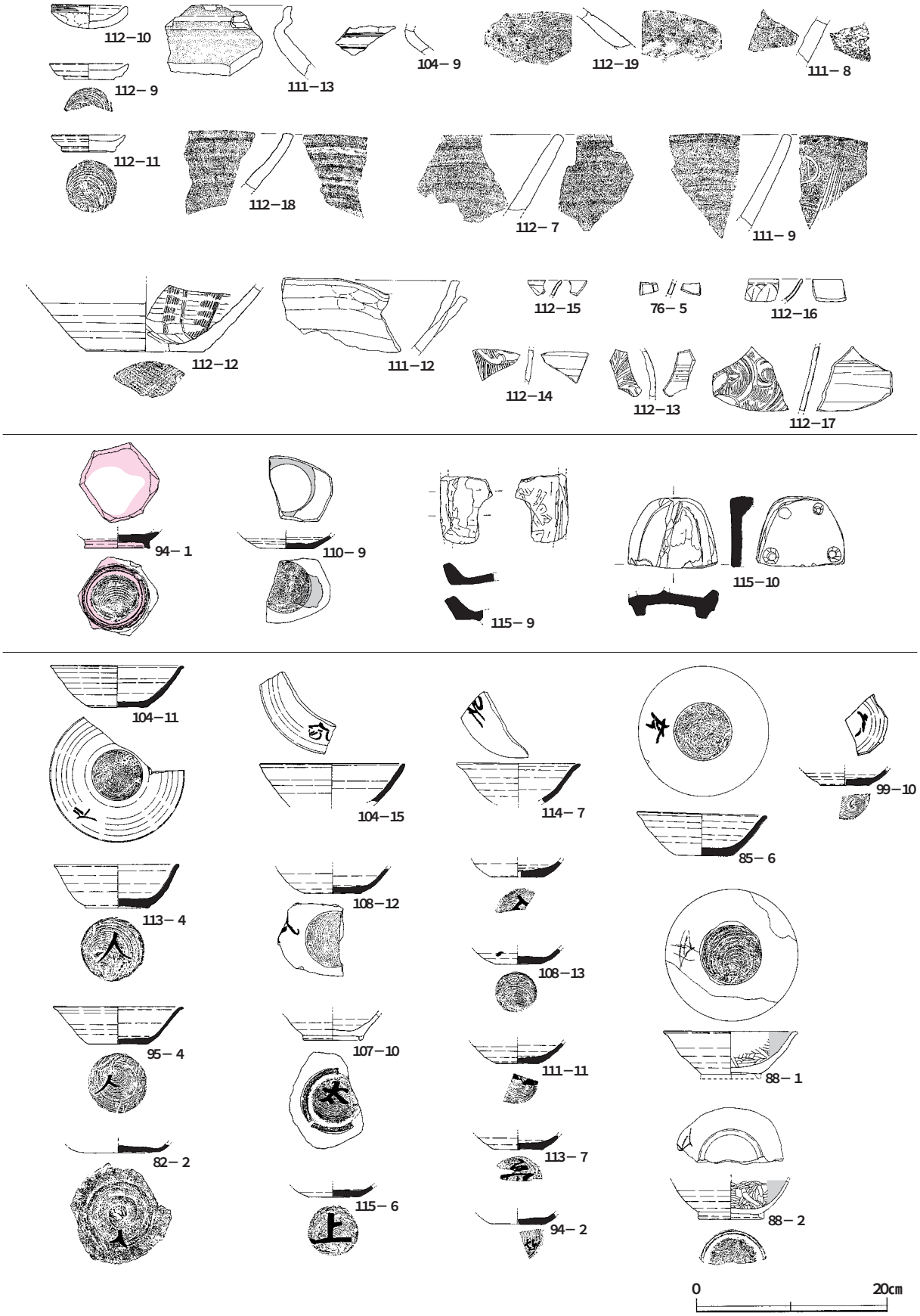
写72－１～11、117－７はＳＤ114から出土している。主に当初ＳＤ116として登録した炭化物層からの出土である。製品と考えられるものは写72－３、９で、写72－３は折り曲げ加工が施された板状の金具、写72－９は刀子の可能性が考えられる。写72－８は鉄破片であるが、器種は不明である。写72－１、２、４～７、10、11は鋳物破片であり、写72－５は複数の破片が銹着したものと考えられる。鋳物破片は出土地点が限られることから、一括廃棄されたものと考えられる。117－７は銅銭である。銭種は南唐で959年に初鋳された「唐國通宝」である。

板状の金具
鋳物破片
銅銭
唐國通宝

写72－12～19はいずれも竪穴建物跡からの出土である。写72－12は長さ約５㎝の鉄製品で、鉄釘と考えられる。ＳＴ123から出土した。写72－13・15はＳＴ258から出土しており、写72－13は刀子の柄、写72－15は刀子と考えられる。写72－16は環状に配置された竪穴建物跡群からやや離れたＳＴ59から出土した。直径約６㎝、クリーニング後中央に約５㎜の孔が確認された。紡錘車と考えられる。写72－17はＳＴ257の煙道部分から検出された。長さ８㎝、幅4.5㎝の刃状の鉄製品である。写72－18はＳＴ261から出土した。鉄製品であるが、性格は不明である。写72－19はＳＴ317から出土した。鎌の破片である可能性が高い。写72－14は鉄鉱滓である。

刀子
紡錘車
鎌
鉄鉱滓

鉄鉱滓が多数出土しており、また調査区内で炉跡と考えられる遺構が検出されていることから、これらの製品が遺跡内で生産されていたことも考えられる。



第18図　中世土器・陶磁器・陶硯・墨書土器集成図

Ⅵ　まとめ

遺跡立地

本遺跡の調査によって検出された遺構と遺物は、遺跡立地と遺跡が機能した時期や性格を含めて幾つかの重要な問題を内包していると考えられた。一つは、山形盆地の中央低地部分に位置し、「須川」という河川左岸にほぼ西接する形で集落が展開していることである。

官衙的性格

二つめは、この集落が単なる律令制末期の自然（農耕）集落として存在したのではなく、ある種在地の官衙的性格をも兼ね備えていると看做すことのできる遺構群や遺物群を伴っていることである。

井桁組の井戸跡
並び倉
陶硯や墨書土器
石帯や灰釉陶器

関連遺構として、今次調査の部分に限れば、規模の大きな掘り方を持つ井桁組の井戸跡や、すぐ南接して検出された倉庫ないしは並び倉的な掘立柱建物（二間×五間）を指摘でき、遺物では量的に少ないながら陶硯や墨書土器などの出土品にその片鱗を求めることができそうである。なお、第１・２次の調査では、総廂付きの二間×四間の掘立柱建物ＳＢ96を中心としてその西面に掘立柱建物群が展開しており、遺物では石帯や灰釉陶器の皿などが注目される。これらと今次調査で検出された遺構との関連は後項に記す。

１　遺構

検出された遺構

今次調査によって検出された遺構には、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、井戸跡、各種土壙、炉鍛冶遺構、大小の溝跡、道路跡、旧河川跡などがある。各々については各節で触れた通りであるが、以下では竪穴建物や掘立柱建物の時期的構成ほかについて概括しよう。

竪穴建物

竪穴建物は約30棟が検出されたが、その構築時期は相互の切合い関係や出土遺物の時期的帰属から、第19図に示すような結果が得られた。そこでは、各調査地点に先行する９世紀前葉の竪穴が展開するものの数的には主体とはならないこと。続く９世紀中葉段階では、調査区中央～南側寄りに偏りが見られ、井戸跡、掘立柱建物跡を含めた集落構成となったこと。古代では最終の９世紀後葉～10世紀前葉では、ＳＤ111以北、ＳＧ318以南の調査区中央部分にその中心があることなどが理解された。また、各々の調査地点では、基本的に１群土器の段階で竪穴建物が造られ、その後継続的に２～５群土器の段階まで建て替えを繰返しながら営まれた様子が看取できる。その核となった竪穴建物跡は北側調査区から順に記せばＳＴ２、ＳＴ60ないしＳＴ75、ＳＴ255、ＳＴ480などであったと推測できるが、調査区自体の制約が大きく周辺の状況も不明なため、その可能性を指摘するに止めておこう。

血縁者の連続

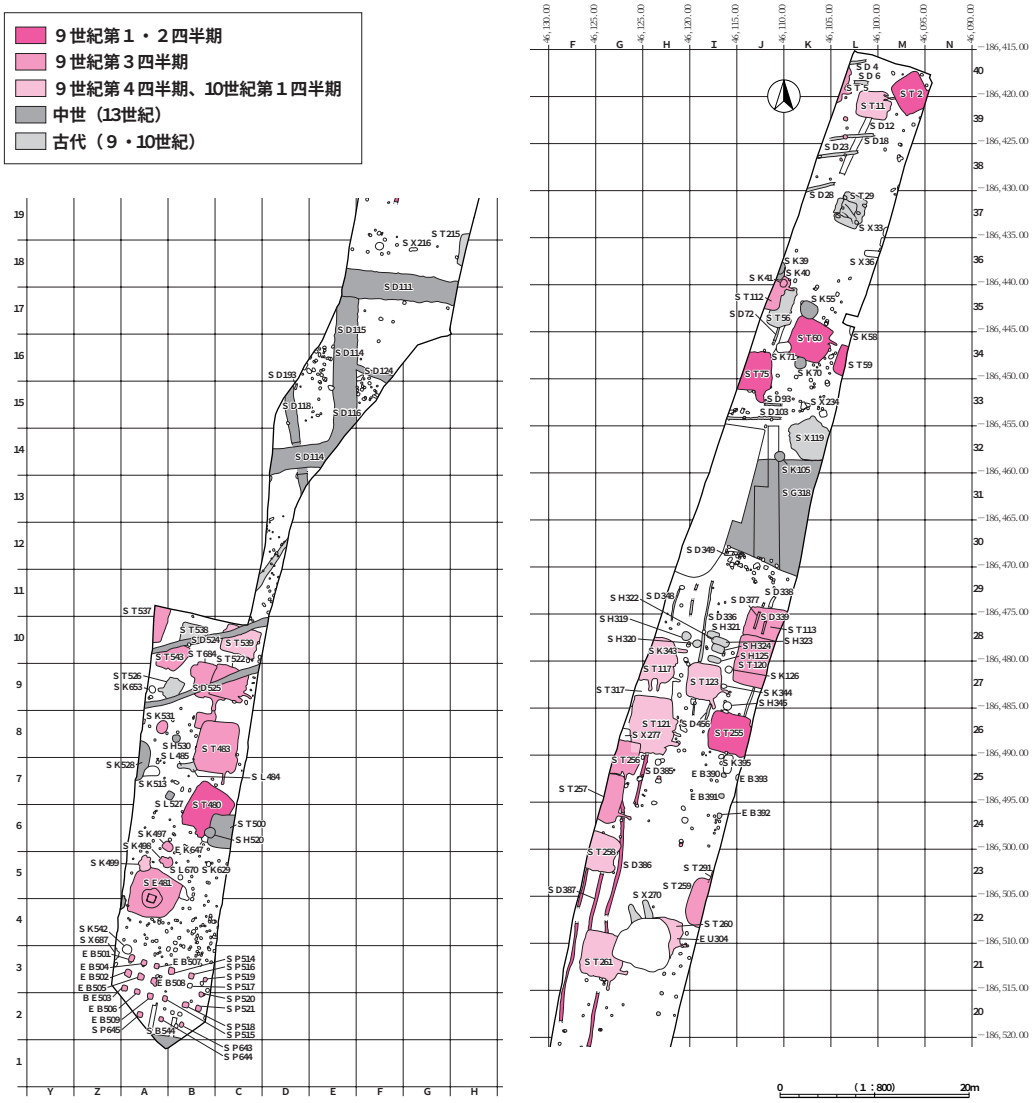
このように、竪穴建物は９世紀一杯の時期を通じてある地点を占有的に利用しながら継続したことが捉えられ、当然その継続は家族などの血縁者の連続だったと考えられる。

道路側溝

一方、これら竪穴建物を繋ぐ道路跡の存在も注目される。道路跡は道路側溝と考えられる並走する溝跡で構成され、竪穴建物跡と切合い関係をもつものがあるなど、明らかに古代の遺構と識別できたものである。良好に検出された調査区は、ＳＴ255竪穴の位置する中央調査区部分で、南北方向に幅７～８尺規模で並走する集落内の道路跡が存在したことは間違いない。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は井戸跡南側の規模の大きな建物が目を引くが、それ以外の全容が把握できな



第19図　遺構変遷図

かった部分的な建物跡（柱列）でも、その向きや構築時期などの諸相は注目された。ＳＴ260南側のＥＢ390他で構成される建物跡は、二間×三間規模程度の南北棟と考えられるが、その向きは１群土器の時期に帰属するＳＤ386ほか道路側溝の方位にほぼ平行である。

建物の正面観

同様にＥＢ390ほかで構成されるＳＴ255南側の建物跡も道路側溝ＳＤ385に並走する南北棟であることが理解でき、通路に面して平行の関係や建物の正面観が窺えて興味深い。あるいは、道路とは反対側の河川がより主要な交通路であったとすれば、道路ではなく河川を正面としてそれに並走するように立ち並んでいたとも考えられる。

井　戸　跡

井戸跡ＳＥ481は、大形の掘立柱建物跡と組成されて機能した格式高い遺構と捉えられ、その機能期間は井戸の埋没が10世紀前葉には完了していたことから考えれば、３～４群土器（９世紀第３～第４四半期）の間と推測される。

官衙的性格

この時期は本遺跡が最も栄えた頃と重なっており、２次調査で検出されたＳＢ96掘立柱建物跡にも一連のものであった可能性が高い。これらは、その規模と配置から見て郡レベルでの官衙的性格を帯びていることが推測できるが、それではその性格が何かと言う決め手を欠く。こ

舟　　運

こでは、具体的確証はないものの、舟運を背景とした物資の集積地、搬入・搬出の結節点としての遺跡位置と性格を強調しておく。同時に、須川左岸側という立地的側面からは、背後の八木郷や山辺郷との関連も推測でき、郷との関わりも視野に入れる必要がありそうである。

墓　　壙

その他の遺構では、墓壙と考えられる小判形の土壙や炉鍛冶施設に関わる二種の形態を異にする土壙が注目される。墓壙と推測された遺構は、ＳH125・ＳH319～ＳH324などであり、長径が140㎝内外、短径が70㎝前後の小判形を呈する一群（ＳH125・ＳH324）と、径100㎝前後の略円形の一群とがある。これらは、人為的に埋戻されたことが覆土の状況から判断できるが、土壌分析の結果では、遺体埋納を積極的に肯定できるリン酸やカルシウム成分の特段の痕跡は認めなかった。

炉　鍛　冶

炉鍛冶関連の土壙には、ＳＬ484とＳＬ485の長楕円形の形態と、ＳＬ527やＳＬ670の方形企画のものとがある。前者のＳＬ484はＳＬ485を切る重複関係が認められ、連続的に構築されて機能していたことが推察される。周囲からは、撹乱された状態ながら鉄滓やふいご羽口片の出土も見られ、古代の炉鍛冶施設が集落内に併設されていたことが明らかである。一方、後者は、中世以降のものと判断できるが、構造や機能についての解明は今後の課題としたい。

ふいご羽口

2　遺物

遺　　物

遺物は整理箱にして70箱ほどであったが、調査面積からすればかなり多い分量と捉えられる。これは、当時の表土までもが識別できるという、極めて良好な遺跡の保存状態に起因していることが推測されるが、一方では遺跡の埋没速度がかなり速かったことと洪水起源の堆積土壌が遺跡全体を急速にしかも厚く被覆したためとも言い換えられよう。

遺物は既に見てきたように、主に平安時代の土器群と、13世紀代を中心とする中世前期のものとであり、前者は９世紀初頭から10世紀前葉までの約100年間に使用された土器群と認識された。これらは、遺構相互の重複や土器組成の特徴から１～５群土器、および１群に先行する若干の０群土器からなる様相と捉えられたことは先に触れた通りである。なお、これらの年代的根拠は、１群土器に先行する型式が奈良時代後葉～末葉期のものであること、井戸跡の埋没完了時期や幾つかの竪穴建物の埋没過程で「十和田ａ」と同定された広域火山灰が関わっていることなどが挙げられる。後者では降灰年代とされる西暦915年の一点をその経過中に当てることができ、さらにその時点では既に機能を失っていたと看做すことが可能であった。

年代的根拠

広域火山灰

こうした当該期の土器群は、近隣遺跡での出土例も少なくはなく、大凡の型式変遷については従来の調査資料や研究成果から把握できる状況にはあると考えられる。しかし、土器群総体としての編年作業は意外に遅れており、特に須恵器の供膳器を除いた赤焼土器や土師器の編年的研究は殆ど進んでいないのが実情と言っても過言ではない。

土師器の編年的研究

本遺跡では、須恵器をはじめとして赤焼土器や土師器、黒色土器などの種別器種の組成が竪穴建物ほかの遺構単位で把握され、その組成や変遷過程をある程度ながら跡付けることができたと考えている。しかし、各群間での重複的様相も散見され、必ずしも適格な群別とはなっていない観も否定できない。

その原因は、遺構が連続的に推移したことや土器群の種別器種が一定期間使用され、さらには建築部材的な再利用も頻繁になされるという当時の集落内における利用の在り方に求められ

る。従って、当該時期の編年大系確立には地域内の広範な資料に当り、相互の類似性と相違点を見極めながら標準化されたモデルを抽出する作業が必要不可欠となる。しかし、この場ではそれだけの余裕がなかったため詳細の検討は別途機会を得たい。

編年大系確立

次に、これら土器群の流通に関して述べていくが、既に触れたように、大方の土器群は、本遺跡の西北方に位置する寒河江市平野山窯跡群から供給されたものが大半と推測される。その根拠は、法量と形態の類似性を先ず挙げることができるが、これとは別に、平野山窯跡産の製品には海綿骨針が顕著に認められるという大きな特徴が認められ、その識別も有効な手段となり得ることが指摘できる。以下ではこの点についての観察所見を記していこう。

平野山窯跡群

海綿骨針

土器群の胎土観察は、掲載し得た古代の土器すべてを対象とし、ルーペを用いながら肉眼で行ったものである。観察所見では単位面積あたりの確認量の違いから「多い」、「少ない」、「微量」、「含まない」などの結果を記録して、その状態を遺物観察表の胎土欄に記入している。

その結果、須恵器では坏62点中41点に認められ、その含有割合は66%。同様に有台坏では10点中９点で90%、蓋では10点中８点の80%に各々認められ、これらが含有率の高い器種と認識できた。一方、含有率の低い例では、資料数が少ないながら長頸壺（０%）や無台の壺（33%）、甕（26%）などが挙げられる。また、これら須恵器全体では130点中73点に認められ、その割合は56%の結果であった。

含有割合

このように、器種毎に違う様相と特に壺・甕などの中・大形製品での含有率が少ないことが注意されるが、基準とすべき平野山窯跡群での標準的数値が不明なため、相互の比較検討は現段階では不可能である。また、時期的推移の中での変化も考慮すべきことと考えられたが、今回はそこまでの分析には至らなかった。ただし、須恵器を組成する土器群の主体は２～３群であることからすれば、９世紀中葉を前後する山形盆地中央部における集落遺跡での様相と理解できる点は一つの成果と考えられる。

標準的数値

同様に赤焼土器では、堝（100%）、有台坏（88%）、大・中形甕（50%）、坏（28%）、小形甕（17%）の順となり、総体では144点中63点に認められ、率とすれば44%と窺えた。

一方、土師器では、有台坏（100%）、堝（50%）、甑（33%）、甕（27%）、小甕（14%）であり、総体では71点中21点の30%という結果であった。また、黒色土器では、坏（36%）、有台坏（48%）となり、観察できた41点中19点に含まれていた。すなわち、46%の含有率となる。以上から、種別では須恵器56%、黒色土器46%、赤焼土器44%、土師器30%の割合で含まれ、須恵器、黒色土器で高く、次いで赤焼土器、土師器の順となる様相が理解される。

こうした結果の意味することは、現段階では充分に説明できないが、種別毎の耐火度など必要要件の違いから生じる素材選択や吟味の違い、時期段階による粘土素材の変化、あるいは産地窯跡と原材料の質的違いなどが想定される。しかし、こうした研究は漸く着手されたばかりであり、結論は同様な資料の蓄積と今後の胎土分析研究の進展を待ちたいと思う。

素材選択

胎土分析研究

ただし、この中で言えることを挙げれば、９世紀後葉の段階で須恵器生産が衰退化の傾向を辿ること、一方で質より量の確保が目的だったと考えられる赤焼土器の須恵器補完現象が進展し、同時にそれより幾分遅れて進行したと考えられる土師器生産の量的拡大や赤焼土器から土師器への転換とも深い関わりがあることは予見される。すなわち、古代における土器生産の推移と律令的古代世界の崩壊過程がこうした土器の素材選択にも反映していると窺うことが可能

であろう。

3　結語

以上、本遺跡から検出された遺構・遺物について概観したが、本遺跡の意味することの本質は依然として不明なままであり、遺跡の性格追求が今後とも必要と考えられた。その背景に潜む問題は、古代の郡と郷の組織機構の在り方であり、発掘された集落はその中にどう位置付けられるのかということである。

遺跡の性格

狭義的には、郷内に官衙末端の出先機関が存在したのか、あったとすればどのような形態を採ったのか。あるいは郷長がどのような集落に住まいして郡務を司っていたのかといった視点と言える。一方では平安期における郡機能の分散化（郡衙別院）の実態が果してどうであったかということでもあると受け止められる。当然としてその中には租税をはじめとする物流と貯蔵、同時に交通路の問題があり、場面場面での多様な在り方が想定される。

官衙末端

郡機能の分散化

交通路

近年の大規模発掘は、こうした問題に関わる重要な手懸りをもたらしていると考えさせる。すなわち、郷毎に拠点的で、ある種官的要素の強い集落が存在した状況を示していると捉えられることである。時期段階は必ずしも同一ではないのだが、古代最上郡における山方郷の吉原遺跡群、福有郷の石田遺跡、那可郷の今塚遺跡、そして八木郷の達磨寺遺跡、村山郡では長岡郷の高瀬山遺跡群などが該当しよう。各遺跡についての解説は省くが、各々は郡衙以下のレベルにあることは間違いない。しかし、郡のある部分の機能を帯びて存在したとことも事実であろう。これらは、本遺跡と同様にその性格付けが苦慮されるものである。こうした問題の解決には、郡衙中枢施設の遺構を伴う郡衙本体の発見とその調査が待たれるところであるが、一方では上記遺跡群の比較検討と各性格を見通す研究視座の確立も必要な要件と考えられよう。

古代最上郡

郡衙以下のレベル

本遺跡は10世紀前葉に一旦廃れるが、中世に入ると再び地域の拠点としての居館が築かれるようになる。方形に大溝を巡らせた範囲に居宅を構え、当時とすれば貴重な青磁や青白磁の梅瓶をも所持できた在地領主的存在が再度遺跡域を開発している。選地の要因は、古代以来の交通や物流の要衝であったためとするのが自然であろう。

在地領主

最後に、調査にあたって御協力いただいた国土交通省山形河川国道工事事務所をはじめとする関係機関各位、地元中山町および中山町教育委員会、並びに発掘調査と整理作業に従事いただいた作業員各位に対して心より御礼を申し上げる。

＜参考・引用文献＞

柏倉亮吉・伊藤　忍　1970　『平野山古窯跡群－山形県における古代窯業遺跡の研究』寒河江市教育委員会
加藤　稔　1982　「古代出羽国郡名考証」『山形県立山形南高等学校研究紀要』第23号山形県立山形南高等学校
佐藤正俊・渋谷孝雄　1986　『達磨寺遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第104集
加藤　稔　1987　「古代出羽に関する二、三の問題」『山形県立博物館研究報告』第８号山形県立博物館
佐藤庄一　1997　「考古学からみた古代最上郡の成立と展開」『西村山の地域史の研究』第15号
佐藤庄一他　1998　「平野山古窯跡群第12地点遺跡第２次発掘調査報告書」県埋蔵文報第52集
伊藤邦弘・植松暁彦　1999　「山形県の官衙関連遺跡」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』
阿部明彦・水戸弘美　1999　「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』
阿部明彦　2001　「古代最上郡に於ける九世紀中葉の土器様相」『山形考古』第７巻第１号山形考古学会
阿部明彦　2003　「達磨寺遺跡－平成14年度の調査概要－」『第29回古代城柵官衙遺跡検討会』
阿部明彦　2003　「平野山古窯跡群第14地点１・２号窯跡出土の須恵器」『山形考古』第７巻第３号山形考古学会

表１　遺物観察表（１）

図版番号	挿図番号	出土地点	RP番号	種別	器種	計測値（㎜） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	胎土	備考
80	1	ＳＴ２	2	須恵器	蓋	143		38		ロクロ、ナデ、回転ヘラケズリ	ロクロ		海綿骨針多量	
80	2	ＳＴ２	4	須恵器	有台坏		94	(48)	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	海綿骨針多量	
80	3	ＳＴ２（Ｙ）		須恵器	甕			(100)	11	ロクロ、平行タタキ	平行アテ		石英細砂	
80	4	ＳＴ２（Ｙ）		赤焼土器	堝	310		(127)	7	ロクロ、ケズリ、タタキ、カキメ	ロクロ、カキ目、ロクロナデ		細・中砂・海綿骨針少量	
80	5	ＳＴ２	3	赤焼土器	鉢	155	88	134.5	4	ロクロ	ロクロ	不明	細砂	
80	6	ＳＴ５		須恵器	坏	130		(41.5)	3.5	ロクロ	ロクロ		石英細砂	歪み有り
80	7	ＳＴ５		須恵器	甕				13	平行タタキ	格子目アテ		微砂・海綿骨針	
80	8	ＳＴ５		土師器	鍋	410	118		6	ハケメ、ユビナデ	ハケメ、ナデ	蓆編痕	石英細砂	
80	9	ＳＴ５		土師器	甕		80		8			蓆編痕	細砂	
80	10	ＳＴ11		須恵器	坏	134		(28)	3.5	ロクロ	ロクロ		微砂	
80	11	ＳＴ11	5	赤焼土器	有台坏	160	74	57	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂・海綿骨針少量	
80	12	ＳＴ11	9	赤焼土器	坏	130	52	45	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
81	1	ＳＴ11	10	赤焼土器	坏	158	60	60.5	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂	
81	2	ＳＴ11	12	赤焼土器	坏	134	60	41	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂	
81	3	ＳＴ11	6	赤焼土器	甕	260		(43)	5.5	ロクロ	ロクロ		石英細砂・海綿骨針少量	
81	4	ＳＴ11	7他	赤焼土器	甕	234	96	320	8	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ナデ	不明	微砂・海綿骨針	軟質で厚い、外面に煤付着
81	5	ＳＴ11	40・42	赤焼土器	甕	173		(153)	6	ロクロ	ロクロ、ナデ		微砂	
81	6	ＳＴ11	42	土師器	甕	256			7	ハケメ	ハケメ、ナデ		細砂多量	
81	7	ＳＴ59	14	赤焼土器	甕		98	(62)	5	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ		細砂・海綿骨針	
81	8	ＳＴ60	49	須恵器	蓋			(23)	6.5	ナデ、回転ヘラケズリ	ロクロ、ナデ		中砂・海綿骨針まばら	黒色の吹出し物有り
81	9	ＳＴ60・ＥＰ247	59	須恵器	坏	137	77	36	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	中砂	
81	10	ＳＴ60	20	須恵器	坏	146	64	42.5	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
81	11	ＳＴ60		須恵器	坏	146	70	35	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
82	1	ＳＴ60	26	須恵器	坏	135	64	38	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂・海綿骨針	
82	2	ＳＴ60	19	須恵器	坏		90	(6)	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	中砂	
82	3	ＳＴ60		須恵器	坏		54	(11)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
82	4	ＳＴ60	16	赤焼土器	甕	182			7	ロクロ	ロクロ		中砂・海綿骨針	
82	5	ＳＴ60	15・47	赤焼土器	甕	230	84	389	5	ロクロ、ケズリ	ロクロ、カキ目			
82	6	ＳＴ60	15他	赤焼土器	甕	218	70	(350)	6	ロクロ、ケズリ、タタキ、ナデ	ロクロ、ハケメ、ナデ、アテ痕			
82	7	ＳＴ60	16	赤焼土器	甕	212		(105)	8	ロクロ、ケズリ	ロクロ		細砂多量	
82	8	ＳＴ60	16	赤焼土器	甕	234		(185)	7	ロクロ、ケズリ	ロクロ、刷毛目		細砂粒	
83	1	ＳＴ60		赤焼土器	甕	214		(247)	5	ロクロ、手持ヘラケズリ	ナデ、ロクロ		微砂・海綿骨針	
83	2	ＳＴ60	46	赤焼土器	甕		85	(117)	5	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ナデ	平底風丸底		
83	3	ＳＴ60	16	赤焼土器	甕		82	64	5	ケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ		石英細砂粒・海綿骨針少量	
83	4	ＳＴ60	16・48	赤焼土器	甕		90	(142)	6.5	ケズリ	ロクロ、ハケメ、ナデ		石英粒・海綿骨針	
83	5	ＳＴ60	47・16	赤焼土器	甕	137	70	128	7	ロクロ	ロクロ		細砂・海綿骨針	
83	6	ＳＴ60	16・58	赤焼土器	甕	250		(141)	7	ロクロ、ケズリ	ナデ		海綿骨針	
83	7	ＳＴ75		須恵器	蓋	140			5	ロクロ、回転ヘラケズリ	ロクロ		海綿骨針	
83	8	ＳＴ75	33	須恵器	坏	138	58	33～43	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	
83	9	ＳＴ75		須恵器	把手付坏				5	ケズリ			細砂	
83	10	ＳＴ75		須恵器	把手付坏				4	ケズリ	ロクロ			
83	11	ＳＴ75		赤焼土器	甕	208		(46)	6	ロクロ	ロクロ		細砂	
84	1	ＳＴ75・ＥＬ716		赤焼土器	甕	220		(73)	6～8	ロクロ、ナデ	ロクロ		微砂	
84	2	ＳＴ75	37・38	赤焼土器	甕		68		5	ケズリ	ユビナデ		細砂	
84	3	ＳＴ75	38	赤焼土器	甕	242		(143)	5	ロクロ、ケズリ	ロクロ		細砂	
84	4	ＳＴ75	36	赤焼土器	甕	158			5	ロクロ	ロクロ		細砂	二次的被熱
84	5	ＳＴ112	54	須恵器	坏	132	64	41.5	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂・海綿骨針	
84	6	ＳＴ112	50	須恵器	壷	150		(116)	5	ロクロ	ロクロ		微砂・中砂	
84	7	ＳＴ112	51	須恵器	壷			(56)	7	ロクロ	ロクロ			
84	8	ＳＴ112（Ｆ）		須恵器	甕			(127)	12	ロクロ、波状文二段以上	ロクロ		微砂	
84	9	ＳＴ112	50他	赤焼土器	甕	210		(165)	6	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ヘラナデ		細砂	
85	1	ＳＴ112	50	土師器	甕		92	(159)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ	木葉痕	細砂	
85	2	ＳＴ123	112	土師器	甕	230			6	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		微砂・海綿骨針	
85	3	ＳＴ113	31	須恵器	坏	137.5	54	41	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
85	4	ＳＴ113	30	赤焼土器	有台坏	140	63	53	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
85	5	ＳＴ117	268	須恵器	坏	136	50	41.5	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂少量	
85	6	ＳＴ117	258	須恵器	坏	134	60	44	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂多量	墨書
85	7	ＳＴ117	61・168	須恵器	甕			(148)	5.5	ロクロ、手持ヘラケズリ、輪積、ユビオサエ	ヘラナデ、ユビナデ		微砂	
85	8	ＳＴ117・ＳＴ317		赤焼土器	坏	138	60	40		ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針少量	

表２　遺物観察表（２）

図版番号	挿図番号	出土地点	ＲＰ番号	種別	器種	計測値（㎜） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	胎土	備考
85	9	ＳＴ117	139・141	赤焼土器	坏	136	56	48	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂	
85	10	ＳＴ117	266	赤焼土器	坏	126	58	41	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂・海綿骨針	
86	1	ＳＴ117（Ｆ）		赤焼土器	坏	124	56	47	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	
86	2	ＳＴ117	99	赤焼土器	坏	127.5	56	40	4.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・微砂	
86	3	ＳＴ117	140	赤焼土器	坏	144	62	56	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	
86	4	ＳＴ117	140	赤焼土器	坏	126	52	40.5	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂	
86	5	ＳＴ117	62	赤焼土器	坏	134	62	44	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂少量	
86	6	ＳＴ117	266	赤焼土器	鉢	156	68	135	5	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ハケナデ		細砂	
86	7	ＳＴ117	270・271	赤焼土器	鉢	145.5	72	113	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
86	8	ＳＴ117	139	赤焼土器	鉢	140			4.5	ロクロ	ロクロ		石英細砂	
86	9	ＳＴ117	313・314	赤焼土器	甕	232	90	305	7	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ナデ	手持ヘラ削	海綿骨針少量	
86	10	ＳＴ117	140	赤焼土器	甕	208		(85)	6	ロクロ	ロクロ、ヘラナデ		海綿骨針	
86	11	ＳＴ117	141	赤焼土器	鉢		78	(81)	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針少量	
87	1	ＳＴ117	100	赤焼土器	甕	218		(251)	6	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ヘラナデ		粗・中砂	
87	2	ＳＴ117・121・123・317	45	赤焼土器	甕	230	70	312	6	ロクロ、ケズリ、タタキ	ロクロ、ハケメ、ナデ	内面閉塞	中砂	
87	3	ＳＴ117	256	赤焼土器	甕		130	234	7	ナデ、ロクロ、ケズリ	ヘラナデ	手持ヘラ削	微砂	
87	4	ＳＴ117	65	赤焼土器	甕		82	(220)	6	ケズリ	ハケメ	手持ヘラ削	細砂	
87	5	ＳＴ117		赤焼土器	甕			(120)	8	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		海綿骨針少量	
87	6	ＳＴ117	270	黒色土器	坏		60	(40)	5	ロクロ、ミガキ、ユビオサエ	ミガキ	回転糸切	微砂	両黒
88	1	ＳＴ117	261	黒色土器	有台坏	138	62	(50)	5	ロクロ	ミガキ	回転糸切	石英細砂	体部に刻書、高台欠損、内黒
88	2	ＳＴ117	235	黒色土器	有台坏		68		3	ロクロ	ミガキ	回転糸切	微砂・海綿骨針少量	内黒
88	3	ＳＴ117	113	黒色土器	有台坏	140	52	59.5	4	ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	微砂	内黒
88	4	ＳＴ117	234	黒色土器	坏	130		(50)	4	ロクロ、ケズリ	ミガキ	回転糸切	細砂	内黒
88	5	ＳＴ117	232	黒色土器	坏	151	52	51	5	ロクロ、ミガキ	ミガキ	回転糸切	微砂	内黒
88	6	ＳＴ117	126・260	土師器	甕		102	(77)	6.5	ハケメ	ヘラナデ	蓆編痕	中砂	
88	7	ＳＴ117		土師器	甕	240		(116)	5	ハケメ	ハケメ		中砂	
88	8	ＳＴ117	270	土師器	鉢	130		(53)	7	ハケメ、ナデ	刷毛目、ナデ		中砂	
88	9	ＳＴ120	28	赤焼土器	坏	134	58	53	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	ＲＰ29が下に重なる
88	10	ＳＴ120	29	赤焼土器	坏	136	58	52	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	ＲＰ28が上に重なる
88	11	ＳＴ121	115	須恵器	甕			(99)	6.5	平行タタキ	平行アテ		海綿骨針	
89	1	ＳＴ121・123	105・116	須恵器	甕				15～17	平行タタキ	平行アテ		微砂・海綿骨針	
89	2	ＳＴ121	120	須恵器	甕			(101)	11	平行タタキ	平行アテ		微砂	内外に自然釉
89	3	ＳＴ121	120	須恵器	甕			(126)	7	平行タタキ	平行アテ		微砂	
89	4	ＳＴ121	121	須恵器	甕			(188)	15	ケズリ、平行タタキ	平行アテ		中砂	
90	1	ＳＴ121	90	赤焼土器	有台坏	148	74	63	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂・海綿骨針少量	
90	2	ＳＴ121	91	赤焼土器	坏	124	53	44	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針	
90	3	ＳＴ121	81	赤焼土器	坏		62	42	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
90	4	ＳＴ121	89・97	赤焼土器	坏	138	56	53	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針少量	
90	5	ＳＴ121	237	赤焼土器	坏	130	60	47.5	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂	
90	6	ＳＴ121	244	赤焼土器	坏	130	48	48.5	3.6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英中粒	
90	7	ＳＴ121		赤焼土器	塙			30	8.5	ロクロ、ナデ	ロクロ、カキ目		細砂・海綿骨針	
90	8	ＳＴ121	118	赤焼土器		159		85	5	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		海綿骨針	
90	9	ＳＴ121	94	赤焼土器	甕	220		(136)	8.5	ロクロ、ケズリ	ロクロ		微砂・海綿骨針	
90	10	ＳＴ121	45	土師器	甕	221			6	ハケメ	ロクロ、ヘラナデ		微砂・石英砂	頸部に明瞭な段
90	11	ＳＴ121	90	土師器	甕		76	(28)	3.5	ケズリ	ロクロ、ハケメ	ムシロ	石英粒	
90	12	ＳＴ121	74	土師器	甕	220		(118)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ		細砂	
90	13	ＳＴ121	83	土師器	甕			(105)	9	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		海綿骨針	
91	1	ＳＴ121		土師器	甑（把手付）		71	52	25	ハケメ、ナデ	ナデ		石英粒・細砂	把手部分
91	2	ＳＴ121		土師器	甕			(35)	10	ナデ、ヘラナデ	ナデ		石英粒、細砂	把手先端
91	3	ＳＴ121		土師器	甕	180		63	5	ハケメ、ナデ	ハケメ		細砂・海綿骨針	
91	4	ＳＴ121		土師器	甕	158		(98)	5.5	ハケメ、ナデ	ハケメ		細砂・海綿骨針	
91	5	ＳＴ121	72	土師器	鍋			(52)	7	ハケメ、ナデ	ハケメ		海綿骨針	
91	6	ＳＴ121	78	黒色土器	有台坏	122	60	(43)	4	ロクロ	ロクロ（摩滅により不明）	回転糸切	微砂	内黒
91	7	ＳＴ121	79	黒色土器	有台坏	144	60	59	4	ロクロ	ミガキ	回転糸切	海綿骨針	内黒
91	8	ＳＴ121	124	黒色土器	有台坏	134	60	56	3	ロクロ	ミガキ	静止糸切	海綿骨針	内黒
91	9	ＳＴ121	236	黒色土器	有台坏	129	54	61		ロクロ	ロクロ、ミガキ	不明	海綿骨針	内黒
91	10	ＳＴ121	242	黒色土器	有台坏	129	53	48	4	ロクロ	ロクロ（摩滅により不明）		微砂	口縁基準、内黒
91	11	ＳＴ121		黒色土器	有台坏	135	60	55	3	ロクロ	ミガキ	回転糸切		
91	12	ＳＴ121		黒色土器	大形椀		80	42	3.5	ロクロ		回転糸切	海綿骨針	内黒
91	13	ＳＴ121	122	黒色土器	坏	134	54	49.5	3.5	ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	微砂・海綿骨針	内黒

表３　遺物観察表（３）

図版番号	挿図番号	出土地点	ＲＰ番号	種別	器種	計測値（㎜） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	胎土	備考
91	14	ＳＴ121	115	黒色土器	坏	124	54	45	3.6	ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	微砂・海綿骨針少量	内黒
91	15	ＳＴ123	102	須恵器	甕				8	平行タタキ	青海波・格子目			体上部に灰を被る
92	1	ＳＴ123	104	須恵器	甕			(153)	10	平行タタキ	平行アテ			底部付近破片
92	2	ＳＴ123	255	須恵器	甕			(125)	11.5	平行タタキ	格子目アテ			
92	3	ＳＴ123	255	須恵器	壷			(194)	7	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ヘラナデ	不明	石英細砂	
92	4	ＳＴ123		赤焼土器	坏	125	52	41	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切		
92	5	ＳＴ123	245	赤焼土器	鍋			(68.5)	10	ロクロ	ハケメ		海綿骨針・金ウンモ	
92	6	ＳＴ123		土師器	甑					ナデ（ユビオサエ）	ナデ		細砂	甑把手部分
92	7	ＳＴ123	101	赤焼土器	甕	240		(221)	8	ナデ、ロクロ、ケズリ	ヘラナデ		石英粒・海綿骨針	
93	1	ＳＴ123	106	土師器	甕		75	(32)	7	ハケメ、ケズリ	ナデ		石英粒	
93	2	ＳＴ123	245	土師器	甕		76	(66)	5	ケズリ	ハケメ、ナデ		海綿骨針	
93	3	ＳＴ123	257	土師器	鉢	250		(124)	8	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ			
93	4	ＳＴ123		赤焼土器	甕	196		(122)	6.5	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ヘラナデ	蓆編痕	石英粒多量	
93	5	ＳＴ123	108	赤焼土器	甕	196		(72)	7	ロクロ、ケズリ	ロクロ	蓆編痕	細砂・海綿骨針	
93	6	ＳＴ123	112	土師器	有台坏		56			ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	海綿骨針	内面非黒色化
93	7	ＳＴ123	106	土師器	甕				4～6	ハケメ	ハケメ		海綿骨針	
93	8	ＳＴ123	108	土師器	甑	280		(300)	7	ハケメ、ナデ、オサエ（把手）	ハケメ、オサエ（把手）		海綿骨針	
93	9	ＳＴ255（Ｆ）		須恵器	蓋	152		17	4.5	ロクロ	ロクロ	天井部、回転糸切後、ヘラケズリ	細砂	
93	10	ＳＴ255（Ｙ）	170	須恵器	蓋	134		(34)	5	ロクロ	ロクロ	天井部、糸切、ナデ	粗砂・海綿骨針	
94	1	ＳＴ255	127	須恵器	有台坏		69	(17)	7	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針	内外に朱墨痕
94	2	ＳＴ255（Ｆ）		須恵器	坏	52		(7)	4.5			回転糸切	石英細砂・海綿骨針	
94	3	ＳＴ255（Ｆ）		須恵器	坏	144	70	39	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	外面に煤、内底面に磨痕
94	4	ＳＴ255（Ｆ）	128	須恵器	坏	124	59	34	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
94	5	ＳＴ255		須恵器	甕				10	平行タタキ	平行アテ・青海波文		細砂	
94	6	ＳＴ255	240	赤焼土器	坏	128	52	38	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	粗砂多量	内底面に黒斑
94	7	ＳＴ255（Ｆ）		赤焼土器	甕	168		(37)	5	ロクロ	ハケメ、カキ目		微砂・海綿骨針	
94	8	ＳＴ255		赤焼土器	甕	153			4	ロクロ	ロクロ		微砂・海綿骨針少量	
94	9	ＳＴ255		赤焼土器	甕	218		(67)	8	ロクロ目、カキメ	ヘラナデ		細砂・海綿骨針	
94	10	ＳＴ255（Ｆ）		土師器	甕	220		(56)	5.5	ハケメ	ハケメ		中砂	
94	11	ＳＴ255		赤焼土器	甕	213			6	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		微砂	
94	12	ＳＴ255（Ｆ）		赤焼土器	甕		82	(265)	6	ロクロ、ケズリ、ハケメ、ヘラナデ	ロクロ、カキ目、ヘラナデ		中砂	
95	1	ＳＴ256	129	須恵器	有台坏	127	62	(47)	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
95	2	ＳＴ256	131	須恵器	有台坏	123	63	50	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
95	3	ＳＴ256	246	須恵器	坏	134	60	(42.5)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
95	4	ＳＴ256	247	須恵器	坏	135	62	(39)	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
95	5	ＳＴ256		須恵器	坏	134	56	39.5	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
95	6	ＳＴ256	136	須恵器	坏	139	65	47	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
95	7	ＳＴ256	132	須恵器	坏	127	54	(37)	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
95	8	ＳＴ256	131	須恵器	甕			(85)	7.5	平行タタキ	平行アテ		海綿骨針	
95	9	ＳＴ256		赤焼土器	甕	220		(53)	7	ロクロ	ロクロ		石英細砂・海綿骨針	
95	10	ＳＴ256	215	赤焼土器	甕	159		(39.5)	4.5	ロクロ	ロクロ		石英細砂	
95	11	ＳＴ256	137	赤焼土器	甕	209		(11)	5	ロクロ	ロクロ		細砂・海綿骨針少量	
95	12	ＳＴ256	169	赤焼土器	甕	218		(70.5)	7	ロクロ、カキメ	ロクロ、ナデ		細砂・海綿骨針	
95	13	ＳＴ256	138他	赤焼土器	鉢	145			5	ロクロ	ロクロ		細砂・海綿骨針	
95	14	ＳＴ256	135	土師器	甕		90	(113)	5	ハケメ	ハケメ、ナデツケ	蓆編痕	細砂	
96	1	ＳＴ256	138	赤焼土器	甕	216		(210)	6	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ナデ		海綿骨針	
96	2	ＳＴ256	138	赤焼土器	甕	216	88	331	7	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ナデ		海綿骨針	
96	3	ＳＴ256	165	黒色土器	坏		82	(30)	8	ロクロ、回転ヘラケズリ	ロクロ、ミガキ	回転ヘラ切	細砂・海綿骨針	両黒
96	4	ＳＴ256		土師器	甕	226			6	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ		中砂粒多量	
96	5	ＳＴ256	131	青磁	碗			(12.5)	4.5	施釉	施釉			鎬蓮弁文
96	6	ＳＴ257	154	赤焼土器	有台坏		64		6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
96	7	ＳＴ257 ＥＰ287	153	赤焼土器	坏	132	58	49	4.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
96	8	ＳＴ257		赤焼土器	鉢	138		(89)	6	ロクロ	ロクロ		細砂	
96	9	ＳＴ257	160	土師器	甕		78	(47)	5.5	ハケメ	ハケメ、ヘラナデ	蓆編痕	細砂・海綿骨針	
96	10	ＳＴ257	161	土師器	甕	156			5	ハケメ、ナデ	ハケメ、ヘラナデ		海綿骨針	
96	11	ＳＴ257	144、他	赤焼土器	甕	172		(130)	6	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ナデ		微砂	
97	1	ＳＴ257	220	土師器	甕	248	130	(370)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		細砂・海綿骨針少量	ごく薄手
97	2	ＳＴ257	125	土師器	甕	220		(122)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		中砂	
97	3	ＳＴ258		須恵器	坏	138		35	4	ロクロ	ロクロ		細砂	内面調整・胎土共に粗雑

表４　遺物観察表（４）

図版番号	挿図番号	出土地点	ＲＰ番号	種別	器種	計測値（㎜） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	胎土	備考
97	4	ＳＴ258	179	赤焼土器	坏	130	52	46	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	石英細砂	
97	5	ＳＴ258	180、184	赤焼土器	坏	122	50	43.5	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
97	6	ＳＴ258		赤焼土器	甕	140		85	4	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		中砂	
97	7	ＳＴ258	177、178	黒色土器	坏	134	62	57	3	ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	微砂	内黒
97	8	ＳＴ258（Ｆ）	184、196	土師器	坏	142	59	56.5	4	ロクロ	ミガキ	回転糸切	微砂	
97	9	ＳＴ258	181、193	土師器	鉢	226		(79)	5	ケズリ、ナデ	ロクロ、ミガキ		細砂・海綿骨針	
97	10	ＳＴ258	193	土師器	甕	130		(56)	6.5	ハケメ、ナデ	ハケメ		細砂	
97	11	ＳＴ258	189	土師器	甕	240		(105)	7	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		中砂粒	
98	1	ＳＴ258	180、191	土師器	甕	258		(182)	6	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		中砂	
98	2	ＳＴ258	185	土師器	甕	105		(111)	4.5	ハケメ、ユビオサエ	ハケメ		中砂	
98	3	ＳＴ258	183	土師器	甕	236		(180)		ハケメ、ナデ	輪積痕、ハケメ、ナデ		海綿骨針少量	
98	4	ＳＴ258	187、189	土師器	甕		103	(206)	5	ハケメ	ハケメ	蓆編痕	海綿骨針少量	
98	5	ＳＴ258	197	土師器	甕	206		(155)	5	ハケメ、ナデ	楕円形アテ具痕		海綿骨針	
98	6	ＳＴ258		土師器	甕							蓆編痕	海綿骨針	
99	1	ＳＴ258	179、他	土師器	甕	248	88	上部(132)下部(190)	6	ハケメ、ナデ	ハケメ		粗砂	
99	2	ＳＴ258		土師器	甕	204		(105)	6.5	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		中砂・海綿骨針	
99	3	ＳＴ259		須恵器	坏				3	ロクロ、ケズリ	ロクロ		微砂	把手付坏の把手部
99	4	ＳＴ259		須恵器	壷		86			ケズリ	ナデ	不明	石英砂	
99	5	ＳＴ259		須恵器	壷	202		(100)		ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ		石英細砂	輪積痕あり
99	6	ＳＴ259（Ｆ）		須恵器	甕			(78)	9	タタキ	アテ痕			
99	7	ＳＴ259	216	赤焼土器	坏	132	48	48	4	ロクロ	ロクロ	糸切、摩滅		
99	8	ＳＴ259		赤焼土器	甕	240		(120)	7	ロクロ	ロクロ		海綿骨針少量	
99	9	ＳＴ259	217	黒色土器	有台坏		61	(42)	6	ロクロ	ロクロ痕、ミガキ	不明	微砂	内黒
99	10	ＳＴ260		須恵器	坏		50	(16)	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	磨痕・墨痕あり、転用硯
100	1	ＳＴ260	218	須恵器	壷		76	(48)	7	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	反転
100	2	ＳＴ260		赤焼土器	坏	140		(55)	4	ロクロ	ロクロ		微砂・海綿骨針	
100	3	ＳＴ260	220	赤焼土器	甕	140		(89)	6	ロクロ、ケズリ	ヘラナデ	ロクロ	細砂	
100	4	ＳＴ260		黒色土器	有台坏			(28)	3	ミガキ	ミガキ	回転糸切		両黒
100	5	ＳＴ260	220	土師器	鍋			(114)	7	ハケメ、ナデ			海綿骨針	
100	6	ＳＴ260	220	土師器	鍋			(106)	8.5	ナデ、ハケメ			海綿骨針	
100	7	ＳＴ260	219	土師器	甕	239	94	320	7	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	蓆編痕	中砂・海綿骨針少量	輪積痕あり
100	8	ＳＴ260		土師器	甕	258			6	ナデ、ハケメ	ハケメ		中砂少量	
100	9	ＳＴ261		須恵器	坏		54	(19)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	内底面に磨痕、外底面に煤ないし墨痕
101	1	ＳＴ261	226、231	須恵器	甕			(190)	13～20	タタキ、ヘラナデ	ハケメ、アテ痕		微砂	
101	3	ＳＴ261		赤焼土器	坏	135	60	47	5.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
101	4	ＳＴ261	224	赤焼土器	坏	140	50	35	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
101	5	ＳＴ261		赤焼土器	坏	138	58	41	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	
101	6	ＳＴ261	224	赤焼土器	坏	125		(44)	3	ロクロ	ロクロ		石英細砂	
101	7	ＳＴ261		赤焼土器	甕	206		(94)	7	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		中砂多量	
101	8	ＳＴ261	224	赤焼土器	甕	220		(185)	6.5	ロクロ、ケズリ	ハケメ、ヘラナデ		石英細砂	
102	1	ＳＴ261	230	赤焼土器	甕	166		(181)	7	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ナデ		細砂	
102	2	ＳＴ261	232	赤焼土器	甕	216		(187)	6	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ナデ		海綿骨針	
102	3	ＳＴ261		赤焼土器	甕	252		(156)	6	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ナデ		細砂多量	
102	4	ＳＴ261	232	赤焼土器	甕	150		(57)	4.5	ロクロ	ロクロ		細砂多量	
102	5	ＳＴ261		赤焼土器	甕		114	(100)		ケズリ	ロクロ		細砂多量	
102	6	ＳＴ261	232	赤焼土器	甕	240		(144)	7.5	ロクロ、ケズリ	ロクロ		中砂・海綿骨針少量	下半に煤付着
102	7	ＳＴ261（Ｆ）		黒色土器	有台坏		68	(23)	6	ロクロ、ミガキ	ミガキ	回転糸切	細砂・海綿骨針	両黒
102	8	ＳＴ261		黒色土器	有台坏		62	(31)	4	ロクロ	ロクロ、ミガキ		細砂・海綿骨針少量	内黒
102	9	ＳＴ261		黒色土器	有台坏		58			ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	微砂・海綿骨針少量	内黒
102	10	ＳＴ261	228	黒色土器	坏		44	(19)	3	ロクロ	ミガキ	回転糸切	石英細砂	内黒
102	11	ＳＴ261	221	黒色土器	坏	178		(60)	3	ロクロ	ミガキ			内黒
103	1	ＳＴ261	230	土師器	甕	210		(95)		ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		中砂	
103	2	ＳＴ317		須恵器	坏	142	78	38		ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
103	3	ＳＴ317		須恵器	坏		100		7	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	内底面に磨痕あり
103	4	ＳＴ317		赤焼土器	坏	128		(35)	3	ロクロ	ロクロ		細砂	
103	5	ＳＴ317（Ｆ）		赤焼土器	甕	168		(42)	6	ロクロ	ロクロ		海綿骨針	
103	6	ＳＴ480、500		須恵器	有台坏		68	(28)	4.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
103	7	ＳＴ480		須恵器	坏	142	70	45	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	細かいロクロ痕
103	8	ＳＴ480		須恵器	坏	128		(35)	3	ロクロ	ロクロ		海綿骨針	
103	9	ＳＴ480		須恵器	壷		66	(35)	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
103	10	ＳＴ480（Ｆ）		赤焼土器	坏		58	(40)	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	軟質の生焼製品
103	11	ＳＴ480		土師器	鉢	122		(44)	5	ハケメ、ナデ	ナデ		微砂	
103	12	ＳＴ483	308	須恵器	蓋	162		28		ロクロ、ケズリ	ロクロ		海綿骨針	
103	13	ＳＴ483	266、280	須恵器	坏	132	54	44	2.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	歪み、半還元製品
103	14	ＳＴ483（Ｆ）		須恵器	甕				10	平行タタキ	平行アテ		微砂	
103	15	ＳＴ483（Ｆ）		須恵器	甕				10	平行タタキ	平行アテ		海綿骨針	
103	16	ＳＴ483	275	赤焼土器	坏	131	60	44.5	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針少量	

表５　遺物観察表（５）

図版番号	挿図番号	出土地点	ＲＰ番号	種別	器種	計測値（㎜） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	胎土	備考
103	17	ＳＴ483	279	赤焼土器	坏	130	58	45	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
103	18	ＳＴ483	305	赤焼土器	坏	130		(43)	5	ロクロ	ロクロ		海綿骨針少量	
104	1	ＳＴ483	304	赤焼土器	鉢		80	(97)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	中砂	
104	2	ＳＴ483		赤焼土器	甕	250		(50)	7	ロクロ	ロクロ		海綿骨針	
104	3	ＳＴ483	276	赤焼土器	甕	184		(78)	7	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ナデ		細砂・海綿骨針少量	
104	4	ＳＴ483	309	赤焼土器	甕	222		(115)	7	ロクロ	ロクロ		石英細砂	
104	5	ＳＴ483	276、他	赤焼土器	甕	178		(147)	7	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ハケメ		海綿骨針	
104	6	ＳＴ483	305	赤焼土器	甕	140		(67)	3	ロクロ	ロクロ、ナデ		海綿骨針	
104	7	ＳＴ483		黒色土器	坏	120		(33)	5	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ		細砂・海綿骨針少量	両黒
104	8	ＳＴ483（Ｆ）		黒色土器	有台坏		60	(36)	4.5	ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	中砂	内黒
104	9	ＳＴ500		中世陶器	甕				10	ロクロ	ロクロ		微砂	
104	10	ＳＴ522	318	須恵器	有台坏		65	(15)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
104	11	ＳＴ522	317	須恵器	坏	138	54	44	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針少量	
104	12	ＳＴ522（Ｙ）		須恵器	坏		50	(18)	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
104	13	ＳＴ522		須恵器	坏	138	60	43	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針	
104	14	ＳＴ522（Ｆ）	319	須恵器	坏		56	(23)	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
104	15	ＳＴ522		須恵器	坏	150		(40)	5	ロクロ	ロクロ		海綿骨針	墨書「家」
105	1	ＳＴ522		須恵器	坏	132	60	40	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・海綿骨針少量	
105	2	ＳＴ522		須恵器	甕				5	平行タタキ	同心円文アテ			
105	3	ＳＴ522		土師器	鍋	460		(136)	6	ハケメ、ナデ、ユビオサエ	ハケメ		微砂	
105	4	ＳＴ522	316	黒色土器	有台坏	142	58	58	4	ロクロ	ロクロ、ミガキ	回転糸切	細砂	内黒
105	5	ＳＴ522（Ｆ）		土師器	甕	220		(41)	6	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		石英細砂	外面に煤
105	6	ＳＴ522		土師器	甕			(51)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ		微砂	
105	7	ＳＴ522	310	土師器	甕	260		(275)	6	ハケメ	ハケメ		細砂	
105	8	ＳＴ537	283	須恵器	甕				9	ハケメ	ハケメ、ナデ			外面自然釉、内面青海波文擦り消し
106	1	ＳＴ537	287	赤焼土器	坏		56	30	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
106	2	ＳＴ537		赤焼土器	鉢	125		(78)	3	ロクロ、ナデ	ハケメ		石英細砂	
106	3	ＳＴ537（Ｆ）	285	赤焼土器	甕	244		(85)	4	ロクロ、ナデ	ロクロ		石英細砂	
106	4	ＳＴ537（Ｙ）		赤焼土器	甕		120	(169)	8	ケズリ	ナデ		細砂	
106	5	ＳＴ537		赤焼土器	甕	232		(82)	7	ロクロ	ロクロ、ナデ		海綿骨針	
106	6	ＳＴ537		黒色土器	有台坏	142	56	62	4	ロクロ	ロクロ、ミガキ		海綿骨針	内黒
106	7	ＳＴ537	281	黒色土器	有台坏	132	68	55	5	ロクロ、ナデ	ミガキ	回転糸切	海綿骨針	内黒
106	8	ＳＴ537（Ｆ）		土師器	甕	260		(71)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ		微砂	
106	9	ＳＴ537（Ｆ）		土師器	甕	238		(99)	5	ハケメ	ハケメ			
106	10	ＳＴ539		須恵器	坏	139	50	50	3.5	ロクロ	ロクロ	手持ヘラケズリ	海綿骨針	
106	11	ＳＴ539（Ｆ）		須恵器	長頸壷			(116)	10	ロクロ、カキメ、ヘラケズリ	ロクロ		微砂	
107	1	ＳＴ539		赤焼土器	甕	194		(55)		ロクロ	ロクロ		海綿骨針少量	
107	2	ＳＴ539（Ｆ）		赤焼土器	甕			(100)	5.5	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ		海綿骨針	
107	3	ＳＴ539		土師器	甕	185		(62)	5	ハケメ	ハケメ		微砂	
107	4	ＳＴ539（Ｆ）		土師器	甕			(118)	4	ハケメ	ハケメ		細砂・中砂	
107	5	ＳＴ543（Ｆ）		須恵器	坏	142	53	43	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針・中砂	
107	6	ＳＴ543	297	須恵器	坏	140	52	48	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	粗砂少量	
107	7	ＳＴ543	296	須恵器	坏	138	54	48	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	内面口縁部に煤付着
107	8	ＳＴ543（Ｆ）		須恵器	甕			(42)	6	格子風平行タタキ、ナデ、カキメ	ロクロ、ナデ、青海波アテ		海綿骨針	
107	9	ＳＴ543	300	須恵器	甕				10	平行タタキ	格子目（上）、青海波（下）、		微砂	
107	10	ＳＴ543	299	赤焼土器	有台坏		64	(27)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	墨書
107	11	ＳＴ543		赤焼土器	鉢	162		(37)	5.5	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		石英細砂	
107	12	ＳＴ543	299	黒色土器	有台坏		56	(28)	3	ロクロ	ミガキ	回転糸切	微砂	内黒
107	13	ＳＴ543（Ｙ）		土師器	鉢	106		(71)	4	ハケメ、ナデ	ハケメ		中砂	
108	1	ＳＴ543（Ｆ）		土師器	鍋			(34)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ		細砂	
108	2	ＳＴ543（Ｙ）		土師器	甕	182		(167)	5.5	ハケメ、ナデ	ハケメ、ヘラナデ		微砂	
108	3	ＳＴ543	303	土師器	甕	166		(100)	4	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		中砂多量	ハケメ単位粗大
108	4	ＳＴ543（Ｆ）		土師器	鉢	154		(53)	4	ハケメ、ナデ	ナデ		中砂	
108	5	ＳＴ684		須恵器	坏	130	58	38	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
108	6	ＳＴ684		須恵器	坏	138	52	44	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針・細砂	
108	7	ＳＴ684		赤焼土器	鉢	140		22	3.5	ロクロ	ロクロ		微砂	
108	8	ＳＥ481		須恵器	蓋			(13)	8	ロクロ	ロクロ、回転ヘラケズリ		微砂	
108	9	ＳＥ481（Ｆ）		須恵器	蓋	156		(17)	4	ロクロ	ロクロ		海綿骨針少量	
108	10	ＳＥ481掘方		須恵器	坏	145	56	51	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針微量	
108	11	ＳＥ481（Ｆ）		須恵器	坏	146	56	41	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量・微砂	
108	12	ＳＥ481（Ｆ）		須恵器	坏		58	(25.5)	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
108	13	ＳＥ481内外		須恵器	坏		46	(11.5)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
108	14	ＳＥ481内下		須恵器	壷			(91)	7	手持ケズリ、回転ヘラケズリ	ロクロ		海綿骨針	

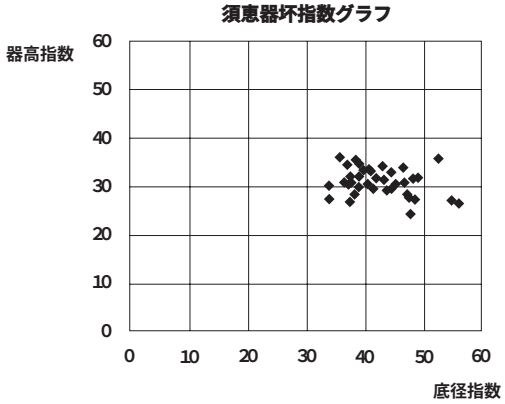
表６　遺物観察表（６）

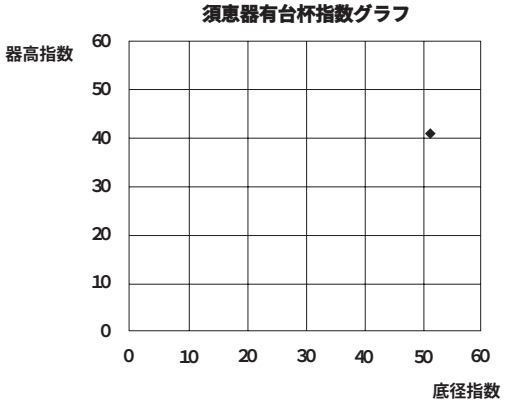
図版番号	挿図番号	出土地点	ＲＰ番号	種別	器種	計測値（㎜） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	胎土	備考
108	15	ＳＥ481内		須恵器	壷		134	(59)	7	ハケメ、回転ヘラケズリ	ヘラナデ、ユビオサエ	回転糸切	粗砂・中砂	
108	16	ＳＥ481		須恵器	壷	102		(52)	5	ロクロ	ロクロ		細砂少量・海綿骨針少量	
109	1	ＳＥ481（Ｆ）		須恵器	壷			(48)	6	ロクロ	ロクロ		海綿骨針・微砂	
109	2	ＳＥ481		須恵器	甕			(18)	8				微砂	
109	3	ＳＥ481		須恵器	壷		98	(87)	9	ヘラケズリ	ナデ、アテ痕		粗砂少量	
109	4	ＳＥ481		須恵器	甕				9	平行タタキ	青海波文		細砂	内面に墨痕
109	5	ＳＥ481		須恵器	甕				11.5	平行タタキ	平行アテ		細砂	
109	6	ＳＥ481		須恵器	甕				12	平行タタキ	平行アテ		海綿骨針少量・微砂	
109	7	ＳＥ481		須恵器	甕	43		(193)	10	平行タタキ、ナデ	ロクロ、ナデ、青海波文		細砂	
109	8	ＳＥ481		赤焼土器	有台坏		69	(39)	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
109	9	ＳＥ481		赤焼土器	坏	129	56	45.5	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
109	10	ＳＥ481（Ｆ）		赤焼土器	坏	140	56	48	5.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
109	11	ＳＥ481（Ｆ）		赤焼土器	坏	136	54	41.5	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂・海面骨針	
110	1	ＳＥ481		赤焼土器	坏		62	(32)	4	ロクロ	ミガキ	回転糸切	微砂	非黒色化処理
110	2	ＳＥ481（内）		赤焼土器	鉢	358		(154)	6	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ハケメ、ナデ		微砂	
110	3	ＳＥ481		赤焼土器	甕	214		(88)	7	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ナデ		細砂	
110	4	ＳＥ481内		赤焼土器	甕	184		(76)	7	ロクロ	ロクロ、ナデ		細砂	
110	5	ＳＥ481（Ｆ）		黒色土器	有台坏		74	(18)	8	ミガキ	ミガキ	回転糸切	細砂	両黒
110	6	ＳＥ481（Ｆ）		黒色土器	有台坏	188	77	78	5	ロクロ	ミガキ	回転糸切	微砂	内黒
110	7	ＳＥ481（Ｆ）		黒色土器	有台坏		74	(34)	3	ロクロ	ミガキ、回転ヘラケズリ	回転糸切	微砂	内黒
110	8	ＳＥ481（Ｆ）		黒色土器	有台坏		60	(49)	5	ロクロ	ミガキ	回転糸切	海綿骨針少量	内黒
110	9	ＳＥ481（Ｆ）		黒色土器	有台坏		48	(21.5)	4	ロクロ	ミガキ	回転糸切	海綿骨針少量	内黒
110	10	ＳＥ481（Ｆ）		黒色土器	有台坏		62	(37)	3.5	ロクロ	ミガキ	回転糸切	微砂	内黒
110	11	ＳＥ481		黒色土器	有台坏	148		(47)	3.5	ロクロ	ロクロ、ミガキ		微砂	内黒
110	12	ＳＥ481		黒色土器	有台坏	142		(49)	4	ロクロ	ミガキ		海綿骨針少量	内黒
110	13	ＳＥ481（Ｆ）		土師器	甕	172		(40)	6.5	刷毛目、ナデ	ヘラナデ		中砂少量	胎土水漉粘土
110	14	ＳＫ40		赤焼土器	甕	232		(70)	6	ロクロ、ナデ、カキメ	ロクロ痕、ヘラナデ		細砂多量	内面に赤色付着物
111	1	ＳＫ497		須恵器	坏	142	60	45	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
111	2	ＳＫ497		須恵器	台付壷		78	(66)	5	ロクロ	ロクロ		海綿骨針	
111	3	ＳＫ497		赤焼土器	有台坏	154	60	63	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
111	4	ＳＫ498		須恵器	有台坏		64	(43)	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
111	5	ＳＫ498		赤焼土器	坏	140		(49)	4.5	ロクロ	ロクロ		中砂少量	
111	6	ＳＫ499		須恵器	坏	138	56	42	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
111	7	ＳＫ499		黒色土器	有台坏		81	(50)	4.5	ロクロ	ミガキ	回転糸切	海綿骨針	内黒
111	8	ＳＫ528		中世陶器	擂鉢				15	ロクロ	擦痕		中砂	瓷器系陶器
111	9		291	中世陶器	擂鉢				14	ロクロ、ナデ	ロクロ、卸目		中砂	内外施釉
111	10	ＳＫ513		須恵器	有台坏		68	(18)	5.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	
111	11	ＳＫ709		須恵器	坏		46	(22)	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂	
111	12	ＳＫ709		中世陶器	片口鉢			(75)	9	ロクロ、ユビオサエ	ロクロ、ユビオサエ		中砂	瓷器系陶器
111	13	ＳＫ105	238	中世陶器	甕				16	ロクロ、ナデ	ロクロ		粗砂・小礫	
111	14	ＳＨ319		赤焼土器	甕	209		(112)	5.5	ロクロ目、ケズリ	ロクロ		細砂多量	
112	1	ＥＢ505		須恵器	坏	128	60	39	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
112	2	ＳＰ16		須恵器	坏	148	56	45.5	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
112	3	ＳＰ400		須恵器	坏	136	56	45	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
112	4	ＳＰ418		赤焼土器	坏		49	21	3.5	ロクロ	ロクロ		海綿骨針少量	
112	5	ＳＰ457		赤焼土器	坏	134	66	51	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	
112	6	ＳＰ652	295	赤焼土器	甕		90	63	8	ロクロ、手持ちケズリ	ロクロ、ヘラナデ		中砂	
112	7	ＳＤ111	21	中世陶器	擂鉢				14.3	ロクロ	ロクロ、卸目（三本以上）	不明	石英粗砂	越前系
112	8	ＳＤ114		須恵器	壷		42	42	6	ロクロ	ロクロ	静止糸切	粗砂	体部内面に黒色附着物
112	9	ＳＤ114	35	かわらけ	皿	82	53	17	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂・金雲母	
112	10			かわらけ	皿	77		24	8	ナデ	ナデ		微砂	非ロクロ
112	11	ＳＤ114	34	かわらけ	皿	77	55	18	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	微砂・金雲母	
112	12	ＳＤ114		洙洲系陶器	擂鉢		123		11	ロクロ	ロクロ、卸目	静止糸切	海綿骨針・微砂	
112	13	ＳＤ114		青白磁	梅瓶				6	施釉、唐草文	施釉、ロクロ			釉調10ＢＧ７／１明灰色
112	14	ＳＤ114		青白磁	梅瓶				5	施釉、唐草文	施釉、ロクロ			釉調10ＢＧ７／１明灰色
112	15	ＳＤ114		青磁	碗				3.5	施釉、凌蓮弁文	施釉			釉調7.5Ｙ５／１灰色
112	16	ＳＤ116（Ⅳ－Ⅴ）	131	青磁	碗				4	施釉、凌蓮弁文	施釉			釉調2.5ＧＹ５／１緑灰色
112	17	ＳＤ116	24	青白磁	梅瓶				5	施釉、唐草文	施釉、ロクロ			釉調10ＢＧ７／１明灰色
112	18	ＳＧ318		中世陶器	擂鉢				10	ロクロ	ロクロ		中砂	筋壺
112	19	ＳＧ318		中世陶器	甕				14	ロクロ、二筋	ナデ			外面に灰緑色釉が厚く附着

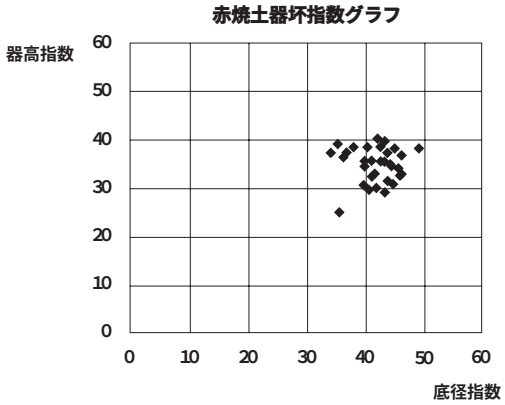
表７　遺物観察表（７）

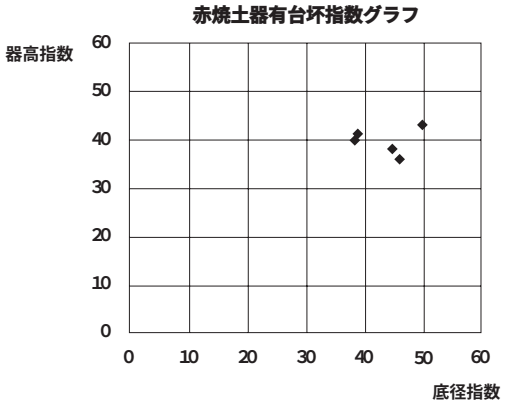
図版番号	挿図番号	出土地点	ＲＰ番号	種別	器種	計測値（㎜） 口径	底径	器高	器厚	調整 外面	内面	底部	胎土	備考
113	1	ＳＸ119		須恵器	有台坏		74	(17)	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
113	2	ＳＸ687	312	須恵器	壷	58		(108)		ロクロ	ロクロ、ナデ		中砂	
113	3	Ａ－４（Ⅳ－Ⅴ）		黒色土器	坏	138	52	56	3.5	ロクロ	ミガキ	回転糸切	微砂	内黒
113	4	Ａ－５（Ⅳ－Ⅴ）		須恵器	坏	129	68	46	4.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	墨書
113	5	Ａ－10（Ⅱ）		赤焼土器	蓋	106				ロクロ、ケズリ	ロクロ		海綿骨針	
113	6	Ａ－10（Ⅱ）		須恵器	坏	130	52	43	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
113	7			須恵器	坏		51			ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	墨書「守」
113	8	Ａ－10（Ⅱ）		赤焼土器	坏	144		55	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
113	9	Ａ．Ｂ－10（Ⅱ）		赤焼土器	甕	240		(97)	7	ロクロ、ナデ	ヘラナデ		海綿骨針少量	
113	10	Ａ－10（Ⅱ）		赤焼土器	甕	158		(70)	6	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		海綿骨針少量	
113	11	Ａ－10（Ⅱ）、Ｂ－11（Ⅱ）		土師器	甕	228		(142)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ		細砂	
113	12	Ａ－10（Ⅱ）、Ｃ－９・10（Ⅳ－Ⅴ）		土師器	甕	220		(91)	6	ヘラナデ、ユビナデ	ハケメ、ナデ		細砂	内面に赤色顔料、塗布か使用によるかは不明
113	13	Ａ－10（Ⅱ）		土師器	甕	130		(63)	6	ハケメ、ナデ	ハケメ		中砂少量	
114	1	Ａ－10（Ⅱ）		土師器	甕	248		(132)	5	ハケメ、ナデ	ハケメ、ヘラナデ		細砂	
114	2	Ａ－10（Ⅱ）・Ｂ－11（Ⅱ）		土師器	甕	132	70	(124)	5	ハケメ	ハケメ	蓆編痕	細砂	
114	3	Ａ・Ｂ－６（Ⅳ－Ⅴ）		須恵器	坏	143	49	43	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
114	4	Ａ・Ｂ－６（Ⅳ－Ⅴ）		赤焼土器	坏	141	50	55	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂・粗砂少量	
114	5	ＳＥ481とＡ・Ｂ－６（Ⅳ－Ⅴ）接合		須恵器	壷	頸径67	82	(167)	6	ロクロ	ロクロ	不明	海綿骨針少量・微砂	
114	6	Ａ・Ｂ－６（Ⅳ－Ⅴ）		赤焼土器	坏	142	60	57	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
114	7	Ｂ－９		須恵器	坏	128		(40)	4	ロクロ	ロクロ		海綿骨針	
114	8	Ｂ・Ｃ－６（Ⅳ－Ⅴ）		赤焼土器	坏	140	48	52	4.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂	
114	9	Ｃ－９・10（Ⅳ－Ⅴ）		須恵器	坏	135	51	36	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	底外面に墨痕、字形不明
114	10	Ｃ－９・10（Ⅳ－Ⅴ）		赤焼土器	有台坏	182	70	72	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針少量	
114	11	Ｃ－10（Ⅳ－Ⅴ）		須恵器	蓋	紐39				ロクロ	ロクロ		海綿骨針	
114	12	Ｈ－４（Ⅳ）		黒色土器	有台坏	140		(52)		ロクロ	ミガキ	回転糸切	海綿骨針少量	内黒
114	13	Ｇ－23・24		土師器	甕	220		(58)	6	ハケメ、ナデ	ハケメ、ヘラナデ			
115	1	Ｇ・Ｈ－25・26		土師器	鍋	380		(177)	6	ハケメ、ナデ	ハケメ		海綿骨針	
115	2	Ｎ－26（Ⅳ）		須恵器	有台坏		64			ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
115	3	Ｈ・Ｉ－24・25（Ⅳ－Ⅴ）		土師器	鍋			(81)	6	ハケメ、ナデ	ハケメ			
115	4	Ｈ・Ｉ－27・28		土師器	甕					ハケメ、ナデ	ハケメ		細砂	
115	5	Ｋ－36（Ⅳ－Ⅴ）		須恵器	坏	139	52	42	3.5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
115	6	地点層位不明		須恵器	坏		52	(12)	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	墨書「上」
115	7	地点層位不明		須恵器	坏	132	57	45	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
115	8	南側地点		須恵器	坏	144	49	39	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	海綿骨針	
115	9	ＳＥ481		須恵器	風字硯		70(縦)	56(巾)	8	ケズリ、ナデ	ケズリ、ナデ		海綿骨針少量	残欠
115	10	ＳＴ121	1	須恵器	風字硯								海綿骨針	完形
116	1	ＳＴ117	ＲＱ10	石製品	砥石	61	57.5	17	115					
116	2	ＳＴ117	ＲＱ５	石製品	砥石	127	87	37	690					
116	3	ＳＴ257（Ｆ）		石製品	砥石	35	18	16	9.3					
116	4	ＳＴ257	ＲＱ411	石製品	砥石	24	21		4.8					
116	5	ＳＴ123		石製品	砥石	75	39		60					
116	6	ＳＫ40、Ｊ－36		石製品	砥石	53	43	15	76					
116	7	ＳＰ398		石製品	砥石	59	35	21	49					
116	8	Ｂ－10（Ⅱ）		石製品	砥石	50	18	8	13					
116	9	ＳＫ528		石製品	砥石	73	74	47	388					
116	10	Ｉ・Ｊ－26（Ⅳ－Ⅴ）		石製品	砥石	569	41	21.5	94					
116	11	Ｈ－26・27（Ⅳ－Ⅴ）		石製品	紡錘車	78	52	11	37					
117	1	ＳＥ481		木製品	折敷	174	21	8						
117	2	ＳＥ481		木製品	削屑	115	14.5	1						
117	3	ＳＥ481		木製品	井戸枠部材	360	94	①49、②29						
117	4	ＳＥ481		木製品	井戸枠部材	455	143	72						
117	5	ＳＥ481		木製品	井戸枠部材	569	124	①15、②26						
117	6	ＳＥ481		木製品	井戸枠	965	212	20						
						長さ	幅	厚さ	重量(g)					

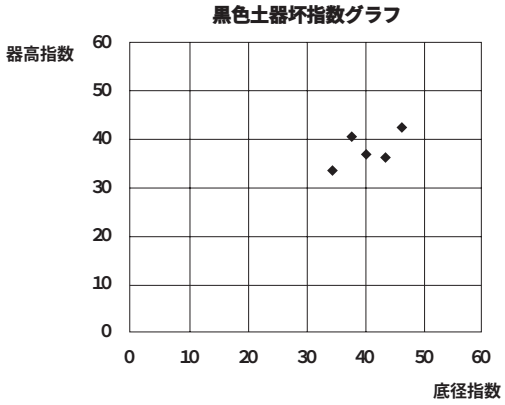
表８　坏・有台坏指数グラフ

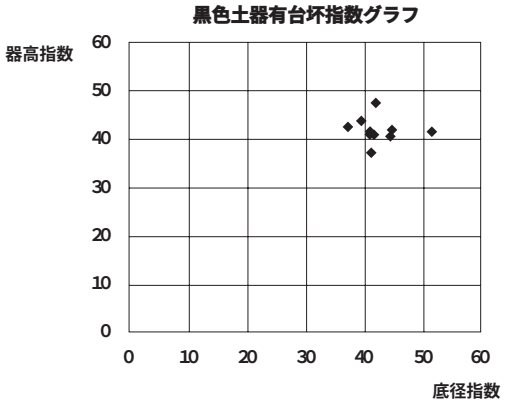


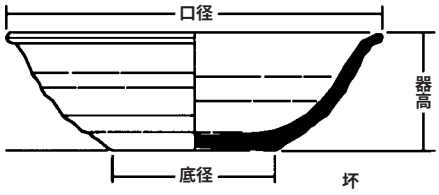


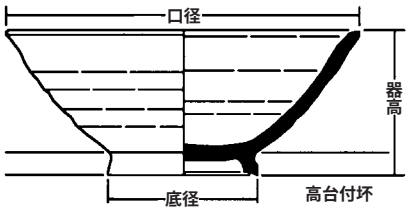












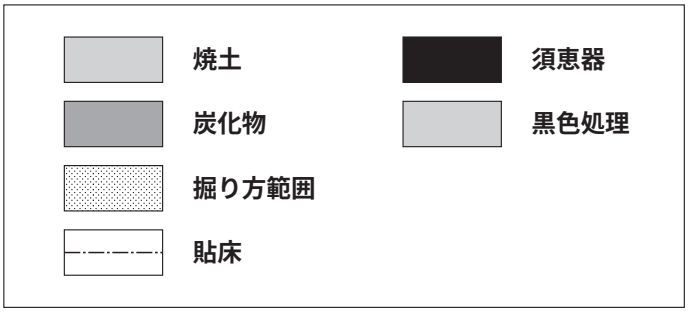
凡例

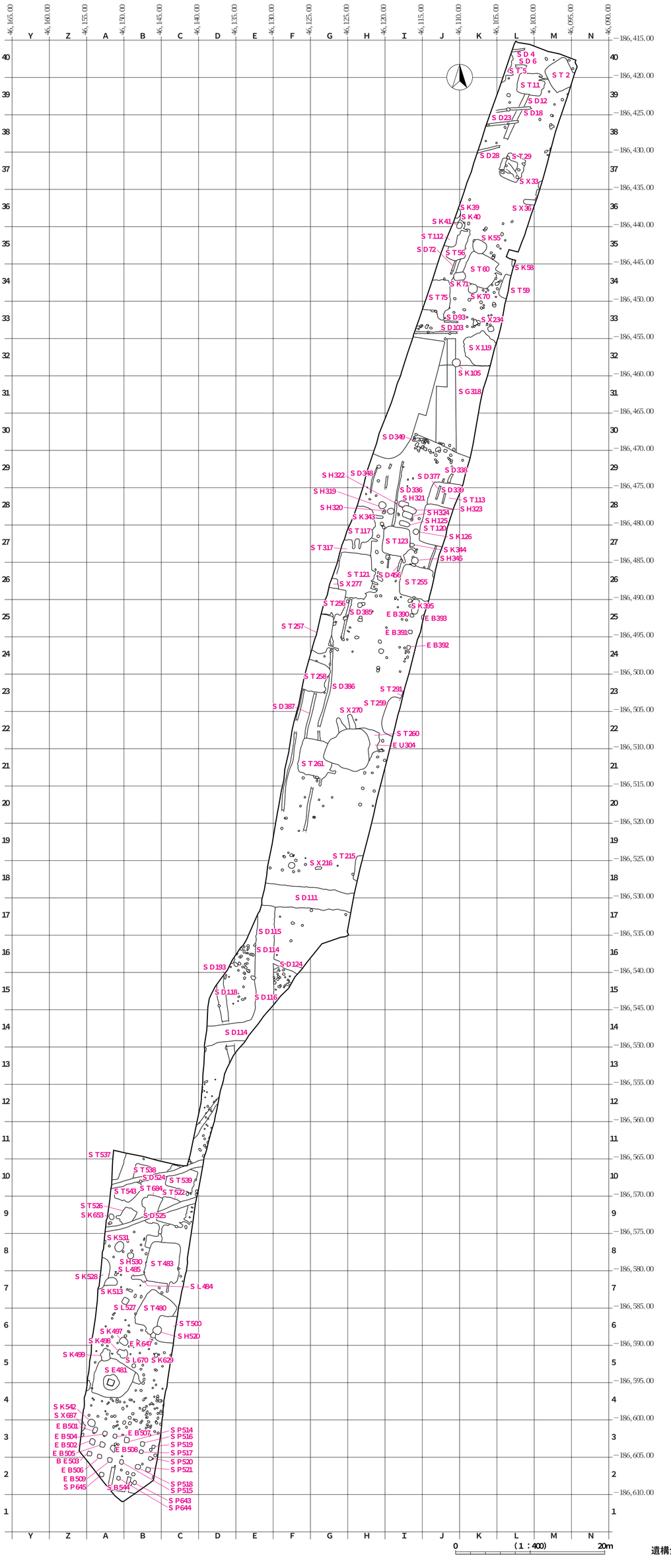
① 「底径指数」＝底径÷口径×100
　　口径に対する底径の比率

② 「器高指数」＝器高÷口径×100
　　口径に対する器高の比率

図　　版

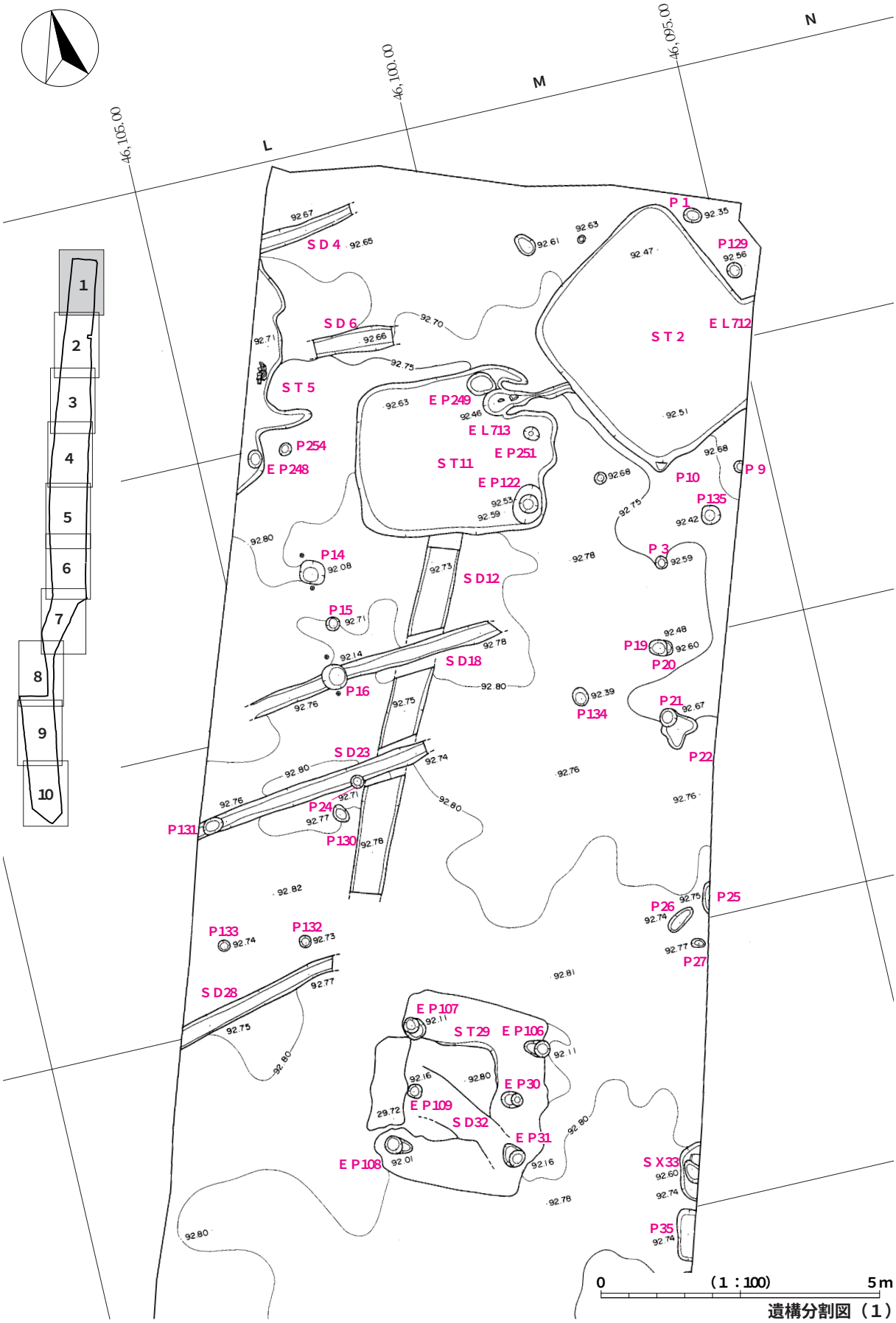
図版　凡例



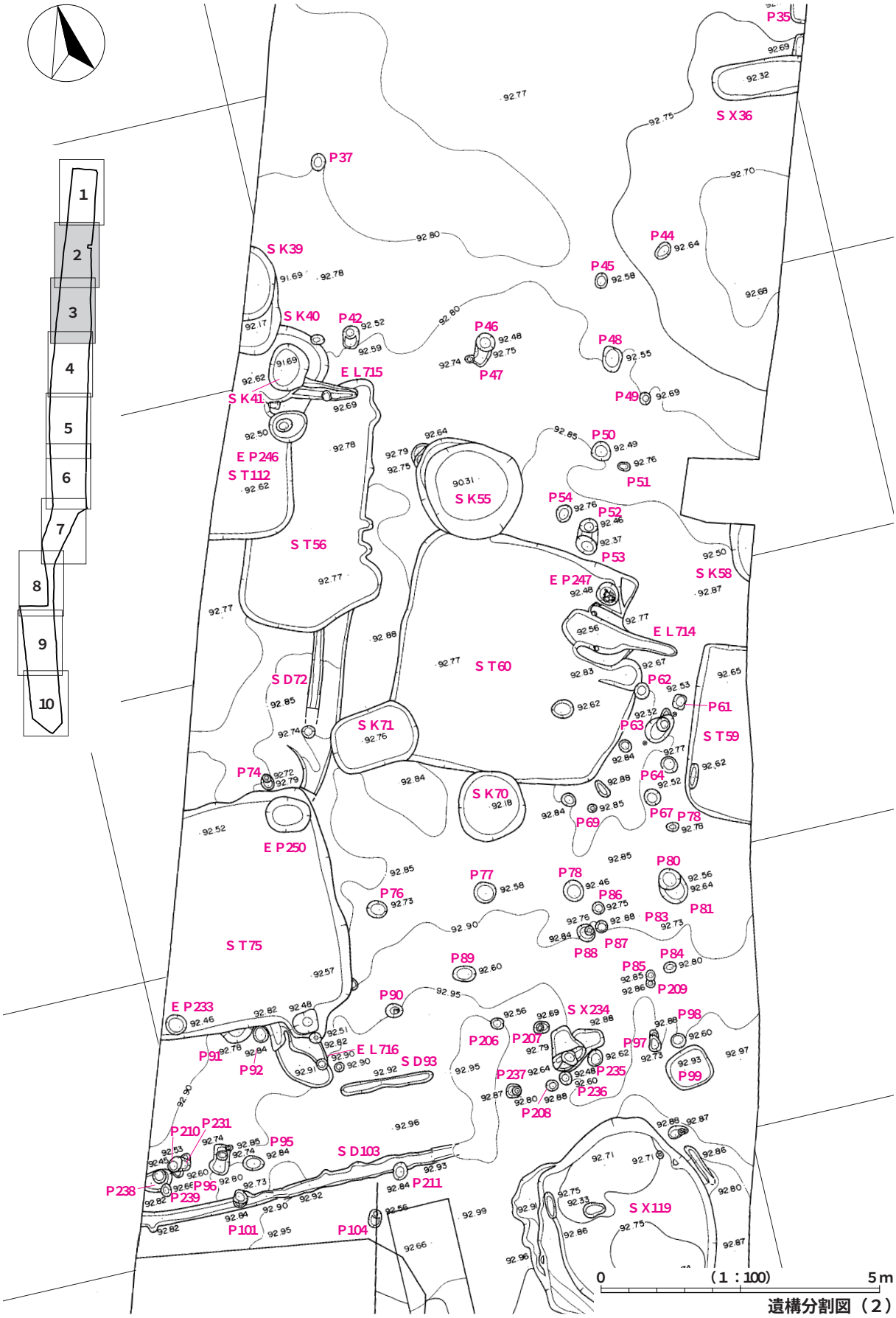

S D 4
S D 6
S T 5
S T 2
S T 11
S D 12
S D 18
S D 23
S D 28
S T 29
S X 33
S X 36
S K 39
S K 40
S K 41
S T 112
S K 55
S D 72
S T 56
S T 60
S K 58
S K 71
S T 59
S K 70
S T 75
S D 93
S X 234
S D 103
S X 119
S K 105
S G 318
S D 349
S D 348
S H 322
S D 377
S D 338
S H 319
S D 336
S D 339
S H 321
S T 113
S H 320
S H 324
S H 323
S K 343
S H 125
S T 120
S T 117
S K 126
S T 123
S T 317
S K 344
S H 345
S T 121
S D 456
S X 277
S T 255
S T 256
S K 395
S D 385
E B 390
E B 393
S T 257
E B 391
E B 392
S T 258
S D 386
S T 291
S T 259
S D 387
S X 270
S T 260
E U 304
S T 261
S T 215
S X 216
S D 111
S D 115
S D 114
S D 193
S D 124
S D 118
S D 116
S D 114
S T 537
S T 538
S D 524
S T 539
S T 543
S T 684
S T 522
S T 526
S K 653
S D 525
S K 531
S H 530
S T 483
S L 485
S K 528
S K 513
S L 484
S L 527
S T 480
S T 500
S K 497
S H 520
S K 498
E K 647
S K 499
S L 670
S K 629
S E 481
S K 542
S X 687
E B 501
E B 507
S P 514
E B 504
S P 516
E B 502
S P 519
E B 508
E B 505
S P 517
B E 503
S P 520
E B 506
S P 521
E B 509
S P 518
S P 645
S B 544
S P 515
S P 643
S P 644
0
(1 : 400)
20m

図版 1

遺構全体図

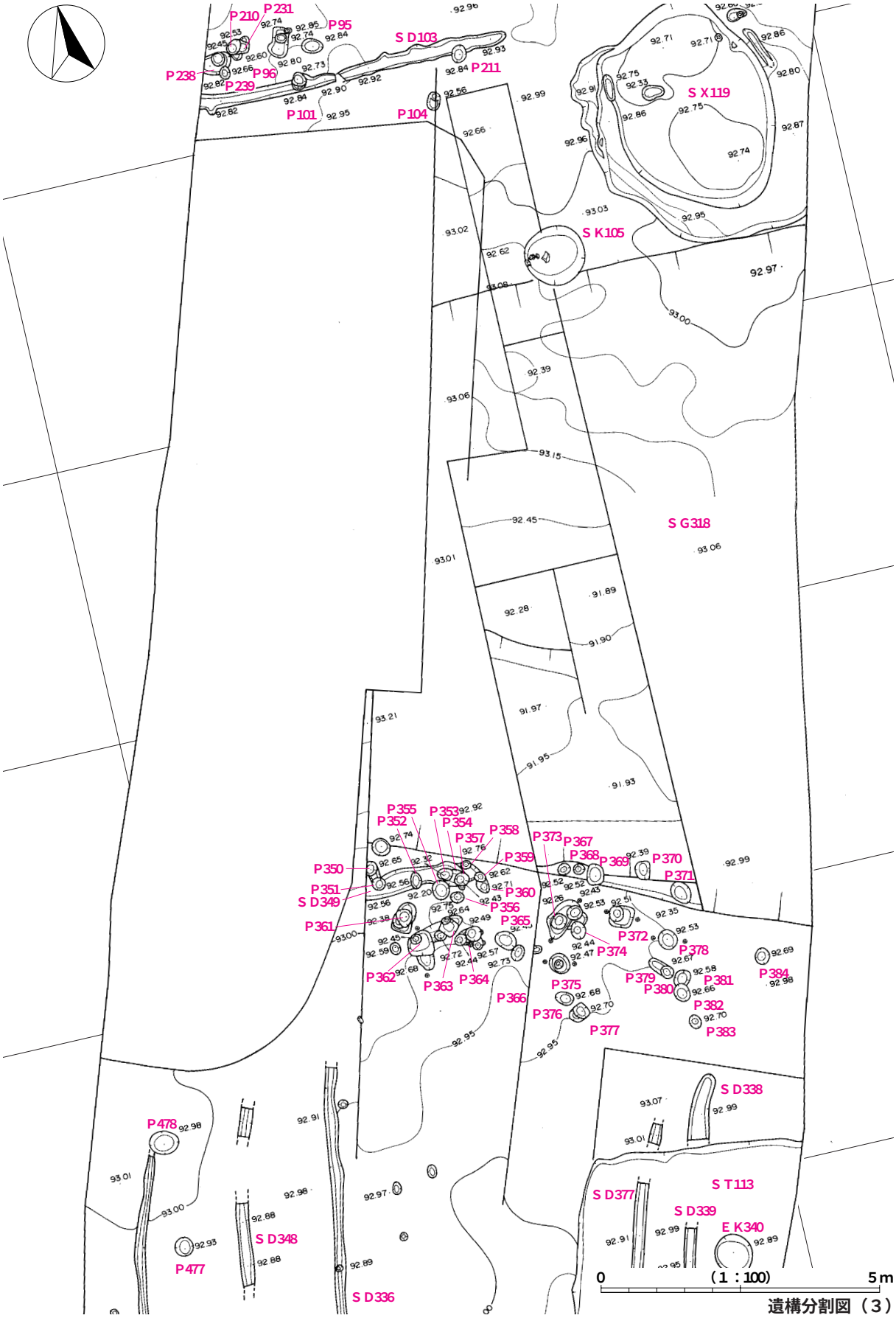

N
M
L
46,105.00
46,100.00
46,095.00
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
S D 4
S D 6
S T 5
S T 2
E L712
P 1
P129
E P249
E L713
E P251
S T11
E P122
E P248
P254
P 9
P10
P135
P 3
P14
S D12
P15
P19
P20
S D18
P16
P134
P21
P22
S D23
P24
P131
P130
P25
P26
P27
P133
P132
S D28
E P107
S T29
E P106
E P30
E P109
S D32
E P31
E P108
S X33
P35
0
(1：100)
5m

遺構分割図（1）

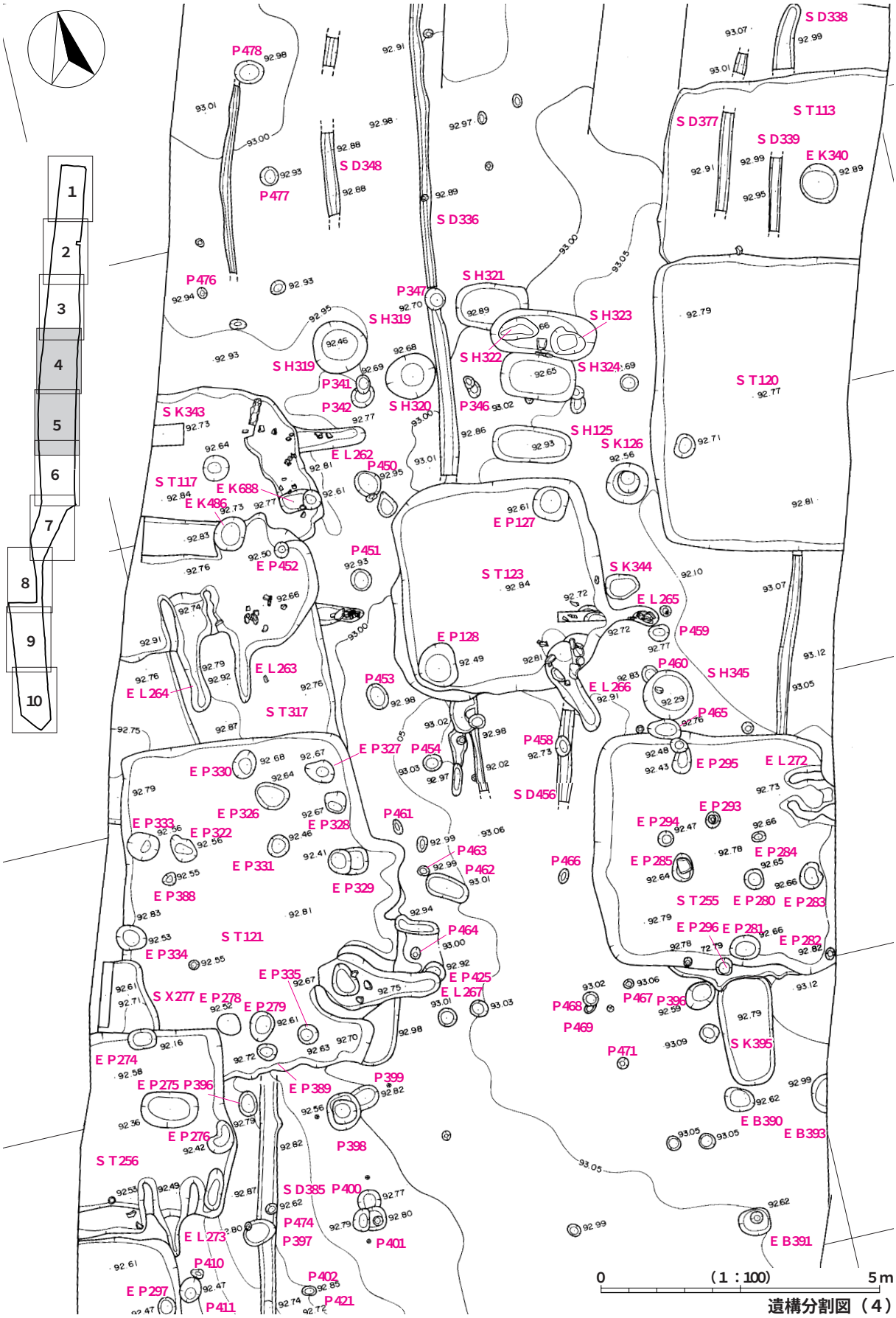

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
P35
S X36
P37
S K39
S K40
P42
E L715
S K41
E P246
S T112
S T56
P44
P45
P46
P47
P48
P49
P50
P51
S K55
P54
P52
P53
S K58
E P247
E L714
S T60
S D72
P62
P61
S K71
P63
S T59
P74
S K70
P64
P69
P67
P78
E P250
P77
P76
P78
P86
P80
P81
P83
S T75
P87
P88
P84
P89
P85
P209
P90
E P233
S X234
P98
P206
P207
P97
P91
P92
E L716
S D93
P237
P235
P99
P236
P208
P210
P231
P95
S D103
P238
P96
P239
P211
S X119
P101
P104
0
(1：100)
5m

遺構分割図（2）

図版４

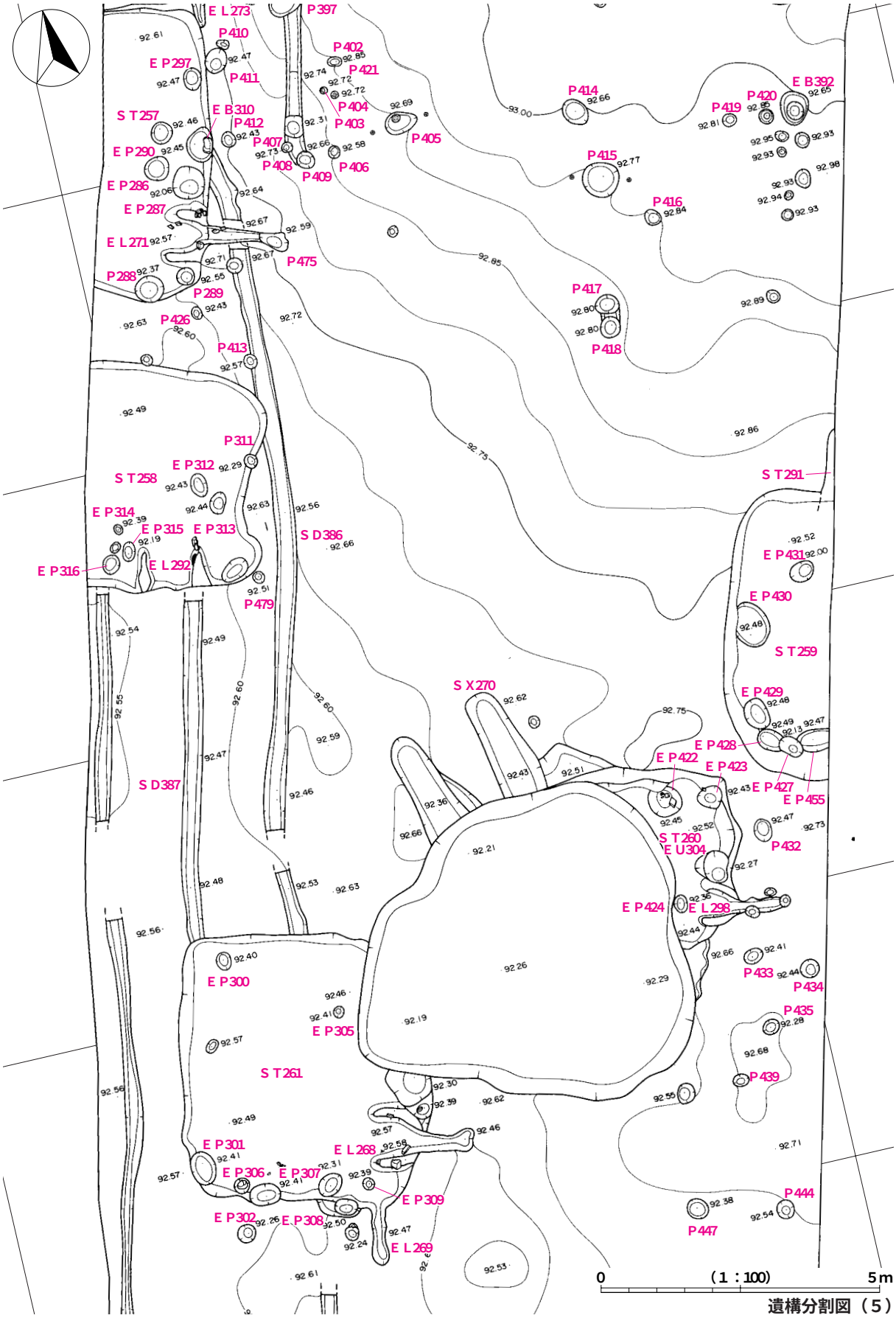

P210
P231
P95
S D103
P238
P96
P239
P211
P101
P104
S X119
S K105
S G318
P350
P351
S D349
P361
P355
P352
P353
P354
P357
P358
P359
P360
P356
P365
P362
P363
P364
P366
P373
P367
P368
P369
P370
P371
P372
P374
P378
P379
P380
P381
P384
P375
P376
P377
P382
P383
S D338
S D377
S T113
S D339
E K340
P478
P477
S D348
S D336
0
(1：100)
5m

遺構分割図（3）

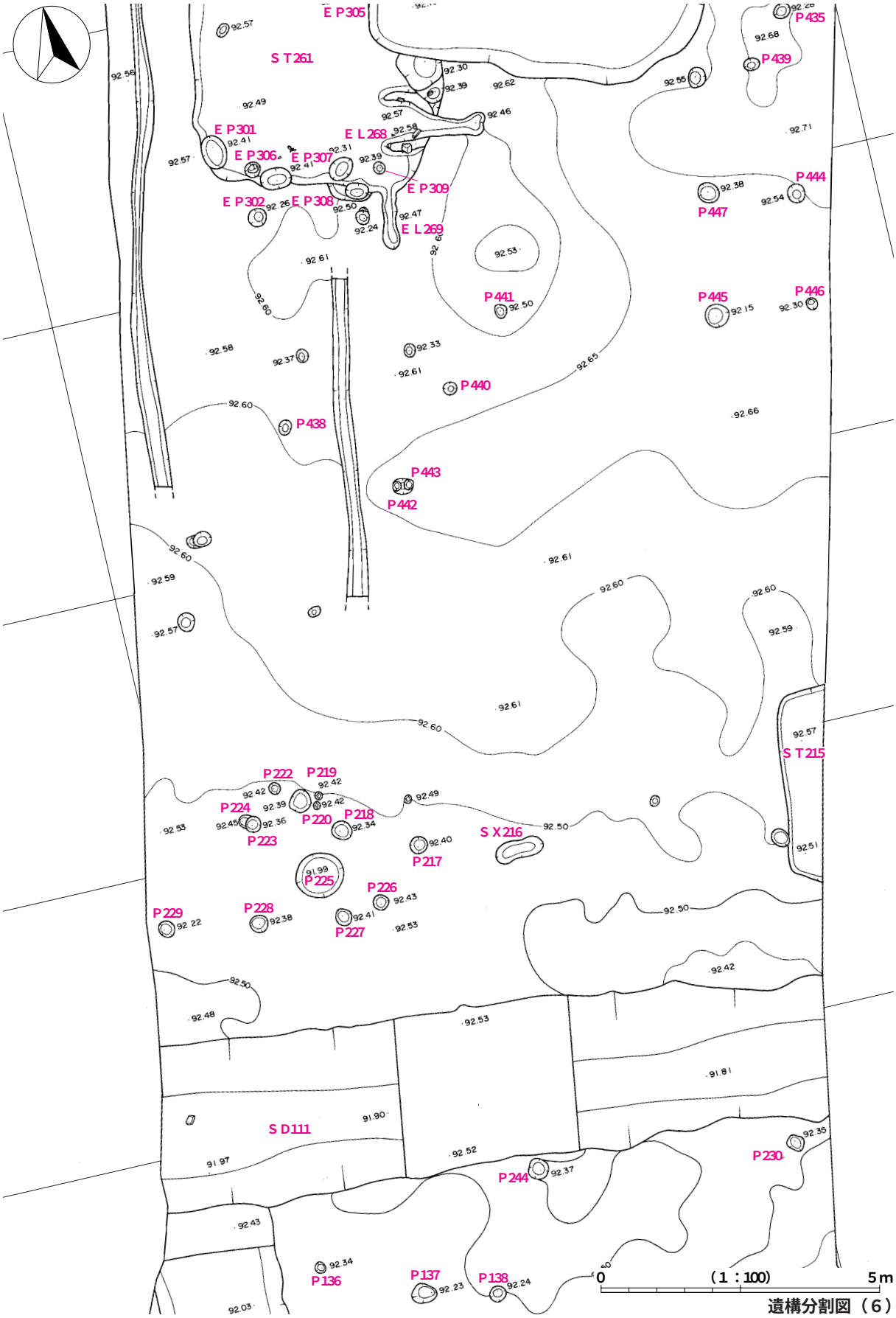

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
P478
S D348
P477
S D336
P476
P347
S H321
S H319
S H323
S H319
S H322
S H324
P341
P342
S H320
P346
S K343
S H125
S K126
E L262
P450
S T117
E K688
E K486
E P127
P451
E P452
S T123
S K344
E L265
P459
E P128
P460
S H345
E L263
E L264
P453
E L266
P465
S T317
E P327
P454
P458
E P330
S D456
E P326
E P328
P461
E P333
E P322
P463
P462
P466
E P331
E P329
E P388
S T121
P464
E P334
E P335
E P425
E L267
S X277
E P278
E P279
P468
P467
P396
P469
P471
S K395
E P274
E P275
P396
E P389
P399
E P276
P398
S T256
S D385
P400
P474
P397
P401
E L273
P410
E P297
P402
P411
P421
S D338
S D377
S T113
S D339
E K340
S T120
E P295
E L272
E P293
E P294
E P285
E P284
S T255
E P280
E P283
E P296
E P281
E P282
E B390
E B393
E B391
0
(1：100)
5m

遺構分割図（4）

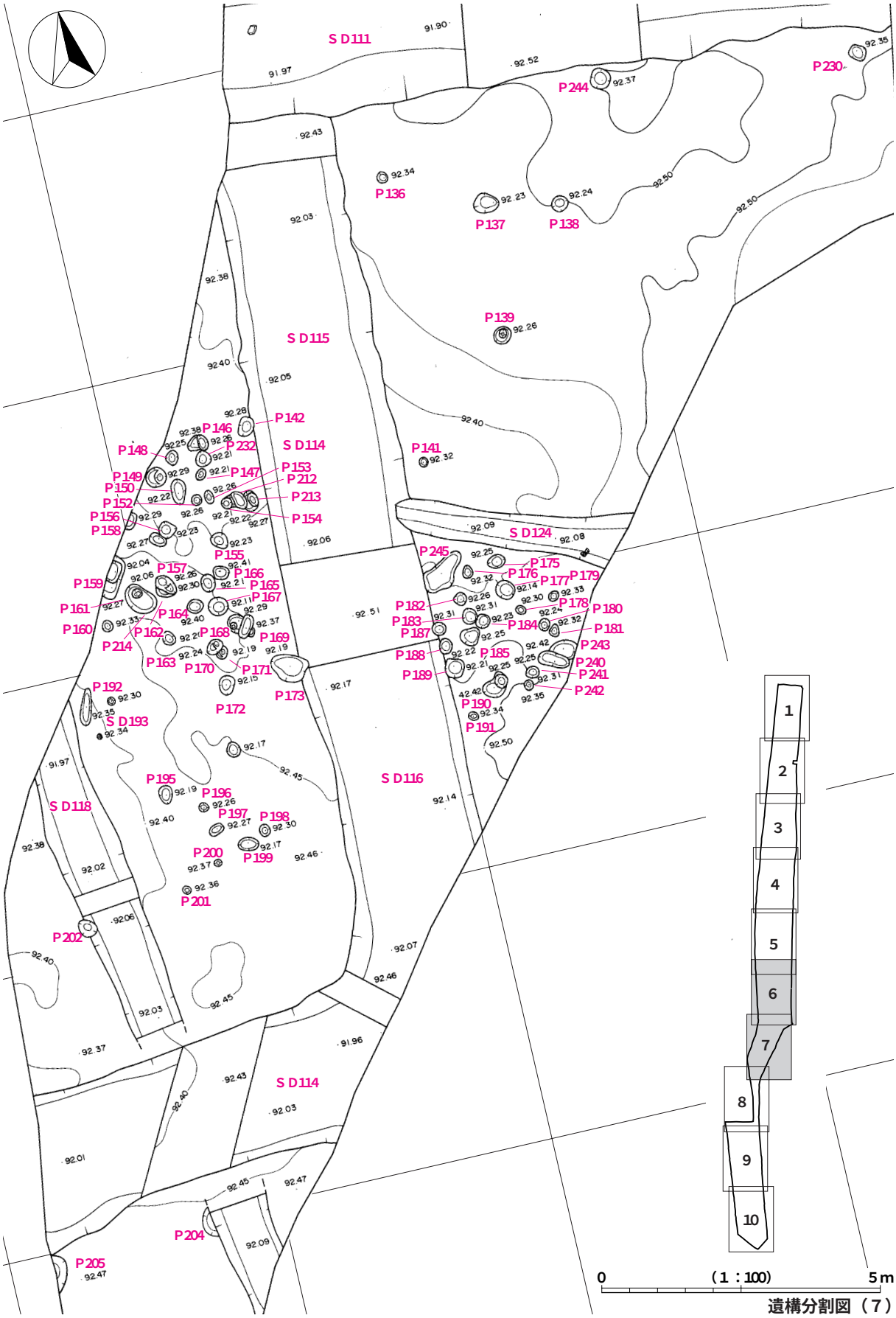
図版6

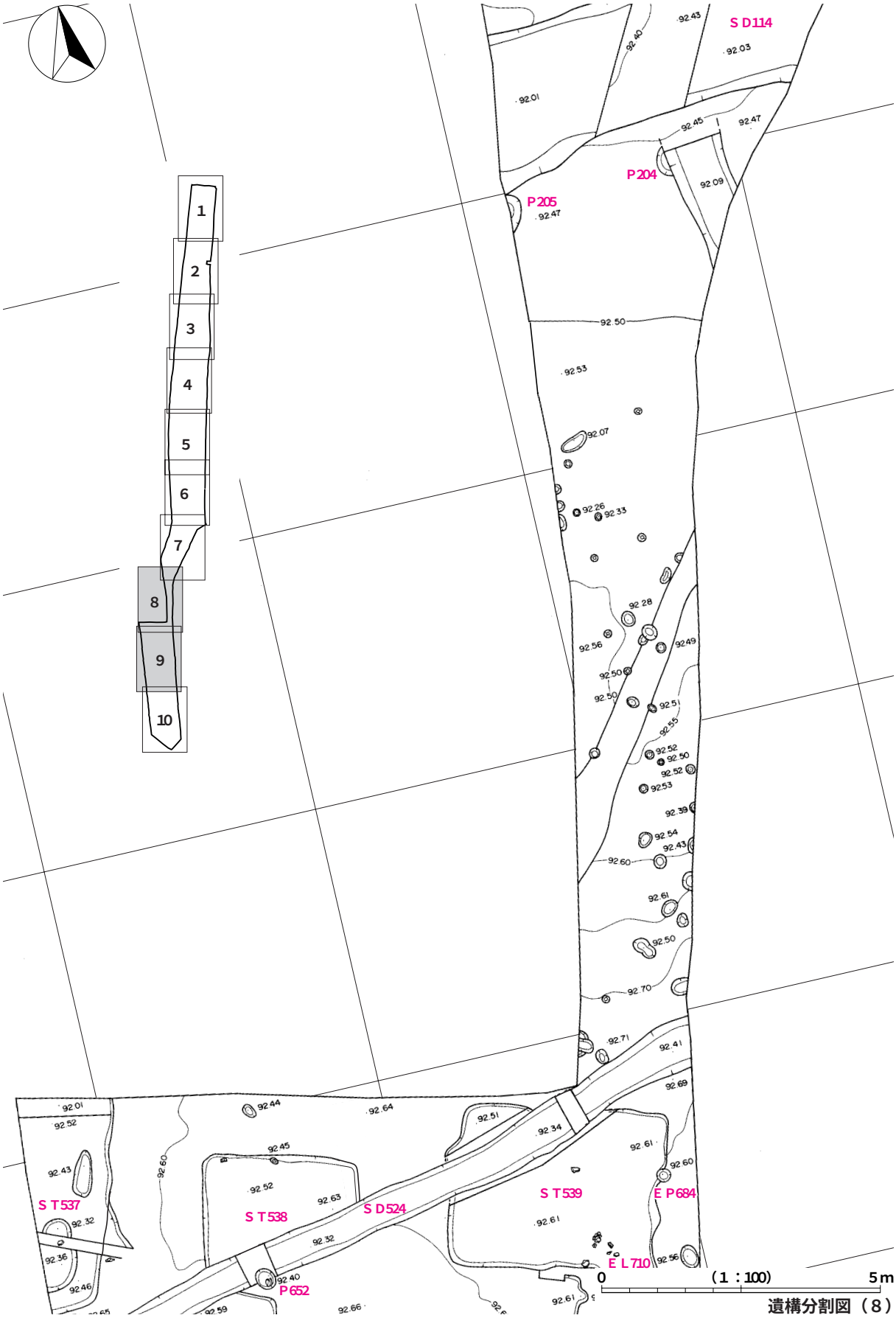

E L273
P397
P410
P402
E P297
P411
P421
P404
P403
S T257
E B310
P412
P407
P408
P409
P406
P405
E P290
E P286
E P287
E L271
P475
P288
P289
P426
P413
P414
P419
P420
E B392
P415
P416
P417
P418
P311
E P312
S T258
E P314
E P315
E P313
E P316
E L292
S D386
P479
S T291
E P431
E P430
S T259
S X270
E P429
E P428
E P422
E P423
E P427
E P455
S D387
S T260
E U304
P432
E P424
E L298
E P300
P433
P434
E P305
P435
S T261
P439
E P301
E L268
E P306
E P307
E P309
E P302
E P308
E L269
P444
P447
0
(1：100)
5m

遺構分割図（5）


E P305
S T261
P435
P439
E P301
E P306
E P307
E L268
E P309
E P302
E P308
E L269
P444
P447
P441
P445
P446
P440
P438
P443
P442
S T215
P222
P219
P224
P220
P218
P223
S X216
P217
P225
P226
P229
P228
P227
S D111
P230
P244
P136
P137
P138
0
(1：100)
5m
遺構分割図（6）

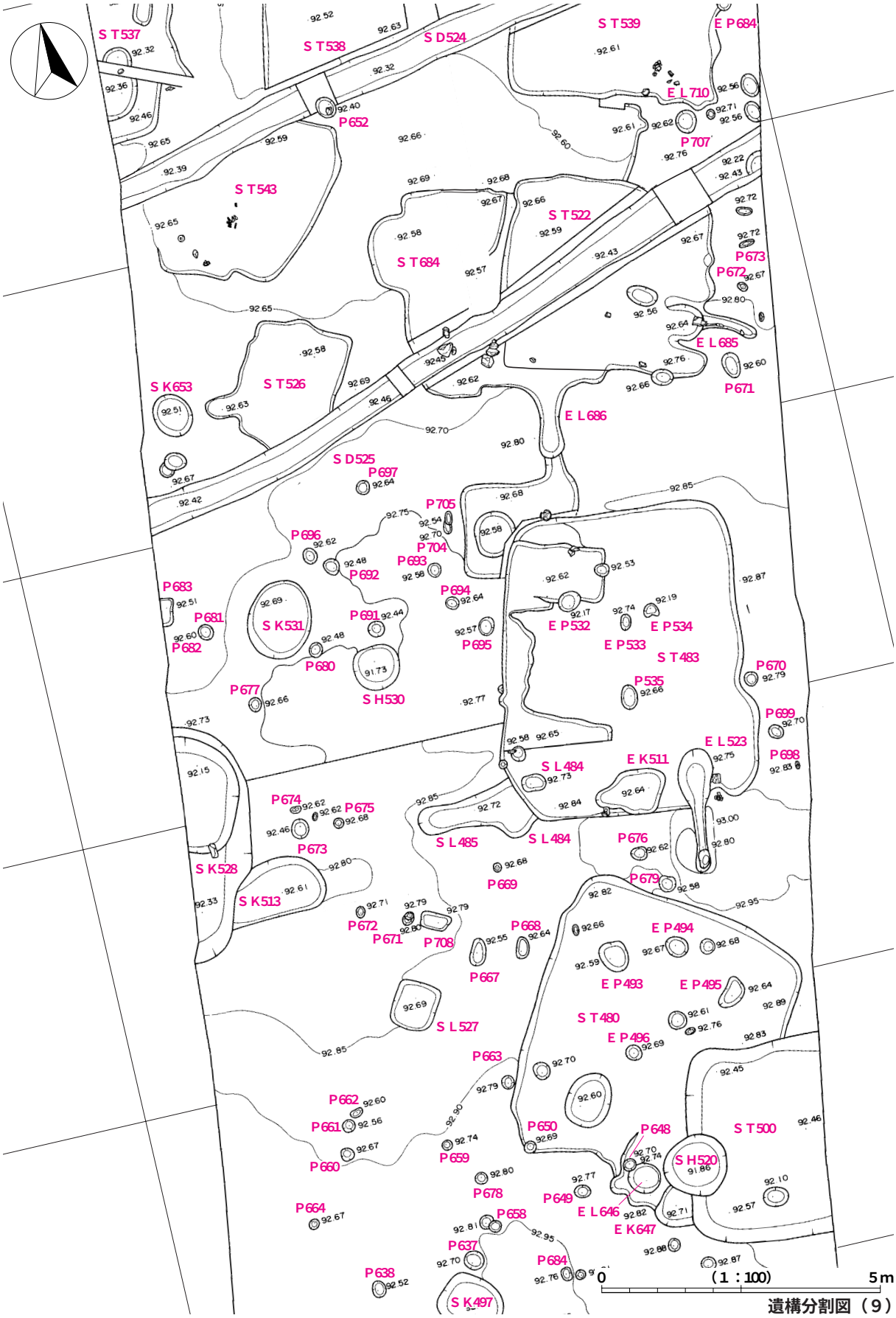
図版８


SD111
SD115
SD114
SD124
SD116
SD118
SD193
P136
P137
P138
P139
P141
P142
P146
P147
P148
P149
P150
P152
P153
P154
P155
P156
P157
P158
P159
P160
P161
P162
P163
P164
P165
P166
P167
P168
P169
P170
P171
P172
P173
P175
P176
P177
P178
P179
P180
P181
P182
P183
P184
P185
P187
P188
P189
P190
P191
P192
P195
P196
P197
P198
P199
P200
P201
P202
P204
P205
P212
P213
P214
P230
P232
P240
P241
P242
P243
P244
P245
0
(1：100)
5m
遺構分割図（7）

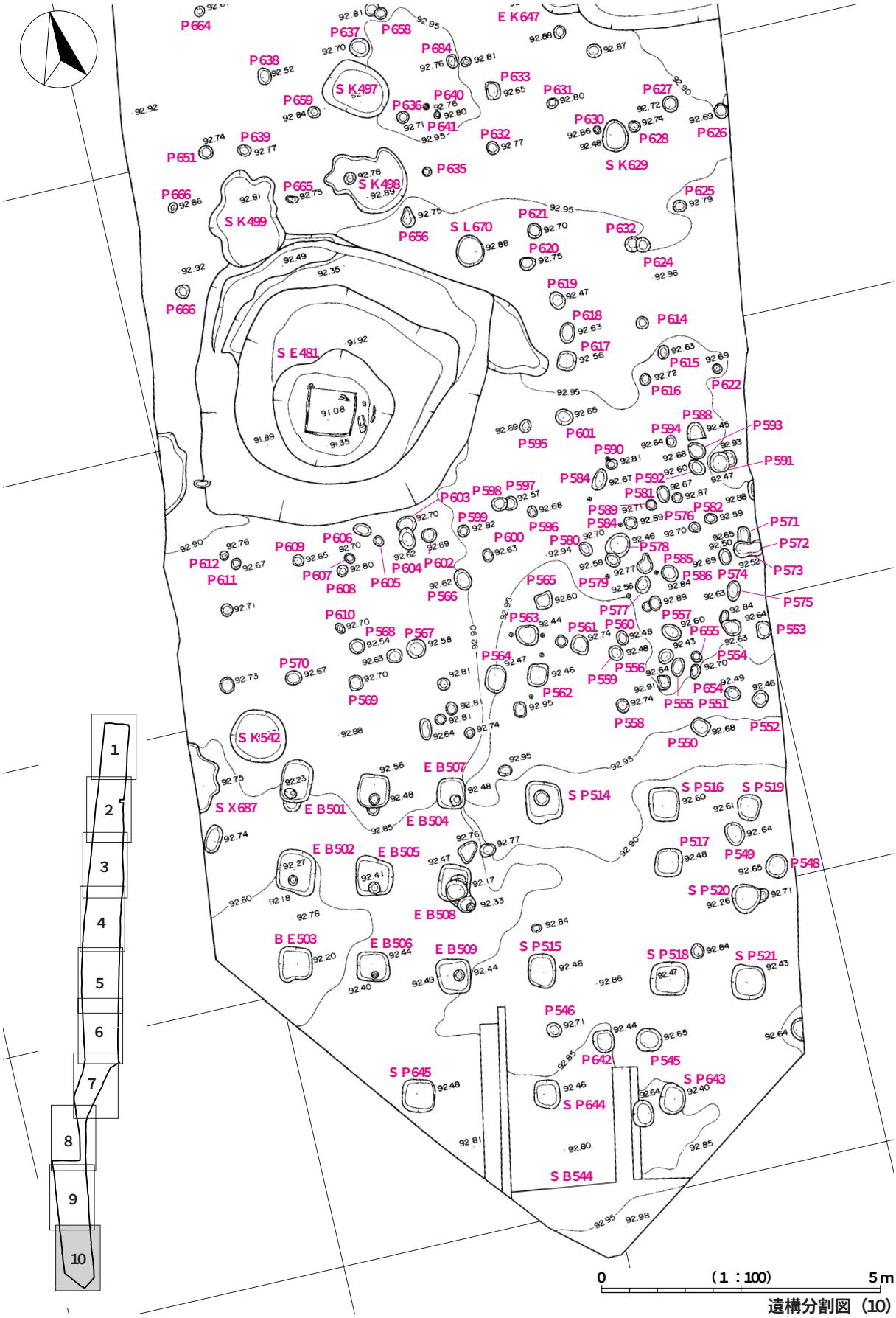

S D114
P 204
P 205
S T537
S T538
S D524
S T539
E P684
E L710
P652
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
0
(1：100)
5m

遺構分割図（8）

図版10

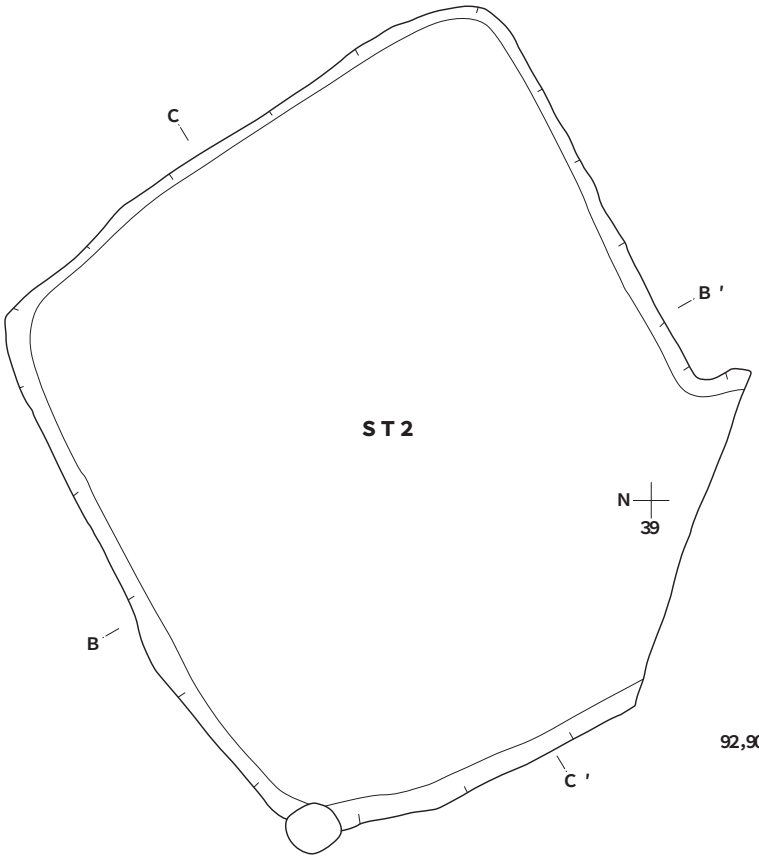

S T537
S T538
S D524
S T539
E P684
E L710
P652
P707
S T543
S T522
S T684
P673
P672
E L685
P671
S K653
S T526
E L686
S D525
P697
P705
P704
P696
P692
P693
P694
P683
P681
P682
S K531
P691
P695
E P532
E P534
E P533
S T483
P670
P535
P680
S H530
P677
P699
E L523
P698
E K511
S L484
P674
P675
P673
S L485
P676
S K528
P669
P679
S K513
P672
P671
P708
P668
E P494
P667
E P493
E P495
S T480
S L527
E P496
P663
P662
P661
P650
P648
S T500
P660
P659
S H520
P678
P649
P664
P658
E L646
E K647
P637
P684
P638
S K497
0
(1：100)
5m

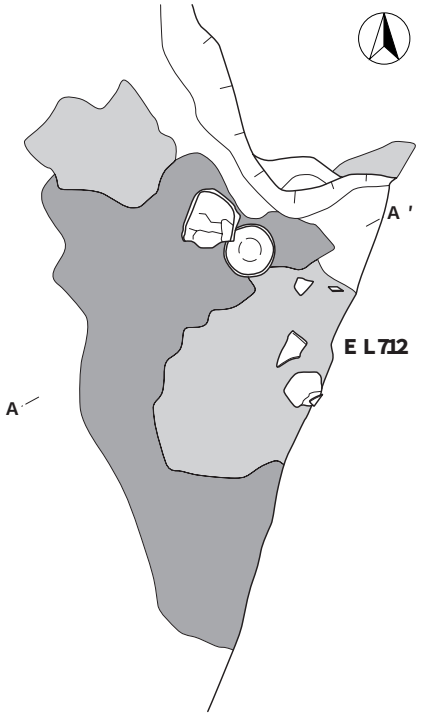
遺構分割図（9）



遺構分割図（10）

図版12

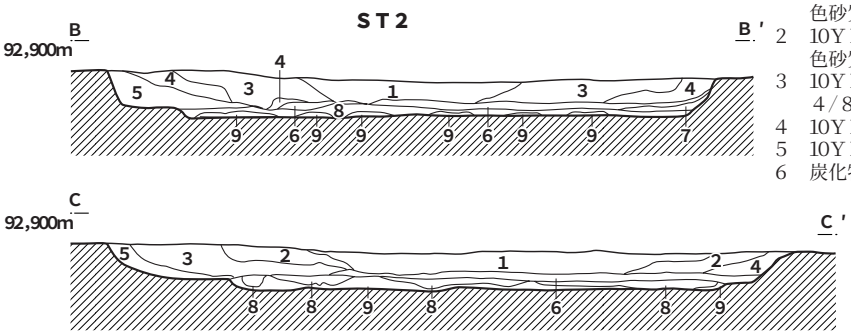




EL712　A～A'

1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小粒をごくわずかに含む。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質シルトの混じり土。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト、焼土（5YR4/8赤褐色)の小ブロックと炭化物粒を含む。
4　10YR4/6褐色粘土（ブロック）
5　10YR3/1黒褐色炭化物、焼土の混じり土。
6　炭化物層。

0　(1：20)　0.5m

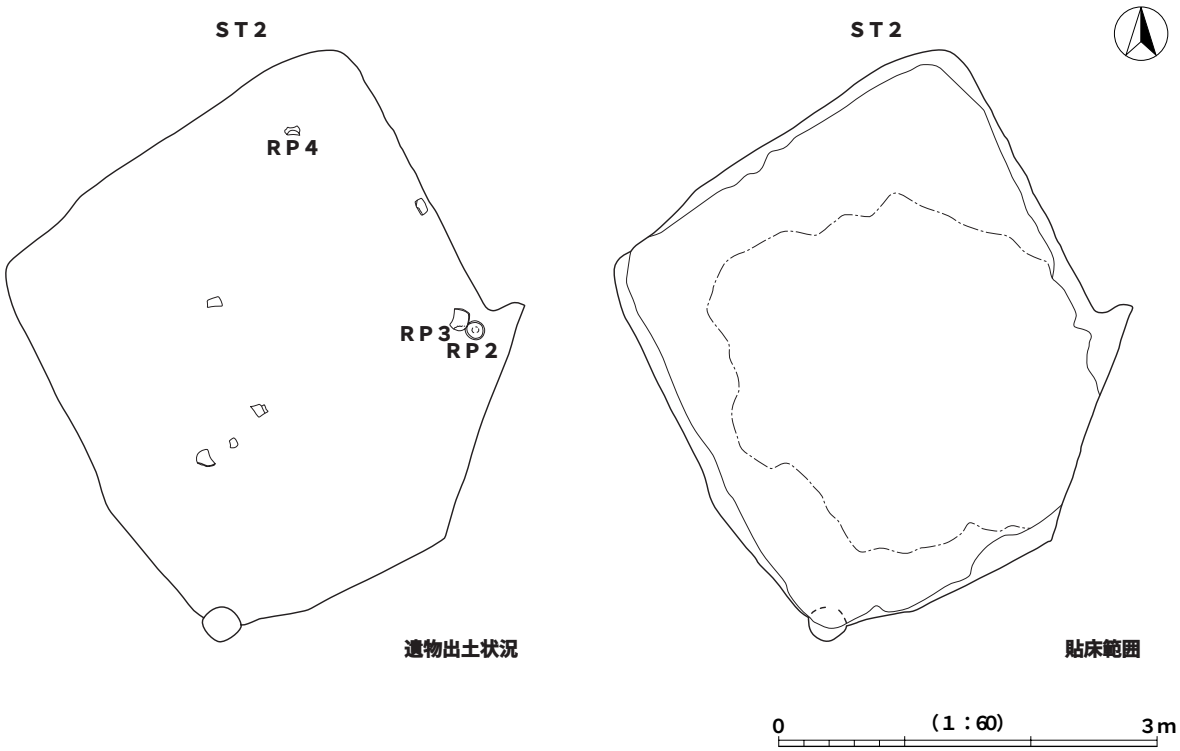


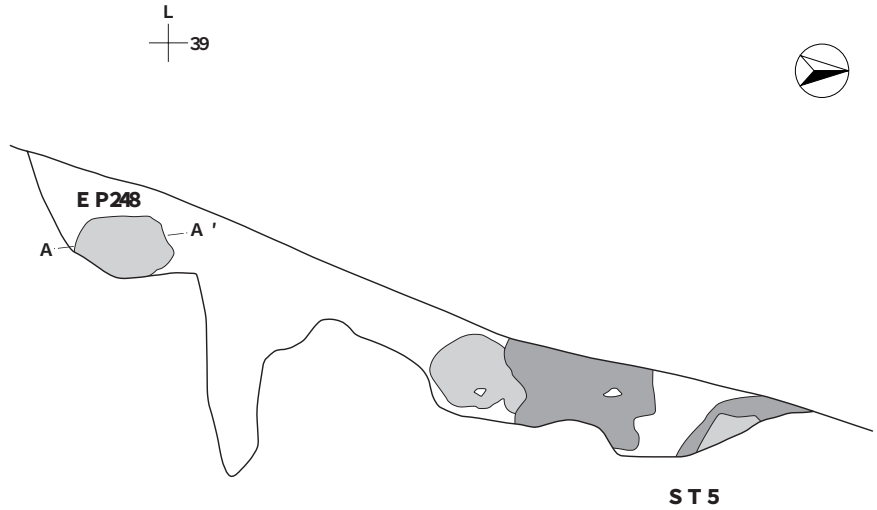
ST2　B～B'　C～C'

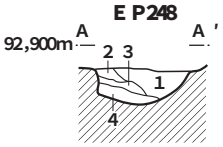
1　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色シルトを粒状にごくわずかにふくむ。
2　10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色シルトがまじる。10YR4/4が強い。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色シルトがまじる。10YR3/4が強い。
4　10YR2/2黒褐色砂質シルト。
5　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトを含む。
6　10YR2/3黒褐色シルト、炭化物粒、焼土粒を含む。（床面土）
7　5YR4/8赤褐色シルトの焼土層。（カマド周辺焼土）
8　10YR4/2灰黄褐色粘質土、10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。（貼床土）
9　地山。10YR4/4褐色砂質シルト。

0　(1：40)　2m

ST2　竪穴建物跡





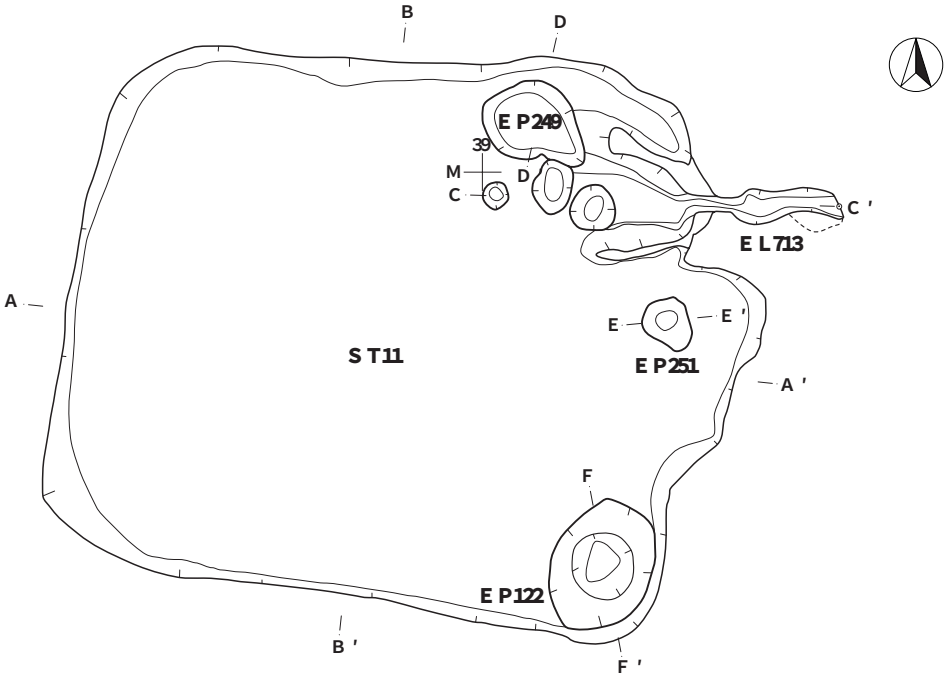


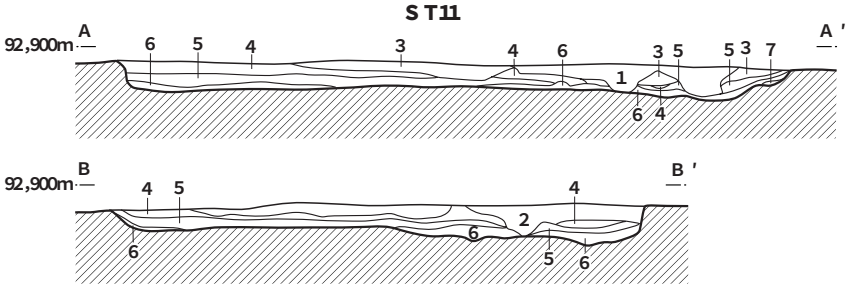
ＥＰ248　Ａ～Ａ′

1　7.5ＹＲ２／２黒褐色シルト、焼土の小ブロックが混じる。
2　10ＹＲ３／３暗褐色シルト、焼土粒をわずかに含む。
3　10ＹＲ４／４暗褐色砂質土、10ＹＲ３／２黒褐色シルトが混じる。
4　10ＹＲ３／２黒褐色シルト、10ＹＲ４／４暗褐色砂質土が混じる。

0　（１：40）　2ｍ

ＳＴ２・ＳＴ５　竪穴建物跡　遺物出土状況　貼床範囲

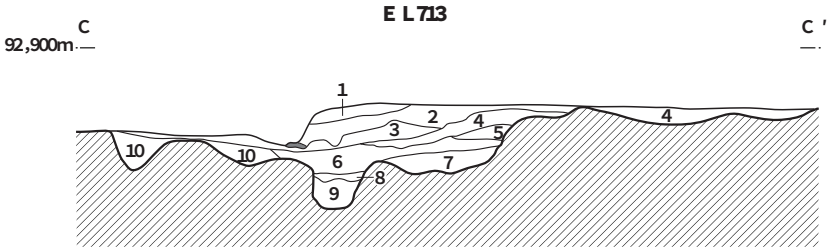




ST11　A～A'　B～B'

1　10YR3/4暗褐色砂質シルト、３層土が粒状に混じる。（撹乱）
2　10YR3/4暗褐色砂質シルト、２層土、３層土がブロック状に混じる。
3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR6/6明黄褐色砂質シルトの小ブロックをわずかに含む。
4　10YR6/4にぶい黄褐色細砂質シルト。
5　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（粘性あり）、上にのる遺物あり。
6　10YR3/3黒褐色シルト、地山土が混じる。（10YR4/6褐色砂質シルト）
7　10YR3/4暗褐色砂質シルト。（別の遺構か）

0　（1：40）　2m

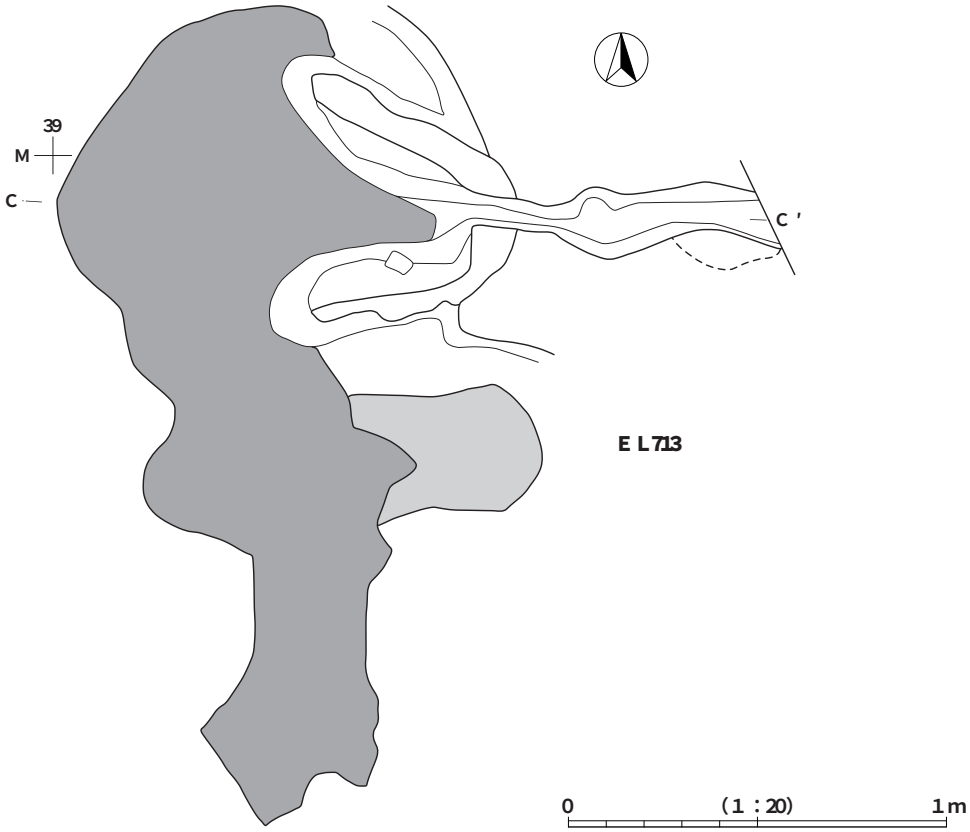


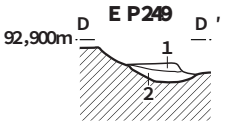
EL713　C～C'

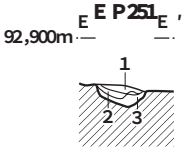
1　10YR6/4にぶい黄褐色細砂質シルト。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（粘性あり）（上にのる遺物あり）
3　灰、炭化物層7.5YR3/4暗褐色焼土が混じる。
4　7.5YR3/4暗褐色シルト、炭化物、焼土のブロックを含む。
5　10YR4/3にぶい黄褐色土（灰か）焼土の小ブロックを含む。（細砂質）
6　10YR2/2黒褐色シルト、10YR4/3にぶい黄褐色土を含む。焼土粒、炭化物を含む。
7　10YR3/3暗褐色シルト、焼土（10YR4/6褐色弱く被熱）粒を含む
8　7.5YR3/4暗褐色の焼土がブロック状に入る。
9　7.5YR3/3暗褐色シルト、炭化物の細粒がわずかに混じる。
10　10YR3/1黒褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質シルトが半々に混じる。

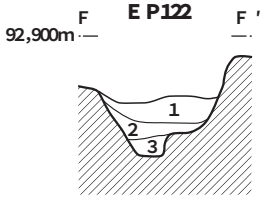
0　（1：20）　1m

ST11　竪穴建物跡









EP249　D～D′

1　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。焼土、炭化物の小粒がわずかに混じる。

2　10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/6褐色砂質シルトの混合土。

EP251　E～E′

1　7.5YR3/2黒褐色砂質シルト、7.5YR4/6褐色の焼土の小ブロックを含む。

2　10YR3/4褐色砂質シルト。

3　10YR4/4褐色砂質シルト。（地山か）

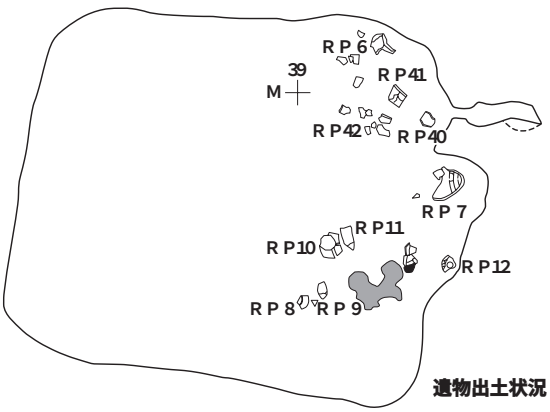
EP122　F～F′

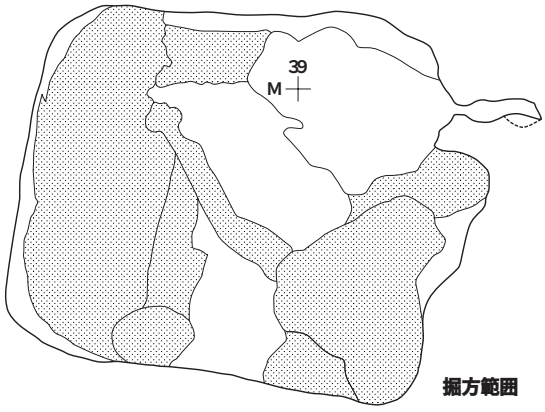
1　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色砂質シルトのブロックを端で含む。

2　10YR4/4褐色砂質シルト、1層土、3層土がわずかに混じる。

3　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色シルトをわずかに含む。

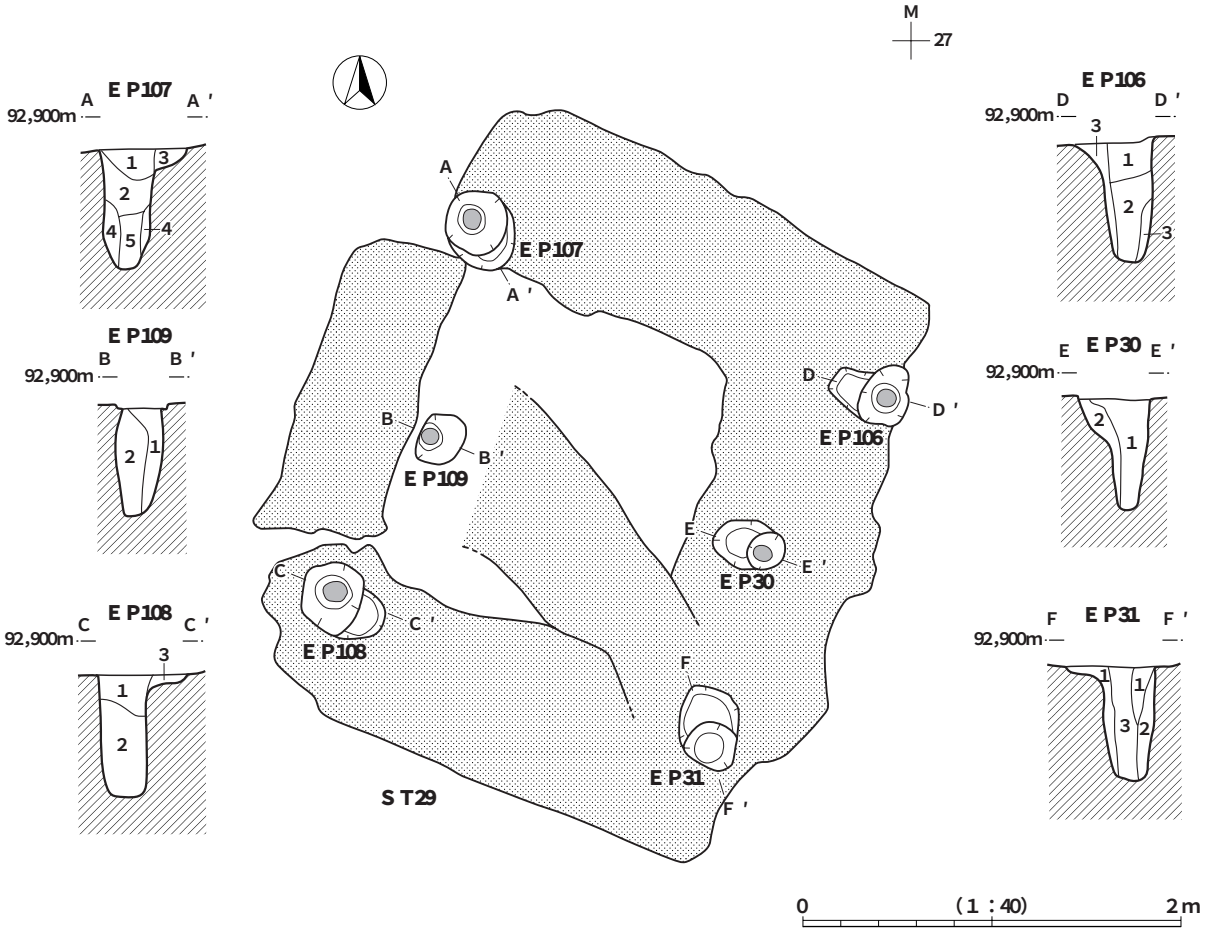
0　(1：40)　2m





0　(1：60)　3m

ST11　竪穴建物跡　遺物出土状況　掘方範囲



EP107　A～A'
1　10YR2/3黒褐色シルト、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土）、10YR2/3黒褐色砂質シルトが、マーブル状に混じる。
3　10YR2/3黒褐色砂質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトが半々で混じる。
4　10YR2/3黒褐色砂質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトが半々で混じる。
5　10YR2/3黒褐色砂質シルト、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土）をごくわずかに粒状に含む（柱アタリ）

EP109　B～B'
1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトと10YR2/3黒色砂質シルトがほぼ半々で混じる。
2　10YR2/3黒色砂質シルト、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に含む。

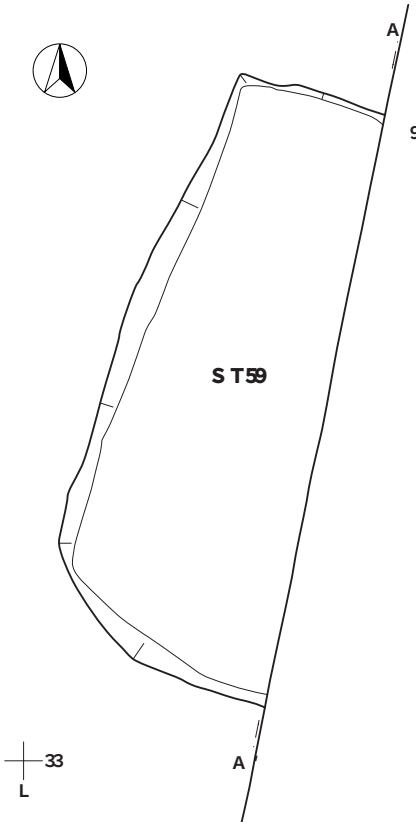
EP108　C～C'
1　10YR2/3黒褐色砂質シルト、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをわずかに含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR2/3黒褐色砂質シルトをマーブル状にわずかに含む。
3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR2/3黒褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む。

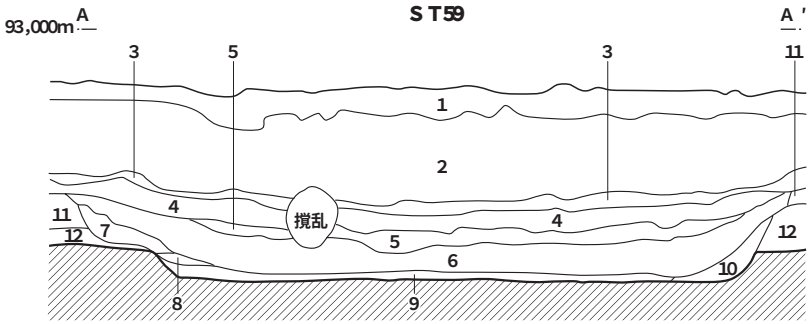
EP106　D～D'
1　10YR2/3黒褐色砂質シルト、10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山土）を粒状にわずかに含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土）と10YR2/3黒褐色砂質シルトが半々で混じる。
3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土）、10YR2/3黒褐色砂質シルトを粒状に含む。

EP30　E～E'
1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト10YR2/3黒色砂質シルトを小ブロック状に含む。
2　10YR2/3黒色砂質シルト10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。

EP31　F～F'
1　10YR2/3黒褐色砂質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土）が半々で混じる。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土）、10YR2/3黒褐色砂質シルトをブロック状に含む。
3　10YR黒褐色砂質シルト、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土）をごくわずかに含む。

ST29　竪穴建物跡



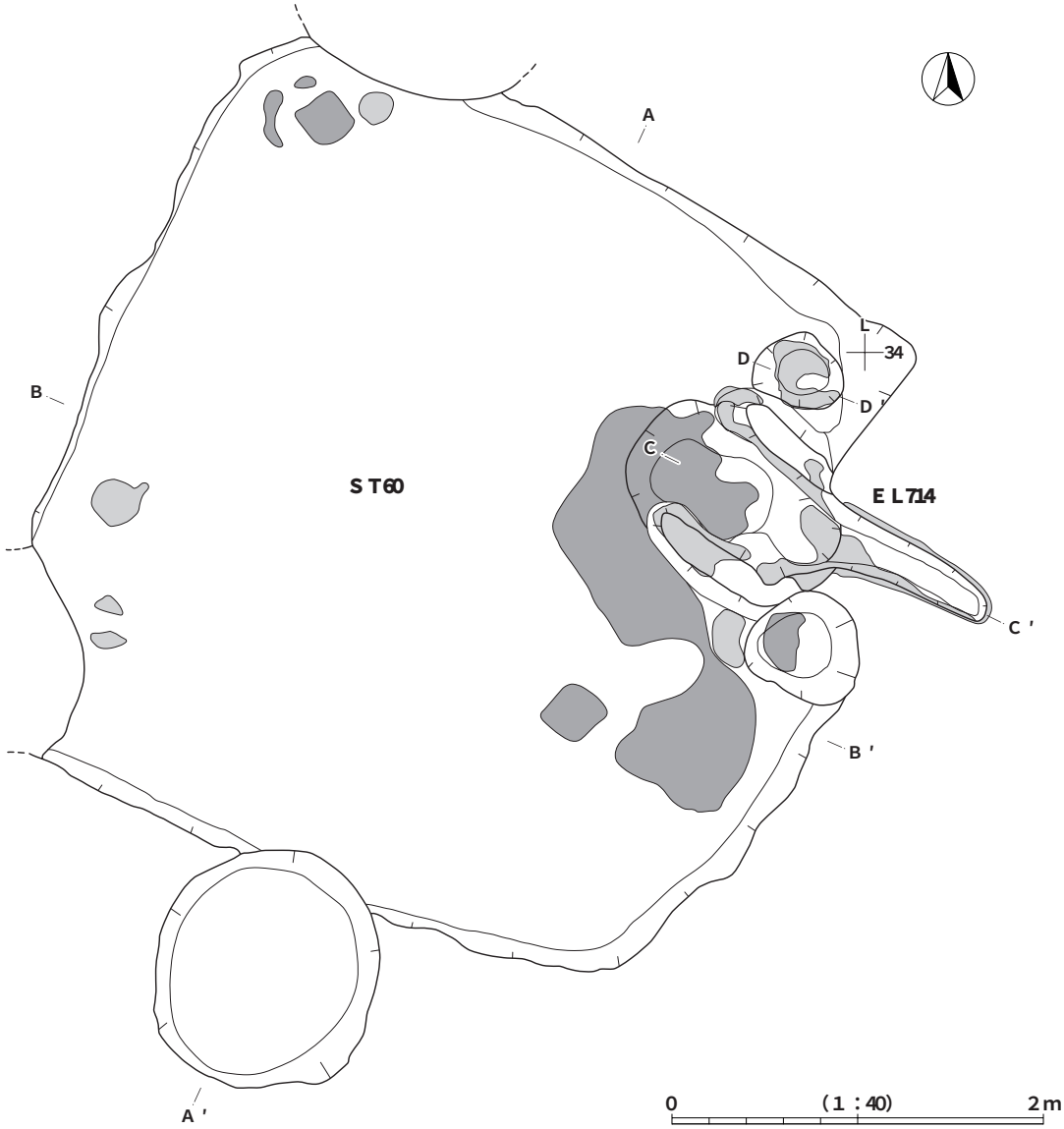


ＳＴ59　Ａ～Ａ'

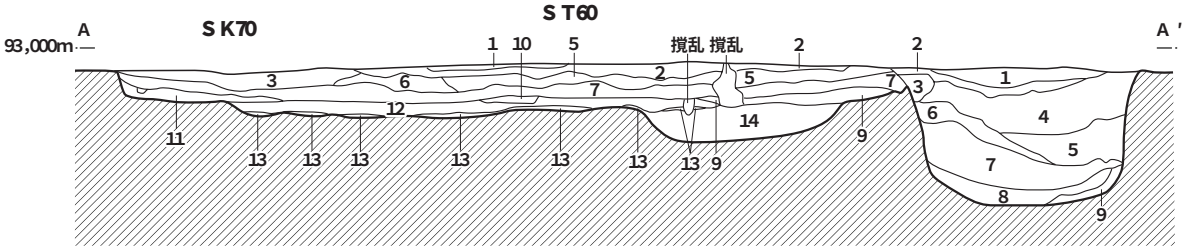
1　10ＹＲ４/６褐色砂質土、10ＹＲ４/４褐色砂質シルトの小ブロックをわずかに含む。
2　10ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト、炭化物粒、土器片をわずかに含む。
3　10ＹＲ４/６褐色砂質シルト、10ＹＲ３/４暗褐色砂質シルトが混じる。
4　10ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト、10ＹＲ３/４暗褐色砂質シルトが混じる。
5　10ＹＲ３/４暗褐色砂質シルト。
6　10ＹＲ３/２黒褐色砂質シルトと10ＹＲ４/６
7　10ＹＲ３/３暗褐色シルトと10ＹＲ３/４暗褐色砂質シルトの混合土。
8　10ＹＲ３/３暗褐色シルト、10ＹＲ３/４暗褐色砂質シルトの小ブロックをわずかに含む。土器片を含む。
9　10ＹＲ２/１黒色シルト。
10　10ＹＲ２/２黒褐色シルト、10ＹＲ３/４暗褐色シルトを粒状に含む。
11　10ＹＲ２/３黒褐色シルトと10ＹＲ３/３暗褐色シルトの混合土。
12　10ＹＲ３/４暗褐色細砂。

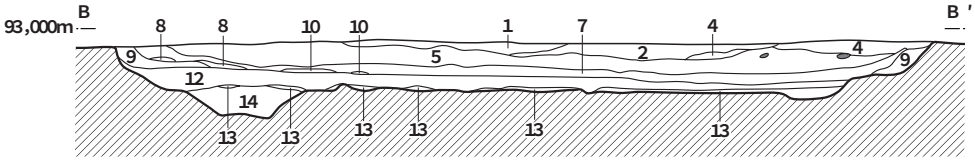
0　（１：40）　2m

ＳＴ59　竪穴建物跡



ＳＴ60　竪穴建物跡





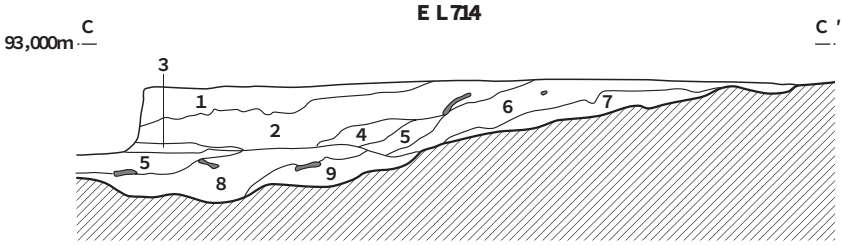
ST60　A～A'　B～B'

1　10YR2/3黒褐色砂質シルト、焼土の小ブロック、炭化物粒を含む。
2　10YR4/4褐色細砂、10YR2/2黒褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
4　10YR3/4暗褐色砂質シルト、焼土の小ブロックを含む。
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトを粒状に少量含む。
6　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトを含む。
7　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトをわずかに含む。
8　10YR4/4褐色砂質シルト、焼土のブロックを多量に含む。
9　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトのブロックを含む。
10　10YR2/2黒褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質シルトが半々で混じる。(床)
11　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトのブロックを含む。焼土のブロックを含む。
12　10YR4/4褐色微砂質シルト。(10YR2/3黒褐色砂質シルトと半々で混合)、上部床面を形成する埋土。
13　10YR4/2灰黄褐色粘質土。(1次床面の主体部。5㎜～1㎝厚さでうすい)
14　10YR4/4褐色、10YR2/2黒褐色混合土。13に近い。

SK70　A～A'

1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/1黒褐色の炭化物を層状に含む。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトを30%程度含む。
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトをごくわずかに含む。
6　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトがまだら状に半々に混じる。
7　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの大ブロックが半々に混じる。
8　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
9　10YR4/3褐色砂質シルト、10YR2/3黒褐色シルトを層状に含む。

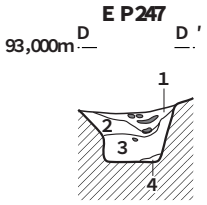
0　(1：40)　2m



EL714　C～C'

1　10YR4/2灰質褐色微砂。(明黄褐色シルトをブロックで含む)＝住居覆土3に同じ。
2　10YR3/2黒褐色シルト。(均質、混じりの少ない住居。9に近似の土層：焼土小粒ブロック少量、炭化物少量含む。)
3　10YR4/3黄褐色微砂。(床面直上部の覆土)、黄褐色シルトブロックを含む。
4　10YR6/6黄褐色シルト。(上部が焼けて弱く赤変し、遺物片含む。混じりの少ない土層)
5　10YR5/8赤色微砂質シルト。(明るい焼土小ブロック黄色シルト、6の混合土、焼土の割合が高い。)
6　10R5/8赤色微砂質シルト。(均一層、遺物小片を含む)
7　10R2/2極暗赤褐色微砂(上部：焼土シルト混じり、下部：熱の被熱量が少ない。煙等による変色。地山微砂小ブロック混じり)
8　7.5YR3/4暗褐色シルト。焼土の小ブロック、炭化物粒を含む。
9　7.5YR2/3極暗褐色シルト。焼土のブロックを多量に含む。

0　(1：20)　1m

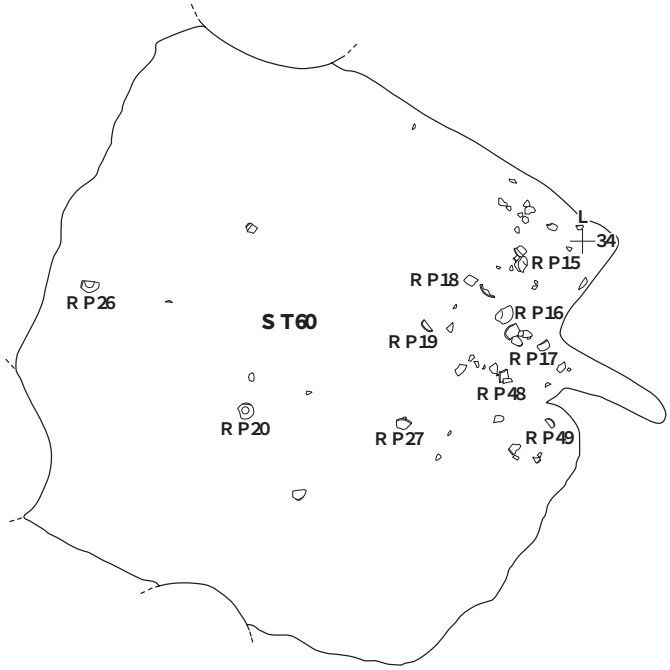


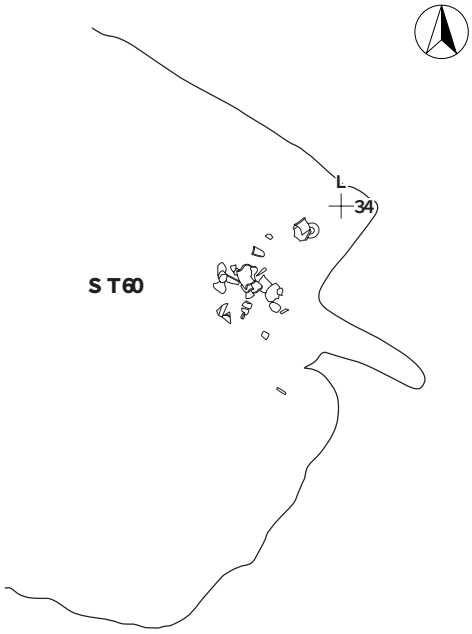
EP247　D～D'

1　10YR3/4暗赤色シルト。(焼土、炭化物混じり)
2　10YR6/4にぶい黄橙シルト。(炭化物混じり)
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト。(焼土ブロック混じり)
4　10YR3/2黒褐色粘質シルト。(地山？)

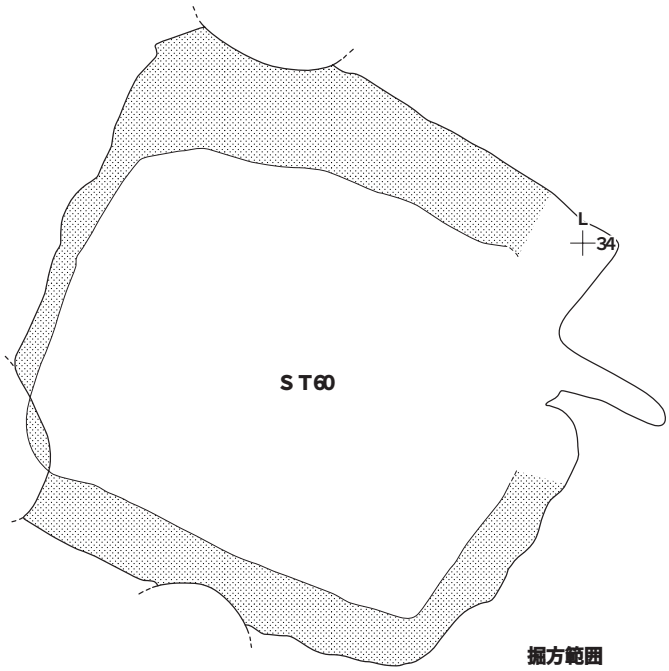
0　(1：40)　2m

ST60　竪穴建物跡　土層断面図





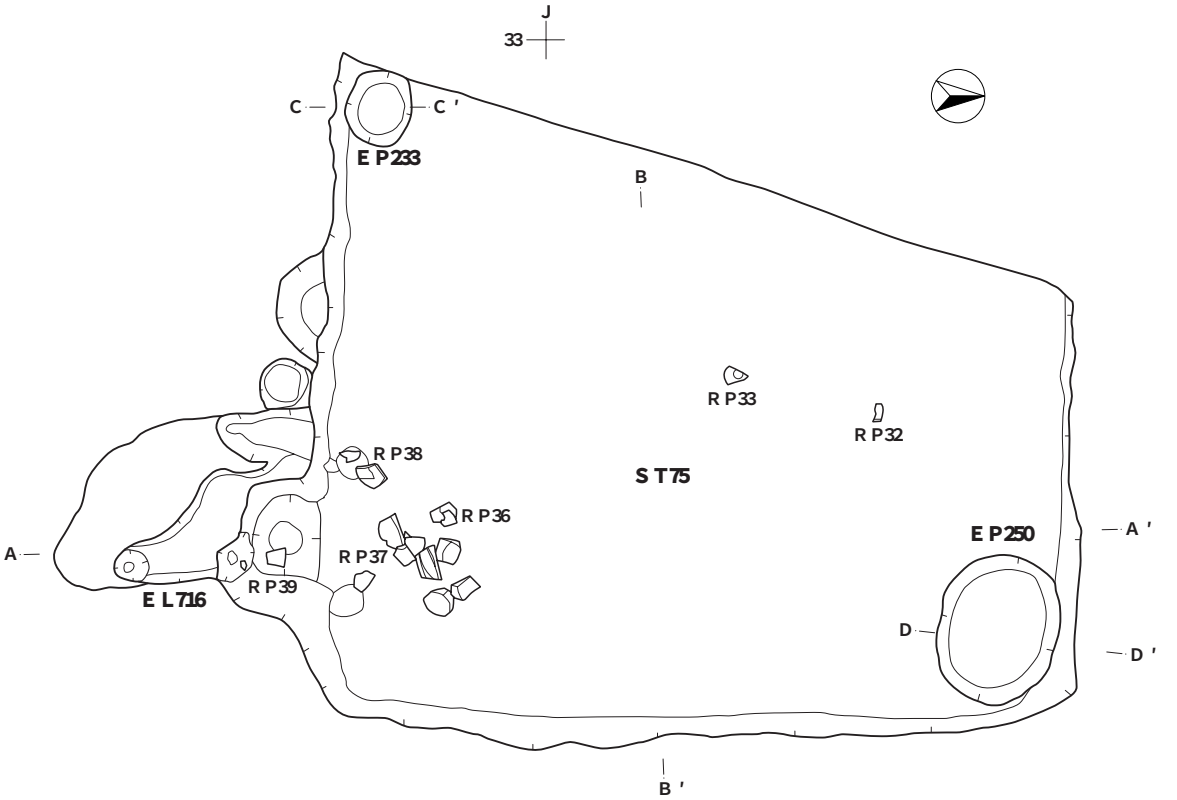
遺物出土状況

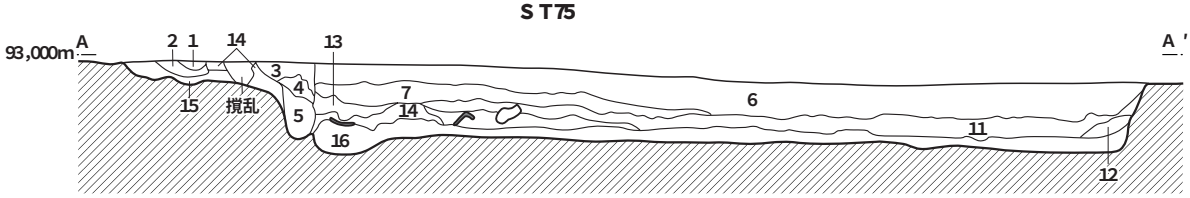


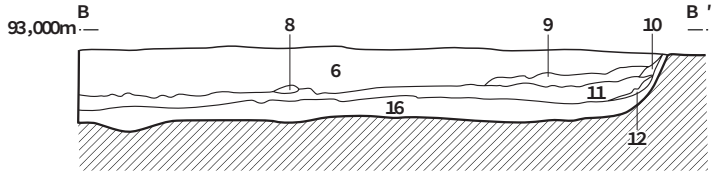
掘方範囲

0 (1：60) 3m

ＳＴ60　竪穴建物跡　遺物出土状況　掘方範囲





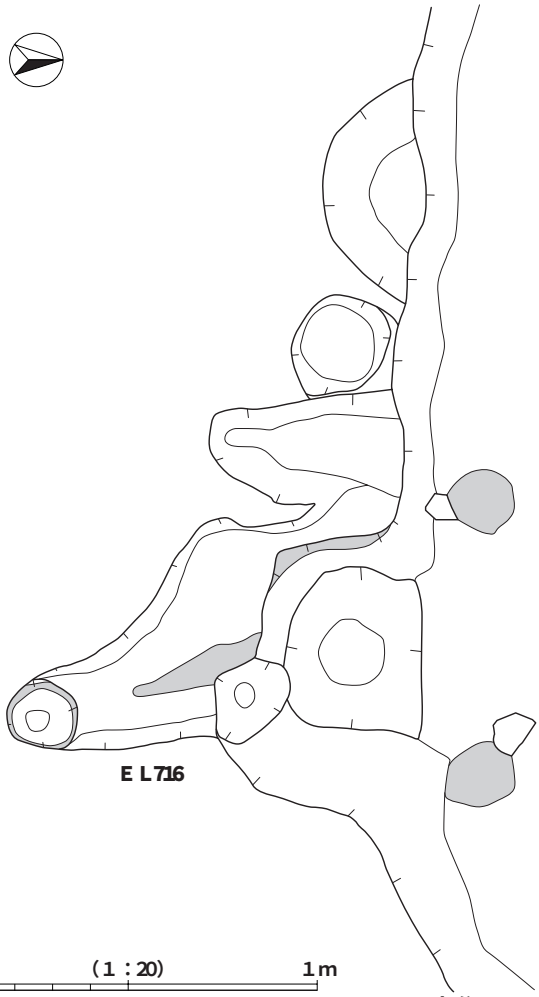


S T75　A～A ′　B～B ′

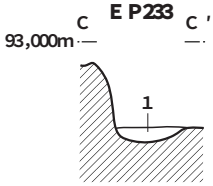
1　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト、焼土粒をごくわずかに含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、焼土粒を含む。
3　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小ブロックをわずかに含む。
4　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト。３層土、５層土が混じる。
5　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト。
6　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。
7　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒を含む。
8　10Y R 2／3黒褐色シルトと7.5Y R 3／4暗褐色砂質シルトが混じる。被熱している。
9　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小ブロックをわずかに含む。
10　10Y R 4／4褐色砂質シルト。（崩落度）
11　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトのブロックをわずかに含む。
12　10Y R 4／4褐色砂質シルト。（崩落度）
13　10Y R 3／3暗褐色シルト、焼土粒を含む。
14　7. 5Y R 3／4暗褐色シルト、焼土のブロックを含む。
15　7. 5Y R 3／4暗褐色シルト。
16　10Y R 4／4褐色シルト、10Y R 3／3暗褐色シルトが混じる。
17　10Y R 4／6褐色砂質シルト。（地山）

0　（1：40）　2m

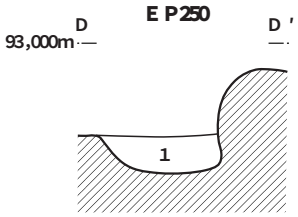
S T75　竪穴建物跡



カマド部分

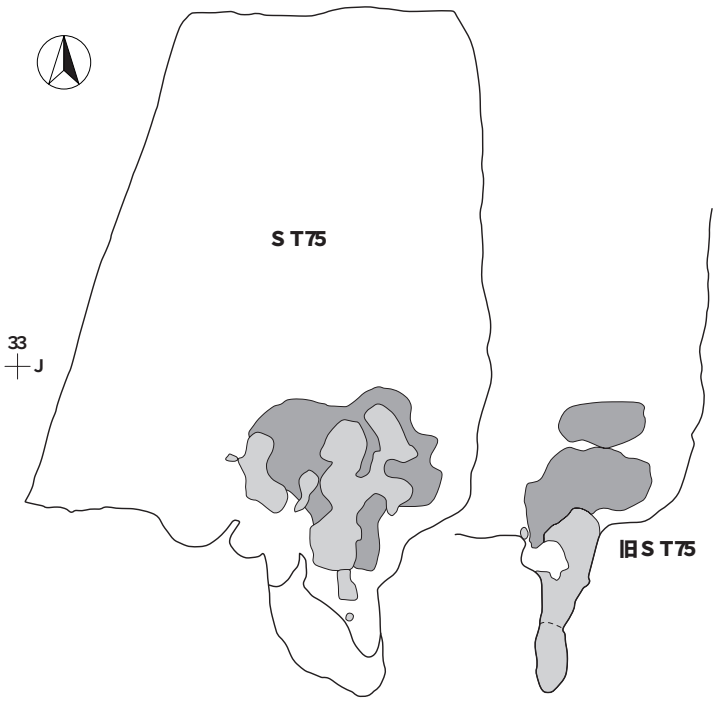


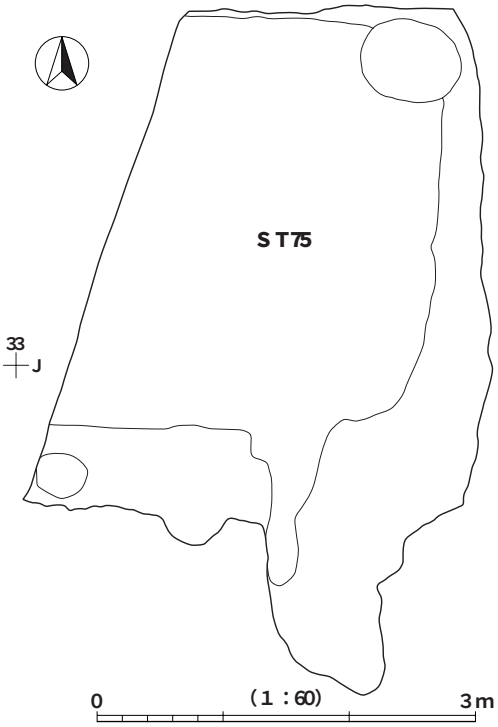
EP233　C～C'
1　10YR3/2黒褐色砂質シルト、炭化物粒をごくわずかに含む。



EP250　D～D'
1　10YR4/4褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色シルトと10YR3/2黒褐色の混合土。

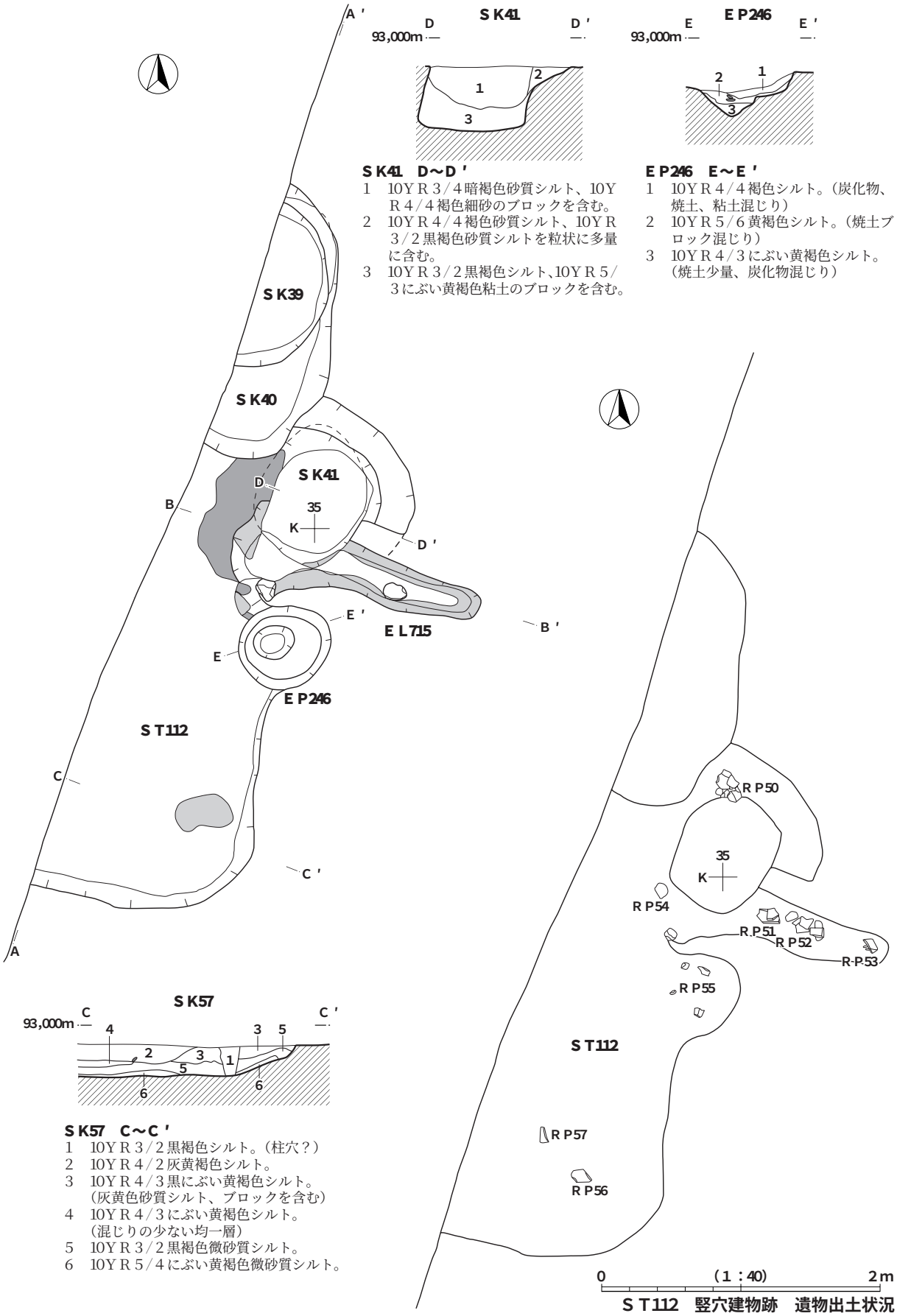
0　(1：40)　2m





0　(1：60)　3m

ST75　竪穴建物跡　焼土・炭化物分布範囲　旧ST75建物範囲



SK41　D～D'

1　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色細砂のブロックを含む。
2　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色砂質シルトを粒状に多量に含む。
3　10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/3にぶい黄褐色粘土のブロックを含む。

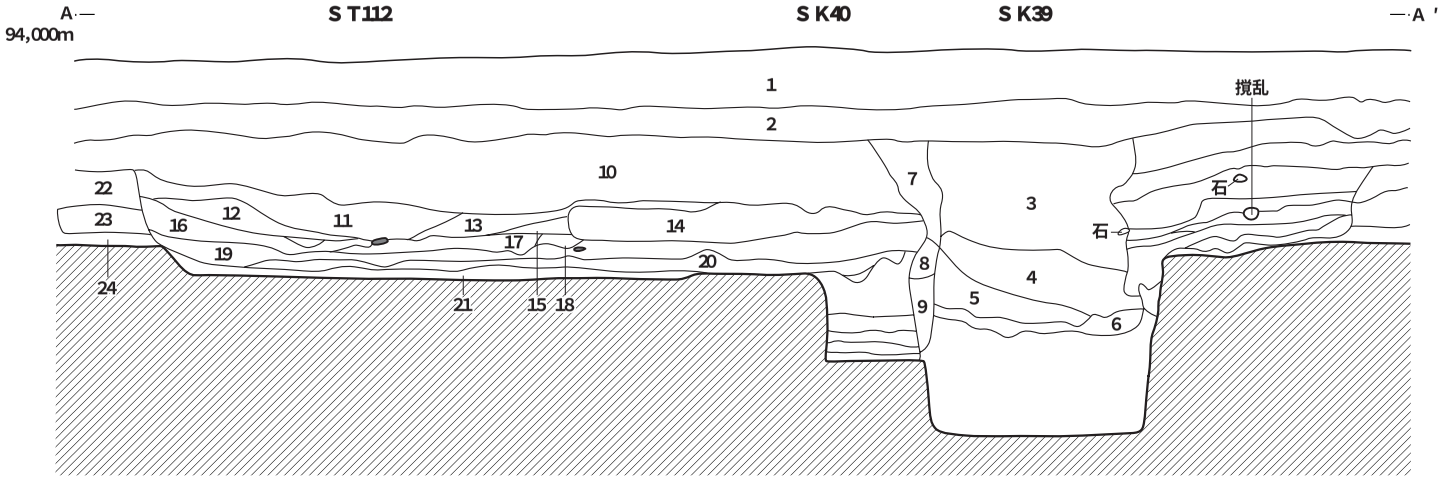
EP246　E～E'

1　10YR4/4褐色シルト。（炭化物、焼土、粘土混じり）
2　10YR5/6黄褐色シルト。（焼土ブロック混じり）
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト。（焼土少量、炭化物混じり）

SK57　C～C'

1　10YR3/2黒褐色シルト。（柱穴？）
2　10YR4/2灰黄褐色シルト。
3　10YR4/3黒にぶい黄褐色シルト。（灰黄色砂質シルト、ブロックを含む）
4　10YR4/3にぶい黄褐色シルト。（混じりの少ない均一層）
5　10YR3/2黒褐色微砂質シルト。
6　10YR5/4にぶい黄褐色微砂質シルト。

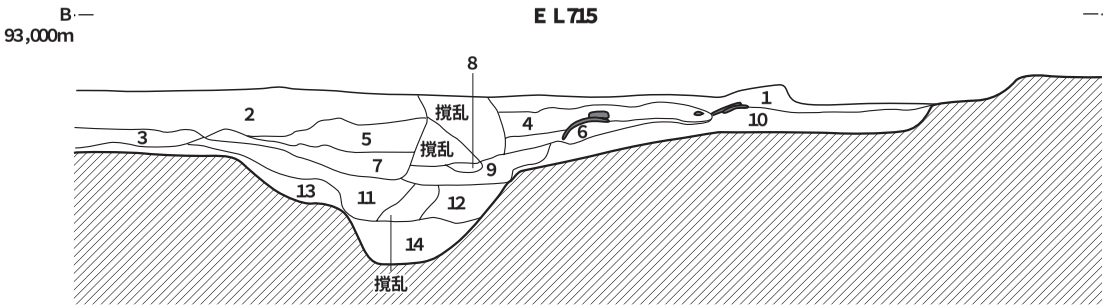
ST112　竪穴建物跡　遺物出土状況



ＳＴ112，ＳＫ40，ＳＫ39　Ａ～Ａ′

1　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色砂質シルト、10ＹＲ５／４細砂の小ブロックをわずかに含む。
2　10ＹＲ３／２黒褐色砂質シルト。
3　10ＹＲ５／３にぶい褐色シルト。
4　10ＹＲ５／１褐灰色粘土　10ＹＲ３／４暗褐色シルトの混合土。
5　10ＹＲ３／４暗褐色シルト。
6　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色シルト。
7　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色シルト。
8　10ＹＲ３／３暗褐色シルト。
9　10ＹＲ４／６褐色シルト。
10　10ＹＲ３／２黒褐色シルト。
11　10ＹＲ３／３暗褐色シルト。
12　10ＹＲ４／２灰黄褐色シルト。
13　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色シルト。
14　10ＹＲ５／４にぶい黄褐色シルト。
15　10ＹＲ３／２黒褐色シルト。
16　10ＹＲ３／２黒褐色シルト。
17　10ＹＲ２／２黒褐色シルト。
18　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色シルト。
19　10ＹＲ３／３暗褐色シルト。
20　10ＹＲ３／４暗褐色シルト。
21　10ＹＲ４／４褐色シルト。
22　10ＹＲ２／３黒褐色シルトと10ＹＲ３／３シルトの混合土。
23　10ＹＲ３／４暗褐色細砂。
24　10ＹＲ４／４褐色シルト。
※　壁面崩落のため、一部注記できず。

0　（１：40）　2m



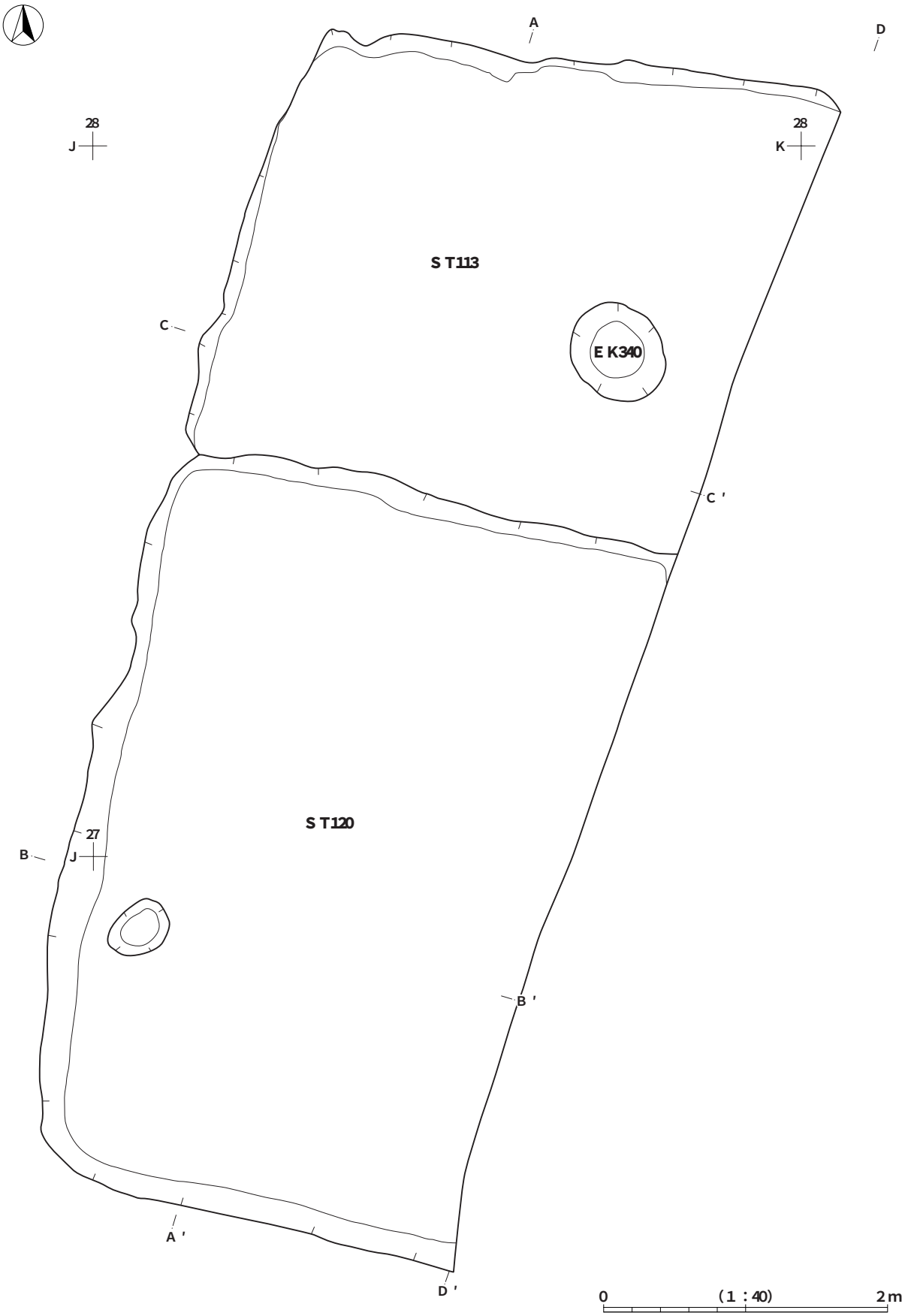
ＥＬ715　Ｂ～Ｂ′

1　2.5ＹＲ４／３にぶい赤褐色（煙道部分）、西側半分焼土の焼け色強い。
2　10ＹＲ５／４にぶい黄褐色シルト。（均一でしまりのある層、黄色シルトを含む。）
3　10ＹＲ５／４にぶい黄褐色シルト。（焼土小粒小量、黄色シルトを多く含む。）
4　2.5ＹＲ４／８赤褐色焼土（2.5ＹＲ２／４極暗赤褐色土直径１㎝のブロックを含む。）
5　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色シルト。（黄色シルト混じり）
6　10ＹＲ２／４極暗褐色シルト。（１の東側、２の東側と同じ）
7　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色シルト。（焼土粒の小ブロック混じり）
8　10ＹＲ５／２灰黄褐色粘質シルト。（かたまりで入る）
9　10ＹＲ４／２灰黄褐色シルト、焼土粒混じり。
10　10ＹＲ４／２灰黄褐色シルト。
11　10ＹＲ５／４にぶい黄褐色シルト。（焼土小ブロックを多量に含む。）
12　10ＹＲ５／８赤（焼土ブロック）下半は灰黄色シルト混じり。
13　10ＹＲ３／１黒褐色。（炭と灰の層に黒灰多く含む。）
14　灰黄褐色シルト。（若干の焼土を含むが混じりが少ない）

0　（１：20）　1m

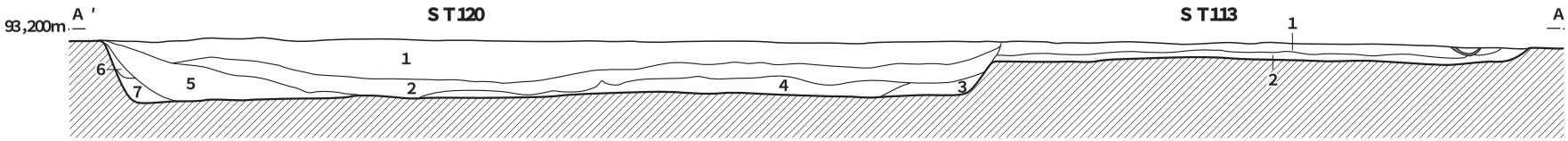
ＳＴ112　竪穴建物跡　土層断面図

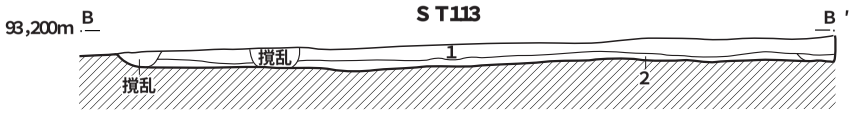
図版25

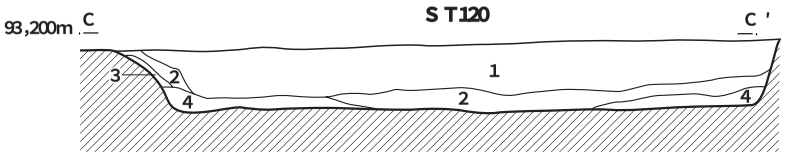


ST113・ST120　竪穴建物跡

図版26







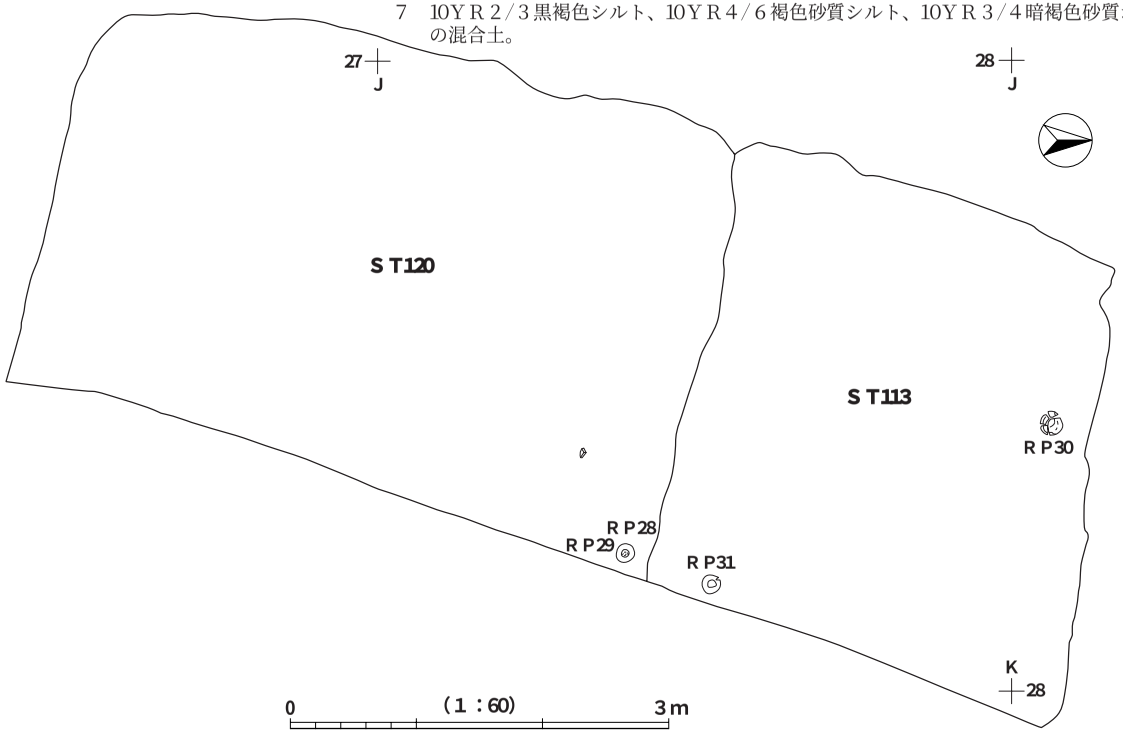
ST113　A～A'　B～B'

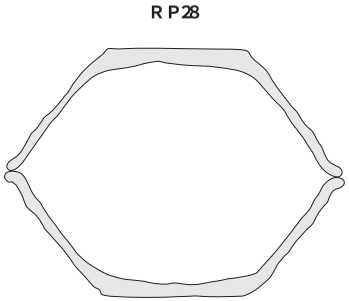
1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小粒を含む。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質シルトが混じる。（2：1）

ST120　A～A'　C～C'

1　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトがわずかに混じる。
2　10YR2/3黒褐色シルト、10YR4/6褐色砂質シルトが混じる。
3　10YR4/6褐色砂質シルト。（崩落土）
4　10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質シルトの混合土。（砂質が強い）
5　10YR4/6褐色砂質シルト、10YR2/3黒褐色シルトが粒状に混じる。
6　10YR4/6褐色砂質シルト。（崩落土）
7　10YR2/3黒褐色シルト、10YR4/6褐色砂質シルト、10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。

0　（1：40）　2m

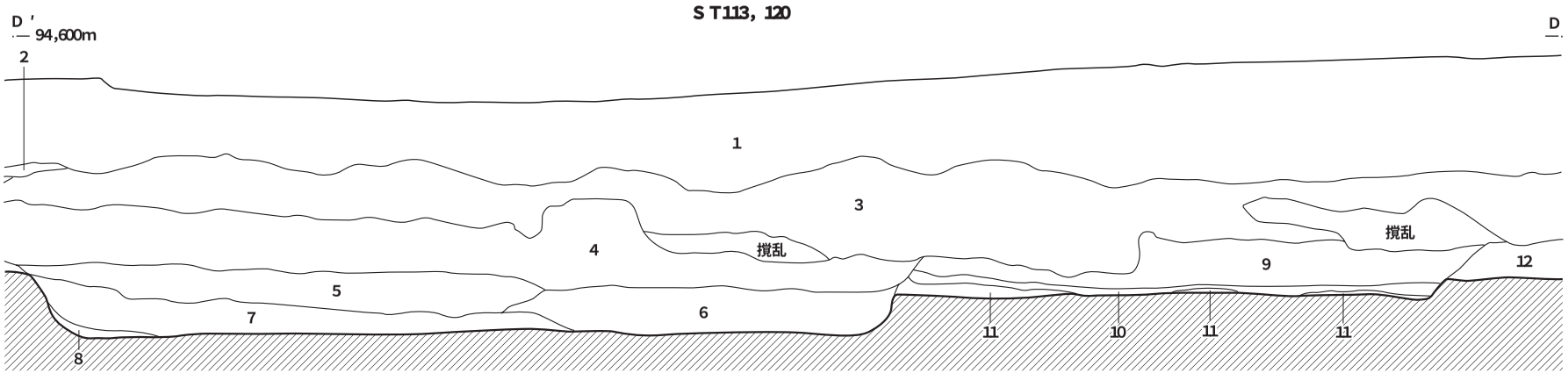




0　3cm
（1：3）

ST113・ST120　竪穴建物跡　遺物出土状況

図版27



ST113, ST120　D～D'

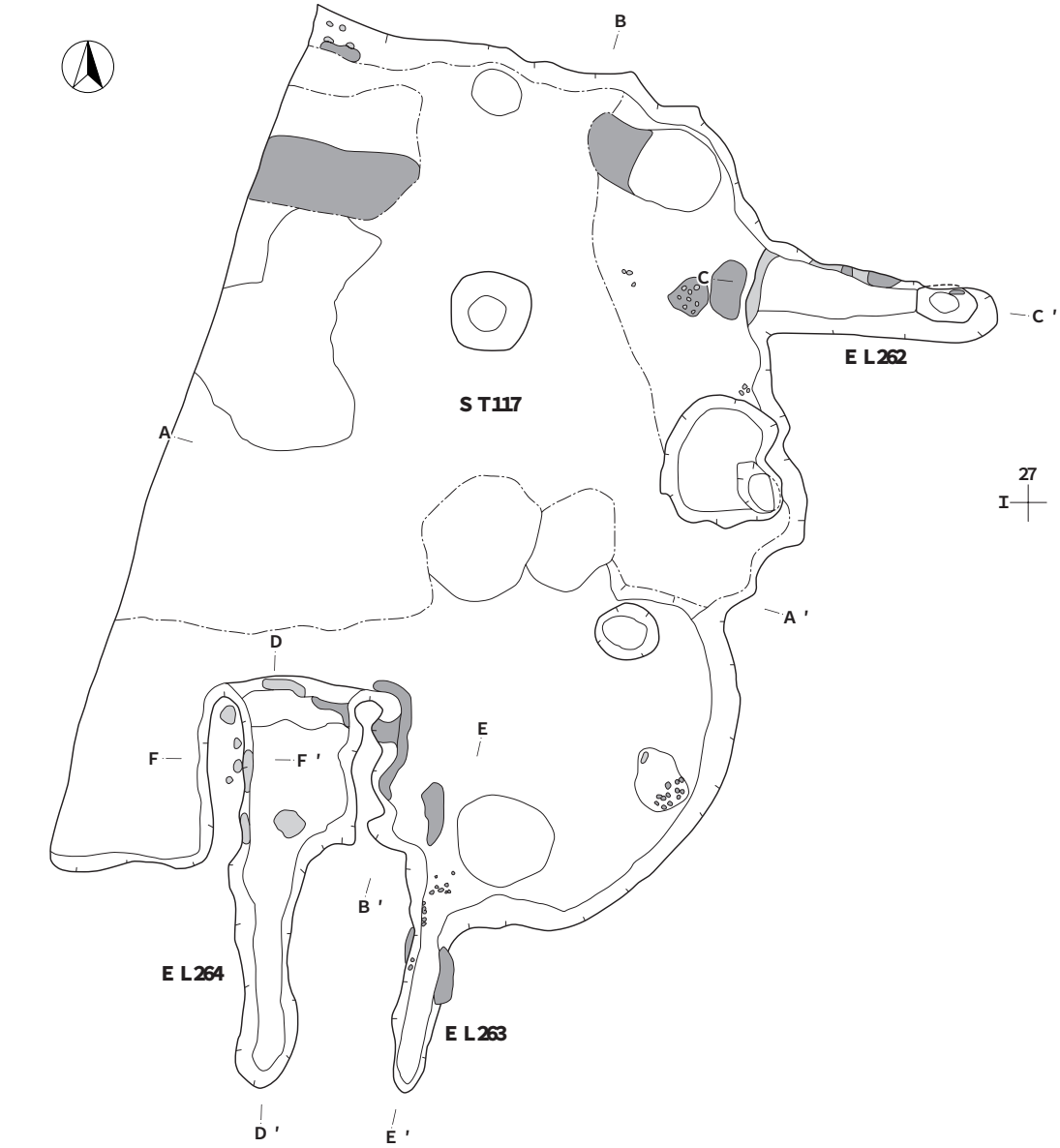
1　10YR4/6褐色シルト、10YR5/2灰黄褐色粘土の小ブロックを含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR6/6明黄褐色粘土のブロックを含む。
3　10YR3/4暗褐色シルト。
4　10YR3/2黒褐色砂質シルト。
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小粒を多量に含む。
6　10YR2/3黒褐色砂質シルト、10YR3/4暗褐色砂質シルトを粒状に含む。
7　10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR2/3黒褐色砂質シルトの混合土。
8　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。
9　10YR2/2黒褐色砂質シルト。
10　10YR2/2黒褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。
11　10YR2/2黒褐色砂質シルト、10YR4/3にぶい黄褐色粘土のブロックを含む。地山混じる。
12　10YR2/2黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小粒をふくむ。

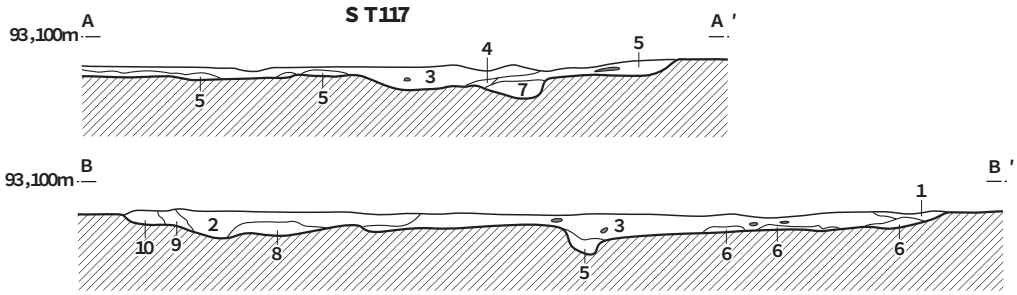
ST120

床面　10YR4/4褐色砂質シルト。

0　(1：40)　2m

ST113・ST120　竪穴建物跡　土層断面図



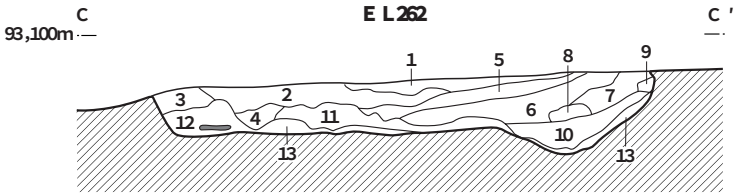


S T117　A～A ′　B～B ′

1　10Y R 2／3黒褐色シルト。
2　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト、10Y R 5／6黄褐色粘土粒、炭化物粒を含む。
3　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト。焼土粒、炭化物粒を含む。
4　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトを多量に含む。
5　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの混合土。
6　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト。炭化物灰を多く含む。
7　10Y R 2／3黒褐色シルト。焼土粒、炭化物粒をごくわずかに含む。
8　10Y R 2／3黒褐色シルト。5との境で炭化物粒を含む。
9　10Y R 4／4褐色砂質シルト、10Y R 5／6黄褐色粘土を粒状に多量に含む。10との境で炭化物を含む
10　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。

0　(1：40)　2m

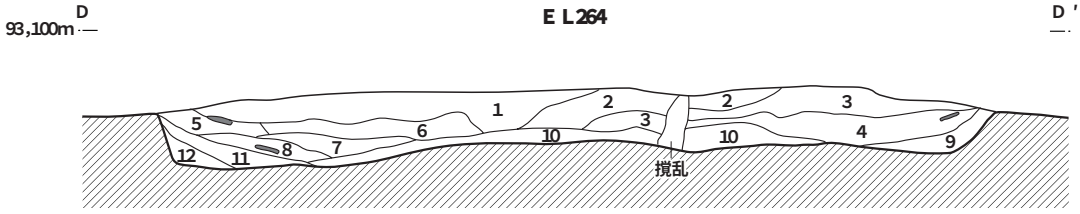
S T117　竪穴建物跡



EL262　C～C'

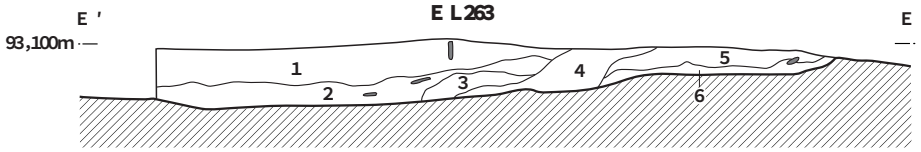
1　10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土。
2　7.5YR2/3黒褐色砂質シルト、焼土の小ブロックを多量に含む。炭化物粒を含む。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト、焼土のブロックを含む。灰を含む。
4　7.5YR2/3極暗褐色砂質シルト、13層土を含む。焼土粒を含む。
5　7.5YR2/2黒褐色砂質シルト、炭化物を含む。焼土粒をわずかに含む。
6　7.5YR2/1黒色砂質シルト、焼土粒を含む。両端で10YR4/4褐色砂質シルトの小粒を含む。
7　7.5YR2/2黒褐色砂質シルト、焼土粒を含む。
8　10YR4/6褐色砂質シルト。
9　10YR4/6褐色砂質シルト。
10　7.5YR1.7/1黒色砂質シルト、7.5YR3/4暗褐色の焼土を含む。
11　7.5YR2/3極暗褐色砂質シルト。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
12　7.5YR2/3極暗褐色砂質シルト、焼土の小ブロックをわずかに含む。
13　10YR4/6褐色砂質シルト。（地山か？）

＊　全体的に被熱している。（8，9，13以外）



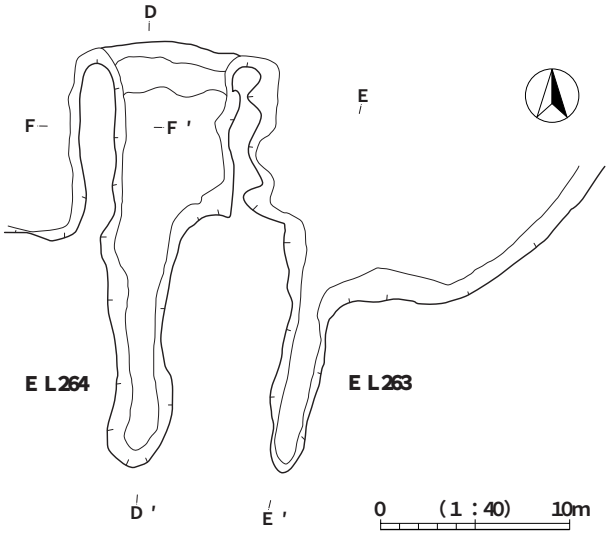
EL264　D～D'

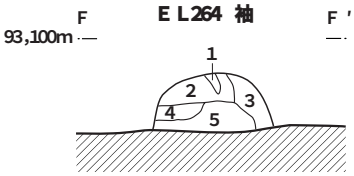
1　10YR2/2黒褐色シルト。焼土粒をわずかに含む。
2　10YR2/3黒褐色砂質シルト、5YR4/8赤褐色焼土ブロックを多量に含む。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト。焼土粒、灰を含む。
4　10YR2/3黒褐色シルト。焼土粒、焼土のブロックを含む。
5　10YR2/3黒褐色シルト、10YR4/6褐色焼土のブロックを多量に含む。
6　7.5YR4/4褐色の焼土のブロック層。
7　10YR3/2黒褐色砂質シルト。焼土粒をわずかに含む。
8　10YR2/3黒褐色砂質シルト。炭化物を多量に含む。
9　10YR3/3暗褐色砂質シルト。焼土の小粒をごくわずかに含む。
10　10YR3/4暗褐色砂質シルト。
11　10YR2/2黒褐色シルト。12をわずかに含む。
12　10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土。



EL263　E～E'

1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトが混じる。焼土粒、炭化物粒を含む。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトのブロックをわずかに含む。
3　10YR2/3黒褐色シルト、焼土の小ブロックを多量に含む。
4　10YR3/4暗褐色砂質シルト、炭化物粒をごくわずかに含む。焼土粒を含む。
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト。焼土粒をやや多く含む。
6　10YR3/3暗褐色砂質シルト。



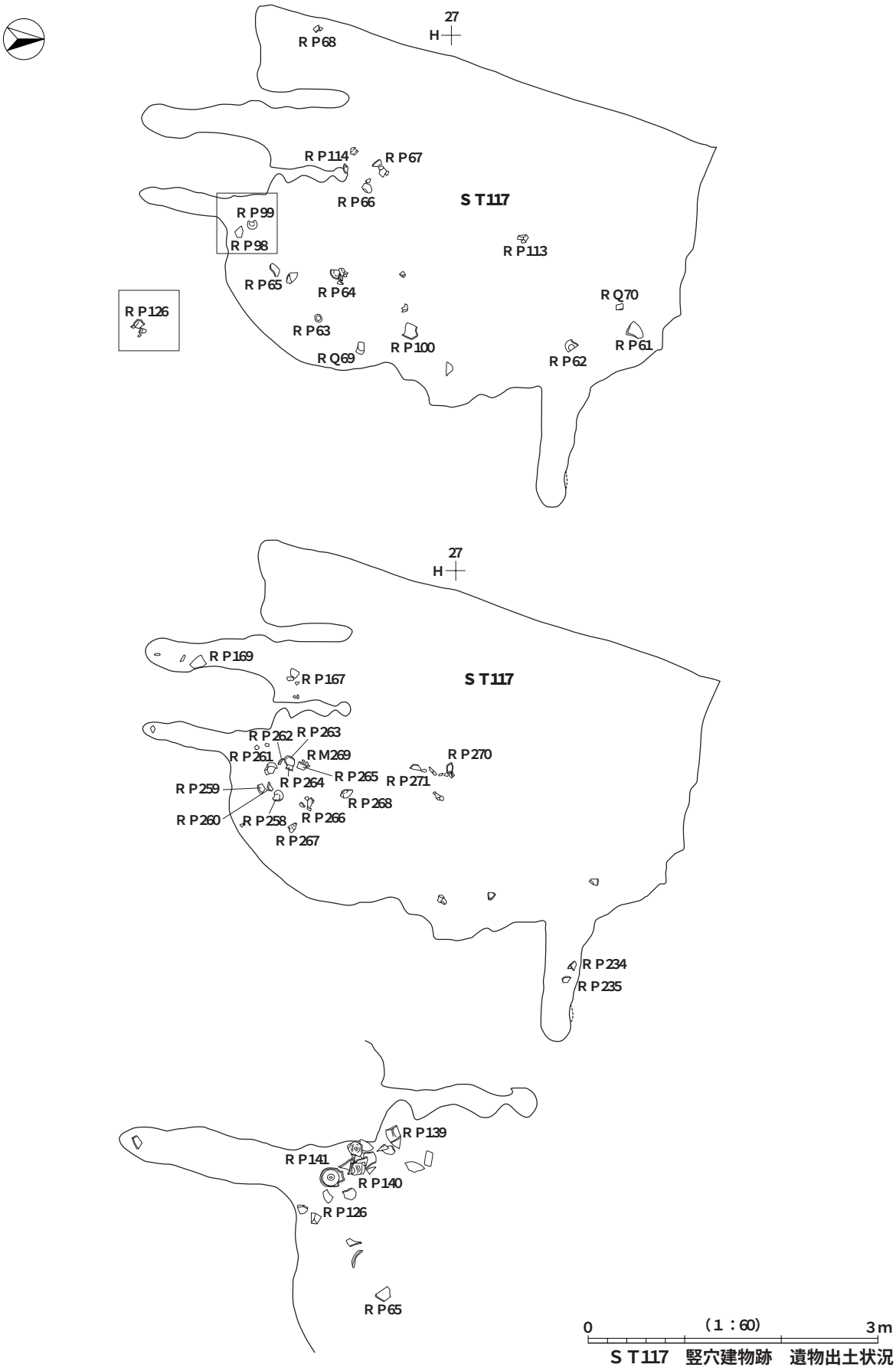


EL264　袖　F～F'

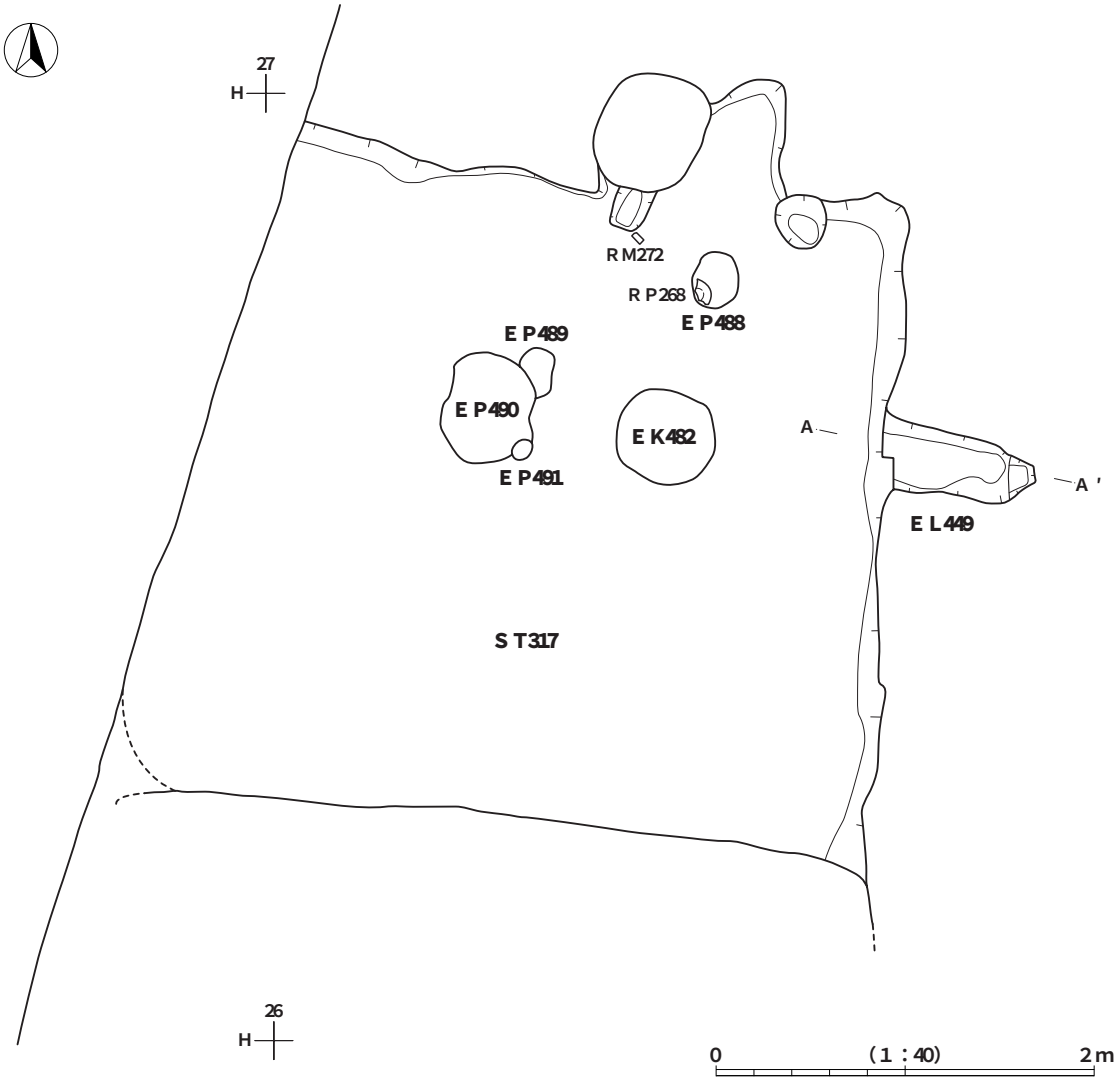
1　10YR3/4暗褐色砂質シルト。
2　7.5YR4/4褐色砂質土、5YR3/6暗赤褐色焼土のブロックを含む。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト。
4　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（灰含む）炭化物粒を含む。
5　10YR2/3黒褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小粒を含む。焼土粒を含む。

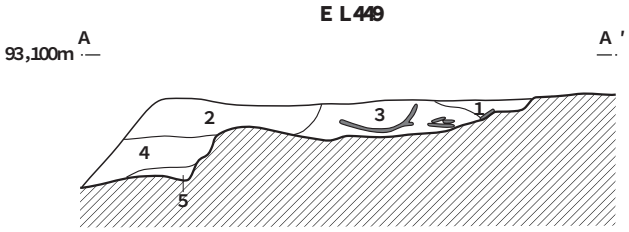
0　(1：20)　1m

ST117　竪穴建物跡　土層断面図



ＳＴ117　竪穴建物跡　遺物出土状況



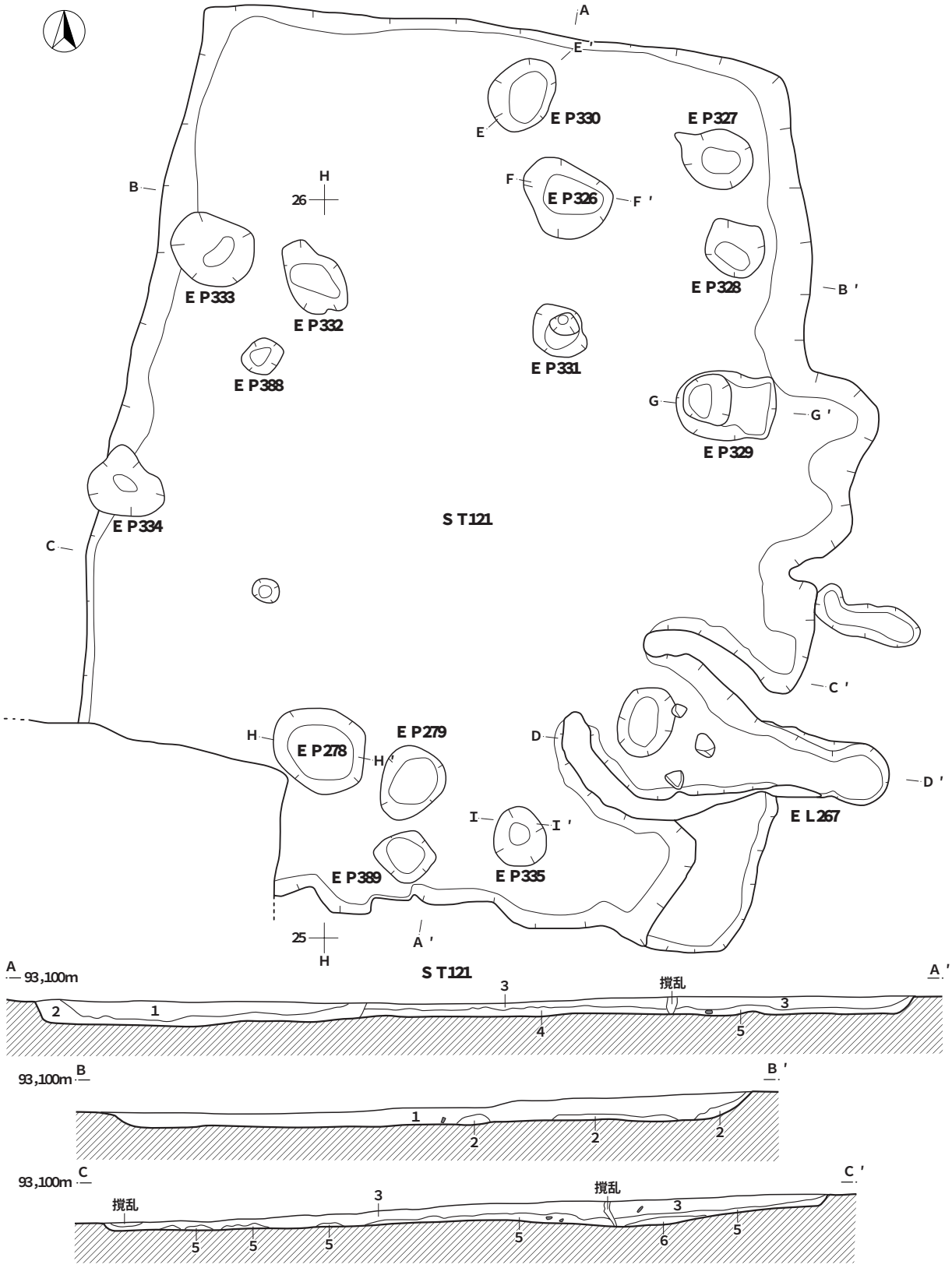


EL449　A～A'

1　10YR3/4暗褐色砂質土、10YR3/3暗褐色砂質土のブロックを含む。
2　10YR2/3黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトのブロックを含む。焼土ブロックを含む。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質シルトの混合。黒が強い。
5　10YR4/4褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。

0　(1：20)　1m

ST317　竪穴建物跡

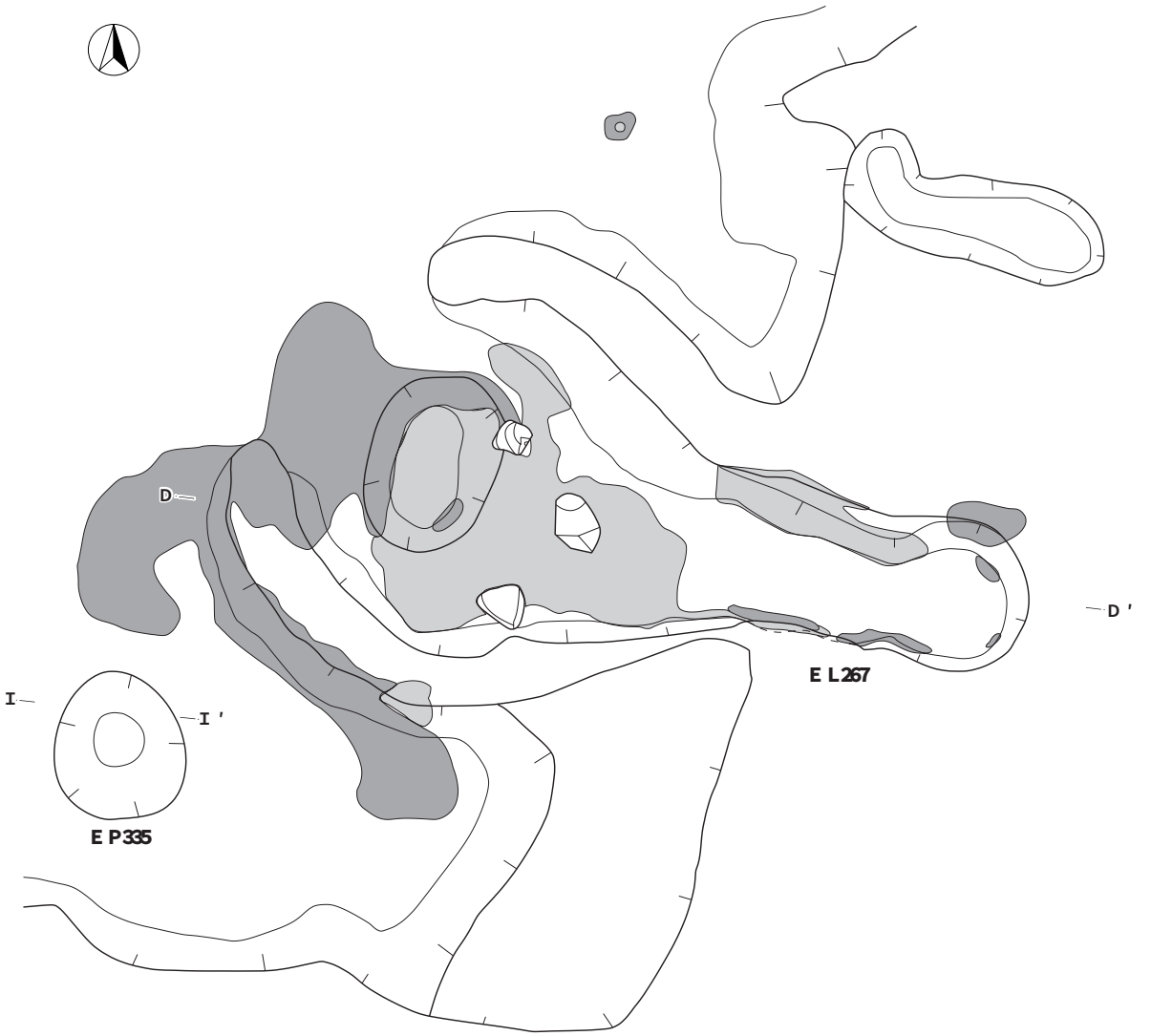


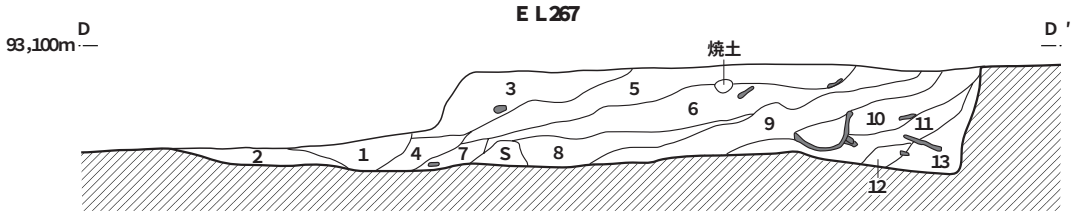
S T121　A～A'　B～B'　C～C'

1　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト、炭化物粒をごくわずかに含む。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小ブロックを含む。焼土粒、炭化物粒をごくわずかに含む。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物粒を含む。
5　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
6　10YR2/2黒褐色シルト。炭化物を多く含む。

0　(1：40)　2m

S T121　竪穴建物跡



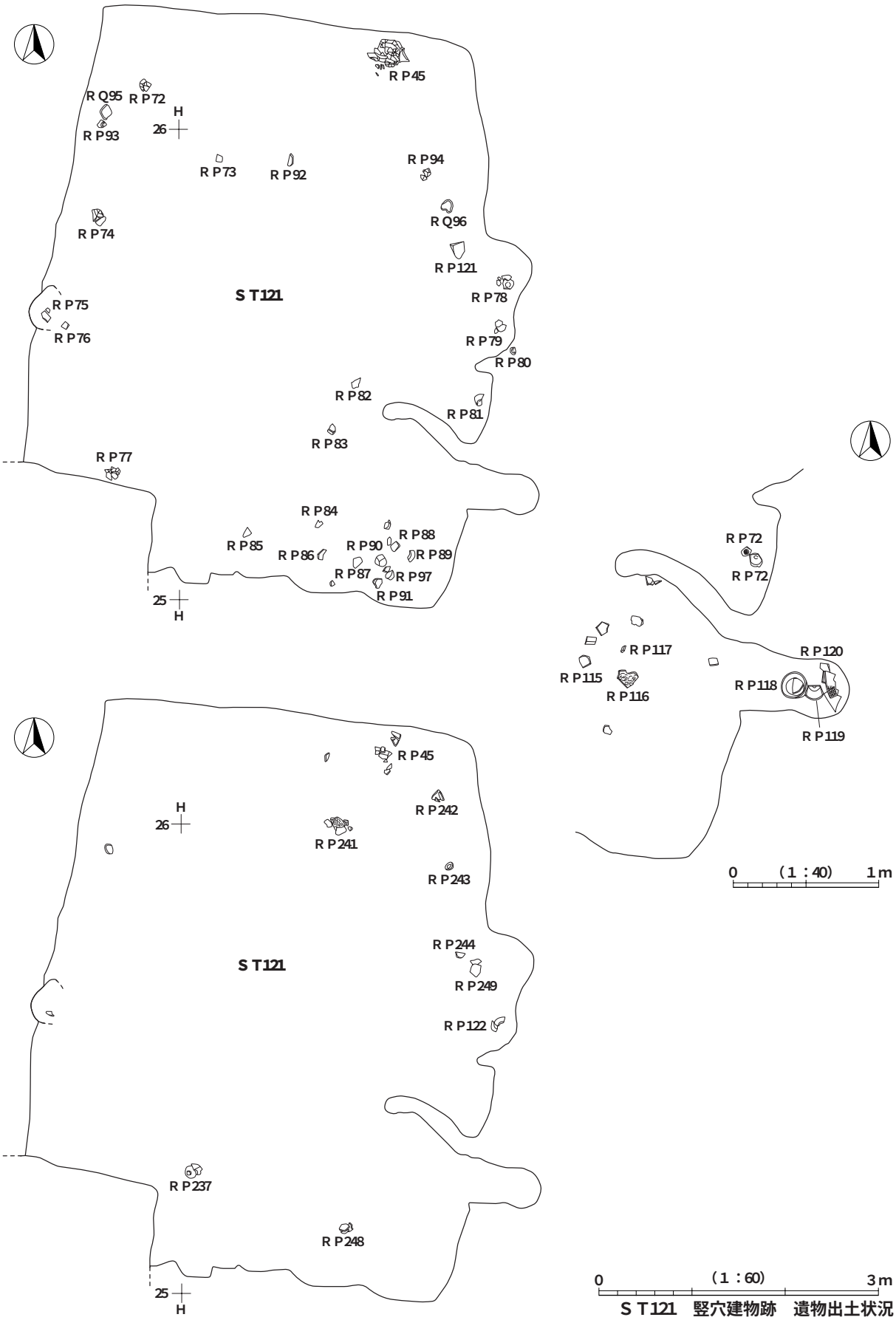


EL267　D～D'

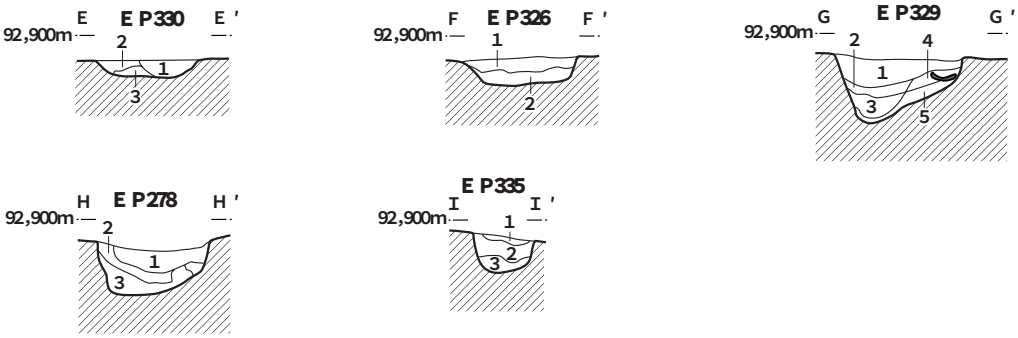
1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、焼土の小ブロックをわずかに含む。
2　10YR3/2黒褐色砂質シルト、焼土の小ブロックをわずかに含む。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト、焼土の小ブロック。灰を含む。
5　10YR2/3黒褐色シルト、焼土の大小ブロックを含む。
6　10YR2/2黒褐色シルト、焼土の大ブロックを下方で含む。
7　7.5YR2/3極暗褐色砂質シルト、焼土の小粒を含む。
8　10YR2/3黒褐色シルト、焼土のブロックを西端で含む。
9　10YR2/3黒褐色シルト、全体に被熱し中央部で焼土をかたまりで含む。
10　10YR2/2黒褐色シルト、焼土の小粒をわずかに含む。
11　10YR2/2黒褐色シルト、10YR2/3黒褐色砂質シルトが混じる。焼土の小粒をわずかに含む。
12　10YR1.7/1黒色シルト。
13　10YR2/2黒褐色シルトと10YR2/3黒褐色砂質シルトの混合土。

0　(1：20)　1m

ST121　竪穴建物跡　竈部分図



ＳＴ121　竪穴建物跡　遺物出土状況



E P330　E～E ′
1　10Y R 3 / 3暗褐色砂質シルト、10Y R 4 / 6 褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
2　10Y R 3 / 4暗褐色シルトと10Y R 2 / 3黒褐色シルトの混合土。
3　10Y R 2 / 3黒褐色シルト、焼土のブロック・炭化物粒を含む。

E P326　F～F ′
1　10Y R 3 / 2黒褐色砂質シルト。
2　10Y R 3 / 2黒褐色砂質シルト、10Y R 4 / 4 褐色砂質シルトの小ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒を含む。

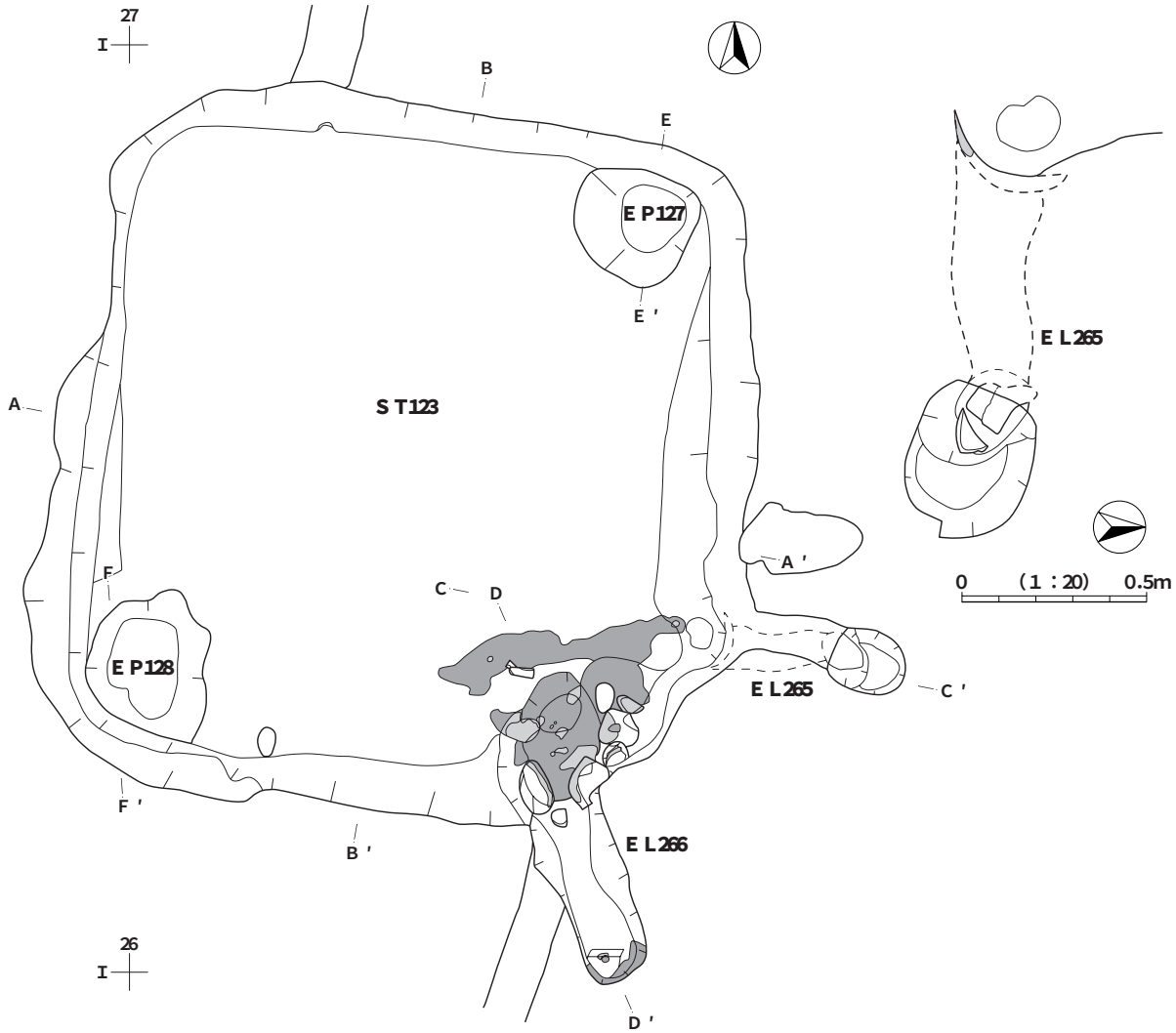
E P329　G～G ′
1　10Y R 3 / 3暗褐色シルト。
2　10Y R 3 / 2黒褐色シルト。
3　10Y R 3 / 2黒褐色シルト、10Y R 4 / 3にぶい黄褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
4　10Y R 4 / 3にぶい黄褐色砂質シルト。
5　10Y R 4 / 3にぶい黄褐色砂質シルト、10Y R 5 / 3にぶい黄褐色シルトの小ブロックを含む。

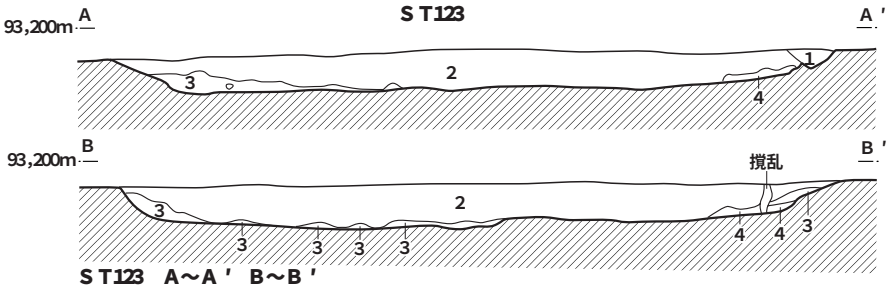
E P278　H～H ′
1　10Y R 3 / 2黒褐色シルト、10Y R 3 / 4暗褐色シルトをマーブル状に含む。
2　10Y R 3 / 3暗褐色シルトと10Y R 4 / 4 褐色シルトの混合土。
3　10Y R 3 / 2黒褐色シルト。

E P335　I～I ′
1　５Y R 4 / 4にぶい赤褐色砂質シルト。（焼土層）
2　10Y R 3 / 2黒褐色砂質シルトと10Y R 4 / 6 褐色砂質シルトの混合土。
3　10Y R 3 / 3暗褐色砂質シルトと10Y R 4 / 6 褐色砂質シルトの混合土。

0　（1：40）　2m

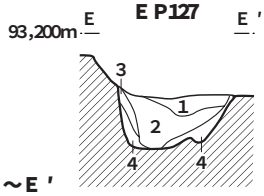
S T121　竪穴建物跡　柱穴断面図





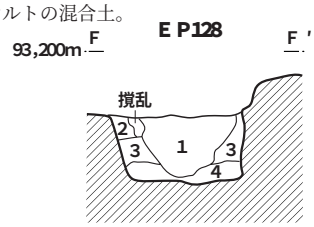
S T123　A～A ′　B～B ′

1　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト。（被熱？）
2　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトを粒状に含む。（ピット）
3　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色細砂を小粒状にごくわずか含む。
4　10Y R 2／2黒褐色砂質シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトの混合土。



E P127　E～E ′

1　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト。炭化物粒をごくわずかに含む。
2　10Y R 2／1黒色砂質シルト（炭化物土）と、10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの混合土。焼土粒をわずかに含む。
3　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト。２の土が混じる。
4　10Y R 2／1黒色砂質シルトと10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの混合土。２に近いが焼土粒をほとんど含まない。

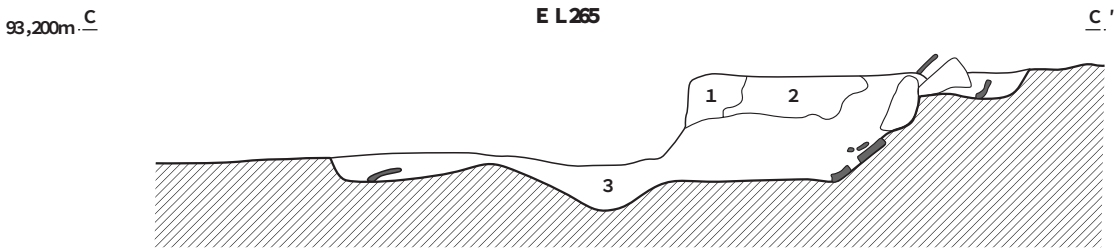


E P128　F～F ′

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの混合土。
2　１に同じ。10Y R 3／4が強い。
3　10Y R 3／4暗褐色シルト。
4　10Y R 3／3暗褐色シルト。

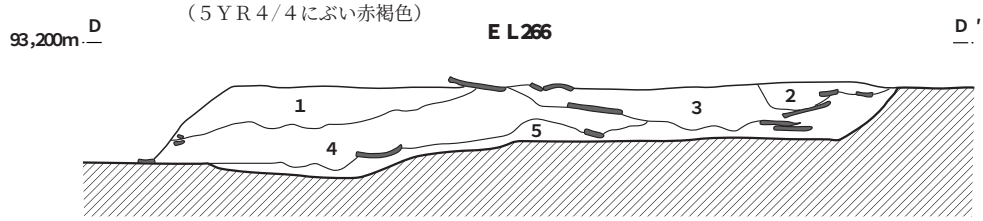
0 (1：40) 1m

S T123　竪穴建物跡



EL265　C～C'

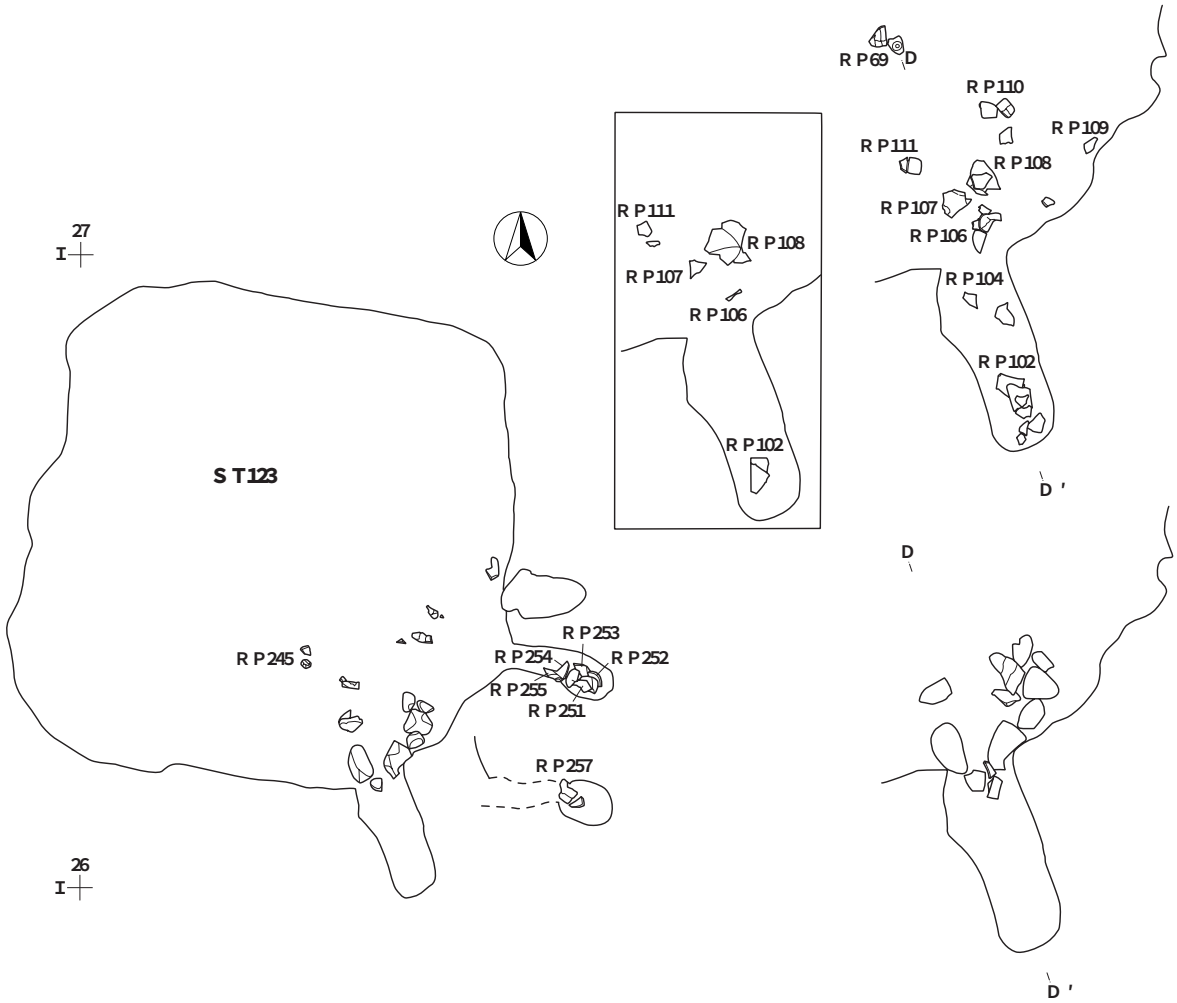
1　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質土の混合土。
2　10YR4/6褐色砂質シルト。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルトと10YR4/6褐色砂質シルトの混合土、焼土のブロックを含む。
　（5YR4/4にぶい赤褐色）



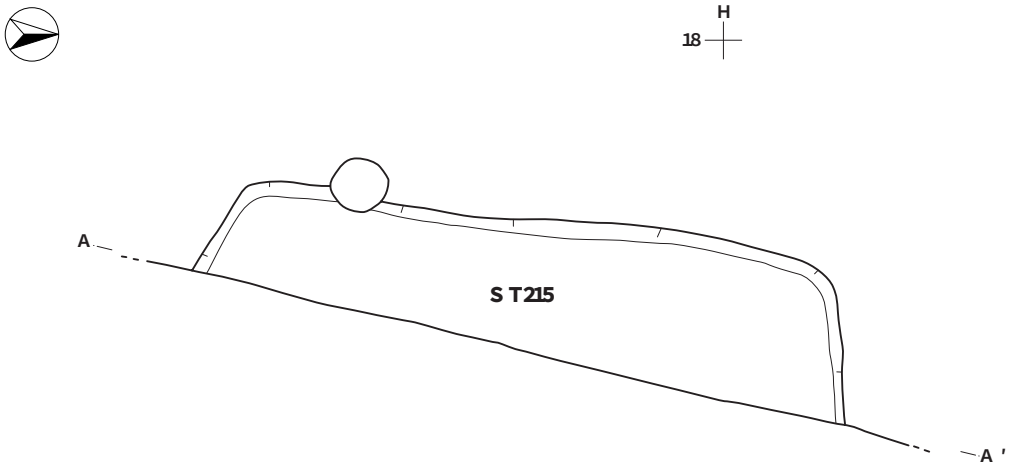
EL266　D～D'

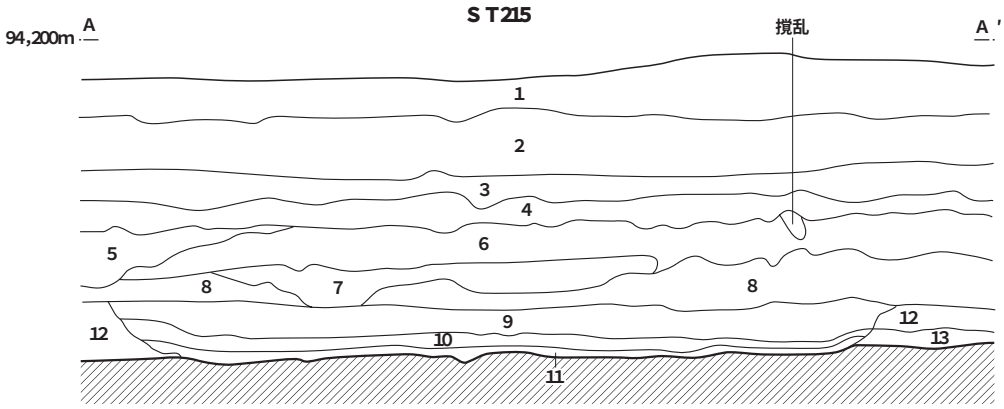
1　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/4暗褐色砂質シルトが下方で混じる。
2　3に同じ。
3　10YR2/3黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトが少量混じる。
4　10YR3/4暗褐色砂質シルト、焼土粒。炭化物粒が混じる。
5　10YR2/2黒褐色砂質シルト、炭化物粒を含む。

0　(1：20)　1m



ST123　竪穴建物跡　遺物出土状況



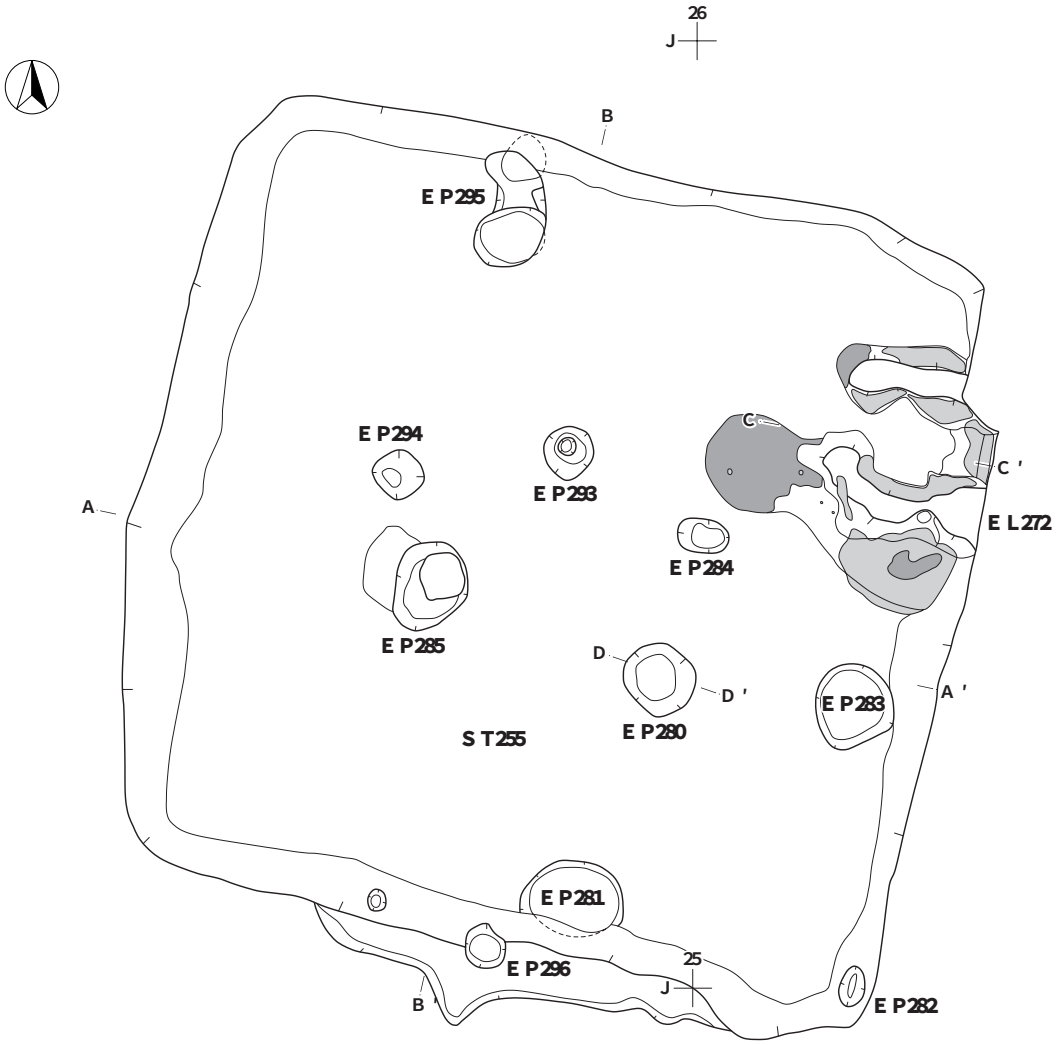


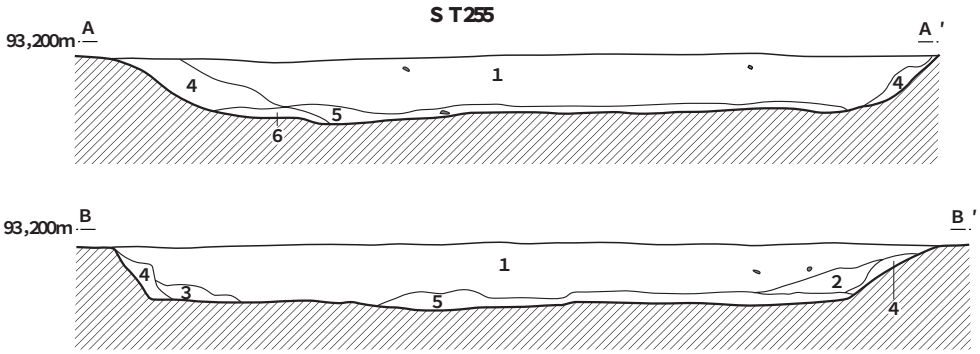
ST215　A～A'

1　10YR5/4にぶい黄褐色細砂。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色細砂の小ブロックをわずかに含む。
3　10YR3/2黒褐色砂質シルト。
4　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR6/4褐色細砂の小ブロックを含む。
5　10YR3/2黒褐色シルトかたくしまる。
6　10YR3/2黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの粒をわずかに含む。
7　10YR3/2黒褐色砂質シルト。（6より粘度が高い）
8　10YR3/2黒褐色シルト。
9　10YR3/2黒褐色シルト。（8にくらべ少し茶色がかってかたい。）
10　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小ブロックを含む。被熱しており、焼土を含む。
11　10YR2/2黒褐色シルト。かたく、10YR4/4褐色砂質シルトの粒をわずかに含む。
12　10YR2/2黒褐色粘質シルト。
13　10YR3/3暗褐色砂質シルト。

0　（1：40）　2m

ST215　竪穴建物跡



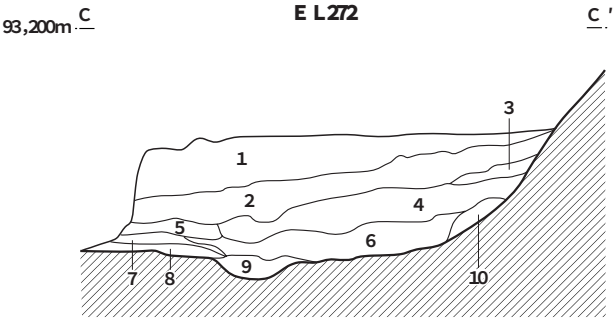


S T255　A～A ′　B～B ′

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒を含む。土器片を含む。（覆土）
2　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト。
3　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと10Y R 2／2黒褐色シルトの混合土。焼土粒を含む。
4　10Y R 3／4暗褐色砂質シルトと10Y R 4／6褐色砂質シルトの混合土。（崩落土）
5　10Y R 2／3黒褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒を１よりやや多く含む。
6　10Y R 2／2黒褐色シルト。

0　（1：40）　2m

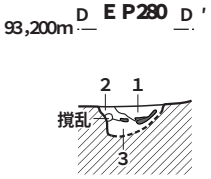
S T255　竪穴建物跡



E L272　C～C ′

1　10Y R 2／3黒褐色砂質シルト。焼土粒をごくわずかに含む。
2　10Y R 2／3黒褐色砂質シルト、10Y R 3／4暗褐色砂質シルトを小粒状に含む。炭化物粒、焼土粒を含む。
3　10Y R 2／2黒褐色シルト。焼土粒を含む。
4　7.5Y R 3／4暗褐色砂質シルト。焼土のブロックを多量に含む。
5　10Y R 2／3黒褐色砂質シルト。焼土の小粒をわずかに含む。
6　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト。灰、焼土の小ブロックを含む。
7　10Y R 2／3黒褐色砂質シルト。灰、焼土を層状に下方で含む。
8　10Y R 2／2黒褐色シルト。焼土を層状にわずかに含む。
9　10Y R 2／2黒褐色シルト。
10　10Y R 4／4褐色細砂。

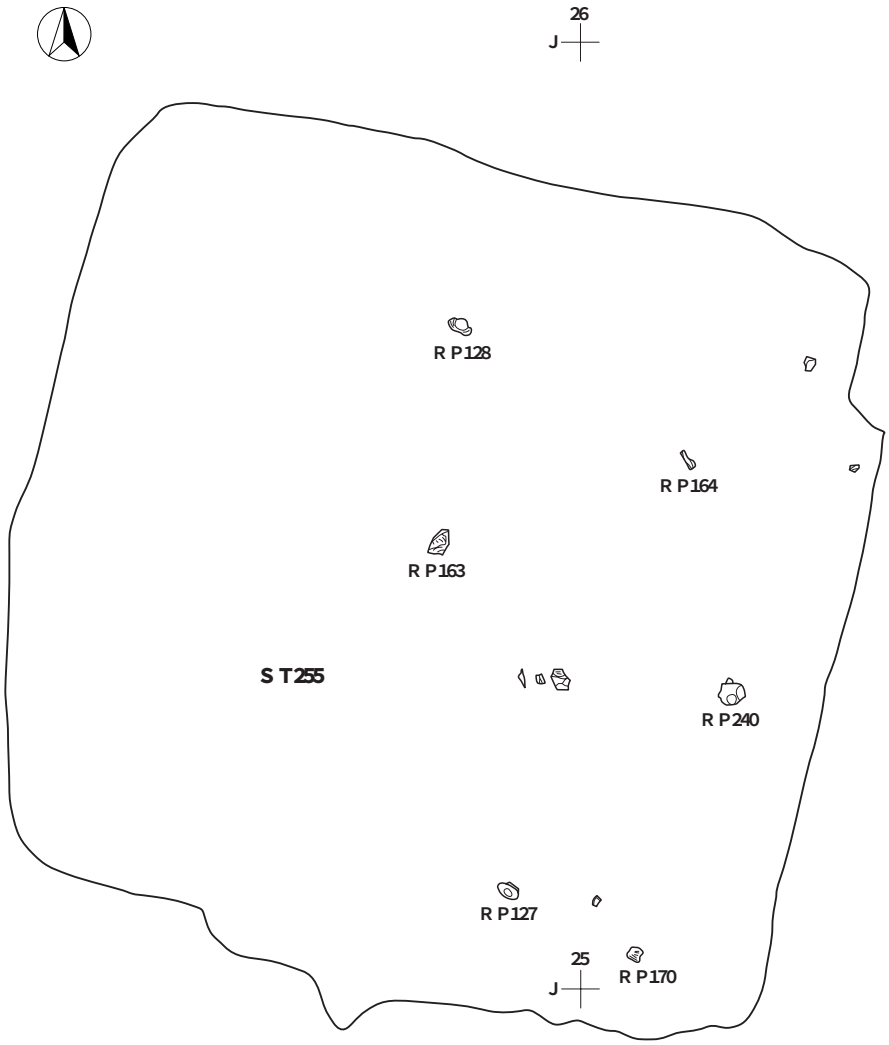
0　(1：20)　1m



E P280　D～D ′

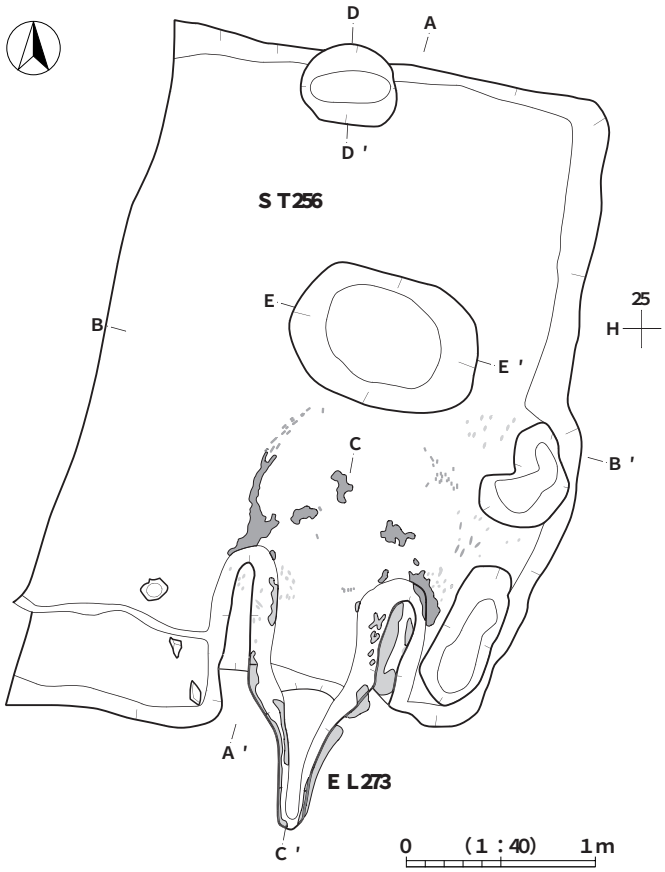
1　10Y R 4／4褐色砂質シルトで、10Y R 3／3暗褐色砂質シルトのブロックを含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトで、焼土の小ブロックを含む。
3　10Y R 2／3黒褐色で、10Y R 4／4褐色砂質シルトのブロックを含む。焼土粒を含む。

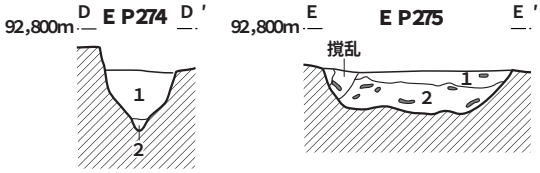
0　(1：40)　2m



0　(1：40)　2m

S T255　竪穴建物跡　遺物出土状況





ＥＰ274　Ｄ～Ｄ′

1　10ＹＲ２／２黒褐色シルト。10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルトの混合土。

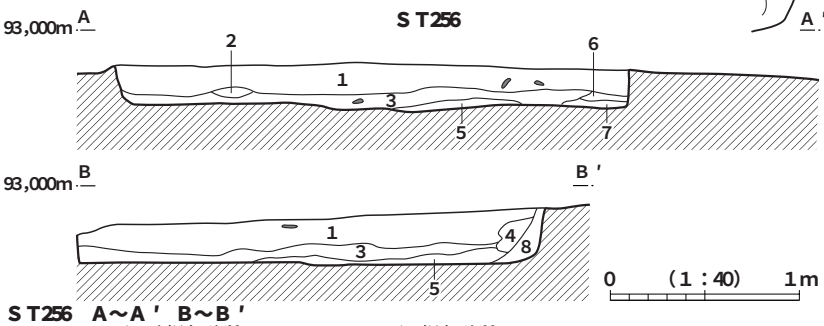
2　10ＹＲ３／３暗褐色シルト。

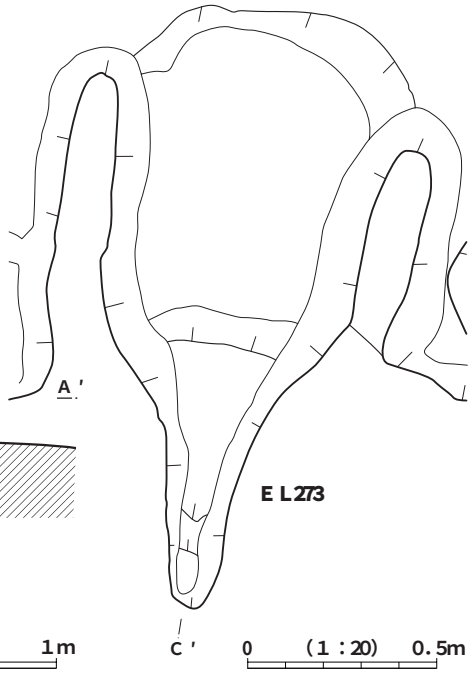
ＥＰ275　Ｅ～Ｅ′

1　10ＹＲ２／３黒褐色砂質シルトと10ＹＲ４／４褐色砂質シルトの混合土。焼土粒、炭化物粒を含む。

2　５ＹＲ３／２黒褐色シルト、５ＹＲ３／６暗赤褐色焼土と炭化物を多量に含む。

0 （1：40） 1m





ＳＴ256　Ａ～Ａ′　Ｂ～Ｂ′

1　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルトと10ＹＲ４／６褐色砂質シルトと10ＹＲ２／２黒褐色シルトの混合土、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。

2　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルトと10ＹＲ４／６褐色砂質シルトの混合土、焼土粒を含む。

3　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルトと10ＹＲ２／２黒褐色シルトの混合土、10ＹＲ４／６褐色砂質シルトの小ブロックを含む。

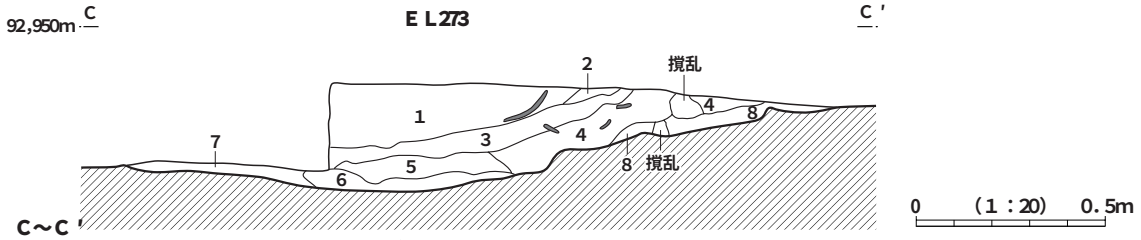
4　10ＹＲ２／２黒褐色シルト。

5　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルトと10ＹＲ２／２黒褐色シルトの混合土。シルト分が強く、焼土粒・炭化物粒を含む。

6　10ＹＲ４／４褐色シルト、10ＹＲ５／２灰黄褐色粘土のブロックを含む。

7　10ＹＲ２／３黒褐色シルト、炭化物を多量に含む。焼土粒を含む。

8　10ＹＲ４／４褐色砂質シルトと10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルトの混合土。焼土粒を含む。



ＥＬ273　Ｃ～Ｃ′

1　10ＹＲ２／３黒褐色微砂（黄色シルト粒をまばらに含む均一層）

2　10ＹＲ４／６赤褐色微砂（焼土）

3　7.5ＹＲ２／３極暗褐色シルト（赤色化の弱い焼土。やや暗色）

4　7.5ＹＲ３／４暗褐色シルト（焼土がブロックで混入）

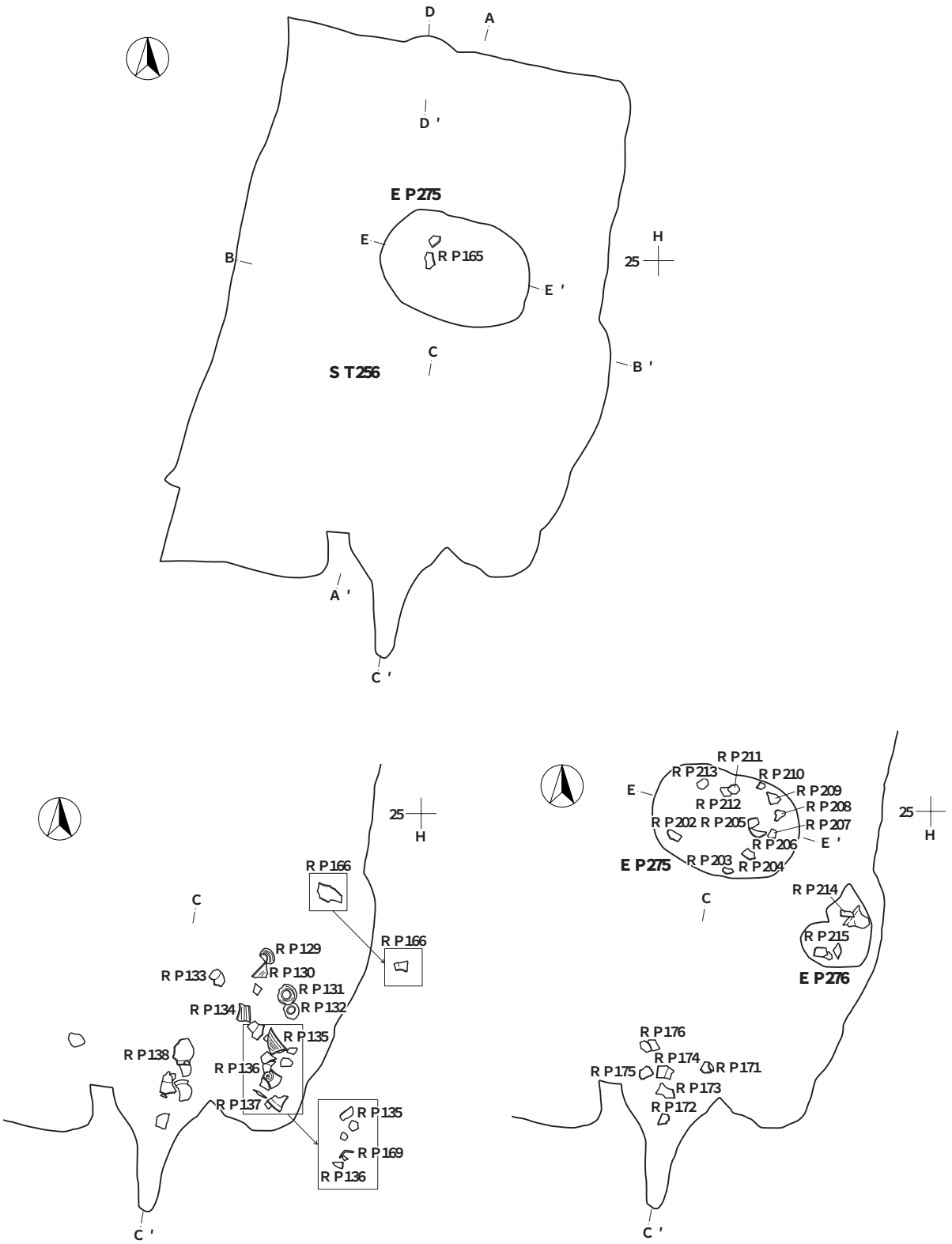
5　10ＹＲ３／３暗褐色シルト（焼土の混入は少ない）

6　10ＹＲ２／２黒褐色シルト（木灰で汚れる。焼土粒混入若干）

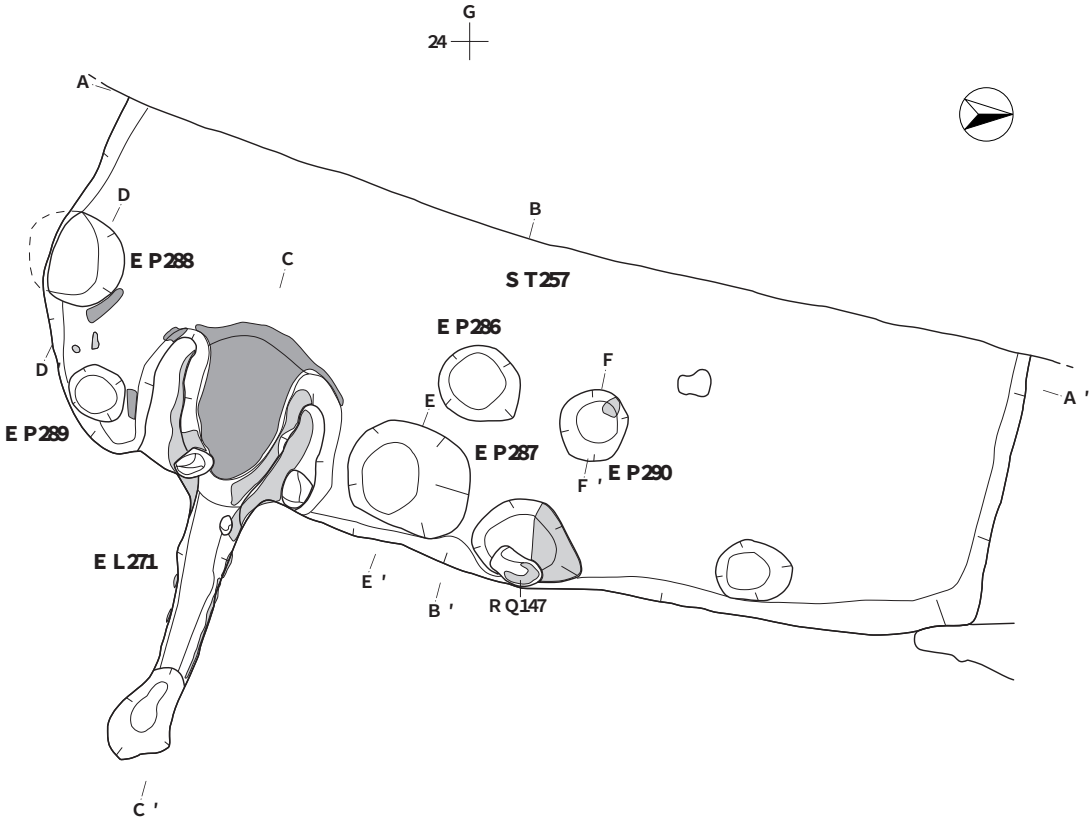
7　10ＹＲ1.7／１黒色シルト（木灰質化層の均一）

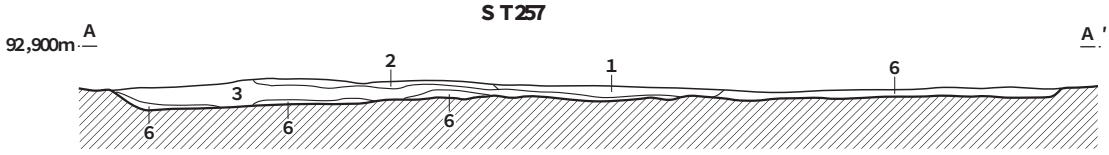
8　7.5ＹＲ３／３暗褐色シルト（焼土化の弱い焼土層）

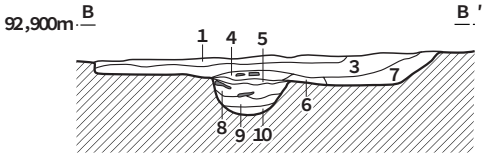
ＳＴ256　竪穴建物跡



ＳＴ256　竪穴建物跡　遺物出土状況





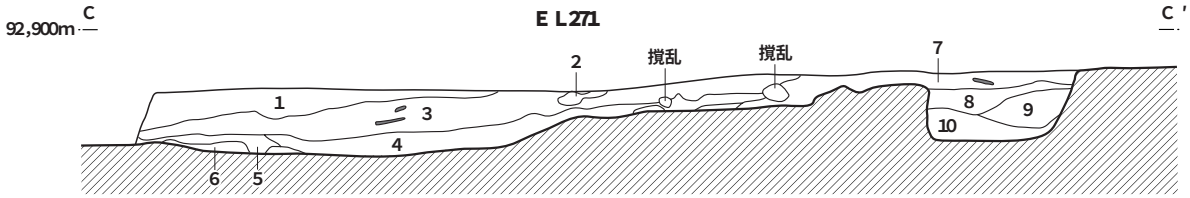


ST257（EP286）　A～A'　B～B'

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト。
2　10YR4/6褐色砂質シルトと、10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土。
3　10YR2/2黒褐色砂質シルト。焼土粒、炭化物粒を含む。
4　10YR2/2黒褐色砂質シルト（黒っぽい）。炭化物粒をわずかに含む。
5　10YR3/4暗褐色砂質シルトと、10YR4/6褐色シルトの混合土。
6　10YR4/4褐色シルトと、10YR4/6褐色砂質シルトと、10YR2/2黒褐色砂質シルトの混合土。
7　10YR2/2黒褐色砂質シルト（黄色が強い）。
8　10YR2/3黒褐色シルト。灰、炭化物粒、焼土粒を含む。
9　10YR3/4暗褐色シルト。5がマーブル状に混じる。
10　10YR2/3黒褐色シルト、10YR3/4暗褐色シルトを粒状に含む。

0　（1：40）　2m

ST257　竪穴建物跡

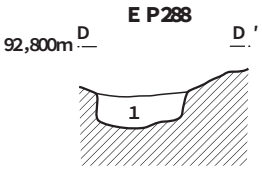


EL271　C～C'

1　10YR2/3黒褐色微砂（黄色シルト含む。住居覆土と同じ）
2　7.5YR2/3極褐色シルト（焼土、炭化物混じり）
3　10YR2/2黒褐色シルト（混じりの少ない均一層）
4　7.5YR2/3極褐色シルト（焼土、炭化物混じり）
5　10YR2/1黒色微砂（木灰層の均一層）
6　10YR3/4暗褐色粘質シルト（貼床）
7　10YR2/2黒褐色微砂。
8　10YR3/3黒褐色微砂。
9　10YR3/4暗褐色粘質微砂（黒色炭化物：決めの細かい灰状）がまだらに混じる。
10　10YR2/3黒褐色シルト。

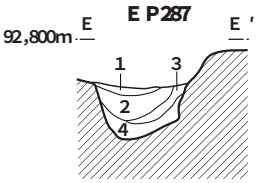
＊　7、8は上部に甕類破片

0　(1：20)　1m



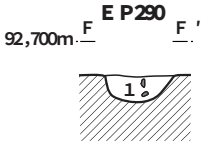
EP288　D～D'

1　7.5YR2/2黒褐色シルトと、10YR2/1黒色の炭化物の混合土。
焼土の小ブロックを含む。炭化物粒を含む。



EP287　E～E'

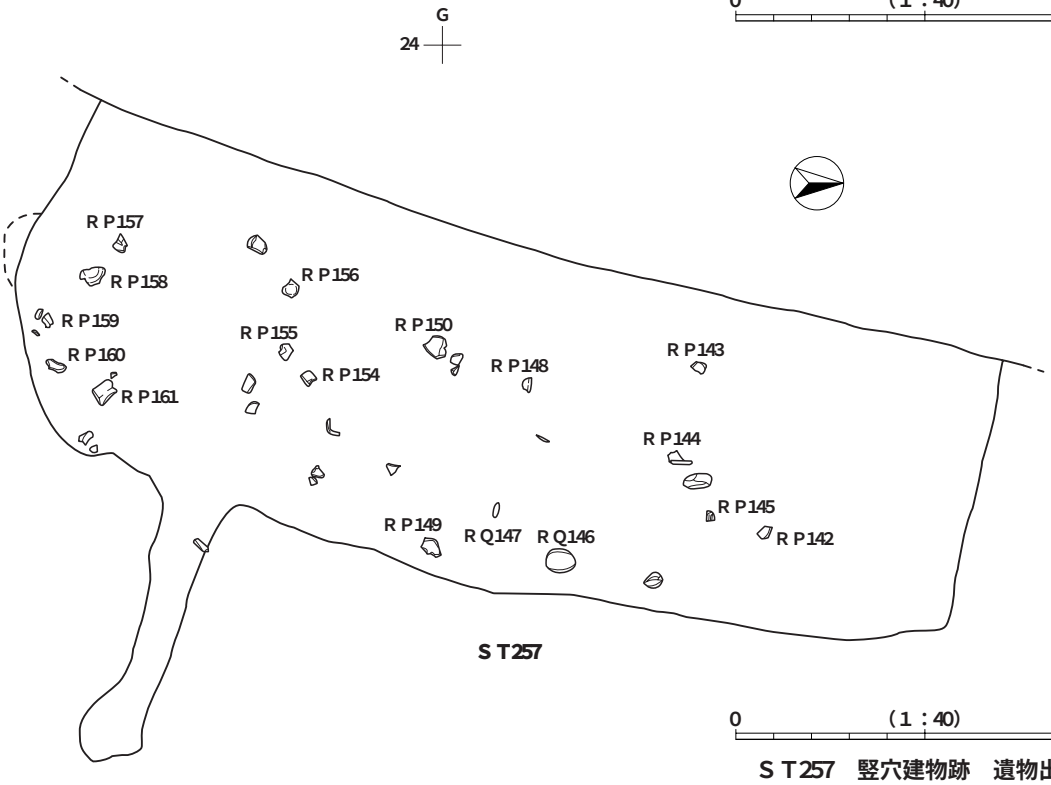
1　10YR2/2黒褐色砂質シルト。
2　10YR2/3黒褐色シルト、10YR4/6褐色粘土の小粒をわずかに含む。
3　10YR2/1黒褐色シルト。炭化物か。
4　10YR2/3黒褐色砂質シルト。



EP290　F～F'

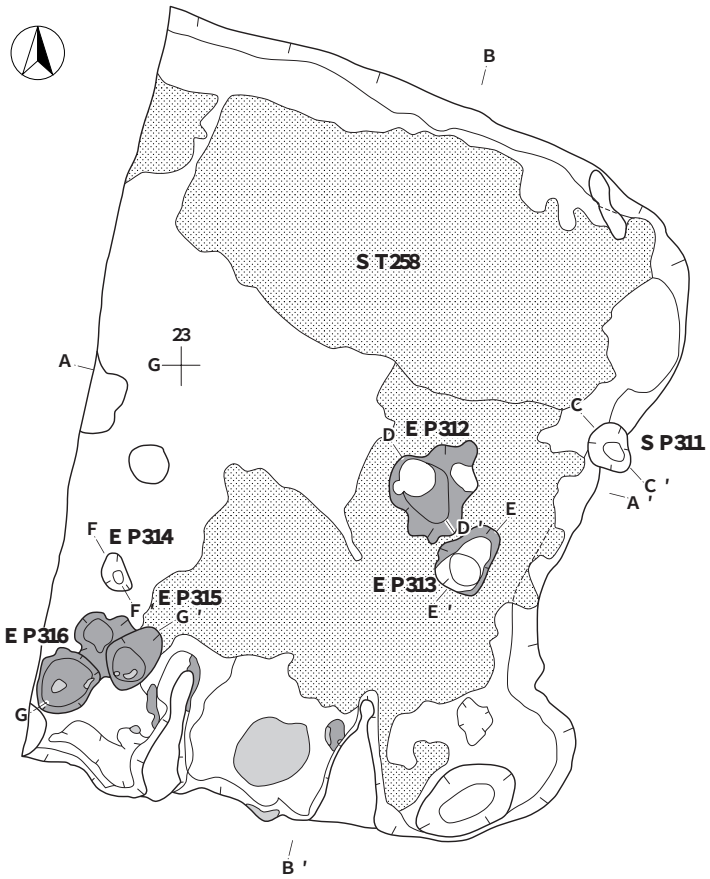
1　7.5YR2/2黒褐色砂質シルト。焼土粒・炭化物粒・土器片を含む。

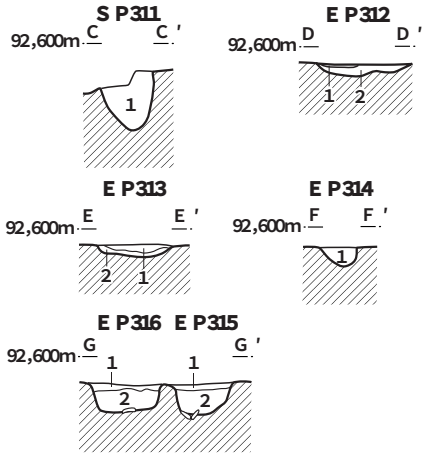
0　(1：40)　2m



0　(1：40)　2m

ST257　竪穴建物跡　遺物出土状況





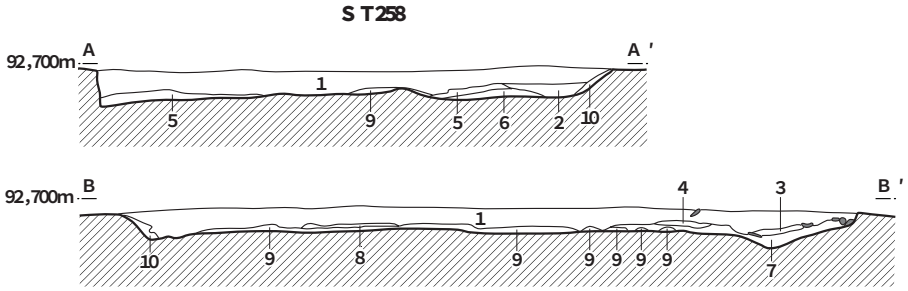
SP311　C～C'
1　10YR3/3暗褐色シルト（均一）

EP312　D～D'
1　10YR2/3黒褐色シルト。
2　10YR1.7/1黒色炭化物層（均一）

EP313　E～E'
1　10YR2/3黒褐色シルト。
2　10YR1.7/1黒色（炭化物層）

EP314　F～F'
1　10YR3/3暗褐色シルト（均一）

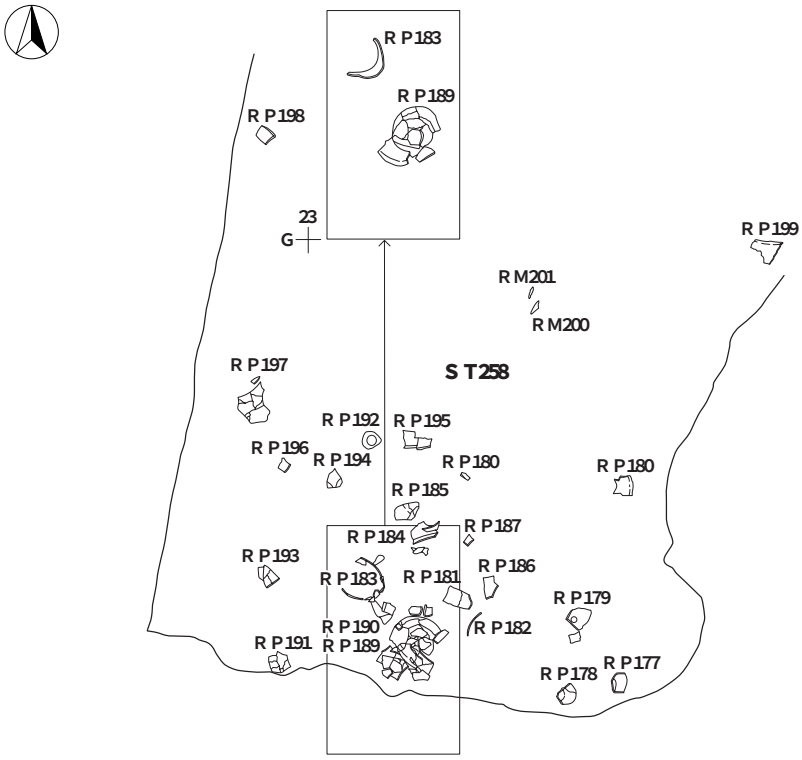
EP316, EP315　G～G'
1　10YR2/3黒褐色シルト（炭化物、木灰が多量に混じる。焼土点々と入る）
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（焼土ブロック、炭化物、黄色粘土のブロック、底面に土器片）



ST258　A～A'　B～B'
1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。
2　10YR3/2黒褐色砂質シルトと、10YR4/6褐色シルトの小粒を含む。
3　7.5YR3/2黒褐色砂質シルト、焼土の小粒をわずかに含む。
4　10YR4/4褐色砂質シルトと10YR2/3黒褐色砂質シルトの混合土。
5　10YR2/2黒褐色シルト、10YR4/6褐色シルトの小ブロックを含む。
6　10YR2/3黒褐色シルト、炭化物を多量に含む。（炭化物層）
7　10YR2/1黒色シルト、焼土の小粒・炭化物を含む。
8　10YR3/2黒褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小ブロックをわずかに含む。
9　10YR4/6褐色砂質シルト、10YR3/3暗褐色シルトを層状に含む
10　10YR3/3暗褐色砂質シルトと、10YR4/6褐色砂質シルトの混合土。

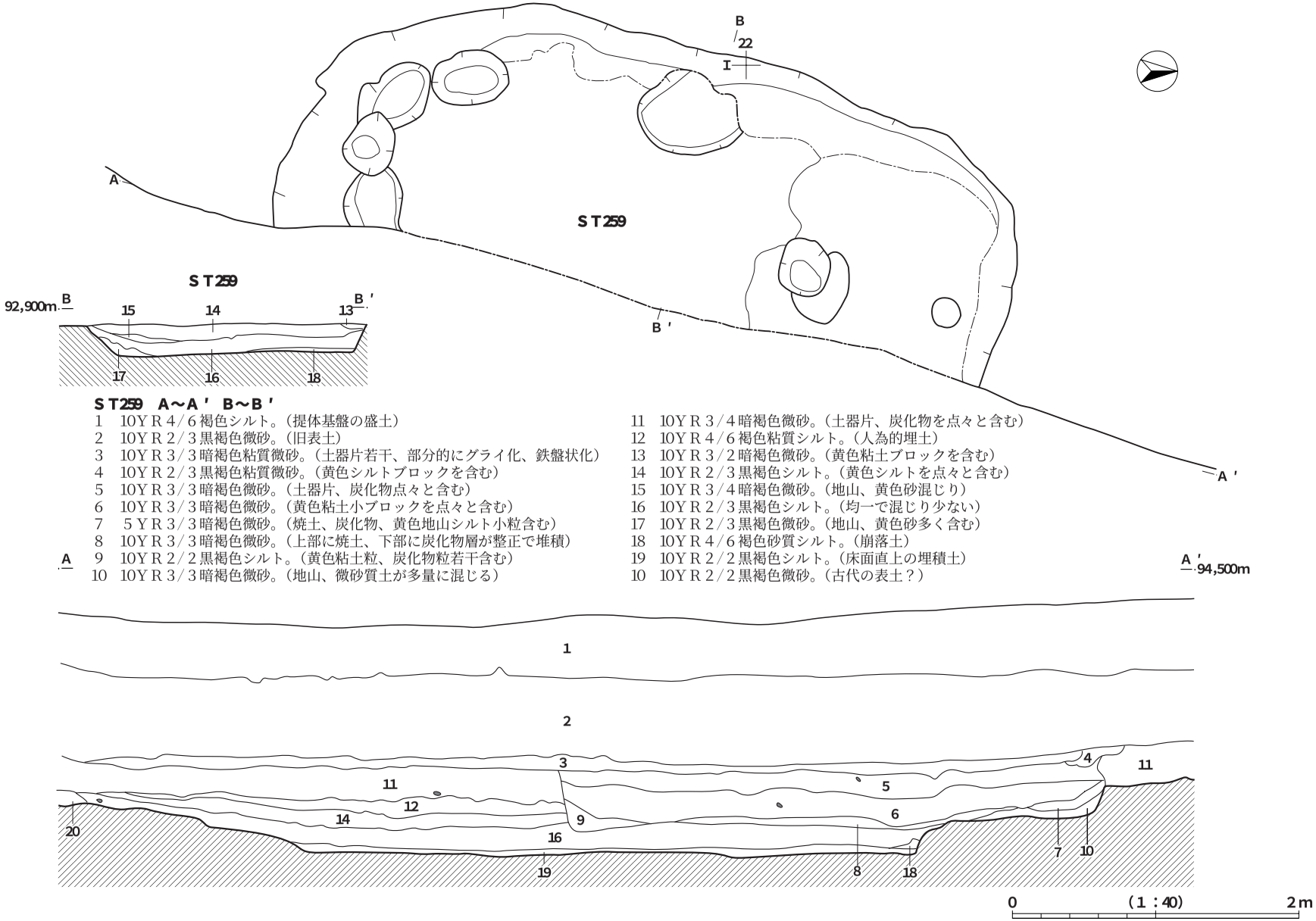
0　(1：40)　2m

ST258　竪穴建物跡



0 (1：40) 2m

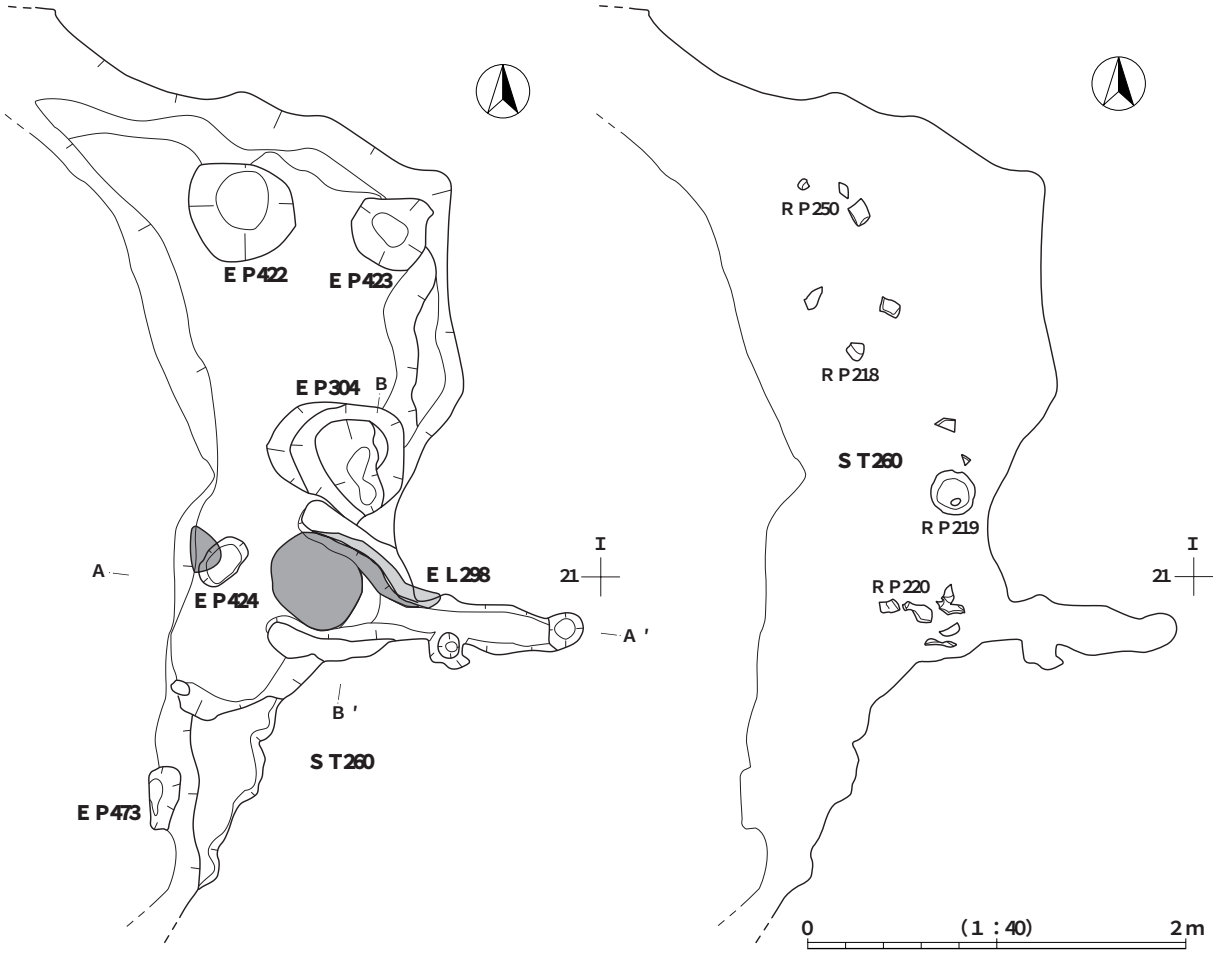
S T258 竪穴建物跡 遺物出土状況

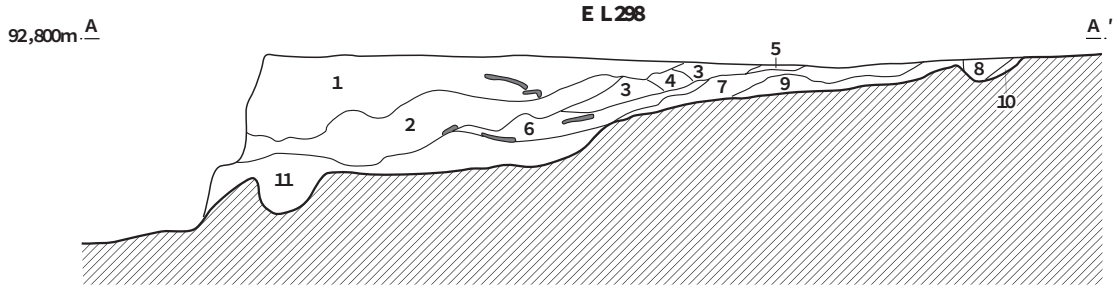


ＳＴ259　Ａ～Ａ′　Ｂ～Ｂ′

1　10ＹＲ４／６褐色シルト。（提体基盤の盛土）
2　10ＹＲ２／３黒褐色微砂。（旧表土）
3　10ＹＲ３／３暗褐色粘質微砂。（土器片若干、部分的にグライ化、鉄盤状化）
4　10ＹＲ２／３黒褐色粘質微砂。（黄色シルトブロックを含む）
5　10ＹＲ３／３暗褐色微砂。（土器片、炭化物点々と含む）
6　10ＹＲ３／３暗褐色微砂。（黄色粘土小ブロックを点々と含む）
7　５ＹＲ３／３暗褐色微砂。（焼土、炭化物、黄色地山シルト小粒含む）
8　10ＹＲ３／３暗褐色微砂。（上部に焼土、下部に炭化物層が整正で堆積）
9　10ＹＲ２／２黒褐色シルト。（黄色粘土粒、炭化物粒若干含む）
10　10ＹＲ３／３暗褐色微砂。（地山、微砂質土が多量に混じる）
11　10ＹＲ３／４暗褐色微砂。（土器片、炭化物を点々と含む）
12　10ＹＲ４／６褐色粘質シルト。（人為的埋土）
13　10ＹＲ３／２暗褐色微砂。（黄色粘土ブロックを含む）
14　10ＹＲ２／３黒褐色シルト。（黄色シルトを点々と含む）
15　10ＹＲ３／４暗褐色微砂。（地山、黄色砂混じり）
16　10ＹＲ２／３黒褐色シルト。（均一で混じり少ない）
17　10ＹＲ２／３黒褐色微砂。（地山、黄色砂多く含む）
18　10ＹＲ４／６褐色砂質シルト。（崩落土）
19　10ＹＲ２／２黒褐色シルト。（床面直上の埋積土）
10　10ＹＲ２／２黒褐色微砂。（古代の表土？）

ＳＴ259　竪穴建物跡

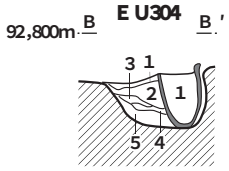




E L298　A～A '

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
2　10Y R 2／2黒褐色シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
3　10Y R 2／2黒褐色シルト。焼土をマーブル状に含む。
4　10Y R 2／2黒褐色シルトと、10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの混合土。（崩落土のブロック？）
5　10Y R 2／2黒褐色シルトと、10Y R 4／6褐色砂質シルトの混合土。
6　10Y R 2／2黒褐色シルト。焼土粒を含む。
7　5Y R 2／2黒褐色シルト、10Y R 3／4　暗褐色砂質シルトのブロックを含む。焼土、炭化物の小粒を含む。
8　10Y R 4／4褐色砂質シルトと、10Y R 2／2黒褐色シルトの混合土。（4／4が強い）
9　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。
10　10Y R 3／2黒褐色シルト。炭化物粒をごくわずかに含む。
11　10Y R1.7／1黒色砂質シルト。（炭化物層）

0　(1：20)　1m



E U304　B～B '

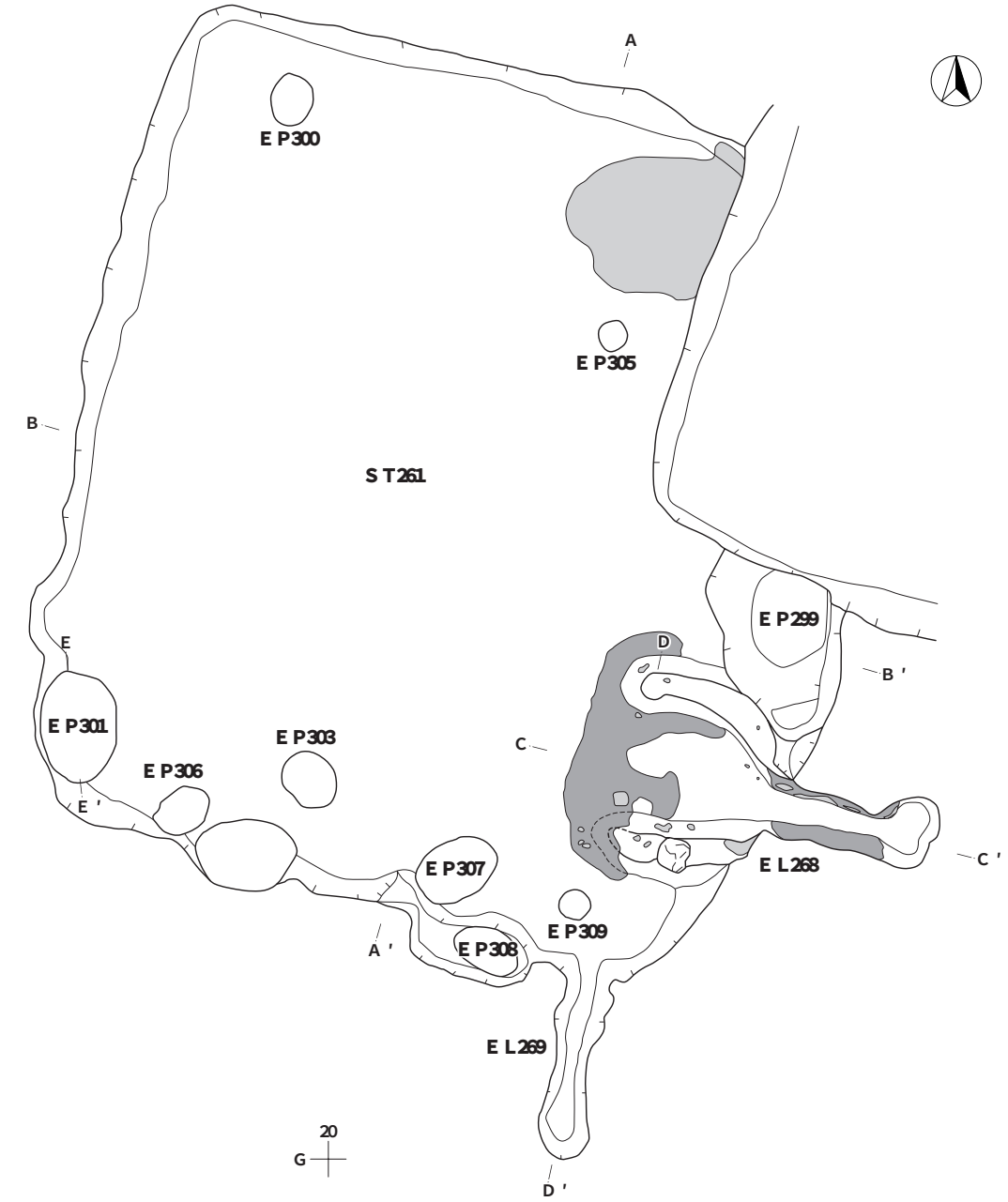
1　10Y R 3／3暗褐色微砂質シルト
2　10Y R 3／3暗褐色シルト
3　10Y R 2／3黒褐色シルト（均一層）
4　10Y R 2／1黒色シルト
5　10Y R 3／3暗褐色シルト

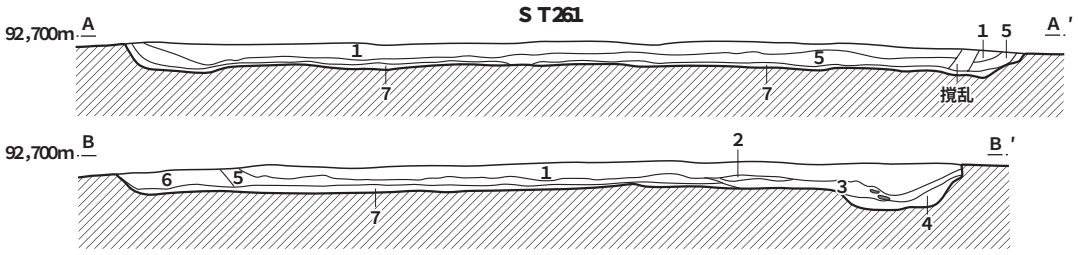
E U 1

10Y R 2／3黒褐色シルト
（混じりの少ない均一層、遺物小片若干入るのみ）

0　(1：40)　2m

S T260　竪穴建物跡



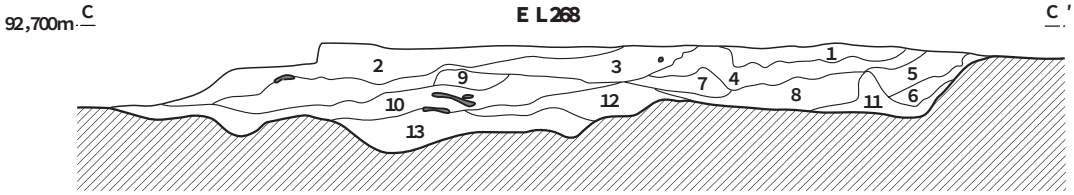


S T261　A～A ′　B～B ′

1　10Y R 5／6 黄褐色シルト、10Y R 3／3 暗褐色シルトと黄褐色シルトの混合土。黄褐色シルト７割程度。（人為的埋土）
2　10Y R 2／3 黒褐色シルト。（木灰が多く入る）
3　10Y R 5／2 暗赤褐色シルト。（焼土、炭化物が多量に入る）
4　10Y R 2／3 黒褐色シルト。（炭化物、焼土混じり）
5　10Y R 2／3 黒褐色粘質シルト。（遺物片、炭化物を含む。床面直上の覆土）
6　10Y R 5／6 黄褐色シルト、10Y R 3／3 暗褐色シルトと黄褐色シルトの混合土。黄褐色シルト７割程度。（人為的埋土）
7　10Y R 2／3 黒褐色粘質シルト。（黄色シルト、灰色シルトの混合土、貼床そのもの）

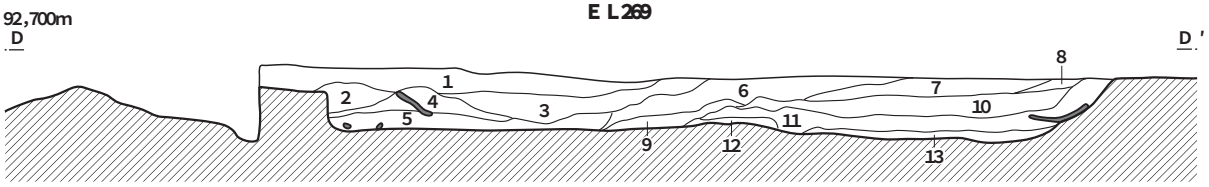
0　（1：40）　2m

S T261　竪穴建物跡



EL268　C～C'

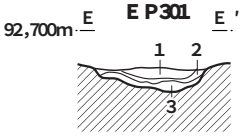
1　10YR2/3黒褐色シルト。焼土のブロックを含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/6褐色シルトの小ブロックを含む。
3　10YR2/2黒褐色砂質シルト。
4　10YR2/2黒褐色シルト。焼土のブロックを含む。
5　10YR3/3暗褐色シルト。焼土粒を含む。
6　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/3にぶい黄褐色シルトの小粒を含む。
7　7.5YR3/2黒褐色の焼土層、10YR3/4　暗褐色砂質シルトのブロックを含む。
8　7.5YR3/2黒褐色の焼土層。
9　10YR3/4暗褐色砂質シルト。
10　10YR3/3暗褐色シルト。焼土のブロックを多量に含む。
11　10YR2/2黒褐色シルト。炭化物、焼土の小粒をわずかに含む。
12　10YR2/2黒褐色シルト。焼土のブロック、炭化物を含む。
13　10YR2/3黒褐色シルト。焼土粒を含む。



EL268　D～D'

1　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/6褐色シルトの小ブロックを含む。
2　10YR2/2黒褐色シルト。
3　10YR3/3暗褐色シルト。炭化物を多量に含む。
4　10YR3/3暗褐色シルト。
5　10YR3/2黒褐色シルト。焼土粒をわずかに含む。炭化物をわずかに含む。
6　10YR2/2黒褐色シルト。焼土粒をわずかに含む。
7　10YR3/2黒褐色シルト。焼土のブロックを含む。
8　10YR2/2黒褐色シルト。
9　10YR3/3暗褐色シルト。焼土粒をわずかに含む。
10　10YR2/3黒褐色シルト。焼土のブロックを含む。
11　10YR2/2黒褐色シルト。焼土をマーブル状に含む。
12　10YR2/2黒褐色シルト。焼土の小粒をごくわずかに含む。

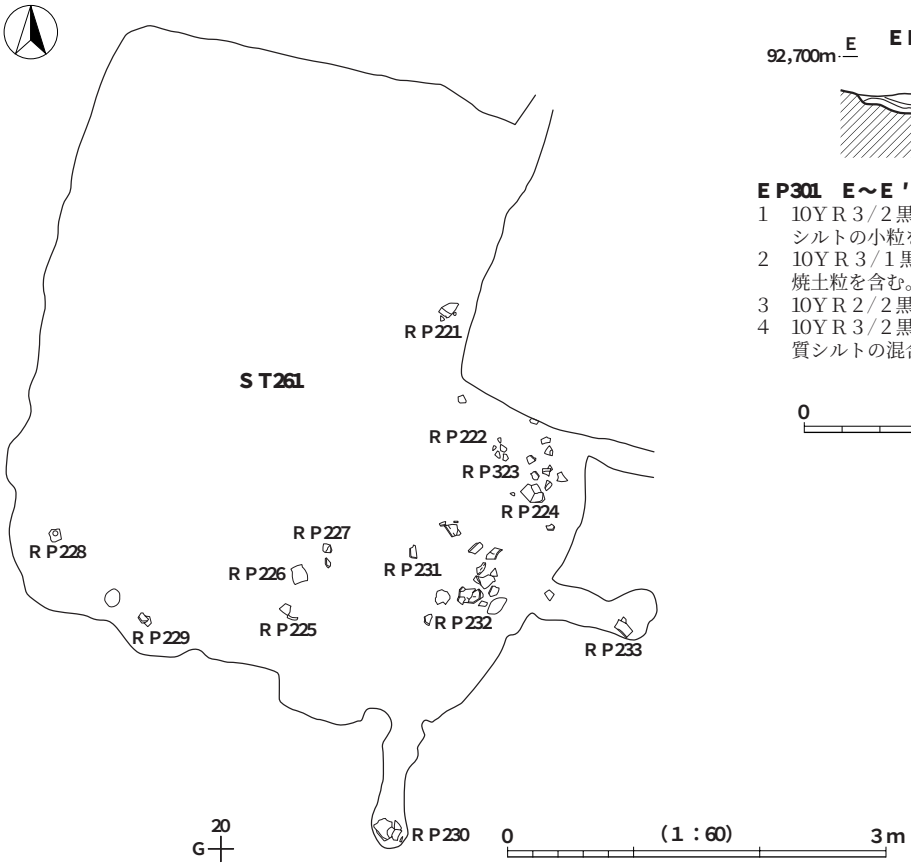
0　(1：20)　1m



EP301　E～E'

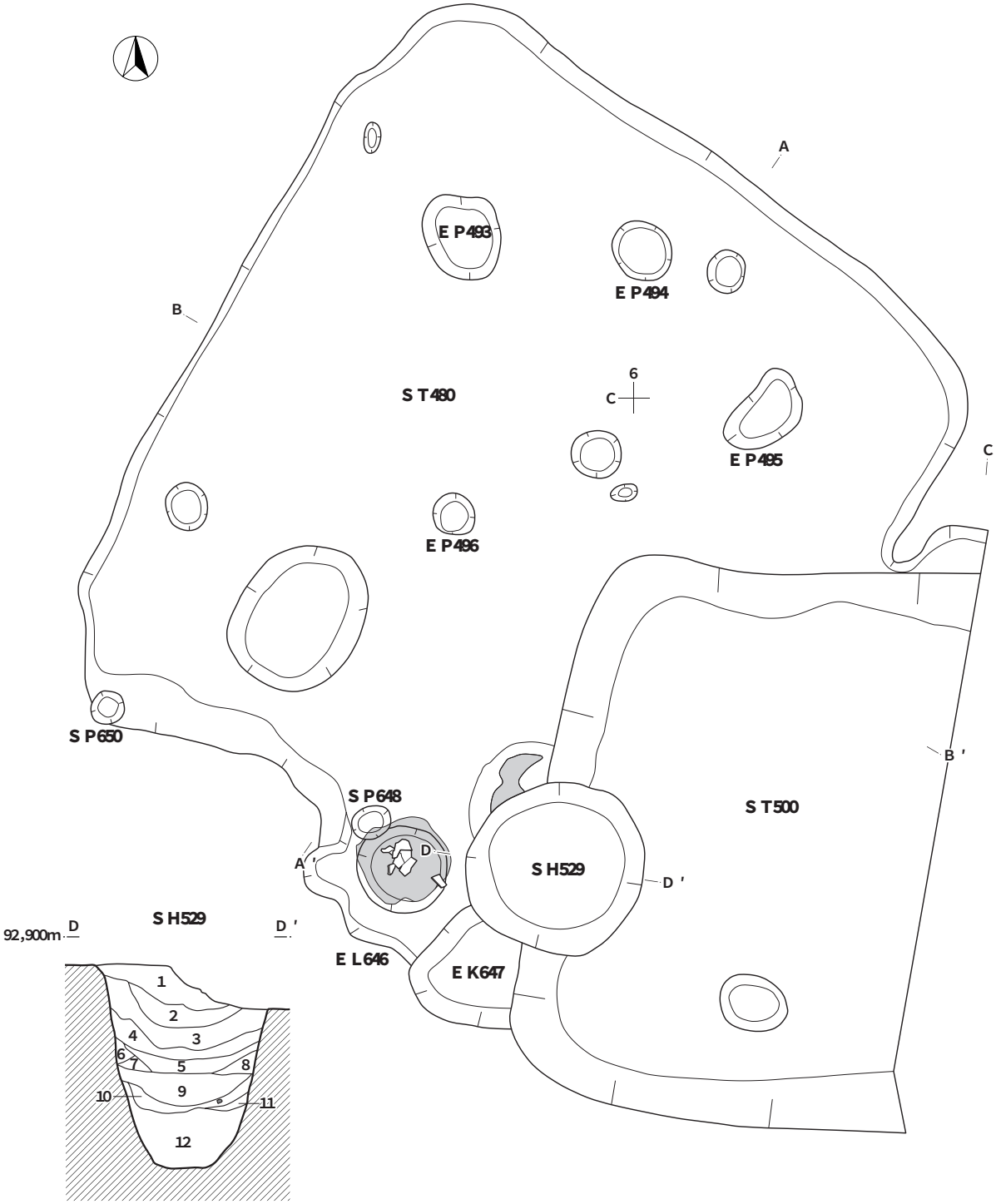
1　10YR3/2黒褐色シルト、10YR3/4暗褐色シルトの小粒を含む。
2　10YR3/1黒褐色シルト。炭化物を多く含む。焼土粒を含む。（旧床面か？）
3　10YR2/2黒褐色砂質シルト。焼土粒を含む。
4　10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/6褐色砂質シルトの混合土。（掘方か）

0　(1：40)　2m



0　(1：60)　3m

ST261　竪穴建物跡　遺物出土状況

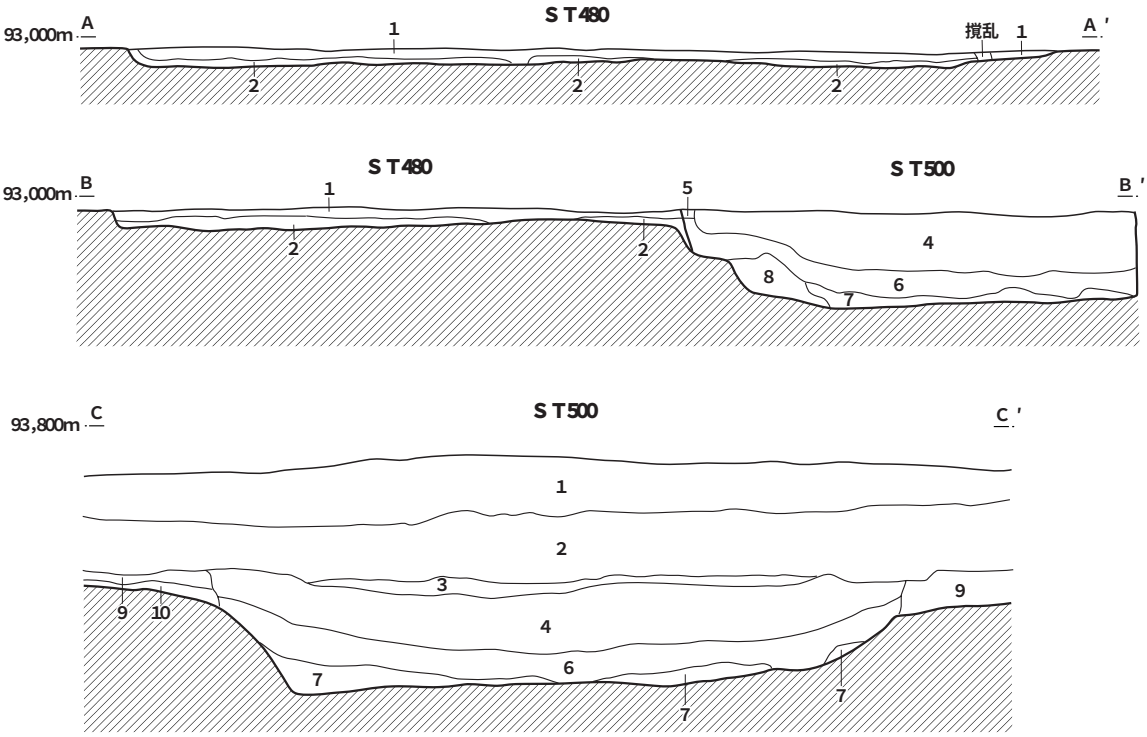


ＳＨ529　Ｄ～Ｄ′

1　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト　10ＹＲ４／４褐色砂質シルトの混合土　ＹＲ４／６褐色粘質土と焼土粒を含む。
2　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト　焼土粒をわずかに含む。
3　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト　焼土、粘土の小粒を含む炭化物粒をわずかに含む。
4　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルト
5　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルト　7.5ＹＲ４／６褐色粘土のブロックを含む。
6　10ＹＲ４／４褐色砂質シルトと、10ＹＲ３／３暗褐色シルトの混合土
7　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルト
8　10ＹＲ２／３黒褐色砂質シルト　焼土、粘土の小粒を含む。
9　10ＹＲ３／１黒褐色シルト　焼土、粘土の小ブロックをわずかに含む。
10　10ＹＲ２／３黒褐色シルト
11　10ＹＲ３／３暗褐色シルト
12　10ＹＲ３／２黒褐色粘質シルト　５ＹＲ５／８明赤色粘質シルトの混合土

0　（１：40）　2m

ＳＴ480・ＳＴ500竪穴建物跡　ＳＨ529墓壙



ＳＴ480　Ａ～Ａ'

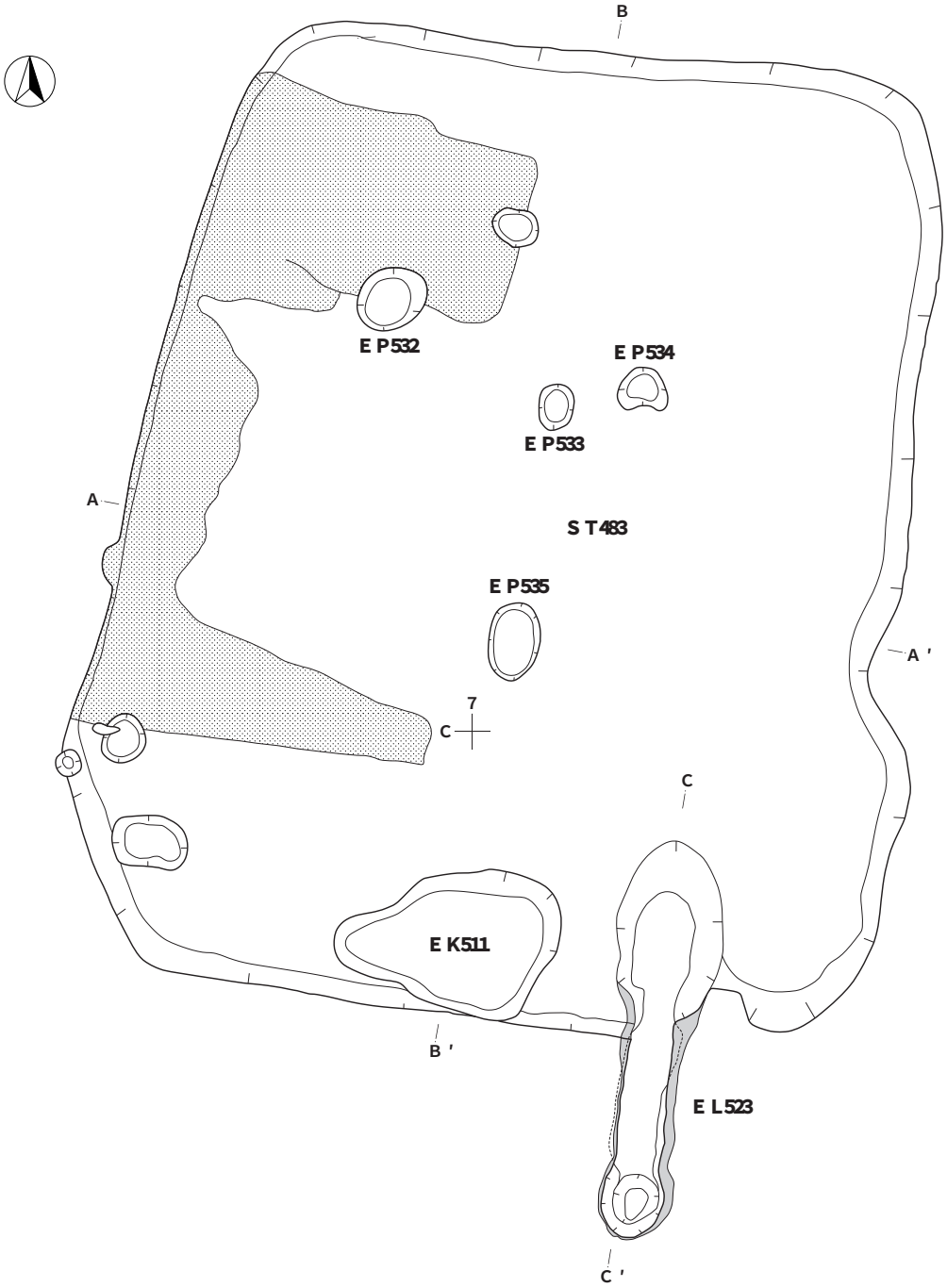
1　10ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト。焼土粒、土器片等をわずかに含む
2　10ＹＲ４/６褐色シルトと、10ＹＲ３/４暗褐色シルトの混合土

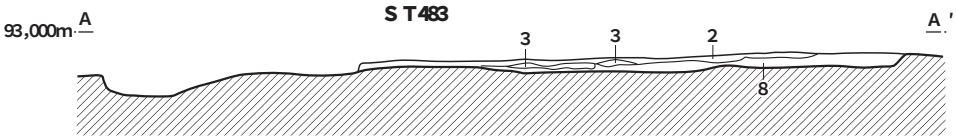
ＳＴ500　Ｂ～Ｂ'　Ｃ～Ｃ'

1　10ＹＲ４/４褐色砂質シルト。炭化物粒をごくわずかに含む
2　10ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト。炭化物粒、土器片をわずかに含む
3　10ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト、10ＹＲ４/６褐色粘土の小粒を含む
4　10ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト、10ＹＲ４/４褐色砂質シルトの小ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
5　14ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト。
6　10ＹＲ３/３暗褐色シルト、10ＹＲ４/６褐色粘土のブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
7　10ＹＲ３/４暗褐色シルトと、10ＹＲ３/３暗褐色シルトの混合土。
8　10ＹＲ４/６褐色シルトと、10ＹＲ３/４暗褐色シルトの混合土。
9　10ＹＲ３/３暗褐色砂質シルト
10　10ＹＲ/４褐色砂質シルト

0　（１：40）　2ｍ

ＳＴ480・ＳＴ500竪穴建物跡　土層断面図



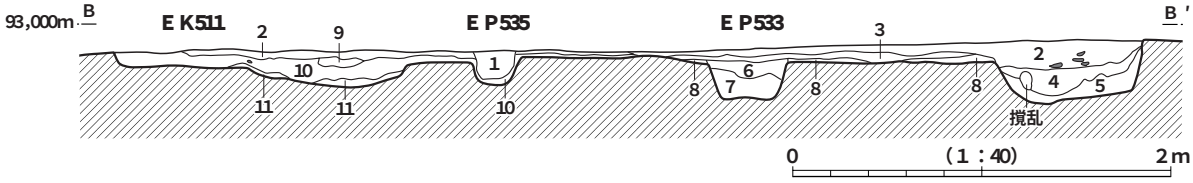


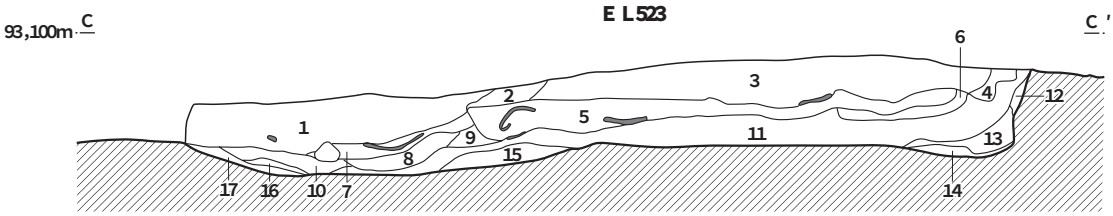
S T483（E K511、535、533） A～A ′ B～B ′

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと、10Y R 5／4にぶい黄褐色砂質シルト。
2　140Y R 3／4暗褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物粒を含む。
3　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、焼土粒を含む。（被熱）
4　10Y R 3／2黒褐色砂質シルト。
5　10Y R 3／4暗褐色シルト。
6　10Y R 2／3暗褐色砂質シルトと、10Y R 4／4褐色シルトの混合土。
7　5Y R 3／3暗褐色シルト。
8　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト、焼土の小ブロック・炭化物を含む灰を含む。
9　10Y R 4／6褐色砂質シルト。

0　（1：40）　2m

S T483　竪穴建物跡

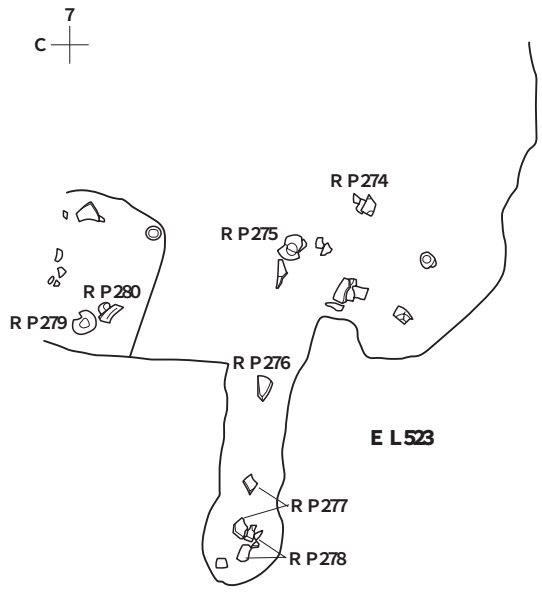


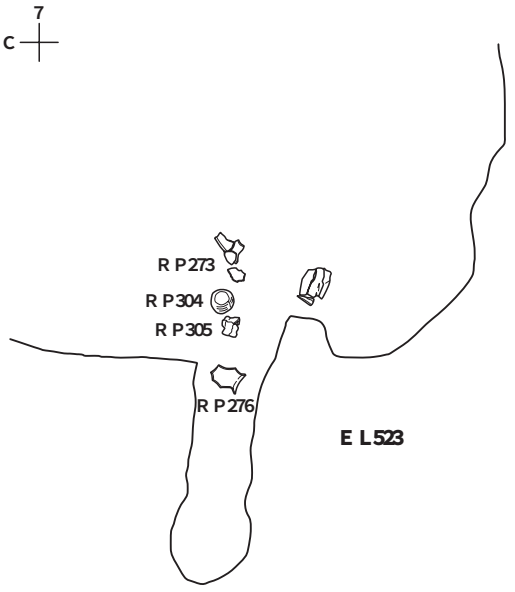


ＳＴ２　Ｃ～Ｃ'

1　10ＹＲ２／３黒褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物粒・10ＹＲ４／６褐色粘土の小粒をわずかに含む。
2　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト、焼土粒をごくわずかに含む。
3　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト、５ＹＲ４／８赤褐色焼土のブロックを多量に含む。
4　10ＹＲ３／３暗褐色砂質シルト、焼土粒をごくわずかに含む。（ボソボソ）
5　7.5ＹＲ３／２黒褐色砂質シルトと、10ＹＲ４／３にぶい黄褐色砂質シルトの混合土。焼土のブロックを多量に含む。
6　10ＹＲ４／４褐色砂質シルト、10ＹＲ６／６明黄褐色粘土のブロックを多量に含む。
7　7.5ＹＲ２／３極暗褐色シルト、５ＹＲ４／８赤褐色焼土のブロックを含む。
8　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色シルト、焼土粒をわずかに含む。
9　５ＹＲ４／８赤褐色焼土。
10　10ＹＲ２／２黒褐色シルト、５ＹＲ４／８赤褐色焼土のブロック、炭化物を含む。
11　10ＹＲ３／３暗褐色シルト、５ＹＲ４／８赤褐色焼土のブロックを多量に含む。
12　地山。１０ＹＲ４／４褐色シルト。
13　10ＹＲ４／４褐色シルトと、10ＹＲ３／４暗褐色シルトの混合土。
14　10ＹＲ３／４暗褐色シルト。
15　7.5ＹＲ３／２黒褐色シルト、焼土粒をわずかに含む。
16　10ＹＲ２／３黒褐色シルト、５ＹＲ４／８赤褐色焼土のブロックを多量　に含む。
17　10ＹＲ３／３暗褐色シルト。

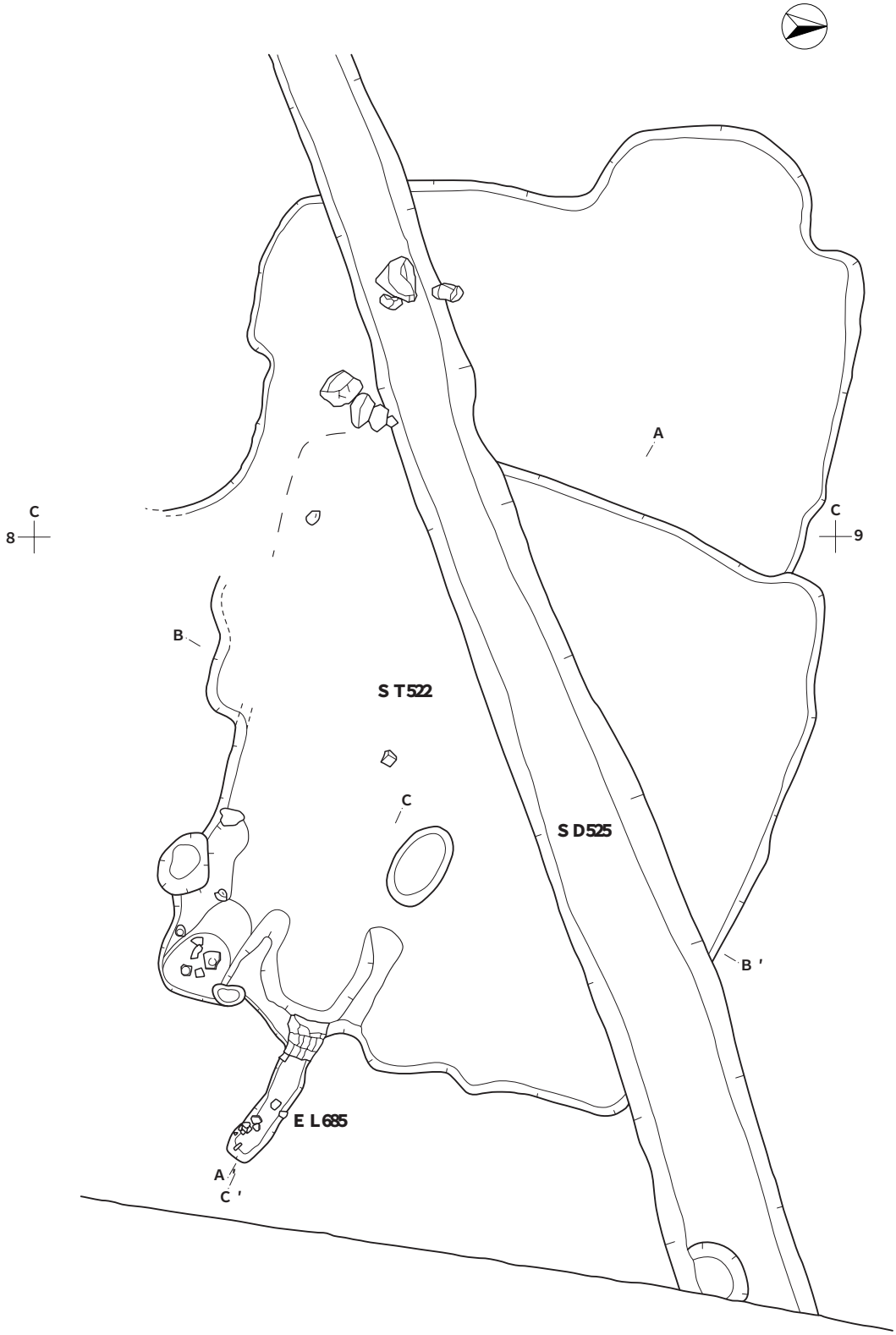
0　(1：20)　1m





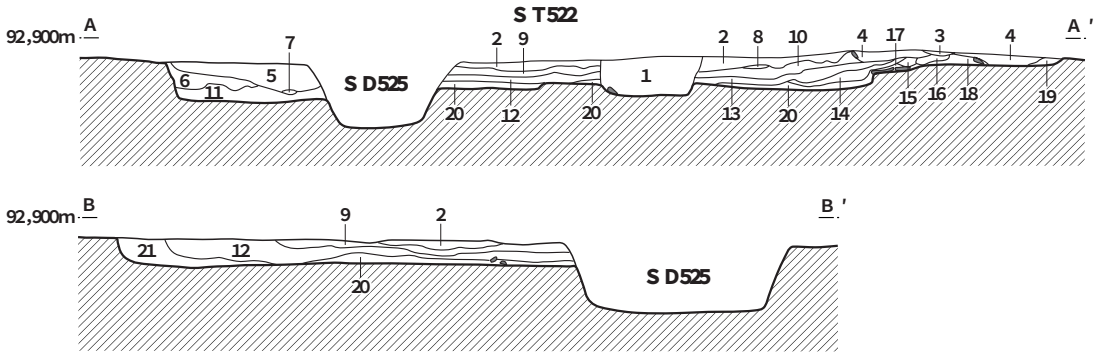
0　(1：40)　2m

ＳＴ483　竪穴建物跡　遺物出土状況



0 (1：40) 2m

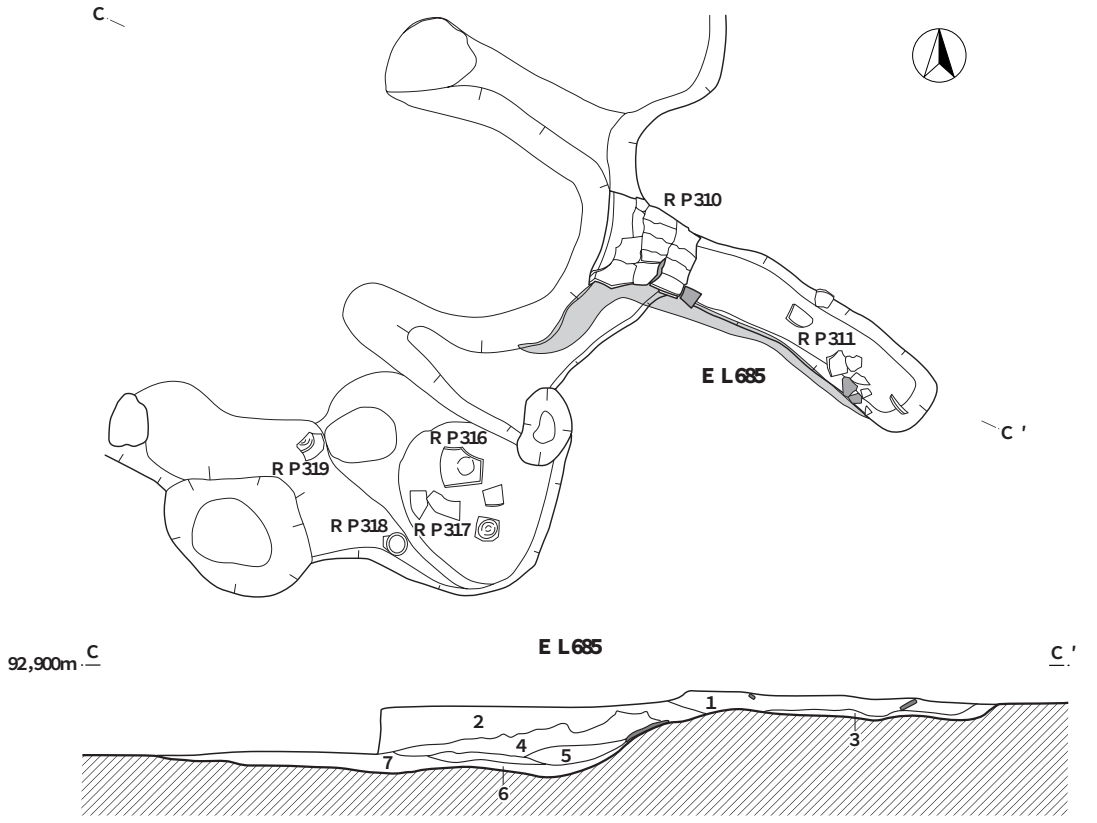
S T522　竪穴建物跡



ＳＴ522　Ａ～Ａ′　Ｂ～Ｂ′

1　10ＹＲ３／４暗褐色シルト（住居跡を切る柱穴？）
2　10ＹＲ３／３暗褐色シルト（緻密で均一層：遺物等の混入はない）
3　５ＹＲ４／６赤褐色シルト（焼土）
4　10ＹＲ３／２黒褐色シルト（弱く焼けて暗紫褐色に変色、炭か物含む）
5　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト（炭化物、焼土小粒、遺物片混じり）
6　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト
7　7.5ＹＲ４／４褐色粘土（ブロックで入る）
8　10ＹＲ４／３にぶい黄褐色粘質シルト
9　10ＹＲ３／４暗褐色砂質シルト（焼土小ブロック、炭化物の混合土）
10　10ＹＲ２／３黒褐色シルト（焼土、炭化物が混じらない）
11　7.5ＹＲ２／３極暗褐色シルト（炭化物、黄褐色粘土含む）
12　10ＹＲ３／４暗褐色シルト（無遺物の均一層）
13　7.5ＹＲ３／４暗褐色シルト（焼土主体）
14　7.5ＹＲ３／４暗褐色シルト（焼土ブロック、木灰片混じり）
15　2.5ＹＲ４／６赤褐色焼土
16　10ＹＲ３／４暗褐色微砂（木灰層）
17　7.5ＹＲ３／２黒褐色シルト
18　10ＹＲ３／４暗褐色粘質シルト（下面に焼土）
19　10ＹＲ２／３黒褐色シルト（均一、焼土、炭化物の混合なし）
20　５ＹＲ３／４暗赤褐色シルト（上部に炭化物、下半に焼土混じり）

0　（１：40）　2m

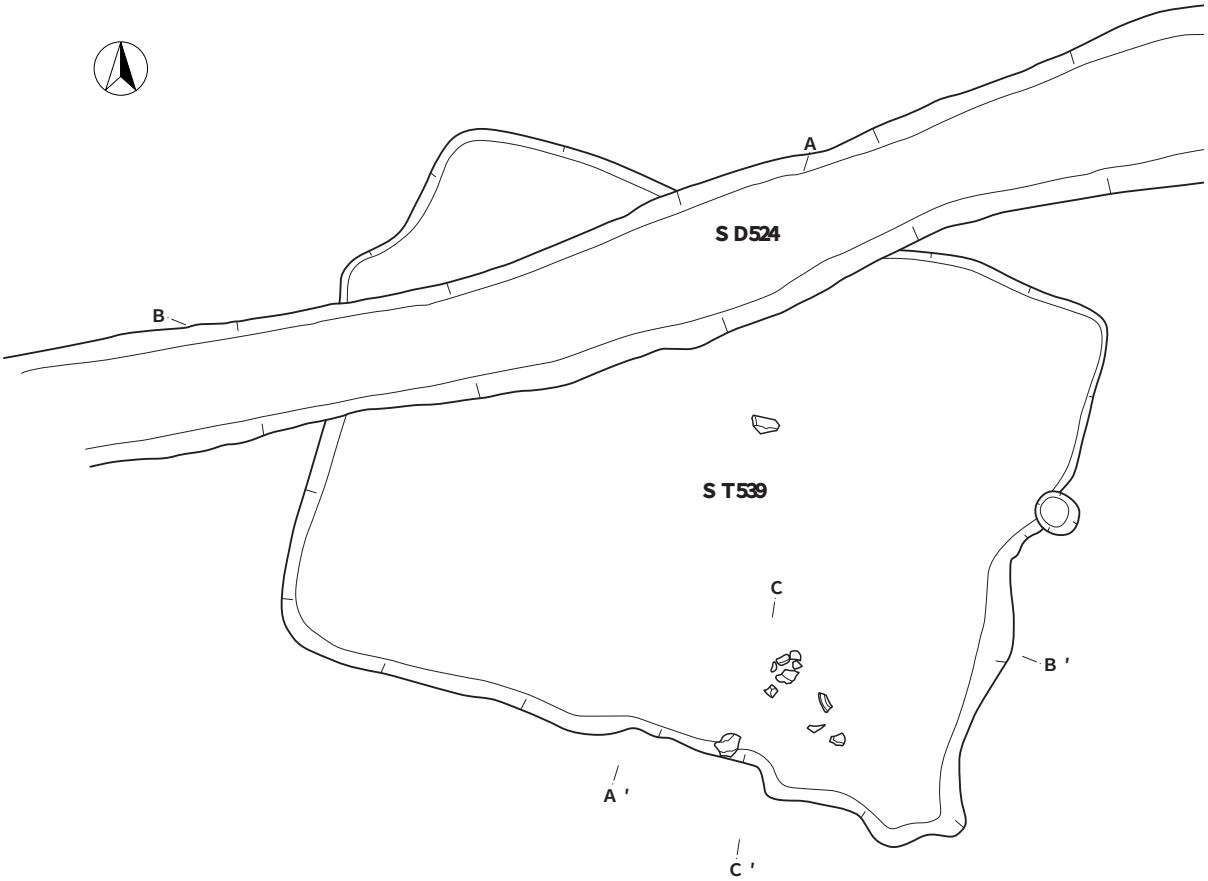


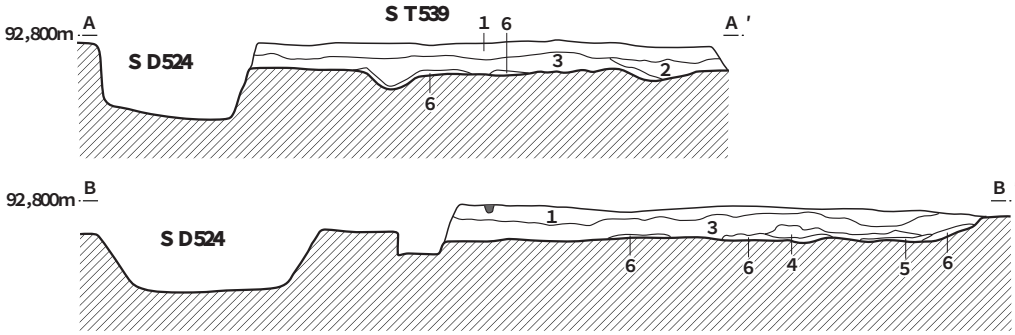
ＥＬ685　Ｃ～Ｃ′

1　7.5ＹＲ３／２黒褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。
2　10ＹＲ３／２黒褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。
3　10ＹＲ４／４褐色シルト。
4　7.5ＹＲ２／３極暗褐色シルト、５ＹＲ４／６赤褐色焼土の小ブロックを多量に含む。炭化物を含む。
5　7.5ＹＲ３／４暗褐色シルト、５ＹＲ４／６赤褐色焼土の小ブロックを多量に含む。炭化物を含む。
6　10ＹＲ３／２黒色炭層、焼土粒をわずかに含む。
7　N1.5／0黒色炭層、焼土粒をわずかに含む。

0　（１：20）　1m

ＳＴ522　竈部分図

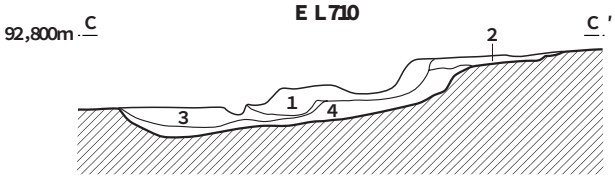




ST539　A～A'　B～B'

1　10YR2/2黒褐色シルト（炭化物、炭化材片多く含む）
2　10YR2/3黒褐色シルト。
3　10YR2/3黒褐色シルト（焼土ブロック、炭化物含む）
4　10YR3/3暗褐色シルト。
5　10YR1.7/1黒色炭化物層（床面直上の炭化物）
6　10YR3/4暗褐色粘土（貼床面の粘土層）

0　(1：40)　2m

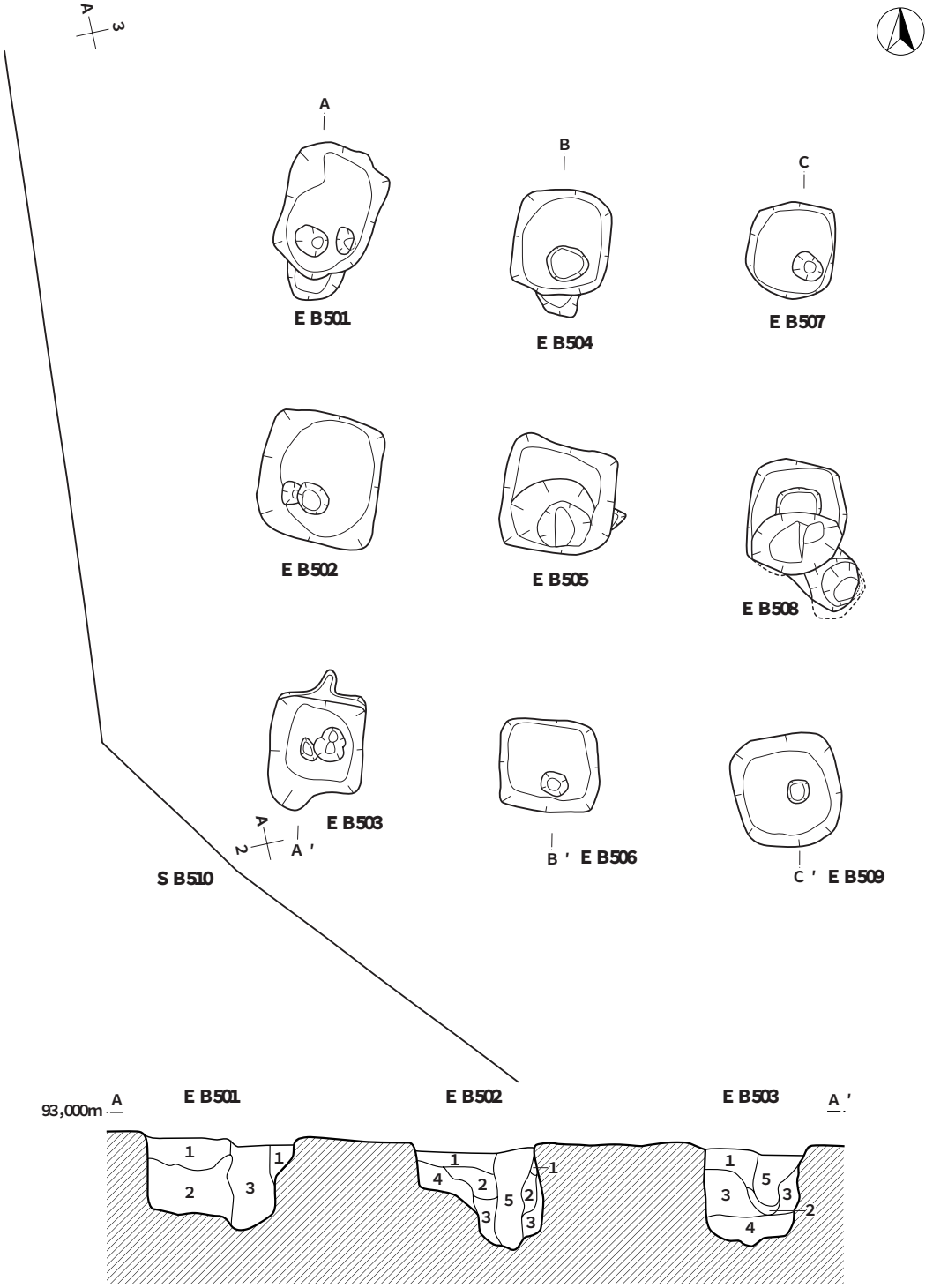


EL710　C～C'

1　5YR2/3暗赤褐色焼土。
2　10R5/8赤色焼土。
3　7.5Y3/2黒褐色微砂（上部に炭化物層）
4　7.5YR2/3極暗褐色シルト（焼土、炭化物混じり）

0　(1：20)　1m

ST539　竪穴建物跡



E B501　A～A'

1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色シルトのブロックを含む。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
3　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルトの小ブロックを含む。

E B502　A～A'

1　10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土小粒の混合土。
2　10YR2／3黒褐色シルト、10YR5/6黄褐色粘土の小ブロックを少量含む。
3　10YR3/3暗褐色シルト、10YR5/6黄褐色粘土のブロックを含む。
4　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルトのブロックを含む。
5　10YR3/3暗褐色シルト、10YR5/6黄褐色粘土の小粒を含む。

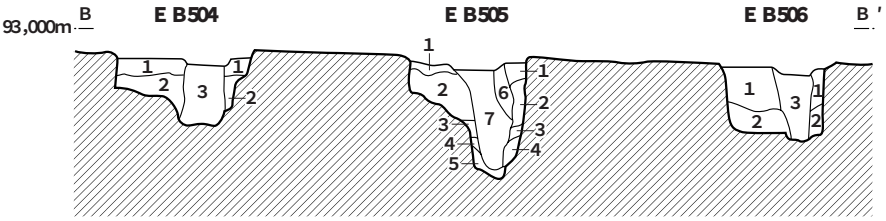
E B503　A～A'

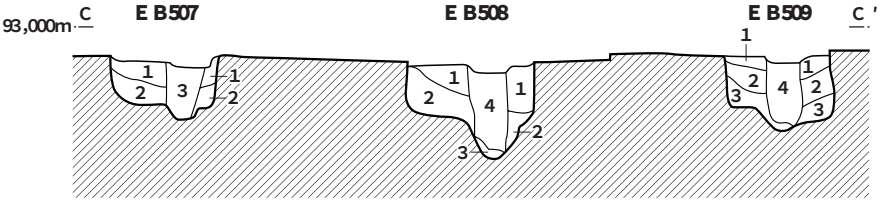
1　10YR3/3暗褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土。
2　10YR3/2黒褐色粘質土。
3　10YR3/3暗褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土、10YR5/6黄褐色粘土の小粒を含む。
4　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR3/3暗褐色シルト、10YR3/4暗褐色シルトの混合土。
5　10YR3/3暗褐色シルト、10YR5/6黄褐色粘土のブロックを含む。

S B510

0　(1：40)　2m

S B510　掘立柱建物跡





E B504　B～B'

1　10Y R 2／3黒褐色砂質シルト、10Y R 3／4暗褐色粘質土の小ブロックを含む。
2　10Y R 2／3黒褐色シルトと10Y R 3／3暗褐色シルトの混合土。
3　10Y R 2／3黒褐色シルト、10Y R 4／6褐色粘質土の小ブロックを含む　炭化物を含む。

E B505　B～B'

1　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 4／6褐色シルトの小粒を含む。
2　10Y R 2／3黒褐色シルト、10Y R 3／4暗褐色シルトの混合土、10Y R 5／6黄褐色粘土の小ブロックをわずかに含む。
3　10Y R 3／4暗褐色シルト、10Y R 5／6黄褐色粘土の小粒を含む。
4　10Y R 3／3暗褐色シルト。
5　10Y R 3／2黒褐色シルト。
6　10Y R 2／3黒褐色シルト、10Y R 3／4暗褐色シルトの小ブロックを含む。
7　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 5／6黄褐色粘土の小ブロックを多量に含む　、炭化物粒をわずかに含む。

E B506　B～B'

1　10Y R 3／3暗褐色シルトと10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの混合土。
2　10Y R 3／3暗褐色シルト。
3　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 5／6黄褐色粘土の小粒を含む。

E B507　C～C'

1　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 4／4褐色シルトの小ブロックを多量に含む。
2　10Y R 3／4暗褐色シルト、10Y R 4／4褐色シルトの小粒をわずかに含む。
3　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 4／6褐色シルトの小粒を含む。

E B508　C～C'

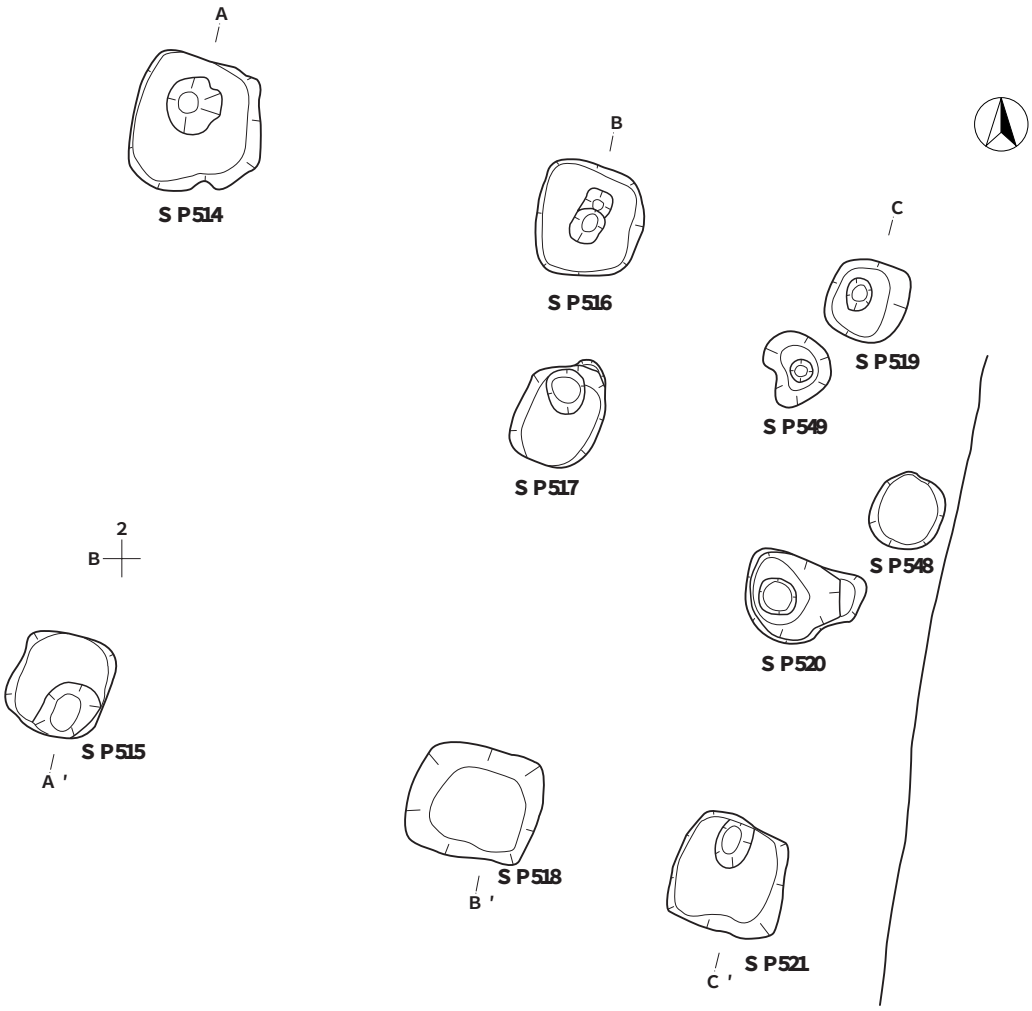
1　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 3／4暗褐色シルトの混合土。
2　10Y R 3／4暗褐色シルト、10Y R 4／6褐色シルトの小粒を含む。
3　２Y R 3／2黒褐色シルト。
4　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト、10Y R ５／６黄褐色粘土の小粒をわずかに含む、炭化物をわずかに含む。

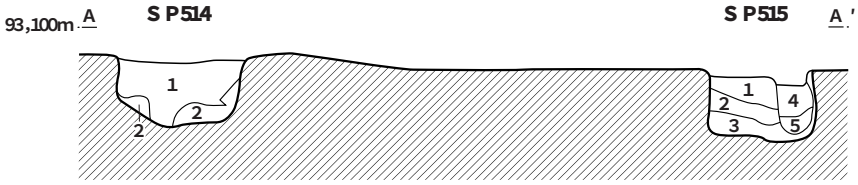
E B509　C～C'

1　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 4／6褐色シルトの小粒を含む。
2　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 4／4褐色シルトの小ブロックを含む。
3　10Y R 3／4暗褐色シルト、10Y R 4／4褐色シルトの小ブロックを含む。
4　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 5／6黄褐色粘土の小粒を含む。

0　（1：40）　2m

S B510　掘立柱建物跡　柱穴断面図





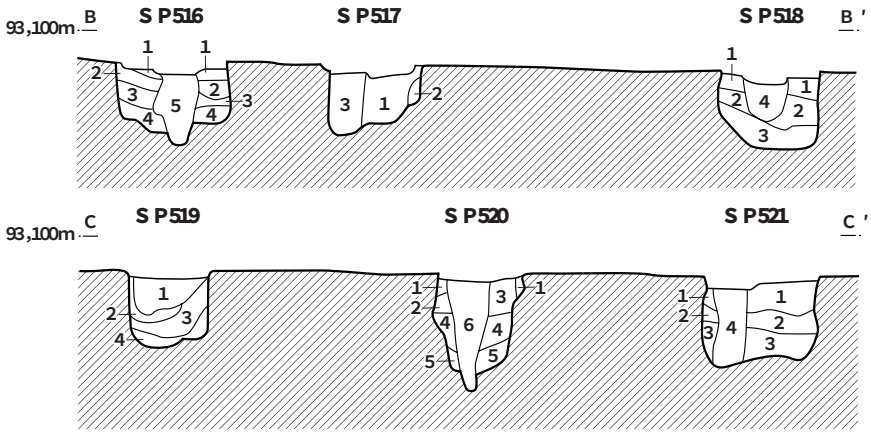
S P514　A～A ′
1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色シルトの小粒を含む。
2　10Y R 3／4暗褐色シルト、10Y R 4／4褐色シルトの小粒を含む。

S P515　A～A ′
1　10Y R 3／3暗褐色シルト、10Y R 4／6褐色シルトの小粒を含む。
2　10Y R 3／3暗褐色シルトと10Y R 3／4暗褐色シルトの混合土、10Y R 4／4褐色シルトの小ブロックを含む。
3　10Y R 3／3暗褐色シルトと10Y R 3／4暗褐色シルトの混合土。
4　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト。
5　10Y R 3／2黒褐色粘質土。

S P514～521

0　(1：40)　2m

S P514～S P521　柱穴跡



S P516　B～B'
1　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/6褐色粘質土の小粒をわずかに含む。
2　10YR3/2黒褐色シルト、10YR2/6粘土の小ブロックを含む。
3　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土。
4　10YR3/2暗褐色シルト。
5　10YR3/3暗褐色シルト。

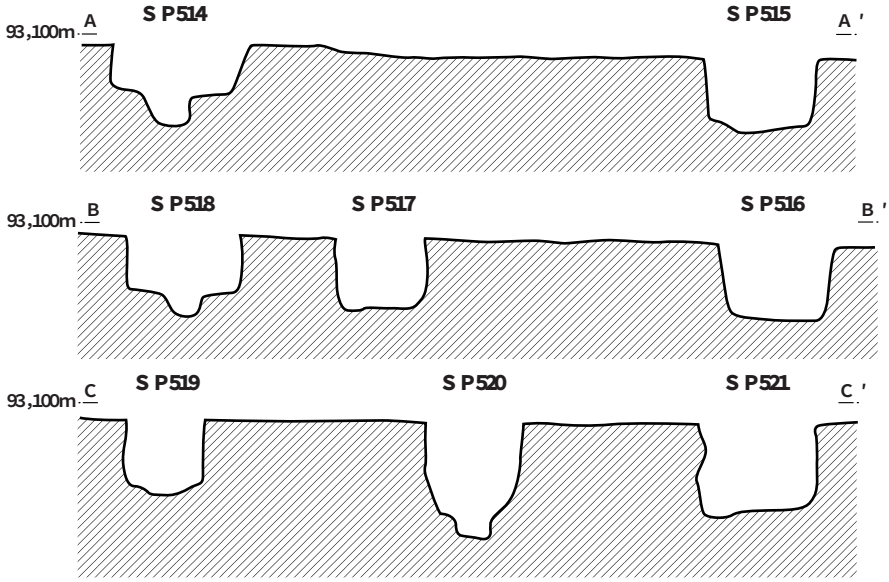
S P517　B～B'
1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色シルトの小粒を含む、炭化物粒をわずかに含む。
2　10YR3/4暗褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色シルトの小粒を含む。

S P518　B～B'
1　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルトの小ブロックを含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/6褐色シルトの小粒を含む。
3　10YR3/4暗褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土。
4　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/6褐色シルトの小粒を含む。

S P519　C～C'
1　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/6褐色粘土の小粒を含む、炭化物粒をわずかに含む。
2　10YR3/4暗褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土。
3　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土。
4　10YR3/2黒褐色シルト。

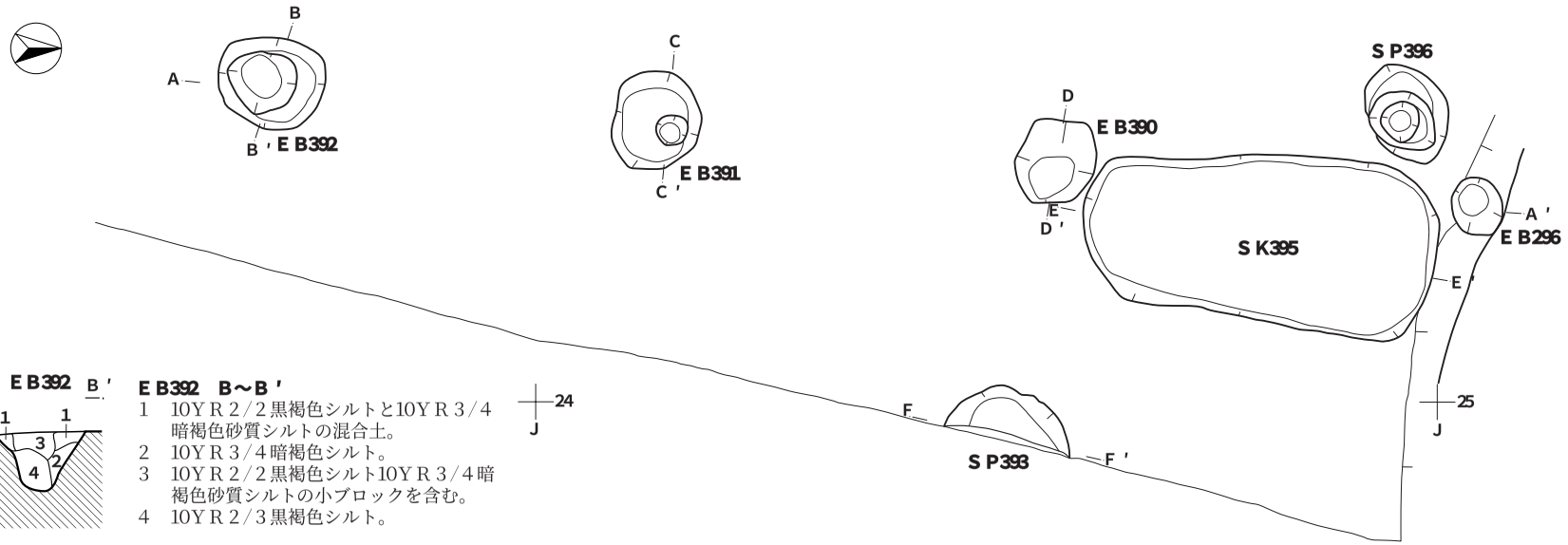
S P520　C～C'
1　10YR4/6褐色粘土。
2　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/6褐色シルトの小ブロックを含む。
3　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土。
4　10YR3/3暗褐色シルト、10YR3/4暗褐色シルトのブロックを含む。
5　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルトの小ブロックを含む。
6　10YR2/3黒褐色シルト、炭化物粒を含む。

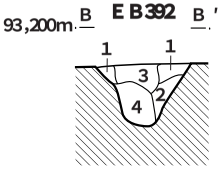
S P521　C～C'
1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘土の小粒を含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルトの小ブロックを含む。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘土の小ブロックを含む。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色シルトの粘土のブロックを含む。



0　(1：40)　2m

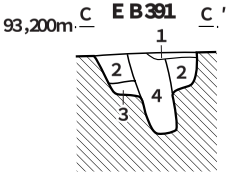
S P514～S P521　柱穴跡　土層断面図





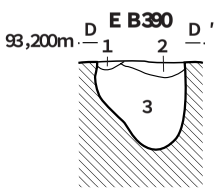
E B392　B～B′

1　10Y R 2／2黒褐色シルトと10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの混合土。
2　10Y R 3／4暗褐色シルト。
3　10Y R 2／2黒褐色シルト10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
4　10Y R 2／3黒褐色シルト。



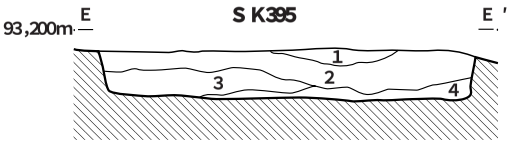
E B393　C～C′

1　10Y R 2／1黒色シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトの混合土。
2　10Y R1.7/ 1黒色炭化物層。
3　10Y R 2／1黒色シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトの混合土２を含む。



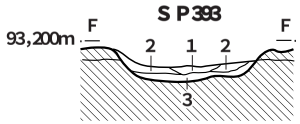
E B390　D～D′

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトの混合土。
2　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト焼土を含む黒褐色砂質シルト焼土を含む。
3　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト10Y R 4／4褐色砂質シルトの小ブロックを含む炭化物粒を含む。



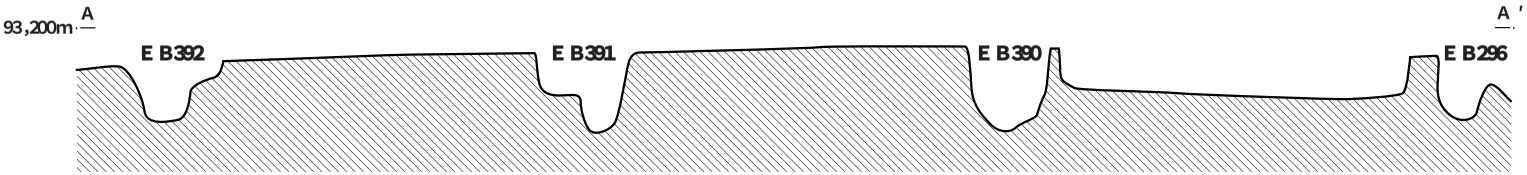
S K395　E～E′

1　10Y R 4／4褐色微砂（炭化物、地山砂混じり）
2　10Y R 3／3暗褐色微砂（黒色土多く地山砂少し）
3　10Y R 4／4褐色微砂。
4　10Y R 4／4褐色微砂（土器片含む）
＊　人為的埋戻し土



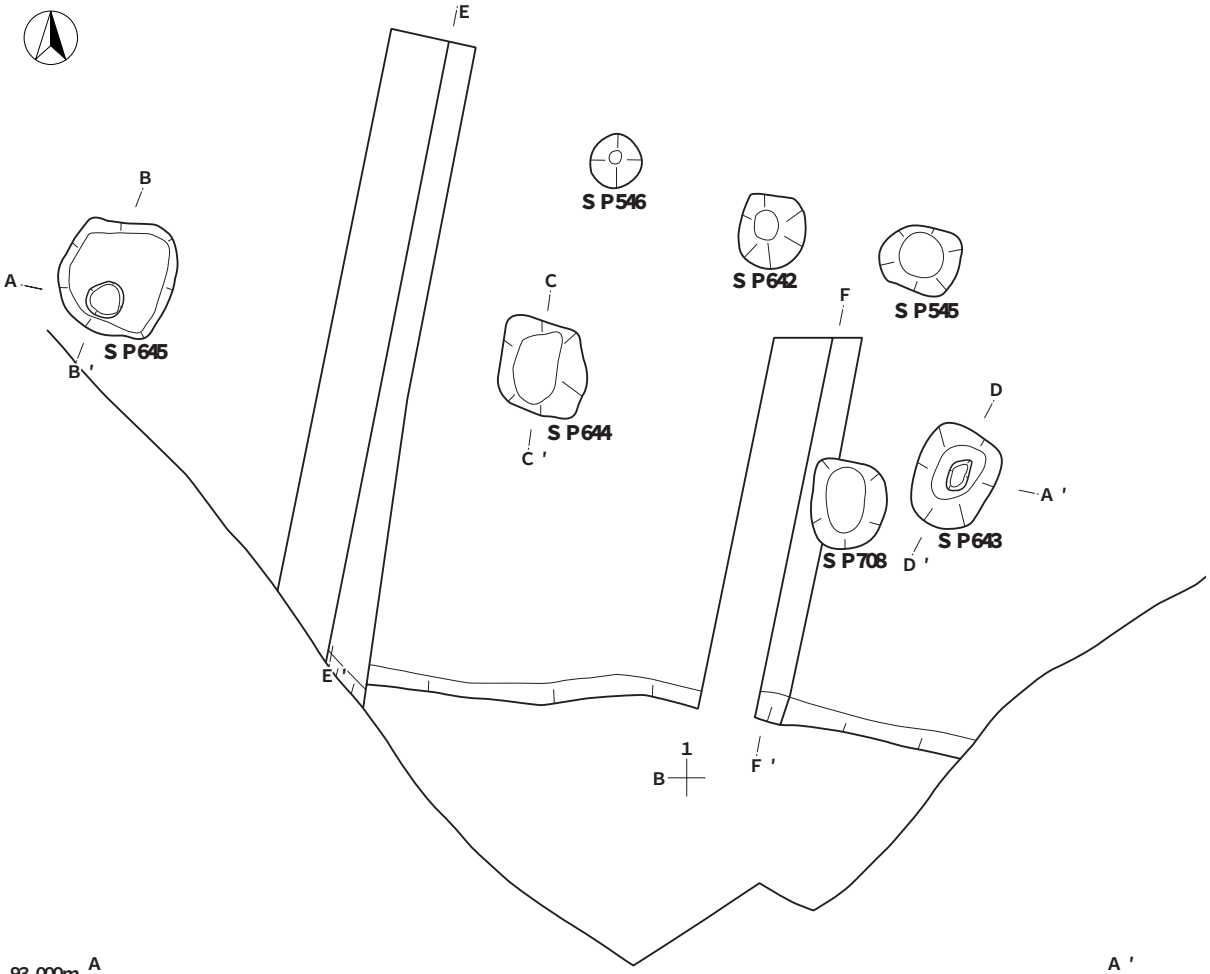
S P393　F～F′

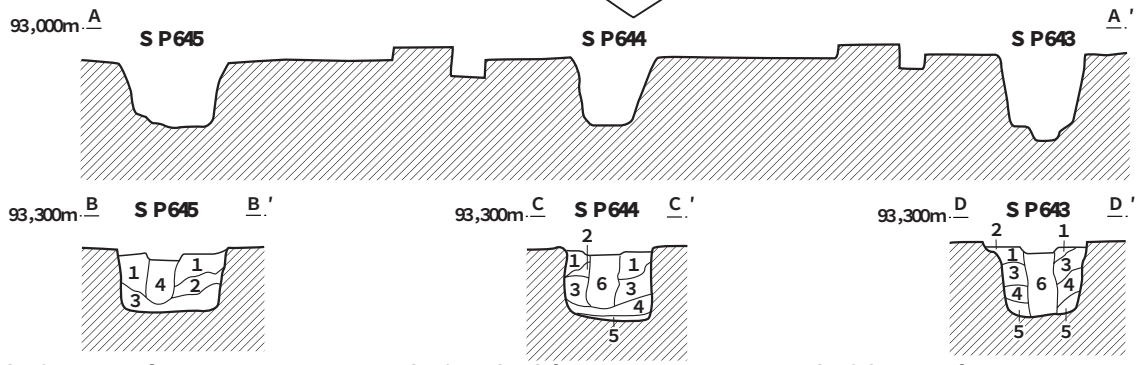
1　10Y R 2／1黒色シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトの混合土。
2　10Y R1.7/ 1黒色炭化物層。
3　10Y R 2／1黒色シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトの混合土２を含む。



0　（1：40）　2m

E B296　E B390～E B392　柱穴跡





S P645　B～B '

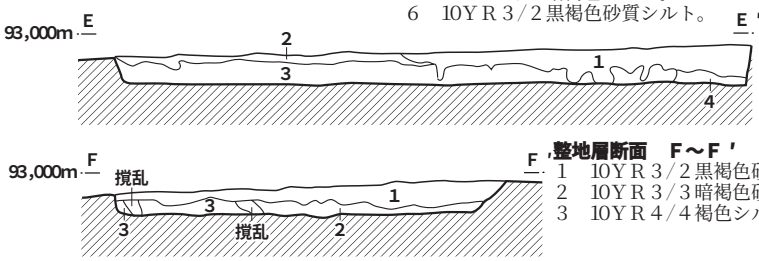
1　10Y R 3／2黒褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色粘土の小ブロックを含む。
2　10Y R 3／3暗褐色シルトと10Y R 3／4暗褐色シルトの混合土。
3　10Y R 3／3暗褐色シルト。
4　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色粘土の小ブロックを含む。

S P644　C～C '

1　10Y R 3／2黒褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトを含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトの混合土。
3　10Y R 3／2黒褐色シルト、10Y R 4／4褐色粘土の小ブロックを含む。
4　10Y R 3／2黒褐色シルト。
5　10Y R 3／3暗褐色シルト。
6　10Y R 3／2黒褐色砂質シルト。

S P643　D～D '

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト。
2　10Y R 4／4褐色粘土の小ブロックを含む。
3　10Y R 3／4褐色砂質シルト。
4　10Y R 3／2黒褐色砂質シルト。
5　10Y R 3／2黒褐色シルト、10Y R 4／4褐色粘土の小ブロックをわずかに含む。
6　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト。



整地層断面　E～E '

1　10Y R 3／2暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色シルトをわずかに含む、土器片をわずかに含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと10Y R 3／4暗褐色砂質シルトの混合土。
3　10Y R 4／4褐色シルト、10Y R 3／3暗褐色砂質シルトをわずかに含む。
4　10Y R 2／3黒褐色シルト。

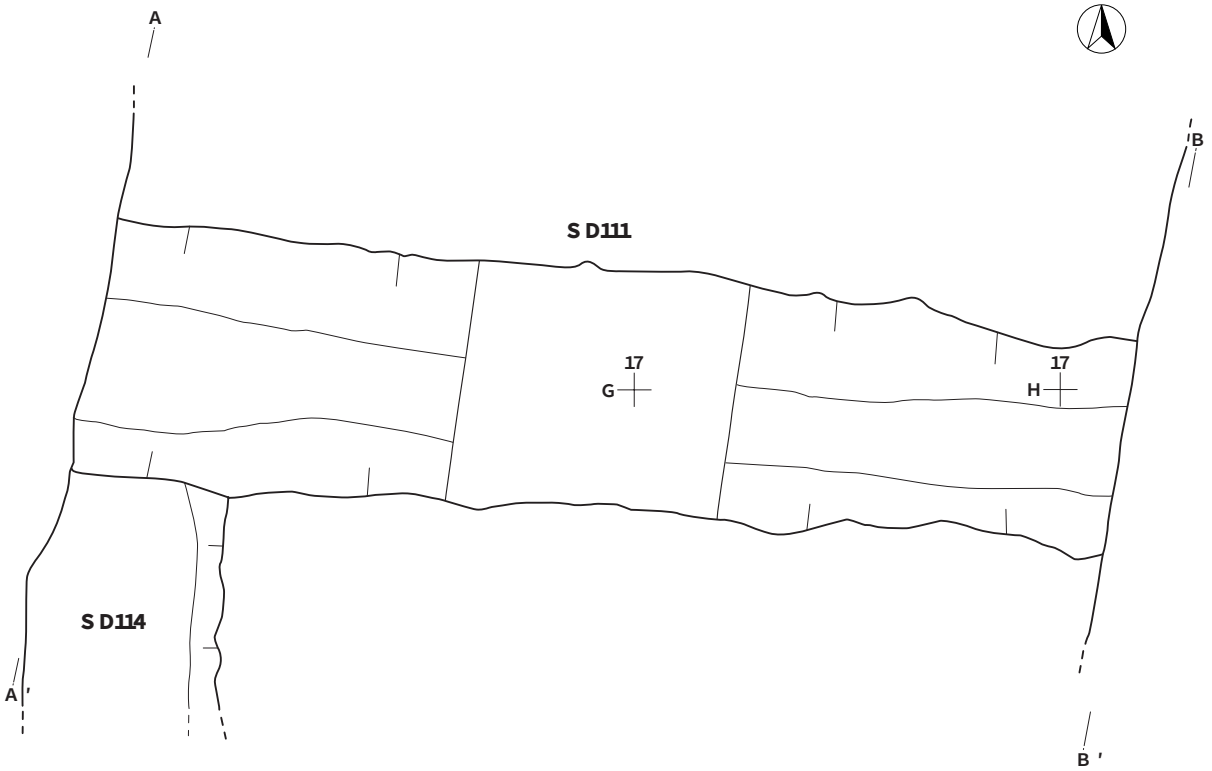
整地層断面　F～F '

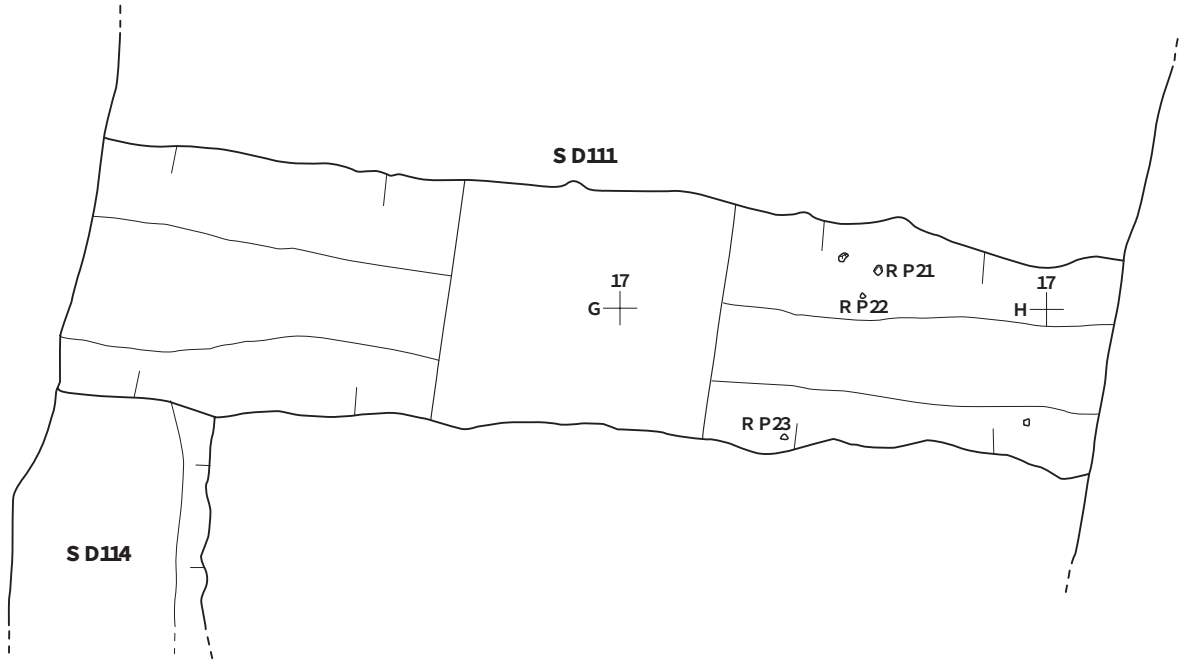
1　10Y R 3／2黒褐色砂質シルト、炭化物粒、土器の小片を含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、炭化物粒を含む。
3　10Y R 4／4褐色シルト、10Y R 3／2黒褐色砂質シルトをわずかに含む。

0　（1：40）　2m

S P643～645　柱穴跡　整地層断面図

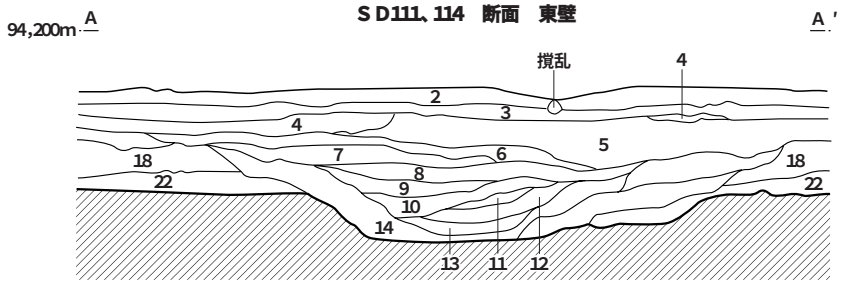
図版64

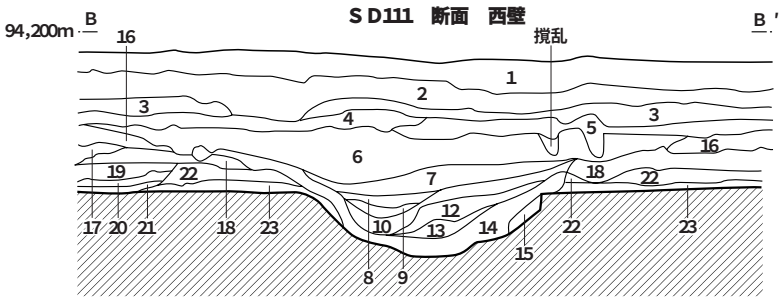




0 (1：80) 4m

SD111 溝跡





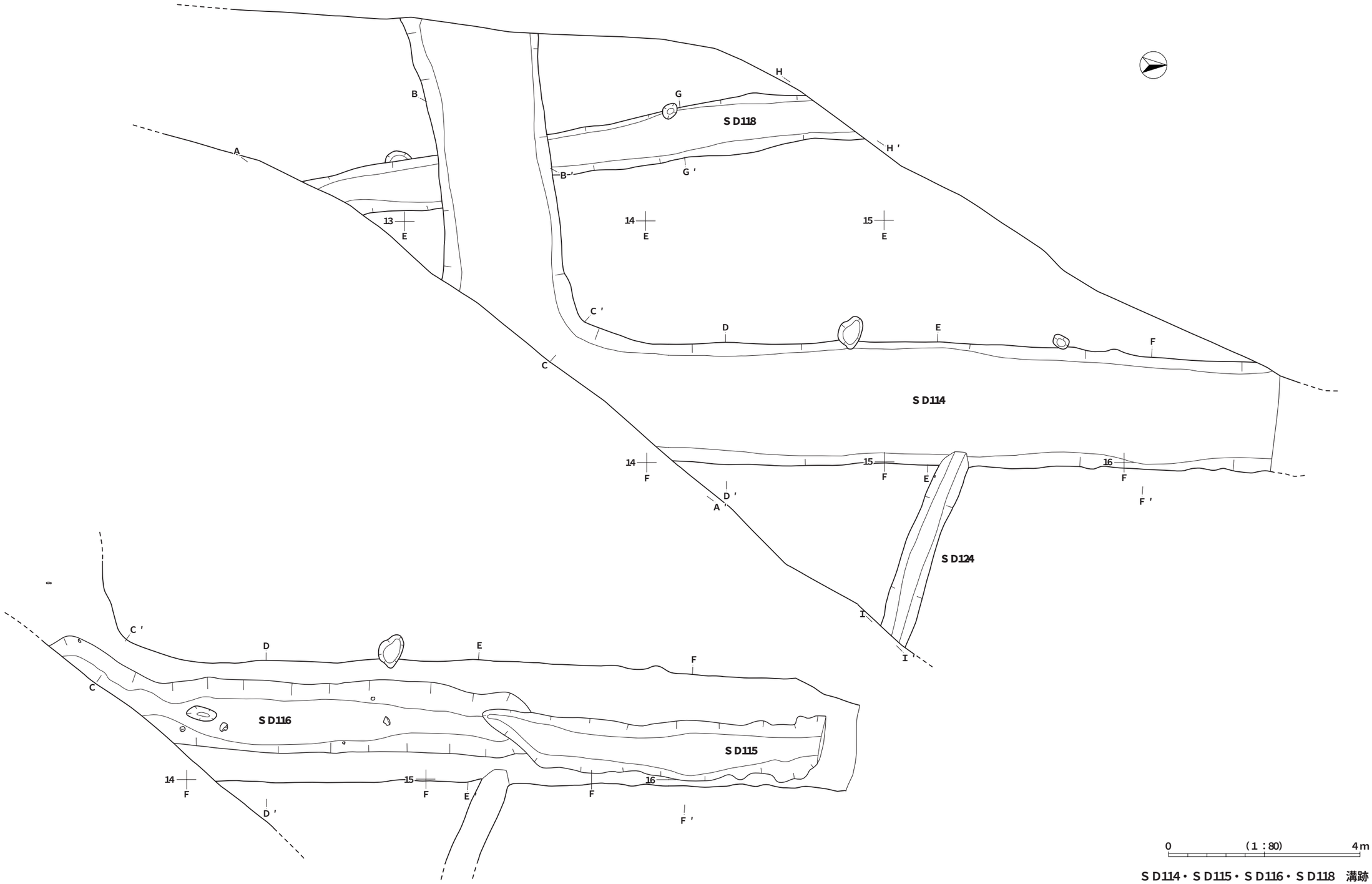
SD111　A～A'　B～B'

1　10YR5/4にぶい黄褐色細砂。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色細砂の小ブロックをわずかに含む。
3　10YR3/2黒褐色砂質シルト。
4　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、10YR6/4褐色細砂の小ブロックを含む。
5　10YR3/2黒褐色シルト（固い）、3が混じる。
6　10YR3/2黒褐色シルト、固くしまる。
7　10YR3/3暗褐色シルト。
8　10YR3/3暗褐色シルト、9がわずかに混じる、土器片がわずかに混じる。
9　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土、土器片・炭化物粒が混じる。
10　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土、10YR4/4褐色粘土の小ブロックを含む。
11　10YR5/3にぶい黄褐色シルト。
12　10YR5/4にぶい黄褐色粘土、10YR4/3にぶい黄褐色砂を端で含む。
13　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト。
14　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小粒を含む。
15　地山と14の混合土。
16　10YR3/2黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの粒をわずかに含む。
17　10YR3/2黒褐色砂質シルト。（16より粘度が高い）
18　10YR3/2黒褐色シルト
19　10YR3/2黒褐色シルト。（18にくらべ少し茶色がかってかたい。）
20　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小ブロックを含む。被熱しており、焼土を含む。
21　10YR2/2黒褐色シルト。かたく、10YR4/4褐色砂質シルトの粒をわずかに含む。
22　10YR2/2黒褐色粘質シルト。
23　10YR3/3暗褐色砂質シルト。

※　一部壁面崩落のため、注記なし。

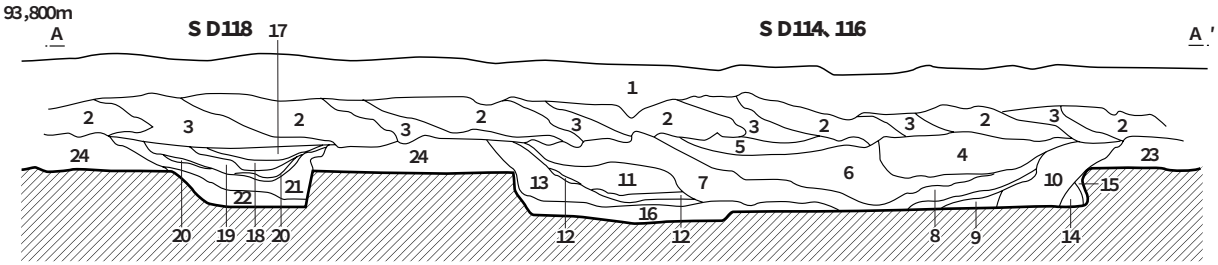
0　（1：80）　4m

SD111　溝跡断面図



S D114・S D115・S D116・S D118　溝跡

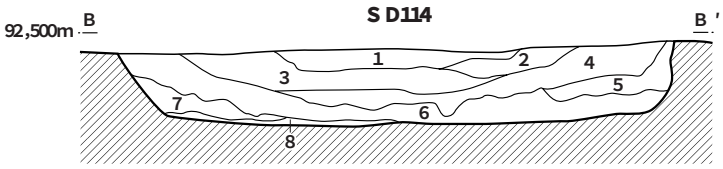
図版67



SD114、116、118　A～A'

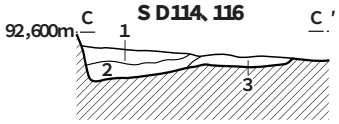
1　10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/3にぶい黄褐色粘土・10YR3/3暗褐色シルトの混合土。（現表土）
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
3　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土。（撹乱）
4　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土。10YR4/6褐色粘土の小ブロックを含む。土器片、炭化物粒を含む。
5　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色粗砂の混合土。土器片・焼土粒・炭化物粒を含む。
6　10YR2/1黒色炭化物層、土器片を含む。
7　10YR3/2黒褐色シルト、12の小粒をわずかに含む。
8　10YR5/4にぶい黄褐色粘土。
9　10YR3/2黒褐色シルト、12の小ブロックを含む。
10　10YR3/2黒褐色シルト。
11　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/6褐色粘質土の小ブロックを含む。炭化物粒を含む。
12　10YR4/3にぶい黄褐色粘土。
13　10YR3/2黒褐色シルト。
14　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色粘質シルトの小ブロックを含む。
15　10YR4/4褐色粘質シルト。
16　10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。
17　10YR3/2黒褐色シルト、10YR3/3暗褐色シルトの小粒をわずかに含む。
18　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘土の小ブロックをわずかに含む。
19　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
20　10YR4/3にぶい黄褐色粘土。
21　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色粘土の小ブロックを含む。
22　10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/6褐色粘質シルトを含む。
23　10YR3/2黒褐色シルト、かたくしまる。
24　10YR2/2黒褐色シルト。

0　（1：80）　4m



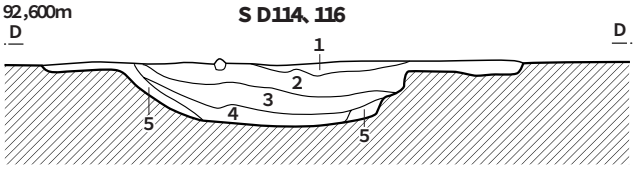
SD114　B～B'

1　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR5/4にぶい黄褐色粘質土の混合土。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト。（粘質）
4　10YR3/3暗褐色シルト、10YR5/4にぶい黄褐色粘土のブロックをわずかに含む。炭化物粒をごくわずかに含む。
5　10YR3/3暗褐色シルト、10YR5/4にぶい黄褐色粘土と10YR3/2黒褐色シルトの混合土。
6　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。
7　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
8　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/3暗褐色シルトのブロックを含む。



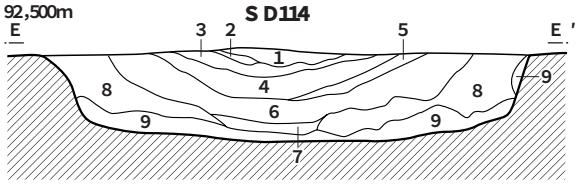
SD114、116　C～C'

1　10YR1.7/1黒色炭化物層、10YR2/3黒褐色砂質シルトのブロックを含む。
2　10YR1.7/1黒色炭化物層、焼土粒をごくわずかに含む。
3　10YR3/3黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小粒をごくわずかに含む。



SD114、116　D～D'

1　10YR3/2黒褐色炭化物層、焼土粒を含む。
2　10YR3/4暗褐色砂質シルト、焼土、炭化物粒をごくわずかに含む。
3　10YR2/3黒褐色砂質シルト、４層炭化物を大量に含む、焼土粒をわずかに含む。
4　10YR1.7/1黒色炭化物層、焼土粒をわずかに含む。
5　10YR3/3黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小粒を含む。

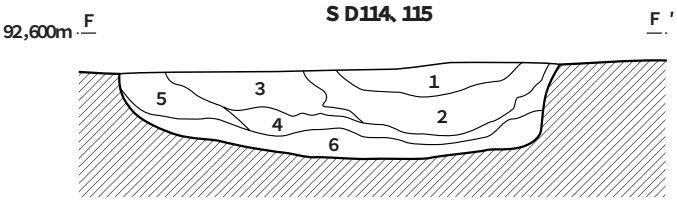


SD114　E～E'

1　10YR5/1褐灰色微砂質シルト。（炭化物、黄色シルト粒を点々と含む）
2　10YR2/1黒褐色炭化物層。（木灰と炭化物、焼土粒子を含む）
3　10YR5/1褐灰色微砂質シルト。（上面に１、下面に２を含む）
4　10YR2/1黒色木灰、炭化物層。（下面に黄色シルトを含む。他は均一層）
5　10YR4/3にぶい黄褐色中砂混じりシルト。（ほぼ均一）
6　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト。（下面に灰色粘土ブロックや黄色シルトブロックを含む）
7　10YR5/6黄褐色粘質微砂。（鉄分の沈着が見られる。一時期の溝跡底面）
8　10YR4/2灰黄褐色微砂質シルト。（中央部で黄色シルト小ブロックを含む他は均一）
9　10YR4/6褐色粘質シルト（混入物等特になし）

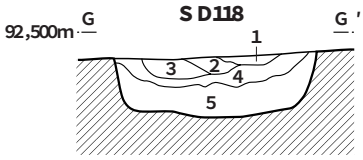
0　（1：40）　2m

SD114・SD115・SD116・SD118　溝跡断面図（1）



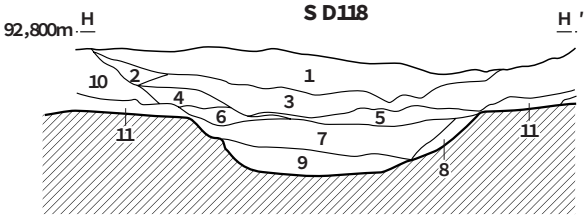
SD114、115　F～F′

1　10YR3/4暗褐色砂質シルト、２層土の小粒をごくわずかに含む。
2　10YR5/4にぶい黄褐色粘土。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色シルトの小粒をわずかに含む。
4　10YR3/4暗褐色シルト、10YR3/2黒褐色シルトのブロックを含む。
5　10YR2/3黒褐色砂質シルト。
6　10YR4/4褐色砂と10YR3/4暗褐色砂質シルトが半々で混じる。



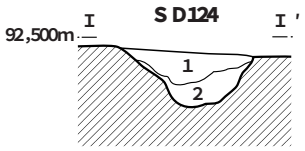
SD118　G～G′

1　10YR3/4暗褐色砂質シルト。（黒色シルト小粒が全体に混じる）
2　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色砂質シルトが混じる。
3　10YR4/4褐色砂と10YR3/4暗褐色シルトの混合土。
4　10YR3/4暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルト、10YR4/4褐色砂の混合土。
5　10YR3/2黒褐色粘質シルト（下面に灰色の粘土ブロック、黄色のシルトブロックを含む）



SD118　H～H′

1　10YR4/4褐色砂質シルト。（大きめの粘土ブロック混じり）
2　10YR4/4褐色砂質シルト。（粘土、シルト、小ブロック混じり）
3　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト。（粘土ブロック混じり）
4　10YR3/4暗褐色粘質シルト。（粘土小ブロック混じり）
5　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト。（粘土小粒若干混じり全体では均一）
6　10YR3/4暗褐色シルト。（シルト、粘土小粒混じり）
7　10YR2/3黒褐色シルト。（シルト、粘土ブロックの混合）平安期遺物を含む。
8　10YR4/4褐色シルト。（粘土、シルト混じり）
9　10YR4/6褐色粘質シルト。（粘土、シルトのブロック混合）
10　10YR4/1褐灰色粘質シルト。（旧表土）
11　10YR4/3にぶい黄褐色シルト。（地山）

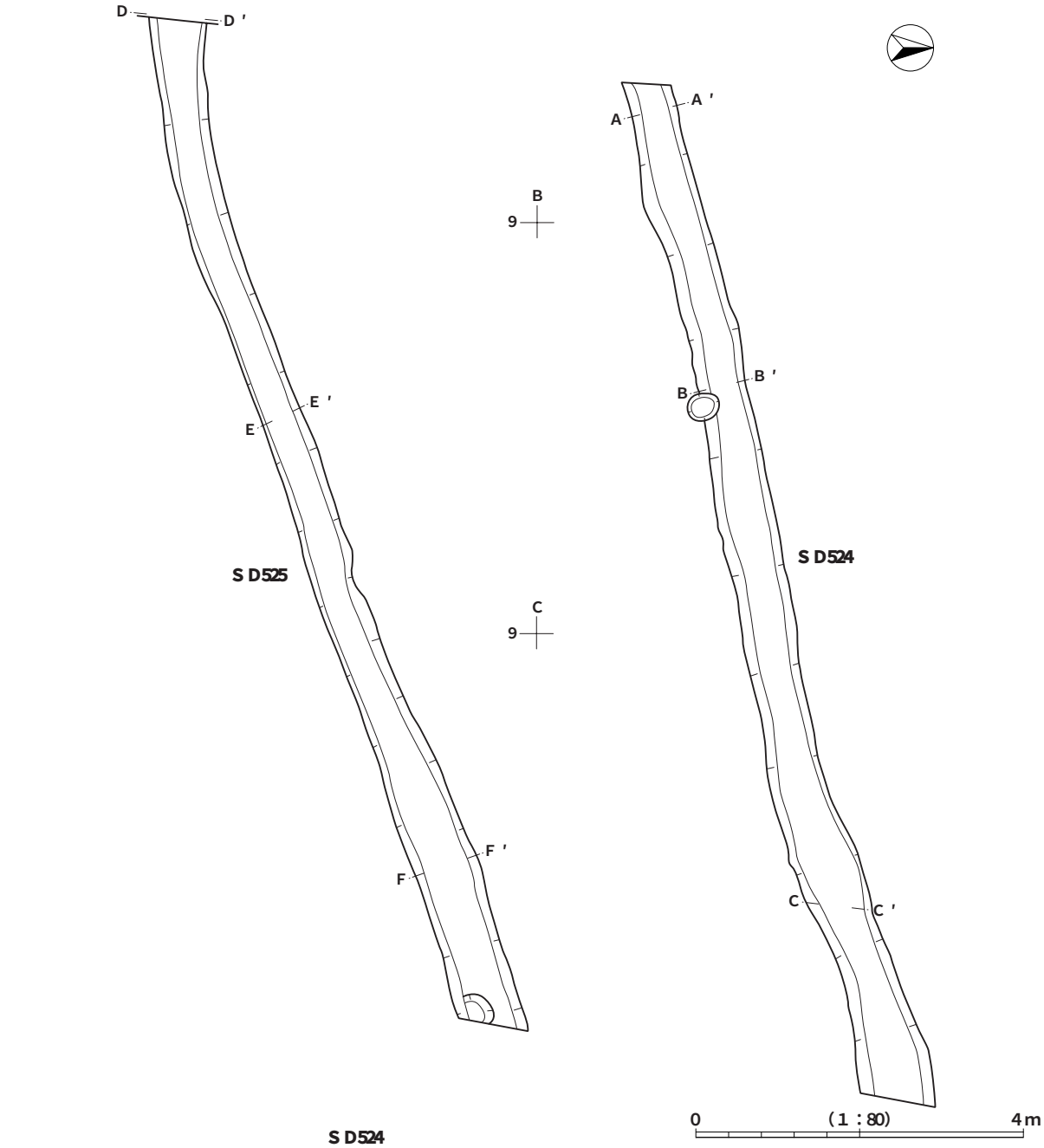


SD124　I～I′

1　10YR2/3黒褐色粘質シルト。（黄色シルト小粒が全体に混じる）
2　10YR2/2黒褐色粘質シルト。（黄色シルトのやや大きなブロックが下面に混じる）
3　10YR3/3暗褐色シルト。（上部は汚れてプライマリーでもないかと考えられるが基本的には地山？）

0　（1：40）　2m

SD114・SD115・SD116・SD118　溝跡断面図（2）



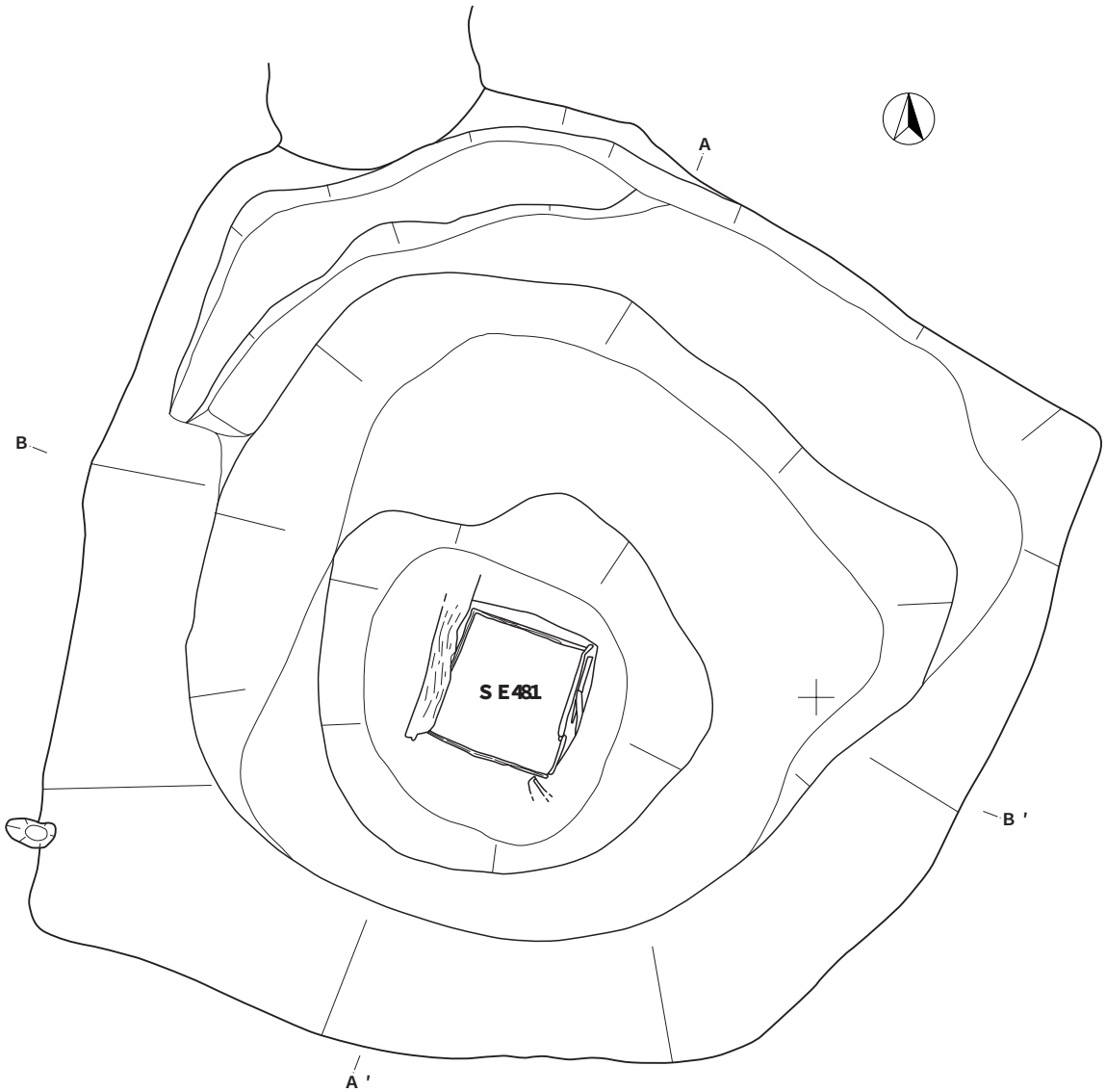
SD524　A～A′　B～B′　C～C′

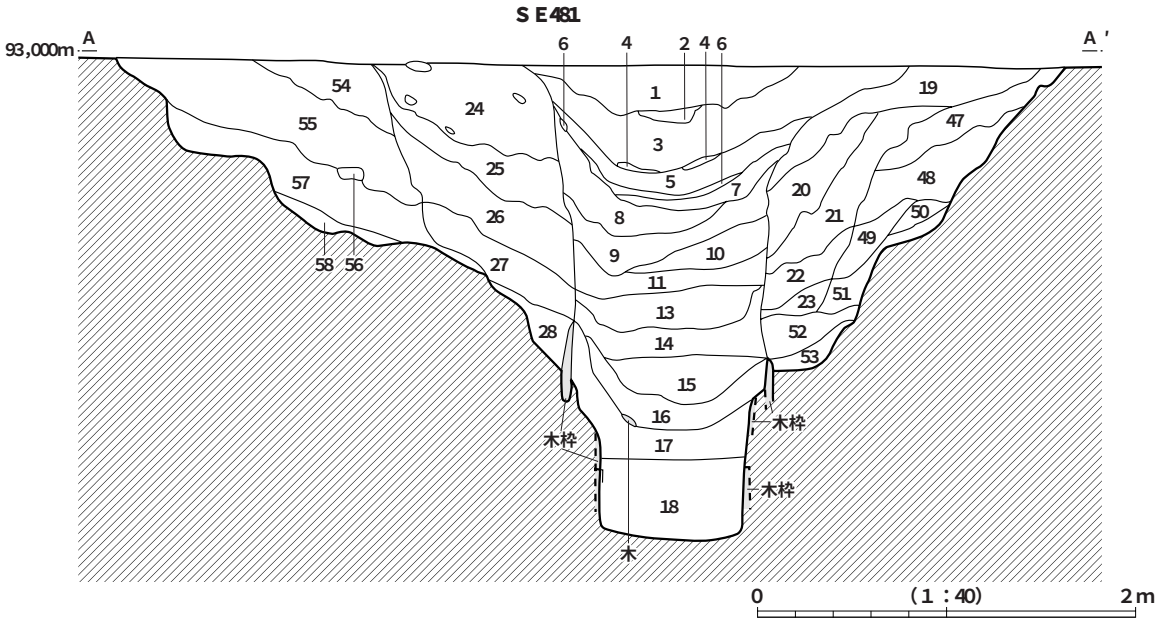
1　10YR3/2黒褐色シルト（無遺物）
2　10YR3/2黒褐色シルト（炭化物、焼土粒若干含む）
3　10YR2/3黒褐色シルト（炭化物多く含む）
Pit（F7.5YR3/2黒褐色シルト）

SD525　D～D′　E～E′　F～F′

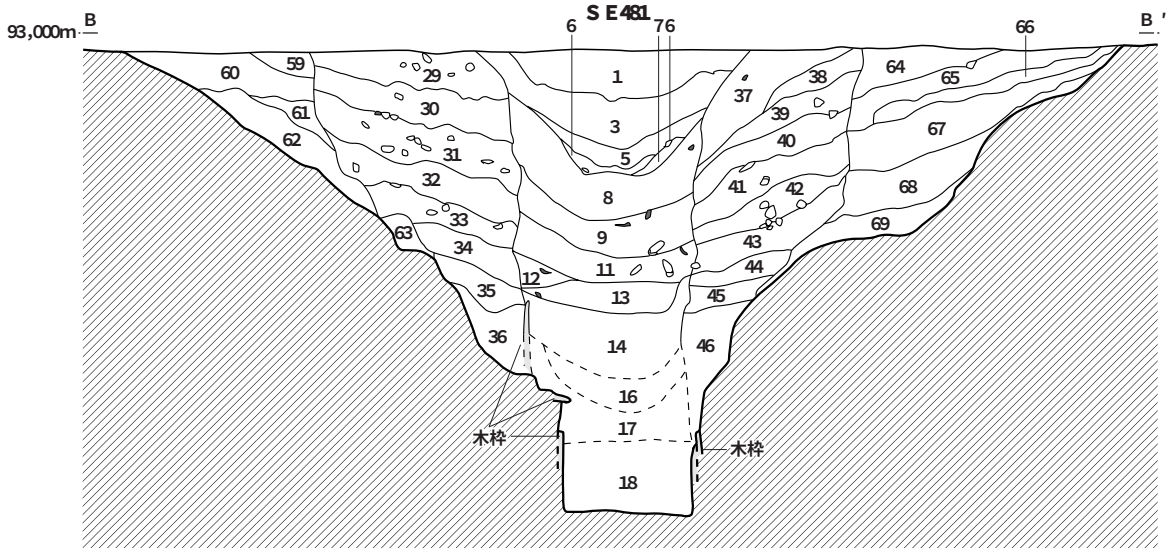
1　10YR3/3暗褐色シルト、10YR5/4にぶい黄褐色シルトの小粒を含む。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色細砂の小ブロックを含む。
3　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/6褐色シルトの小粒を含む。

SD524・SD525　溝跡（道路側溝）


A
B
SE481
B'
A'


SE481
93,000m
A
A'
6
4
2
4
6
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
木枠
木枠
木枠
木
0
(1：40)
2m

SE481　井戸跡

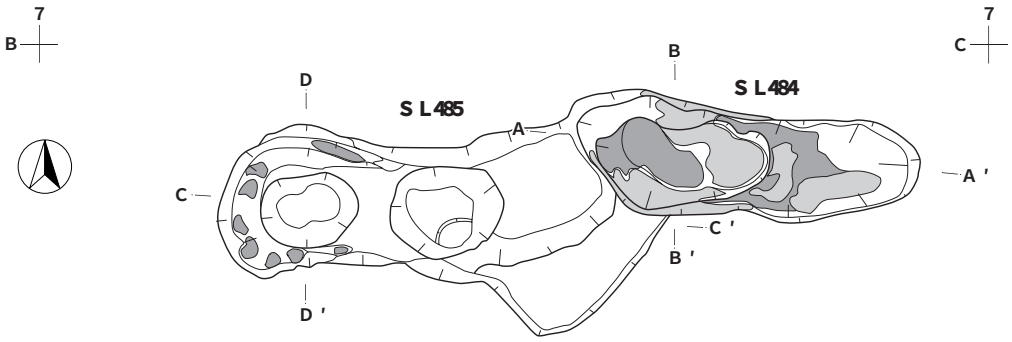


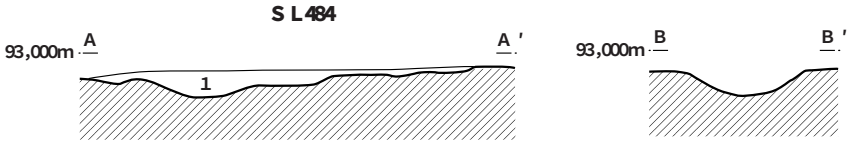
SE481　A～A'　B～B'

1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色粘土の小ブロックを含む。焼土粒、炭化物を含む。
2　10YR3/2黒褐色シルト、炭化物を含む。
3　10YR4/4褐色シルト、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
4　10YR4/4褐色粘質土。
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト、炭化物を含む、小レキを含む。
6　10YR5/4黄褐色粘土。
7　10YR3/3暗褐色砂質シルト、下方で炭化物を層状に含む。小レキを含む。
8　10YR3/2黒褐色シルト、炭化物粒、土器片を含む。レキを含む。
9　10YR3/3暗褐色砂質シルト、レキを含む。
10　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色シルトのブロックを含む。レキを含む。
11　10YR3/2黒褐色砂質シルト、10YR4/6褐色砂質シルトの小粒を含む。レキを含む。
12　10YR3/2黒褐色砂質シルト、レキを含む。
13　10YR3/2黒褐色粘質シルト、炭化物粒をわずかに含む。小レキを含む。
14　10YR3/1黒褐色粘質シルト、炭化物粒を含む。
15　10YR3/1黒褐色粘質シルト。
16　10YR2/2黒褐色シルト、砂利を多く含む。
17　10YR1.7/1黒色シルト。
18　10YR3/3砂利層。
19　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色シルトの小ブロックを含む。焼土粒と炭化物粒をわずかに含む。
20　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色シルトの小粒を含む。小レキと土器片を含む。
21　10YR3/2黒褐色シルト、10YR3/1黒褐色粘質土の混合土。小レキを含む。
22　10YR3/2黒褐色シルト、10YR6/3にぶい黄橙粘質土の小ブロックを含む。小レキを含む。
23　10YR3/3黒褐色粘質土、10YR4/3にぶい黄褐色粘質土の小ブロックを含む。
24　10YR2/2暗褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色シルトのブロックを含む。炭化物粒を含む。レキを含む。
25　10YR3/3黒褐色シルト、10YR4/4褐色粘土の小ブロックを含む。炭化物をわずかに含む。レキを含む。
26　10YR3/2暗褐色砂質シルトと10YR3/2黒褐色砂質シルトの混合土。10YR5/4にぶい黄褐色粘土の小粒を含む。小レキを含む。
27　10YR3/4黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土のブロックを含む。
28　10YR3/3黒褐色粘質土、10YR4/3にぶい黄褐色粘質土の小ブロックを含む。
29　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR5/6黄褐色粘土の小ブロックを含む。レキを含む。
30　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。レキを含む。
31　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR3/3暗褐色砂質シルトのブロックをふくむ。レキを含む。
32　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色粘質土のブロックを含む。10YR4/6褐色粘土のブロックを含む。レキを含む。
33　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小ブロックを含む。レキを含む。
34　10YR3/1黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小ブロックを含む。
35　10YR2/1黒色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小ブロックを含む。わずかにレキを含む。
36　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の混合土。
37　10YR3/4暗褐色砂質シルト、焼土粒、炭化物粒を含む。小レキを含む。
38　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘土の小ブロックを含む。小レキを含む。
39　10YR3/3暗褐色砂質シルト、小レキ、レキを含む。
40　10YR3/2黒褐色シルト、10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。炭化物粒を含む。10YR4/6褐色粘土の小ブロックを含む。レキを含む。
41　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色粘質土の混合土。炭化物粒をわずかに含む。レキを含む。
42　10YR3/2黒褐色砂質シルト、レキを含む。
43　10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小粒を含む。炭化物粒を含む。
44　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR4/2灰黄褐色粘質土の小粒を含む。炭化物粒、小レキをわずかに含む。
45　10YR3/1黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小粒を含む。
46　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の混合土。
47　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色砂質シルトの混合土。小レキを含む。
48　10YR4/4褐色シルト、10YR3/2黒褐色シルトと暗褐色砂質シルトの混合土。
49　10YR2/2黒褐色粘質土と10YR5/3にぶい黄褐色粘質土の混合土。
50　10YR4/2灰黄褐色粘質土、10YR3/2黒褐色粘質土が混じる。
51　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR5/3にぶい黄褐色粘質土のブロックを含む。
52　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR4/2灰黄褐色粘質度の小ブロックを含む。
53　10YR3/1黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小ブロックを含む。
54　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色シルトの小粒を含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
55　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色シルトのブロックを含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。小レキをわずかに含む。
56　10YR4/4褐色粘質土、10YR3/4暗褐色砂質シルトをわずかに含む。
57　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色粘質土の混合土。
58　10YR3/2黒褐色粘質土と10YR5/3にぶい黄褐色粘質土の混合土。
59　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘土の小ブロックを含む。
60　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。
61　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土。
62　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/2灰黄褐色シルトの混合土。10YR4/6褐色粘質土の小ブロックを含む。
63　10YR3/1黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小ブロックを含む。
64　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小粒を含む。
65　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色粘質土の小ブロックを含む。
66　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘質土のブロックを含む。小レキを含む。炭化物粒をわずかに含む。
67　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色粘質土のブロックを含む。炭化物粒を含む。小レキをわずかに含む。
68　10YR3/1黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の小ブロックを含む。
69　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR5/2灰黄褐色粘質土の混合土。

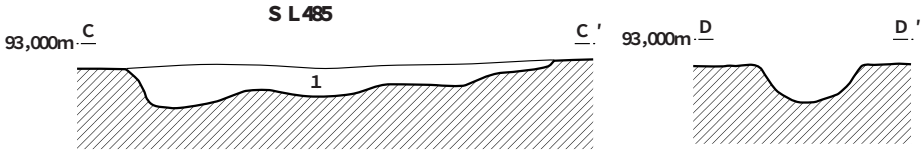
0　(1：40)　2m

SE481　井戸跡　土層断面図

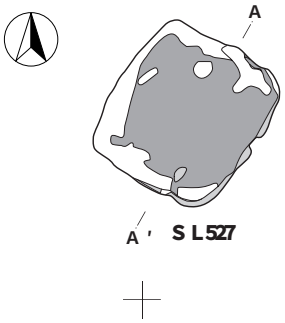


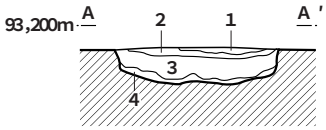


S L484　A～A '
1　10Y R 2 / 3黒褐色シルト。



S L485　C～C '
1　10Y R 3 / 2黒褐色粘質微砂。

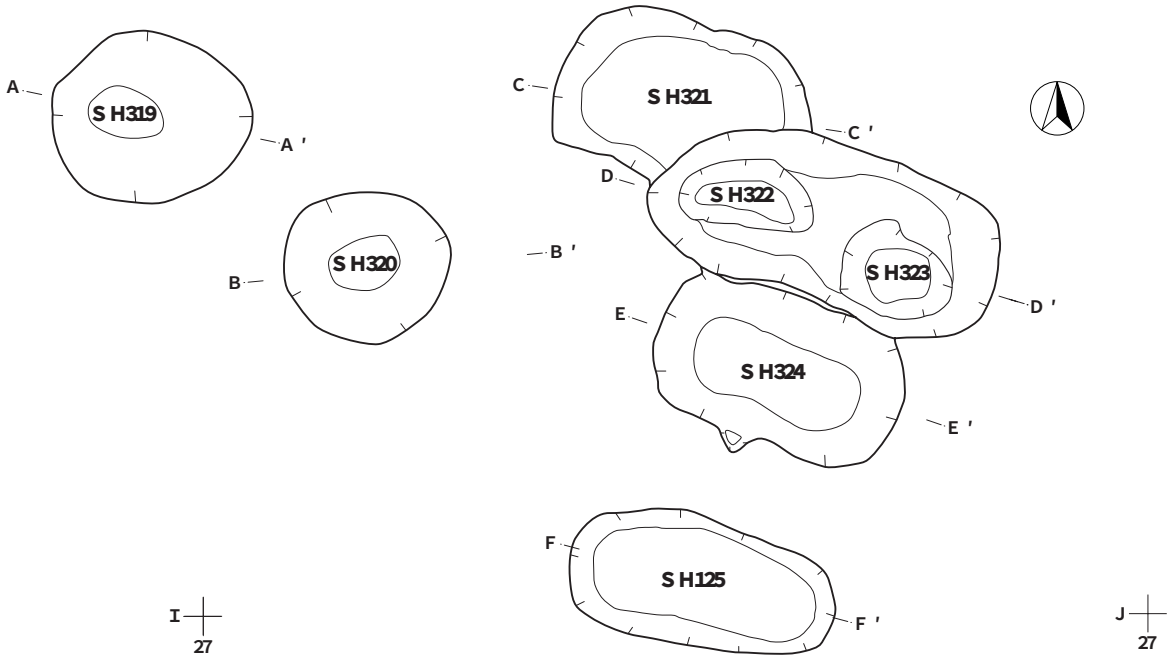


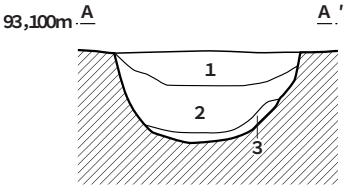


S L527　A～A '
1　10Y R 3 / 3暗褐色砂質シルト、炭化物粒を含む。
2　10Y R 3 / 3暗褐色砂質シルト、炭化物を大量に含む。焼土のブロックを含む。
3　10Y R 2 / 3黒褐色砂質シルト、炭化物を含む。焼土粒をわずかに含む。
4　黒色木炭。（南端部に焼土粒）

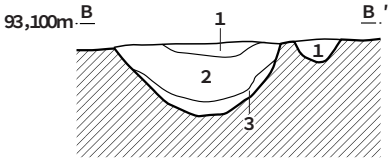
0　（1：40）　2m

S L484・S L485・S L527　焼土遺構



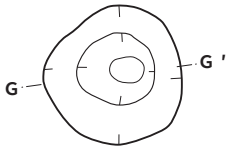


SH319　A～A'
1　10YR3/3暗褐色微砂。
2　10YR3/4暗褐色微砂。
3　10YR4/3にぶい黄褐色微砂。

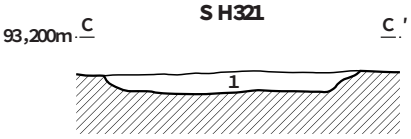


SH320　B～B'
1　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト。
2　10YR2/3黒褐色微砂。
3　10YR3/4暗褐色微砂。

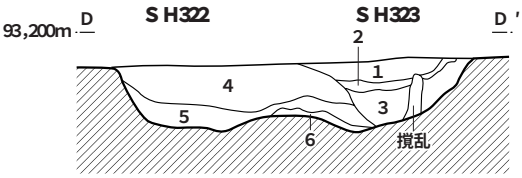
SD336
1　10YR2/2黒褐色微砂。（単一層）



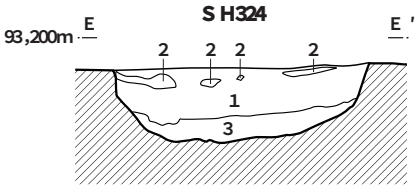
SK126



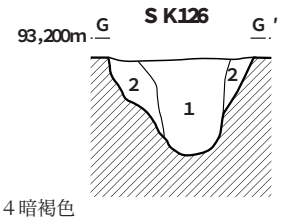
SH321　C～C'
1　10YR3/3黒褐色微砂。（単一、均一層）



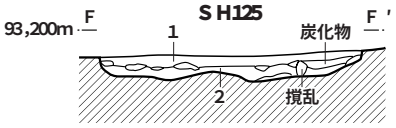
SH322、323　D～D'
1　10YR2/3黒褐色微砂。（黄色粘土ブロック混じり）
2　10YR1.7/1黒色炭化物層。（灰混じり）
3　10YR3/3暗褐色微砂。（黄色粘土粒子混じり）
4　10YR3/4暗褐色微砂。（黄色シルト小ブロック混じり）
5　10YR2/3黒褐色粘質微砂。（黄色シルトブロック混じり）
6　10YR3/4暗褐色微砂。



SH324　E～E'
1　10YR3/2黒褐色微砂。
2　10YR4/6褐色シルト。
3　10YR3/4暗褐色微砂。



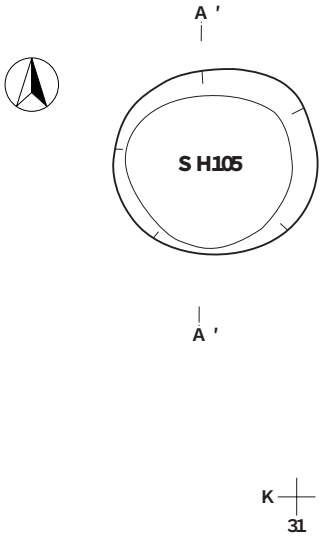
SK126　G～G'
1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトを粒状に含む。中央部で、10YR4/4褐色砂質シルトの大ブロックを含む。
2　10YR4/4褐色砂質シルトと10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土。（4/4が強い）

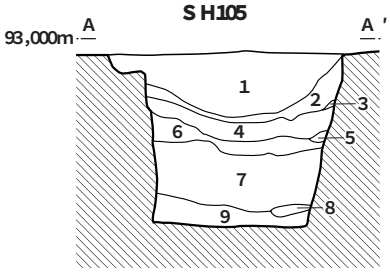


SH125　F～F'
1　10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。
2　10YR2/1黒色シルトと10YR3/2黒褐色砂質シルトの混合土。

0　（1：40）　2m

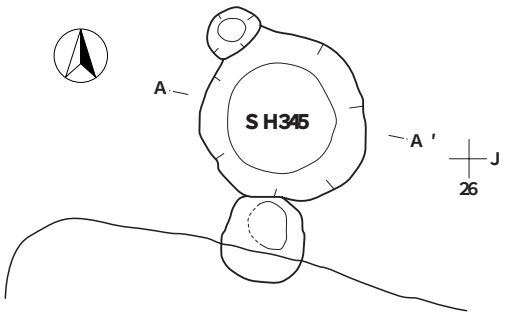
SH125・SH319～SH324　墓壙群　SK126　土壙

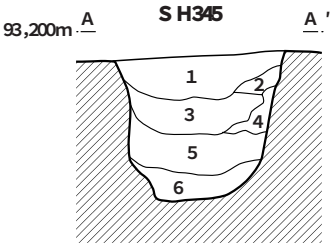




SK105A～A′(N～S)

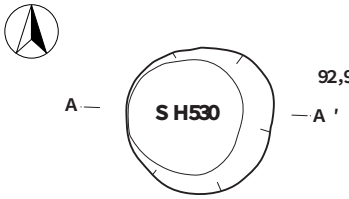
1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質土。
2　10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR3/3砂質土の混合土。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色シルトがまじる。10YR3/4が強い。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR2/2黒褐色シルトを含む両端で10YR4/6褐色砂質土を含む。
5　10YR4/4褐色砂質土。
6　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト。
7　10YR3/3暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトと、10YR4/4褐色シルトの混合土。
8　10YR2/2黒褐色シルト。
9　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトが層状に混じる。

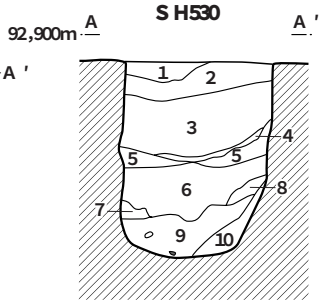




SH345A～A′(W～E)

1　10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。(4/4が強い)
2　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色砂質シルトをわずかに含む。(崩落土)
3　10YR3/2黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。(3/2が強い)
4　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/2黒褐色砂質シルトをわずかに含む。黄色が強い。(崩落土)
5　10YR3/2黒褐色砂質シルト。
6　10YR3/2黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトを層状に含む。





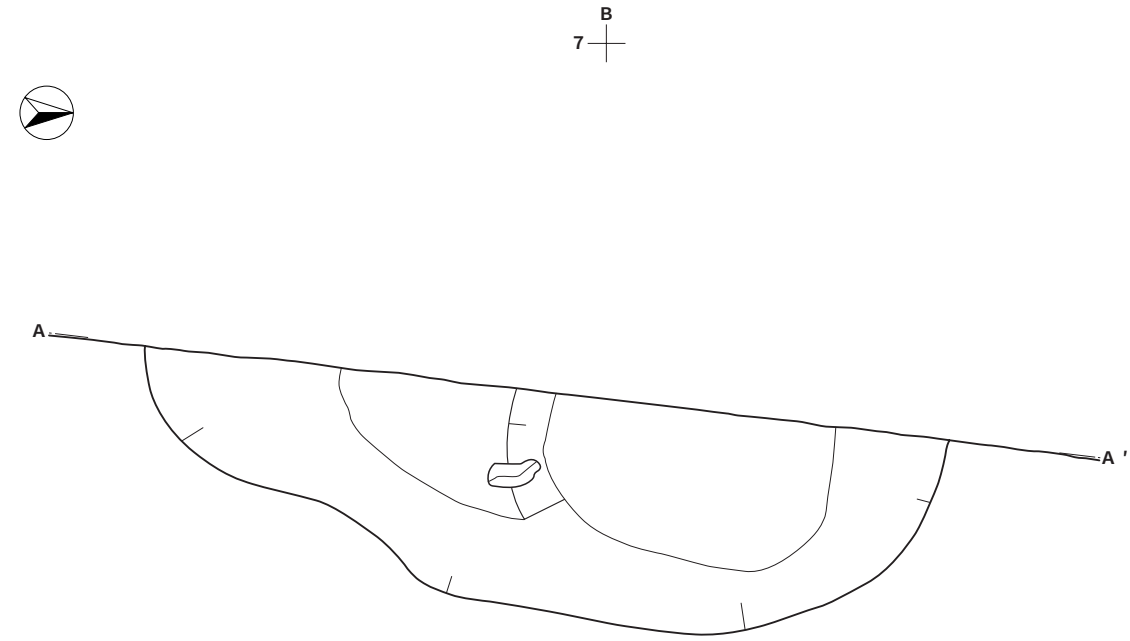
SH530A～A′(W～E)

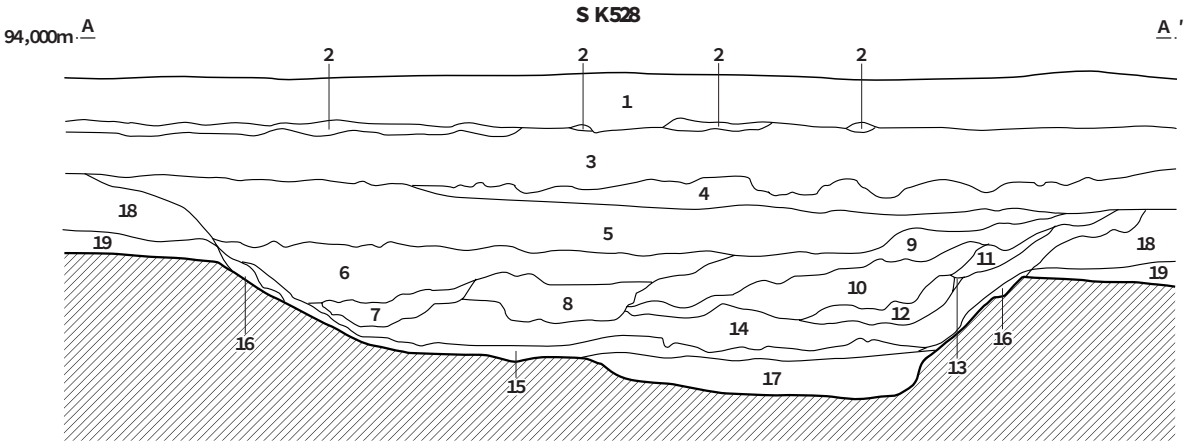
1　10YR3/2暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘質シルトの小粒を含む。
2　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘質シルトの極小粒を多く含む。焼土粒をごくわずかに含む。
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR4/6褐色粘質シルトの小粒を含む。焼土粒、炭化物粒をごくわずかに含む。
4　10YR2/3黒褐色シルト。
5　10YR3/4暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土。焼土の小粒をわずかに含む。
6　10YR3/2黒褐色シルト、焼土粒、炭化物粒を含む。
7　10YR3/4暗褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土。
8　10YR3/3暗褐色シルト。
9　10YR3/2黒褐色シルト、炭化物粒をわずかに含む。
10　10YR3/2黒褐色シルト、7.5YR5/8明赤褐色粘土の小ブロックを含む。

B
7

0　(1：40)　2m

SH105・SH345・SH530　墓壙



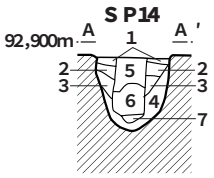


SK528　A～A'

1　10YR4/4暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色シルトを粒状にごくわずかにふくむ。
2　10YR3/4暗褐色砂質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色シルトの小ブロックを含む。
3　10YR3/3暗褐色シルト、炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトを含む。
5　10YR3/2黒褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトの小ブロックを含む。土器片を含む。
6　10YR3/2黒褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物粒を含む。
7　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR5/4にぶい黄褐色粘質土の小ブロックを含む。炭化物粒を含む。
8　10YR3/2黒褐色粘質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色粘質土の混合土。
9　10YR3/2にぶい黄褐色粘質シルトと10YR5/4にぶい黄褐色粘質土の混合土。
10　10YR3/2灰黄褐色粘質土、10YR5/4にぶい黄褐色粘質土のブロックを多量に含む。
11　10YR3/2暗褐色砂質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色粘質土の混合土。
12　10YR3/2暗褐色砂質シルト、10YR5/4にぶい黄褐色粘質土の混合土。（10YR5/4の割合が多い）
13　10YR3/2にぶい黄褐色粘質土。
14　10YR3/2灰黄褐色粘質土、10YR5/3にぶい黄褐色粘質土の混合土。
15　10YR3/2黒褐色粘質土、10YR5/3にぶい黄褐色粘質土の小ブロックを含む。炭化物粒を含む。
16　10YR3/2黒褐色粘質土、遺物片を含む。
17　10YR3/2黒褐色粘質土と、10YR5/4にぶい黄褐色粘質土の混合土。
18　10YR3/2暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色シルトの小粒を含む。
19　10YR3/2暗褐色砂質シルトと、10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。

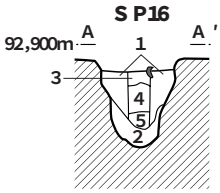
0　（1：40）　2m

SK528　土壙



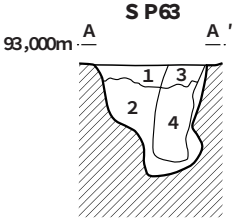
S P14　A～A'（S～N）

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト。
3　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと10Y R 4／4褐色砂質シルトが粒状に半々に混じる。
4　10Y R 4／4褐色砂質シルト、10Y R 3／3暗褐色砂質シルトを粒状に含む。
5　N1.5/0黒色シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトを粒状にごくわずかに含む。
6　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む。
7　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトのブロックを含む。



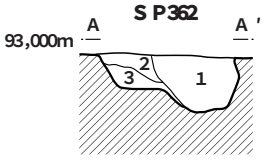
S P16　A～A'（S～N）

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトを粒状に含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色が粒状に半々に混じる。
3　10Y R 4／4褐色砂質シルト、２層土をわずかに含む。
4　N1.5/0黒色シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトを粒状にごくわずかに含む。
5　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト。２層土を層状に含む。



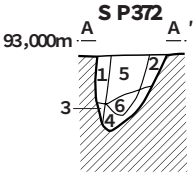
S P63　A～A'（SW～N E）

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒を含む。
2　10Y R 2／3黒褐色シルトと10Y R 4／6褐色砂質シルトの混合土。
3　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトのブロックを含む。
4　10Y R 3／2黒褐色シルト。



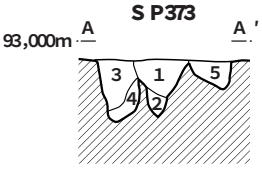
S P362　A～A'（S～N）

1　10Y R 2／2黒褐色シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトのブロックを含む。
2　10Y R 4／4褐色砂質シルト、10Y R 2／2黒褐色砂質シルトのブロックを含む。
3　10Y R 3／4暗褐色砂質シルト、10Y R 2／2黒褐色シルトの小粒を含む。



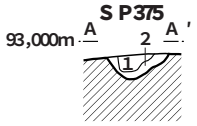
S P372　A～A'（W～E）

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
2　10Y R 4／4褐色砂質シルト、10Y R 3／3暗褐色砂質シルトの小粒を含む。
3　10Y R 4／4褐色砂質シルト、10Y R 3／3暗褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。
4　10Y R 2／2黒褐色シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトの小粒をわずかに含む。
5　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質シルトの小粒を含む。
6　10Y R 4／4褐色砂質シルト、10Y R 3／3暗褐色砂質シルトの小粒を含む。



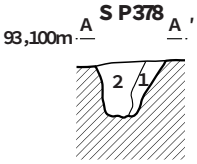
S P373　A～A'（N～S）

1　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒を含む。
2　10Y R 4／4褐色砂質シルト、10Y R 2／2黒褐色砂質シルトの小ブロックを含む。
3　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトのブロックを含む。
4　10Y R 2／2黒褐色砂質シルトと10Y R 4／6砂質シルトの混合土。
5　10Y R 2／2黒褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトの小粒を含む。



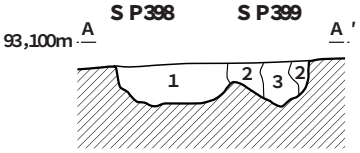
S P375　A～A'（W～E）

1　10Y R 5／4にぶい黄褐色粘土、10Y R 3／4暗褐色砂質シルトのブロックを含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／6褐色砂質シルトを端で含む。



S P378　A～A'（W～E）

1　10Y R 3／3暗褐色砂質シルト、10Y R 4／4褐色砂質土の小粒を含む。
2　10Y R 3／3暗褐色砂質シルトと10Y R 4／4褐色砂質土の混合土。

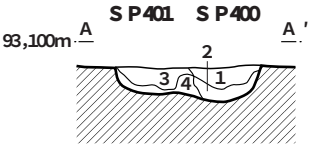


S P398、399　A～A'（N～E）

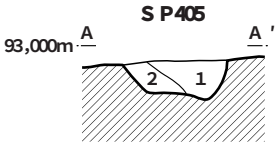
1　10Y R 3／3暗褐色微砂。（黄色シルト点々と含む）
2　10Y R 3／3暗褐色シルト。
3　10Y R 3／4暗褐色微砂。

0　（1：40）　2m

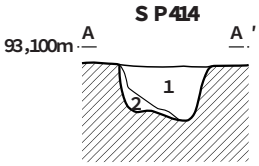
S P14・16・63・362・372・373・375・378・399　柱穴跡　土層断面図



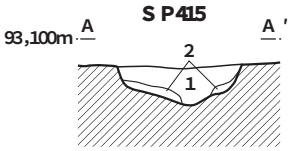
SP400　A～A'（S～W）
1　10YR3/3暗褐色シルト。（遺物：土器含む）
2　10YR3/4暗褐色シルト。（黄色シルトを多く含む）
3　10YR2/3黒褐色微砂。
4　10YR3/3暗褐色シルト。



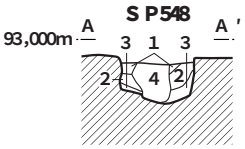
SP405　A～A'（W～E）
1　10YR2/3黒褐色シルト。
2　10YR3/4暗褐色シルト。（遺物片、炭化物片含む）



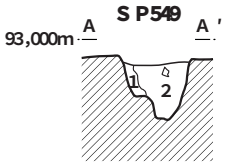
SP414　A～A'（NW～SE）
1　10YR2/3黒褐色シルト。（土器片若干含む）
2　10YR3/4暗褐色シルト。（黄色シルト多く含む）



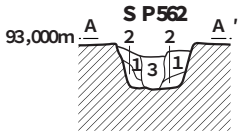
SP415　A～A'（W～E）
1　10YR3/4暗褐色シルト。（土器片、焼土粒、炭化物、木灰含む）
2　10YR4/4褐色シルト。（地山に近い汚れ土）



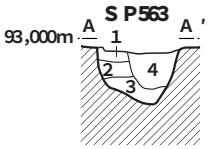
SP548　A～A'（N～S）
1　10YR2/2黒褐色シルト。
2　10YR2/2黒褐色シルト、10YR4/4粘土の小粒を含む。
3　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土。
4　10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色粘土の小粒を含む。



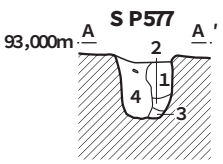
SP549　A～A'（NW～SE）
1　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土。
2　10YR2/3黒褐色シルト。



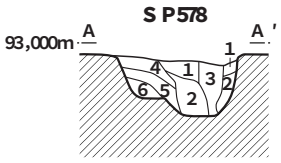
SP562　A～A'（S～N）
1　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色粘土の小ブロックを含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト。
3　10YR3/2黒褐色砂質シルト。



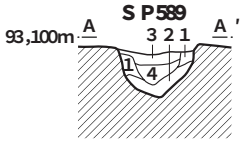
SP563　A～A'（W～E）
1　10YR3/4暗褐色砂質シルト。
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色粘土の小粒を含む。
4　10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土。



SP577　A～A'（S～N）
1　10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。
2　10YR3/2黒褐色砂質シルト。
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト。
4　10YR3/2黒褐色砂質シルト。



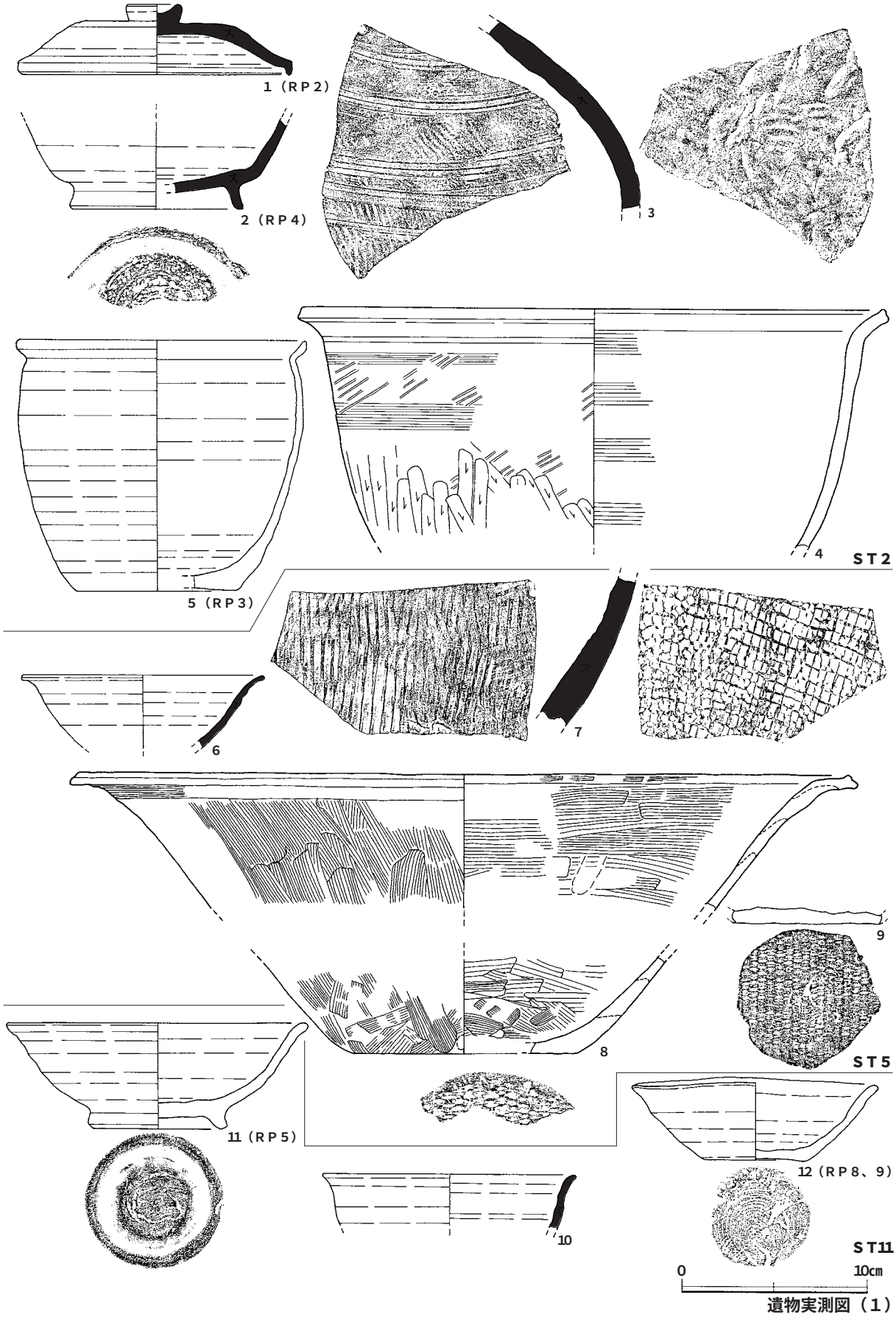
SP578　A～A'（W～E）
1　10YR4/4褐色砂質シルト、10YR3/3暗褐色砂質シルトを含む。
2　10YR2/1黒色シルト、10YR4/4褐色粘土の小ブロックを含む。
3　10YR3/2黒褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色砂質シルトの混合土。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルトと10YR4/4褐色砂質シルトの混合土。
5　10YR2/2黒褐色シルト。
6　10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土。



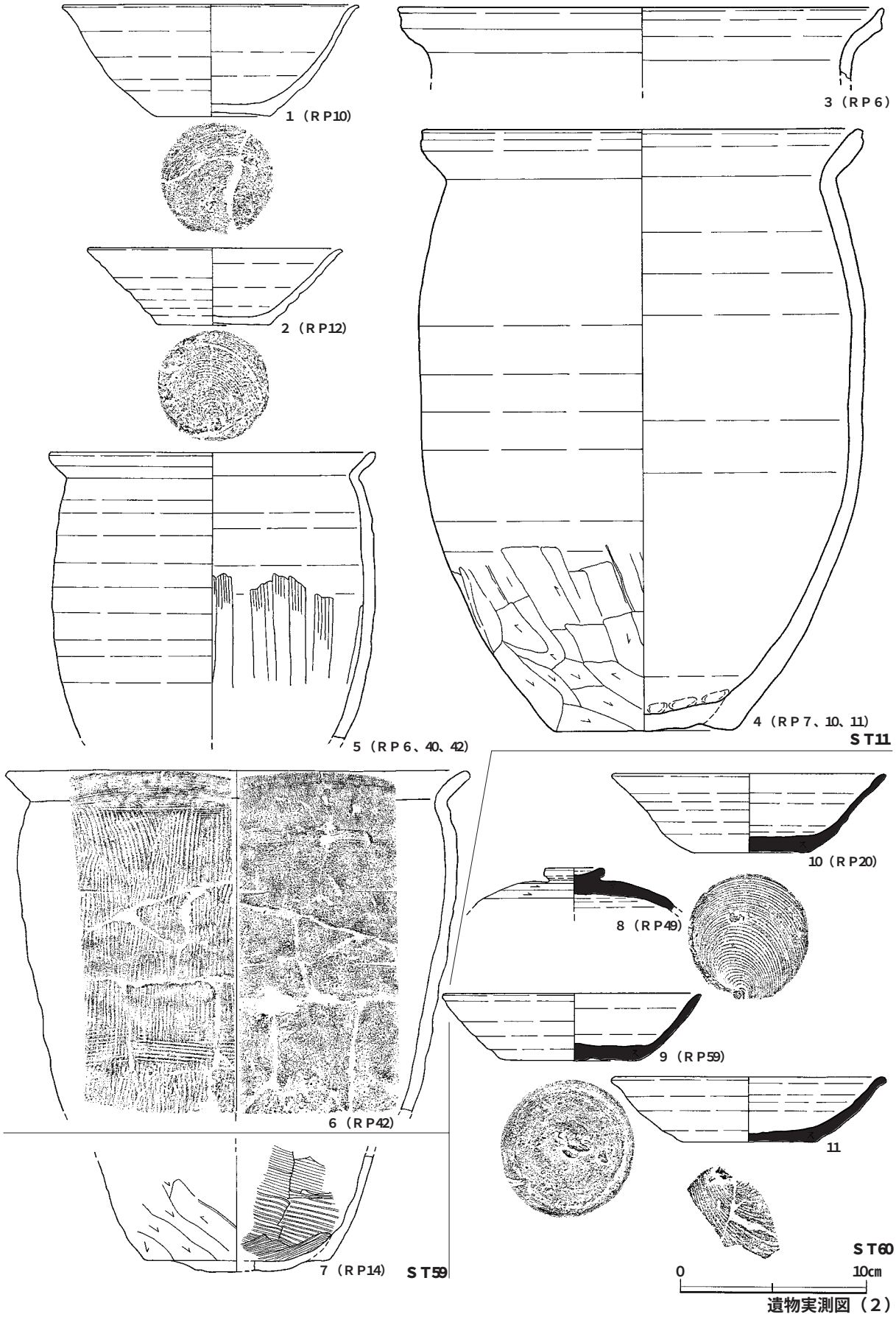
SP589　A～A'（S～N）
1　10YR3/2黒褐色シルト、10YR3/3暗褐色砂質シルトの小粒を含む。
2　10YR3/2黒褐色シルト。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト。
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト、10YR4/4褐色砂質シルトのブロックを含む。

0　（1：40）　2m

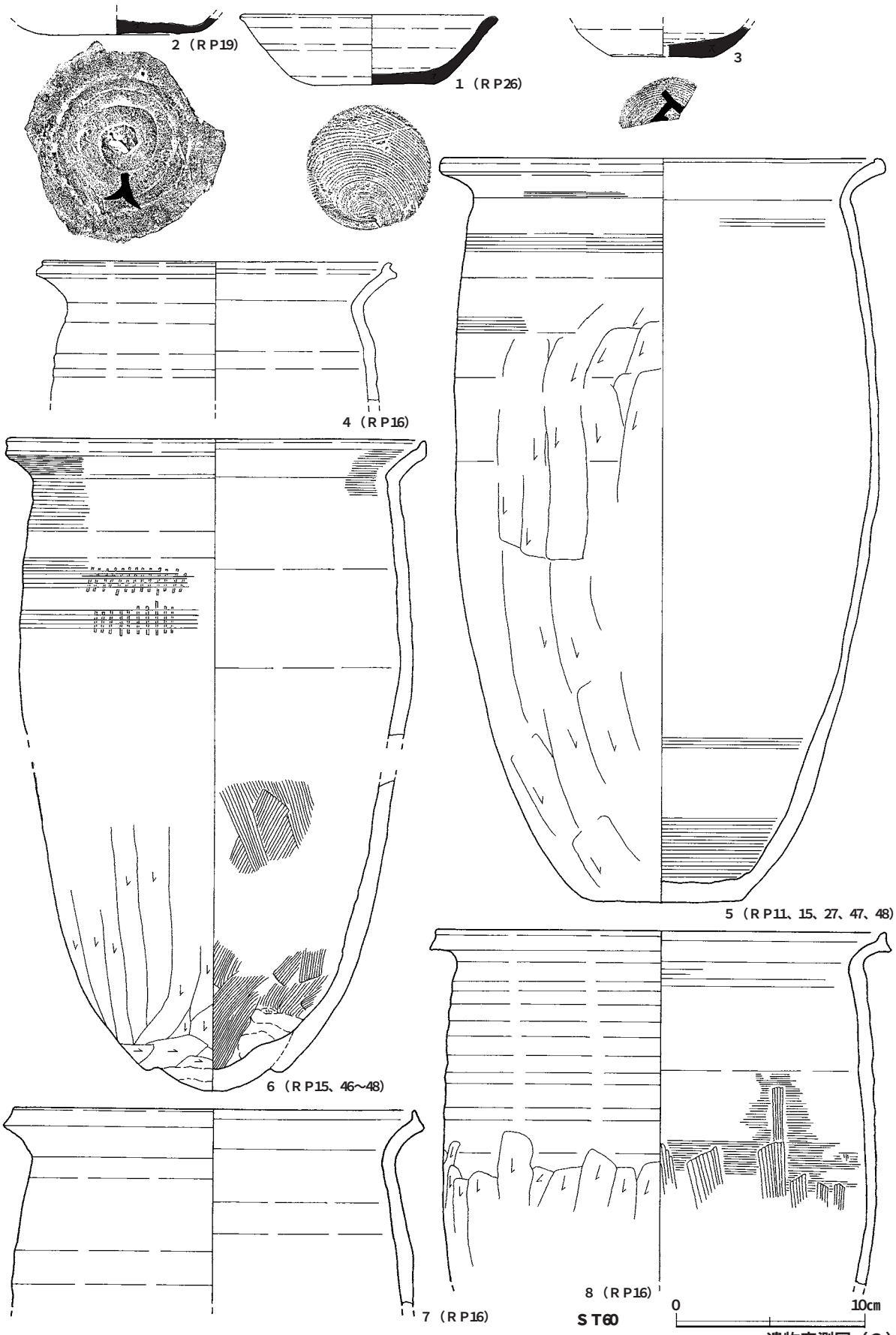
SP400・401・405・414・415・548・549・562・563・577・578・589　柱穴跡　土層断面図



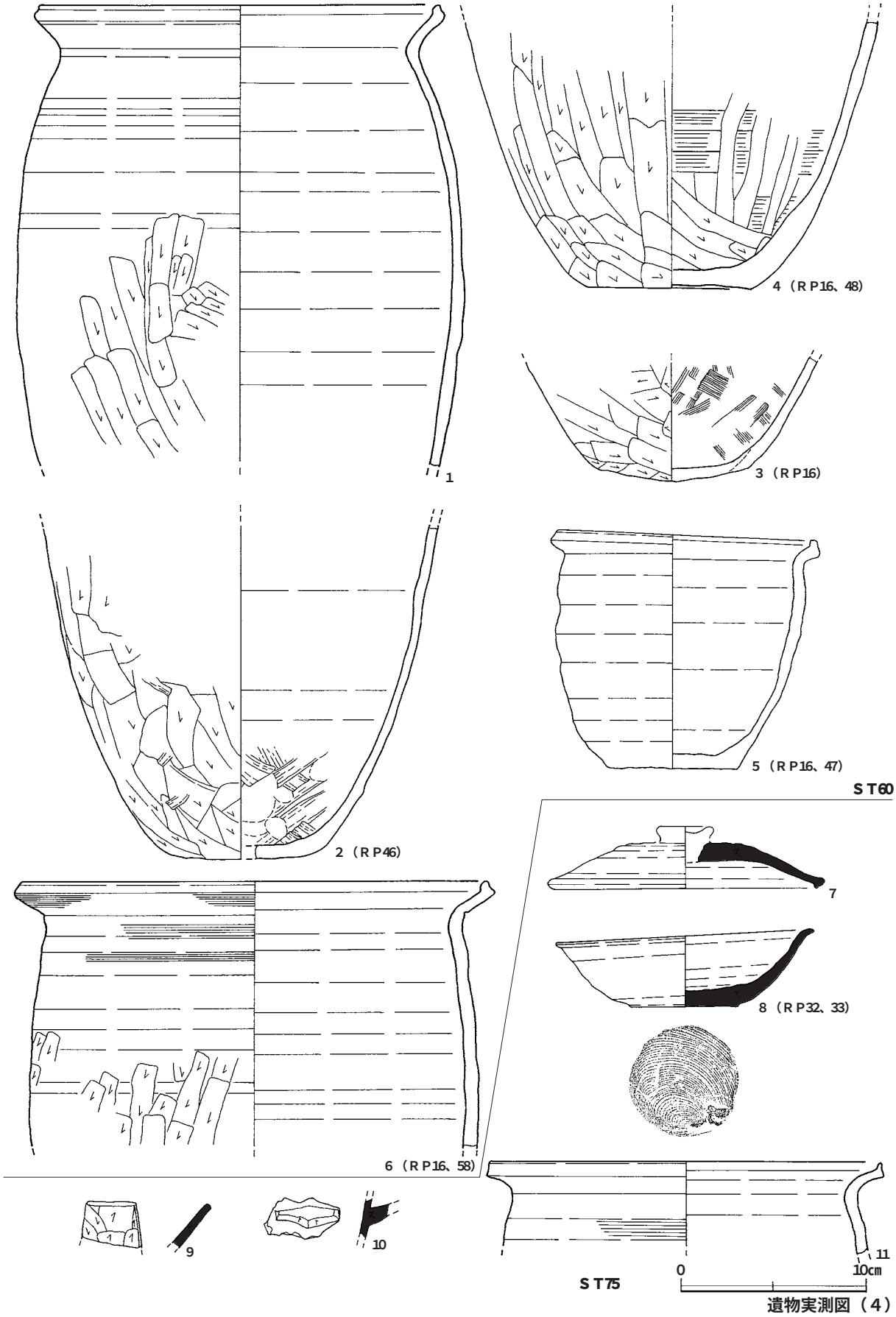
遺物実測図（1）


1（RP10）
2（RP12）
3（RP6）
4（RP7、10、11）
ST11
5（RP6、40、42）
6（RP42）
7（RP14）
ST59
8（RP49）
9（RP59）
10（RP20）
11
ST60
0
10cm

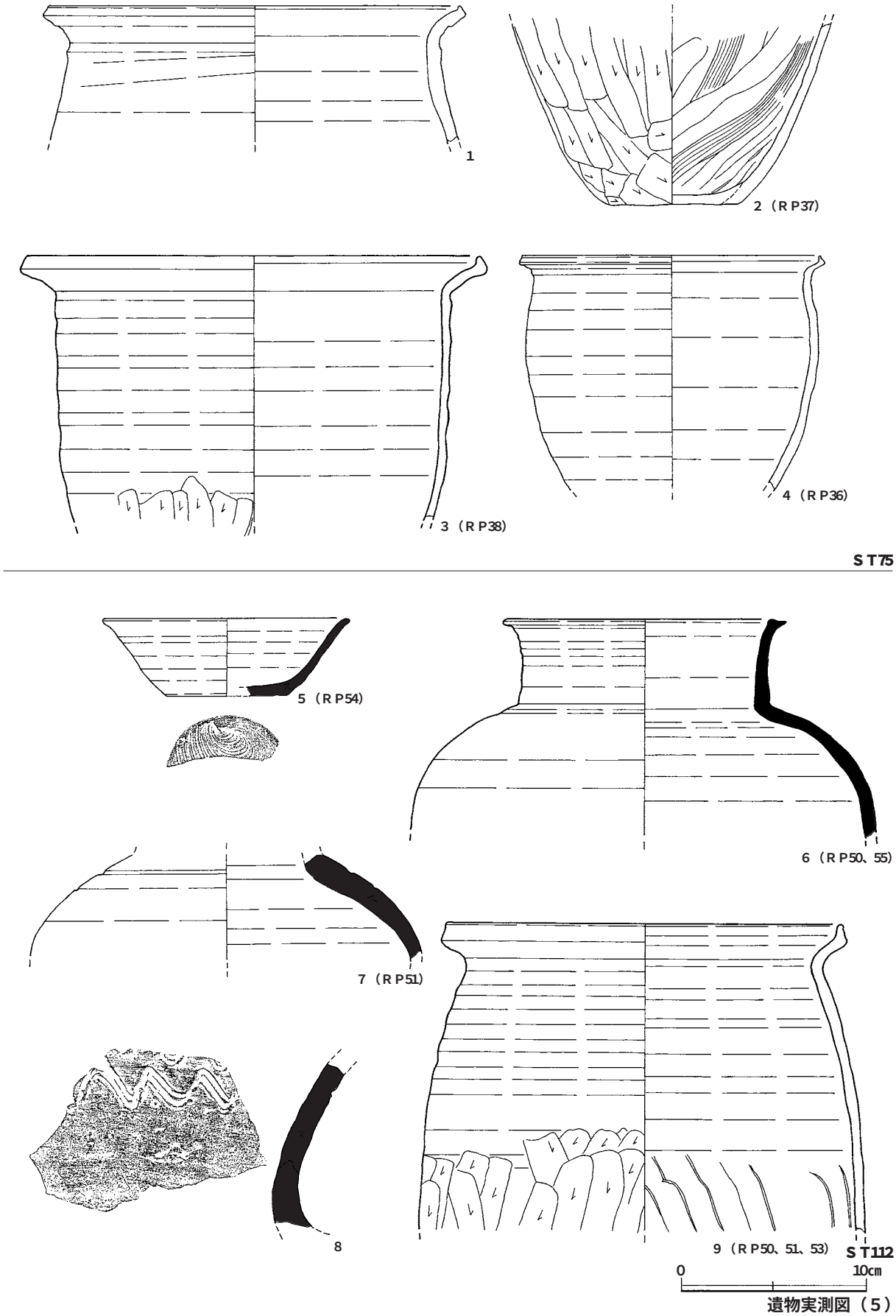
遺物実測図（2）


2（RP19）
1（RP26）
3
4（RP16）
5（RP11、15、27、47、48）
6（RP15、46～48）
7（RP16）
8（RP16）
ST60
0
10cm

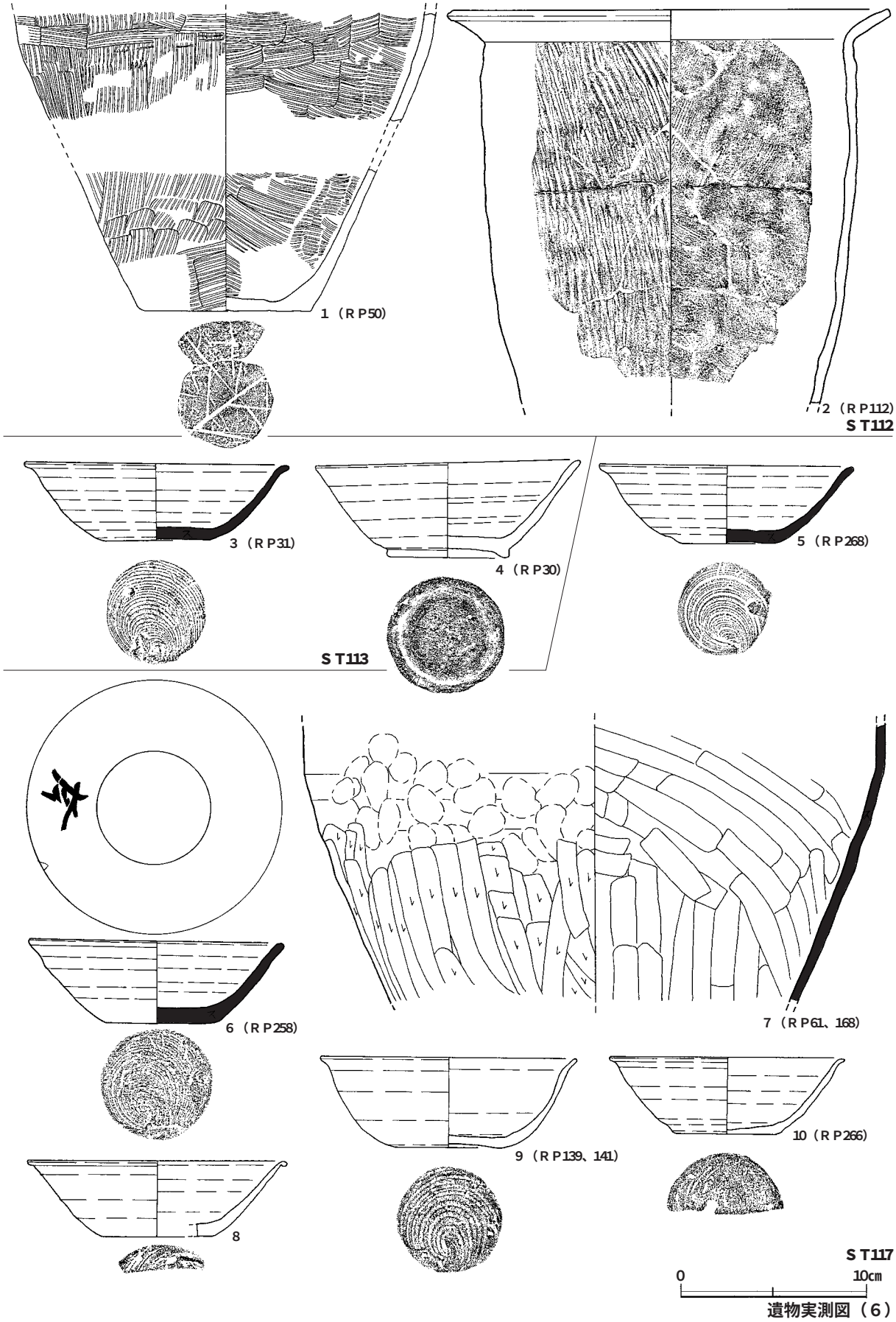
遺物実測図（3）


1
4（RP16、48）
3（RP16）
2（RP46）
5（RP16、47）
ST60
7
8（RP32、33）
6（RP16、58）
9
10
11
ST75
0
10cm

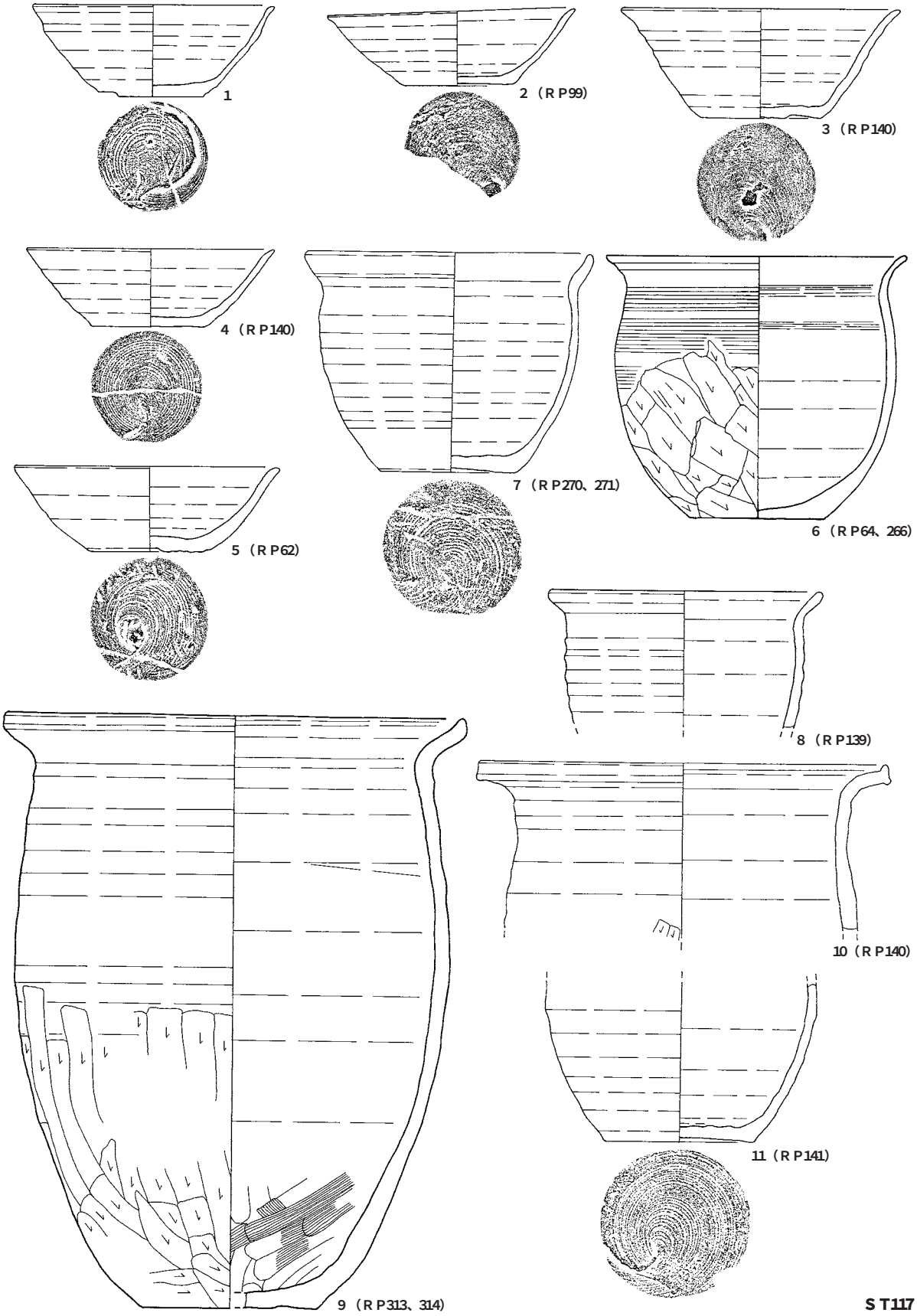
遺物実測図（4）


1
2（RP37）
3（RP38）
4（RP36）
ST75
5（RP54）
6（RP50、55）
7（RP51）
8
9（RP50、51、53）
ST112
0
10cm

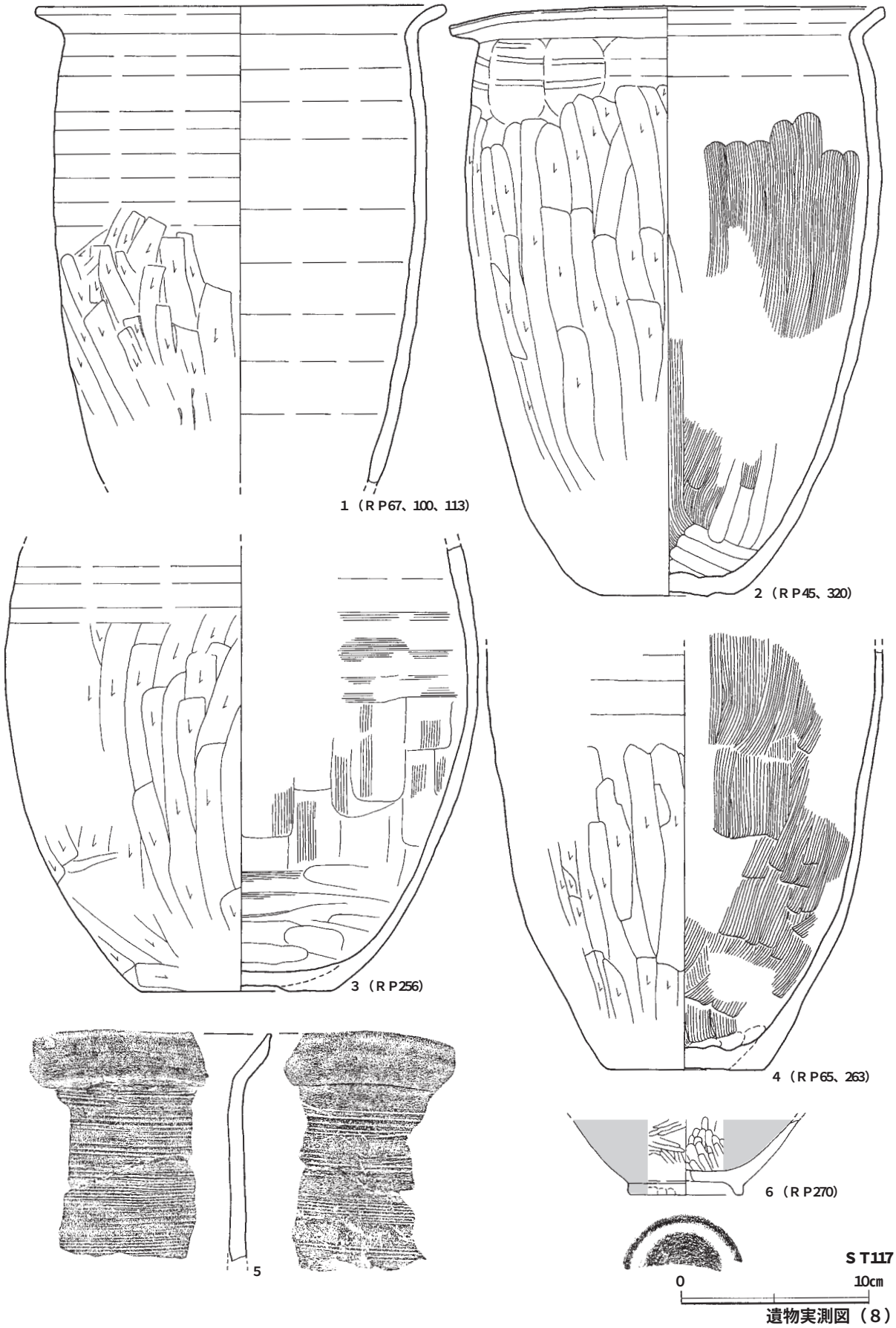
遺物実測図（5）


1（RP50）
2（RP112）
ST112
3（RP31）
4（RP30）
5（RP268）
ST113
6（RP258）
7（RP61、168）
8
9（RP139、141）
10（RP266）
ST117
0
10cm

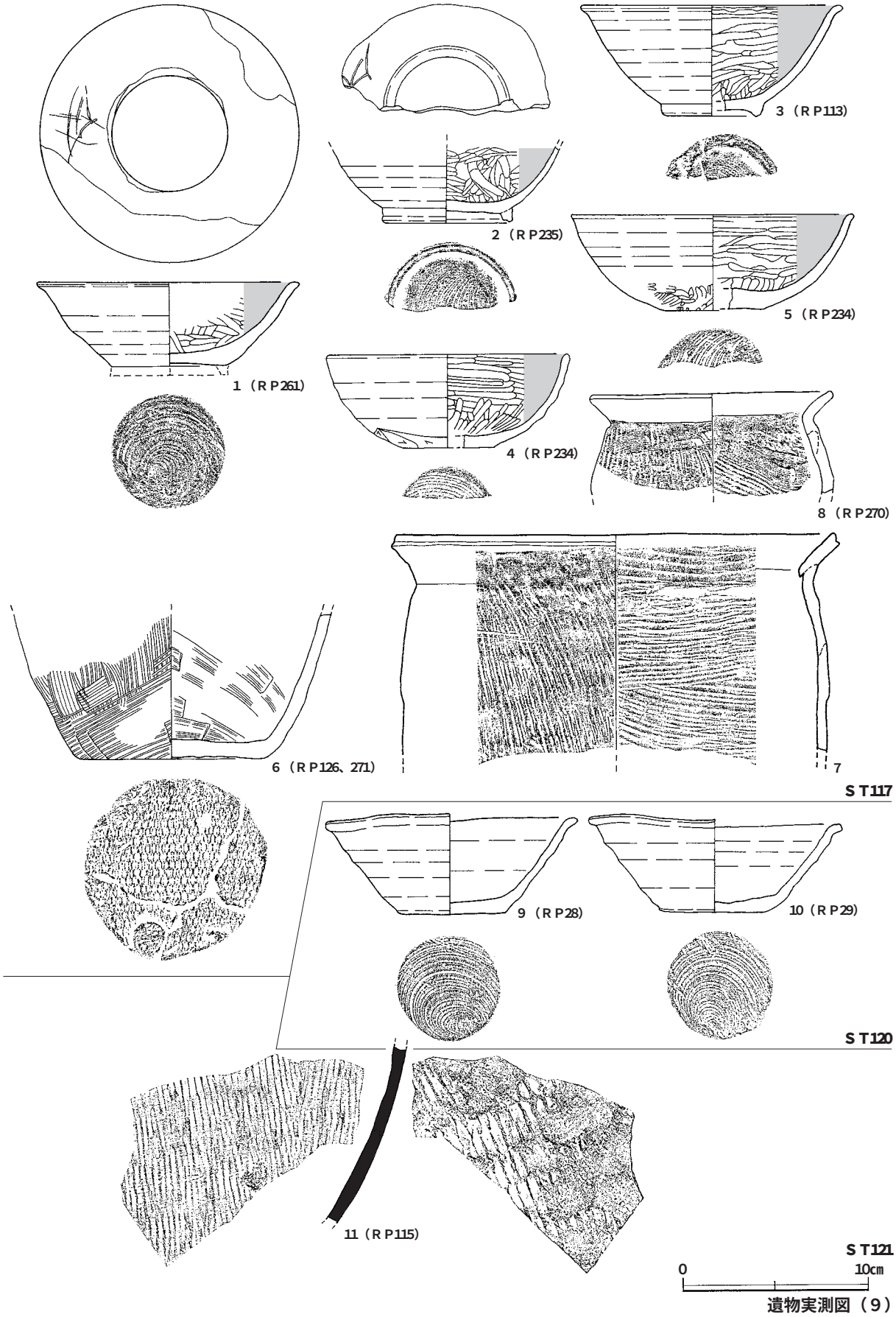
遺物実測図（6）


1
2（RP99）
3（RP140）
4（RP140）
5（RP62）
6（RP64、266）
7（RP270、271）
8（RP139）
9（RP313、314）
10（RP140）
11（RP141）
ST117
0
10cm

遺物実測図（7）

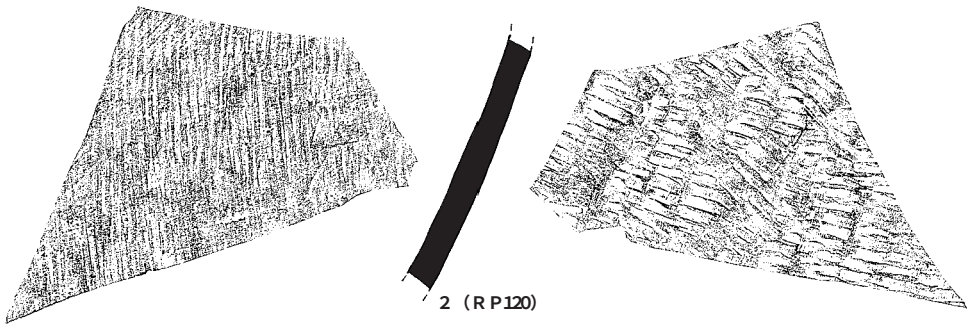

1（RP67、100、113）
2（RP45、320）
3（RP256）
4（RP65、263）
5
6（RP270）
ST117
0
10cm

遺物実測図（8）


3（RP113）
2（RP235）
5（RP234）
1（RP261）
4（RP234）
8（RP270）
6（RP126、271）
7
ST117
9（RP28）
10（RP29）
ST120
11（RP115）
ST121
0
10cm

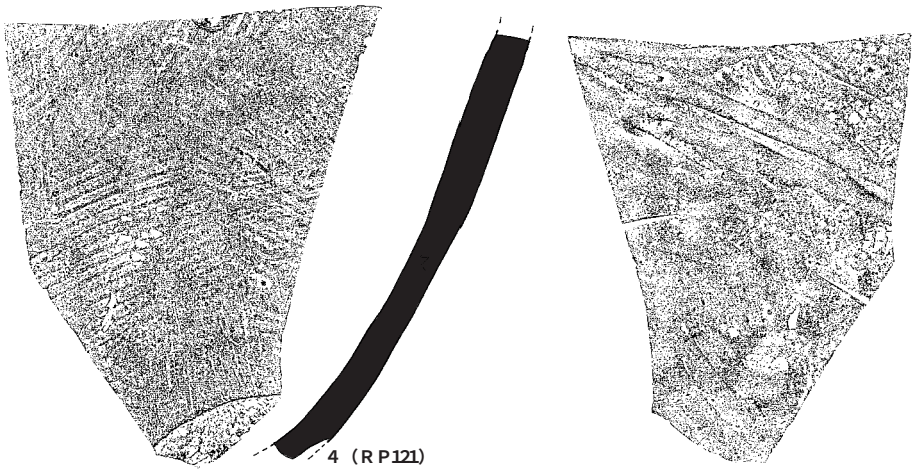
遺物実測図（9）

1（RP105、116）



2（RP120）

3（RP120）

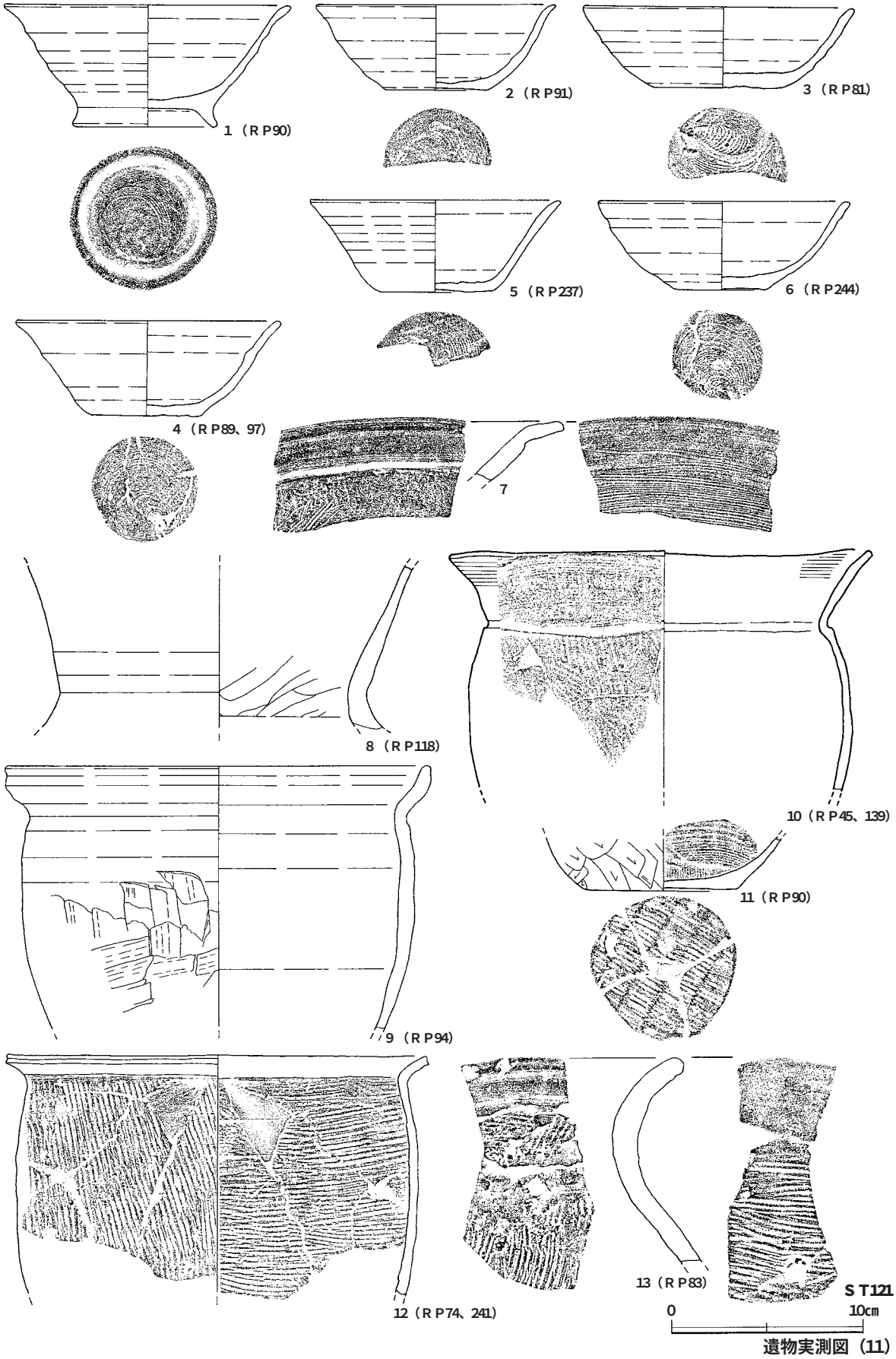


4（RP121）

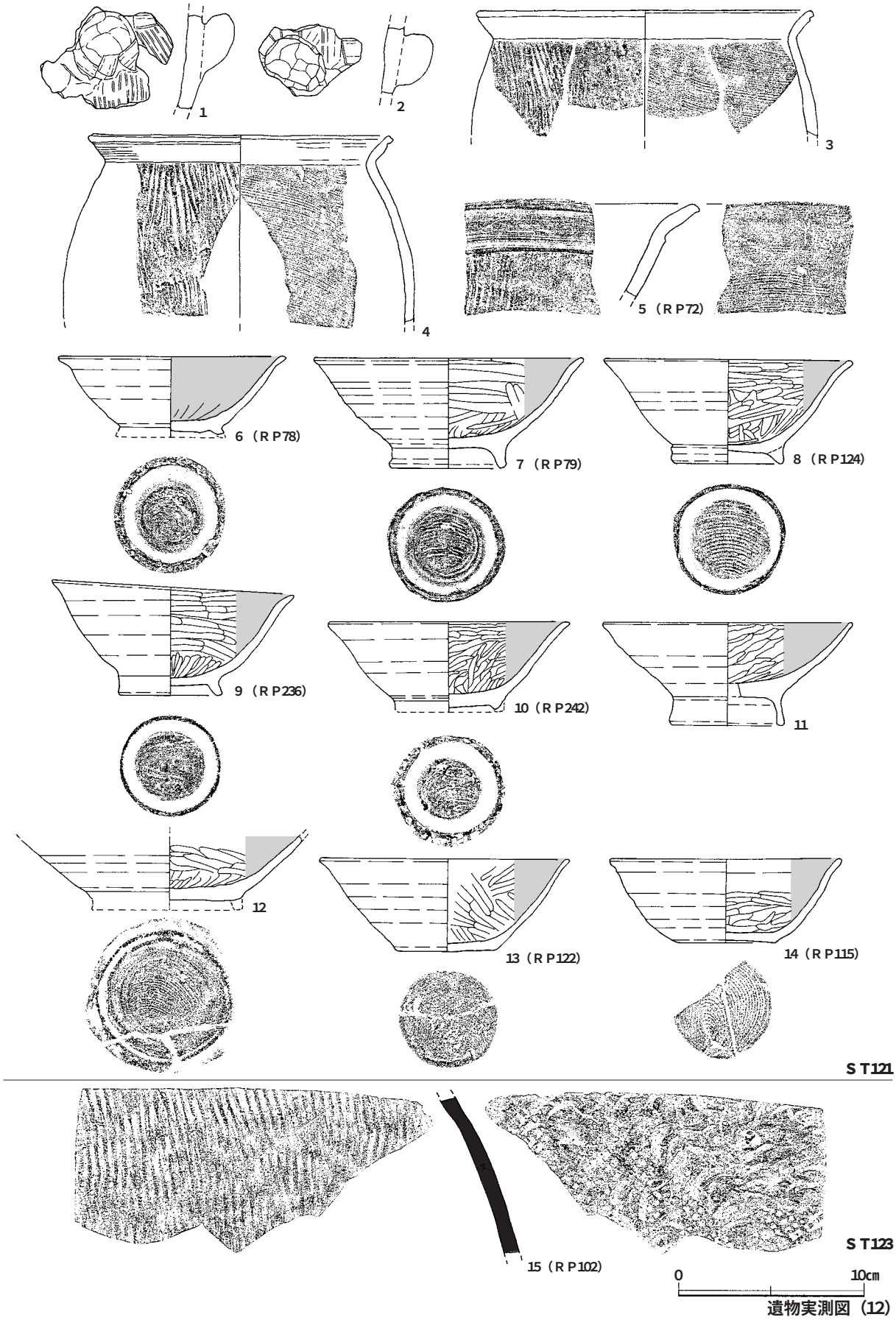
ST121

0　10cm

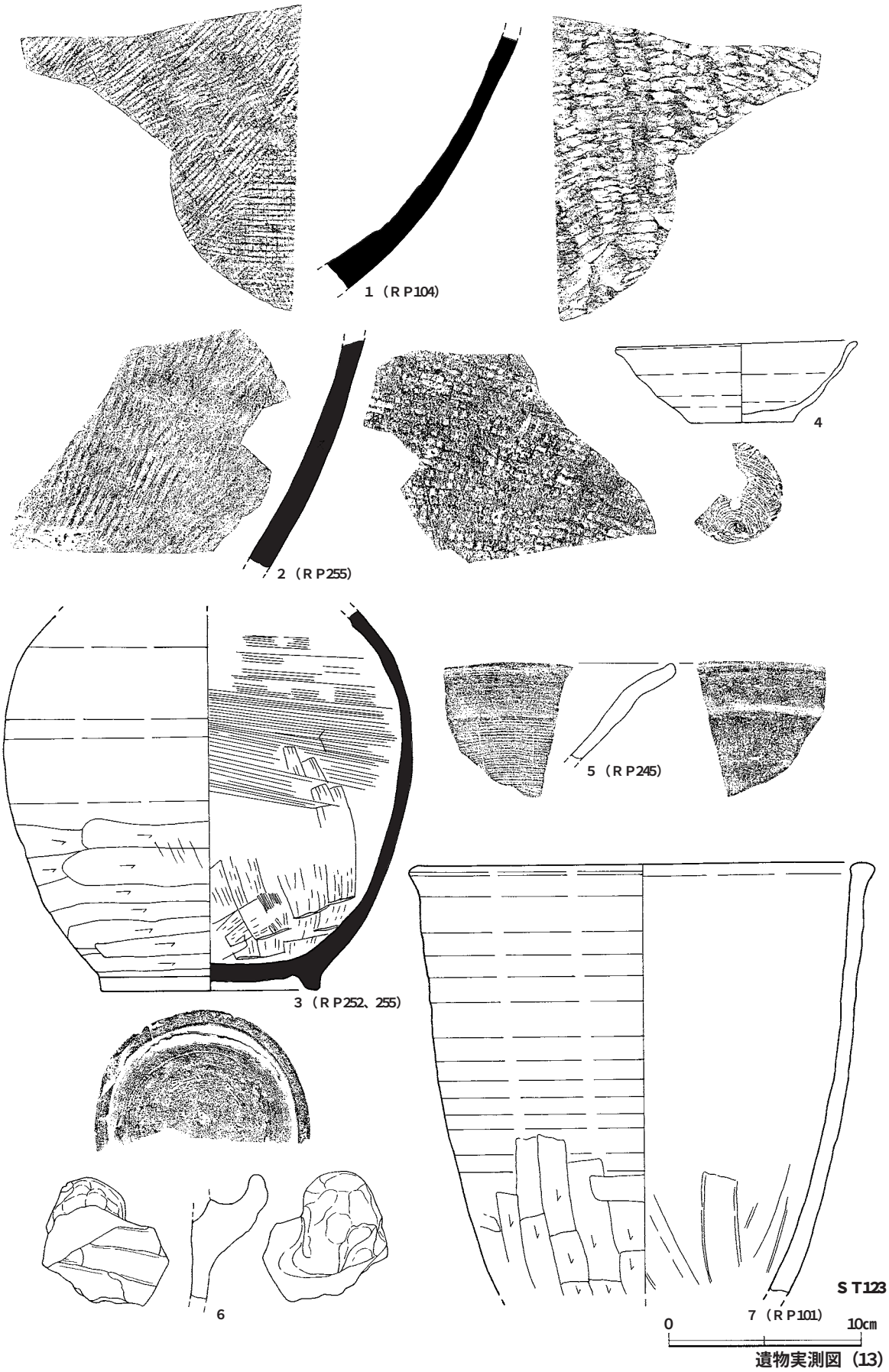
遺物実測図（10）


1（RP90）
2（RP91）
3（RP81）
5（RP237）
6（RP244）
4（RP89、97）
7
8（RP118）
10（RP45、139）
11（RP90）
9（RP94）
12（RP74、241）
13（RP83）
ST121
0
10cm

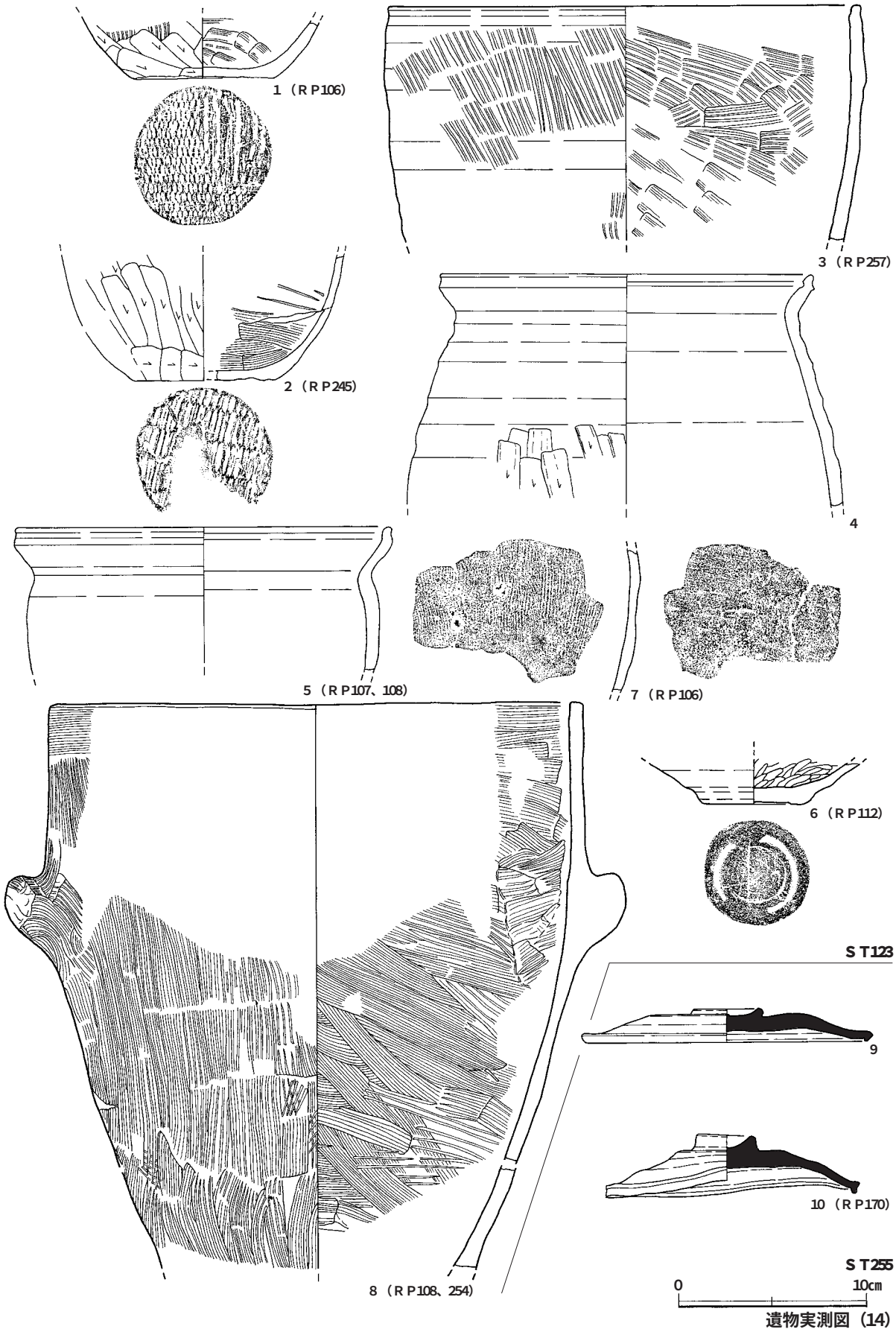
遺物実測図（11）


1
2
3
4
5（RP72）
6（RP78）
7（RP79）
8（RP124）
9（RP236）
10（RP242）
11
12
13（RP122）
14（RP115）
ST121
15（RP102）
ST123
0
10cm

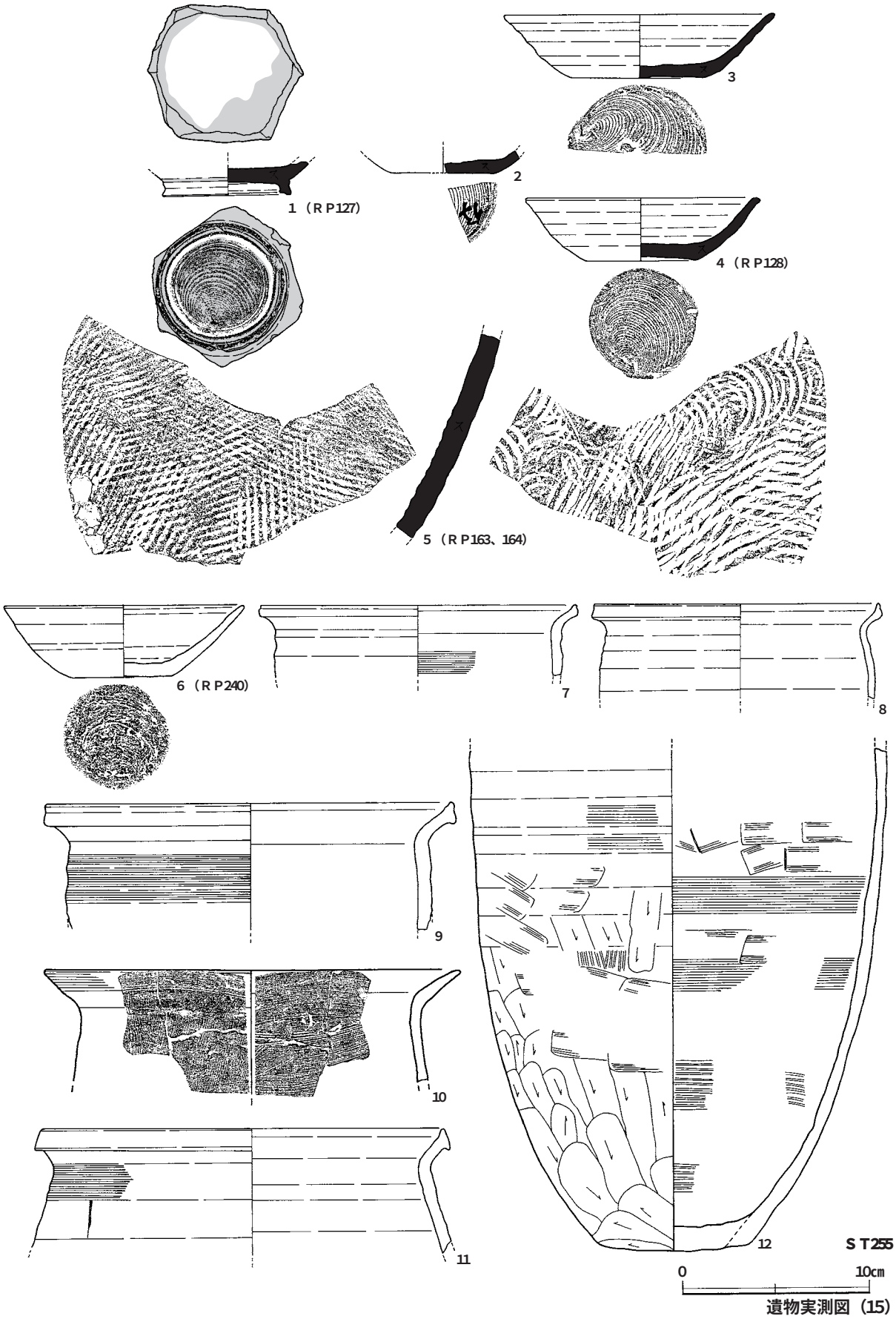
遺物実測図（12）



遺物実測図（13）

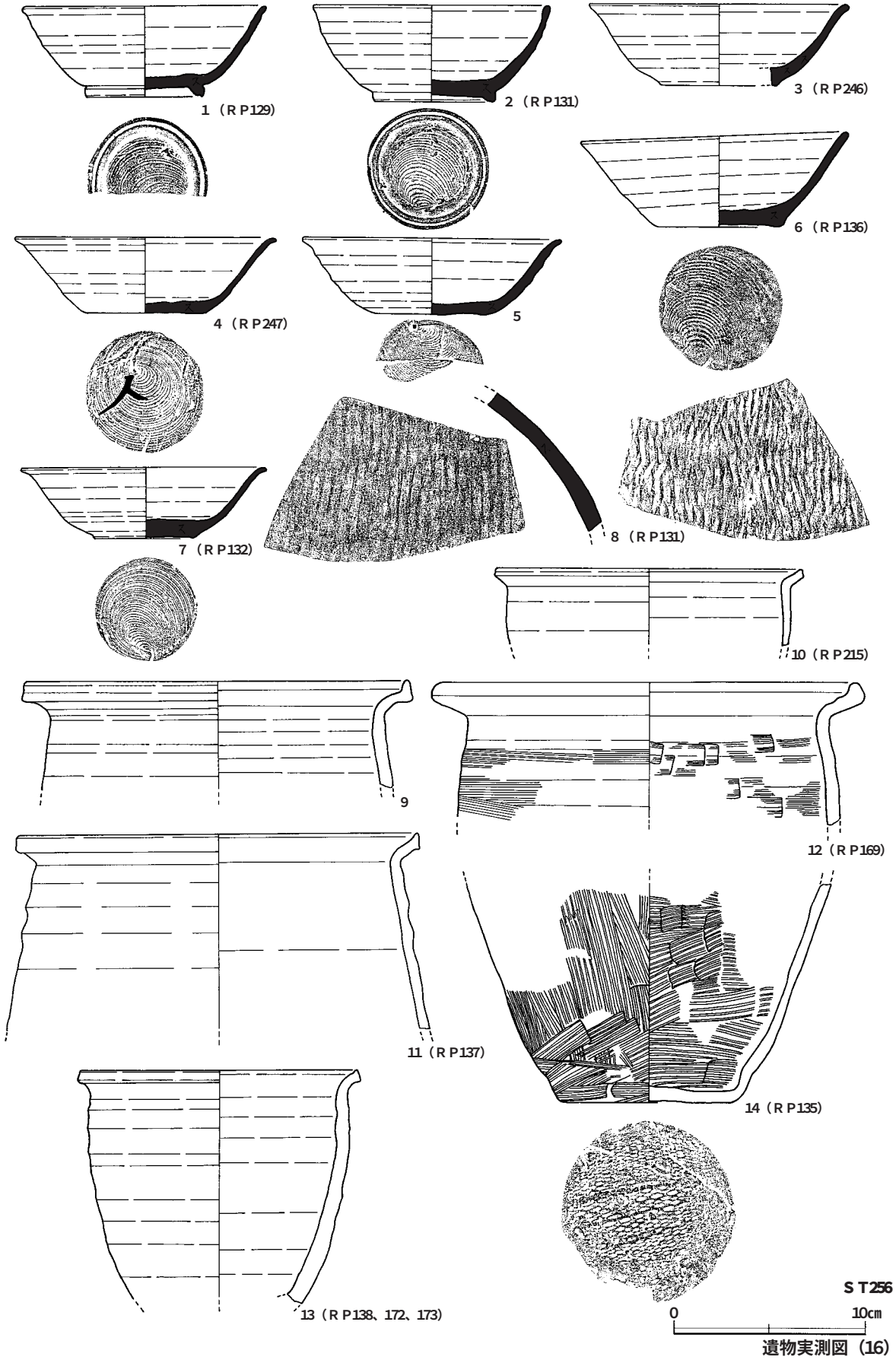

1（RP106）
2（RP245）
3（RP257）
4
5（RP107、108）
6（RP112）
7（RP106）
8（RP108、254）
ST123
9
10（RP170）
ST255
0
10cm

遺物実測図（14）

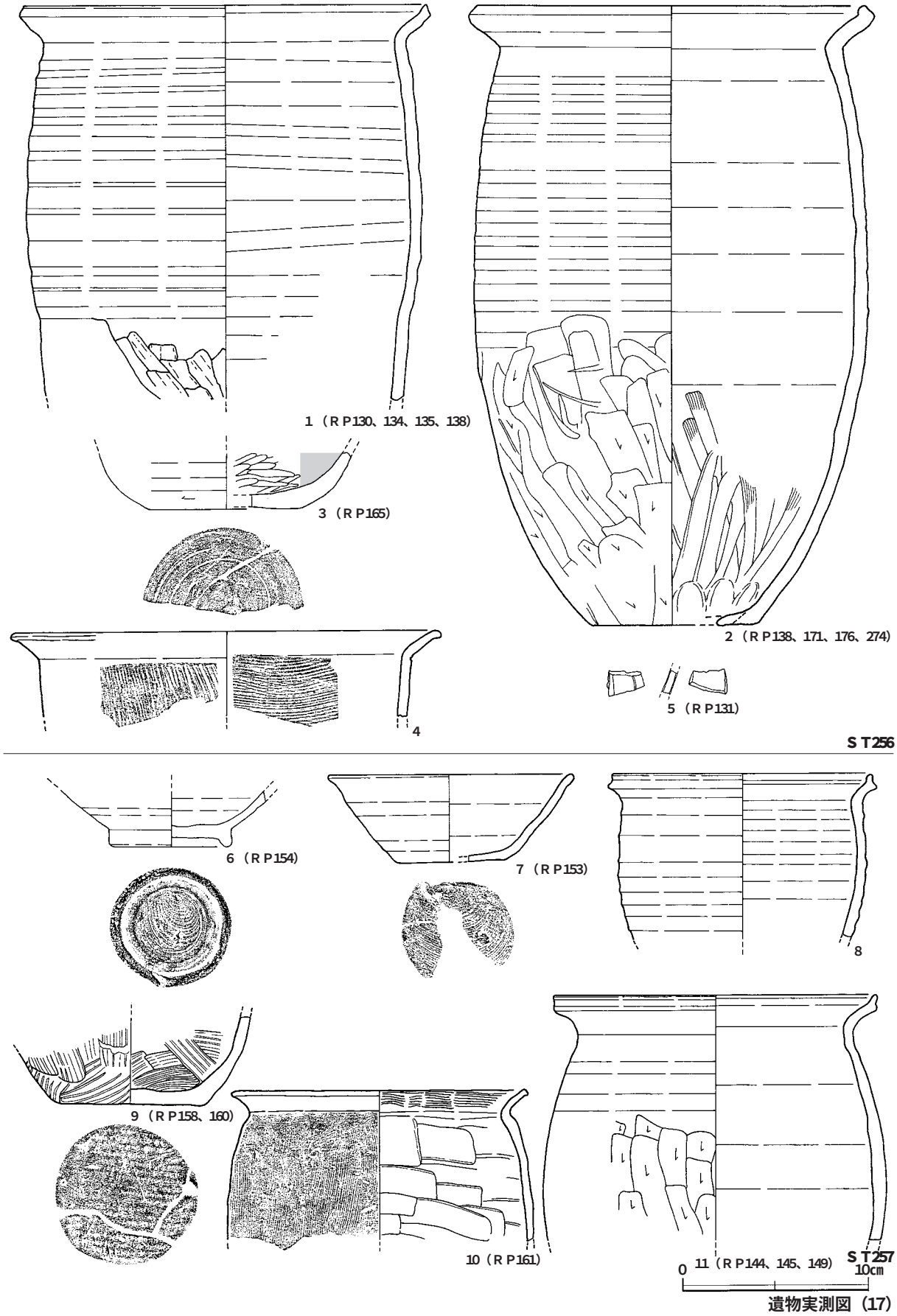


遺物実測図（15）

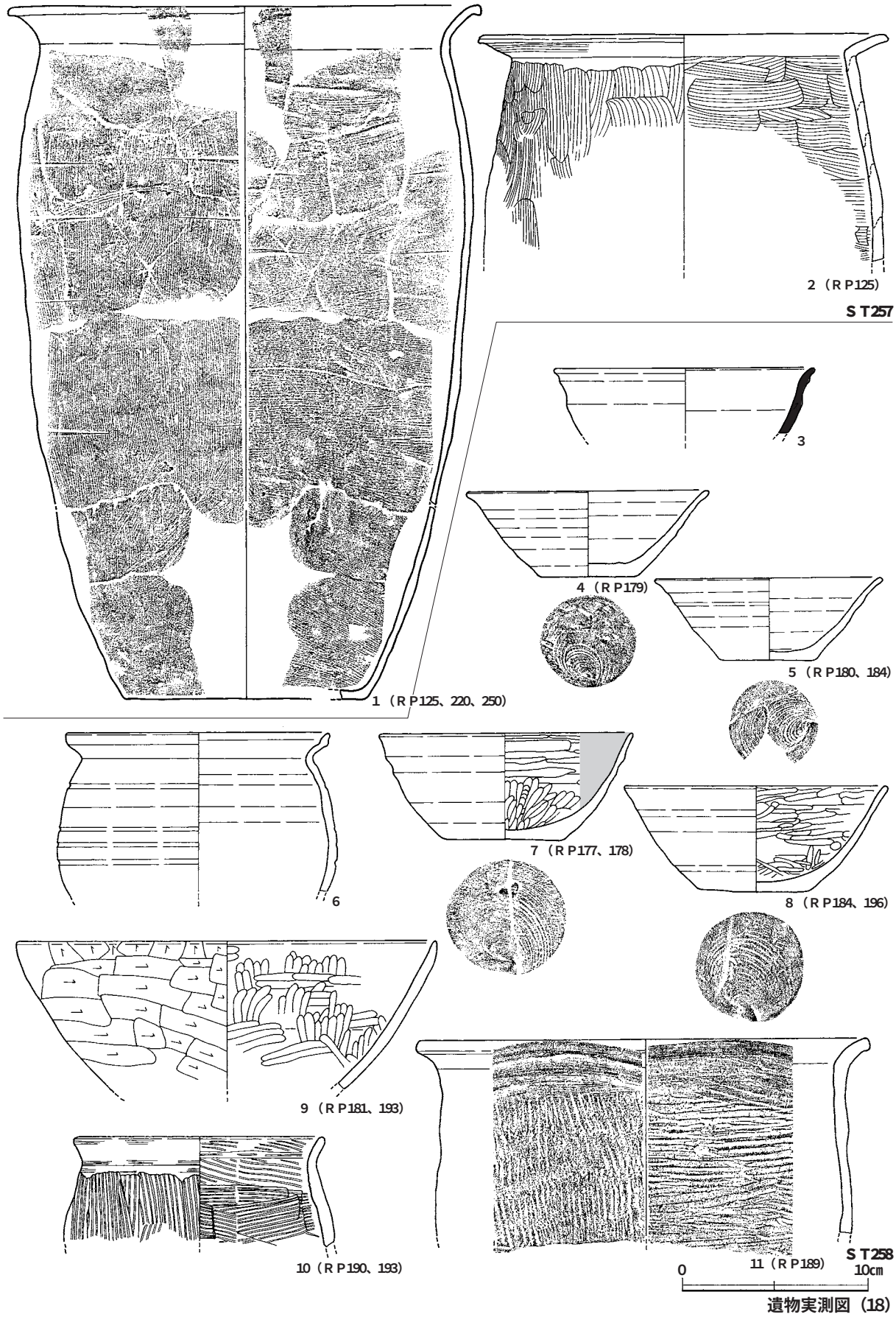
図版94


1（RP129）
2（RP131）
3（RP246）
6（RP136）
4（RP247）
5
7（RP132）
8（RP131）
10（RP215）
9
12（RP169）
11（RP137）
14（RP135）
13（RP138、172、173）
ST256
0
10cm

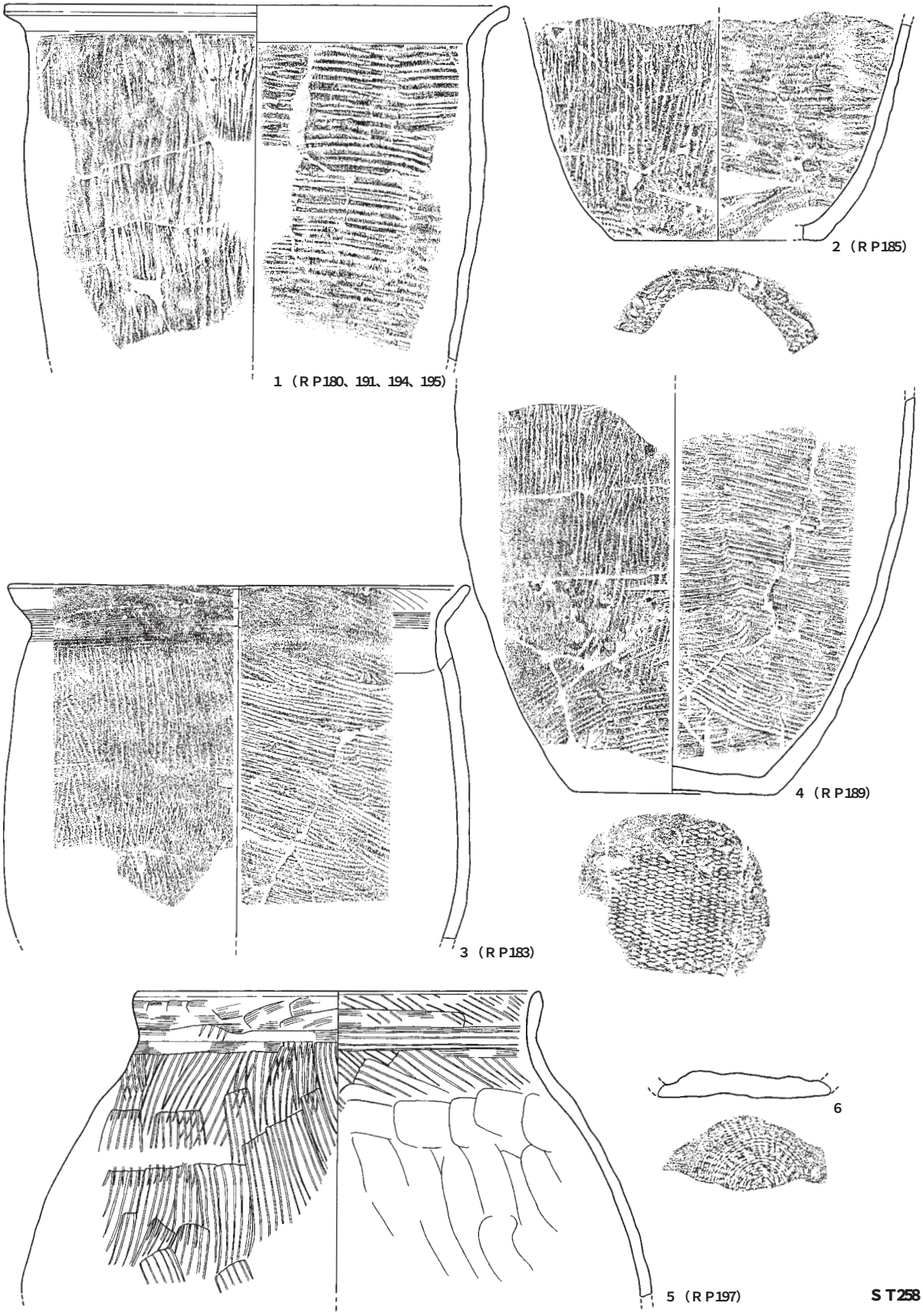
遺物実測図（16）


1（RP130、134、135、138）
2（RP138、171、176、274）
3（RP165）
4
5（RP131）
ST256
6（RP154）
7（RP153）
8
9（RP158、160）
10（RP161）
11（RP144、145、149）
ST257
0
10cm

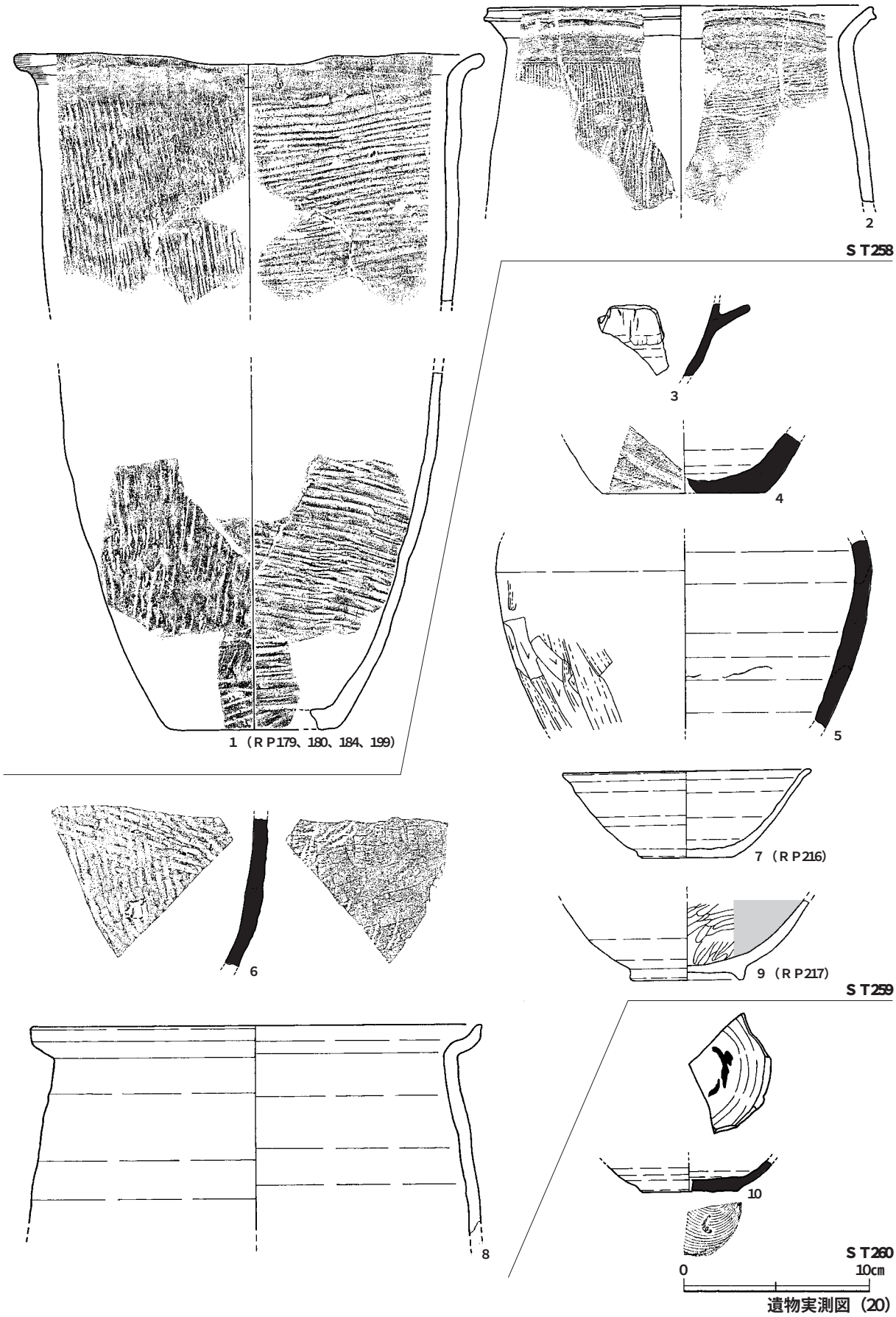
遺物実測図（17）


1（RP125、220、250）
2（RP125）
ST257
3
4（RP179）
5（RP180、184）
6
7（RP177、178）
8（RP184、196）
9（RP181、193）
10（RP190、193）
11（RP189）
ST258
0
10cm

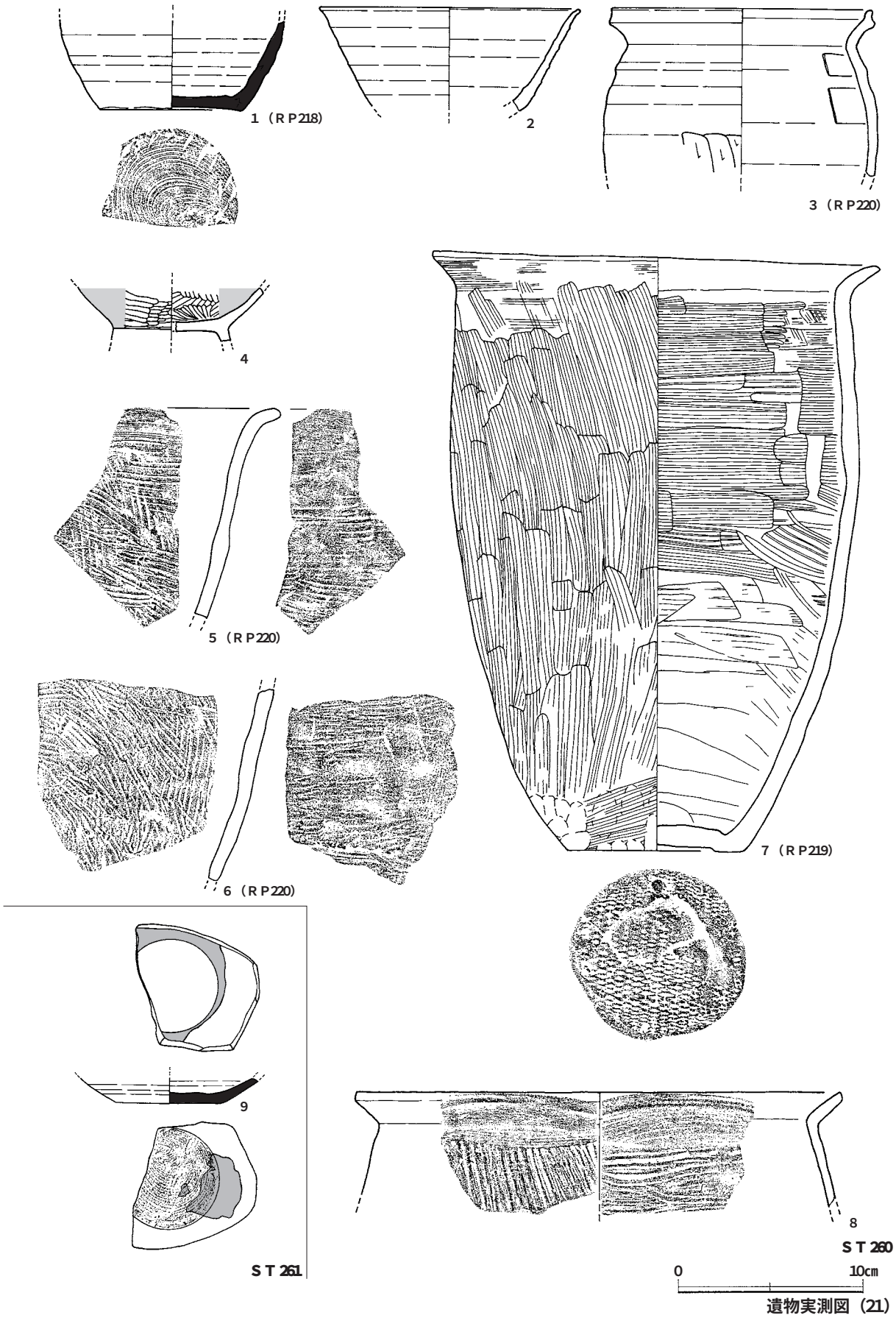
遺物実測図（18）


1（RP180、191、194、195）
2（RP185）
3（RP183）
4（RP189）
5（RP197）
6
ST258
0
10cm

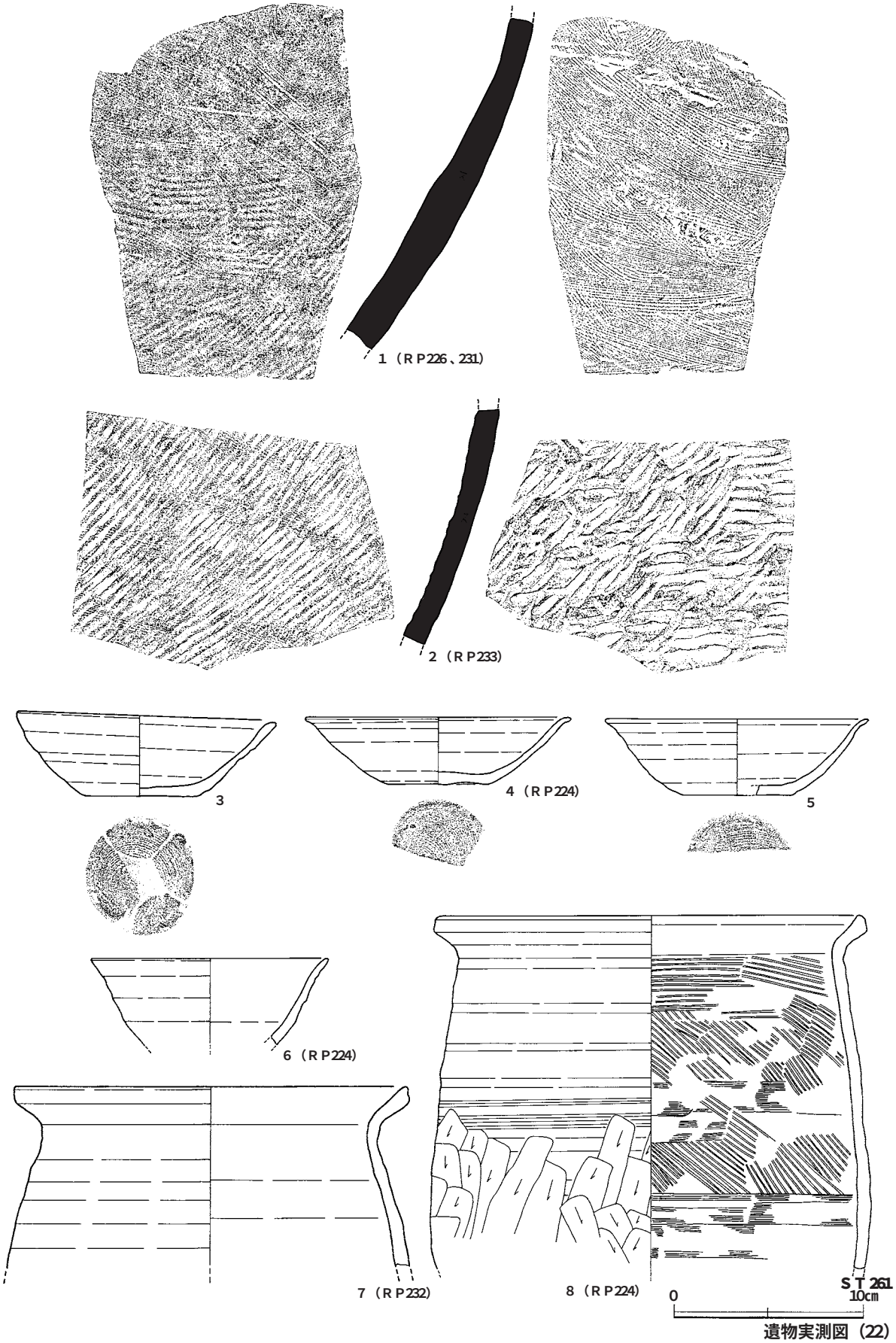
遺物実測図（19）


1（RP179、180、184、199）
2
ST258
3
4
5
6
7（RP216）
9（RP217）
ST259
8
10
ST260
0
10cm

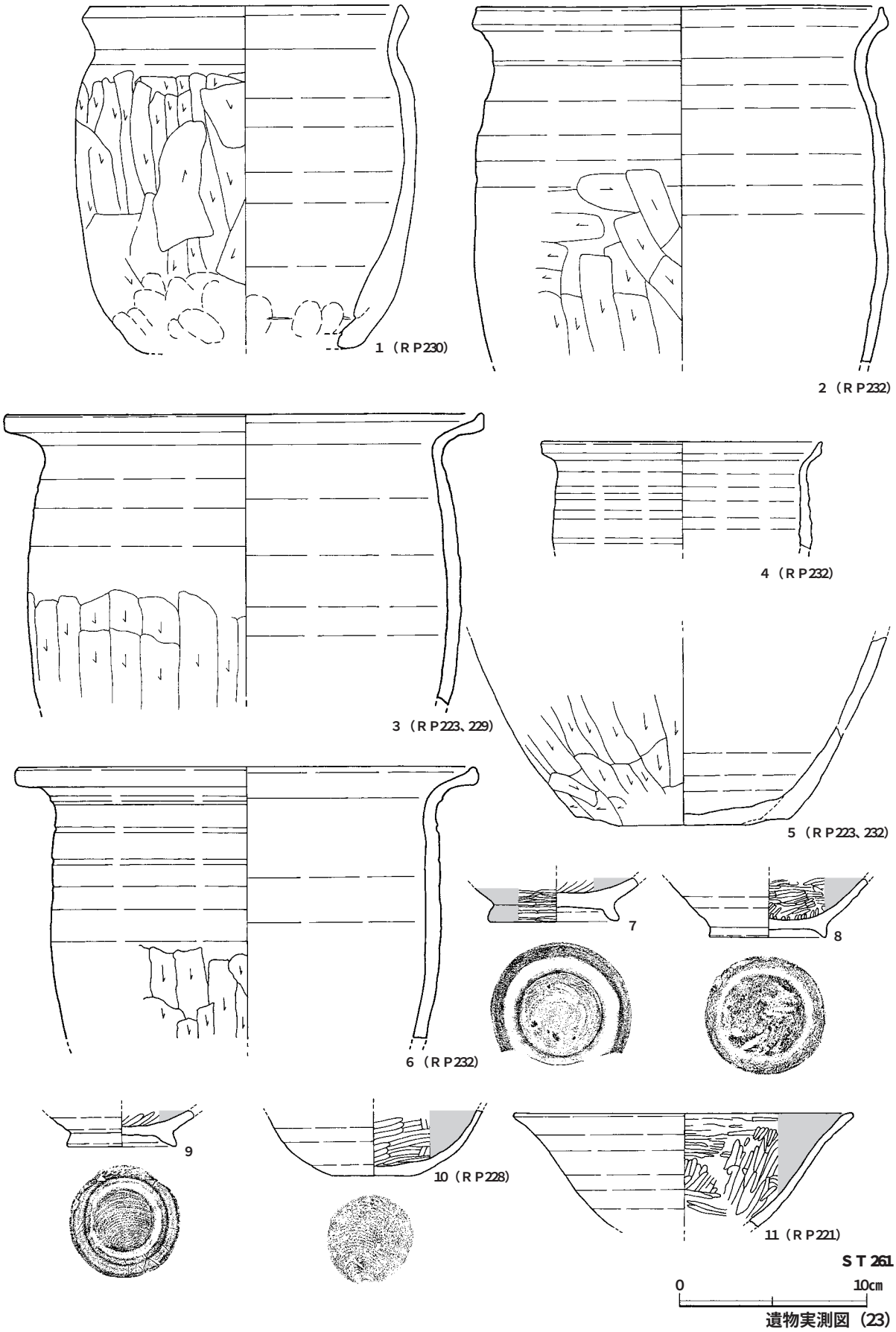
遺物実測図（20）



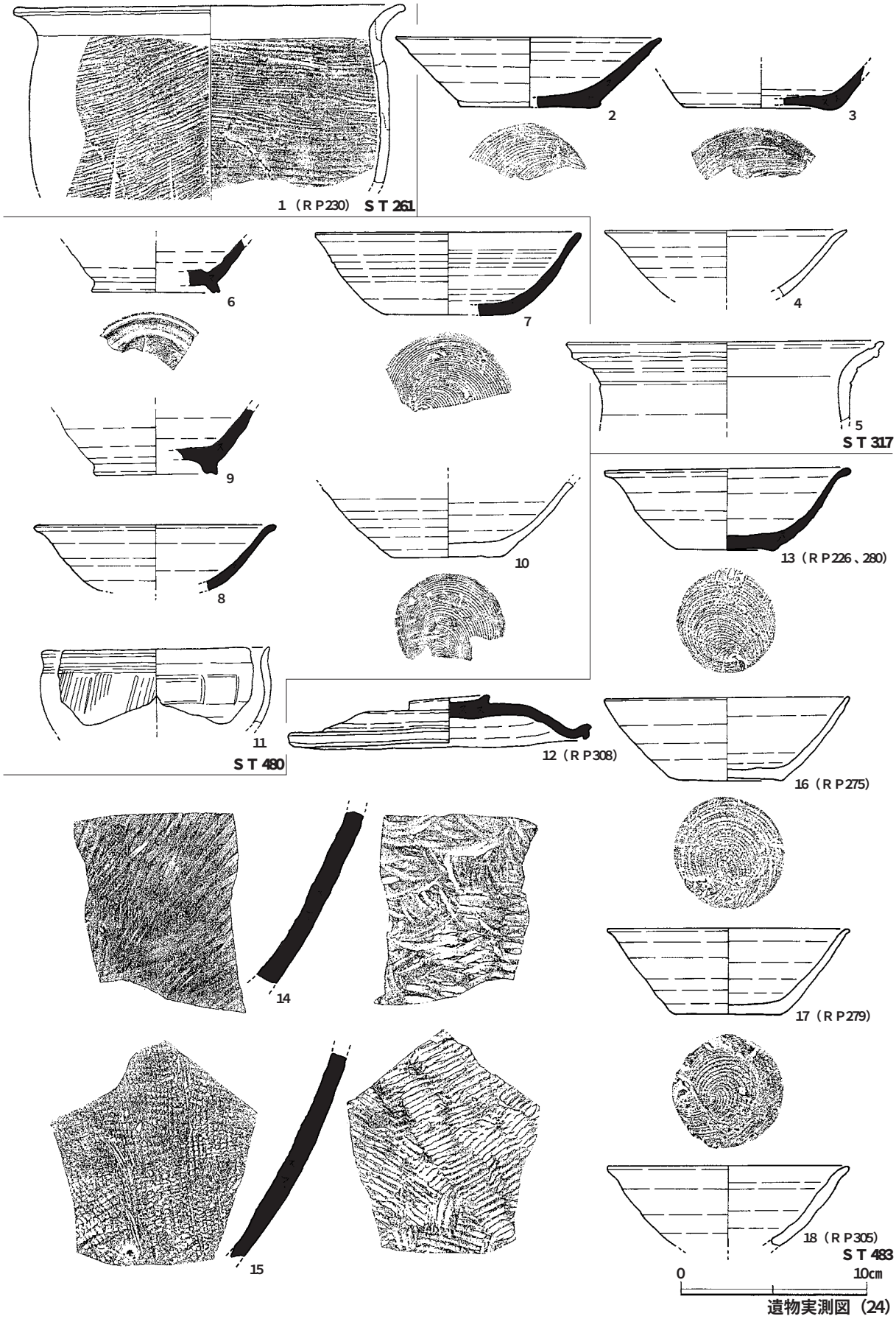
遺物実測図（21）


1（RP226、231）
2（RP233）
3
4（RP224）
5
6（RP224）
7（RP232）
8（RP224）
ST261
0
10cm

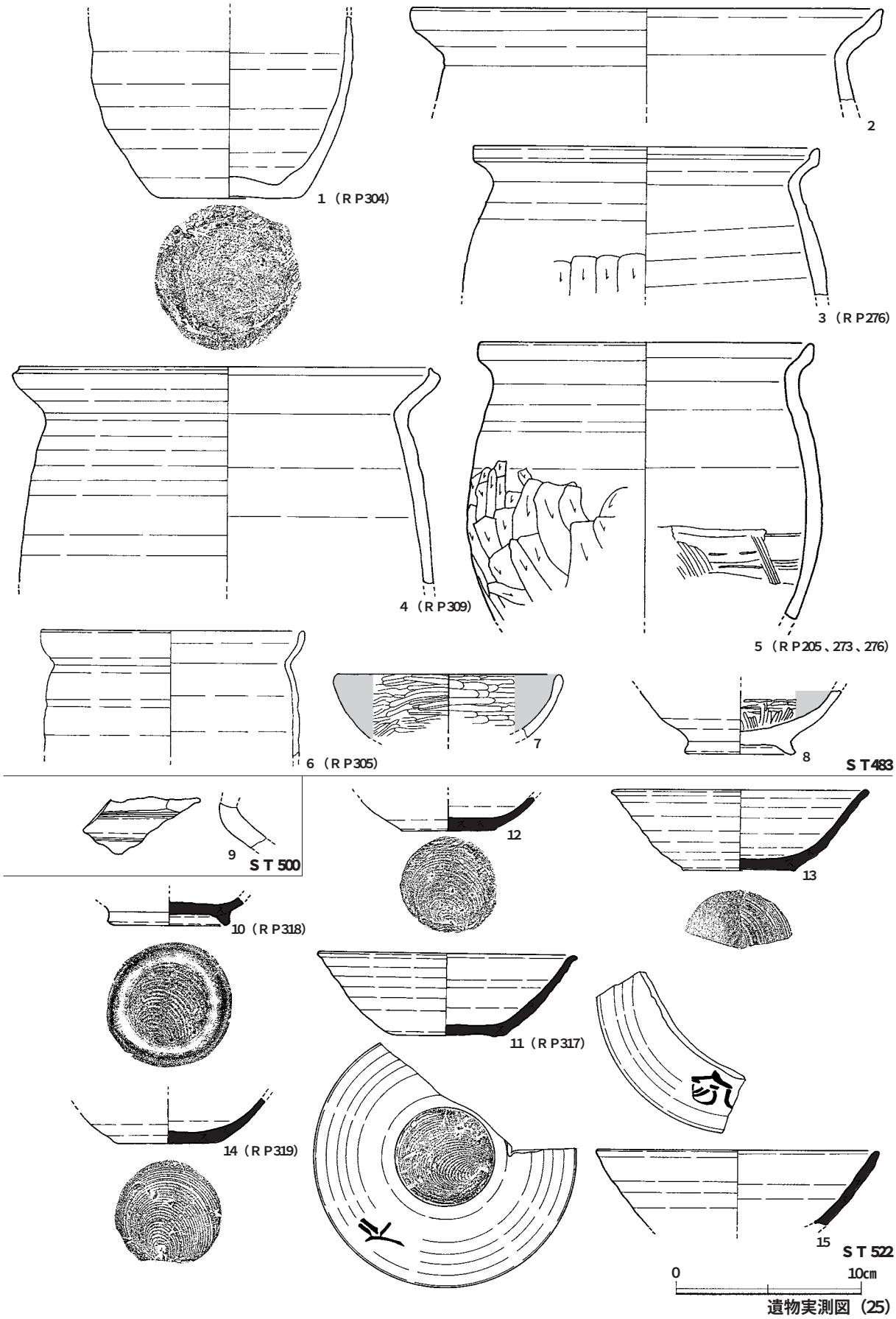
遺物実測図（22）


1（RP230）
2（RP232）
3（RP223、229）
4（RP232）
5（RP223、232）
6（RP232）
7
8
9
10（RP228）
11（RP221）
ST261
0
10cm

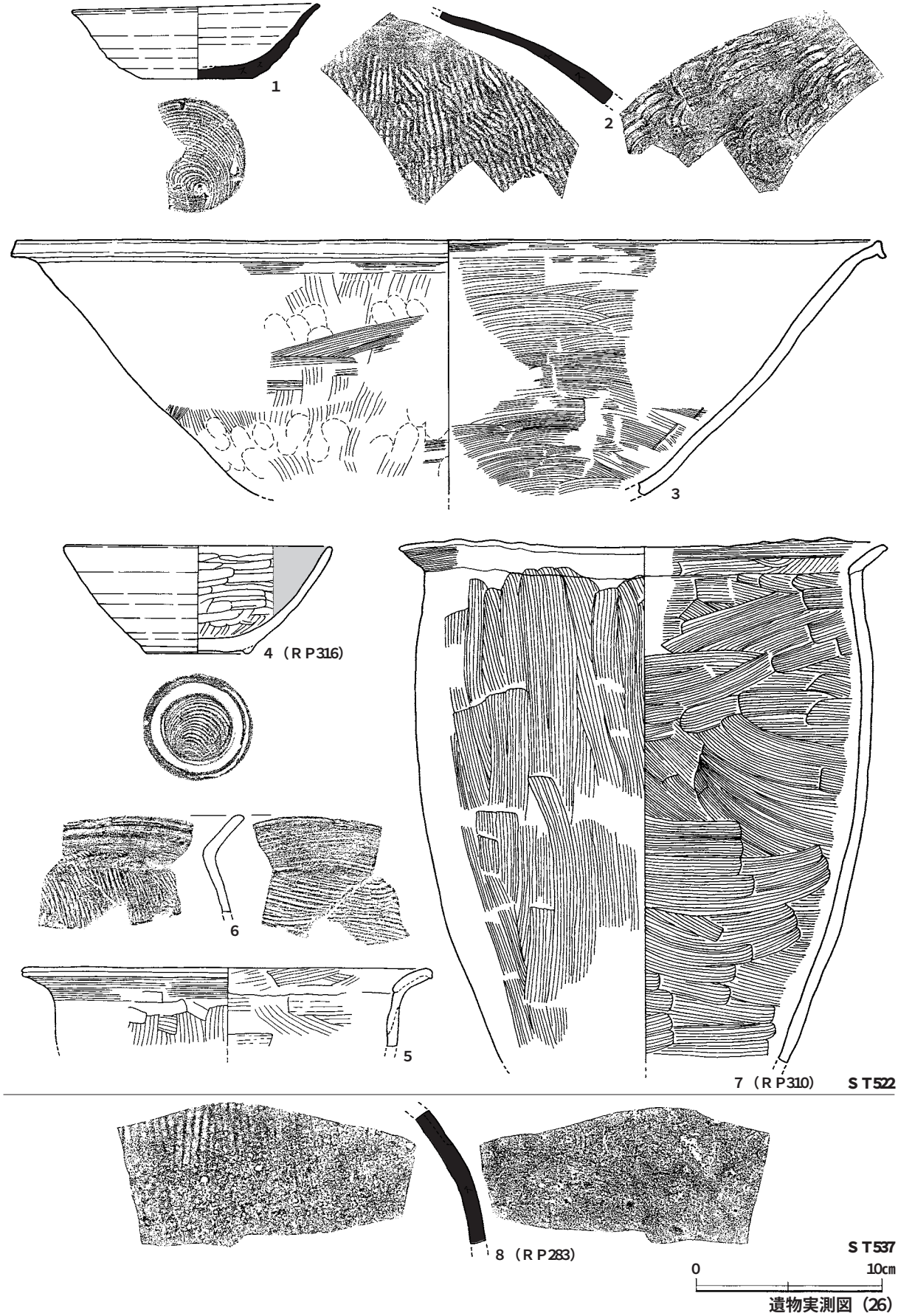
遺物実測図（23）


1（RP230）
ST261
2
3
6
7
4
5
ST317
9
10
13（RP226、280）
8
11
ST480
12（RP308）
16（RP275）
14
17（RP279）
15
18（RP305）
ST483
0
10cm

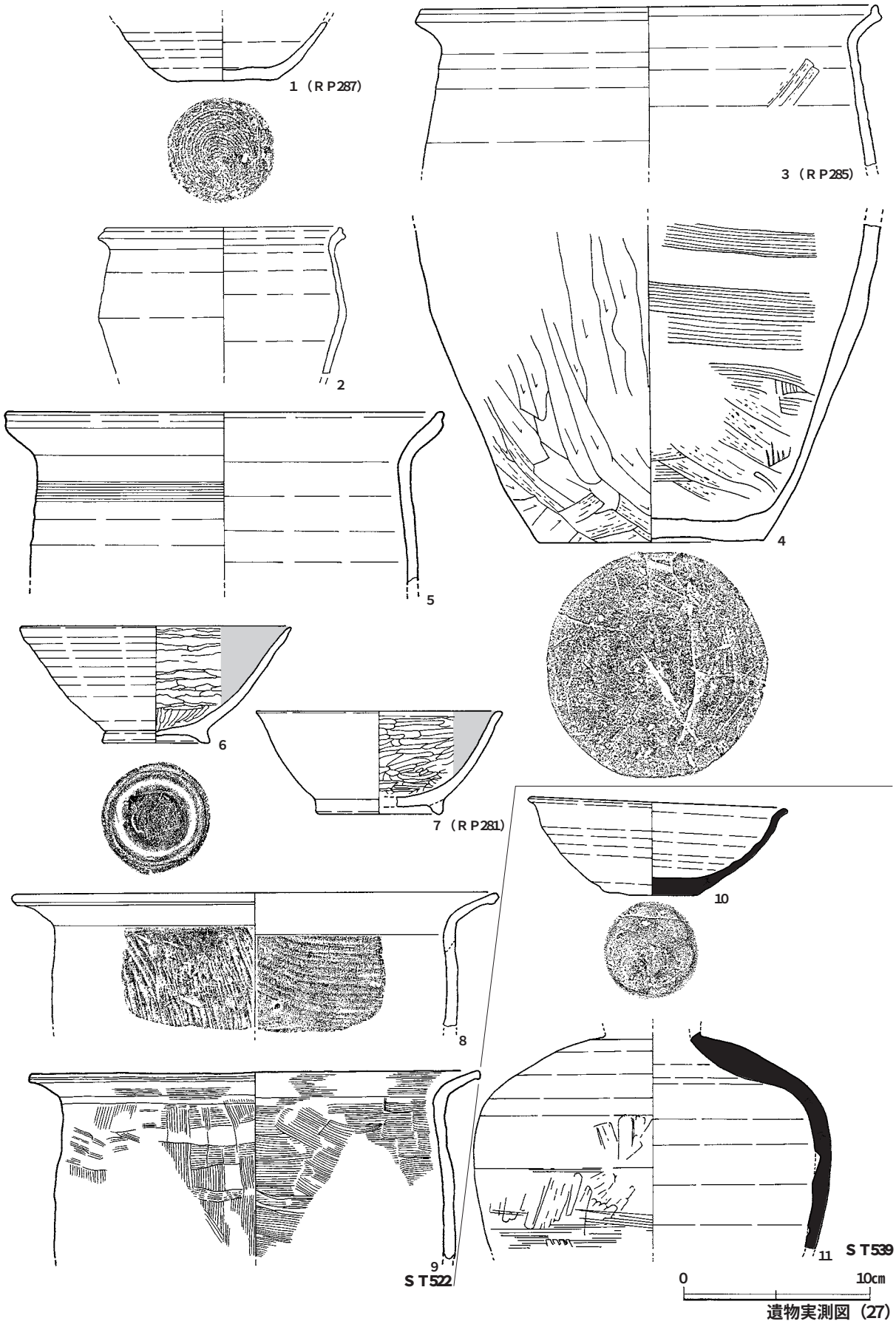
遺物実測図（24）


1（RP304）
2
3（RP276）
4（RP309）
5（RP205、273、276）
6（RP305）
7
8
ST483
9
ST500
10（RP318）
11（RP317）
12
13
14（RP319）
15
ST522
0
10cm

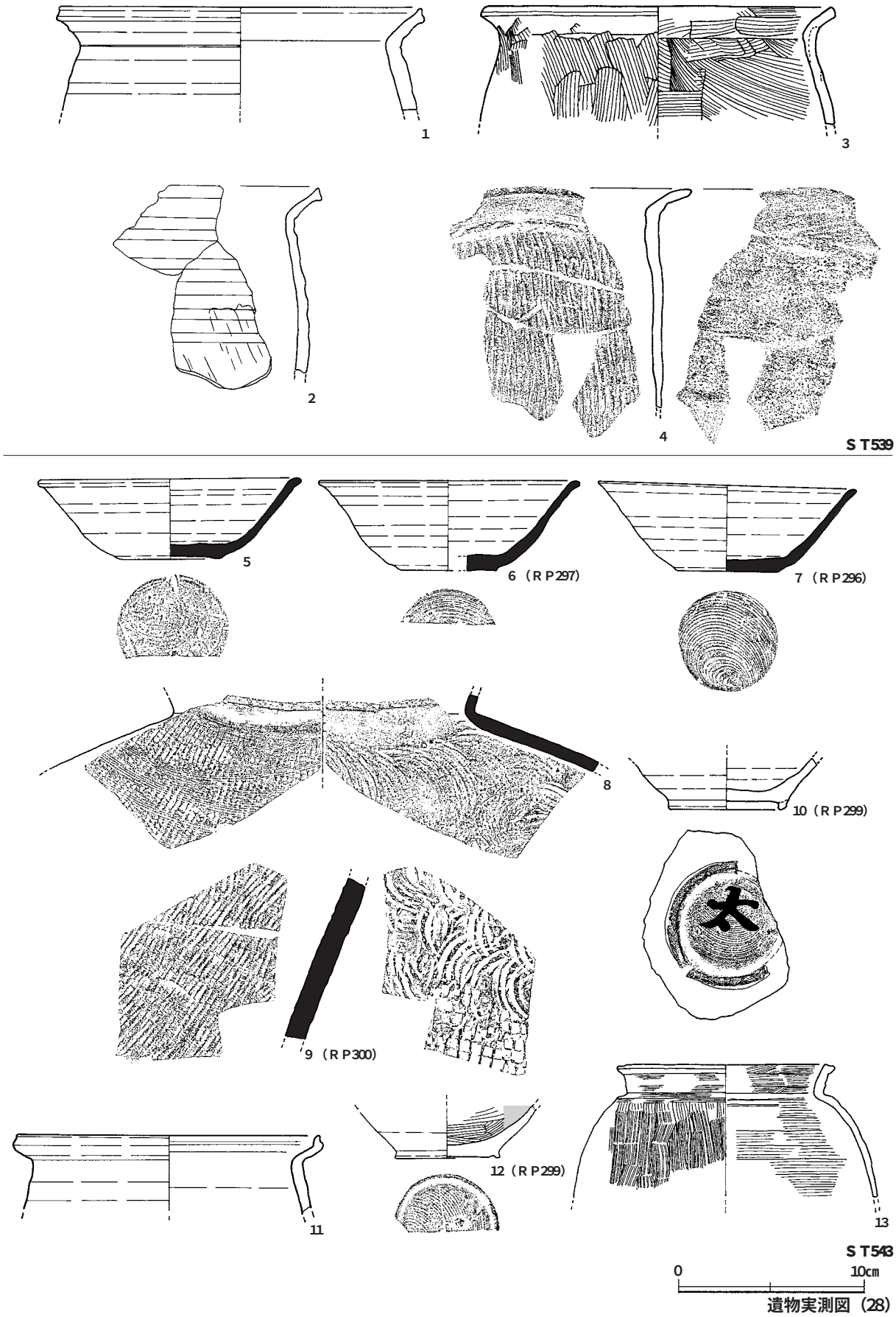
遺物実測図（25）



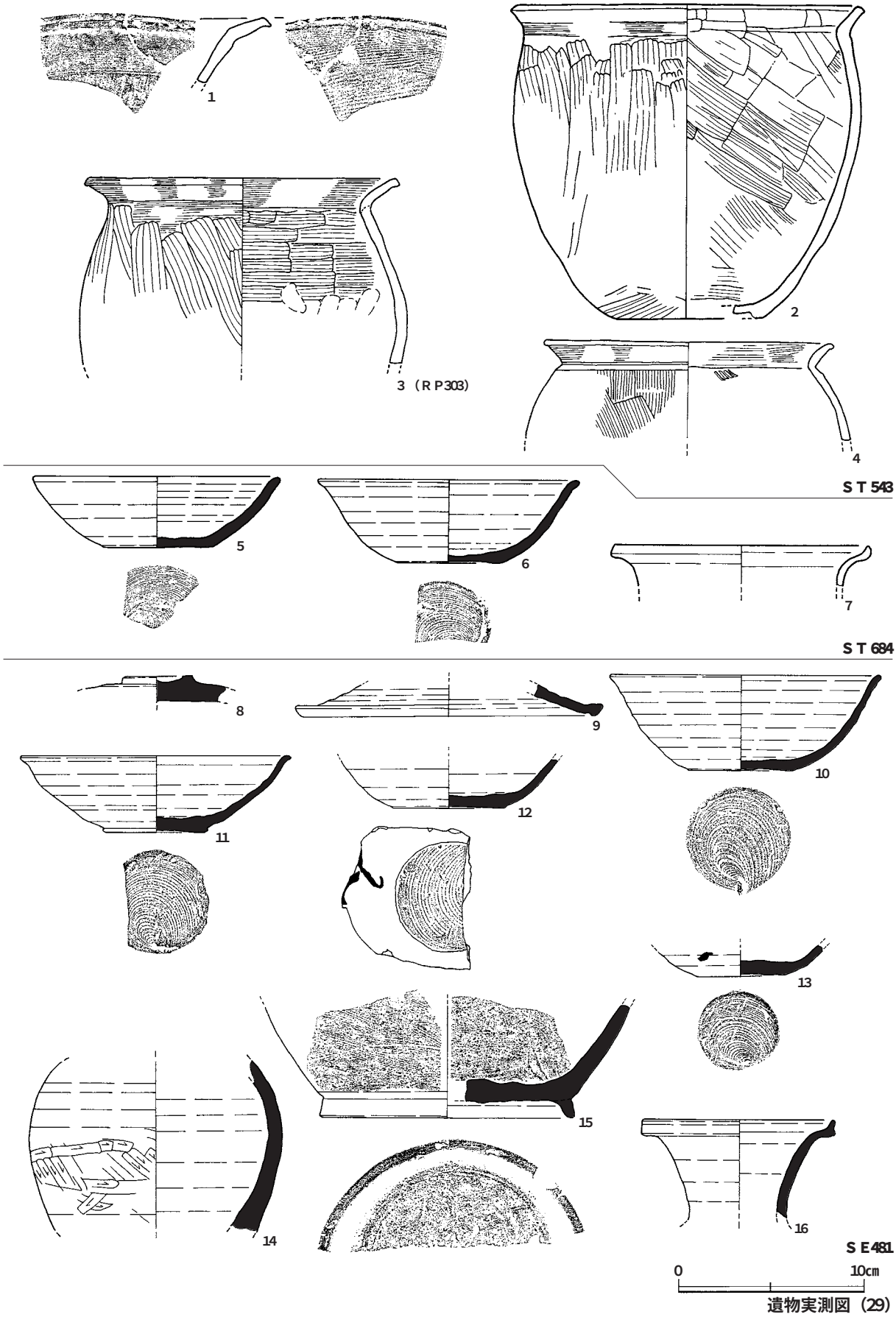
遺物実測図（26）



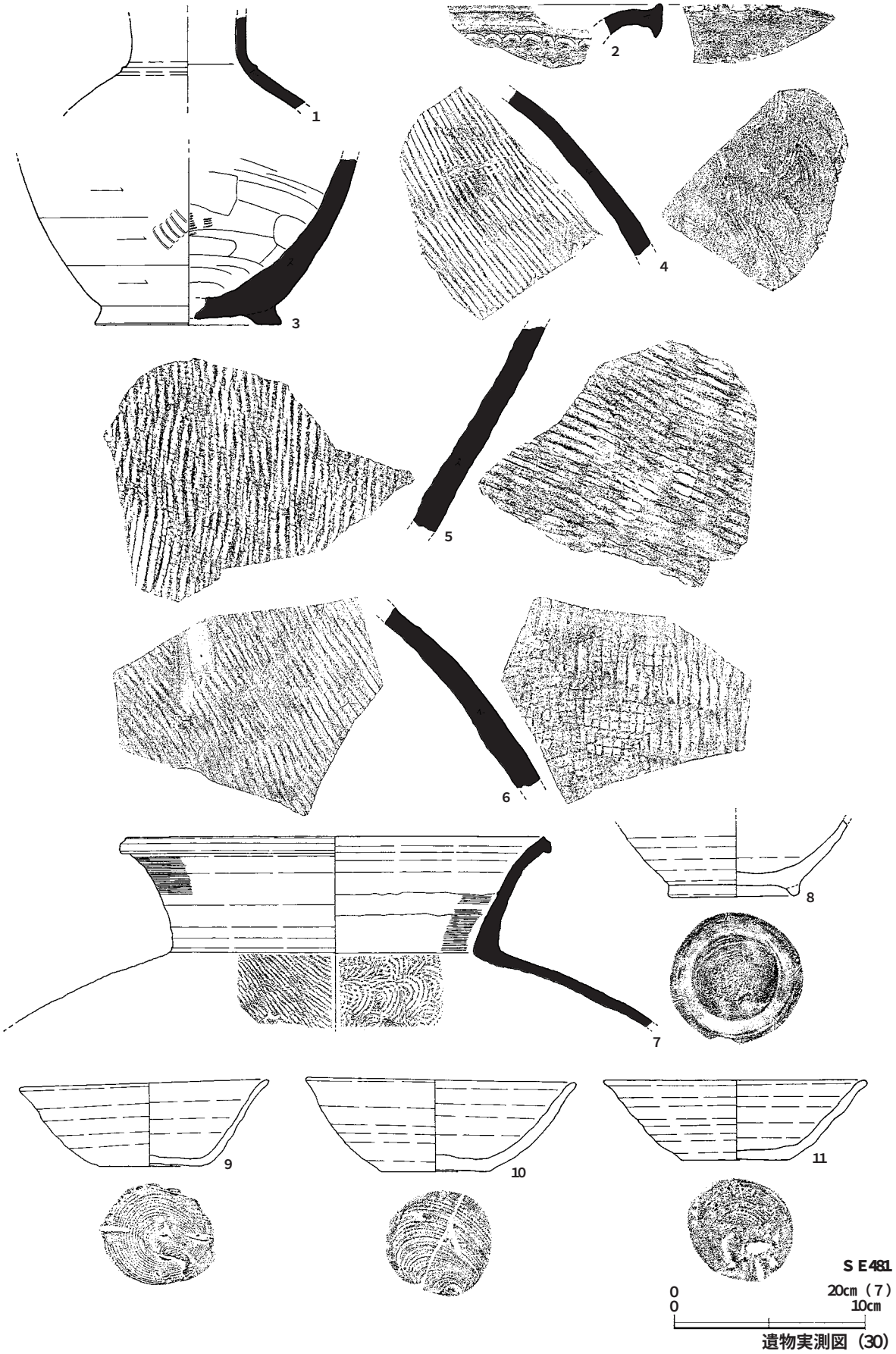
遺物実測図（27）


1
3
2
4
ST539
5
6（RP297）
7（RP296）
8
10（RP299）
9（RP300）
11
12（RP299）
13
ST543
0
10cm

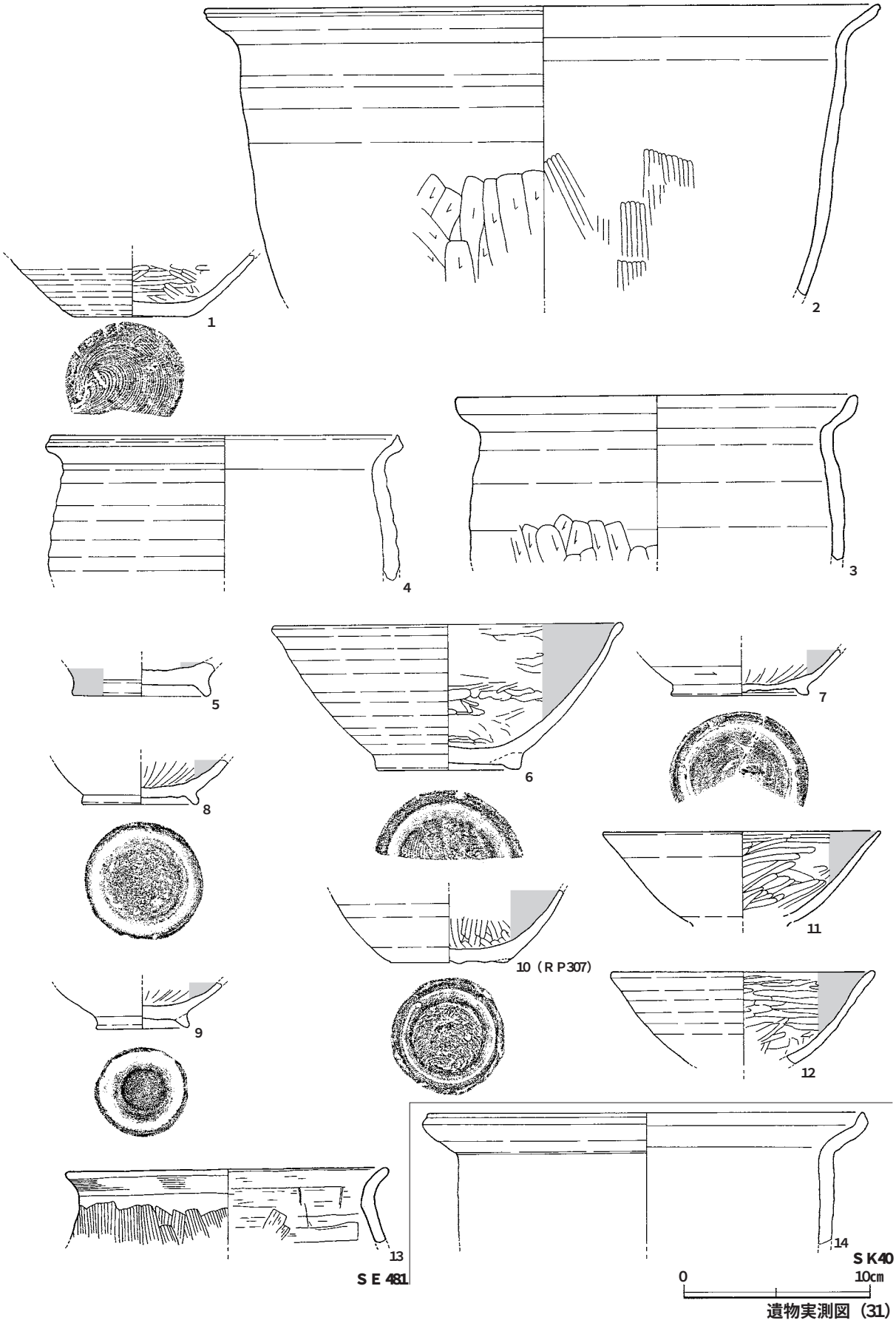
遺物実測図（28）



遺物実測図（29）

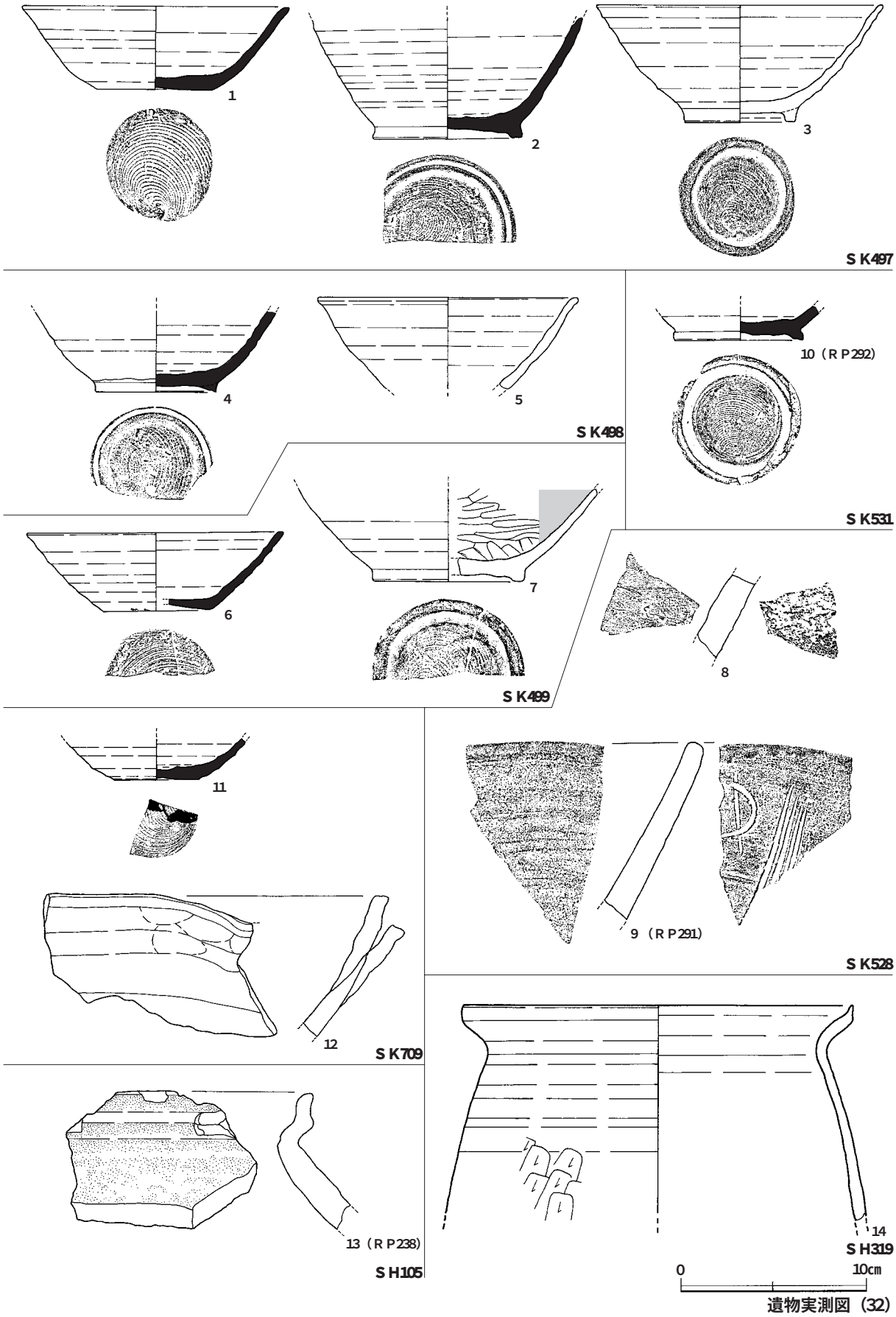


遺物実測図（30）

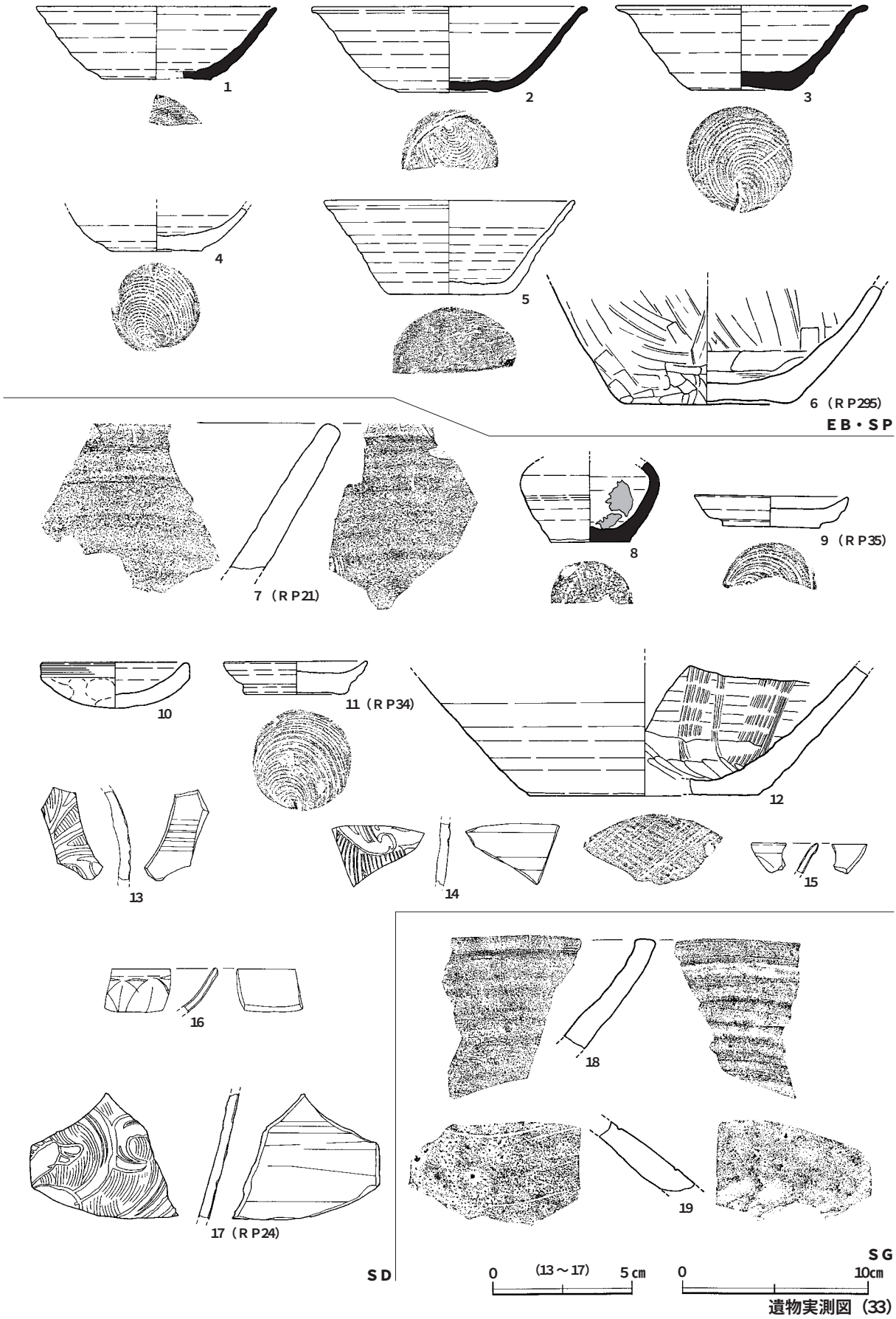


遺物実測図（31）

図版110

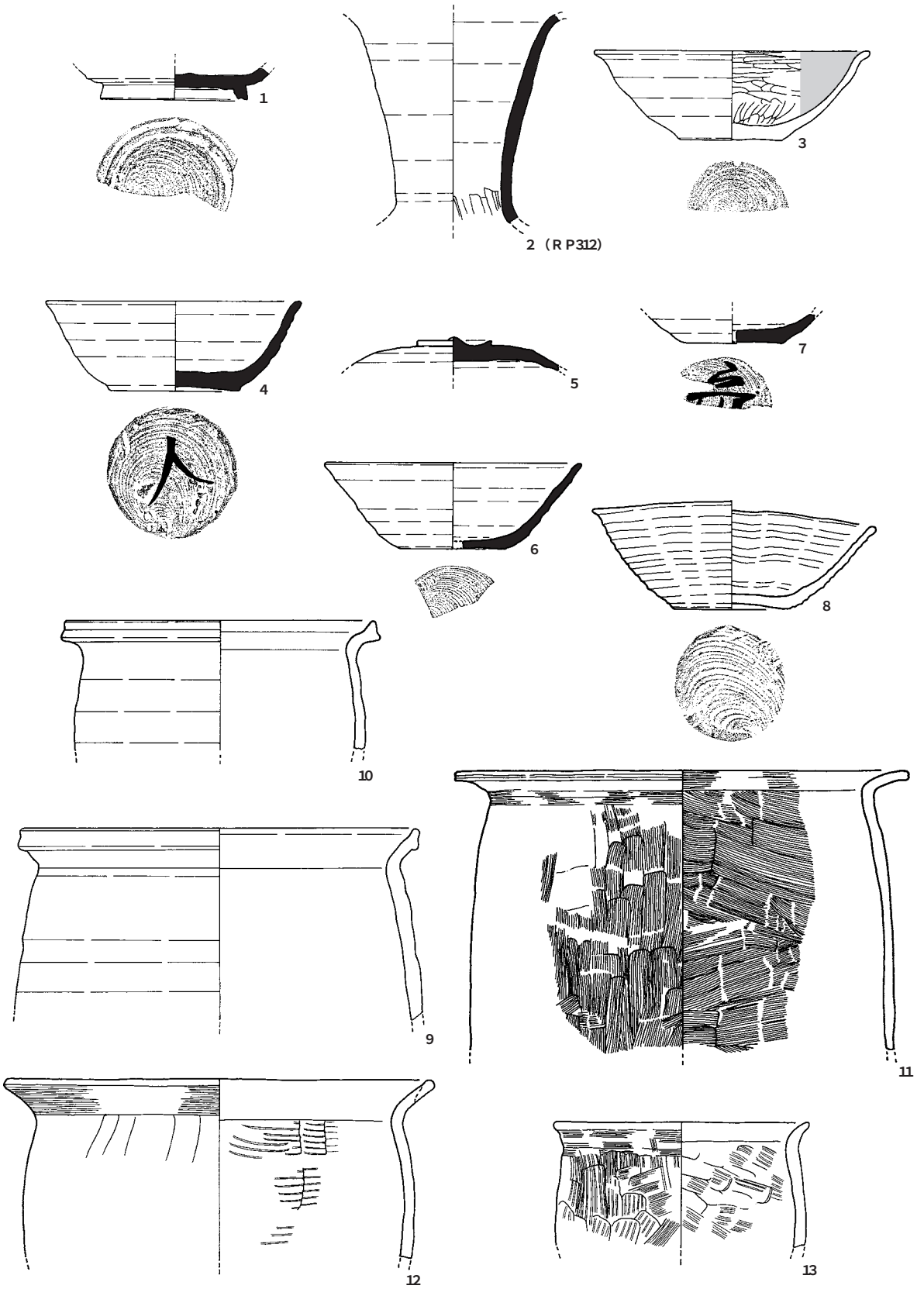

1
2
3
SK497
4
5
SK498
10（RP292）
SK531
6
7
8
SK499
11
9（RP291）
SK528
12
SK709
13（RP238）
SH105
14
SH319
0
10cm

遺物実測図（32）

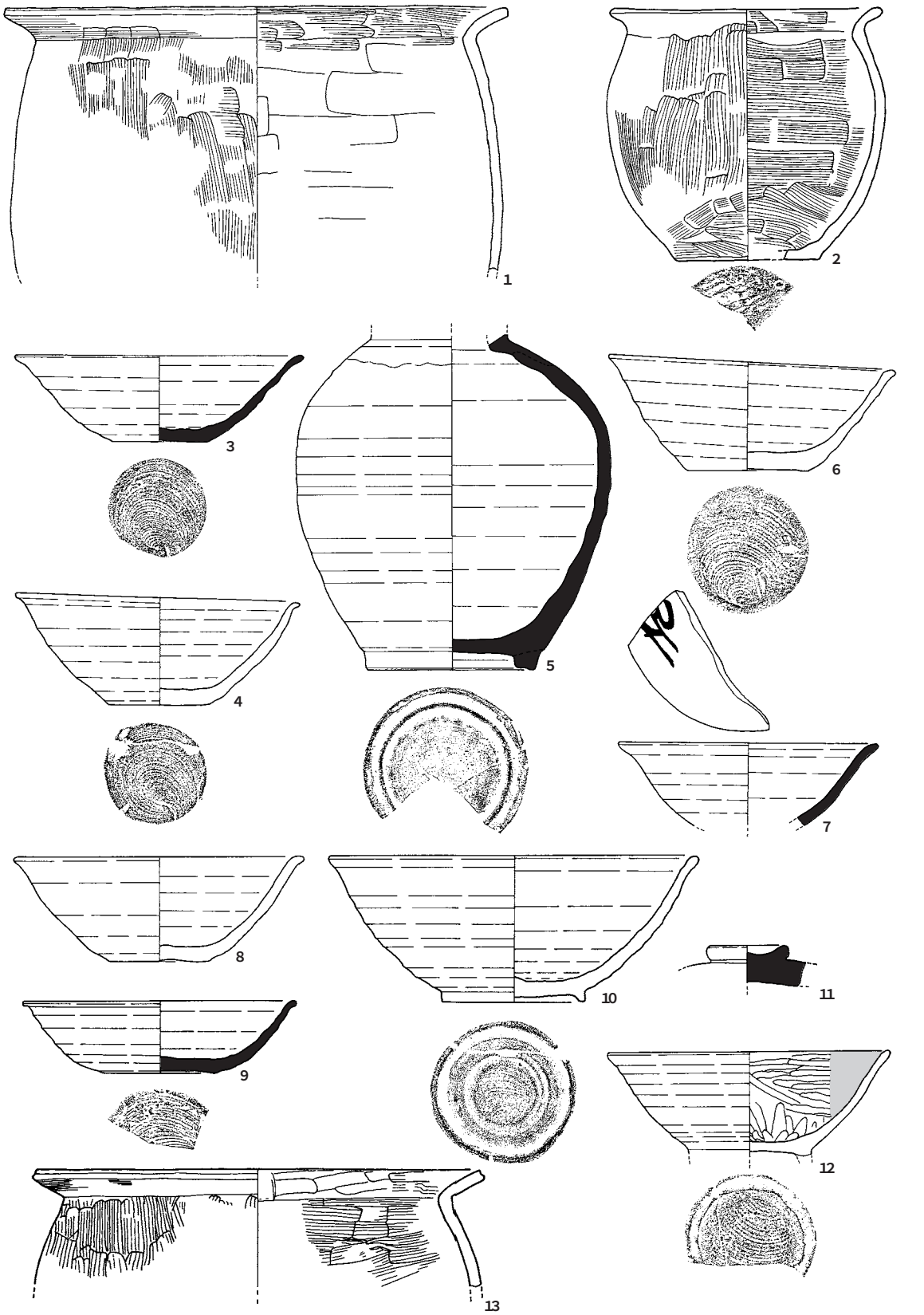


遺物実測図（33）

図版112

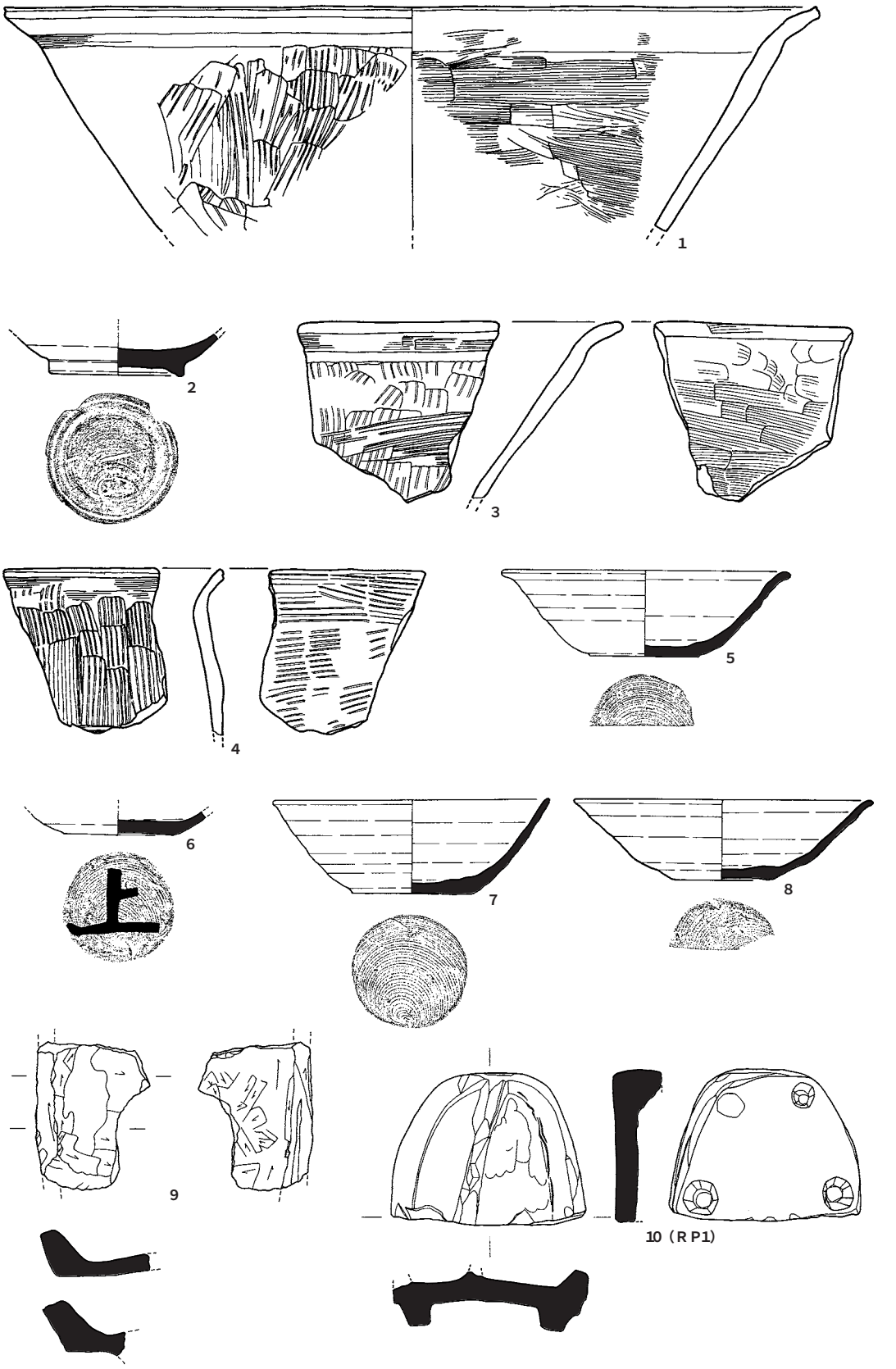


遺物実測図（34）



遺物実測図（35）

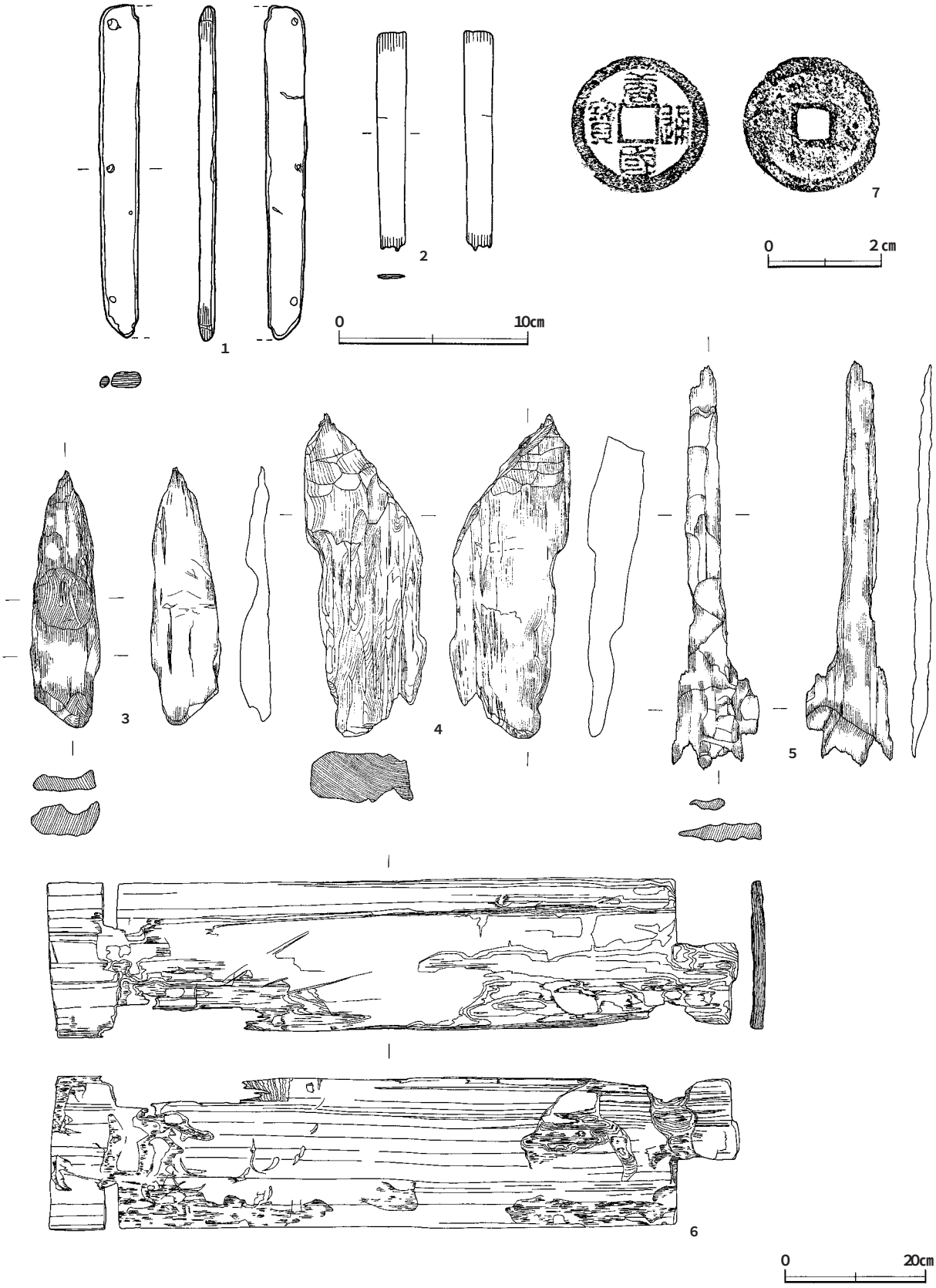
図版114



遺物実測図（36）

遺物実測図（37）

図版116



遺物実測図（38）

写真図版

ＳＴ２竪穴建物跡完掘状況↑S

ＳＴ２竪穴建物跡検出状況↑E

ＳＴ２竪穴建物跡遺物出土状況↑SW

ＳＴ２竪穴建物跡カマド周辺遺物出土状況↑SW

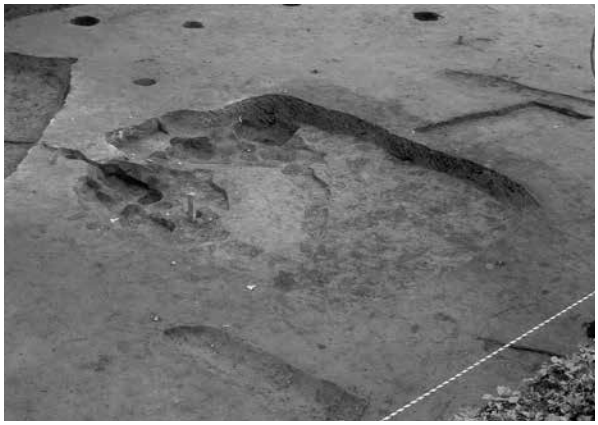
ＳＴ２竪穴建物跡カマド断面↑NW

ＳＴ11竪穴建物跡完掘状況↑s

ＳＴ11竪穴建物跡南北断面↑w

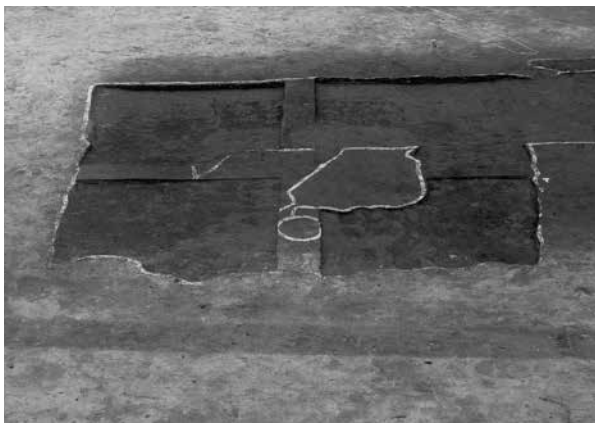
ＳＴ11竪穴建物跡カマド周辺↑w

ＳＴ11竪穴建物跡カマド断面↑NW



ＳＴ11竪穴建物跡完掘状況↑N

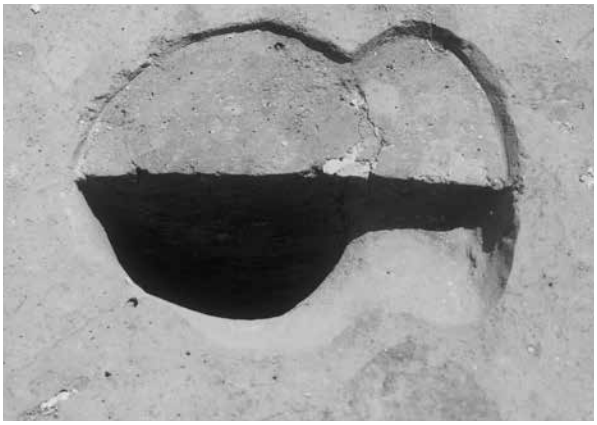
ＳＴ29建物跡検出状況↑E



ＳＴ29建物跡全景↑W

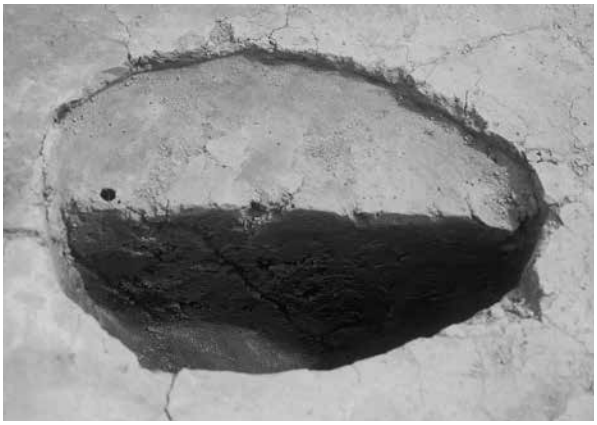
ＥＰ31断面↑W

ＥＰ108断面↑S

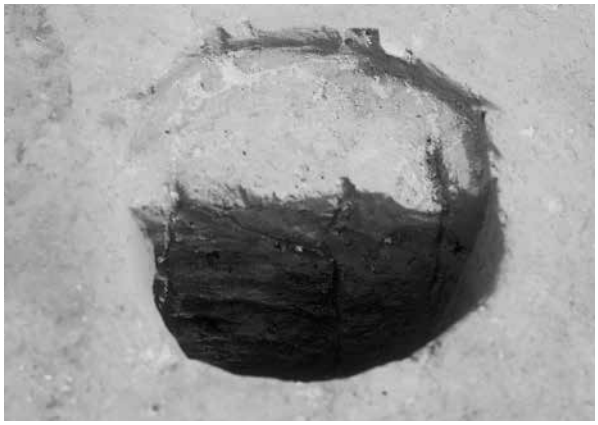


ＥＰ107断面↑S

ＥＰ106断面↑S



ＥＰ30断面↑S



ＥＰ109断面↑S

ＳＴ59竪穴建物跡完掘状況↑N

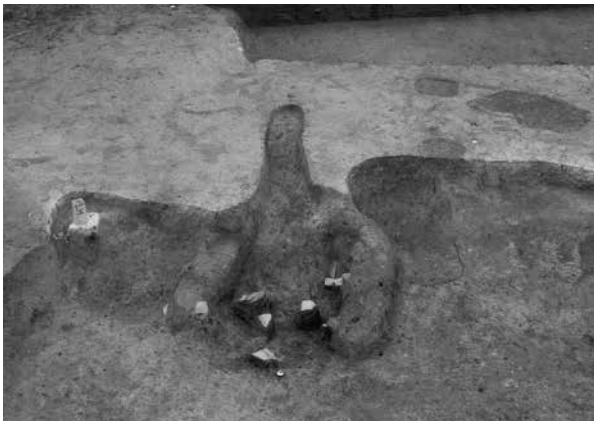
ＳＴ59竪穴建物跡断面↑W

ＳＴ59竪穴建物跡遺物
出土状況↑S

ＳＴ60竪穴建物跡完掘状況 ↑N

ＳＴ60・75竪穴建物跡検出状況 ↑E

ＳＴ60竪穴建物跡・ＳＫ70土壙完掘状況 ↑SW



ＳＴ60竪穴建物跡カマド周辺 ↑W

ＥＰ247 ↑N

ＳＴ75竪穴建物跡完掘状況 ↑N

ＳＴ75竪穴建物跡完掘状況 ↑E

ＳＴ75竪穴建物跡カマド周辺 ↑NE

ＳＴ75竪穴建物跡東西断面 ↑S

ＳＴ112・59・56竪穴建物跡，ＳＫ39土壙，ＳＥ40・38井戸跡完掘↑NE

ＳＴ56竪穴建物跡検出状況↑E

ＳＴ112竪穴建物跡カマド断面↑SE

ＳＴ112竪穴建物跡，ＳＫ39土壙，ＳＥ40･38井戸跡完掘状況↑E

ＳＴ56，ＳＴ112竪穴建物跡東西断面↑SE

ＳＴ113・120竪穴建物跡完掘状況↑E

ＳＴ113・120竪穴建物跡南北断面↑SW

ＳＴ120・113竪穴建物跡調査区（東側）カベ断面↑N

ＳＴ113竪穴建物跡東西断面↑SW

ＳＴ120竪穴建物跡東西断面↑SW

ＳＴ117竪穴建物跡完掘状況↑NE

ＳＴ117竪穴建物跡検出状況↑E

ＥＬ263（ＳＴ117）カマド断面↑NE

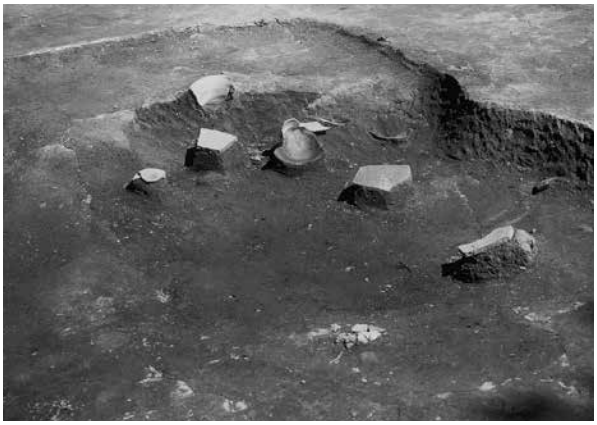
ＳＴ117竪穴建物跡南北断面↑SE

ＥＬ264（ＳＴ117）カマド↑N

ＳＴ121竪穴建物跡完掘状況↑E

ＳＴ121竪穴建物跡カマド周辺遺物出土状況↑W

ＳＴ121竪穴建物跡南北断面（Ａ）↑S



ＳＴ121竪穴建物跡遺物出土状況↑N

ＲＰ１（陶硯）出土状況↑SW

ＳＴ123竪穴建物跡完掘状況↑NE

ＥＬ265（ＳＴ123）カマド↑N

ＳＴ123カマド断面↑NE

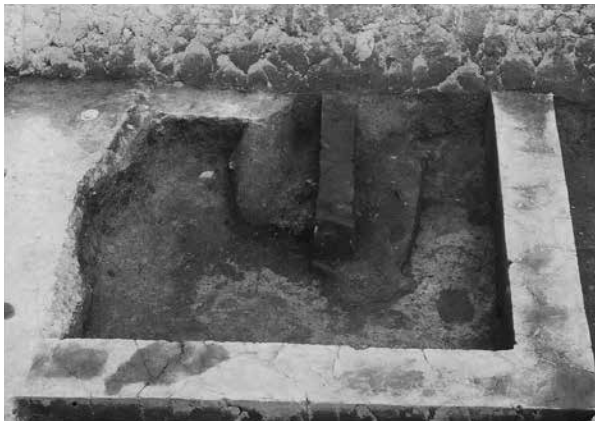
ＳＴ123カマド↑N

ＥＰ127（ＳＴ123）断面↑N

ＳＴ255竪穴建物跡完掘状況 ↑w

ＳＴ255竪穴建物跡等検出状況 ↑ES

ＳＴ255竪穴建物跡南北断面 ↑w



ＥＬ272（ＳＴ255）カマド検出状況 ↑w

ＳＴ256竪穴建物跡完掘状況↑E

ＳＴ256竪穴建物跡検出状況↑E

ＳＴ256竪穴建物跡南北断面↑SE

ＳＴ256カマド遺物↑N

ＥＰ275（ＳＴ256）柱穴断面↑SE

ＳＴ257竪穴建物跡完掘状況↑NE

ＳＴ257竪穴建物跡↑S

ＳＴ257竪穴建物跡東西断面↑SE

ＥＬ271（ＳＴ257）カマド↑SE

ＥＬ271（ＳＴ257）カマド↑W

ＳＴ258竪穴建物跡検出状況↑E

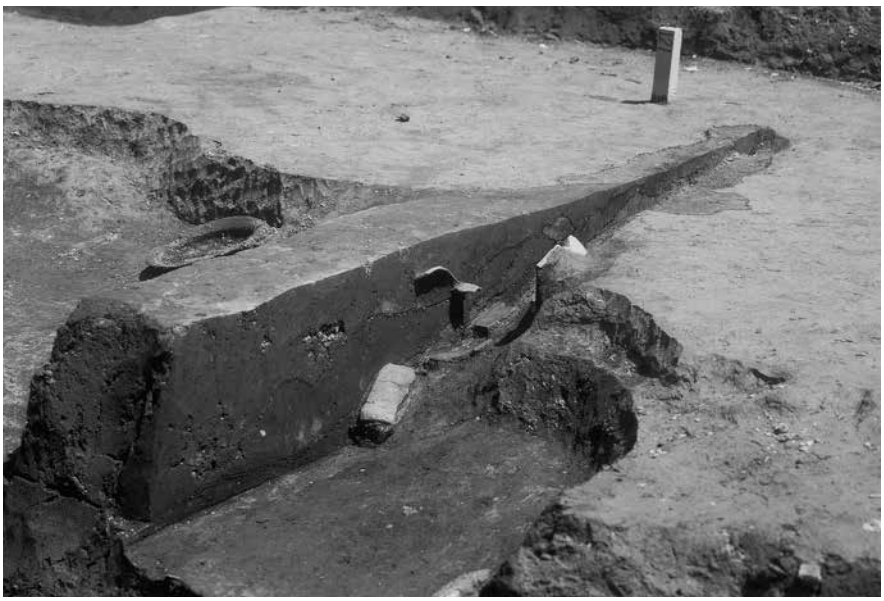
ＳＴ258遺物出土状況↑N

ＳＴ258竪穴建物跡完掘状況↑E

ＳＴ259竪穴建物跡完掘状況↑N

ＳＴ259竪穴建物跡断面↑W

ＳＴ259竪穴建物跡
ベルト断面↑S



ＳＴ260竪穴建物跡
カマド断面↑sw

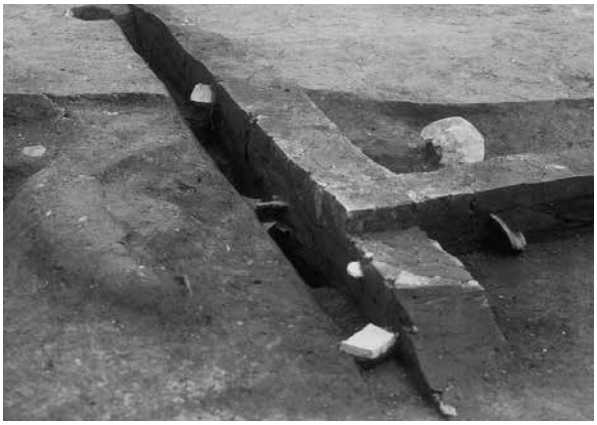
ＥＬ298（ＳＴ260)カマド↑w

ＲＰ219（ＳＴ260)埋設土器↑w

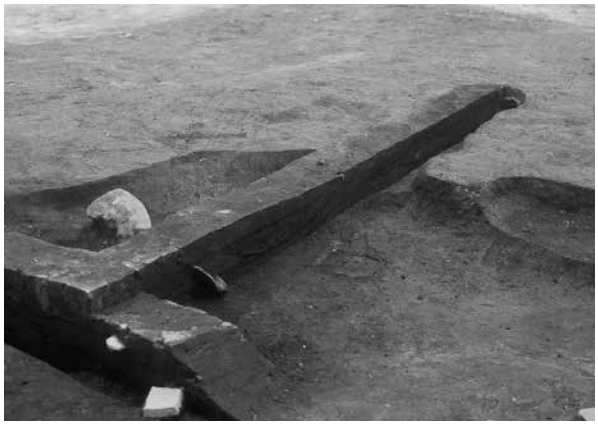
ＳＴ261竪穴建物跡完掘状況 ↑W

ＳＴ261竪穴建物跡南北断面 ↑E

ＳＴ261竪穴建物跡掘方断面 ↑E

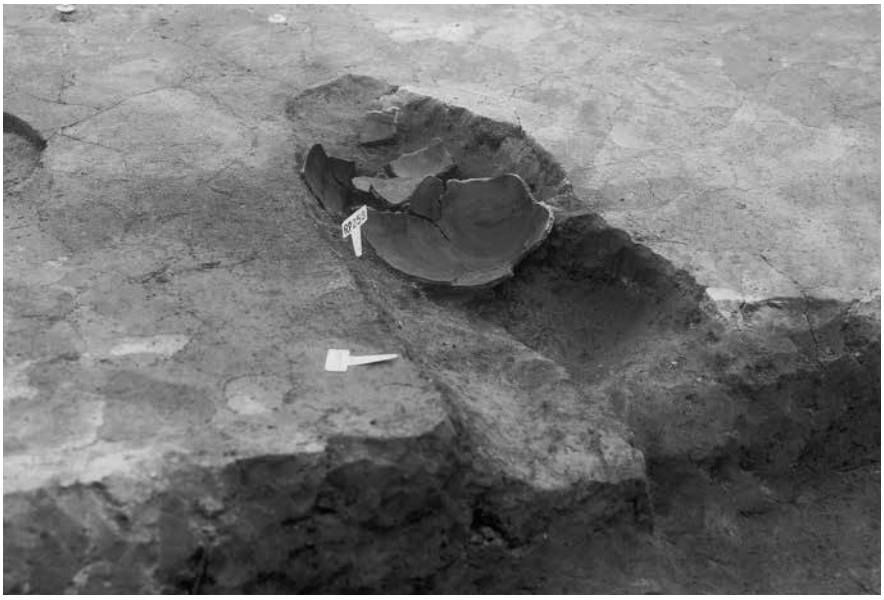


ＥＬ268（ＳＴ261）カマド断面 ↑W



ＥＬ269（ＳＴ261）カマド断面 ↑W

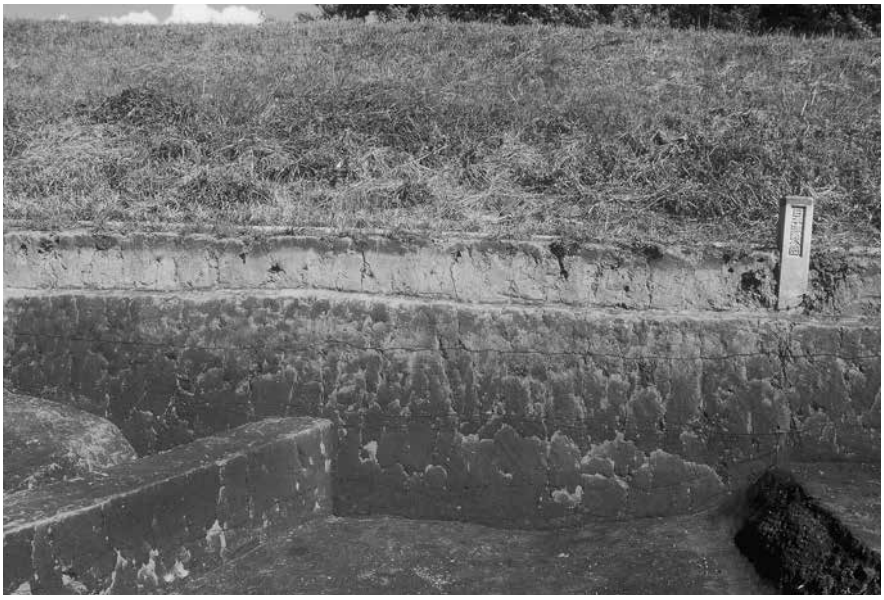
ＥＬ449（ＳＴ317）
カマド断面↑SW



ＳＴ317ＥＬ449カマド↑W

ＳＴ317内ＥＫ482土壙↑E

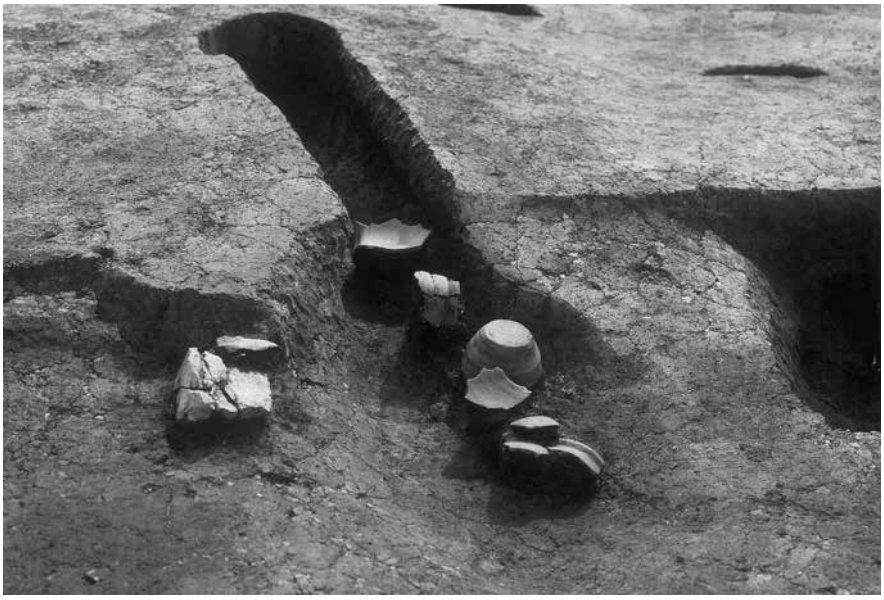
ＳＴ480・500竪穴建物跡
完掘状況↑w



ＳＴ500竪穴建物跡南北断面↑w

ＥＬ646（ＳＴ480)カマド↑s

ＳＴ483竪穴建物跡完掘状況↑W



ＳＴ483ＥＬ523カマド周辺
遺物出土状況↑NE

ＥＫ511（ＳＴ483)土壙↑N

ＳＴ522竪穴建物跡周辺 ↑w

ＳＴ522竪穴建物跡カマド検出状況 ↑N

ＥＬ685カマド断面 ↑w

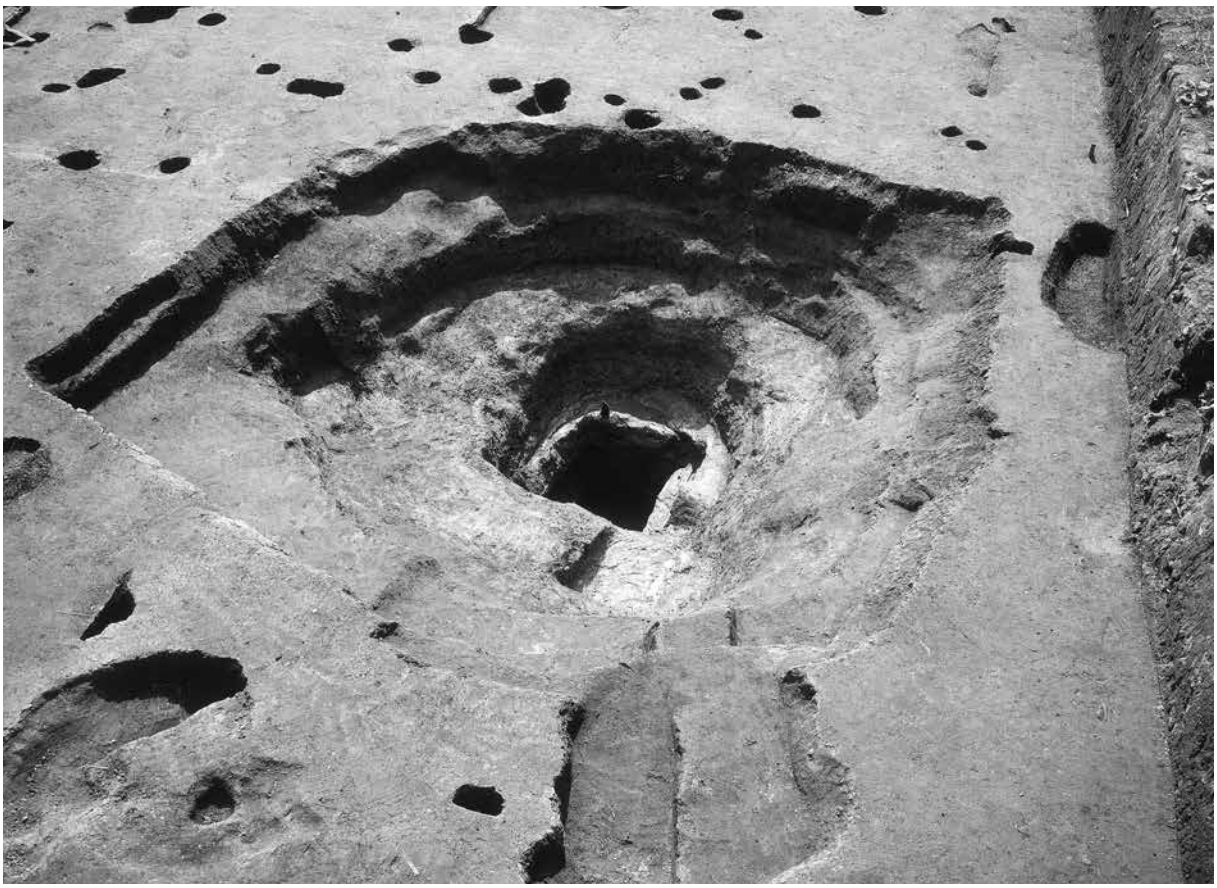
ＳＴ522竪穴建物跡南北断面 ↑s

ＳＴ522竪穴建物跡遺物出土状況 ↑w

ＳＴ539竪穴建物跡東西断面↑S

ＳＴ539竪穴建物跡南北断面↑S

ＥＬ710カマド断面（ＳＴ539）↑E



ＳＥ481井戸跡完掘状況↑S

ＳＥ481井戸跡検出状況↑E

ＳＥ481井戸跡南北断面↑E

ＳＥ481井戸跡東西断面↑SW

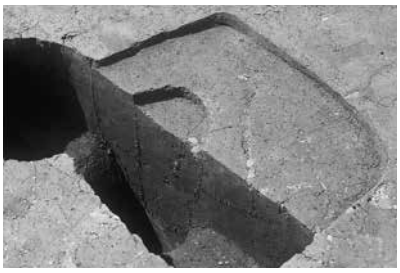
井戸枠（ＳＥ481）↑S

S B510堀立柱建物跡 ↑NE

E B509柱穴断面 ↑NE

E B506柱穴断面 ↑NE

E B503柱穴断面 ↑NE



E B508柱穴断面 ↑NE

E B505柱穴断面 ↑NE

E B502柱穴断面 ↑NE

E B507柱穴断面 ↑NE

E B504柱穴断面 ↑NE

E B501柱穴断面 ↑NE

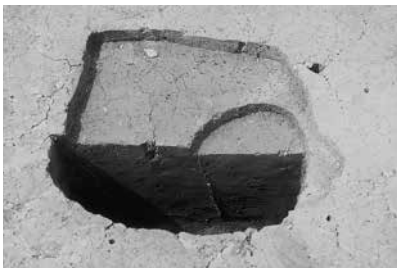
S P514～521柱穴 ↑N

S P514～521柱穴完掘 ↑SW

S P514柱穴断面 ↑NE

S P515柱穴断面 ↑NE

S P516柱穴断面 ↑NE



S P517柱穴断面 ↑E

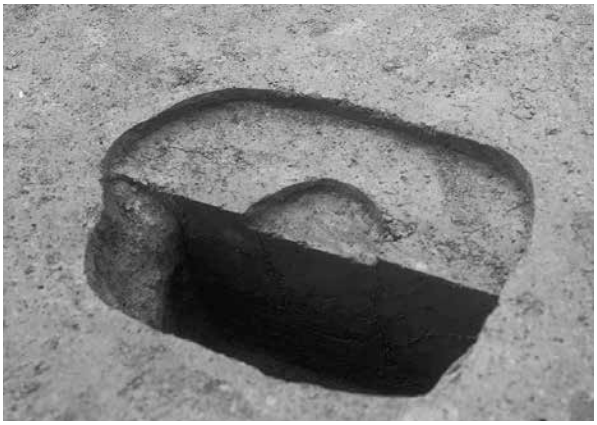
S P518柱穴断面 ↑E

S P519柱穴断面 ↑W

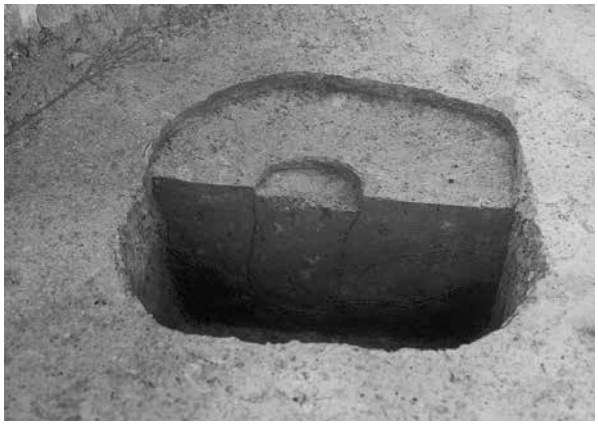
S P520柱穴断面 ↑W

S P521柱穴断面 ↑SW

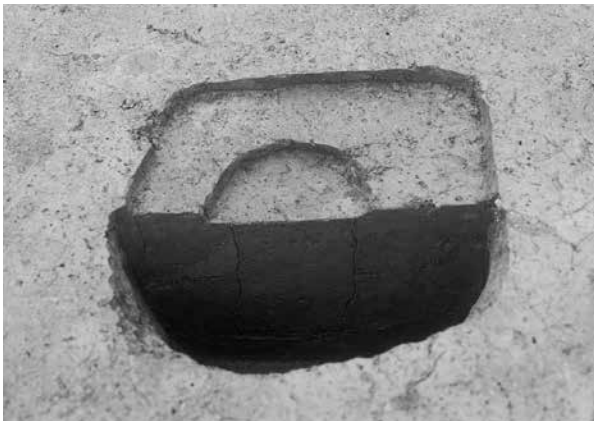
調査区南側掘立柱建物跡 ↑N



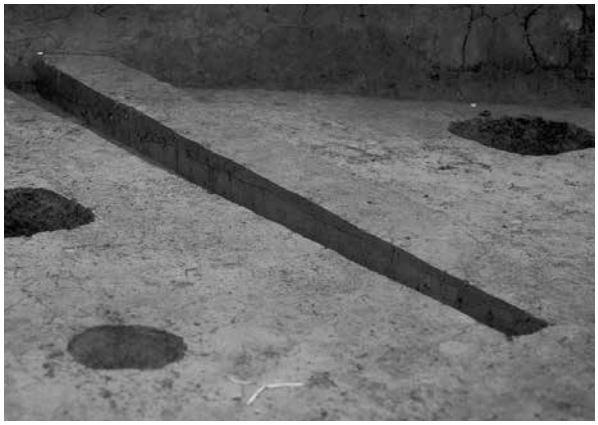
ＳＰ643柱穴断面 ↑E



ＳＰ645柱穴断面 ↑E

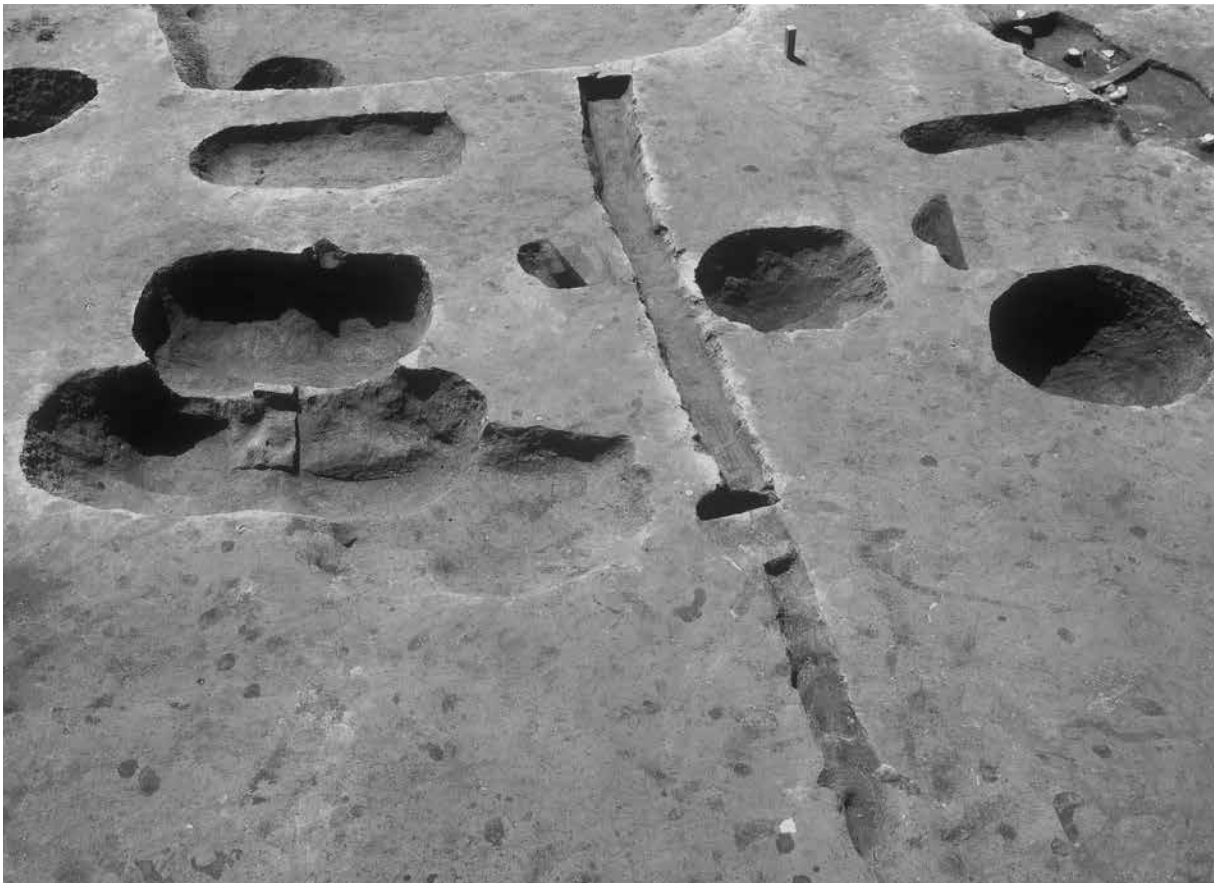


ＳＰ644柱穴断面 ↑E

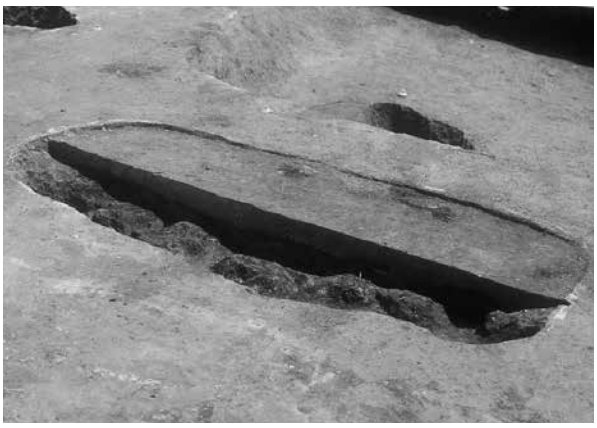


１・２次調査ＳＤ11（トレンチ）断面 ↑N

S H319～324墓壙遺構検出状況 ↑N

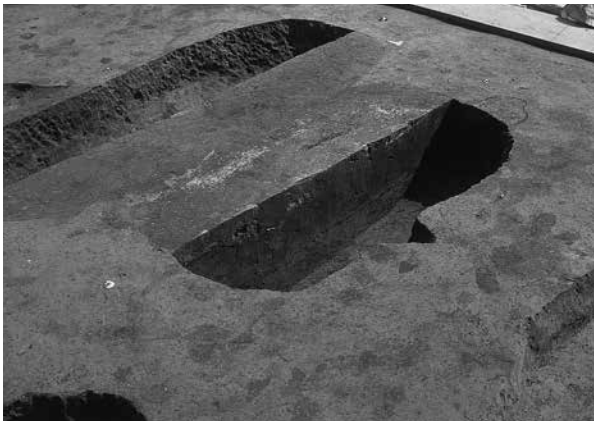


S H319～324墓壙完掘状況 ↑N



S H125墓壙断面 ↑N

S H125墓壙 ↑NE



S H324墓壙断面 ↑W

S H322・323墓壙断面 ↑N

S H321墓壙 ↑N

S H322・323墓壙 ↑N

S H320墓壙 ↑S

S K395土壙断面 ↑NW

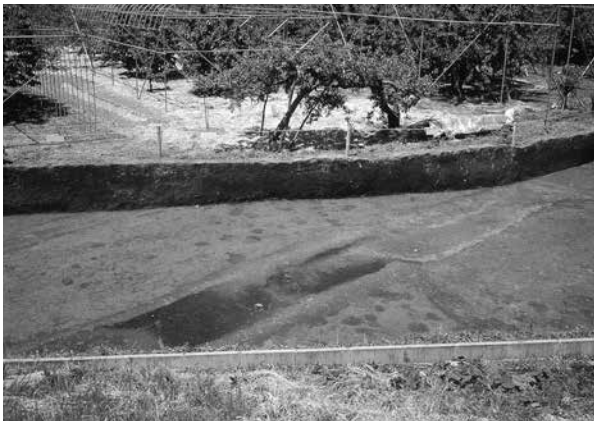
S D111大溝跡他検出状況 ↑E

S D111溝跡断面 ↑E

S D111溝跡東側断面図 ↑S

S D111溝跡遺物出土状況 ↑E

S D114～116溝跡検出状況 ↑S



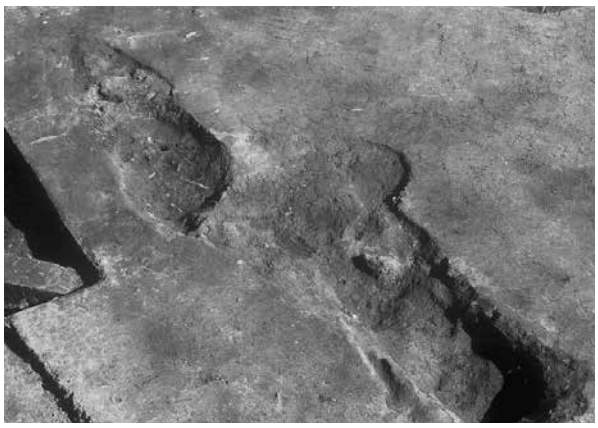
S D114・115・116溝跡検出状況 ↑E

S D114・115溝跡土層断面 ↑NE

銅銭出土状況 ↑W

かわらけ出土状況 ↑W

S L 484・485炉跡 ↑W

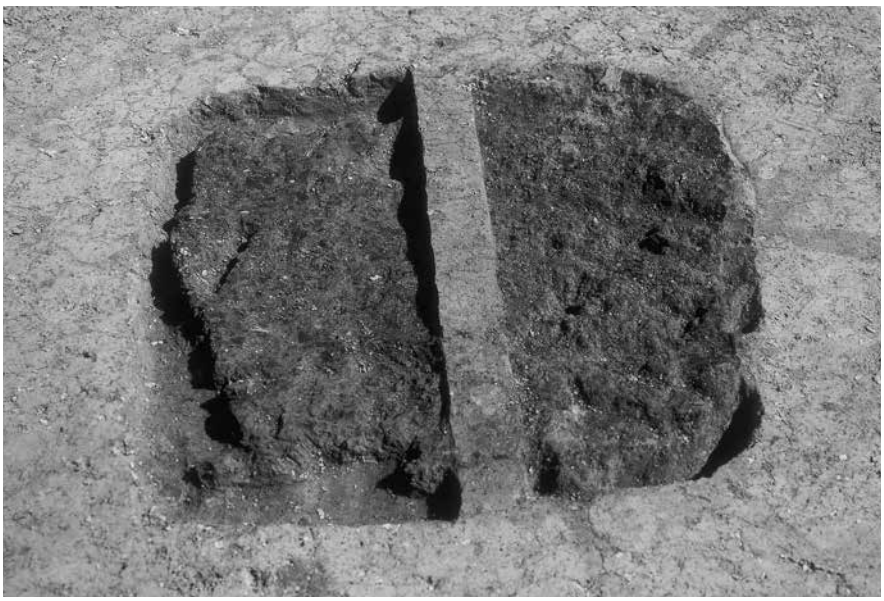


S L 484・485炉跡完掘状況 ↑NW

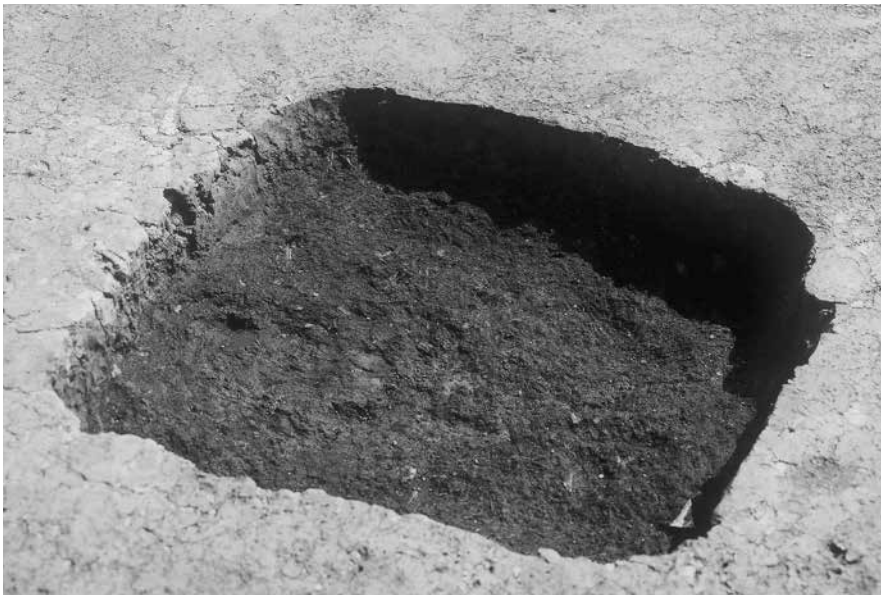
S L 485炉跡 ↑W

S L 484炉跡完掘状況 ↑W

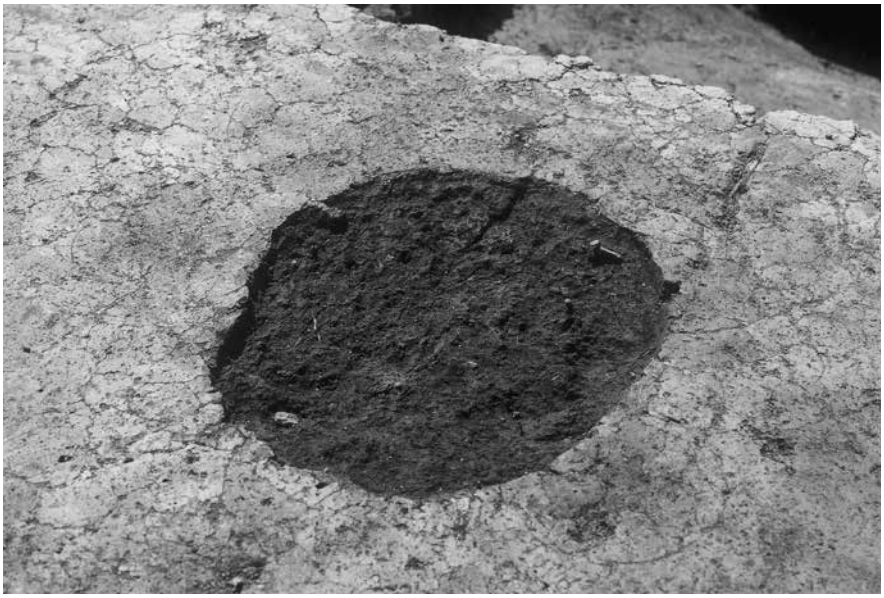
S L 485炉跡完掘状況 ↑W



ＳＬ527炉跡↑S



ＳＬ527炉跡↑W



ＳＬ670炉跡↑N

ＳＨ530墓壙断面↑SW

ＳＨ529墓壙断面↑S

ＳＨ105墓壙ＲＰ238↑N

ＳＨ105墓壙土層断面↑W

ＳＫ41土壙断面↑E

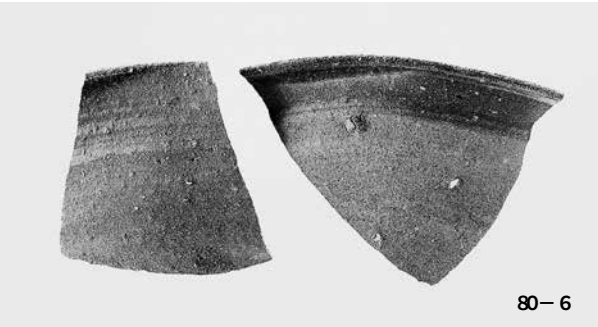
ＳＫ70土壙断面↑E

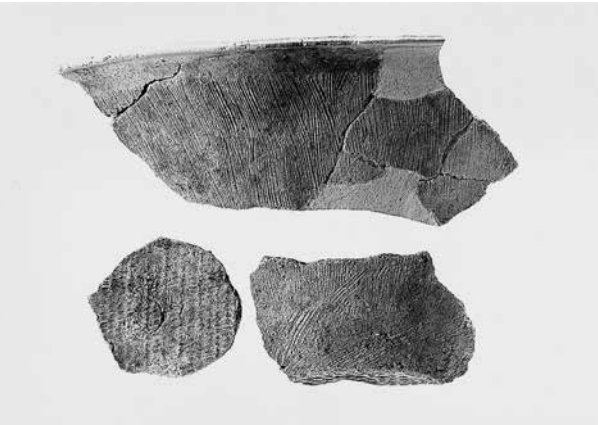
ＳＫ11出土遺物

80－1

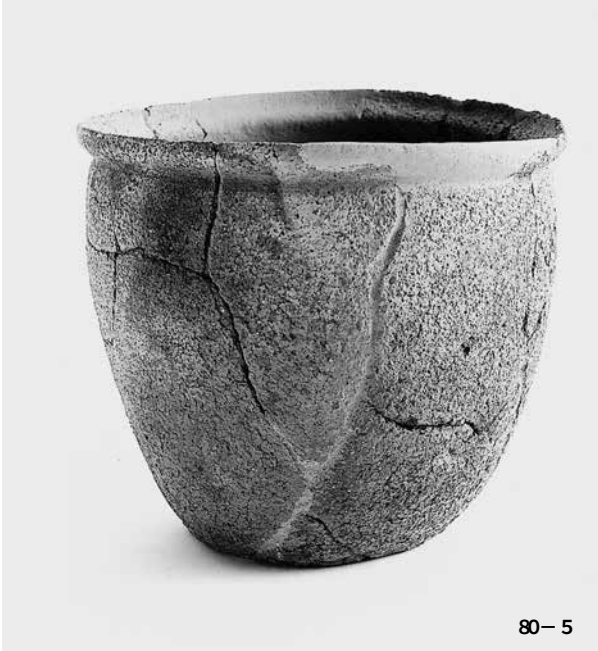
80－2

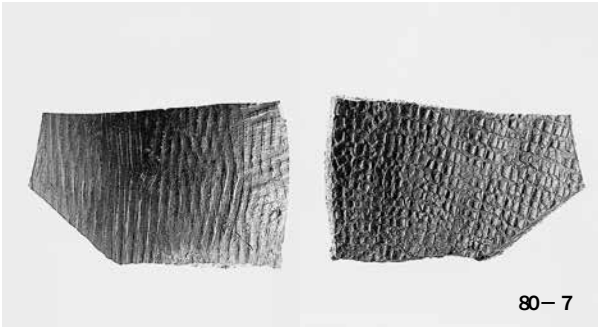
80－4

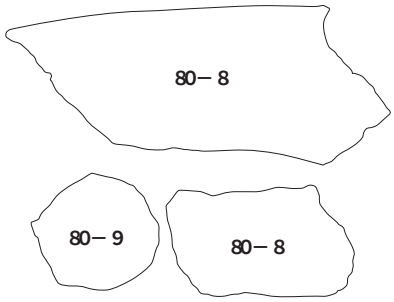

80－6



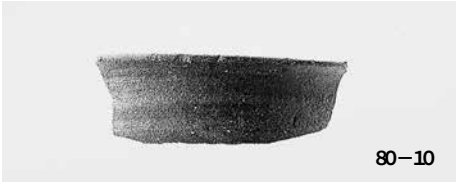
80－3


80－5


80－7



ＳＴ２・ＳＴ５出土遺物



80－10

80－11

80－12

81－1

81－2

ＳＴ11出土遺物

81－4

81－5

81－3、81－6

ＳＴ11出土遺物

81－7

ＳＴ59出土遺物

ＳＴ60出土遺物

81－8

82－3、82－2

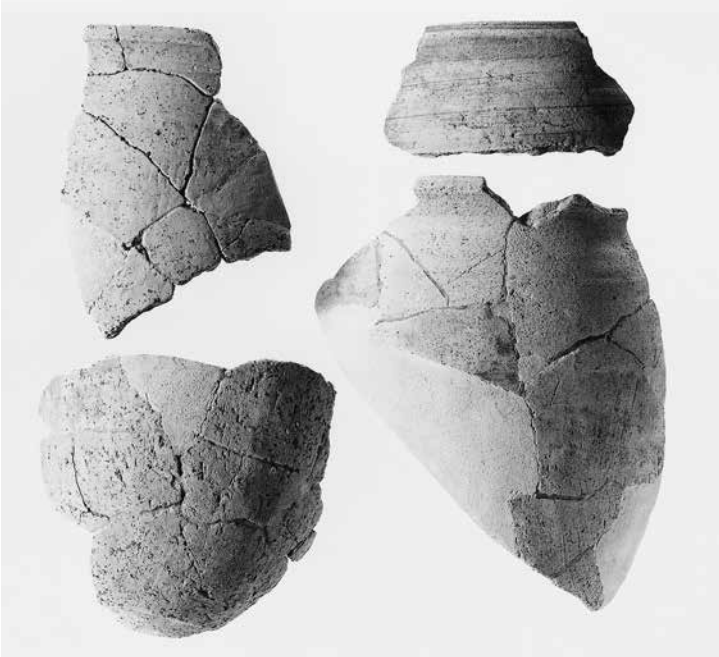
81－10

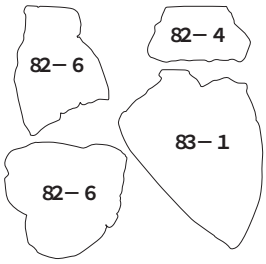
82－1

81－9

81－11

ＳＴ59・ＳＴ60出土遺物

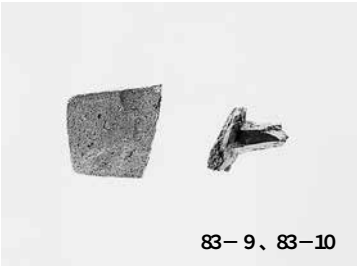




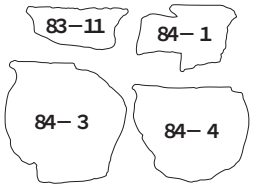
ＳＴ60出土遺物

83－7

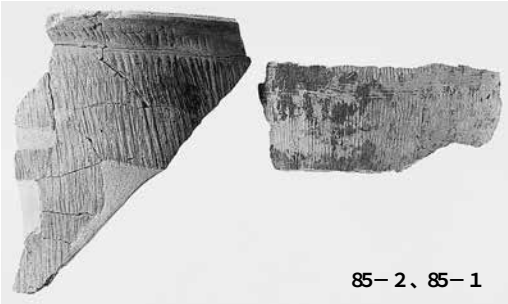
83－8

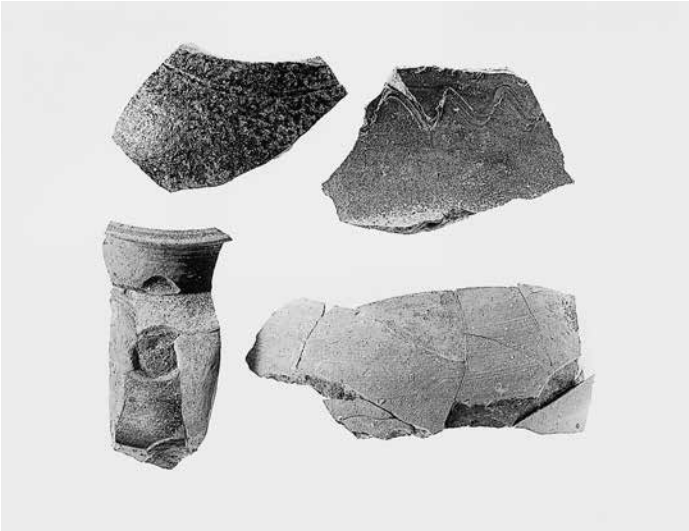

83－9、83－10

84－2



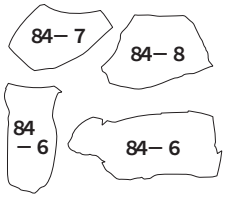
84－5


85－2、85－1



84－9

85－1



ＳＴ75・ＳＴ112出土遺物

85－3

85－4

ＳＴ117出土遺物

85－6

85－5

85－7

86－5

86－4

86－3

86－2

85－10

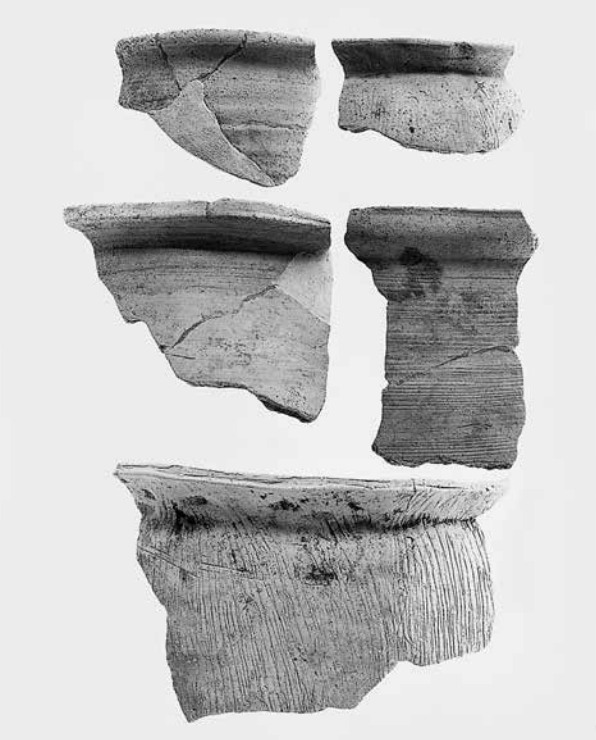
86－1

ＳＴ113・ＳＴ117出土遺物

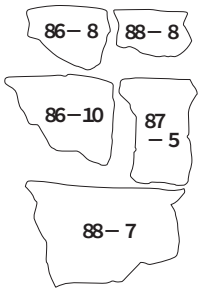
85－9

85－8

86－11



86－7



86－6

87－4

87－2

ＳＴ117出土遺物

87－3

86－9

87－1

88－6

87－6

88－4

88－5

88－3

88－1

88－2

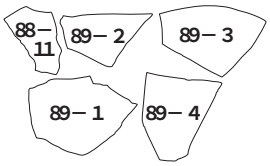
ＳＴ117出土遺物

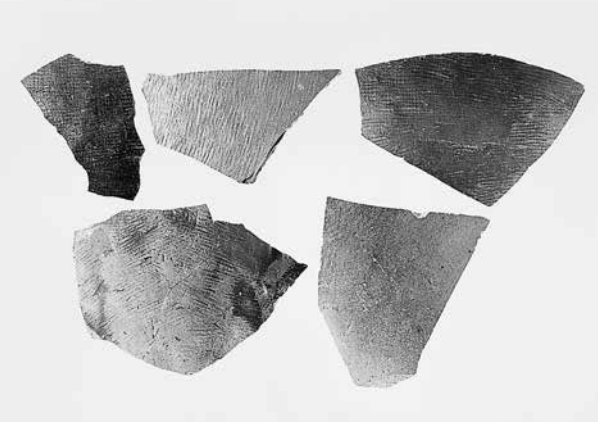
88－9

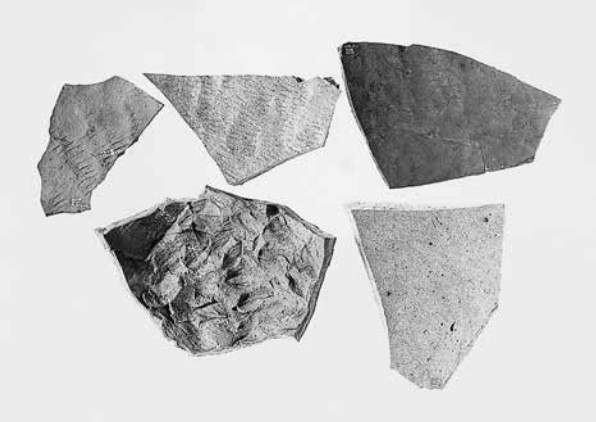
88－10

88－9、88－10

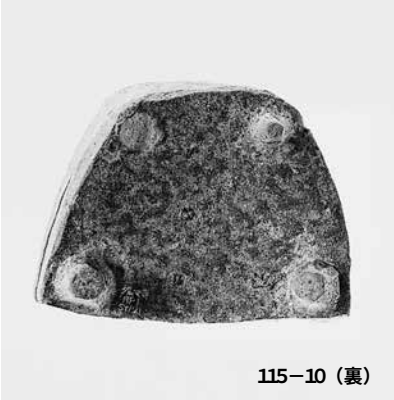
ＳＴ121出土遺物集合







115－10（表）



115－10（裏）

90－1

ＳＴ120・ＳＴ121出土遺物

90－2

90－3

90－4

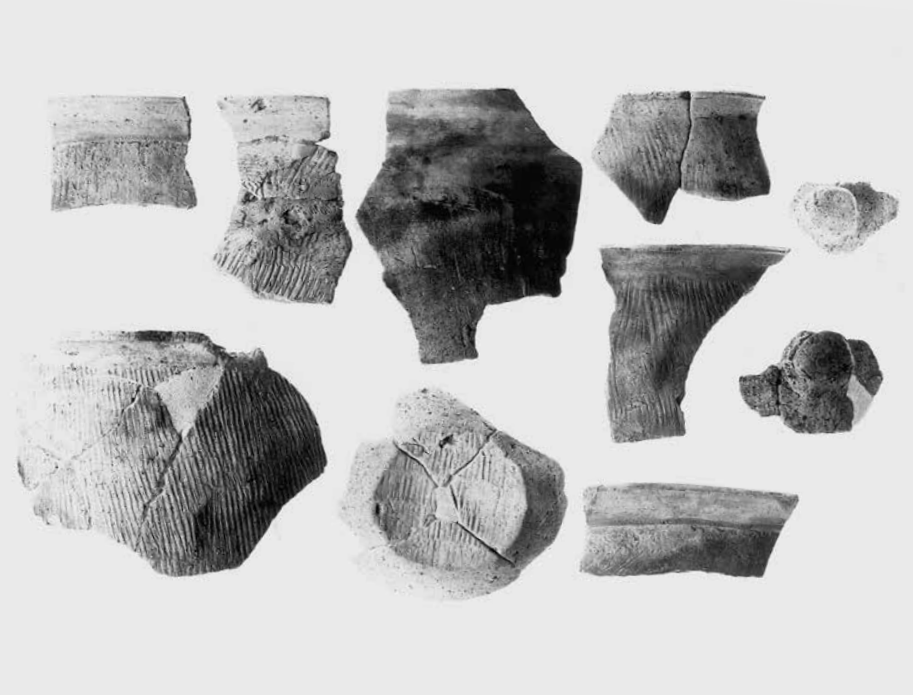
91－14

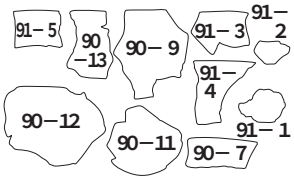
90－5

90－6

90－10

90－8





ＳＴ121出土遺物

91－6

91－7

91－8

91－9

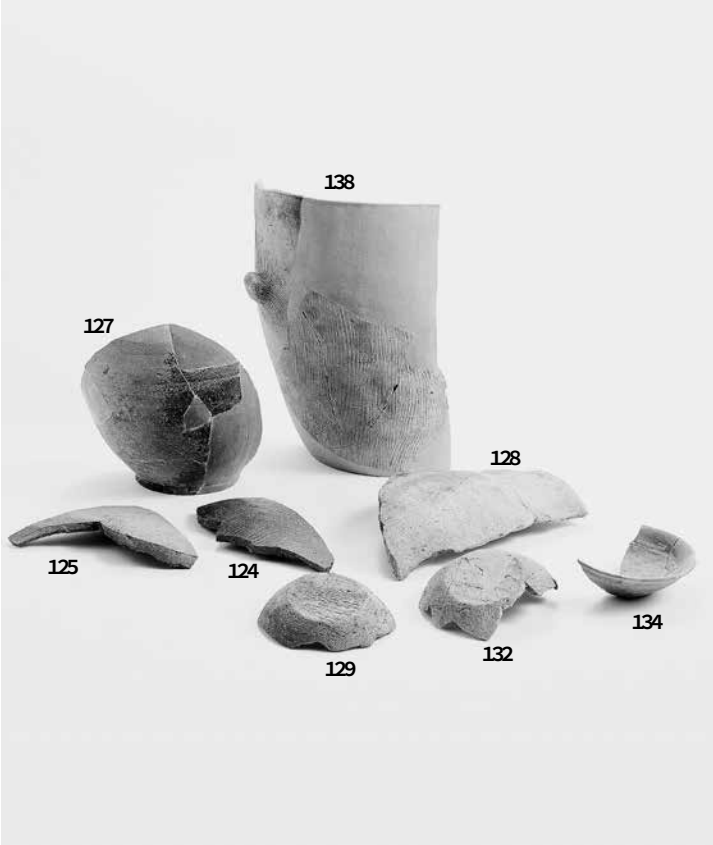
91－10

91－11

91－12

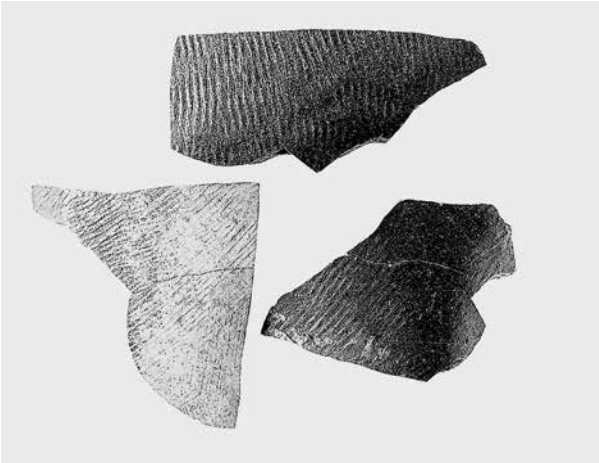
91－13

ＳＴ123出土遺物

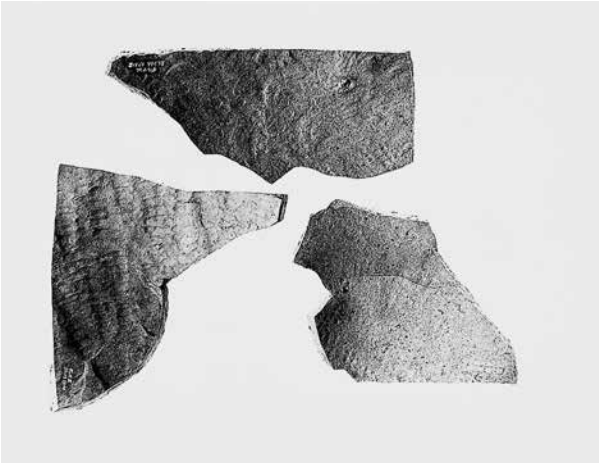


92－3

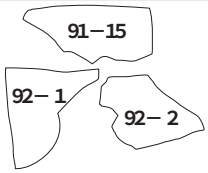
ＳＴ121・ＳＴ123出土遺物

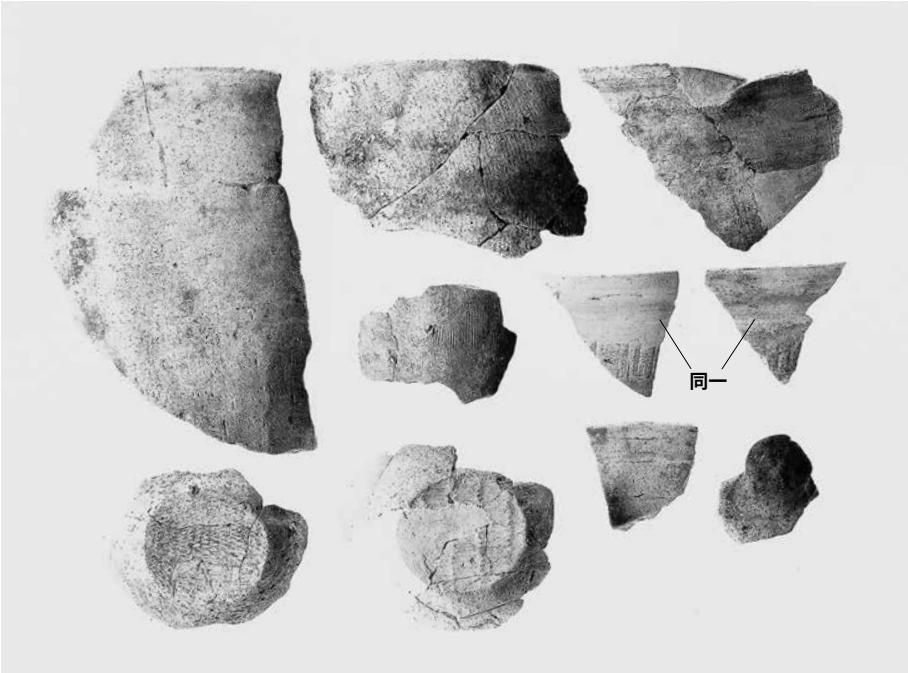


92－4

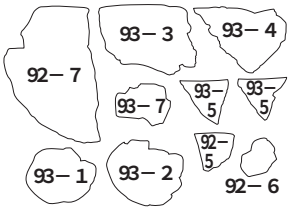


93－8


91－15
92－1
92－2


同一

93－6

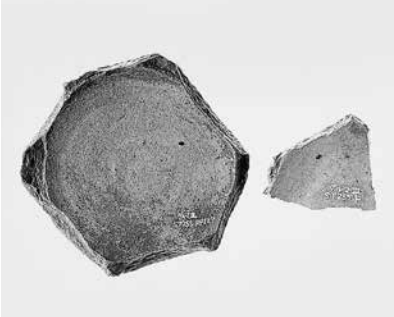

92－7
93－3
93－4
93－7
93－5
93－5
92－5
93－1
93－2
92－6

ＳＴ123出土遺物

ＳＴ255出土遺物

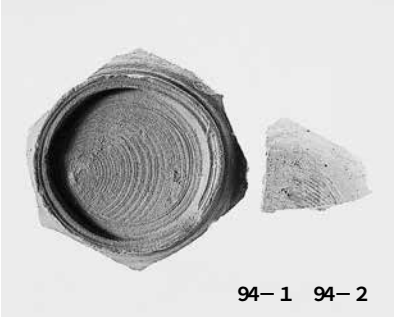
93－10

93－9

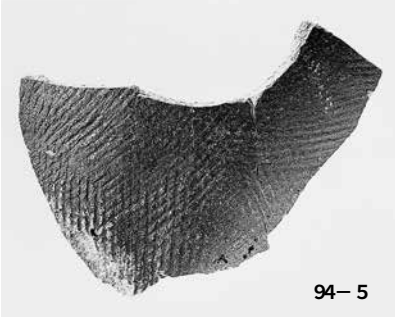


94－3

94－4



94－1　94－2



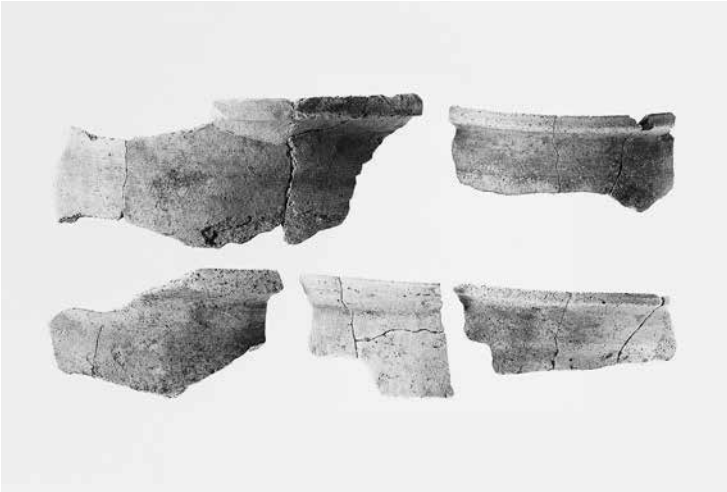
94－5

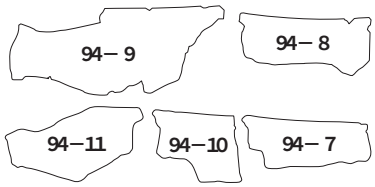
94－5

94－6

ＳＴ255出土遺物

94－12





ＳＴ256出土遺物

95－1

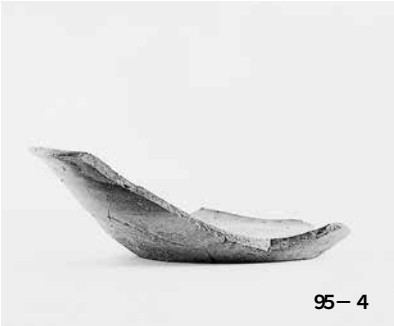
95－2

95－3

95－7

95－6

ＳＴ255・ＳＴ256出土遺物


95－4

95－5

96－2

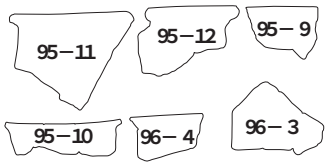
95－8

95－8

96－1

95－13

95－14



ＳＴ256出土遺物

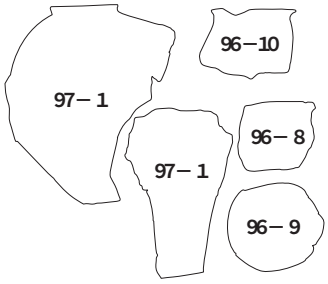
ＳＴ257出土遺物

96－6

96－7

96－11

97－2



ＳＴ257出土遺物

ＳＴ258出土遺物

97－3

97－4

97－5

97－8

97－9

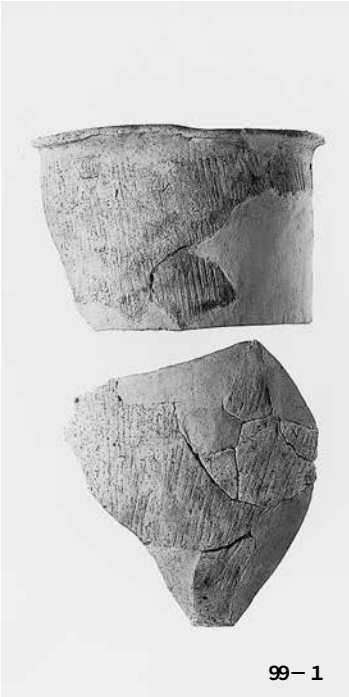
97－7

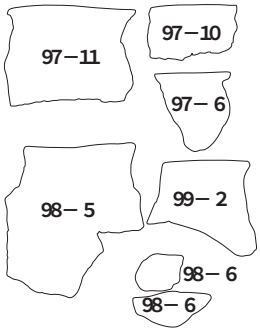
98－1

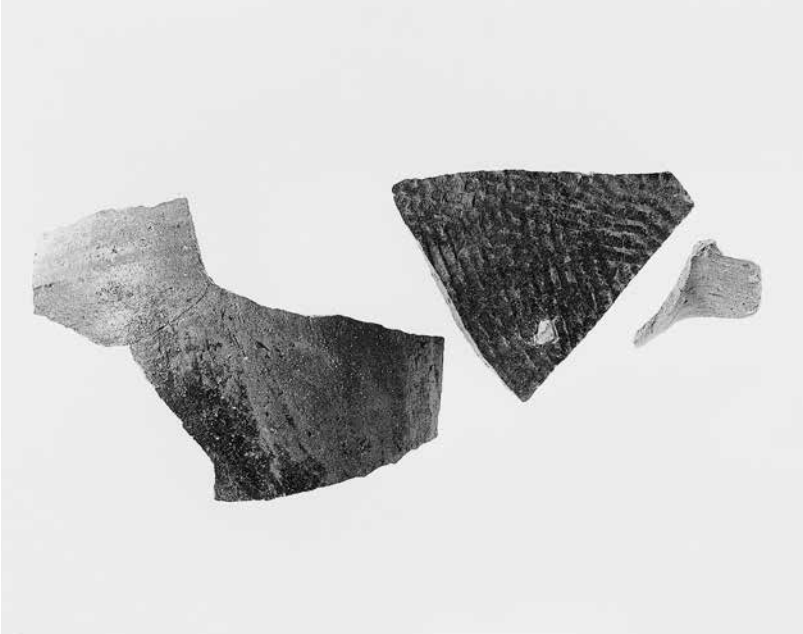
98－4

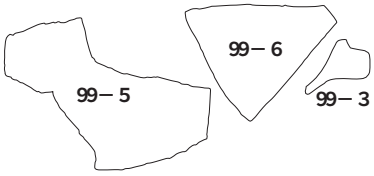
98－3

ＳＴ258出土遺物

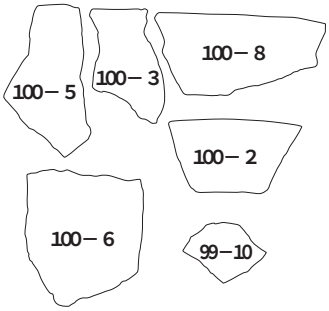






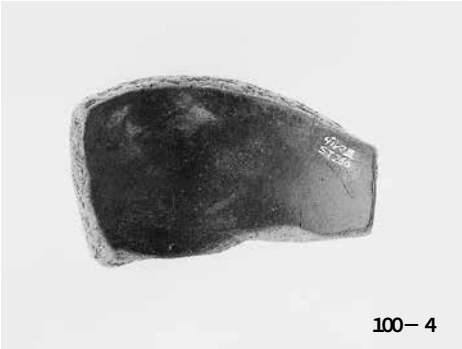


ＳＴ258・ＳＴ259出土遺物



100－1

100－4

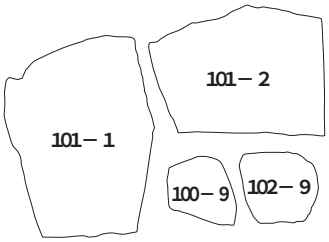


100－4

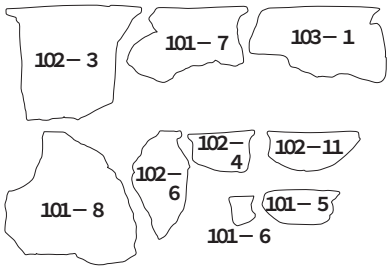
100－7

ＳＴ260出土遺物

ＳＴ261出土遺物



ＳＴ261出土遺物



101－3

101－4

102－5

102－1

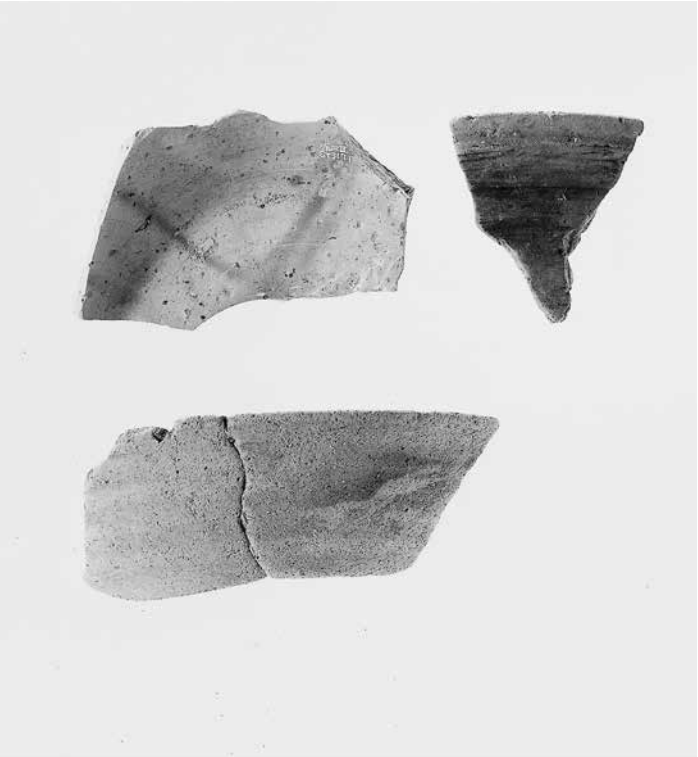
102－2

102－8

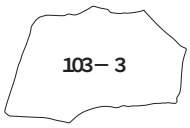
102－7

102－10

ＳＴ261出土遺物

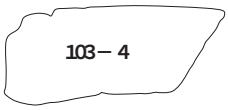


103－2



103－3

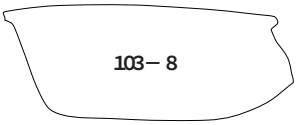
103－5



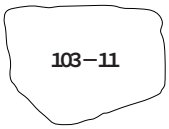
103－4

103－7

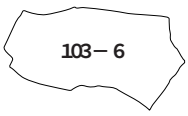
103－10



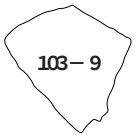
103－8



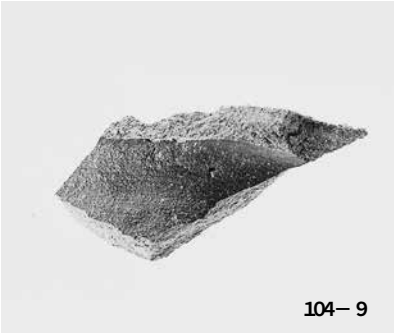
103－11



103－6



103－9



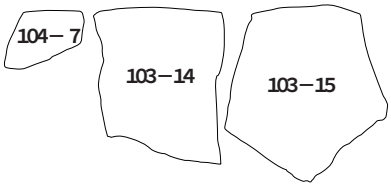
104－9

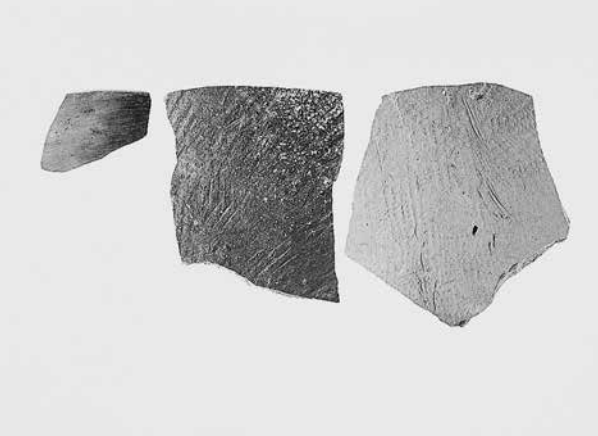
ＳＴ317・ＳＴ480・ＳＴ500出土遺物

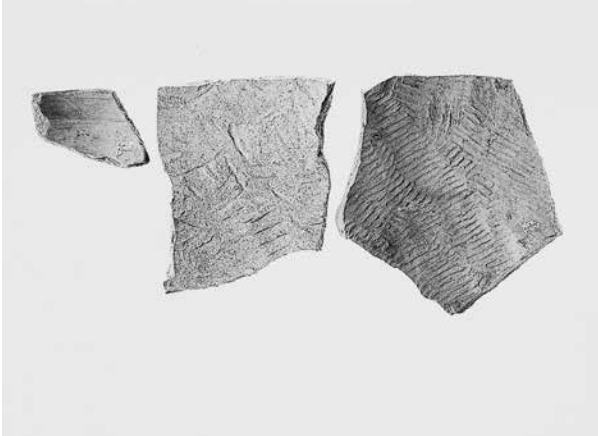
ＳＴ483出土遺物

103－12

103－13





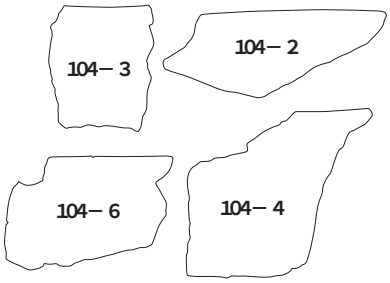


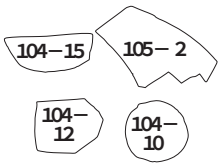
103－16

103－17

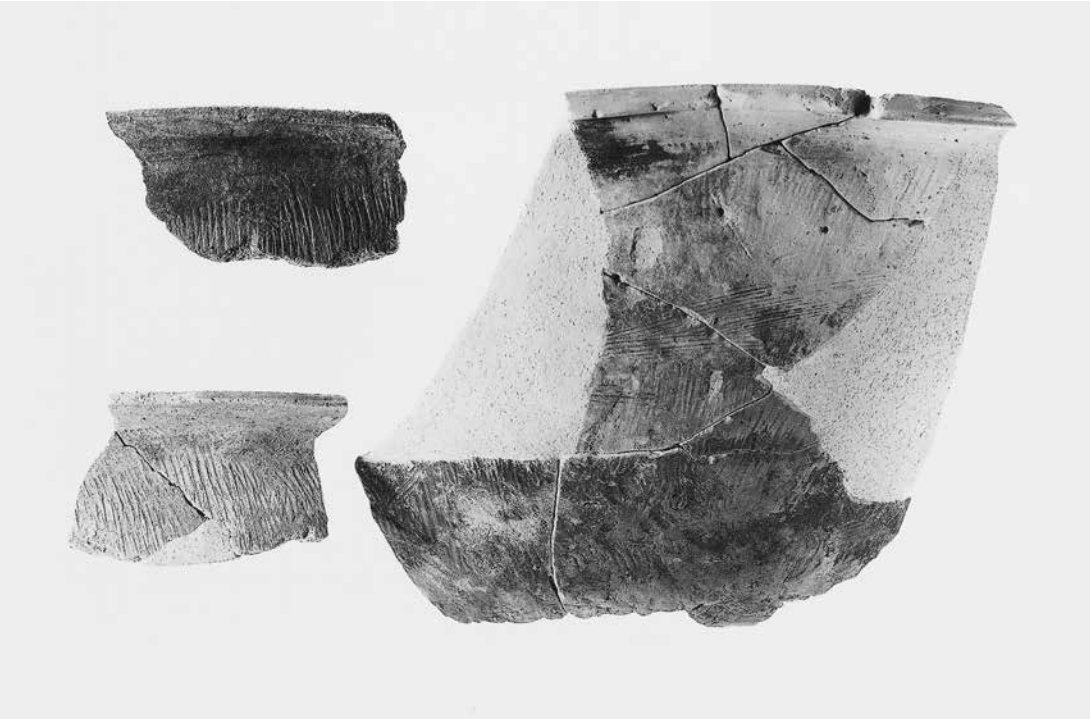
103－18

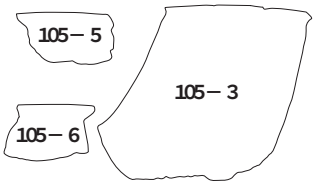
ＳＴ483出土遺物





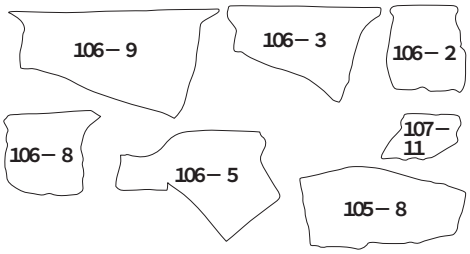
ＳＴ483・ＳＴ522出土遺物





105－7

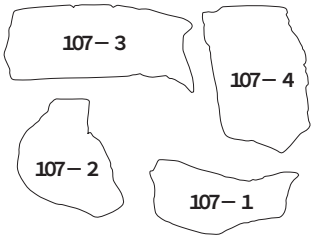
ＳＴ522出土遺跡



ＳＴ537・ＳＴ543出土遺跡

106－10

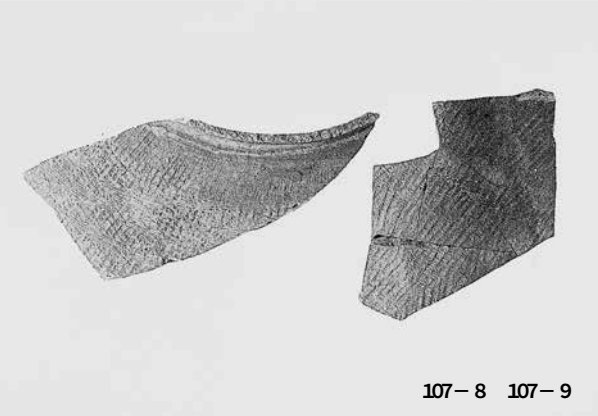
106－11

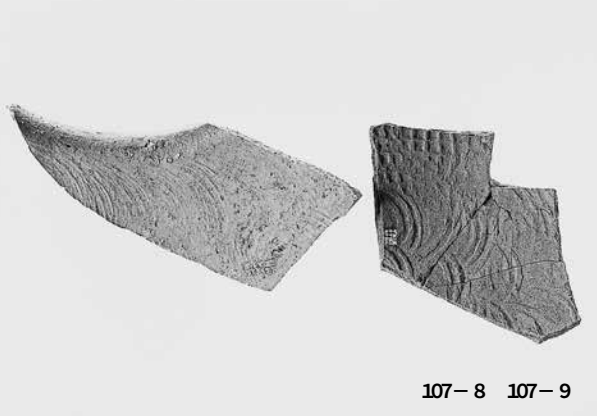


107－7

107－6

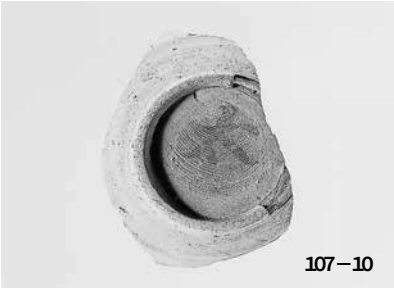
107－5


107－8　107－9

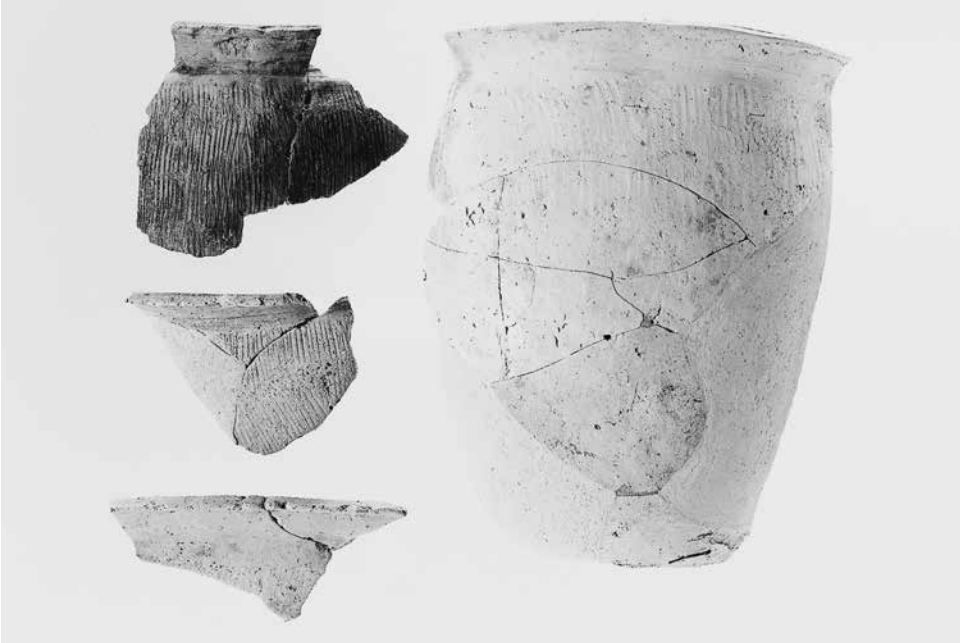

107－8　107－9

ＳＴ539・ＳＴ543出土遺物

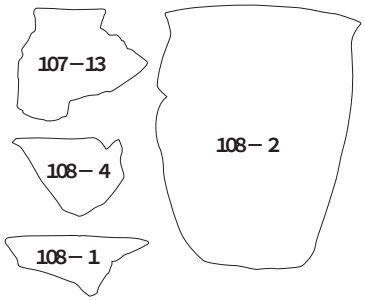
107－10


107－10

107－12

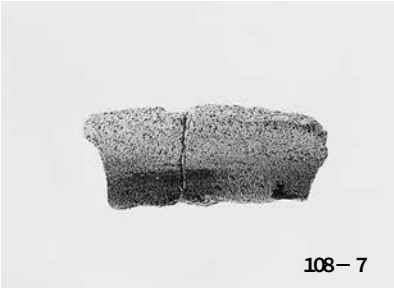


108－3



108－6

108－5


108－7

ＳＴ543・ＳＴ684出土遺物

ＳＥ481出土遺物

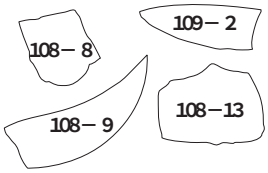
115－９

115－９

108－12

108－10

108－11



109－３

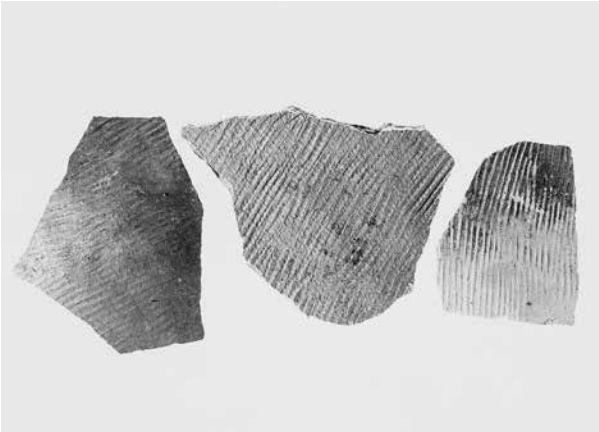
109－１　108－16

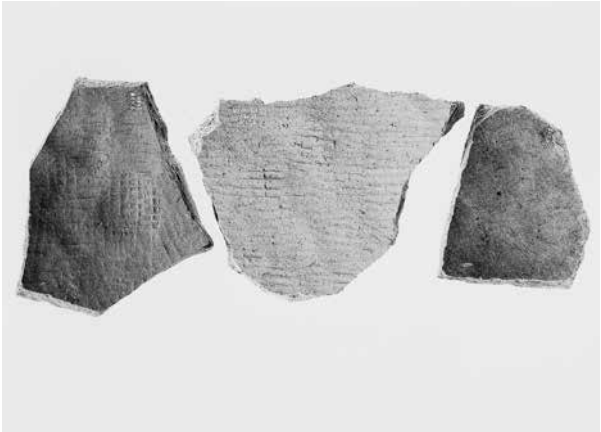
ＳＥ481出土遺物

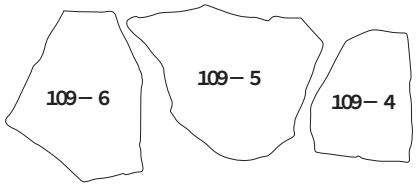
109－7

108－14

108－15







ＳＥ481出土遺物

109－8

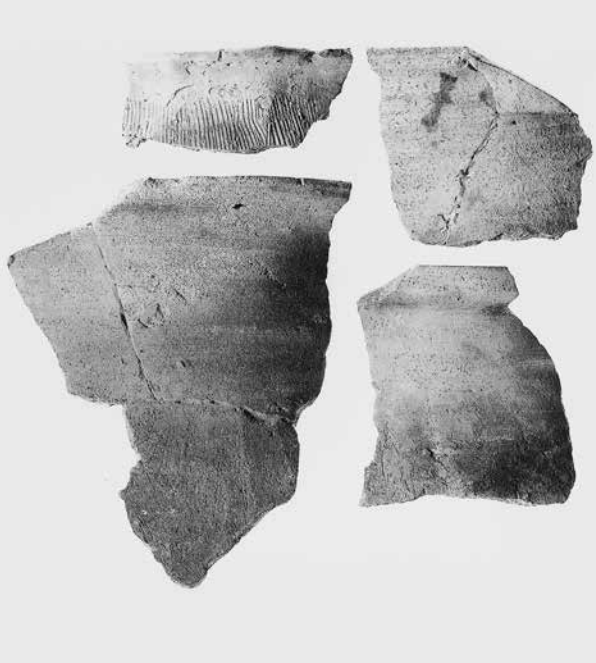
109－10

109－9

109－11

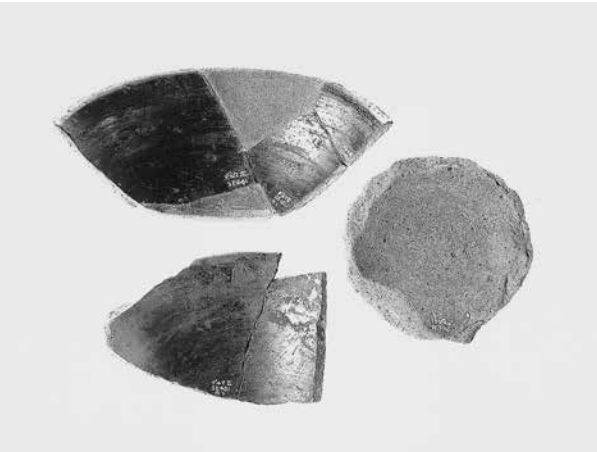
110－1

110－6

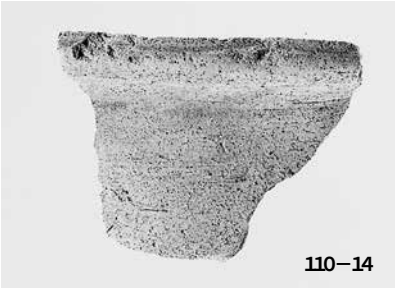


110－8、110－9

110－10、110－7



ＳＥ481出土遺物


110−14

111− 1

111− 2

111− 3

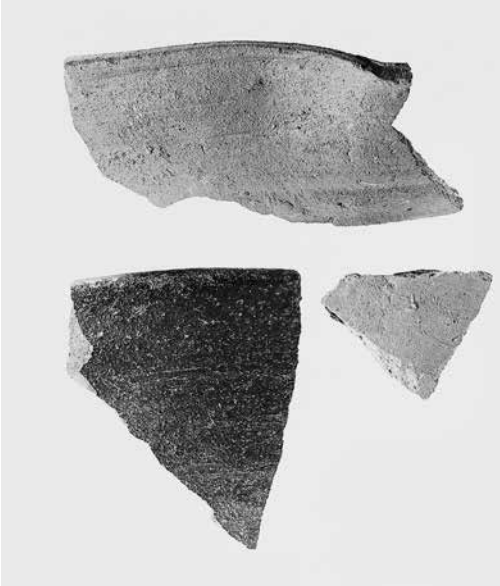
111− 4

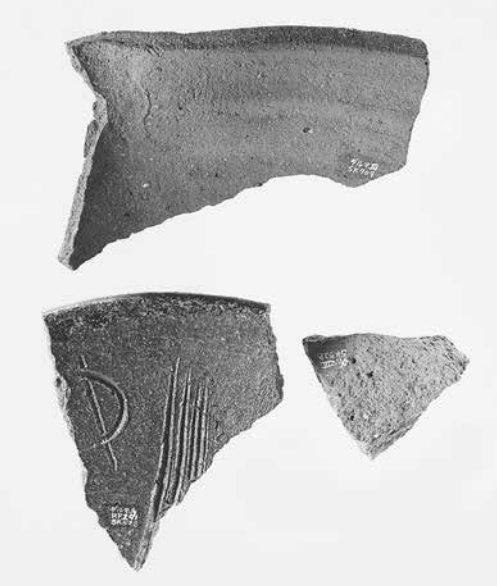
111− 5

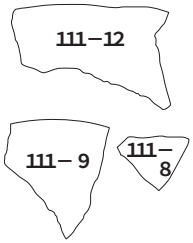
111− 6

111− 7

111−10

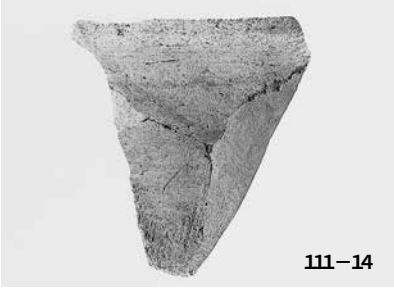






111−11

111−13


111−14

ＳＫ・ＳＨ出土遺物

112－1

112－2

112－3

112－4

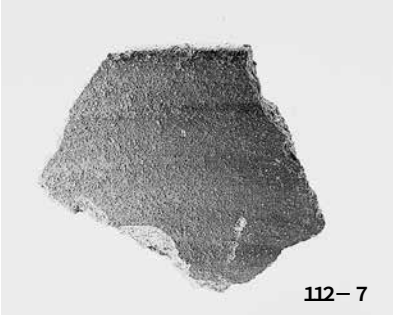
112－5

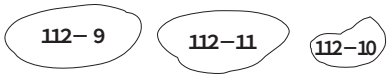
112－6

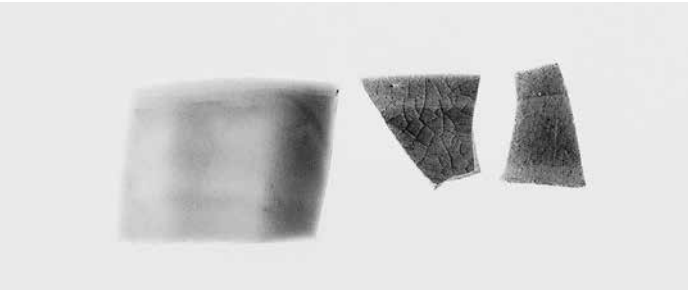
112－8

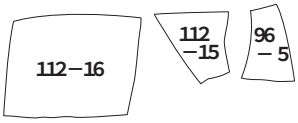
112－12

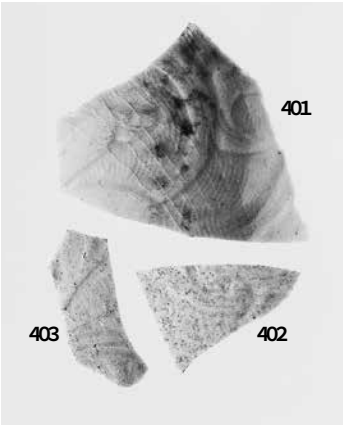
112－12

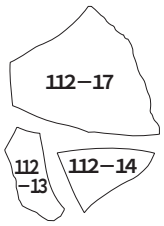

112－7


112－9
112－11
112－10

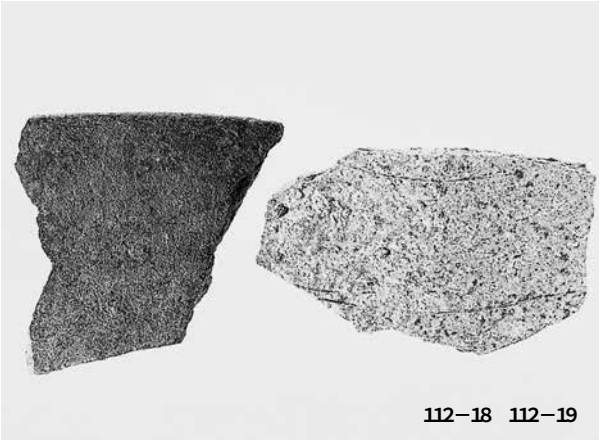


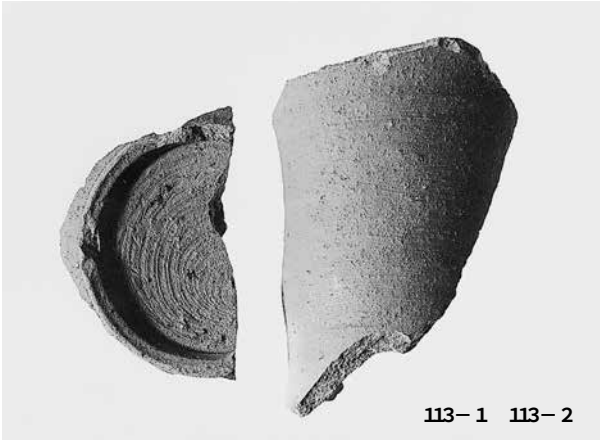

112－16
112－15
96－5


401
403
402


112－17
112－13
112－14

ＳＢ・ＳＤ・ＳＰ出土遺物


112－18　112－19


113－1　113－2

114－5

113－3

113－4

114－3

114－6

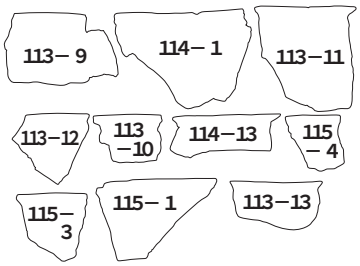
114－4

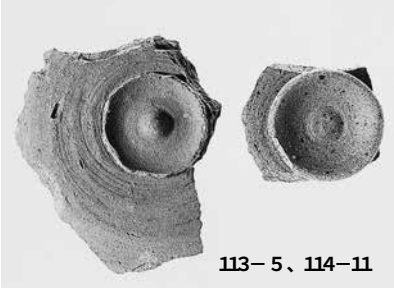
114－8

113－8

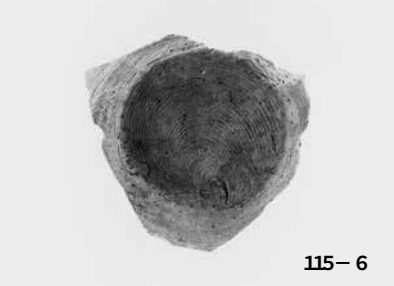
113－6

ＳＧ・ＳＸ・遺構外出土遺物




113－5、114－11

114－7


115－6

114－2

113－7

114－10

114－9

114－12

115－2

115－5

115－8

115－7

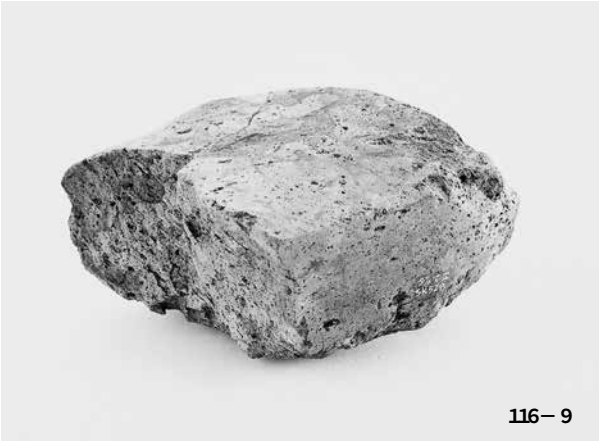
遺構外出土遺物

116－2　116－1

116－5

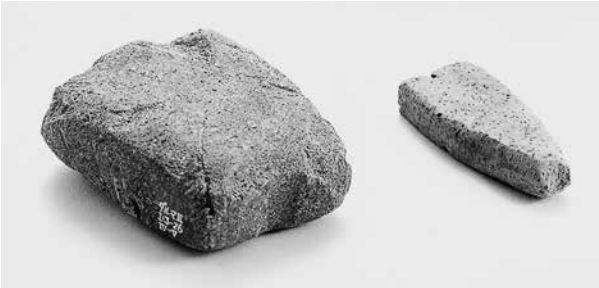
116－3　116－4

116－6



116－9

116－7



116－10

116－8

116－11

石製品

117－1

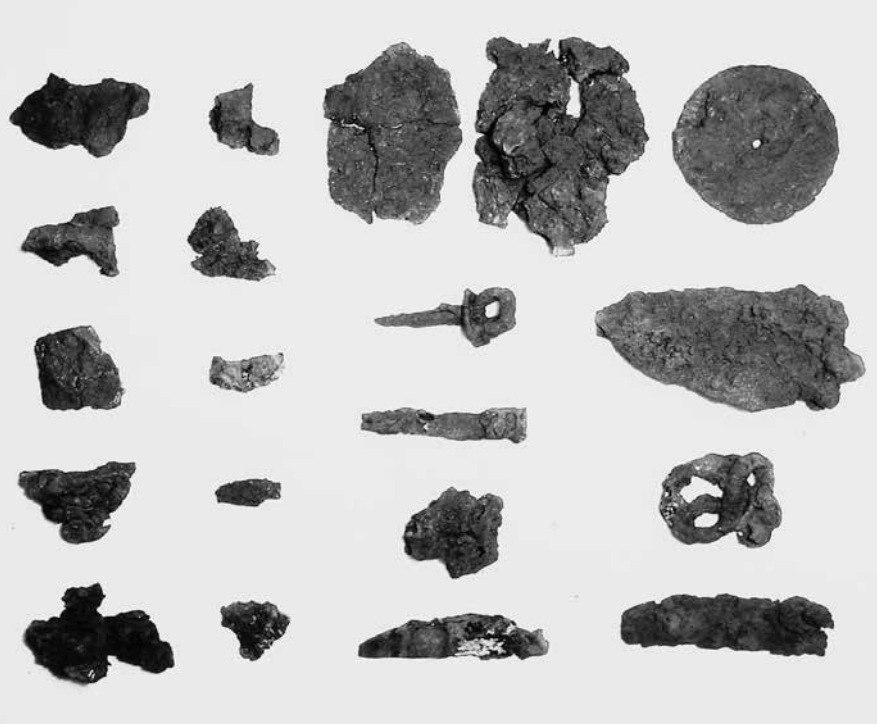
117－2

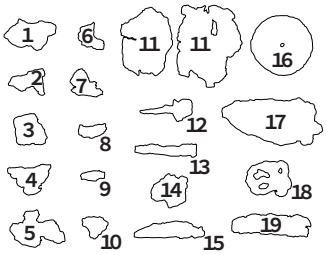
117－3

117－4

117－5

117－6





木製品・金属製品

付　　編

達磨寺遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

達磨寺遺跡（山形県東村山郡中山町に所在）は、須川左岸の自然堤防上に位置する。これまでの発掘調査により、古代（平安時代）の竪穴住居・掘立柱建物・井戸・道路・墓壙・土壙・旧河川などが、また中世の区画溝・土壙・柱穴・焼土遺構などが検出されており、古代および平安時代の集落であることが明らかにされている。今回、遺構の構築年代あるいは埋没年代に関する情報を得るために放射性炭素年代測定およびテフラ分析を、土壙の内容物を検証するために土壌理化学分析を、また井戸構築材の木材利用状況を検討するために樹種同定を実施する。

Ⅰ．遺構の年代観

1. 試料

テフラ分析を実施する試料は、古代の竪穴住居（ＳＴ117およびＳＴ317）の覆土に見られた火山灰層２点（試料番号１・２）、井戸（ＳＥ481）の覆土最上部付近に見られた火山灰層１点（試料番号３）の合計３点である。試料は、いずれもにぶい黄橙～灰黄色を呈する砂質シルトである。

放射性炭素年代測定を行う試料は、中世の区画溝（ＳＤ114）と古代の竪穴住居（ＳＴ117）の覆土中にみられた炭化物２点（試料番号13・14）である。

2. 分析方法

（1）テフラ分析

試料約20ｇを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。また、砕屑物中に火山ガラスが含まれる場合は、その屈折率を測定することにより、テフラの特定を試みる。屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いる。

（2）放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。今回の測定は、β線計数法で行う。放射性炭素の半減期は、LIBBYの半減期5570年を使用する。なお、炭化材については、その樹種

も調べる。

3. 結果

（1）テフラ分析

試料番号１には中量、試料番号２には少量、試料番号３には多量の火山ガラスが認められる。火山ガラスの特徴は３点の試料ともに同様であり、無色透明のバブル型と軽石型が混在する。軽石型には、塊状および繊維束状の両者が認められる。なお、試料番号１および試料番号２には、テフラの本質物ではない岩石片や石英粒なども多く含まれる。

火山ガラスの屈折率は、試料番号１がｎ1.502～1.504、試料番号２がｎ1.502～1.505、試料番号３がｎ1.501～1.505の値が得られる（図１）。

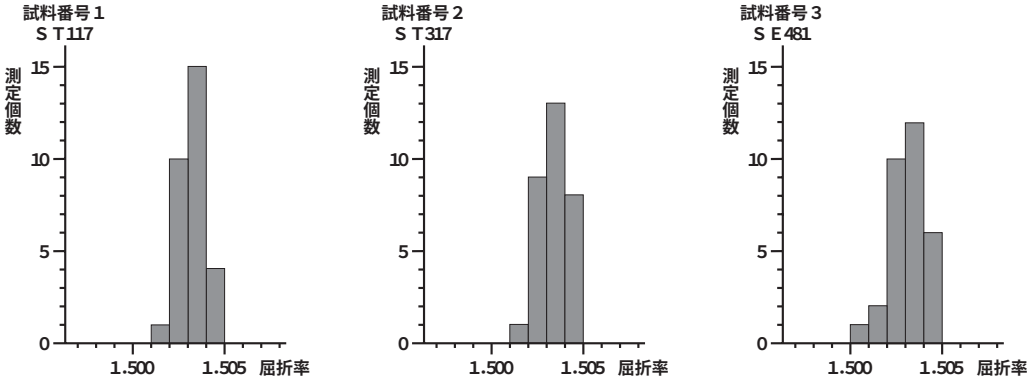


図１　火山ガラスの屈折率

（2）放射性炭素年代測定

結果を表１に示す。表中に示したδ^{13}Ｃの値は、質量分析器を用い試料炭素中の^{13}Ｃ濃度（^{13}Ｃ/^{12}Ｃ）を測定し、標準試料PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差（‰：パーミル）で表したものである。今回の試料の年代値は、この値に基づいて補正した年代である。測定の結果、区画溝ＳＤ114で出土した炭化材が1490±90ＢＰ、住居址ＳＴ117で出土した炭化材1280±70ＢＰの補正年代値が得られる。

表１　放射性炭素年代測定結果

試料番号	遺　　構	性格	質	同位体補正年代	δ^{13}C（‰）	測定年代	測定番号
13	ＳＤ114　Ｅ－15	区画溝	炭化材（カエデ属）	1490±90	－24.6	－1480±90	ＩＡＡ－256
14	ＳＴ117　ＥＬ264	住居址	炭化材（カエデ属）	1280±70	－23.9	－1260±70	ＩＡＡ－257

注１）年代値：1950年を基点とした値。
注２）半減期：LIBBYの半減期5568年を使用。
注３）誤差：標準偏差（ONE SIGMA）に相当する年代。
注４）δ^{13}C：試料炭素の^{13}Ｃ／^{12}Ｃ原子比を質量分析器で測定し、標準にＰＤＢを用いて同様に算出した値。

4. 考察

各試料に認められた火山ガラスは、色調・形態、屈折率などがほぼ同様であることから、同一のテフラに由来すると考えられる。東北地方におけるテフラの産状（例えば、町田ほか、1981,1984；Arai et al.,1986；町田・新井,1992など）と本遺跡の地理的位置から、試料中の火山ガラスは、十和田カルデラを給源とする十和田ａテフラ（Ｔｏ－ａ：町田ほか,1981）に由来すると考えられる。なお、Arai et al.（1986）や町田・新井（1992）などでは、Ｔｏ－ａの火山ガラスの屈折率はｎ1.496～1.504とされており、今回の試料よりも低い屈折率を示す火山ガラスを含んでいる。これについては、町田ほか(1981)が、Ｔｏ－ａの上部降下ユニットと中・

下部降下ユニットで屈折率のレンジが異なることを指摘している。屈折率の低いレンジの火山ガラスは、主に上部降下ユニットに含まれているが、その分布は十和田カルデラ周辺の青森県域から岩手県北部地域であり、南方へは広がっていないとしている。この記載に従えば、本遺跡の位置する山形盆地周辺で検出されるＴｏ－ａは、中・下部降下ユニットであるから、その屈折率は低いレンジを欠いたものとなり、今回の試料が示すような値となる。ここで、Ｔｏ－ａの噴出年代は平安時代のＡＤ915年とされていることから（早川・小山,1998)、今回の各試料が採取された層位の覆土層は、古くとも10世紀以降に堆積したと言える。さらに今回の結果から、遺構の構築年代を検討する場合には、覆土中におけるＴｏ－ａの堆積過程を考えなければならない。遺構埋積中に降下堆積したものであれば、遺構の構築はＴｏ－ａ降灰以前となるが、遺構廃棄後に遺構周囲の土壌から流れ込んだものであれば、Ｔｏ－ａ降灰以前と以後の両方の場合が想定される。例えば住居の場合、Ｔｏ－ａ降灰以前に構築されても、Ｔｏ－ａ降下時に住居が使用されていれば住居内にＴｏ－ａ堆積層が形成されないし、Ｔｏ－ａ降下以後に住居が構築されれば住居内にＴｏ－ａの降下堆積層が存在しない。どちらの場合も、廃棄後に周囲の土壌から流れ込んで覆土中に残ったＴｏ－ａが検出されることになる。遺構覆土中におけるテフラ堆積物が、降下テフラ層であるか否かは、覆土層における堆積状況および遺構周囲の土層におけるテフラの堆積状況を調査区内および調査区周辺地域の多数の場所で確認した上で検討する必要がある。

一方、放射性炭素年代測定の結果、区画溝ＳＤ114出土炭化材で1490±90ＢＰ、竪穴住居ＳＴ117出土炭化材で1280±70ＢＰの補正年代値が得られている。ところで、放射性炭素年代は、測定法自体が持つ誤差や測定の前提条件である大気中の^{14}Ｃの濃度が過去において一定でなかったことから、年輪などから測定されたいわゆる暦年代とは一致しない。そのため、年輪年代による暦年代既知の年輪の材について放射性炭素年代測定を実施することにより、暦年代と放射性炭素年代を両軸とする補正曲線が作られている（Stuiver,M.*et al*,1993など)。そこでＩＮＴＣＡＬ98（Stuiver,M.*et al*,1998）に報告されている14Ｃ年代－歴年代較正データを用いて本分析結果の較正暦年代値を求めると、区画溝ＳＤ114出土炭化材で得られた1490±90ＢＰが、437－454calＡＤ、457－522calＡＤ、527－652calＡＤとなり、竪穴住居ＳＴ117出土炭化材で得られた1280±70ＢＰが、663－781calＡＤ、793－802calＡＤとなる（図２)。

以上の結果から、２基の竪穴住居ＳＴ117とＳＴ317、さらに井戸ＳＥ481は、いずれも10世紀以降には埋積していたと考えられる。この内、ＳＴ117は、覆土内から得られた放射性炭素年代測定の結果から、７～９世紀頃以降に構築された可能性がある。また、区

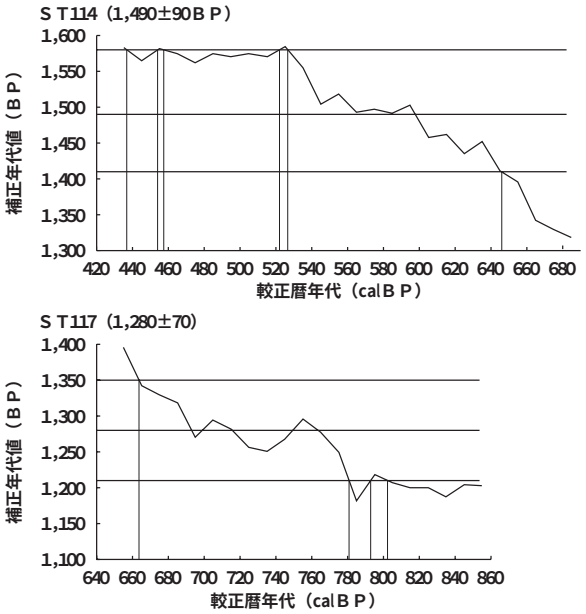


図２　放射性炭素年代と較正歴年代

画溝ＳＤ114は中世と考えられているが、得られた年代値ははるかに古い年代値であった。この試料については、古材の再利用や遺構周囲の古い時代の炭化材に由来することなどが考えられる。今後、基本土層中におけるテフラの産状と遺構との対応関係、覆土内から得られた炭化物の出土状況等を明らかにした上で再検討することが望まれる。また、放射性炭素年代測定については、資料数を増やして統計的に扱うことでより詳細な結果を得ることができる。それらを検討した上で遺構の構築年代について再検証したい。

Ⅱ．土壙の内容物検証

1. 試料

試料は竪穴住居ＳＴ255の覆土第１～３層の３点（試料番号４～６）、方形土壙ＳＨ321～324の覆土４点（試料番号７～10）、土壙ＳＫ125の覆土１点（試料番号11）、竪穴住居ＳＴ260で出土した土器内土壌の覆土１点（試料番号12）の合計９点である。

2. 分析方法

今回測定する成分は、特に動物の体組織や骨に多く含まれるリン酸とカルシウムの含量測定を行う。中でもリン酸は骨に多量に含まれ、土壌中に固定されやすい性質を持つ。そのため、遺体が埋葬されると土壌中にリン酸の富化が認められることから、遺体あるいは遺骨の痕跡を推定することができる。また、土壌中の供給源としては植物体もあげられる。植物由来のリン酸成分が供給された場合、リン酸含量とともに腐植含量も高くなる。よって、植物体の影響を調べるために腐植含量も測定する。リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行う（土壌養分測定法委員会,1981）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00㎜の節を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5㎜φの節を全通させる（微粉砕試料）。

風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約５㎖を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10㎖を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100㎖に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験官に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験官に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5㎎/ｇ）とカルシウム含量（CaO㎎/ｇ）を求める。

また、微粉砕試料0.100～0.500ｇを100㎖三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10㎖を正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（０rg－Ｃ乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を産出する。

3. 結果

結果を表２に示す。測定の結果、腐植含量は、1.61～27.42%を示し、試料番号11（ＳＫ125土壙覆土）で突出した最も高い測定値が得られる。リン酸含量は1.09～1.89 P_2O_5㎎/ｇを示し、

各試料間による差がほとんどない。カルシウム含量は5.55～23.53CaOmg/ｇを示し、腐植含量と同様に試料番号11（ＳＫ125土壙覆土）で最も高い。

4. 考察

骨の主成分の一つであるカルシウムが土壌中に含まれる量は、5.55～23.53CaOmg/ｇを示し、試料間により差が見られた。ここで、カルシウムが土壌中に普通に含まれる量、すなわち天然賦存量は普通１～50CaOmg/ｇとされ（藤貫，1979)、含量幅が大きい傾向にある。これは、土壌中でカルシウム成分が移動・溶脱しやすいことに由来する。今回、ＳＫ125土壙覆土でカルシウム含量が高いものの、藤貫（1979）の調査例を参考にすると、天然賦存量の範囲内にあると言える。また、同試料でリン酸含量が低いことからも、このカルシウムの測定値が骨の存在を直接的に示唆するものでないと考えられる。

リン酸含量は、試料間による差がほとんどみられない。リン酸量の天然賦存量は、いくつかの報告事例がある（Bowen，1983；Bolt ＆ Bruggenwert，1980；川崎ほか，1991；天野ほか，1991など)。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約が3.0Ｐ205mg/ｇ程度である。これらの調査例と比較すると、今回の分析試料のリン酸含量はいずれも上記した天然賦存量の上限を上回るものでなく、天然賦存量の範囲内にある。ここで、ＳＴ255をみると、第３層から第１層と上位に向かいリン酸含量がわずかながら増加している。現在遺跡が畑地・果樹園として利用されていること、地表面から遺構検出面までが浅いことから、上位層ほど後代の影響を受けてリン酸が富化されていると考えられる。一方、土壙や竪穴住居跡で検出された土器の覆土では、ＳＴ255の第３層とほぼ同じかあるいはそれよりも低いリン酸含量である。したがって、この測定値を見る限り、土壙覆土や土器内土壌では、外的要因によってリン酸成分が富化されたとは言い難い。

一方、土壌の腐植含量をみると、ＳＫ125土壙覆土で極めて高い結果が得られている。試料中には、黒色の炭化物が多量に混入しており、それを反映した結果と言える。この炭化物について顕微鏡で観察を行ったところ、イネ属の葉部（葉身と葉鞘）の短細胞および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体の組織片、さらに稲籾に形成されるイネ属穎珪酸体が確認される。すなわち、この炭化物は、稲藁あるいは稲籾等を加熱を受けて炭化したものと判断される。このことから、ＳＫ125では、何らかの目的で稲藁あるいは稲籾等を焼成したあるいは燃焼後の残渣

表２　土壌理化学分析結果

遺構	性　格	層位等	番号	土性	土　色		腐植含量（%）	P_2O_5（mg/g）	CaO（mg/g）
ＳＴ255	竪穴住居跡	第１層	4	ＬｉＣ	10ＹＲ２/２	黒褐	2.80	1.89	6.71
		第２層	5	ＬｉＣ	10ＹＲ２/２	黒褐	2.45	1.83	5.82
		第３層	6	ＬｉＣ	10ＹＲ２/２	黒褐	2.28	1.76	6.48
ＳＨ321	隅丸方形土壙	覆土	7	ＬｉＣ	10ＹＲ２/２	黒褐	2.17	1.31	6.40
ＳＨ322	土壙	覆土	8	ＬｉＣ	10ＹＲ２/２	黒褐	1.85	1.45	6.38
ＳＨ323	隅丸方形土壙	覆土	9	ＬｉＣ	10ＹＲ２/２	黒褐	3.43	1.48	7.54
ＳＨ324	隅丸方形土壙	覆土	10	ＬｉＣ	10ＹＲ２/２	黒褐	2.78	1.71	8.03
ＳＫ125	隅丸方形土壙	覆土	11	ＬｉＣ	10ＹＲ３/３ 10ＹＲ1.7/1	暗褐 黒	27.42	1.09	23.53
ＳＴ260	竪穴住居跡	土器内土壌	12	ＨＣ	10ＹＲ３/２	黒褐	1.61	1.72	5.55

注１）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
注２）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
ＬｉＣ…軽埴土（粘土25～45%、シルト０～45%、砂10～55%）
ＨＣ　…重埴土（粘土45～100%、シルト０～55%、砂０～55%）

を投棄したことなどが考えられる。

以上、今回の結果からは、1)竪穴住居ＳＴ255の上位において認められるリン酸の富化の後代の影響によると考えられる、2)ＳＫ125を除く土壙および竪穴住居ＳＴ260で検出された土器の内部には遺体が埋納されていた痕跡を認めることができない、3)ＳＫ125は焼成遺構あるいは廃棄遺構の可能性があることが推定される。ところで、人為的に遺体が埋納されると、その地点において化学成分が偏在することが知られている（例えば、小山，1995：中根，1992：中根・馬場，1995：パリノ・サーヴェイ株式会社，1999など）。これが遺体埋納検証の際の指標になると考えられる。また、ステロールや脂肪酸組成において、コレステロールとコプロスタノールの多産、アラキジン酸（Ｃ20）・ベヘン酸（Ｃ22）・リグノセリン酸（Ｃ24）が検出されることにより遺体埋納について検証できるとされている（中野，1993；1995）。したがって、今後、同一遺構内において化学成分のバラツキを調べることや残留脂肪酸の調査などを行い、さらに基本土層と比較検証することで、より詳細な検討が可能になると思われる。

Ⅲ. 用材選択

1. 試料

試料は、井戸跡（ＳＥ481）の井戸枠５点（試料番号15～19）である。

2. 分析方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接戦断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表３に示す。井戸枠は、全て針葉樹のスギに同定される。主な解剖学的特徴を以下に記す。

表３　樹種同定結果

番号	遺構	器　種	樹種
15	ＳＥ481	井戸枠　№１	スギ
16	ＳＥ481	井戸枠　№２	スギ
17	ＳＥ481	井戸枠　№３	スギ
18	ＳＥ481	井戸枠　№４	スギ
19	ＳＥ481	井戸枠　№５	スギ

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don）

スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

4. 考察

井戸枠は、いずれも板状を呈し、出土状況から枡型または桶型の井戸枠の側板と考えられる。樹種は、全て針葉樹のスギであった。同様の利用例は、これまでに遺跡から出土した井戸枠材の樹種同定結果でも確認されている（島地・伊東，1988）。山形県内では、木原遺跡等で井戸材にスギが認められており、今回の結果と一致する。

スギ材は、木理が通直で割裂性が高く、板材への加工が比較的容易である。また、耐水性も比較的高いことから、井戸材、水桶、釣瓶、水道樋、船材等に適するとされる（農商務省山林局，1912）。このことから、耐水性が比較的高いスギ材を選択的に利用した可能性がある。

引用文献

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・Yamagata,T.k　1986　Cataalog for late quaternary marker-tephras in JapanⅡ-Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido-. Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No. 21, p.223－250.

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信　1991　中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.28－36.

Bowen,H.J.M.　1983　「環境無機化学－元素の循環と生化学－」．浅見輝男・茅野充男訳，297p.，博友社［Bowen, H. J. M.（1979）Environmental Cemisty of Elements］.

Bolt,G.H.&Bruggenwert,M.G.M.　1980　「土壌の化学」．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳、p235－236、学会出版センター［Bolt, G. H. ayd Bruggenwert, M. G. M.（1976）SOIL CHEMISTRY］．土壌養分測定法委員会編（1981）「土壌養分分析法」.440p.，養賢堂.

藤貫　正　1979　カルシウム．地質調査所化学分析法，52，p.57－61, 地質調査所.

古澤　明　1995　火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別．地質学雑誌，101, p.123－133.

早川由紀夫・小山真人　1998　日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－．火山，43, p.403－407.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久　1991　九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.23－27

町田　洋・新井房夫　1992　火山灰アトラス.276p.，東京大学出版会.

町田　洋・新井房夫・森脇　広　1981　日本海を渡ってきたテフラ．科学, 51, p.562－569.

町田　洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦　1984　テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－. 渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865－928.

中根秀二　1992　１号方形周溝墓の自然科学的分析．「田園調布南２　都立田園調布高校内埋蔵文化財発掘調査報告書」，p.133－149, 都立学校遺跡調査会.

中根秀二・馬場健司　1995　周溝内における埋葬位置について、北区埋蔵文化財調査報告第16集「豊島馬場遺跡（本文編）」，p.314－325, 東京都北区教育委員会生涯学習推進課.

中野益男　1993　脂肪酸分析法．「第四紀試料研究法２　研究対象別分析法」，p.388－403, 東京大学出版会.

中野益男　1995　脂肪酸分析の現状と課題．考古学ジャーナル，386, p.2－8.

農林省農林水産技術会議事務局監修　1967　新版標準土色帖.

農商省商山林局編　1912　木材ノ工藝的利用．1308p.，大日本山林會.

小山陽造　1995　東北地方の脂肪酸分析結果．考古学ジャーナル, 386, p.17－21.

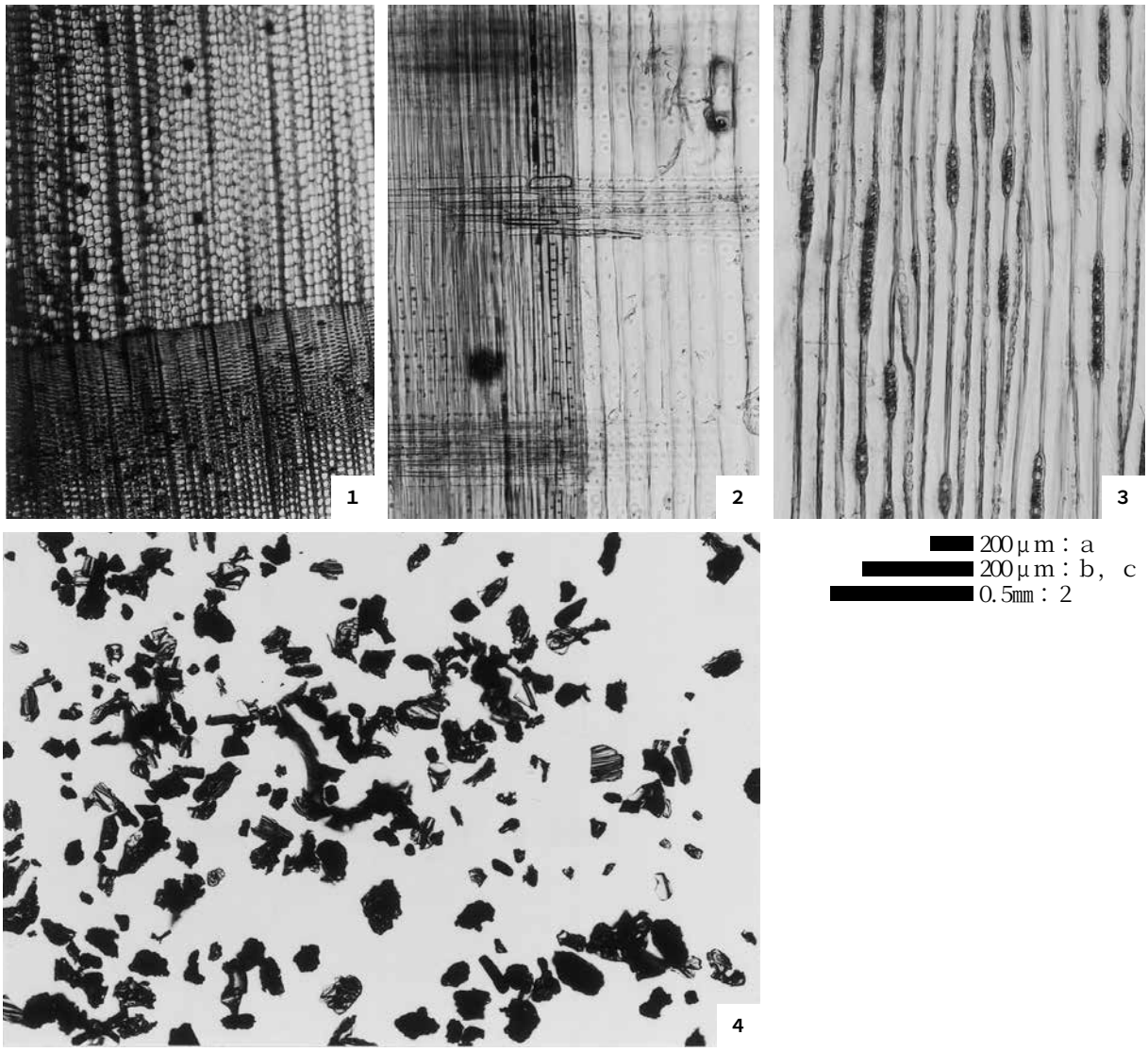
パリノ・サーヴェイ株式会社　1999　豊島馬場遺跡の自然科学分析．北区埋蔵文化財調査報告第25集「豊島馬場遺跡Ⅱ」，p.312－331, 東京都北区教育委員会生涯学習推進課.

ペドロジスト懇談会編　1984　「土壌調査ハンドブック」．156p.，博友社.

島地　謙・伊東隆夫偏　1988　日本の遺跡出土木製品総覧．296p.，雄山閣.

Stiver, M., Long., A. Kra, R., (eds)　1993　Calibration1993. Radiocarbon, 35.　p.1－22.

Stiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr,G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F. G., v.d.Plicht,J.,and Spurk,M,　1998　INTCAL98radiocarbon age calibration, 24, 000－0cal BP. Radiocarbon, 40, p.1401－1083.



1. スギ（試料番号17）
　a：木口，b：柾目，c：板目
2. ＴＯ－ａの火山ガラス（試料番号３）

図版１　木材・火山ガラス

報告書抄録

ふりがな	だるまじいせきだいさんじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	達磨寺遺跡第３次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 127 集
編著者名	阿部明彦　渋谷純子
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号　TEL 023－672－5301
発行年月日	2004年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
だるまじいせき 達磨寺遺跡	やまがたけん 山形県 ひがしむらやまぐん 東村山郡 なかやままち 中山町 おおあざだるまじ 大字達磨寺 あざだるまじ 字達磨寺		399・400	38度 19分 15秒	140度 18分 8秒	20020506 ～ 20021004	2,200	須川河川 改修事業 （下流部）

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	平安時代	竪穴住居 掘立柱建物 井戸	土師器 須恵器 硯 金属製品 石製品 木製品	遺構では竪穴建物が中心であったが、官衙的な様相も認められる。遺物では平野山古窯跡群産と考えられる須恵器がまとまって出土した。 大溝に囲まれる方形居館跡の一部が検出され、青白磁などが出土した。 （総出土箱数：70箱）
	鎌倉時代	竪穴建物 溝跡 土壙 墓壙 鍛冶遺構	中世陶磁器 金属製品 石製品	

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第127集

達磨寺遺跡第３次発掘調査報告書

2004年3月31日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号
電話　023－672－5301
印刷　山形印刷株式会社
〒990－2323　山形県山形市桜田東三丁目7番31号
電話　023－622－6291